

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第114集

和光 6 区遺跡発掘調査報告書

—一般県道和賀・金ヶ崎・胆沢線拡幅工事関連緊急発掘調査—

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

和光 6 区遺跡発掘調査報告書

一般県道和賀・金ヶ崎・胆沢線拡幅工事関連緊急発掘調査

序

岩手県は縄文時代の遺跡をはじめ多くの遺跡や埋蔵文化財包蔵地があり、遺跡の宝庫といわれるほどであります。これらの文化遺産を保護し保存していくことが、私たち県民に課せられている重要な責務であります。

このような文化財保護の任務とともに、他方では県民の生活をより豊かにし、快適な生活をおくるために、交通網の整備や土地改良などの地域開発もまた重要であり、県民の切実な願いでもあります。

したがって、文化財や自然環境の保護・保存と地域開発という二つの目的をどのように調和し発展させるかが、今日的課題なのであります。

当文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたつて、県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を報告書にまとめ刊行してまいりました。

本報告書は、一般県道和賀・金ケ崎・胆沢線の拡幅工事に関連して、昭和59～61年度まで野外発掘調査と室内整理をした胆沢郡金ケ崎町大字西根に所在する和光6区遺跡の報告書であります。この遺跡からは調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡・陥し穴や焼土遺構・柱穴群・ピットなどが検出されました。さらに遺物は縄文時代前期～中期に相当すると思われる多量の土器や各種の石器などがあります。遺跡の全体像と遺物資料の詳細については、本報告書によって理解を深め、埋蔵文化財保護と研究のために活用されますことを期待いたします。

おわりに、これまでの発掘調査及び報告書作成に御援助・御協力を賜りました岩手県土木部・岩手県教育委員会ならびに金ケ崎町教育委員会をはじめ関係各位に心から感謝申し上げますとともに、今後の御指導・御協力をお願いします。

昭和62年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 中村直

例 言

1. 本報告書は、岩手県胆沢郡金ケ崎町に所在する和光6区遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、一般県道和賀・金ケ崎・胆沢線改良工事に伴う事前緊急発掘調査である。岩手県土木部（水沢土木事務所）と岩手県教育委員会事務局文化課との協議を経て、財団法人岩手県埋蔵文化財センターが発掘調査を担当した。
3. 野外調査は昭和59年8月17日から開始され、同年10月9日に終了した。室内整理は昭和61年7月1日から開始され昭和62年3月31日に終了した。
4. 発掘調査面積は、1,500㎡であり、検出された遺構は下記のとおりである。
縄文時代竪穴住居跡 2棟 柱穴群 3ヵ所 焼土遺構 19 埋設土器 3
ピット 20基 陥し穴 2基 遺物包含層 2ヵ所
5. 野外調査及び室内整理作業は、専門調査員の佐々木嘉直と佐々木清文が担当した。原稿執筆は、Ⅰ・Ⅲの7～10・Ⅳは佐々木清文が、Ⅱ・Ⅲの1～6は佐々木嘉直が行った。
6. 鑑定を次の方々に依頼した。
石質鑑定 佐藤二郎（元岩手県立大船渡農業高校教諭）
年代測定 学習院大学木越研究室
7. 野外調査にあたっては、金ケ崎町教育委員会の協力を賜った。
8. 野外調査及び室内整理では次の方々の助言・指導を賜った。
稲野裕介 稲野彰子 鈴木明美 千葉周秋 遠藤勝博 工藤 武
9. 野外調査では、作業員として次の方々の協力を得た。
千田久人 千田豊 及川徳男 小野寺正治 小野寺進 小野寺兵二 小野寺正喜 及川則行
小原昭仁 小原誠 英正男 山地久 小野寺盛 遠藤サツ子 小原タケ 小原ハツヨ
小原ワカ 小原なみ子 小原エツ子 小野寺サカエ 小野寺ヨリ 小野寺ヨシノ 山地絹子
及川カツ 村口クラノ 千田タツミ 小野寺チヨ 及川ユキ 岡崎キクエ
10. 室内整理作業では次の方々の協力を得た。
佐藤良子 藤島ヒロ子 浅沼幸子 浅沼光子 浅沼恵美子 吉田律子 藤沢成子 菊池仁子
小笠原敬子 千葉 孝 岩渕希志

目 次

序	
例 言	
I 調査方法と室内整理の方法……………2	I VIII-2 焼土遺構……………38
1. 調査方法……………2	I VIII-3 焼土遺構……………38
2. 室内整理の方法……………3	P III焼土遺構……………38
3. 調査日誌(抄)……………4	Q V-1 焼土遺構……………40
II 遺跡の立地と環境……………8	Q V-2 焼土遺構……………40
1. 遺跡の位置……………8	R IV-1 焼土遺構……………40
2. 地形概観……………8	R IV-2 焼土遺構……………40
3. 基本土層……………10	R IV-3 焼土遺構……………40
4. 金ヶ崎町の遺跡……………10	R IV-4 焼土遺構……………40
III 検出された遺構と遺物……………17	R IV-5 焼土遺構……………40
1. 竪穴住居跡……………17	4. 埋設土器……………43
R I 住居跡……………17	F VIII埋設土器……………43
S I 住居跡……………20	H VII埋設土器……………43
2. 柱穴群……………24	H VIII埋設土器……………43
北柱穴群……………24	5. ピット……………45
P III柱穴群……………29	G VIIピット……………45
南柱穴群……………31	H VIIピット……………45
3. 焼土遺構……………36	N VI-1 ピット……………45
F VIII焼土遺構……………36	N VI-2 ピット……………47
G VI焼土遺構……………36	P III-1 ピット……………47
G VII-1 焼土遺構……………36	P III-2 ピット……………47
G VII-2 焼土遺構……………36	P V-1 ピット……………47
G VII-3 焼土遺構……………38	R III-1 ピット……………49
H VII焼土遺構……………38	R III-2 ピット……………49
H VIII-1 焼土遺構……………38	6. 陥し穴……………49
H VIII-2 焼土遺構……………38	E VII陥し穴……………49
I VIII-1 焼土遺構……………38	J VII陥し穴……………51
	遺物包含層……………51
	7. 土器……………53

8. 土製品	60	② 柱穴群	70
9. 石器	61	③ 遺構配置	71
10. 石製品	69	遺物	72
IV 若干の考察とまとめ	70	① 土器	72
遺構	70	② 石器	72
① 時期	70	まとめ	74

目 次

時代別遺跡数	10	形状調整	65
縄文時代の時期別遺跡数	11	刃部調整	65
金ヶ崎町の縄文時代の遺跡表(1)	11	刃部加工	65
金ヶ崎町の縄文時代の遺跡表(2)	12	分類別加工調整状況	65
北柱穴群一覧表	25	磨製石斧集計表	66
P III柱穴群一覧表	29	削搔器分類表	67
南柱穴群一覧表	32	器種分類による破損率	68
和光6区遺跡の土器分類対応表	57	石質と基種分類	68
土器実測図構成率	57	石質集計表	73
各時期の構成率	57	土器観察表	75
石鏃・石槍分類表	62	土製品一覧表	89
石匙分類表	64	土器片観察表	90
石筥分類表	65	石器集計表	95

図 版 目 次

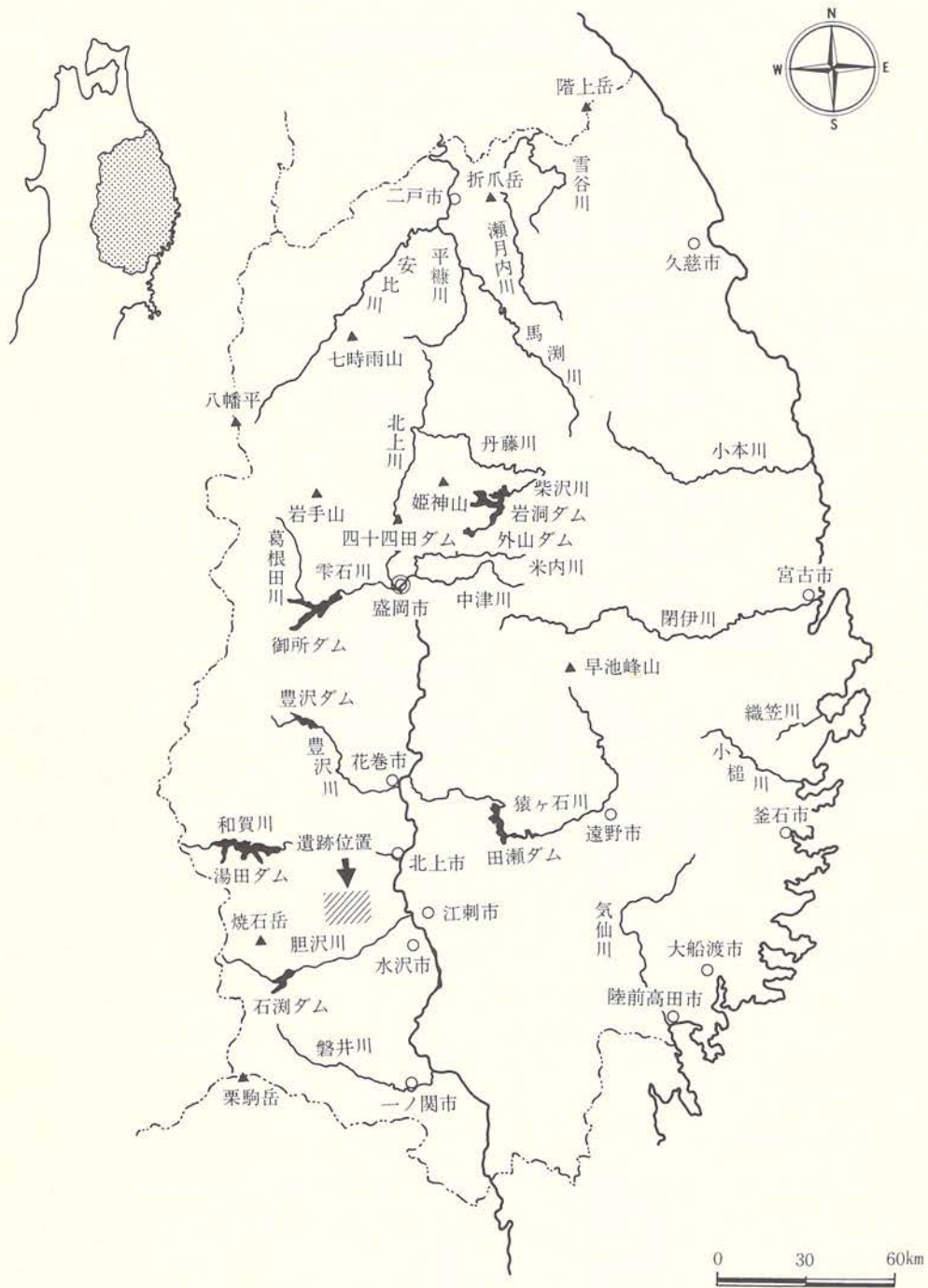
第1図 遺跡位置図……………1	第30図 遺構伴出石器(5)……………120
第2図 地形区分図……………9	第31図 遺構伴出石器(6)……………121
第3図 金ヶ崎町縄文時代の遺跡位置図…13	第32図 遺構伴出石器(7)……………122
第4図 和光6区遺跡遺構配置図……………15	第33図 遺構伴出石器(8)……………123
第5図 R I 住居跡……………18	第34図 遺構伴出石器(9)……………124
第6図 S I 住居跡……………21	第35図 土器実測図(1)……………125
第7図 北柱穴群……………26	第36図 土器実測図(2)……………126
第8図 北柱穴群(断面)……………27	第37図 土器実測図(3)……………127
第9図 P III柱穴群……………30	第38図 土器実測図(4)……………128
第10図 南柱穴群……………33	第39図 土器実測図(5)……………129
第11図 南柱穴群(断面)……………34	第40図 土器実測図(6)……………130
第12図 焼土遺構(1)……………37	第41図 土器実測図(7)……………131
第13図 焼土遺構(2)……………39	第42図 土器実測図(8)……………132
第14図 焼土遺構(3)……………41	第43図 土器実測図(9)……………133
第15図 焼土遺構(4)……………42	第44図 土器実測図(10)……………134
第16図 埋設土器……………44	第45図 土器実測図(11)……………135
第17図 ピット(1)……………46	第46図 土器実測図(12)……………136
第18図 ピット(2)……………48	第47図 土器実測図(13)……………137
第19図 陥し穴……………50	第48図 土器実測図(14)……………138
第20図 遺物包含層断面……………52	第49図 土器実測図(15)……………139
第21図 遺構伴出土器(1)……………111	第50図 土器実測図(16)……………140
第22図 遺構伴出土器(2)……………112	第51図 土器実測図(17)……………141
第23図 遺構伴出土器(3)……………113	第52図 土器実測図(18)……………142
第24図 遺構伴出土器(4)……………114	第53図 土器実測図(19)……………143
第25図 遺構伴出土器(5)……………115	第54図 土器実測図(20)……………144
第26図 遺構伴出石器(1)……………116	第55図 土器実測図(21)……………145
第27図 遺構伴出石器(2)……………117	第56図 土器実測図(22)……………146
第28図 遺構伴出石器(3)……………118	第57図 土器実測図(23)……………147
第29図 遺構伴出石器(4)……………119	第58図 土器実測図(24)……………148

第59图	土器実測図(25)	149	第91图	f. 削搔器(6)	181
第60图	土器実測図(26)	150	第92图	f. 削搔器(7)	182
第61图	土器実測図(27)	151	第93图	f. 削搔器(8)	183
第62图	土器実測図(28)	152	第94图	f. 削搔器(9)	184
第63图	土器実測図(29)	153	第95图	f. 削搔器(10)	185
第64图	土器実測図(30)	154	第96图	f. 削搔器(11)	186
第65图	土器実測図(31)	155	第97图	f. 削搔器(12)	187
第66图	土器実測図(32)	156	第98图	f. 削搔器(13)	188
第67图	土器実測図(33)	157	第99图	f. 削搔器(14)	189
第68图	土器実測図(34)	158	第100图	g. 残核(1)	190
第69图	土器実測図(35)	159	第101图	g. 残核(2)	191
第70图	土製品	160	第102图	g. 残核(3)	192
第71图	a. 石鏃・石槍(1)	161	第103图	g. 残核(4)	193
第72图	a. 石鏃・石槍(2)	162	第104图	h. 磨石(1)	194
第73图	a. 石鏃・石槍(3)	163	第105图	h. 磨石(2)	195
第74图	b. 石錐	164	第106图	h. 磨石(3)	196
第75图	c. 石匙(1)	165	第107图	h. 磨石(4)	197
第76图	c. 石匙(2)	166	第108图	h. 磨石(5)	198
第77图	c. 石匙(3)	167	第109图	h. 磨石(6)	199
第78图	c. 石匙(4)	168	第110图	h. 磨石(7)	200
第79图	d. 石篋(1)	169	第111图	h. 磨石(8)	201
第80图	d. 石篋(2)	170	第112图	h. 磨石(9)	202
第81图	d. 石篋(3)	171	第113图	h. 磨石(10), i. 凹石(1)	203
第82图	d. 石篋(4)	172	第114图	i. 凹石(2)	204
第83图	e. 石斧(1)	173	第115图	i. 凹石(3)	205
第84图	e. 石斧(2)	174	第116图	j. 石皿・台石(1)	206
第85图	e. 石斧(3)	175	第117图	j. 石皿・台石(2)	207
第86图	f. 削搔器(1)	176	第118图	j. 石皿・台石(3)	208
第87图	f. 削搔器(2)	177	第119图	j. 石皿・台石(4)	209
第88图	f. 削搔器(3)	178	第120图	石製品(1)	210
第89图	f. 削搔器(4)	179	第121图	石製品(2)	211
第90图	f. 削搔器(5)	180	第122图	石製品(3)	212

写 真 図 版

1 遺跡遠景(南から)……………215	30 遺構伴出石器(6)……………244
2 遺跡全景(南東から)……………216	31 遺構伴出石器(7)……………245
3 R I 住居跡・S I 住居跡……………217	32 遺構伴出石器(8)……………246
4 北柱穴群(1)全景……………218	33 遺構伴出石器(9)……………247
5 北柱穴群(2)……………219	34 遺構伴出石器(10)……………248
6 P III 柱穴群……………220	35 遺構伴出石器(11)……………249
7 南柱穴群……………221	36 遺構外出土土器(1)……………250
8 焼土遺構……………222	37 遺構外出土土器(2)……………251
9 焼土遺構(2)……………223	38 遺構外出土土器(3)……………252
10 焼土遺構(3)・埋設土器……………224	39 遺構外出土土器(4)……………253
11 ピット(1)……………225	40 遺構外出土土器(5)……………254
12 ピット(2)・陥し穴……………226	41 遺構外出土土器(6)……………255
13 北包含層遺物出土状況……………227	42 遺構外出土土器(7)……………256
14 南包含層遺物出土状況(1)……………228	43 遺構外出土土器(8)……………257
15 南包含層遺物出土状況(2)……………229	44 遺構外出土土器(9)……………258
16 南包含層遺物出土状況(3)……………230	45 遺構外出土土器(10)……………259
17 遺構伴出土器(1)……………231	46 遺構外出土土器(11)……………260
18 遺構伴出土器(2)……………232	47 遺構外出土土器(12)……………261
19 遺構伴出土器(3)……………233	48 遺構外出土土器(13)……………262
20 遺構伴出土器(4)……………234	49 遺構外出土土器(14)……………263
21 遺構伴出土器片(1)……………235	50 遺構外出土土器(15)……………264
22 遺構伴出土器片(2)……………236	51 遺構外出土土器(16)……………265
23 遺構伴出土器片(3)……………237	52 遺構外出土土器(17)……………266
24 遺構伴出土器片(4)……………238	53 遺構外出土土器(18)……………267
25 遺構伴出石器(1)……………239	54 遺構外出土土器(19)……………268
26 遺構伴出石器(2)……………240	55 遺構外出土土器片(1)……………269
27 遺構伴出石器(3)……………241	56 遺構外出土土器片(2)……………270
28 遺構伴出石器(4)……………242	57 遺構外出土土器片(3)……………271
29 遺構伴出石器(5)……………243	58 遺構外出土土器片(4)……………272

59	遺構外出土石器片(5)·····	273	86	遺構外出土石器	f. 削搔器(15)·····	300	
60	土製品·····	274	87	遺構外出土石器	f. 削搔器(16)·····	301	
61	遺構外出土石器	a. 石鏃·石槍(1)···	275	88	遺構外出土石器	f. 削搔器(17)·····	302
62	遺構外出土石器	a. 石鏃·石槍(2)···	276	89	遺構外出土石器	f. 削搔器(18)·····	303
63	遺構外出土石器	a. 石鏃·石槍(3) b. 石錐	277	90	遺構外出土石器	e. 石斧(1)·····	304
64	遺構外出土石器	c. 石匙(1)·····	278	91	遺構外出土石器	e. 石斧(2)·····	305
65	遺構外出土石器	c. 石匙(2)·····	279	92	遺構外出土石器	g. 殘核(1)·····	306
66	遺構外出土石器	c. 石匙(3)·····	280	93	遺構外出土石器	g. 殘核(2)·····	307
67	遺構外出土石器	c. 石匙(4)·····	281	94	遺構外出土石器	g. 殘核(3)·····	308
68	遺構外出土石器	c. 石匙(5) d. 石筩(1)	282	95	遺構外出土石器	g. 殘核(4)·····	309
69	遺構外出土石器	d. 石筩(2)·····	283	96	遺構外出土石器	g. 殘核(5)·····	310
70	遺構外出土石器	d. 石筩(3)·····	284	97	遺構外出土石器	h. 磨石(1)·····	311
71	遺構外出土石器	d. 石筩(4)·····	285	98	遺構外出土石器	h. 磨石(2)·····	312
72	遺構外出土石器	d. 石筩(5) f. 削搔器(1)	286	99	遺構外出土石器	h. 磨石(3)·····	313
73	遺構外出土石器	f. 削搔器(2)·····	287	100	遺構外出土石器	h. 磨石(4)·····	314
74	遺構外出土石器	f. 削搔器(3)·····	288	101	遺構外出土石器	h. 磨石(5)·····	315
75	遺構外出土石器	f. 削搔器(4)·····	289	102	遺構外出土石器	h. 磨石(6)·····	316
76	遺構外出土石器	f. 削搔器(5)·····	290	103	遺構外出土石器	h. 磨石(7) i. 凹石(1)	317
77	遺構外出土石器	f. 削搔器(6)·····	291	104	遺構外出土石器	i. 凹石(2)·····	318
78	遺構外出土石器	f. 削搔器(7)·····	292	105	遺構外出土石器	i. 凹石(3)·····	319
79	遺構外出土石器	f. 削搔器(8)·····	293	106	遺構外出土石器	j. 石皿·台石(1)···	320
80	遺構外出土石器	f. 削搔器(9)·····	294	107	遺構外出土石器	j. 石皿·台石(2)···	321
81	遺構外出土石器	f. 削搔器(10)·····	295	108	遺構外出土石器	j. 石皿·台石(3)···	322
82	遺構外出土石器	f. 削搔器(11)·····	296	109	遺構外出土石器	j. 石皿·台石(4)···	323
83	遺構外出土石器	f. 削搔器(12)·····	297	110	遺構外出土石器	石製品(1)·····	324
84	遺構外出土石器	f. 削搔器(13)·····	298	111	遺構外出土石器	石製品(2)·····	325
85	遺構外出土石器	f. 削搔器(14)·····	299	112	遺構外出土石器	石製品(3)·····	326



第1図 遺跡位置図

I 調査方法と室内整理の方法

1. 調査方法

(1) 座標軸の設定

調査対象区域内にある水沢土木事務所の設定した中心杭の中から、南側にあるNo.231を座標原点(基1)とし、座標原点からほぼ磁北方向に任意の点(基2)を設定した(真北は東偏約7°30'である)。基1と基2を結ぶ線と、座標原点を通りこれに直交する線を基準に全体を5mごとのメッシュに区画した。各区画は、北から南にかけてA～Tのアルファベットを付し、西から東に向かってI～VIIIのローマ数字を付した。グリッドの名称はこの組み合わせでGVIIグリッド、P IIIグリッドのように呼んだ。

基1、基2の座標は第X系で以下のようになる。

基1、X：-88,497.96m Y：+16,745.59m H：158.663m

基2、X：-88,427.44m Y：+16,731.72m H：155.985m

(2) 粗掘り・遺構検出

調査地にはデントコーンがほぼ南北方向に植えてあったので、その根株に沿って二畝分を試掘した。その結果耕作土直下に遺構検出面があることが判明したので、スコップによる表土剥ぎと鋤簾による遺構検出を行った。遺構名は、検出されたグリッド名と遺構の種類を組み合わせでS I 住居跡、E VII 陥し穴状遺構というように呼んだ。同一グリッド内から複数の遺構が検出されたときは、順にQ V-1 焼土遺構、Q V-2 焼土遺構のようにした。

(3) 精査

遺構の精査は2分法で行ったが、柱穴の中には分割せずに精査したものがある。伴出遺物は遺構ごとに、層位の明瞭なものは層位ごとに取り上げた。遺物包含層の精査は、層位ごとに掘り下げて出土状況を撮影し、できるだけ個体ごとに取り上げた。遺物包含層は、北側でも南側でもそれほど細分されなかった。

(4) 実測・写真撮影

遺構の実測は20分の1縮尺で簡易遣り方測量を行った。地形測量、遺構配置測量は200分の1縮尺で平板測量を行った。実測作業は調査員が行った。基準点測量は国際航業に依頼した。

写真撮影は35mm(モノクロ、カラーリバーサル)、6×7(モノクロ)の3台を使用して行った。空中写真は予算の都合で行わなかった。

2. 室内整理の方法

(1) 水洗・ラベリング

遺物の水洗は発掘現場の水の便や時間的都合で、大半を当センターに持ち込んでから行った。遺物の中でも土器類は大変脆く、水洗中にも破損するものが多かったため、乾燥後に全体量の約半分を水溶性アクリル系樹脂・バインダーNo.17を染み込ませ強化した。

ラベリングは土器片には主にゴム印を、石器には面相筆とポスターカラーを使用した。

(2) 復元・登録

土器類の復元はラベリングに引き続き行い、できるだけ接合してから石膏を入れるように努めた。しかし、摩滅して接合面の少ない土器片が多く、ゆがみが少なからず生じた。復元土器は台帳に登録してから写真撮影を行った。

石器類は器種ごとに分類してから台帳に登録し、写真撮影を行った。

(3) 写真撮影

遺物の撮影は主に35mm版白黒フィルムを使用して、当センターの写真技師が行った。なお土器は石膏の白色反射を押えるため、石膏部分に塗色を加えた。

(4) 実測とトレース

原寸での実測を基本としたが石皿・台石等大きな遺物は2分の1に縮小して行った。トレースは石器類の大半は原寸で行い、一部の石器と土器類は2分の1に縮小してから行った。

(5) 図版と写真図版

図版の縮尺はそれぞれ異なるので図版ごとにスケールを入れた。写真図版の縮尺は不定である。また図版中に使用した記号、スクリーン・トーンは以下のとおりである。



方位

p 土器片

S 石



焼土



石器・土製品等の破損部



石器の磨面



石器の敲打痕



プラウによる傷痕



凹石のくぼみ底面

3. 調査日誌（抄）

8月17日（金）快晴

7時30分、金ヶ崎町水道事業所前で作業員の方々との待ち合わせ現場に向かう。作業員への挨拶を済ませ登録手続をした。手代森遺跡の作業員に比べ平均年齢が高く、大正生まれの人が目につく。館山遺跡や鳥ノ海遺跡などの調査を経験した人が多い。午前中に手代森遺跡から発掘器材・資材が到着し搬入整理を行う。

午後、デントコーンの根株に沿って南北方向に幅1m位のトレンチを入れる。中央部の北側は耕作土が20cm位であり、南側はやや深い。耕作土の下位は褐色の地山となるようである。段丘中央部の出土遺物は少ない。

8月18日（土）晴

トレンチの中央北側（段丘北縁）で遺構と思われる暗褐色の染みが検出される。そこから土器片、石器が出土した。南側の表土剥ぎも開始する。

8月20日（月）曇のち晴

トレンチの北側は道路の近くほど黒色土が厚くなり30cm位となる。黒色土の下の堅い暗褐色土層から多く土器が出土する。北斜面に遺物包含層があることが判明する。

南斜面も道路に近い下位程黒色土が厚くなり、出土遺物も多くなる。

8月21日（火）曇

段丘南縁から南斜面の耕作土をほぼ剥いだ。中央部から南斜面にかけて耕作土の直下は褐色土となり、大型農業機械のプラウの痕が等間隔で南北に刻まれている。

焼土が道路寄りと西側の境界付近で計3ヵ所検出される。

8月23日（木）曇時々雨

中央部付近の表土剥ぎを続ける。出土遺物はほとんどない。北斜面で剥片や石鏃を表採する。

8月24日（金）晴のち曇

調査地東端の県道は昭和41年にできたという。その時の遺物出土の有無はわからないが、近くの高橋牧場の畜舎建設時には土器が多く出土し、教育委員会で保管したという。

中央部の表土剥ぎは道路際まで進んだ。遺物は少ない。

8月28日（火）晴

南斜面の端を掘る。出土遺物が多い。

中央部から南側にかけて遺構検出を行う。直径1m前後の円形の黒色土が7.5m位の等間隔で直線上に4個検出される。

8月29日（水）晴

昨日に続き中央部から南側にかけて遺構検出を行う。円形の黒色土がさらに2列検出される。

南側の道路際には焼土群が検出される。焼土形成範囲は広い。

8月30日(木)曇

中心杭No.231を基点としてほぼ磁北方向に任意の点を設定し、5m間隔のグリッドを組む。南斜面にも遺物包含層があることが確実となる。耕作土下位の暗褐色土層が包含層である。昨日までに検出された円形の黒色土を掘ってみた。深さ30cm前後で壁にはスコップと思われる工具痕があり、埋土は褐色土の小ブロックが混じる黒色土で耕作土と同じである。近くで働いていた旧地主に聞いたら果樹を植えた気憶はないとのこと。南側の焼土群の実測を開始。

9月3日(月)雨

雨天のため野外調査を中止する。遺物洗いをする。

金ヶ崎町有線放送の取材がある。発掘調査のきっかけ、発掘の成果、和光6区遺跡の意義などについてインタビューを受ける。

9月5日(水)曇

中央部の表土剥ぎと南側の焼土群周辺の精査を行う。焼土群の周囲から柱穴が検出される。

9月6日(木)晴

南側の焼土群周囲の柱穴検出を続ける。2棟分以上の組み合わせが可能である。西側の境界付近の焼土周囲で柱穴が6個検出された。

9月7日(金)晴のち曇

中央部のクリーニングを行う。円形の黒色土は全部で11個となる。東西南北7.5m間隔に分布する。南側の焼土周囲の柱穴の半截、写真撮影、実測を開始する。柱穴は意外に大きく、しかも埋土が堅くしまっており掘るのが大変である。

9月8日(土)晴

中央部のLⅦ区で器高70cm位の縄文前期末葉の土器が横位に潰れて検出される。周囲をクリーニングし柱穴や焼土を探したが検出されなかった。

9月10日(月)曇

南側焼土の外形は意外に広がり、柱穴との重複もみられる。

LⅦ土器の写真撮影と略実測を行い、取り上げる。

南斜面の遺物包含層の精査を続ける。包含層の厚さは40cm以上の所もあり、褐色土が間層としてレンズ状に入る所もある。出土状況を撮影し、実測は省略して遺物を取り上げる。

9月11日(火)晴と曇

ローリングタワーを建て、PⅢ柱穴群の全景写真撮影。実測を行う。JⅦ陥し穴は底面から湧水があり、水を汲み出しながら写真撮影と実測を行う。

南斜面の包含層はRⅠ区付近に遺物が多く、住居跡の可能性がでてきた。遺物はできるだけ

個体ごとに取り上げる。

9月12日（水）晴一時雨

南斜面の境界線ギリギリまで掘る。柱穴の掘り上げを行う。深さが1 m近いものが多く、土量も多いので作業は難行する。

中央部から北斜面にかけての表土剥ぎを開始。中央部のピットや陥し穴の実測。

9月17日（月）晴

北斜面まで表土剥ぎはほぼ終わる。南側の柱穴の完掘はまだ続く。金ヶ崎町教育委員会一行5名の見学がある。

9月18日（火）曇のち小雨

南側の柱穴群をローリングタワーを建てて写真撮影。北斜面の道路際の表土を剥ぐ。

9月19日（水）晴と曇

中央部から北斜面にかけて遺構検出を行う。焼土や柱穴状の染みが検出され始める。南側の柱穴群の平面実測を行う。

9月21日

北斜面の遺構検出を行う。住居跡らしいものがある。道路際に埋設土器が検出される。北斜面の遺物包含層は古い沢に沿って形成されており、南斜面の包含層より範囲が広い。南側の柱穴群の実測終了。

9月22日（土）

南斜面の包含層精査と遺構検出を行う。遺物包含層は暗褐色土でその下位の黒色土には殆ど遺物が入らない。包含層の中に焼土ブロックが見られる。調査範囲や土捨場について水沢土木事務所の担当者と協議する。

9月25日（火）曇

南斜面包含層の下に住居跡が1棟（R I住居跡）検出される。さらに1棟ありそうである。北側の柱穴を掘り始める。埋土が南側よりも堅く苦勞する。

9月26日（水）晴

南斜面の包含層の下にもう1棟の住居跡（S I住居跡）が検出される。R IとS I住居跡を連続させるセクションを境界ギリギリに設定して精査を進める。S I住居跡は仮設トイレの下まで延びそうである。

9月27日（木）晴のち曇

R I住居跡のセクションの写真撮影と実測。S I住居跡は、トイレを移転してその南の電柱近くまで掘る。2棟の住居跡とも北西側半分は調査区域外にある。S I住居跡には周溝がある。

北側の柱穴群も半截と実測を進める。北斜面包含層の精査開始。

9月28日（金）晴

R I と S I 住居跡の全景写真撮影。断面実測終了。

北側の柱穴群、焼土群の写真撮影。北斜面の包含層を精査する。遺物の量は南斜面の包含層より多く、今日1日で6箱分出土。

10月1日（月）晴のち曇

住居跡、埋設土器の実測終了。北側の柱穴群の実測を開始。北斜面の遺物包含層精査は、遺物量が多すぎてなかなか進まない。礫石器（台石類）の水洗、梱包開始。

10月2日（火）快晴

北側の柱穴群、焼土群の実測をほぼ終了。柱穴群は2棟分以上になるが具体的配置はわからない。北斜面の包含層の中に陥し穴1基（E VII 陥し穴）検出される。壁は崩落しやすく土器片や礫が多く出土。包含層から本日出土した遺物の量は15箱分位である。

10月4日（木）曇

E VII 陥し穴の実測終了。陥し穴周辺の包含層を掘り始める。包含層の厚さは70cmである。平板測量で遺構配置図を作成する。テレビ岩手の取材がある。9日放送予定。手代森遺跡の作業員の見学あり。

10月5日（金）晴のち曇

北斜面包含層精査、北側柱穴の精査を続ける。遺跡内の基準杭成果表届く。

10月8日（月）晴

北斜面包含層の遺物取り上げ午前中で終了。発掘資材、器材、遺物等の梱包をする。

平板測量で調査地の等高線測量を行う。周辺の高台やサイロ上などから遺跡遠景写真を撮る。発掘調査終了に関して現地指導を受ける。

10月9日（火）晴

昨日の現地指導に基づき、陥し穴、柱穴、電柱等の埋め戻しを行う。荷物搬出。トラックの到着が遅くれ午後になった。作業員は午前中で解散。午後荷物を積み込んだ後、金ヶ崎町教育委員会や水沢土木事務所に挨拶に廻る。埋文センター着16時30分。

II 遺跡の立地と環境

1. 遺跡の位置

和光6区遺跡は、岩手県胆沢郡金ケ崎町大字西根字和光に所在し、金ケ崎町役場の西方約8km地点に位置する。国土地理院発行五万分の一地形図「北上」(N J—54—14—13)図幅中では、北緯39度14分20秒、東経141度2分7秒付近である。金ケ崎町は、岩手県内陸部北上川中流西岸に位置し、北は北上市に、東は江刺市に、南は水沢市と胆沢町に、西は胆沢町と和賀町に接している。面積179.61km²、人口16,500人余(1986年10月現在)の町である。

2. 地形概観

金ケ崎町は、奥羽山脈の東麓、北上川中流西岸に位置しており、標高は西で高く東ほど低くなっている。地形的には、西から山地、丘陵地、台地、低地の四つに区分される。

西の山地は、奥羽山脈の主峰を構成する焼石岳(1,548m)の東方に続くものである。1,000m級の山は、経塚山(1,373m)・駒ヶ岳(1,130m)である。駒ヶ岳・鉢森山・鍋割山の東麓には、永栄丘陵が広く分布している。この丘陵は、古期の火山灰が分布する段丘起源の丘陵と考えられている。開析は進んでいるが東へゆるく傾斜する平坦面を残している。この地形面は牧草地に造成され、金ケ崎町西部は国営パイロット事業によって酪農地帯となっている。

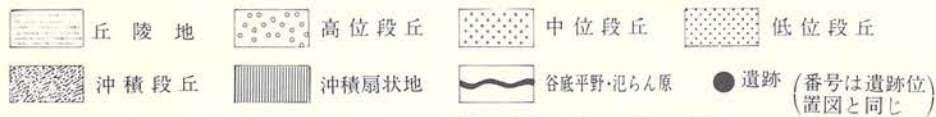
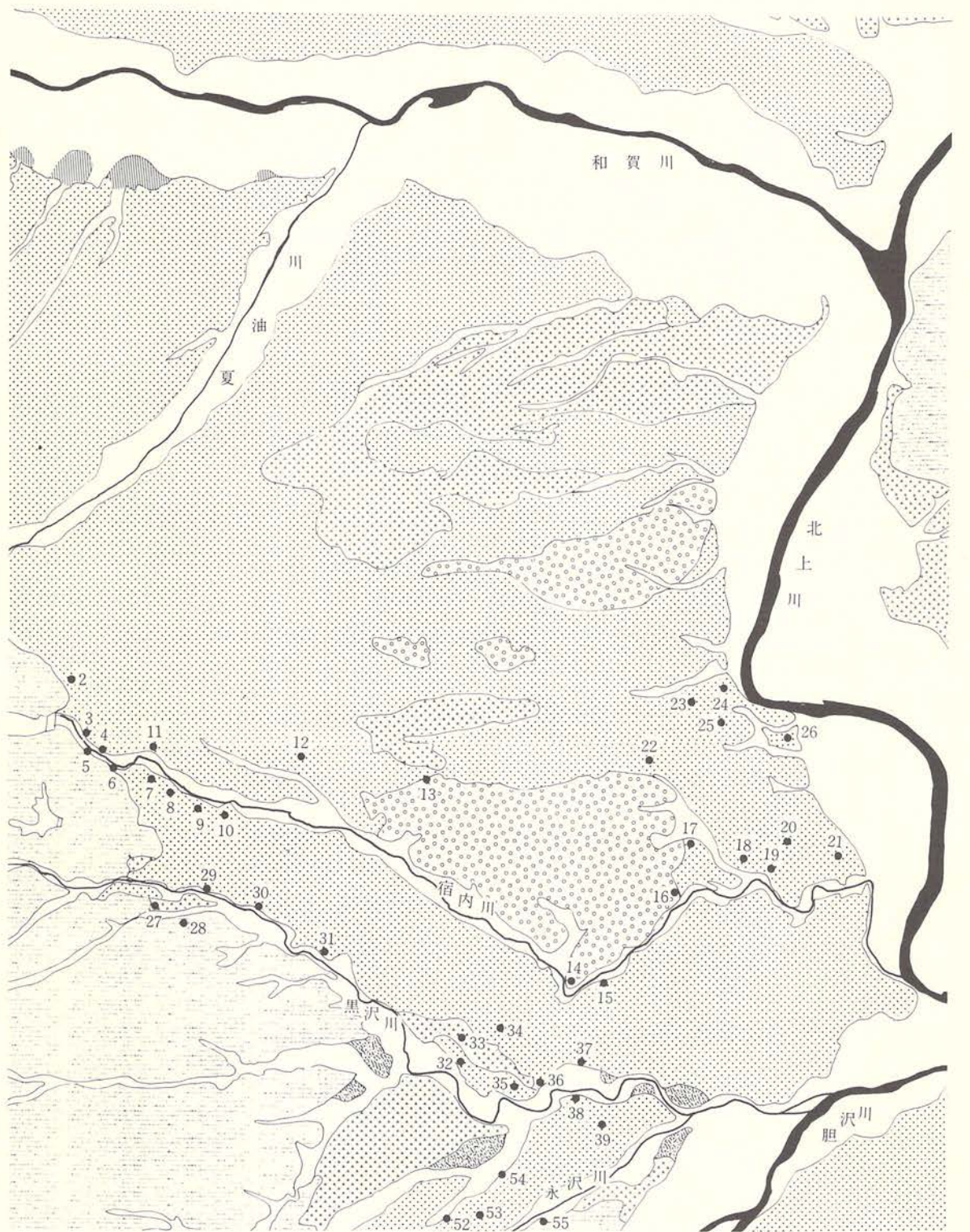
丘陵と北上川低地帯の間には、六原台地が広がっている。六原台地は、和賀川の支流、夏油川などによって形成された扇状地が段丘化したものであり、低地との間には連続した段丘崖が見られる。これらの段丘は上位から下位へ、西根段丘、村崎野段丘、金ケ崎段丘に大別されている。

西根段丘は、金ケ崎町西根に模式的に発達する高位段丘である。平坦面を残すが開析が進み周囲を金ケ崎段丘に囲まれている。西根段丘中央部は、金ケ崎中部工業団地となっている。

村崎野段丘は、北上市村崎野に模式的に発達する中位段丘である。金ケ崎町では、黒沢川沿岸や六原付近にみられる。

金ケ崎段丘は、夏油付近を扇頂とする六原一帯の合成扇状地を模式地とする低位段丘である。この段丘は、町内では最も広範囲を占める段丘であり、北は和賀川、東は北上川、南は胆沢川に臨み段丘崖が形成されている。この段丘面は、金ケ崎町の主要地帯となっている。

和光6区遺跡は、永沢丘陵を開析して東流する黒沢川の谷口付近南岸に形成された中位段丘面に載っている。この段丘は、南北幅100~150m、東西の長さ、約700mの小段丘である。段丘面の標高は150~160mである。段丘面の北側は黒沢川による段丘崖であり、金ケ崎段丘面との比高差は約20mである。また段丘面の南側を黒沢川の支流が東流している。縄文時代の遺物は、調査範囲より一段高い丘陵地(標高180m)まで分布している。



第2図 地形区分図

3. 基本土層

本遺跡の現況は、デントコーン畑であった。表土は、戦後の開拓によって形成された耕作土である。基本検出面は、縄文時代の遺物を包含するII層であるが、この層は南北緩斜面以外にはみられなかった。IV層の黄橙色浮石層は、村崎野段丘を覆う黒沢尻火山灰下部の村崎野浮石と判断した。遺跡の基本層序は次のとおりである。



基本層序

- I層 10Y R2/2 黒褐色
表土層 耕作土層であり、層厚は30～40cmである。
- II層 10Y R3/4 暗褐色
遺物包含層であり、南北斜面で厚く40cm前後である。中央部の平坦地では、殆どみられない。
- III層 10Y R6/8 明黄褐色
黒沢尻火山灰層である。中央付近で10～20cmである。
- IV層 10Y R6/6 黄橙色
村崎野浮石層である。中央付近で最大30cmである。南北両斜面の遺物包含層付近ではみられない。
- V層 2.5Y 5/6 黄褐色
層厚は25～30cm。締まりがあり、粘性は中位。
- VI層 10Y R 黄褐色
層厚は不明。締りがあり、粘性は中位。

4. 金ヶ崎町の遺跡

金ヶ崎町の遺跡は121ヵ所（昭和55年）登録されている。縄文時代の遺物散布地や集落遺跡は60を数え、全体の半数を占めている。

縄文時代の遺跡分布をみると六原扇状地の南縁や扇端部に多く、地形区分上では金ヶ崎段丘面に集中している。特に、宿内川、黒沢川、永沢川を臨む金ヶ崎段丘面の縁に多い。また扇端部付近を開析する小河川沿いにも多い。これらの遺跡と河川までの距離は、200m以内が最も多くなっている。金ヶ崎段丘面に次いで高位段丘や丘陵地に載る遺跡が多く、中位段丘に載る遺跡は最も少ない。

次に、縄文時代の遺跡を時期別にみると、中期、前期、晩期、早期、後期の順に多く、前期～中期の遺跡が70%を占めている。早期の遺跡は、丘陵地や六原扇状地の扇頂部付近の宿内川沿いに分布してい

時代別遺跡数

	単一遺跡	複合遺跡	計
縄文時代	47	13	60
弥生時代	4	4	8
奈良・平安	34	10	44

る。前期になると宿内川の上流や下流に臨む段丘面を中心に遺跡数が増加する。中期に入っても遺跡の増加傾向が続き、遺跡は宿内川、黒沢川、永沢川沿いの全域に分布し、六原扇状地の扇央部や西部の丘陵地にまで拡大している。

縄文時代の時期別遺跡数

	単一時期	複数時期	計
早期	3	5	8
前期	5	12	17
中期	17	15	32
後期	0	3	3
晩期	6	4	10
時期不明の遺跡	14		

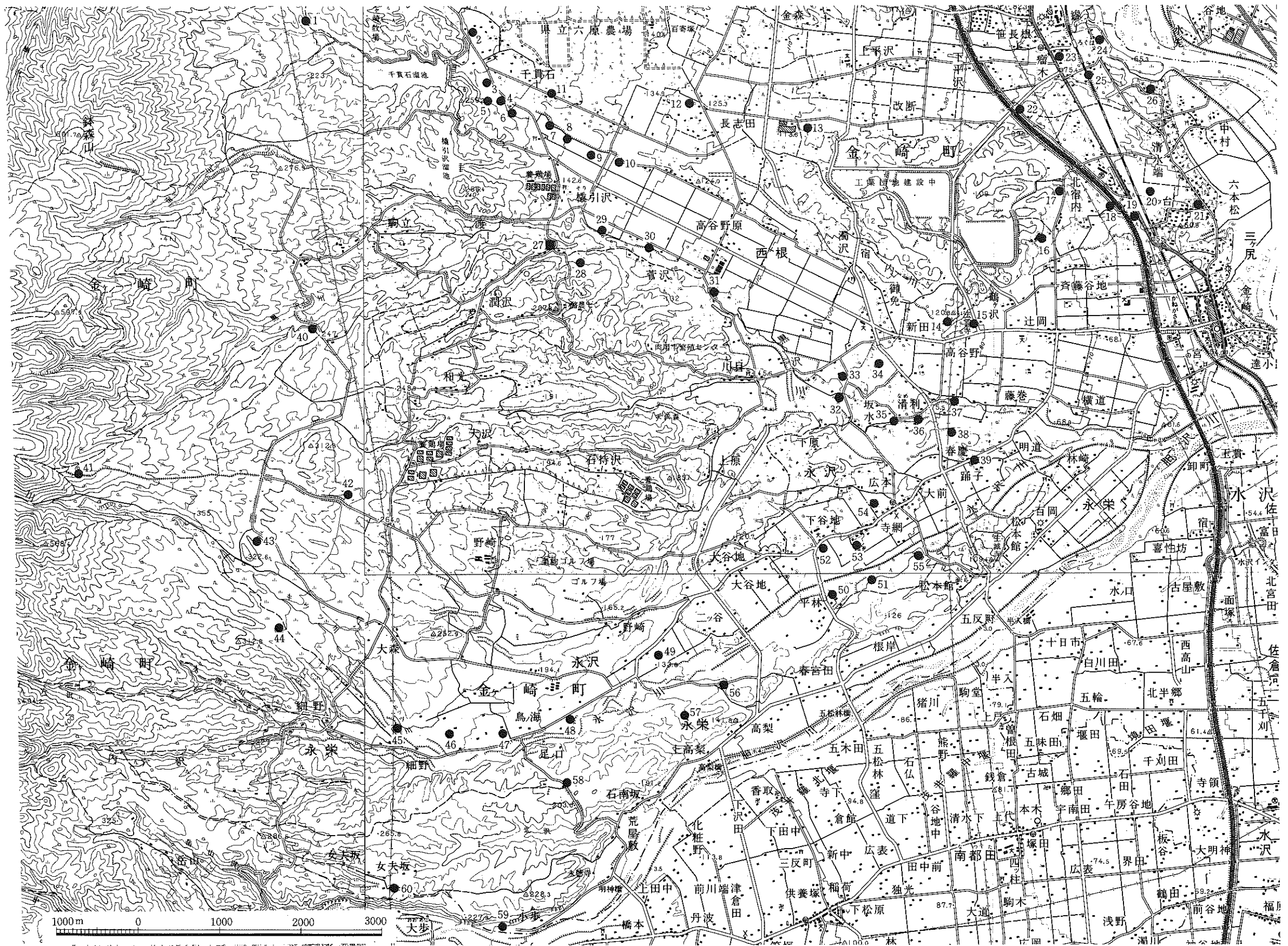
金ヶ崎町の縄文時代の遺跡 表(1)

番号	遺跡名	種別	遺跡の性格			縄文時代の時期					
			縄文	弥生	土師	早期	前期	中期	後期	晩期	
1	千貫石堤北遺跡	散布地	○			○					
2	馬ノ沢遺跡	"	○		○						
3	千貫石遺跡 I	"	○				○	○			
4	" II	"	○			○	○	○			
5	" III	"	○	○	○		○	○			
6	" IV	"	○								○
7	高谷野原遺跡 I	"	○					○			
8	" II	"	○		○	○					
9	" III	"	○			○					
10	" IV	"	○	○			○				
11	吉田沢遺跡	"	○					○			
12	長志田遺跡	"	○						○		
13	上平沢遺跡	"	○						○		
14	鶴ヶ沢遺跡	"	○				○				
15	妻根遺跡	"	○		○		○	○			
16	菖蒲沢遺跡 I	"	○		○		○				
17	" II	"	○		○						
18	中荒巻遺跡	集落跡	○					○			
19	荒巻遺跡	散布地	○				○	○			
20	二の台遺跡	"	○					○			

中期の住居跡 3棟

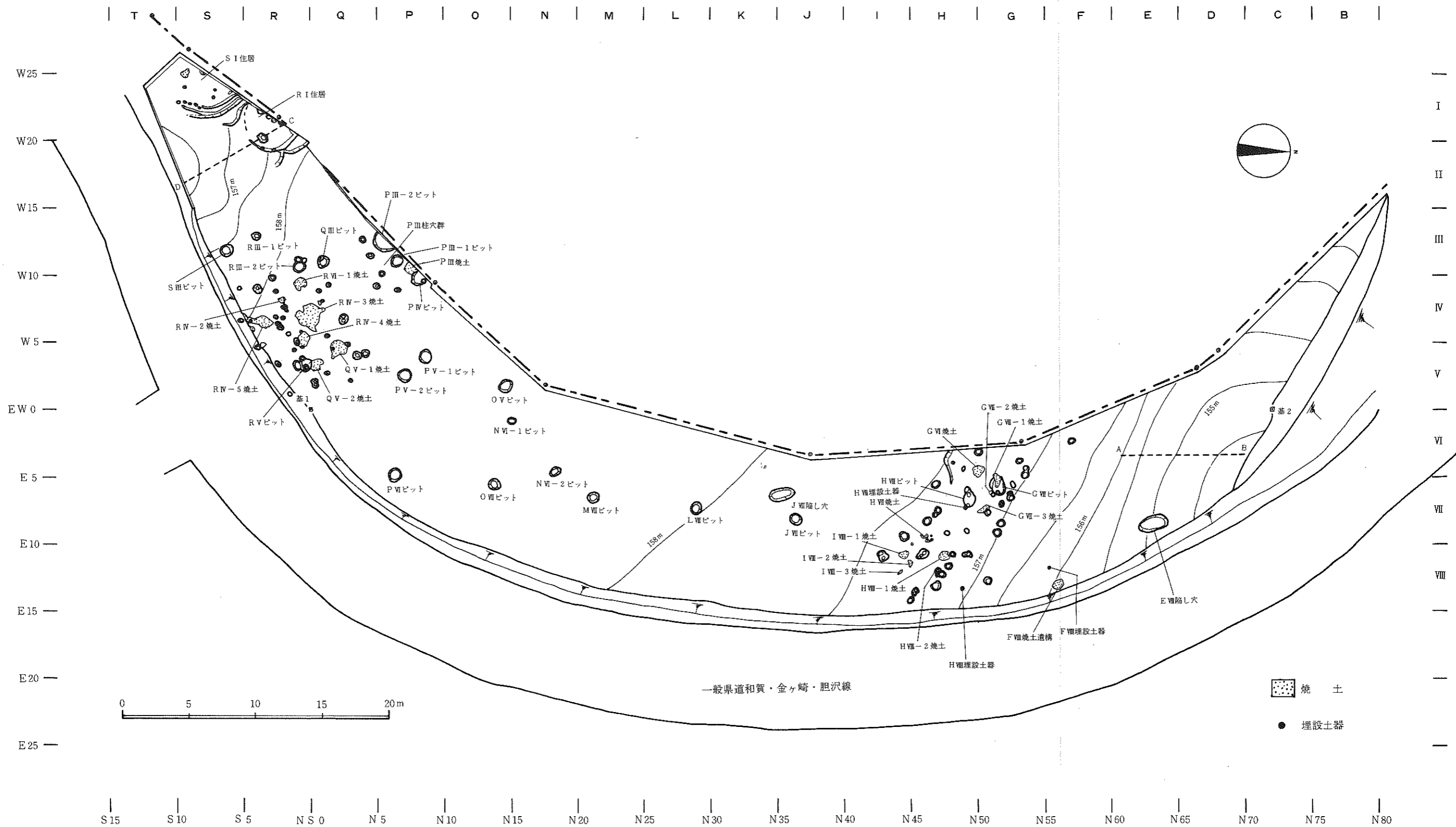
金ヶ崎町の縄文時代遺跡表(2)

番号	遺跡名	種別	遺跡の性格			縄文時代の時期				
			縄文	弥生	土師	早期	前期	中期	後期	晩期
21	川口田遺跡	散布地	○							
22	北荒巻遺跡	"	○		○			○		
23	西浦遺跡	"	○							
24	瘤木遺跡	"	○							
25	花沢遺跡	"	○							
26	後生平遺跡	"	○							
27	和光6区遺跡	集落跡	○				○	○		
28	天ヶ森遺跡	散布地	○							
29	橿引沢西遺跡	"	○			○	○	○		
30	橿引沢東遺跡	"	○					○		
31	稲沢遺跡	"	○					○		
32	萱刈場遺跡	"	○					○	○	○
33	草刈場遺跡	"	○					○	○	○
34	頭無遺跡	"	○					○		
35	坂水遺跡	"	○					○		
36	滑利遺跡	"	○		○			○		
37	藤巻遺跡	"	○							
38	清水畑遺跡	"	○							○
39	関谷遺跡	"	○							○
40	潤沢奥遺跡	"	○					○		
41	旧酪農5区I遺跡	散布地	○					○		
42	旧酪農4区A遺跡	集落跡	○					○		
43	旧酪農5区A遺跡	散布地	○	○		○	○		○	○
44	細野北遺跡	"	○			○		○		
45	三蔵塚遺跡	"	○	○						
46	鳥ノ海西遺跡	"	○				○	○		
47	鳥ノ海遺跡	"	○				○	○		
48	鳥ノ海東遺跡	"	○			○	○	○		
49	野崎遺跡	"	○							○
50	平林後遺跡	"	○		○			○		
51	笹森遺跡	"	○							○
52	堀切遺跡	"	○					○		
53	横沢遺跡	"	○							
54	長坂前遺跡	"	○	○						○
55	不動沢遺跡	"	○				○			
56	一の越戸遺跡	"	○					○		
57	銭干遺跡	"	○							
58	中山遺跡	"	○					○		○
59	小歩遺跡	"	○							
60	女夫坂遺跡	"	○				○			



第3図 金ヶ崎町縄文時代の遺跡位置図

(この地図は国土地理院発行の5万分の1地形図(北上、水沢、川尻、焼石岳の図幅を使用した)



第4図 和光6区遺跡遺構配置図

III 検出された遺構と遺物

検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡2棟、柱穴群3ヶ所（柱穴数82個）、焼土遺構19、埋設土器3、ピット20基、陥し穴2基である。遺物包含層は2カ所である。

遺構は村崎野段丘（中位段丘）上に構築されている。遺構の位置を表わしやすくするため、調査区域を①北斜面（標高157m以下）、②段丘北縁（標高157～157.5m）、③南斜面（標高158m以下）、④段丘南縁（Qグリッド付近）、⑤段丘中央（①～④以外）に細分して説明する。

1. 竪穴住居跡

2棟とも南斜面を占地し、遺物包含層の下から検出された。いずれも調査範囲外に続いているため完掘できなかった。

R I 住居跡

遺構（第5図；写真図版3）

南斜面上位に位置し、S I 住居跡の北側に構築されている。調査したのは遺構の東半分である。平面形は円形と推定される。規模は、南北床面の直径で4.3mである。

壁の状況は、崩落や掘り過ぎのため不明である。床面から耕作土上面までは1mである。床面は南に少し傾斜するが、全体的に平坦で堅くしまっている。

炉は地床炉であり、床面中央付近に位置し、焼土が径45～60cmにわたり分布している。焼土の厚さは2～6cmと薄いですが、堅くしまっている。

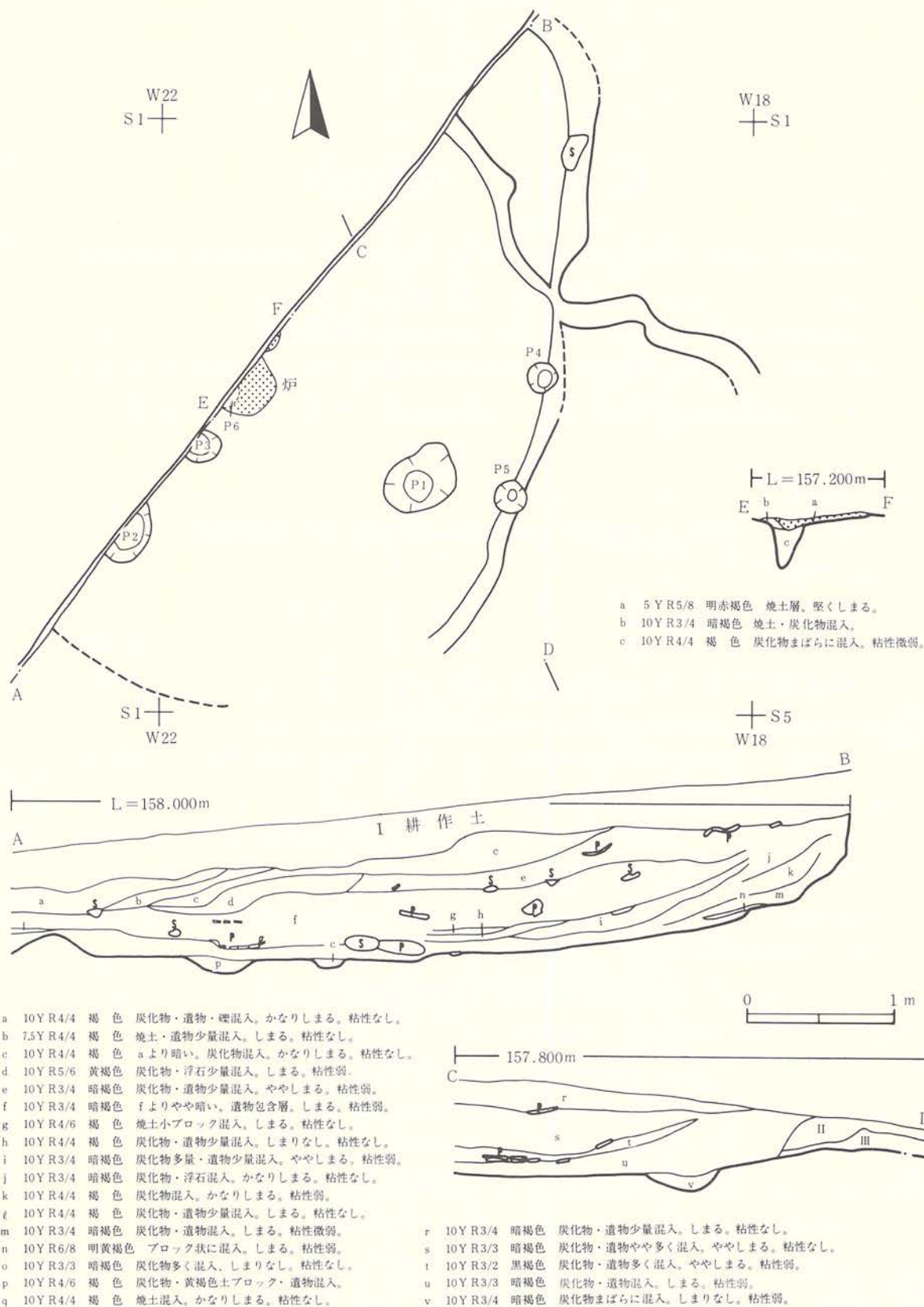
柱穴状ピットは、P₁（径20cm・深さ27cm）、P₂（径25cm・深さ10cm）、P₃（径18cm・深さ45cm）、P₄（径22cm・深さ20cm）、P₅（径20cm・深さ6cm）、P₆（径20cm・深さ30cm）の6個である。このうちP₁、P₂は底面レベルも同じであり支柱穴である。四角形の柱穴配置が予想される。P₆は焼土の下から検出された。周溝はない。

埋土は、全体的に焼土・炭化物・遺物のまじる褐色～暗褐色の土層で構成され、上位と下位は褐色、中位は暗褐色である。遺物包含層の主体であるf層は、堅くしまり厚さは30cmである。遺物は床面より10cmぐらい高いところで多く出土している。

遺物 多数の土器及び土器片と若干の石器が埋土から出土している。

土器（第21図1～第22図10；写真図版17—1～7・18—8～10）

1は波状口縁の深鉢である。口縁部は内わんぎみに外傾し、胴部上半は球状に膨らみ、下半は台状になる。底部付近は張り出す。波頂部は2山で1単位となり、4単位が巡るようである。器表面は無文で、なで付けられたようになっている。



第5図 R I住居跡

2も波状口縁の深鉢で胴部中位以下は欠損している。口縁部は外反し、胴部は少し膨らむ。波頂部は3つの連山状に分かれ、中央下位に丸いくぼみがある。その下位には竹管の連続刺突が巡る。さらに下位には隆帯が巡り篋状工具で連続押圧されている。頸部には水平と波状の細かい平行沈線が巡り、胴部には細かい平行沈線による鋸歯状文と菱形状文の一部が施文されている。

3は緩い波状を呈する口縁の深鉢で底部付近は欠損している。2同様に口縁部は外反し、胴部は少し膨らむ。波頂部の下位には丸いくぼみがあり、口頸部には波状の平行沈線が巡っている。胴部上位には棒状の粘土紐が貼り付けられ、そこを中心に細かい平行沈線が菱形状に施文されている。地文はRを胴部上位以下横方向に回転施文している。

4は波状口縁の深鉢で、胴下半は欠損している。口縁部は内わんぎみに外傾し、胴部は少し膨らむようである。波頂部には弧状、波底部には棒状の粘土帯が貼り付けられている。その下位から頸部にかけて波状の平行沈線が巡り、頸部には篋状工具で連続押圧施文された隆帯が巡る。地文はRLで、胴部中位から下方に施文されている。

5は緩い波状口縁の深鉢である。口縁部は外反し、胴部はやや膨らみ、底部は少し張り出す。口縁部には鋸歯状の平行沈線が巡る。頸部には平行沈線が巡り、その内部には篋状工具による連続押圧施文がなされる。その上下には波状の平行沈線が巡っている。地文は附加条のLRが胴部上位は縦方向に、途中から下位は横方向に回転施文され、部分的に羽状を呈している。

6は平縁の深鉢で胴部下位は欠損している。口縁部は短く外反し、胴部は少し膨らむ。口縁部は無文で、頸部～胴部上位は両端を結節したLRを横方向に回転施文している。その下位は2本の条を緩く結節した原体が横方向に回転施文されている。

7も平縁の深鉢で胴下半は欠損している。口縁部は少し外反し、胴部はやや膨らむ。口縁部には沈線による渦巻文と弧状文が巡る。頸部には竹管の押し引きによる波状の沈線と円形竹管の連続刺突が2条ずつ巡っている。地文はRLで胴部上位以下横方向に回転施文される。

8は波状口縁の深鉢で胴部下位は欠損している。口縁部は外傾ぎみで胴部はやや膨らむ。波頂部を中心に口縁部の外側には8の字状の隆帯がある。頸部には短い粘土紐が縦位に貼り付けてある。地文は一端を結節したRLを胴部上位以下縦方向に回転施文している。

9は平縁の深鉢で底部付近は欠損している。植木鉢状を呈し、無文である。

10も平縁の深鉢で胴下半は欠損している。口縁部は外反し胴部は膨らむ。地文はRLを口縁部以下主に横方向に回転施文する。

石器（第26図1～7；写真図版25—2～7・31—1）

石器は凹石1点と削搔器4点・石製円盤2点である。

1は凹石で、楕円形状の平たい自然礫を素材としており、表裏両面に擂鉢状のくぼみが不規則に形成されている。周縁には研磨痕があり、磨石として使用されたようである。

2・3は石製円盤で両面と周縁が丁寧に研磨されている。石質は2点とも軽石である。

4～7は削搔器である。4・6は1縁辺に片側から刃部加工が施されている。5・7は刃こぼれ状の刃部が不規則に形成されている。

S I 住居跡

遺構（第6図；写真図版3）

南斜面を占地しており、R I 住居跡の南側に構築されている。調査したのは東半分である。平面形は円形と推定される。規模は、直径6m前後であろう。

壁は北側ほど残存しており直壁に近く、壁高は北壁で1mである。南壁は消失している。床面は北から南にゆるく傾斜している。床面中央付近には、部分的に貼り床がみられる。北半分は堅くしまっているが、南半分には貼り床はなく、土も包含層に類似し軟質である。

炉は地床炉2基である。1号炉は床面中央に位置し、径30cmにわたり焼土が形成されている。厚さは4～5cmであるが、堅くしまっている。2号炉は1号炉の南側に位置している。焼土形成範囲は1号炉より広く、74×60cmにわたり分布しているが軟質である。

柱穴は、P₁（径20cm・深さ16cm）、P₂（径23cm・深さ37cm）、P₃（径14cm・深さ27cm）、P₄（径28cm・深さ50cm）の4個である。柱穴配置は不明であるが、P₁—P₄又はP₂—P₄を支柱穴とする四角形の配置が予想される。

周溝は、基本的に二重のものであるが北壁付近は三重である。周溝1は外側のものであり、北から南東にかけて幅15～20cm・深さ20～25cmのものが4.7mほど連続している。周溝2は内側のものであり、北から東にかけて幅10～15cm・深さ15～20cmのものが2.6mほど連続し、その南は柱穴状ピットとなっている。周溝3は長さ30cmと40cmのものであり、北側に断続的にみられ周溝2につながっている。周溝1と2の間は床面より10cmほど高くなっている。周溝付近の埋土は連続していることから、周溝は同時併存又は拡張によるものと考えられる。

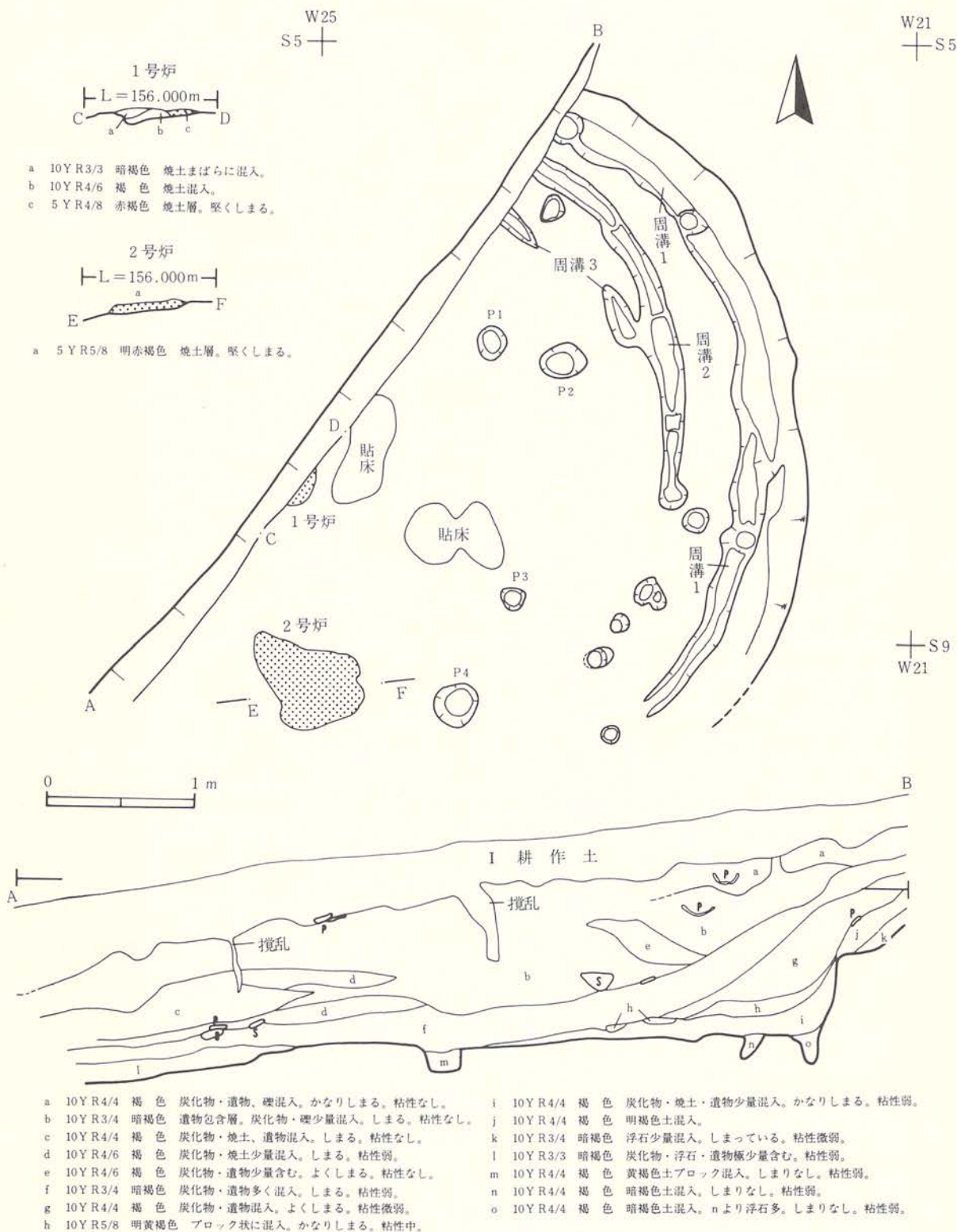
埋土は、多量の遺物を包む暗褐色の土層（b層、f層）が主体である。南側の焼土を含む褐色の土層（c層）は人為的廃棄によって形成されたものであろう。

遺物 多数の土器及び土器片と石器が埋土から出土している。

土器（第22図11～第24図28；写真図版18—11～20—28）

11は波状口縁の深鉢で胴下半は欠損している。複合口縁でやや外反し、波頂部付近は直立する。胴部は膨らむ。口頸部にはLの側面圧痕が横5本、縦4本交互に施文される。地文はRLを文様帯以下横方向に回転施文しているがかなり摩滅している。

12は深鉢で胴部上位は欠損している。胴部は少し膨らむ。幅広の平行沈線と篋状工具による刺突が巡る。



第6図 S I 住居跡

13は波状口縁の深鉢で底部付近は欠損している。口縁部は外反ぎみに外傾し、胴部は植木鉢状を呈す。波頂部は肥厚し棒状工具による刺突が施されている。口縁部上位と頸部には連続刻み施文された隆帯が巡り、隆帯間には沈線による格子目状文が施文されている。波頂部の下位には粘土塊の貼り付けがある。胴部上位には平行沈線が斜位に施文され一部交差している。地文はLR・RL（結束第2種・羽状）を文様帯以下縦方向に回転施文している。

14はほぼ平縁の深鉢で胴部下位は欠損している。口縁部は内わんぎみで、口唇部付近はやや外反する。胴部は膨らむ。口縁部文様帯は縦位の粘土帯と横位に巡る粘土帯で4つに区画され、各区画には4条の平行沈線が施文されている。粘土帯は篋状工具で連続押圧施文されている。地文は両端に結節を作るRLを隆帯下位から間隔をおいて縦方向に連続回転施文している。

15は波状口縁の深鉢で胴部下半は欠損している。口縁～胴部上位は内わんぎみに外傾している。波頂部の内外に渦巻状の貼り付け施文等がなされている。口縁部には平行沈線が巡り、その間の一部に竹管の連続刺突がなされている。地文はRLを口縁部以下横方向に回転施文している。

16は緩い波状口縁の深鉢で、胴部中位以下は欠損している。口縁部は内わんぎみに外傾し、胴部は膨らむ。波頂部は少しくぼみ、下位に瘤状の貼り付け突起が2つある。突起を起点に円周に平行な沈線と鋸歯状の沈線が巡る。地文は両端に結節を作るRLを頸部以下間隔をおいて縦方向に連続回転施文している。

17は緩い波状口縁の深鉢で、胴部上位までの残存品である。口縁部は内わんぎみに外傾し、口唇部付近は内わんする。胴部はやや膨らむようである。波頂部は少しくぼみ、下位に瘤状突起が貼り付けられる。突起を中心に円周に平行な沈線と波状沈線が巡る。一部には交差する連続刻み施文がある。頸部には篋状工具で連続押圧された隆帯が巡る。地文は一端に結節のあるLRを隆帯下位から縦方向に回転施文している。

18は緩い波状口縁の深鉢で底部付近が欠損している。口縁部は内わんぎみに外傾し、胴部は植木鉢状を呈す。口縁部の上下には平行沈線が巡り、沈線間には鋸歯状沈線と竹管の連続刺突が巡っている。また弧状の粘土紐の貼り付けもある。下位には篋状工具で連続押圧された隆帯が巡る。地文は両端を結節するLRを隆帯以下縦方向に連続回転施文している。

19は平縁の深鉢で胴下半は欠損している。口縁部はやや外反し、胴部は植木鉢状を呈する。口縁部には瘤状の貼付突起が上下2つずつ4単位あり、下位に篋状工具で連続押圧施文された隆帯が巡る。地文は両端に結節を作るLR・RL（結束第1種・羽状）を隆帯下位から縦方向に連続回転施文している。

20は緩い波状口縁の深鉢で胴部中位以下は欠損している。複合口縁で外反し、胴部は膨らむ。地文はだいぶ摩滅しているがRLを口縁部以下横方向に回転施文している。

21は波状口縁の深鉢で、底部付近は欠損している。口縁部は外反し、波頂部付近は直立ぎみとなる。胴部は筒状を呈す。波頂部は肥厚し、下位には円盤状の粘土塊の貼り付けがある。頸部には粘土帯が巡り粘土帯と口縁部上位は篋状工具で連続押圧される。その間に鋸歯状の沈線が2条巡る。地文は一端に結節を作るLR・RL（結束第一種・羽状）を縦方向に連続回転施文している。

22は緩い波状口縁の深鉢で胴下半が欠損している。口縁部は内わんぎみに外傾し、胴部はやや膨らむが植木鉢状を呈する。口縁部下位には粘土帯が巡り篋状工具で連続押圧され、一部にはりボン状の粘土塊の貼り付けもある。その上位に渦巻状や弧状の沈線文や篋状工具の連続刺突が施文される。地文は一端に結節を作るLR・RL（結束第2種・羽状）を粘土帯下位から間隔をおいて縦方向に連続回転施文している。

23は緩い波状口縁の深鉢である。複合口縁でやや外反し、胴部は植木鉢状を呈す。地文はLR・RL（結束第2種・羽状）を口縁部以下縦方向に連続回転施文している。

24は波状口縁の深鉢で、底部付近は欠損している。複合口縁でほぼ直立し、波頂部付近でやや外反する。胴部上半は球状に膨らみ、下半は台状になる。波頂部下位の頸部には2個1対の突起が貼り付けられている。地文はLRを口縁部～胴部上位に横方向に回転施文している。下位は無文である。

25は胴部下位から底部の破片である。地文は一端を結節したLRを横方向に回転施文している。

26は波状口縁の深鉢で胴下半は欠損している。口縁部は内わんぎみに外傾し、胴部は植木鉢状を呈しているようである。複合口縁で波頂部内外には環状の粘土紐が貼り付けされ、外側には縦位の粘土紐が2本ずつ貼り付けされる。地文はLRを口縁部以下主に横方向に回転施文している。

27は平縁の浅鉢で一部に波状突起がある。口縁部は直立し、胴上位は内わんぎみ、下位は台状を呈する。複合口縁で無文である。

28も浅鉢で口縁～胴部は内わんぎみに外傾する。無文である。

石器（第26図8～第29図50；写真図版25～28・31・32）

石篋2点と石鋏4点・石匙5点・削搔器23点・磨製石斧1点・磨石7点・石製品1点がある。8・18は石篋である。8は細長い形状を呈し、表裏両面から調整加工が施されている。18は楕円形状を呈し、片刃的な調整加工が施されている。

9～12は石鋏で、10・11は破損している。9は平基、11は凸基、10・12は凹基である。細部の調整加工はそれほど丁寧ではない。

13～17は石匙である。13・14・17はつまみ部が長軸の端につく縦形で、15・16はつまみ部が

長軸の中央につく横形である。14は破損品である。15・16は表裏両面から丁寧な調整加工が施されている。17は正三角形をなしている。

19～41は削搔器である。22は尖った一端を中心に両面から調整加工が施され、尖頭器的形状を呈している。19・27・31・32・35は縁辺に両刃的な刃部加工が施されている。26・29・30・33は1縁辺に、21・23・24・25・28・36・39は2縁辺以上に片刃的な刃部加工が施されている。20・34・37・38・40・41は不規則・不連続な刃部加工や刃こぼれ状の剝離が見られる。

42は盤状を呈している小型の磨製石斧である。一部破損している。

45は薄い板状に加工された石製品である。側縁の一部から裏面にかけ破損しているが、それ以外は研磨されている。

43・44・46～50は磨石である。44・48は横断面形が三角形の棒状礫を素材として、縁辺に磨面が形成されている。43・46・47は横断面形が長方形の棒状礫の1縁辺に磨面が形成されている。これらの磨面の下位には敲打痕が残っている。49・50は丸餅状の礫の両面に磨面が形成されている。一部には敲打による擂鉢状のくぼみが形成されている。

2. 柱穴群

段丘面の北縁と南縁付近で集中的に検出された。検出された柱穴数は82個あり、分布は北柱穴群、PⅢ柱穴群、南柱穴群に三分される。これらの柱穴の規模は、平均開口部径47×40cm・底部径31×27cm・深さ60cmである。埋土は、全体的に褐色～暗褐色の土層で構成されており、上位は堅くしまっているものが多い。埋土から出土する遺物は縄文時代の土器や石器である。柱据え方は殆ど確認できなかった。

これらの柱穴群に囲まれる形で焼土遺構が18基検出されており、焼土遺構が柱穴群に付属するものと考えられる。

北柱穴群

遺構（第7図・第8図；写真図版4・5）

段丘面北縁付近のG区・H区を中心に38個の柱穴が検出された。これらの柱穴の規模は右の表のとおりである。

これらの柱穴群は、段丘北縁から北斜面上位にかけて分布しており、標高157～157.5mの間が主要検出面である。柱穴の中にはP₂₉、P₃₂のように焼土下位から検出されたものや、P₈、P₁₀、P₃₁のように焼土を切っているものがあり、新旧関係がある。

柱穴配置をみると、東—西、北西—南東方向に列状に並んでおり、2棟以上の長方形柱穴列が存在する。P₁、P₆（P₉）、P₁₉（P₁₈）、P₁₅の柱穴で構成される柱穴列は範囲外に広がっている可能性がある。この遺構の南側に残存している壁に相当する部分は、竪穴住居跡の壁では

北柱穴群一覽表

番号	開口部径	底部径	深さ	下限レベル(m)	番号	開口部径	底部径	深さ	下限レベル(m)
1	46×33	24×22	48	156.67	20	—	22×16	62	156.70
2	38×34	30×28	26	156.86	21	50×48	43×36	56	156.70
3	58×44	48×32	50	156.62	22	46×42	38×34	82	156.37
4	44×32	10×10	?	?	23	(32×32)	27×24	43	156.76
5	(32×28)	(24×20)	28	156.81	24	54×40	40×34	71	156.82
6	(58×54)	(48×34)	28	156.82	25	50×38	31×28	87	156.55
7	48×48	(40×38)	29	156.95	26	42×42	28×28	61	156.81
8	38×34	33×28	40	156.84	27	70×65	63×56	63	156.83
9	40×36	30×26	44	156.62	28	44×40	35×32	62	156.70
10	48×45	36×34	44	156.72	29	42×34	31×28	66	156.63
11	37×32	24×22	43	156.68	30	58×50	40×22	48	156.78
12	46×38	32×32	48	156.63	31	52×50	20×20	86	156.35
13	55×45	50×42	48	?	32	34×32	26×25	54	156.77
14	47×46	24×22	68	156.29	33	75×62	26×22	78	156.53
15	48×47	26×24	68	156.71	34	(50×40)	32×32	73	156.66
16	46×30	26×22	55	156.84	35	70×70	52×50	63	156.75
17	50×24	32×22	24	156.98	36	38×28	22×17	59	156.79
18	(48×44)	40×40	48	156.85	37	58×46	34×32	92	156.39
19	—	26×24	82	156.50	38	84×74	36×34	72	156.78

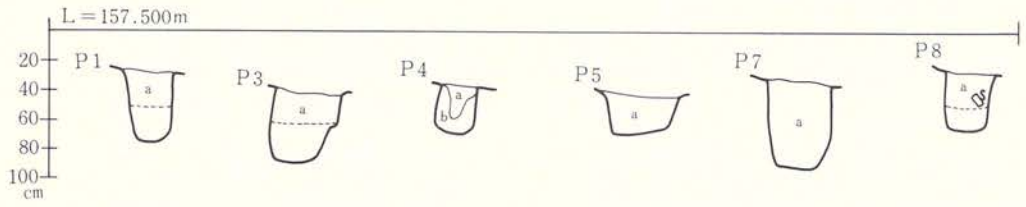
() は推定値である。深さは検出面からの深さである。単位はcm。

なく、木根による攪乱と判断した。それはP₁₆、P₁₇が柱穴としてのまとまりに欠けることや周辺が軟質であったことによる。柱穴群内は堅く平坦であり、北側では貼り床の痕跡がみられる。GVIおよびGVII-1焼土は、この遺構に付属するものと思われる。GVII-1焼土はGVIIピットの上に乗る。またP₁₈、P₁₉はHVIIピットを切っている。従ってこの柱穴列はピットよりは新しいものである。

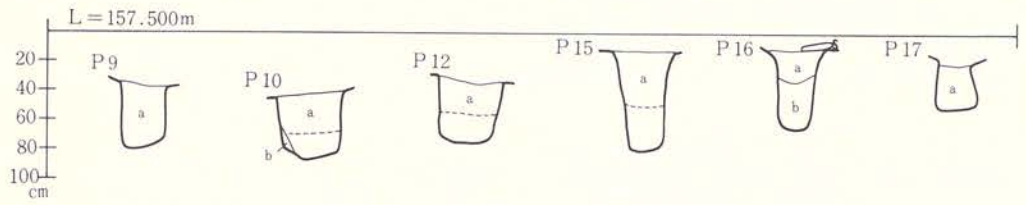
P₁₁ (P₁₂)、P₂₂ (P₂₃)、P₃₁ (P₃₃)、P₃₇、P₁₈、P₂₅ (P₂₆)、P₂₇、P₃₅、P₃₈の柱穴で構成される長方形柱穴列は建て替えた可能性がある。規模は長辺北側で8.5m(8.1m)、南側で8.28mである。短辺は西側で3.62m(3.84m)、東側で3.78mである。長辺と短辺は直交気味である。柱穴の平面形は円形を呈し、径の大きいものと小さいものがある。検出面からの深さは、平均67cmである。埋土は、褐色～暗褐色のものが多く、上半部が堅くしまっている。なおP₂₂は柱穴全体に13個の角礫が埋められている。角礫は小さいもので15×10cm、大きいもので50×30cm



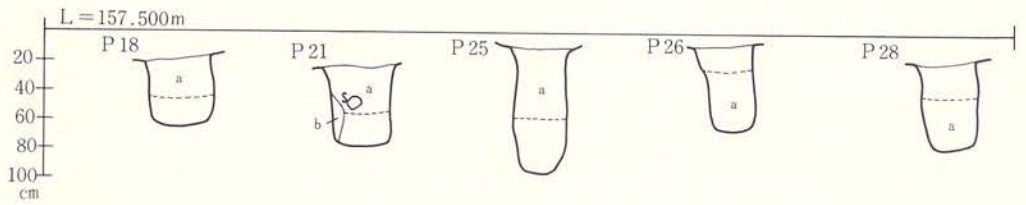
第 7 图 北柱穴群



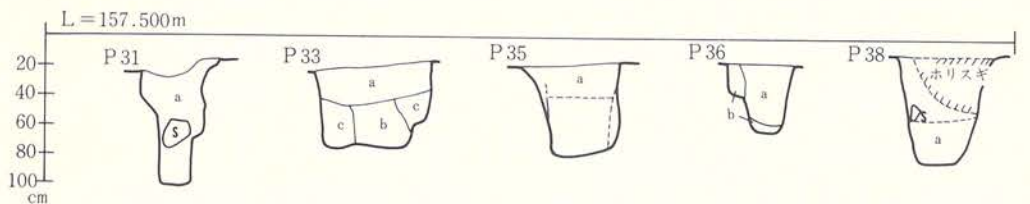
- | | | | | | | | | | |
|--------|---|-----------|-----|-----------------|--------|---|-----------|-----|------------------|
| 柱穴 P 1 | a | 10Y R3/4 | 暗褐色 | 炭化物・浮石少量混入。しまる。 | 柱穴 P 5 | a | 10Y R3/4 | 暗褐色 | 炭化物・浮石少量混入。しまる。 |
| 柱穴 P 3 | a | 7.5Y R3/4 | 暗褐色 | 炭化物少量混入。 | 柱穴 P 7 | a | 10Y R3/4 | 暗褐色 | 遺物・炭化物多く混じる。しまる。 |
| 柱穴 P 4 | a | 10Y R4/4 | 褐色 | ねばり・しまりなし。 | 柱穴 P 8 | a | 7.5Y R4/4 | 褐色 | 炭化物少量混入。しまる。 |
| | b | 10Y R5/6 | 黄褐色 | ねばり・しまりなし。 | | | | | |



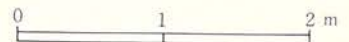
- | | | | | | | | | | |
|---------|---|-----------|-----|---------------------|---------|---|----------|-----|-----------------|
| 柱穴 P 9 | a | 10Y R4/4 | 褐色 | 乳石少量混入。堅くしまる。 | 柱穴 P 15 | a | 10Y R3/4 | 暗褐色 | 炭化物・浮石少量混入。しまる。 |
| 柱穴 P 10 | a | 7.5Y R3/4 | 暗褐色 | 浮石・炭化物・焼土混じる。 | 柱穴 P 16 | a | 10Y R4/4 | 褐色 | しまる。 |
| | b | 10Y R5/8 | 黄褐色 | やや粘性あり。 | | b | 10Y R5/6 | 黄褐色 | 粘性なし。 |
| 柱穴 P 12 | a | 10Y R3/3 | 暗褐色 | 炭化物少量混入、下位浮石混入。しまる。 | 柱穴 P 17 | a | 10Y R5/6 | 黄褐色 | 浮石混じる。 |



- | | | | | | | | | | |
|---------|---|----------|-----|-----------------|---------|---|----------|--------|-----------------|
| 柱穴 P 18 | a | 10Y R3/4 | 暗褐色 | 炭化物・浮石少量混入。しまる。 | 柱穴 P 25 | a | 10Y R4/3 | にぶい黄褐色 | 礫・炭化物・乳石混じる。 |
| 柱穴 P 21 | a | 10Y R4/4 | 褐色 | 炭化物・浮石少量混入。しまる。 | 柱穴 P 26 | a | 10Y R5/4 | にぶい褐色 | 浮石少量混入。 |
| | b | 10Y R5/8 | 黄褐色 | 粘性微弱。 | 柱穴 P 28 | a | 10Y R4/4 | 褐色 | 炭化物・浮石少量混入。しまる。 |



- | | | | | | | | | | |
|---------|---|-----------|-----|-------------------|---------|---|----------|-----|----------------------|
| 柱穴 P 31 | a | 10Y R3/4 | 暗褐色 | 遺物・炭化物混じる。しまる。 | 柱穴 P 35 | a | 10Y R3/3 | 暗褐色 | 浮石少量混入。 |
| 柱穴 P 33 | a | 7.5Y R4/4 | 褐色 | 焼土炭化物混じる。しまる。 | 柱穴 P 36 | a | 10Y R3/3 | 暗褐色 | 浮石少量混入。 |
| | b | 10Y R4/4 | 褐色 | cの火山灰混じる。 | | b | 10Y R4/6 | 褐色 | 粘性微弱。 |
| | c | 10Y R5/6 | 黄褐色 | 明褐色火山灰混じる。かなりねばる。 | 柱穴 P 38 | a | 10Y R4/4 | 褐色 | 焼土・炭化物・浮石少量混入。堅くしまる。 |



第 8 図 北柱穴群 (断面)

である。この柱穴は柱穴として掘られたものの、使用せずに埋められた可能性がある。柱穴群内は中央部が最も堅い。西側は汚れた暗褐色土（基本土層Ⅱ層）が多く、軟質である。全体的に南から北に傾斜しており、高低差は20cmである。HVⅦ、HVⅧ-1、HVⅧ-2、IⅧ-1、IⅧ-2、IⅧ-3焼土は、この遺構に付属するものと思われる。HVⅧ-1、HVⅧ-2焼土以外は、耕作によって大きく攪乱されている。

なお、これらの柱穴のうちP₁₅の埋土上位から少量の炭化物が出土したので放射性炭素年代測定を依頼した。その結果は1710±180 B. P. となった。この時代の遺物は当遺跡から得られていないのでそのまま柱穴の年代とはできないと思われる。

遺物 柱穴の埋土や焼土周辺から土器片や石器が少量出土している。復元できた土器は3点ある。

土器 (第24図29～第25図31；写真図版20-29～31)

29は深鉢の胴部下半で、筒状を呈している。地文は一端に結節を作るRLを縦方向に連続回転施文している。

30は平縁の深鉢で、底部付近は欠損している。口縁部は少し外反し、胴部はやや膨らむが筒状を呈している。口縁部に沈線による弧状の施文がある。だいぶ摩滅しているが地文は一端を結節するLRを頸部以下縦方向に連続回転施文している。

31は緩い波状口縁の深鉢で胴部下位が欠損している。口縁部は少し外反し頸部の掘曲が大きい。胴部上半は算盤玉状を呈する。下半は台状を呈すると思われる。複合口縁で太い沈線が波状に巡っている。地文はLRを頸部以下横方向に回転施文している。

土器片 (写真図版21-1～19)

1～15・17は口縁部の破片、16・18・19は口頸部付近の破片である。1は口縁部に3～4本の平行沈線が縦、横交互に施文されている。頸部には平行沈線が巡る。地文はLを文様帯以下横方向に回転施文している。2は波頂部が少しくぼみ、口唇部に平行な太い沈線と幅広の粘土帯が巡る。3は口縁部がかなり肥厚し、太い平行沈線と半截竹管の連続刺突が巡る。4は波頂部の内外に粘土紐が「の」字状に貼り付けられる。外側は下位に「x」字状の貼り付けがある。5は複合口縁で内側が肥厚する。二重の円を囲む菱形の沈線が施文されている。6は細い粘土紐が鋸歯状に貼付されているが途中で摩滅している。7は複合口縁で内側に少し張り出す。上位に平行沈線が巡り三角形の刺突もある。そこから弧状の平行沈線が施文される。地文はLRを横方向に回転施文している。8も複合口縁で上位に細い平行沈線、下位に粗い鋸歯状沈線が巡る。9は波頂部に縦位の隆帯が貼り付けられ、頸部には竹管の連続刺突が2列巡っている。10は複合口縁で、平行沈線が縦・横交互に施文されている。

11～13も複合口縁で、11は頸部付近に細い平行沈線による波状と水平の施文が巡る。12は肥

厚部に斜位の押圧沈線が巡る。13は篋状工具で連続押圧された粘土帯が巡る。地文はLRを横方向に回転施文している。14は篋状工具による連続刺突が2列巡っている。15・16は複合口縁で、16は下位に篋状工具で連続押圧された粘土帯が巡る。口縁部には粘土帯が剥落した痕がある。その間には平行沈線が巡り、沈線間は篋状工具で連続押圧される。17は弧状の沈線文が施文されるが全体の形状は不明である。18は半截竹管による平行沈線が水平に巡っている。19は口唇部付近が肥厚している。粘土帯が2本縦位に貼り付けられ下位には橋状の粘土帯の貼り付けがある。口縁部上位と中位に沈線と棒状工具の連続刺突が巡り、文様帯が2段に分割される。内部には棒状工具押圧と弧状の平行沈線による文様が施文される。地文はLRを粘土帯上は縦方向に、それ以外は横方向に回転施文している。

石器 (第30図51～第31図71；写真図版28—56～64、29—65～71、32—51・52、33～53・54)
磨石3点、凹石1点、石篋4点、磨製石斧1点、石錐1点が出土している。

51～54は磨石である。3点とも横断面形が三角形に近い棒状の礫を使用し、一縁辺に磨面が形成されている。52と54には敲打痕が残っている。

53は凹石である。丸餅状の自然礫を素材として使用し、平な面に播鉢状のくぼみが不規則に形成されている。また一部に磨面が残っており、磨石としても使用されたようである。

56・57・61・62は石篋である。4点とも両側からほぼ全面にわたって調整加工が施されている。56・61は両刃的、57・62は片刃的な刃部加工が施されている。

59は磨製石斧の基部の破片である。表面に研磨痕が残っている。

65は棒状の石錐である。刃部の横断面形はほぼ三角形を呈している。

58・60・63・64・66～71は削搔器である。67・68は縁辺に両刃的刃部調整が施されている。58・60・63・64は2辺以上の縁辺に片刃的刃部調整が施されている。66・69～71は不規則な刃部加工や刃こぼれ状の刃部加工が見られる。

P III 柱穴群

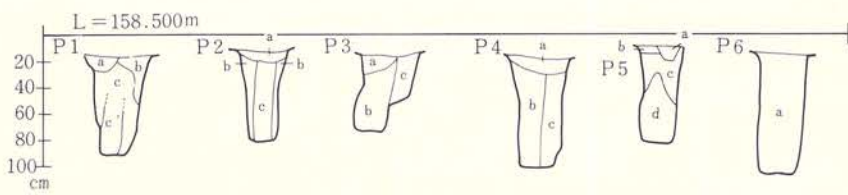
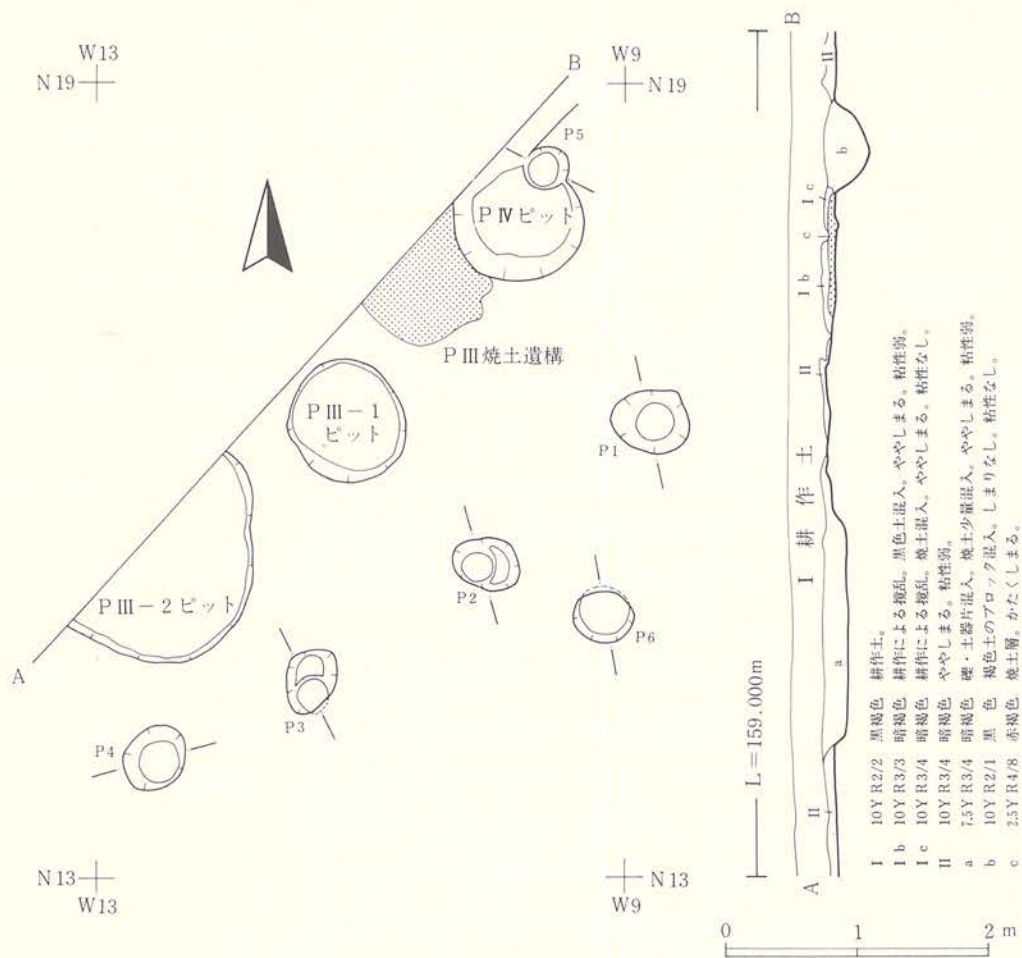
遺構 (第9図；写真図版6)

段丘面南縁に近いP III区を中心に6個の柱穴が検出された。柱穴の規模は、下の表のとおりである。

P III 柱穴群 一 覧 表

番号	開口部径	底部径	深さ	下限レベル(m)	番号	開口部径	底部径	深さ	下限レベル(m)
1	59×48	30×26	78	157.58	4	53×44	33×30	86	157.47
2	53×39	25×22	68	157.68	5	34×32	26×23	73	157.66
3	52×37	23×22	58	157.78	6	46×40	36×36	92	157.40

この遺構は、調査範囲外に広がるため柱穴配置は不明であるが、P₁・P₂・P₃・P₄が北東—南



柱穴 P 1

- a 10Y R2/3 黒褐色 炭化物混入。しまりなし。粘性なし。
- b 10Y R4/6 褐色 炭化物少量混入。ややしまる。粘性弱。
- c 10Y R4/4 褐色 黒色土が混入。ややしまる。粘性弱。
- c' 10Y R4/4 褐色 cよりやや暗い。

柱穴 P 2

- a 10Y R3/4 暗褐色 炭化物・焼土混入。
- b 10Y R4/4 褐色 炭化物混入。下位ほどしまる。粘性弱。
- c 10Y R3/3 暗褐色 褐色土ブロック混入。ややしまる。粘性弱。

柱穴 P 3

- a 10Y R3/4 暗褐色 焼土混入。しまる。粘性弱。
- b 10Y R3/3 暗褐色 炭化物混入。ややしまる。粘性弱。
- c 10Y R4/6 褐色 暗褐色土がかる。しまる。粘性弱。

柱穴 P 4

- a 7.5Y R4/4 褐色 焼土・炭化物混入。しまる。粘性弱。
- b 10Y R3/4 暗褐色 土器片混入。ややしまる。粘性弱。
- c 10Y R3/3 暗褐色 炭化物混入。しまりなし。粘性弱。

柱穴 P 5

- a 10Y R2/3 黒褐色 攪乱。
- b 10Y R3/3 暗褐色 しまる。粘性弱。
- c 7.5Y R4/4 褐色 焼土混入。しまる。粘性弱。
- d 7.5Y R4/4 褐色 黒褐色土と褐色土がブロック状に混入。しまりなし。粘性弱。

柱穴 P 6

- a 10Y R4/4 褐色 焼土・炭化物少量混入。しまる。粘性弱。

第 9 図 P III 柱穴群

西方向に並んでおり、長方形に近い配置が予想される。規模は、P₁—P₂が1.76m、P₂—P₃は1.58m、P₃—P₄が1.26m、P₁—P₅が2.10mである。柱穴の平面形は円形を呈し、底部径の平均は29×27cmである。検出面からの深さは、平均76cmである。埋土は、全体的に炭化物や焼土の混じる褐色～暗褐色のものが多い。柱穴群内はほぼ平坦であり、高低差は10cm以内である。PⅢ焼土とPⅢ—1・2ピットはこの遺構に付属するものと思われる。

遺物 柱穴埋土や焼土の周囲から若干の土器片と石器が出土している。

土器片 (写真図版21—20～22、22—23～34)

20～28・33は口縁部の破片である。29～32・34は口頸部または胴部の破片である。20は波頂部に縦位の粘土帯が貼り付けされ、弧状の沈線が連続する。頸部には平行沈線が巡る。21・22は複合口縁で、21は平行沈線や小波状の沈線が巡り、22は棒状工具による押圧が間隔をおいて施文されている。23は波頂部内外に弧状の粘土紐が貼り付けされ、外面は下位に縦位の粘土紐が貼り付けされる。24・26・28は複合口縁で、24は円周に平行な沈線と波状の沈線が巡る。地文は一端を結節した原体を横方向に回転したようである。25は隆起帯が巡り、隆起帯上と口縁部上位には棒状工具による連続刺突が行われている。27は肥厚部に篋状工具による連続押圧が施文されている。31は上位に平行沈線がある。33は竹管による細い平行沈線が上位は口唇に沿って、また下位は円周に平行に施文されている。34は波状沈線が巡る。

石器 (第32図72～75；写真図版29—73～75、33—72)

磨石1点、磨製石斧1点、削搔器2点が出土している。

72は磨石の破損品である。偏平な棒状礫の1縁辺に磨面が形成されて、磨面の下位には敲打痕が残っている。また器面にはプラウ耕作の際の傷痕が残る。

73は磨製石斧である。刃部・基端とも破損している。器表面には研磨痕が残っている。

74・75は削搔器である。74は2縁辺に細かい刃部加工が施されている。75には刃こぼれ状の小剥離がある。

南柱穴群

遺構 (第10・11図；写真図版7)

段丘面南縁に近いQ区、R区を中心に38個の柱穴が検出された。柱穴の規模は、下の表のとおりである。

これらの柱穴群は、段丘南縁から南斜面上位にかけて分布しており、検出面のレベル差は、P₇とP₃₃で最大60cmである。柱穴の多くは、158m±10cmが検出面となっている。柱穴の中には、P₂₀、P₂₆、P₃₄のように焼土下位から検出されたものや、P₆、P₁₉のように焼土を切っているものがあり、新旧関係がある。

柱穴の配置をみると、北東—南西、東北東—西南西方向に列状に並んでおり、少なくとも2

南柱穴群一覧表

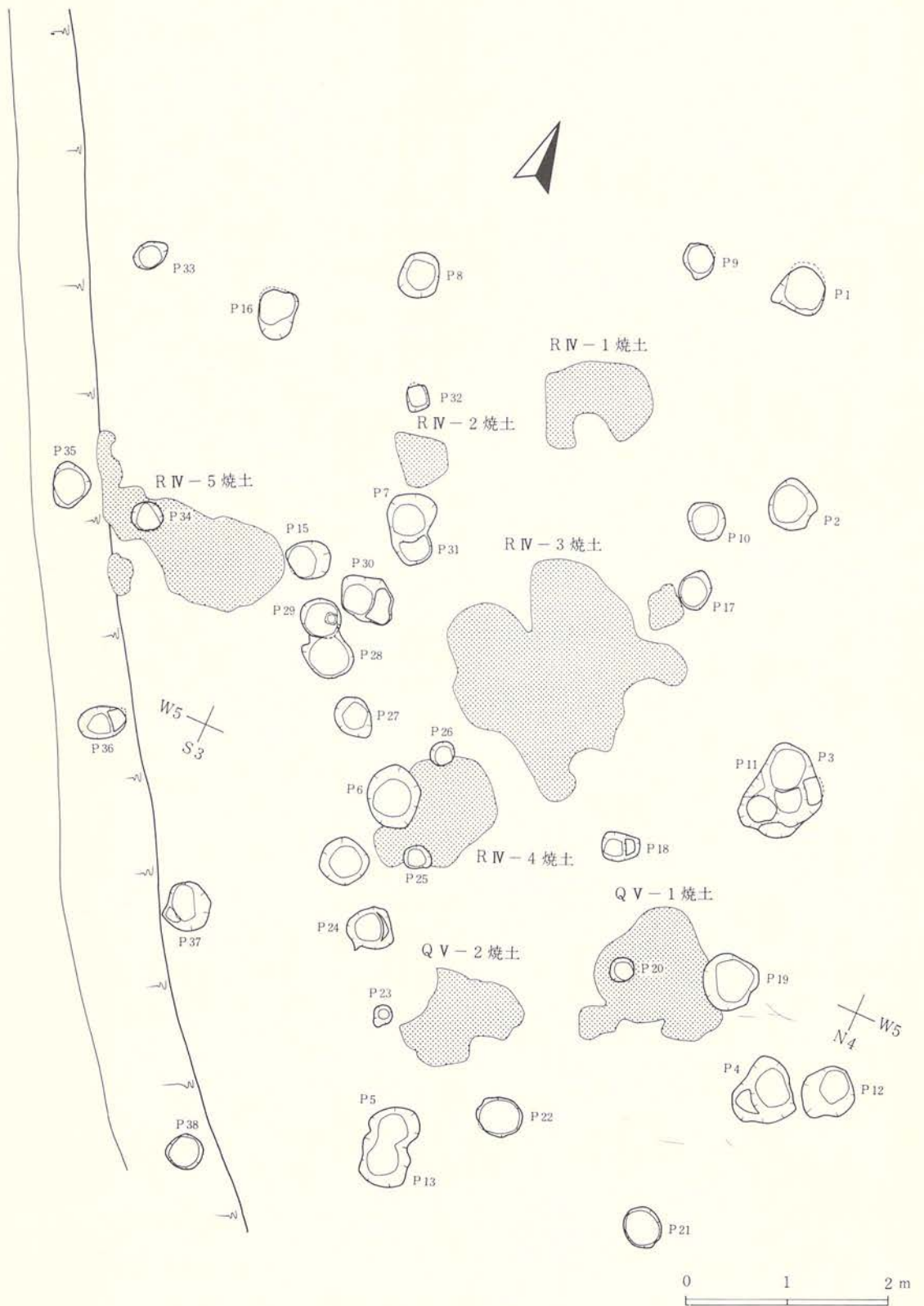
番号	開口部径	底部径	深さ	下限レベル(m)	番号	開口部径	底部径	深さ	下限レベル(m)
1	40×40	44×38	90	157.28	20	22×22	18×16	48	157.70
2	52×48	36×32	94	157.16	21	42×35	36×30	52	157.58
3	90×67	40×32	99	157.13	22	54×38	20×16	56	157.57
4	64×60	38×28	80	157.40	23	18×18	10×10	30	157.79
5	(50×40)	(30×30)	71	157.41	24	42×36	26×26	54	157.58
6	60×52	36×34	88	157.18	25	27×22	17×16	38	157.73
7	50×48	30×30	72	157.18	26	24×22	20×17	40	157.64
8	45×38	28×28	60	157.25	27	44×34	26×24	54	157.48
9	34×30	26×26	67	157.37	28	(52×44)	38×38	40	157.61
10	40×34	30×26	94	157.14	29	(36×36)	34×33	66	157.32
11	90×67	(30×27)	76	157.43	30	50×54	30×30	43	157.52
12	53×50	30×26	74	157.44	31	(36×32)	(28×26)	33	157.56
13	(50×46)	(42×30)	72	157.40	32	24×21	23×16	40	157.52
14	46×46	30×30	80	157.27	33	36×23	21×20	40	157.20
15	40×38	32×26	74	157.20	34	28×25	26×20	28	157.54
16	48×36	36×32	50	157.30	35	44×34	36×28	(65)	157.22
17	40×31	28×24	52	157.60	36	47×30	40×21	(74)	157.25
18	36×26	16×16	43	157.76	37	48×46	34×21	70	157.38
19	54×54	41×36	68	157.46	38	32×32	30×28	(71)	157.43

() は推定値である。深さは検出面からの深さである。単位はcm。

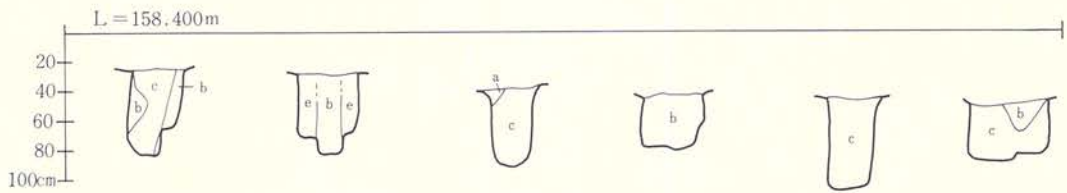
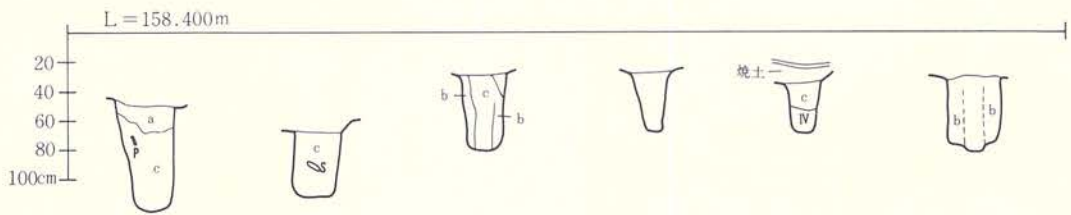
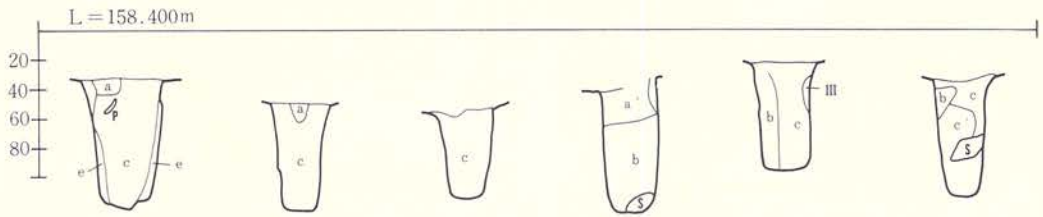
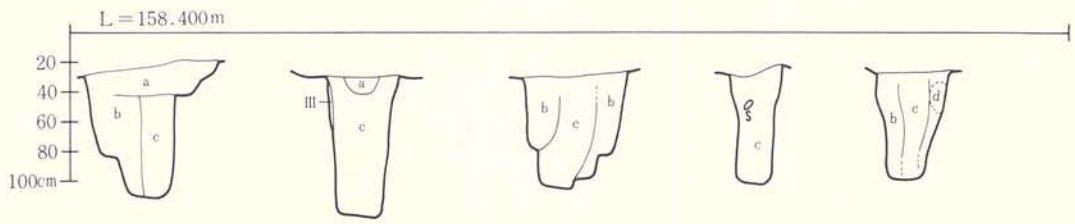
棟の長方形柱穴列が存在する。

新期の長方形柱穴列はP₁・P₂・P₃・P₄・P₅・P₆・P₇・P₈の8個で構成される。平面形の規模は、柱穴の芯芯間距離で計測すると、長辺北側の柱筋で、西より2.10m+2.62m+3.14mの計7.86mである。長辺南側の柱筋で、西から2.42m+2.70m+3.28mの計8.40mである。短辺は、西から3.78m+3.78m+3.88m+3.74mである。長辺と短辺は全体的に直交せず、90°±5°前後歪んでいる。柱穴の平面形は円形を呈し、底部径の平均は35×32cmである。検出面からの深さは、平均82cmである。埋土は、炭化物や浮石の混じる暗褐色土である。柱穴群内は中央部が比較的平坦であるが、全体的に北東から南西方向に傾斜し、高低差は30cmある。

旧期の長方形柱穴列はP₉・P₁₀・P₁₁・P₁₂・P₁₃・P₁₄・P₁₅・P₁₆の8個で構成される。規模は、長辺北側で、西より(2.52m)+(2.86m)+2.84mの計8.22mである。長辺南側で、2.52m+2.96m+2.96mの計8.44mである。短辺は、西から4.20m+3.92(4.36m)+4.38m+4.52mである。長辺と短辺はほぼ直交している。柱穴の平面形は円形を呈し、底部径の平均は28×

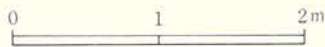


第10図 南柱穴群



南柱穴群

- a 7.5Y R4/4 褐色 焼土混入。ややしまる。粘性弱。
- a' 7.5Y R4/4 褐色 炭化物混入。
- b 10Y R3/4 暗褐色 黒色土・浮石混じる。しまりなし。粘性弱。
- c 10Y R3/4 暗褐色 炭化物・浮石混じる。しまりなし。粘性弱。
- c' 10Y R3/4 暗褐色 炭化物がcより多い。
- d 10Y R5/6 黄褐色 浮石の多いブロック。
- e 10Y R4/6 褐色 炭化物混じる。しまっている。粘性弱。
- III 10Y R5/8 黄褐色 地山III層。
- IV 10Y R6/8 明黄褐色 地山IV層。



第II図 南柱穴群 (断面)

28cmである。検出面からの深さの平均は73cmである。埋土は新期のものと同じである。床面は新期のものと殆ど共通である。床面から検出された6基の焼土遺構は、長方形柱穴列に付属するものと思われる。この中でRIV-1、RIV-3、QV-1は新期に、RIV-2、RIV-4、QV-2、RIV-3の一部は旧期に付属するものと思われる。

上記の長方形柱穴列の南側の柱穴配置は不明である。

遺物 柱穴埋土や焼土周囲の埋土から土器や土器片・石器が少量得られている。

土器 (第25図32；写真図版20-32)

32は平縁の深鉢である。口縁部は内わんぎみに外傾し、胴部は中央付近がやや膨らむ。底部は上底風である。口縁部の文様帯は連続刻み施文された縦・横の粘土帯で4分割されて、その間には平行沈線と鋸歯状沈線が施文される。地文は両端を結節したLRを胴部上位以下間隔をおいて縦方向に連続回転している。

土器片 (写真図版22-35~48、23-49~59)

35~45は柱穴埋土から、46~55は焼土の周囲から出土している。35~39・46~51・55・57・59は口縁部破片、それ以外は頸部付近または胴部の破片である。35は口縁部に8本の平行沈線が巡り、下位には粘土帯が巡る。粘土帯はLの側面圧痕が連続して施文される。胴部は一端に結節を作るLRを間隔をおいて縦方向に連続回転施文している。36は口縁部に縦位の平行沈線が連続施文され、頸部には太い沈線が巡っている。地文はLR・RL(結束第1種・羽状)を頸部以下横方向に回転施文している。37は平行沈線が巡り、間には波状沈線も施文されている。38は波頂部に「の」字状の粘土帯が貼り付けられている。39は複合口縁で蕨状の粘土帯が貼り付けられている。40は横位の平行沈線の間に斜位の沈線や棒状工具の押圧施文が施されている。43は竹管による細い平行沈線が縦位と斜位に施文される。45は上位に平行沈線が巡る。

47は口縁部・胴部とも剥落している。頸部に鋸歯状の平行沈線が巡る。48は波頂部下位に「x」字状の隆起がある。口頸部に平行沈線と小波状の沈線が巡る。49~51・55は複合口縁で、50は頸部に篋状工具の斜位連続刺突が巡り、51は平行沈線が巡る。53はかなり摩滅しているが竹管による細い平行沈線が斜位に施文されている。56は頸部付近の破片で隆帯上には篋状工具で連続押圧施文される。57は口縁部に隆帯が巡り篋状工具で連続押圧される。58は上位に円周に平行と鋸歯状の平行沈線が施文される。59は口唇部が肥厚し、内側に沈線が巡る。

石器 (第32図76~第34図95；写真図版29-87~90、30-91~95、33-76・77~35)

磨石9点、凹石1点、磨製石斧1点、石錐1点、石鎌2点、削搔器6点が出土している。

76・77・79・81~86は磨石である。76は偏平な棒状礫を素材とし、平らな1面と1縁辺に磨面を形成している。縁辺の一部には敲打痕がある。77・79・81・83~85は横断面三角形の棒状礫を素材として縁辺に磨面を形成している。81は平らな面の一部にも磨痕がある。81・83・85

の磨面の下には敲打痕がある。82は丸餅状の礫の表裏に磨面が形成されている。縁辺の一部は破損している。86は偏平な棒状礫を素材とし縁辺に磨面が形成される。磨面の下位には敲打痕が残っている。

78は磨製石斧で、刃部は破損している。

80は凹石で偏平な楕円形の礫を素材とし、表裏2面と両側縁に擂鉢状のくぼみが形成されている。

87は棒状で基部が少し広がる石錐である。錐部の先端は破損している。横断面形は菱形状を呈している。

88・89は石鏃で、双方とも凹基である。89の調整加工はそれほど丁寧ではない。

90～95は削搔器である。90・94・95は1縁辺に片刃の刃部加工が施されている。91～93は縁辺の一部に不規則な刃部や刃こぼれ状の小剥離がある。

3. 焼土遺構

焼土遺構は、段丘面の北縁と南縁付近で19基検出された。19基中18基は柱穴群内の検出面上に位置しており、焼土遺構は柱穴群（長方形柱穴列）に付属するものと考えられる。焼土遺構周辺の出土遺物は柱穴群のところで一緒に述べた。

F VIII焼土遺構（第12図；写真図版8）

北斜面の道路際に位置し、近くにはF VIII埋設土器がある。この焼土の広がり是不整な楕円形を呈し、規模は径90×66cm、厚さは4cmである。床面のような平坦面や柱穴、周溝は検出されていない。

G VI焼土遺構（第12図；写真図版8）

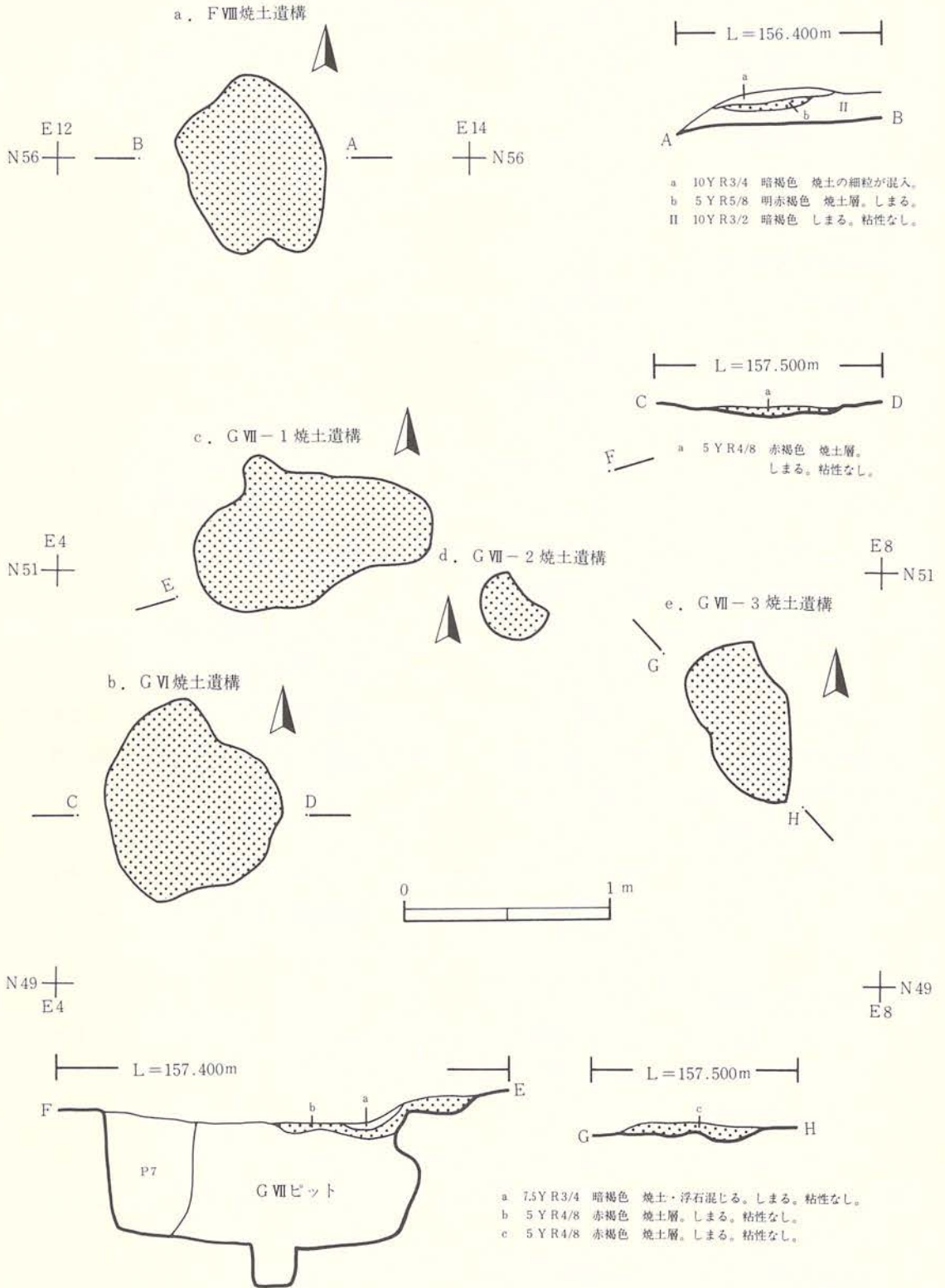
段丘北縁に位置し、周辺にはG VIIピットやH VIIピットがある。焼土の広がり是不整円形を呈し、規模は径98×86cmである。厚さは3cm程度であるが、堅く焼けている。焼土の周辺は平坦で堅く床面状となっている。この焼土を囲む柱穴はP₁₅・P₁₈・P₁₉・P₉・P₈・P₁などである。

G VII-1 焼土遺構（第12図）

段丘北縁に位置し、G VI焼土の北側からG VIIピット上面に載る。焼土の広がり是不整楕円形を呈し、規模は径116×68cmである。厚さは6cm前後である。焼土形成面のレベルはピット上面で10～15cmほど下がっている。焼土の西側や南側は平坦であるが、北側は低くなっている。この付近には、耕作によって攪乱された貼り床面が僅かに残っている。この焼土遺構を囲む柱穴は前記のG VI焼土と同じである。

G VII-2 焼土遺構（第12図）

段丘北縁に位置し、G VII-1 焼土遺構とG VII-3 焼土遺構の中間付近にある。焼土の広がり是不整楕円形状を呈し、規模は34×26cm・厚さは痕跡程度である。



第12図 焼土遺構(I)

G VII—3 焼土遺構 (第12図; 写真図版 8)

段丘北縁に位置し、周辺にはG VIIピットやH VII埋設土器がある。焼土の広がり是不整楕円形を呈し、規模は径80×44cmである。厚さは5～8cmであるがやや軟質である。この焼土の一端は柱穴P₁₀によって切られている。周辺の柱穴には、P₇・P₈・P₉・P₁₁・P₁₂・P₁₈・P₁₉・P₂₁などがある。

H VII焼土遺構 (第13図)

段丘北縁に位置し、1m北東にはH VIII—1 焼土遺構がある。焼土の広がり是不整形を呈し、規模は92×54cm・厚さは痕跡程度である。

H VIII—1 焼土遺構 (第13図; 写真図版 8)

段丘北縁に位置し、周辺にはH VII焼土遺構やH VIII—2 焼土遺構などがある。この焼土は長方形柱穴列の中にある。焼土の広がりは楕円形を呈し、規模は径84×74cmである。厚さは5cm前後であるが焼土層は堅くしまっている。この焼土の北端付近で焼土下位から柱穴P₂₉が検出された。この付近は耕作による攪乱があり10cm前後の凹凸がある。

H VIII—2 焼土遺構 (第13図; 写真図版 8)

段丘北縁に位置し、H VIII—1 焼土遺構の東側にある。この焼土は長方形柱穴列の中にある。焼土は東西方向に細長く分布しており、幅は10～20cm・長さ60cm前後である。焼土の厚さは10cmである。柱穴P₃₁は焼土の北側を切っている。また焼土下位から柱穴P₃₂が検出された。この付近は耕作による攪乱が大きく、この遺構の南に位置するI VIII 1～3 焼土遺構は残存状況不良であり断面実測は不可能であった。

I VIII—1 焼土遺構 (第13図)

段丘北縁に位置し、北東側にI VIII—2 焼土遺構がある。また周囲には北柱穴群がある。焼土の広がり是不整楕円形を呈し、規模は径102×76cm・厚さは痕跡程度で耕作によりかなり攪乱されている。

I VIII—2 焼土遺構 (第13図)

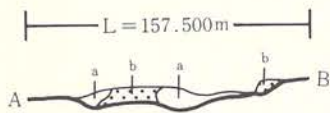
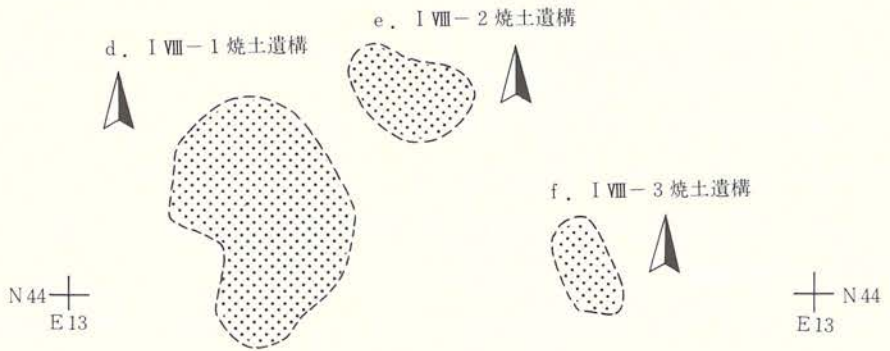
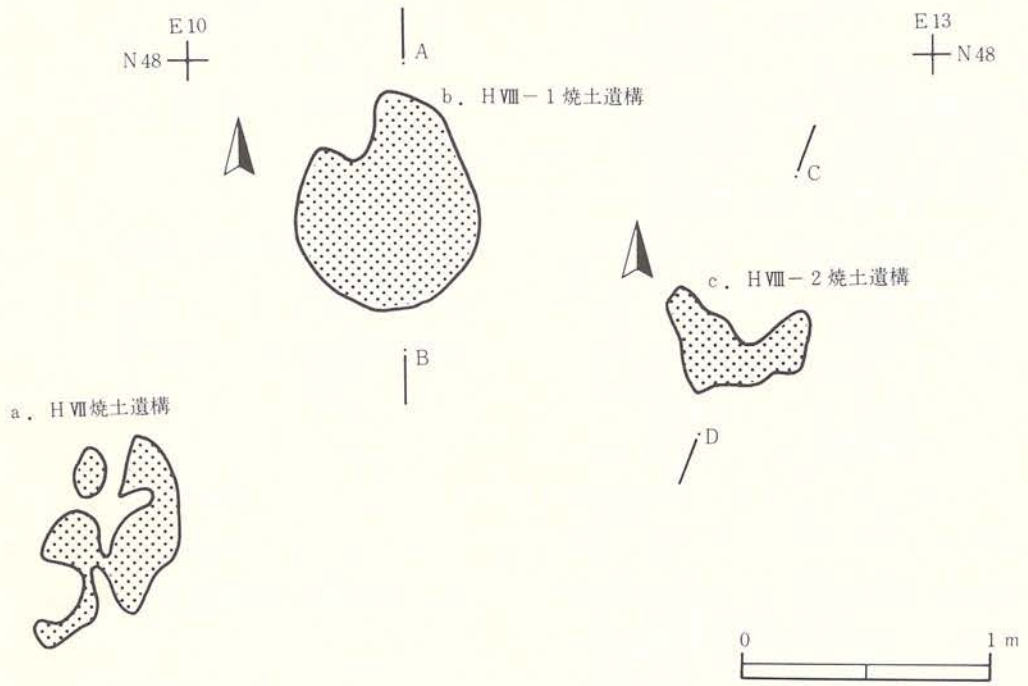
段丘北縁に位置し、I VIII—1 焼土遺構の北東にある。焼土の広がりは楕円形状を呈し、規模は径50×34cm・厚さは痕跡程度で耕作によりかなり攪乱されている。

I VIII—3 焼土遺構 (第13図)

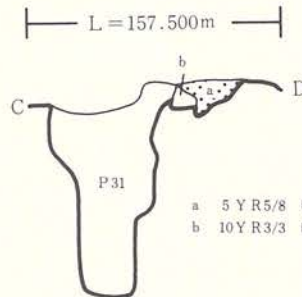
段丘北縁に位置し、I VIII—1 焼土遺構、I VIII—2 焼土遺構とともに北柱穴群の南東端付近にある。焼土の広がりは楕円形状を呈し、規模は42×23cm・厚さは痕跡程度で耕作によりかなり攪乱されている。

P III焼土遺構 (第14図; 写真図版 8)

この焼土は、段丘面南縁に近いP III柱穴群の中にある。焼土は西側の範囲外まで広がってい



- a 5 Y R 4 / 8 赤褐色 攪乱層。焼土混入。しまる。
 b 5 Y R 5 / 8 明赤褐色 焼土層。堅くしまる。



- a 5 Y R 5 / 8 明赤褐色 焼土層。しまる。
 b 10 Y R 3 / 3 暗褐色 攪乱層。

第13図 焼土遺構(2)

る。規模は南北方向で96cmである。焼土は堅く締り厚さは最大8cmである。焼土の北東部はPⅣピットに切られている。焼土周辺は平坦な床面状となっている。

QⅤ-1 焼土遺構 (第14図; 写真図版8)

この焼土は南柱穴群の長方形柱穴列の中にある。焼土形成範囲の規模は、東西最大150cm・南北最大134cmである。焼土の厚さは最大15cmあり中央ほど厚くなっている。柱穴P₁₉が焼土を僅かに切っている。また焼土下位から柱穴P₂₀が検出された。付近の検出面は北側が10cmほど高くなっている。

QⅤ-2 焼土遺構 (第14図; 写真図版9)

この焼土も南柱穴群の長方形柱穴列の中にある。PⅤピットによって南側を切られているが、焼土の広がり是不整楕円形を呈する。規模は径120×95cmである。焼土の厚さは北側で4cm、南側で6cmであり、中央部は攪乱を受け痕跡だけである。付近の床面には攪乱による凹凸がある。

RⅣ-1 焼土遺構 (第14図; 写真図版9)

この焼土も南柱穴群の長方形柱穴列の中にある。焼土の広がり是不整ながら楕円形に近く、規模は径106×76cmである。焼土の厚さは最大10cmである。焼土上面は耕作によって溝状に攪乱されている。焼土周辺は平坦な床面である。

RⅣ-2 焼土遺構 (第15図; 写真図版9)

この焼土も南柱穴群の長方形柱穴列の中にある。焼土の広がりは台形に近い。長さは最大54cm、幅は45cmである。焼土の厚さは5cmである。焼土上面や周辺は耕作によってかなり攪乱されている。この付近から長方形柱穴列南西角にかけて検出面の傾きが大きくなっている。

RⅣ-3 焼土遺構 (第15図; 写真図版9)

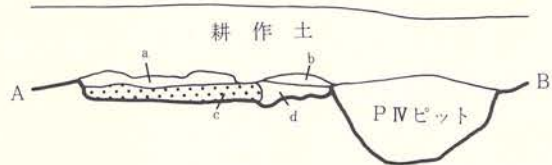
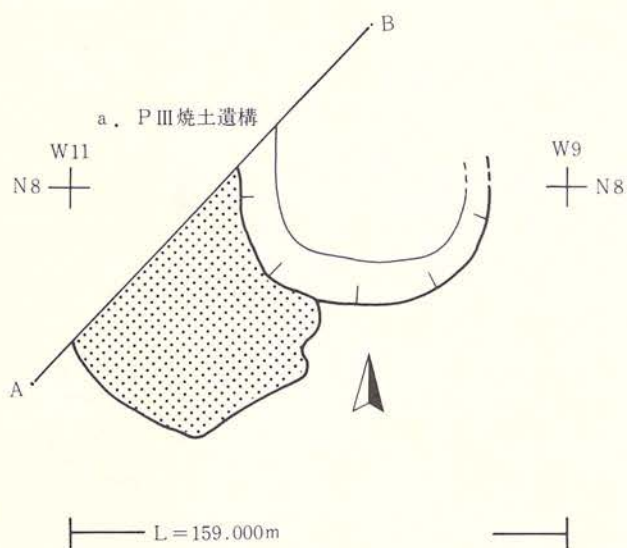
この焼土も南柱穴群の長方形柱穴列の中にある。この焼土は柱穴群の中央付近に位置し、当初RⅣ-4 焼土付近まで広がっていたが、精査を続けるうちに二つの焼土遺構であることが判明した。焼土上面はかなり攪乱されているため、分布範囲は不整であるが本来直径2m前後の円形であろう。焼土の厚さは中央付近で最大10cmである。周辺の検出面は比較的平坦であるが北側から柱穴の間はしだいに高くなる。

RⅣ-4 焼土遺構 (第15図; 写真図版10)

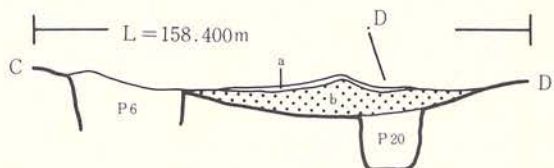
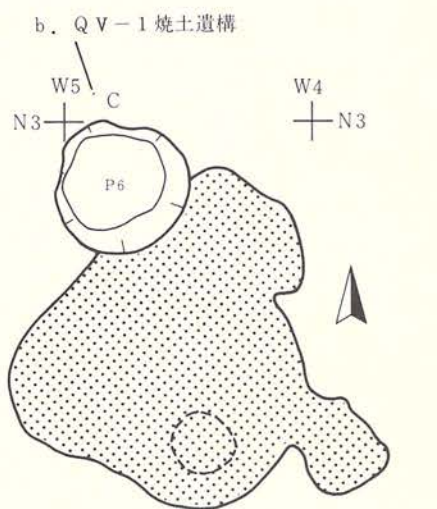
この焼土も南柱穴群の長方形柱穴列の中にある。この焼土は、RⅣ-3 焼土遺構中に5~10cm下位の面から検出された。焼土の広がり是不整楕円形を呈し、規模は径130×90cmである。焼土の厚さは最大5cmである。柱穴P₆・P₂₅は焼土を切っている。P₂₆は焼土下位から検出された。周辺の床面は北東から南西に緩く傾き、レベル差は最大10cmである。

RⅣ-5 焼土遺構 (第15図; 写真図版9)

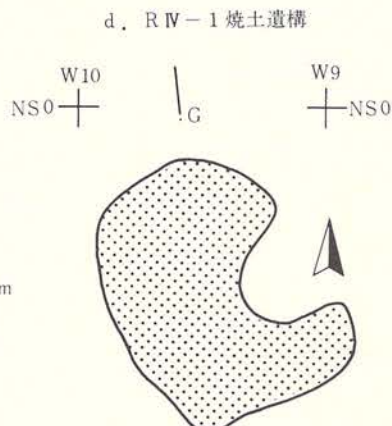
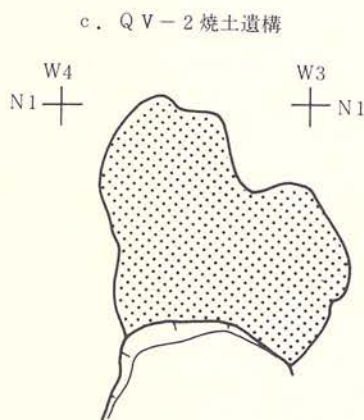
この焼土は南柱穴群の南端道路際に位置する。焼土は南北に長く分布しており、長さ2m、



- a 10Y R3/3 暗褐色 耕作による攪乱。黒色土混入。
- b 10Y R3/4 暗褐色 耕作による攪乱。焼土混入。
- c 2.5Y R4/8 赤褐色 焼土層。堅くしまる。dはcの攪乱層。



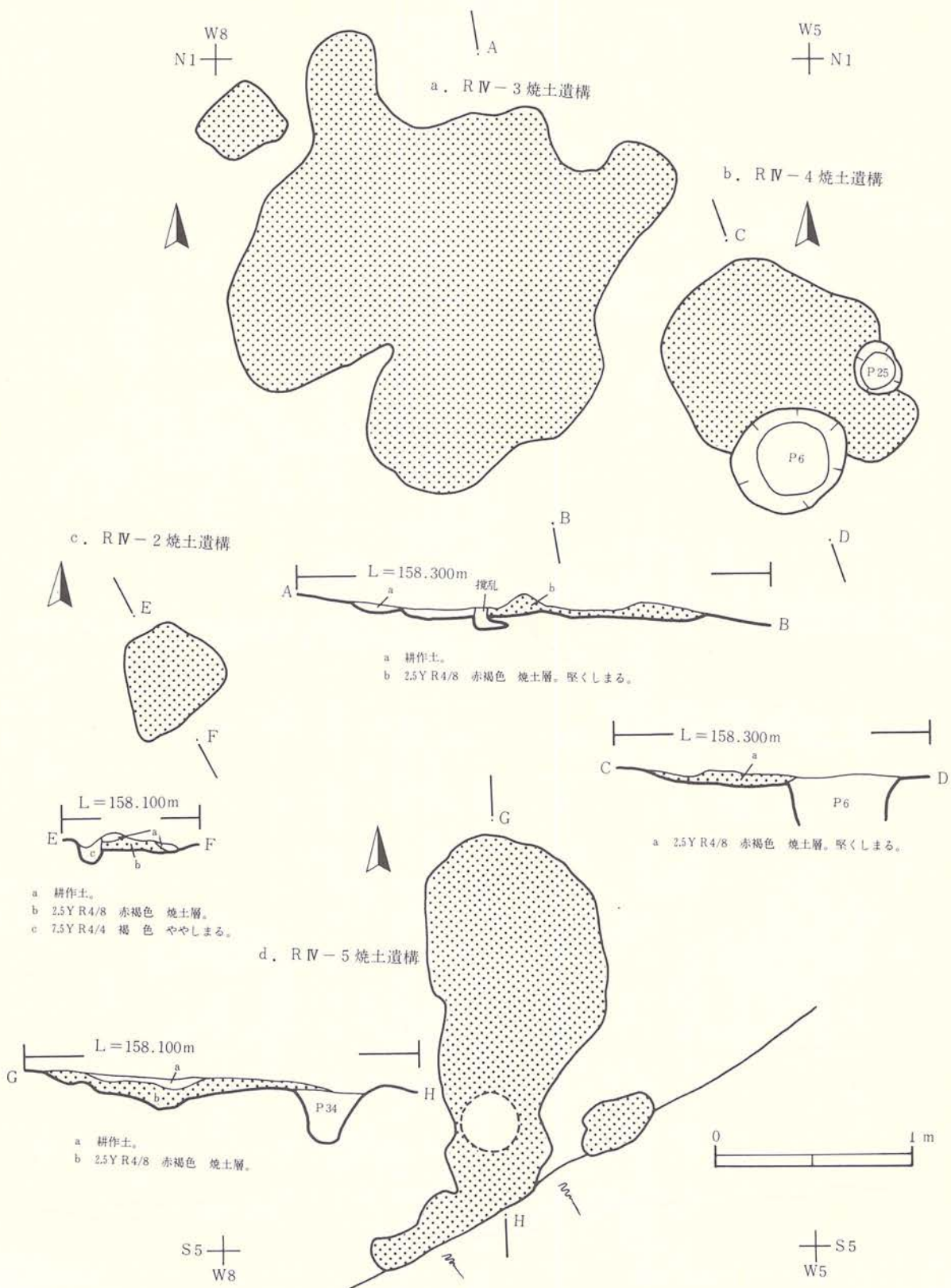
- a bの攪乱層。
- b 2.5Y R4/8 赤褐色 焼土層。



- a 2.5Y R4/8 赤褐色 焼土層。堅くしまる。

- a 2.5Y R4/8 赤褐色 焼土層。堅くしまる。
- b 7.5Y R4/4 褐色 ややしまる。粘性なし。

第14図 焼土遺構(3)



第15図 焼土遺構(4)

幅40～90cmである。焼土の厚さは最大12cmである。焼土下位には柱穴P₃₄がある。周辺の検出面は南ほど低くなっている。周辺には数個の柱穴があるが配置は不明である。

4. 埋設土器

埋設土器は段丘面の北縁に2箇所、北斜面に1箇所検出されている。北縁のうちの1箇所は北柱穴群中に位置する。

FⅧ埋設土器（第16図；写真図版10）

北斜面に位置し、北東1mにはFⅧ焼土がある。Ⅲ層の黄褐色土を少し掘り下げて深鉢形土器の下位部分を埋設している。埋設土器の一部は、土器片が内側にも二重に巡っており、遺物の破損によるものと思われる。埋土は土器内外ともに粘性が無く、締った暗褐色土で構成されているが、土器内の方がやや暗い色調を呈している。

埋設土器の周囲には床面や柱穴、周溝等住居跡らしい施設は検出されず、また焼土遺構等他の遺構との関係も不明である。

遺物（第25図35；写真図版20—35）

35は深鉢で胴下位～底部が残存している。植木鉢状の胴部形態を呈すと思われる。無文である。

HⅦ埋設土器（第16図；写真図版10）

段丘北縁・北柱穴群に位置し、HⅦピットの東に近接している。地山Ⅲ層のパミス混りの褐色土を掘り込み、口縁部を欠く深鉢形土器を埋設している。埋土は土器内外ともにやや締り、粘性のない暗褐色土で構成され、外の方には炭化物がごくまばらに混入する。柱穴群との関係は不明である。

遺物（第25図36；写真図版20—36）

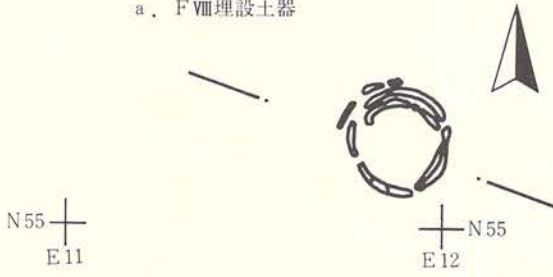
36は深鉢の胴部～底部で、やや膨らむようである。地文はLRを横方向に回転施文しているが下位は無文である。底部にはアンペラ痕がある。

HⅧ埋設土器（第16図；写真図版10）

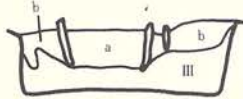
段丘北縁に位置し、北柱穴群の北東にある。Ⅲ層の褐色土を掘り込んで底部を欠損する深鉢形土器を埋設している。埋土は、土器内はパミスや黒褐色土の混入する締り・粘性ともない褐色土で形成される。土器外は炭化物が混入し粘性・締りともない黒褐色土で構成される。また土器の外側には円礫が1点あり、周囲にわずかであるが焼土層が形成されている。炉として使用された可能性もある。

土器埋設炉と仮定するとP₁₄・P₂₂・P₃₃等が支柱穴となって住居跡が形成されたと思われる。4本目の東側の柱穴は道路の切り通し工事で消失したと思われる。炉を中心にした周辺の柱穴

a. F VIII埋設土器

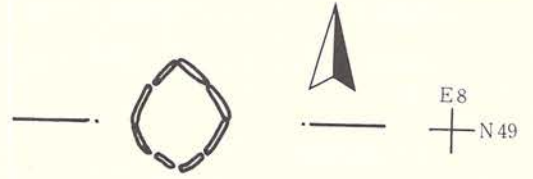


L = 156.600m

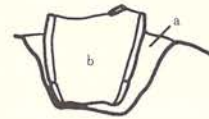


- a 10Y R3/3 暗褐色 しまる。粘性なし。
- b 10Y R3/4 暗褐色 しまる。粘性なし。
- III 10Y R5/8 黄褐色 しまる。粘性微弱。

b. H VII埋設土器

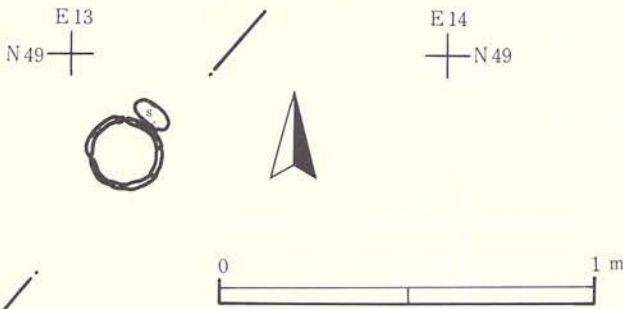


L = 157.700m

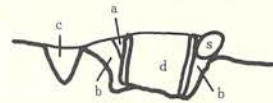


- a 10Y R3/4 暗褐色
- b 10Y R3/4 暗褐色 炭化物混入。

c. H VIII埋設土器



L = 157.500m



- a 5Y R5/8 明赤褐色 焼土。
- b 10Y R4/6 褐色 しまる。粘性なし。
- c 10Y R3/4 暗褐色 しまる。粘性なし。
- d 10Y R3/3 暗褐色 しまる。粘性なし。

N48
E13

N48
E14

第16図 埋設土器

付近とのレベル差は最大15cm位あり、南西から北東側に緩く傾斜している。

遺物（第25図37；写真図版20—37）

37は平縁の深鉢で胴部下位は欠損している。口縁部はやや外反し、胴部もやや膨らむ。全体に摩滅しているが、口縁部は無文、胴部の一部には単軸絡条体Lが縦方向に回転施文されている。

5. ピット

段丘北縁から段丘南縁にかけて20基のピットが検出された。これらのピットは、埋土が基本土層I層（耕作土）で構成されるものと、基本土層II層（遺物包含層）に近いものとに二分される。前者は中央部から南斜面にかけて規則的に分布し、後者は段丘北縁や南縁を中心に不規則に分布する。規則的に分布するピットは、J VII・L VII・M VII・O VII・P VI・O V・P V—2・R V・P IV・Q III・S IIIの11基である。これらのピットは、東西南北方向に7.5m間隔に分布している。平面形は円形を呈し、規模は、開口部径90～100cm、深さは25～35cmである。スコップと思われる工具痕がみられるピットもある。埋土はすべて黒褐色の耕作土である。これらのピットは戦後の開拓以降の耕作に伴うものであろうが具体的なことは現地で確認できなかった。埋土が基本土層I層で構成されるピットについては、個々の記述は省略する。

G VIIピット（第17図；写真図版11）

段丘北縁に位置し、北柱穴群の中にあるG VII—1 焼土遺構の下位から検出された。このピットの上部は柱穴群の床面付近である。またピット東壁付近は柱穴P₇によって切られている。このため平面形は楕円形に近いが、本来は円形であったと推定される。開口部が崩落しているが断面形はフラスコ形であったと思われる。底面は丸底気味であり、中央付近に直径24cm・深さ21cmの副穴がある。埋土は、焼土遺構や柱穴部分を除くと5層に細分され、上位から褐色、暗褐色、黄褐色、にぶい黄褐色、灰黄色の土層で構成されている。規模は、開口部径150×110cm・底部径136×120cm・深さ56cmである。出土遺物はない。

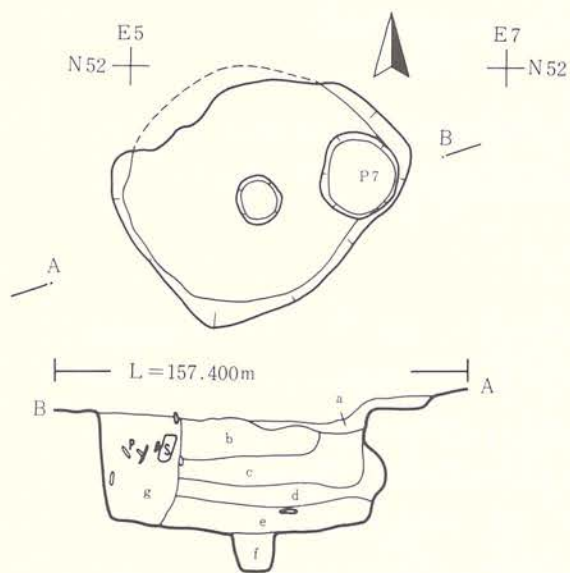
H VIIピット（第17図）

段丘北縁に位置し、G VIIピットの南に隣接している。このピットは北柱穴群の柱穴P₁₈・P₁₉を精査中に検出された。このピットの東壁付近には柱穴P₂₀が、西壁付近には柱穴P₁₈・P₁₉がある。時期的には、ピットの方が柱穴より古い。平面形は円形に近い。断面実測は省略したが、壁は直壁に近い。底面はほぼ平坦である。規模は、開口部径（100）×90cm・底部径（104）×96cm・深さ40cmである。出土遺物はない。

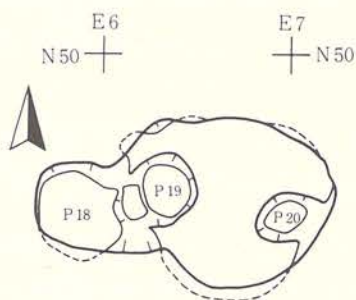
N VI—1ピット（第18図；写真図版11）

段丘中央付近に位置し、O VピットとO VIIピットの間にある。平面形は楕円形である。断面形をみると、壁は直立した立ち上がりを示す。底面はほぼ平坦である。埋土は暗褐色の単一土

a. GⅦピット

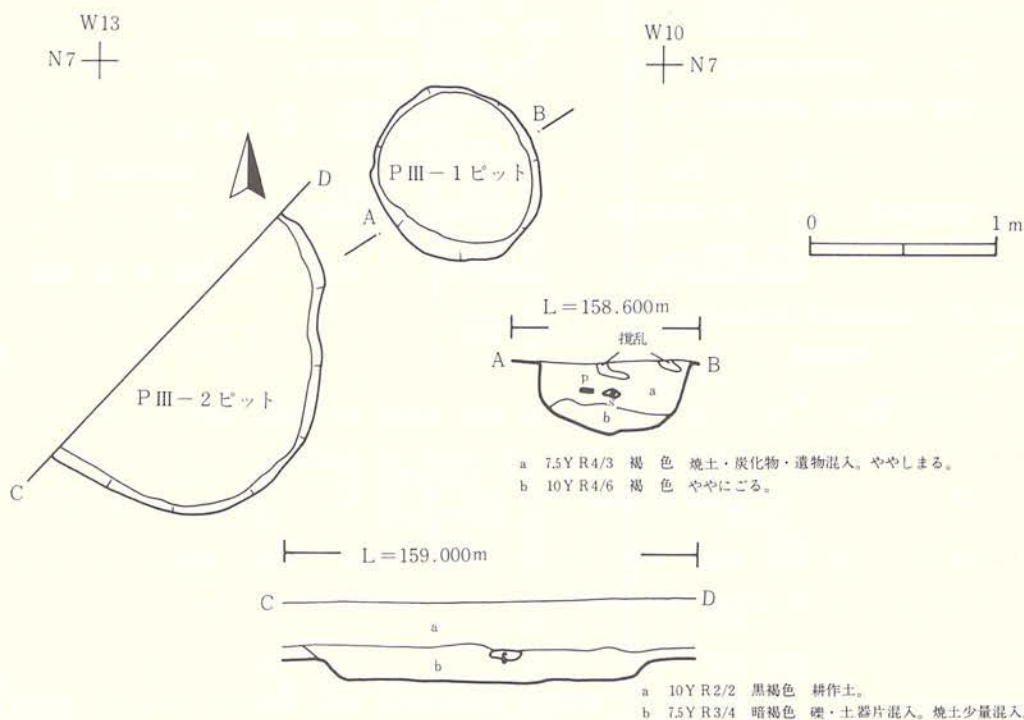


b. HⅦピット



- a 5 Y R 4/8 赤褐色 GⅦ-1 焼土断面の焼土層。
- b 10 Y R 4/6 褐色 炭化物・浮石混入。しまる。粘性弱。
- c 10 Y R 3/3 暗褐色 色調以外はbに同じ。
- d 10 Y R 5/6 黄褐色 浮石少量混入。しまる。粘性微弱。
- e 10 Y R 5/4 にふい黄褐色 炭化物・浮石混入。粘性なし。
- f 2.5 Y R 7/2 灰黄色 しまりなし。粘性中。
- g 10 Y R 3/4 暗褐色 遺物混入。炭化物多。しまる。粘性なし。

c. PⅢ-1・2ピット



- a 7.5 Y R 4/3 褐色 焼土・炭化物・遺物混入。ややしまる。
- b 10 Y R 4/6 褐色 ややにごる。

- a 10 Y R 2/2 黒褐色 耕作土。
- b 7.5 Y R 3/4 暗褐色 礫・土器片混入。焼土少量混入。ややしまる。

第17図 ピット(1)

層に近く上位に僅かに耕作土がみられる。規模は、開口部径80×68cm・底部径82×68cm・深さ20cmである。出土遺物はない。

NVI-2ピット (第18図；写真図版11)

段丘中央付近に位置し、MVIIピットとOVIIピットの間にある。平面形は円形である。断面形をみると、西壁付近で直立した立ち上がりを示し、それ以外で外傾する立ち上がりを示す。底面はほぼ平坦である。埋土は黒褐色土と褐色土の混入する土層である。規模は、開口部径72×64cm・底部径54×52cm・深さ26cmである。出土遺物はない。

PIII-1ピット (第17図；写真図版11)

段丘南縁に近いPIII柱穴群の中で検出された。平面形は円形である。断面形をみると、壁は外傾気味の立ち上がりを示す。底面は中央ほど凹む丸底である。埋土は褐色土であり、上位では焼土や遺物が混入している。規模は、開口部径94×84cm・底部径84×76cm・深さ24～36cmである。遺物は細片のため図・写真共に省略する。

PIII-2ピット (第17図)

PIII-1ピット同様PIII柱穴群の中にある。遺構は調査範囲外に広がっている。平面形は円形に近いものと推定される。断面形は皿形である。底面は比較的平坦である。埋土は暗褐色の単一土層である。埋土には、礫・土器片・焼土などが混入している。規模は、開口部径176cm・底部径168cm・深さ10cmである。土器片は細片のため図・写真共に省略する。

PV-1ピット (第18図；写真図版11)

段丘南縁に近く、PIII柱穴群の東側に位置する。平面形は不整ながら楕円形に近い。断面形は皿形である。底面は西より東が僅かに低く、中央付近に径18cm・深さ5～8cmの凹みがある。埋土は3層に細分され、おもに炭化物の混じる褐色土で構成される。規模は、開口部径110×100cm・底部径100×82cm・深さ18～24cmである。

遺物

埋土から土器片と石器が若干出土している。

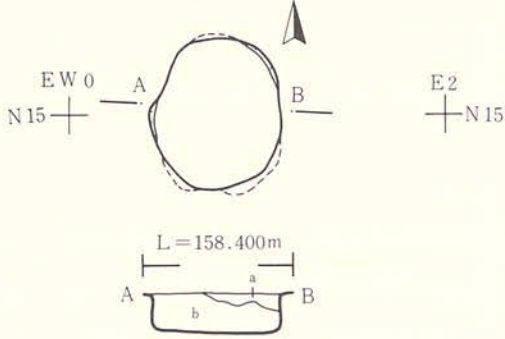
土器片 (写真図版23-60～62)

60は口縁部の破片で他は胴部の破片である。60は波頂部の内外に渦巻状の粘土帯が貼り付けられ、外面の下位には「x」字状の橋状粘土帯が貼り付けられ沈線が施文される。頸部には粘土帯が巡り、粘土帯と口縁部上位は棒状工具で連続刺突される。両者の間には平行沈線が施文され、中位付近は小波状沈線である。

61は一端に結節を作るLRを一定の間隔をあげながら縦方向に連続回転施文しているようである。

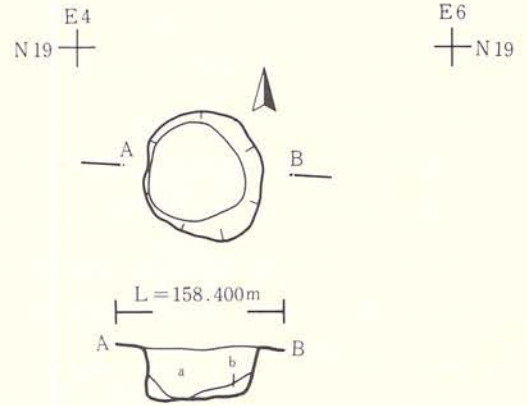
62はRLを横方向に回転施文したようである。

a. NW-1ピット



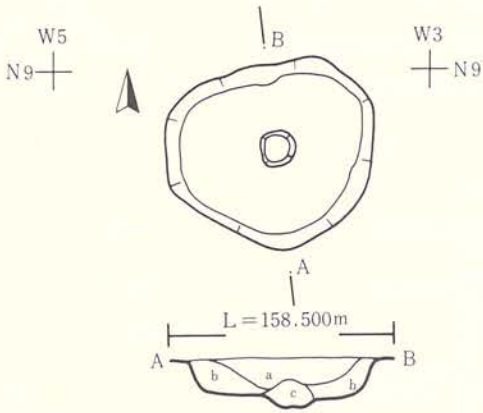
- a 10Y R3/2 黒褐色 褐色土まばらに混入。
- b 10Y R3/3 暗褐色 褐色土・浮石混じる。しまる。

b. NW-2ピット



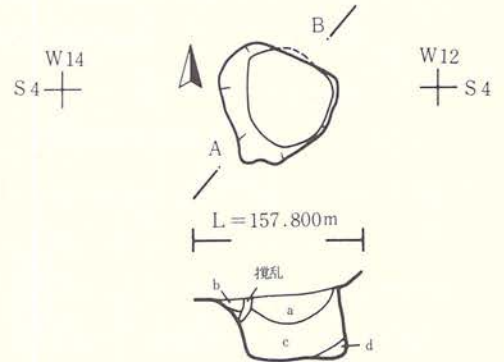
- a 10Y R3/2 黒褐色 褐色土混入。遺物混入。
- b 10Y R4/3 にぶい黄褐色 褐色土と黒色土が混入。

c. PV-1ピット



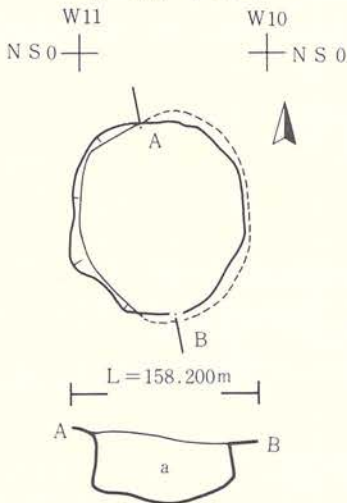
- a 10Y R4/4 褐色 炭化物混入。しまる。粘性なし。
- b 10Y R5/6 黄褐色 少し濁る。ややしまる。粘性弱。
- c 10Y R5/4 にぶい黄褐色 炭化物混入。

d. RIII-1ピット



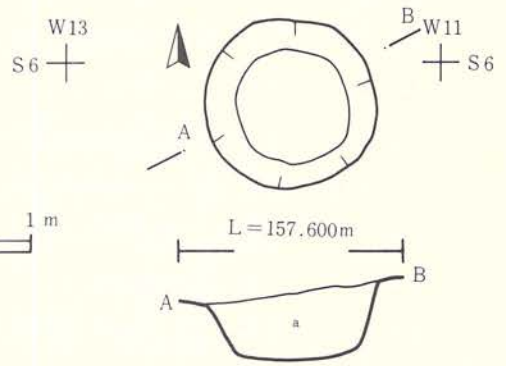
- a 10Y R2/2 黒褐色 遺物少し混入。
- b 10Y R5/8 褐色 しまる。
- c 10Y R3/3 暗褐色 土器片混入。ややしまる。
- d 10Y R3/4 暗褐色 ややしまる。

e. RIII-2ピット



- a 10Y R4/6 褐色 全体にやや濁る。浮石混入。

f. SIIIピット



- a 10Y R2/1 黒色 褐色土のブロック混入。

第18図 ピット(2)

石器（第34図96；写真図版30—96）

96は石匙で、長軸の中央付近につまみ部が形成されている。周縁の調整は両面から行われているが刃部は片刃的である。

R III—1 ピット（第18図；写真図版12）

南斜面に位置し、南柱穴群の西側にある。平面形は不整で隅丸多角形に近い。断面形をみると壁の立ち上がりは北壁付近で内傾するほかは外傾である。底面は平坦である。埋土は、上位は黒褐色、下位は暗褐色である。規模は、開口部径64cm・底部径52×46cm・深さ42～46cmである。

遺物（写真図版23—63）

土器の胴部破片である。細い平行沈線による菱形状の施文がされている。

R III—2 ピット（第18図）

段丘南縁に位置する。南柱穴群西端付近で柱穴検出中に遺構の存在が確認された。平面形は楕円形である。断面形をみると壁は直壁に近い。底は中央が緩く凹む丸底である。埋土は褐色の単一土層である。規模は、開口部径100×90cm・底部径112×90cm・深さ40cmである。出土遺物はない。

6. 陥し穴

段丘中央と北斜面から2基の陥し穴状遺構が検出された。これらの遺構は、形態・規模・配置などに共通点があり、同時期のものと思われる。

E VII陥し穴（第19図；写真図版12）

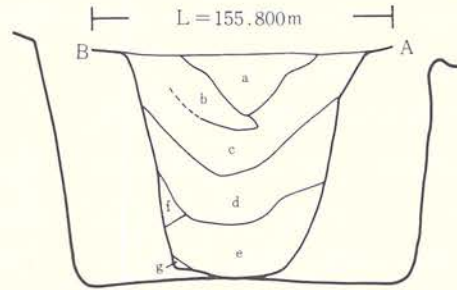
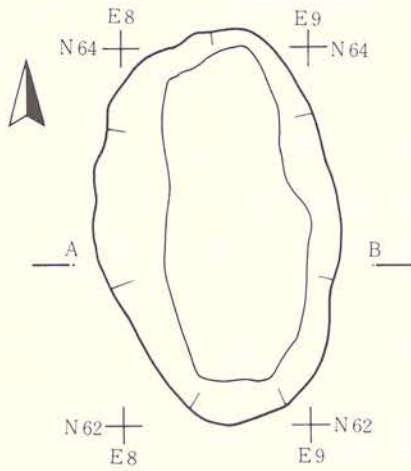
北斜面の道路西側に位置し、北斜面に形成された縄文時代前期末葉～中期前葉の遺物包含層を切って作られている。そのため壁面が脆く遺構上位ほど崩れている。平面形はN—5°—W方向に長軸をもつ楕円形である。断面形をみると、長軸・短軸とも底部よりも開口部が広く、壁は全体的に外傾気味に立ち上がる。底面はほぼ平坦でありレベル差は最大4cmである。埋土は、3層に大別される。上位は黒～黒褐色、下位は遺物を多量に含む暗褐色の土層で構成される。規模は、開口部径210×130cm・底部径175×75cm・深さ110×118cmである。

遺物 土器及び土器片と石器が多数出土している。

土器（第25図33・34；写真図版20—33・34）

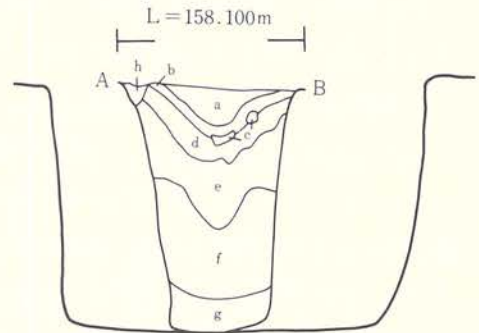
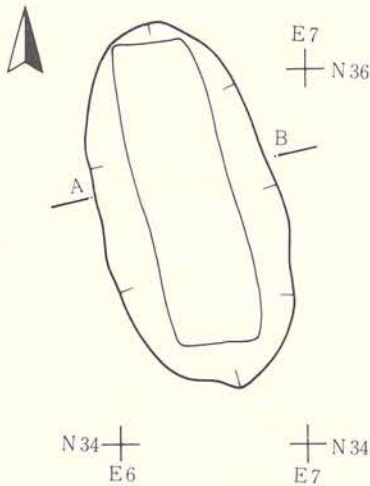
33は深鉢の胴下半で、膨らむようである。地文は両端を結節するLR・RL（結束第1種・羽状）を一定の間隔をおいて縦方向に連続回転施文している。34は平縁の深鉢で口縁部～胴部上位の残存品である。口縁部は外反し、胴部は少し膨らむようである。口縁部の上下端に竹管の連続刺突が巡る。その間に渦巻状と棒状の粘土帯が4分の1周ごとに貼り付けられ、渦巻の貼り付けを囲むように平行沈線による菱形状文が施文されている。

a. E VII 陥し穴

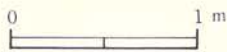


- a 10Y R2/1 黒色 バミス少量混入。しまりなし。粘性なし。
- b 10Y R3/3 暗褐色 バミス少量混入。しまる。粘性なし。
- c 10Y R3/2 黒褐色 炭化物・遺物・礫・バミス混入。しまりなし。粘性なし。
- d 10Y R3/4 暗褐色 遺物包含層。ややしまる。粘性弱。
- e 10Y R3/4 暗褐色 dより暗い。
- f 10Y R2/1 黒色 しまりなし。粘性なし。
- g 10Y R4/4 褐色 砂質。

b. J VII 陥し穴



- a 10Y R2/2 黒色 植物根混入。しまりなし。粘性なし。
- b 10Y R3/2 黒褐色 火山灰少量混入。ややしまる。粘性なし。
- c 2.5Y R6/6 明黄褐色 砂質火山灰のブロック。
- d 10Y R3/3 暗褐色 浮石混入。しまる。粘性弱。
- e 10Y R2/3 黒褐色 浮石多く混入。しまりなし。粘性弱。
- f 10Y R3/3 暗褐色 浮石と黒褐色土の互層。
- g 10Y R5/6 黄褐色 浮石と粘土のブロック。しまりなし。
- h 10Y R3/3 明褐色 耕作による攪乱。



第19図 陥し穴

土器片（写真図版23—64～68・24—69～74）

64～70・72は口縁部片、71・73は胴部片、74は胴～底部片である。64は複合口縁で肥厚している。口唇部には短い粘土帯、口縁部には渦巻状の粘土帯の貼り付けがある。渦巻文の横には竹管による細い平行沈線が口縁部の上下端に平行に巡り、その間に弧状や鋸歯状の平行沈線が施文される。67は鋸歯状や弧状の沈線が施文される。68は口頸部に平行沈線が巡る。69は口縁部に沈線による長方形区画があり、平行沈線が対角線上に施文される。頸部には平行沈線が巡る。70は弧状の平行沈線が施文されている。71は竹管による細い平行沈線が縦位と斜位に施文されている。72は口縁部の内側に篋状工具の押圧痕がある。73は一端を結節したLRを縦方向に回転施文している。74は一端を結節したLRを縦方向に回転施文しているがかなり摩滅している。底部付近は無文である。

石器（第34図97～101；写真図版30—97～101）

石鏃1点、削搔器2点、石棒1点が出土している。

97は石鏃で、基部が欠損している。両面から丁寧な調整加工が施されている。

98～100は削搔器である。99は1縁辺に両刃的な刃部調整が施され、98・100は縁辺の一部に不規則な剥離が加えられている。

101は石剣と思われる破損品で、両端が欠損している。器面には研磨痕が残る。

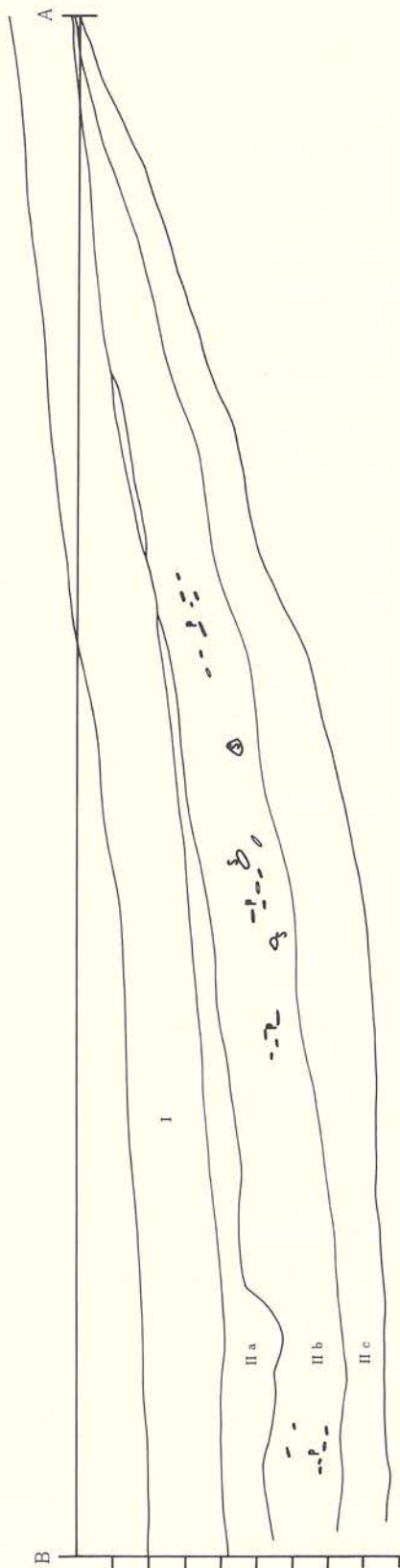
JVII陥し穴（第19図；写真図版12）

段丘中央やや北側、北柱穴群の南側に位置している。平面形はN-16°-W方向に長軸をもち、開口部は楕円形、底部は長方形である。断面形をみると、長軸・短軸とも底部よりも開口部が広く、壁は外傾気味に立ち上がる。底面はほぼ平坦でレベル差は最大6cmである。底面中央付近で雨後に湧水があった。埋土は弓状に落ち込むように堆積しており6層に細分される。上位は黒色・黒褐色、下位は暗褐色・黄褐色の土層で構成される。規模は、開口部径200×96cm・底部径154×50cm・深さ122～130cmである。

遺物包含層（第20図；写真図版13～16）

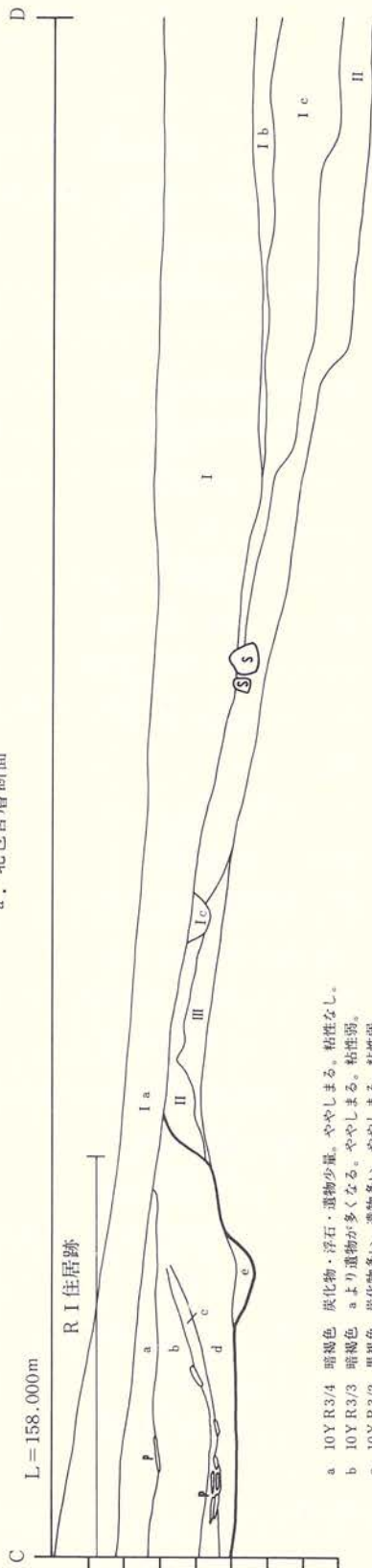
本遺跡の調査地内の北と南の沢状の斜面に遺物包含層が1ヵ所ずつ検出された。遺物包含層を形成しているのは基本土層のII層で、暗褐色を呈し、やや締り、粘性弱である。北側のII層はさらに3層に細分され、その中位のII_b層を主な遺物包含層としている。また南側のII層は細分されないが、住居跡の埋土と連続するようである。これらの遺物包含層から出土する土器は縄文時代前期後葉の大木5式から中期初頭の大木7_a式であるが、包含層中の上下関係で時期の区分は行なえなかった。

北包含層の範囲は調査地内に納まるが、南包含層の範囲は調査地の西側に広がっている。



- I 10Y R2/2 黒褐色 耕作土。
- II a 10Y R2/2 暗褐色 浮石混入、遺物僅かに含む。しまりなし。粘性なし。
- II b 10Y R3/4~4/4 暗褐色~褐色 遺物大量に含む。ややしまる。粘性弱。
- II c 10Y R2/1 黒色 遺物殆どなし。しまりなし。粘性微弱。

a. 北包含層断面



- a 10Y R3/4 暗褐色 炭化物・浮石・遺物少量。ややしまる。粘性なし。
- b 10Y R3/3 暗褐色 aより遺物が少なくなる。ややしまる。粘性弱。
- c 10Y R3/2 黒褐色 炭化物多い。遺物多い。ややしまる。粘性弱。
- d 10Y R3/3 暗褐色 炭化物・浮石・遺物混じる。かなりしまる。粘性弱。
- e 10Y R3/4 暗褐色 炭化物まばらに混じる。しまりなし。粘性弱。
- I a 10Y R2/2 黒褐色 耕作土。
- I b 10Y R3/1 黒褐色 浮石少量混入。しまりなし。粘性なし。
- I c 10Y R2/1 黒色 浮石少量混入。しまりなし。粘性なし。
- II 10Y R3/4 暗褐色 浮石・遺物が混入。ややしまる。粘性弱。
- III 10Y R5/6 黄褐色 浮石少量混入。

b. 南包含層断面

第20図 遺物包含層断面

7. 土 器

本遺跡では遺物包含層から多量の土器が出土した。遺構に供伴する遺物もあるが埋設土器以外はすべて埋土からの出土である。また遺物包含層から得られた土器も層位的な区分を行える出土状況とは言えない。そこで実測図を作成した土器のうち219点について出土層位に関係なく分類した。始めに器形・器種で四つに大別し、さらに形状や施文を基準として細分した。

なお図版中の土器のうち幾つかは遺構伴出遺物の実測図を重複して使用している。それらの土器の写真は遺構伴出土器の頁にだけ掲載している。復元・実測のできなかった土器片の一部は写真図版に断面図とともに掲載した。また個々の土器及び土器片の形状や施文については土器観察表・土器片観察表に記載した。

〈器形・器種〉

深鉢A 頸部が明瞭でないもの、植木鉢状や円筒状の土器群である。

深鉢B 頸部のくびれが明瞭なもの。

深鉢C 胴部上半は球状に膨らみ、下半は台状を呈するもの。

浅鉢D 最大径が器高の1.5倍以上あるもの。

〈深鉢A〉(第35～49図；写真図版36～43)

明瞭な頸部を持たない土器群で、器形は植木鉢状・朝顔花状・やや膨らむ円筒状・植木鉢状の口縁部が内わんするもの等があるが、施文の特徴等で以下のように16類に分けた。

- 1類 4単位の波状口縁で波頂部に有孔円盤状の貼り付けがなされるもの(1・2)。口縁部にも地文の残るものが多い。
- 2類 粘土紐を鋸歯状や梯子状に貼り付けたもの(3～5・7)。口縁部から胴部まで地文が連続施文され、さらに粘土帯を貼り巡らしたものもある。地文は単軸絡条体の回転施文である。
- 3類 口縁部に山形の貼り付けがなされたもの(9)。
- 4類 太い沈線による鋸歯状の施文がなされるもの(10～12)。文様帯内には地文がなく、胴部文様帯は羽状縄文や結節縄文等少し装飾的である。
- 5類 竹管による細い平行沈線が胴部中位付近まで及ぶもの(13～15)。文様は胴部中位までのものと下位まで及ぶものがある。また平行沈線の他に篋状工具の連続刺突や押圧も見られる。口縁部文様帯には地文の残るものと残らないものがある。
- 6類 口縁部が肥厚し、胴部上位に竹管による細い平行沈線施文のあるもの(16～21)。肥厚口

縁には篋状工具の連続刺突施文が加えられるものもある。

7類 文様帯に平行沈線や小波状の沈線による施文が巡るもの(22~28)。口縁部に弧状や「の」字状の粘土帯が貼り付けられるものもある。

8類 文様帯に縄文原体の側面圧痕が巡っているもの(29~31)。

9類 縦横数本ずつ平行沈線を口縁部文様帯に施文するもの(32~35)。平行沈線は4単位ずつのことが多い。地文はそれほど装飾的ではない。

10類 口縁部文様帯の下位に粘土帯が巡り胴部と区別され、文様帯の施文が単純なもの(36~45)。粘土帯は篋状工具等で連続刺突や押圧施文されることが多い。地文は結節や羽状の縄文が多い。文様帯は平行沈線や小波状沈線で構成され、ボタン状の粘土塊の貼り付けや連続刻み施文等を伴うものもある。

11類 10類よりも文様帯の施文が複雑になるもの(46~50)。渦巻状や弧状の平行沈線と小波状の沈線が繰り返し施文されるものが多い。

12類 口縁部に縦位の粘土紐を貼り付けるもの(51~55・57)。文様帯は四つに分割されることが多い。11類と同様に文様はやや複雑なものが多い。地文は結節縄文等で装飾的である。

13類 口縁部に粘土帯の貼り付けや押圧等が少し施され、単純で控えめな施文のもの(56・58・61)。口縁部には地文が残らない。

14類 13類同様に控えめな施文だが口縁部に地文の残るもの(62~68・70~72)。地文は結節縄文等で装飾的でもある。

15類 植木鉢状の器形をして、単軸絡条体回転文を主とした地文だけのもの(6・8・79・80・82・87~93)。口縁部に粘土帯や瘤状の貼り付けのある6・8もこの類に含めた。

16類 15類以外で地文だけ施文されたもの(69・73~78・81・83~86)。

これら16類の土器の相当する時期は以下のようにと思われる。

1~3類 — 大木5式	4類 — 大木5~6式
5・6類 — 大木6式	7~12類 — 大木7 _a 式
13・14・16類 — 大木6~7 _a 式	15類 — 大木5式

〈深鉢B〉(第50~65図；写真図版44~51)

頸部が明瞭な土器群である。次の16類に分けた。

1類 胴部上位に沈線による鋸歯状文が施文されるもの(94)。口縁部にも地文が施文される。

2類 竹管による細い平行沈線施文が胴部中位付近まで及ぶもの(96~107)。口頸部には地文がなく、ボタン状の粘土塊や粘土帯の貼り付け、竹管の連続刺突施文等も加わる。施文の範囲は胴部中位までのものと下位付近まで続くものがある。

- 3類 竹管による細い平行沈線施文が頸部～胴部上位に波状に巡るもの(108～110)。平行沈線の他に粘土帯の貼り付けや竹管の連続刺突施文も加わる。
- 4類 竹管の押し引きによる施文がなされたもの(111・112)。
- 5類 平行沈線を主とした施文が口頸部に巡るもの(113～133)。平行沈線には弧状や山形のものもある。また波状の沈線や竹管の押し引き文、瘤状粘土塊や粘土帯が貼り付けられるものもある。地文も結節縄文や羽状縄文等装飾的なものが多い。117は胴部が球状に膨らむようでもあり、深鉢C3類の可能性もある。
- 6類 5類同様平行沈線を主とするが施文が複雑なもの(134～144)。渦巻文や弧状の平行沈線文・連続菱形文等の組み合わせが多く、粘土塊の貼り付けや篋状工具の押圧も加わる。
- 7類 縦・横数本ずつの平行沈線で文様帯を区分するもの(145～147)。竹管の連続刺突を伴うものもある。
- 8類 縄文原体の側面圧痕を7類同様に、口頸部に数本ずつ縦・横交互に巡らしたもの(148・149)。
- 9類 頸部には粘土帯が巡り、口縁部文様帯は組紐の側面圧痕で施文されるもの(150)。粘土帯には篋状工具による連続刺突や押圧が施文される。
- 10類 頸部に粘土帯が巡り、口縁部文様帯と胴部の地文が区画されるもの(151～154)。粘土帯は篋状工具で連続刺突施文され、口縁部に弧状の粘土帯が貼り付けられるものもある。
- 11類 口縁部に縦位の粘土帯の貼り付けが加わるもの(155～165)。文様帯が四分分割されることが多い。平行沈線や波状の沈線、竹管の連続刺突による施文が多い。頸部に粘土帯が巡らず、口縁部にも地文が残るものもある(162・165)。
- 12類 口唇部から口縁部にかけて「8」字状や3本単位の粘土帯が貼り付けられたもの(166～168)。それ以外の施文は少ない。
- 13類 口頸部に「x」字状の粘土帯が貼り付けられたもの(169)。12類同様控えめな施文である。
- 14類 肥厚口縁に斜位の沈線が施文されたもの(170)。13・14類同様控えめな施文である。
- 15類 口縁部まで地文が施文され、頸部に粘土帯が巡るもの(171)。
- 16類 地文だけのもの(172～182)。口縁部が無文で、地文は結節縄文等装飾的になるものもある(175・179・181)。

これら16類の土器の相当する時期は以下のようにと思われる。

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| 1類 — 大木5式 | 2～4類 — 大木6式 |
| 5～13類 — 大木7 _a 式 | 14・15類 — 大木6～7式 |
| 16類 — 大木5—7 _a 式 | |

〈深鉢C〉（第65～69図；写真図版51～54）

胴部上半が球状を下半が台状を呈するものである。以下の8類に分けた。

- 1類 2類以下に比べて細身な器形を呈しているもの（95・183・184・186）。粘土紐の鋸歯状貼り付けや鋸歯状の沈線、竹管による細い平行沈線で波状や鋸歯状に施文される。
- 2類 胴部上位が器高に比べ幅広の形状を呈し、胴部中位付近まで文様が施文されるもの（185～195）。竹管による細い平行沈線が主で、竹管の押し引きや連続刺突、細い粘土紐の貼り付けによる施文もある。文様帯は胴部中位までのものと下位まで及ぶものがある。
- 3類 口縁部が肥厚し、口頸部に平行沈線や連続刺突施文がなされるもの（196～198）。
- 4類 口縁部に装飾突起や粘土帯の貼り付けがなされたもの（199～206・208）。地文は結節や羽状の縄文となり装飾的になっている。
- 5類 口縁部にも地文が施文され、ボタン状の粘土塊が貼り付けされるもの（207）。
- 6類 口縁部に刻みを伴う粘土帯が巡るもの（210）。地文は結節縄文で装飾的である。
- 7類 地文だけのもの（209・211・212）。器形は1類に似るものと2類に似るものがある。
- 8類 胴部下位だけの残存なので上部の施文が不明なもの（213～215）。器形は1類に似るものと2類に似ると思われるものがある。

これら8類の土器の相当する時期は以下のように思われる。

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1類 — 大木5～6式 | 2類 — 大木6式 |
| 3・4類 — 大木7 _a 式 | 5・6類 — 大木6～7 _a 式 |
| 7類 — 大木5～6式 | 8類 — 大木5～7 _a 式 |

〈浅鉢〉（第69図；写真図版54）

浅鉢は4点だけ実測されている。細分すれば1点ずつの分類になってしまうが、口縁部～胴部が内わんぎみに開く1類（216～218）と胴下半が台状になる2類（219）に大別できる。いずれも文様施文がほとんどなされていない。これらの浅鉢の相当する時期は大木6～7_a式と思われる。

〈時期〉

所属時期は各器種の末尾に書いたが整理すると次表のようになる。

また実測図に掲載した土器の各時期ごとの比率は大木5式が10～15%、大木6式が30～35%、大木7_a式が55～60%となる。

和光6区遺跡の土器分類対応表（数字は各器種の類を表わす）

器種 時期	深鉢 A		深鉢 B		深鉢 C		浅鉢
	大木5	1 2 3	4 15	1	16	1	7
大木6	5 6	13 14	2 3 4	14 15	2	5 6	1
大木7a	7 8 9 10 11 12	16	5 6 7 8 9 10 11 12 13		3 4	8	2

〈胎土・焼成〉

胎土に繊維を含む土器は極めて少なく、大木5式～7a式に相当する出土土器全般に粗砂や細礫が含まれている。中には石英粒や雲母を含むものもある。

焼成不良のものが多く、堅く焼き締ったものは少ない。そのため水洗時にも割れ、さらに小さな破片になったものが多い。器表面が摩滅して地文や施文が不明瞭なものもある。時期による焼成の相違は少ないようだが大木6式・7a式の中に焼成良好なものが少量ある。また焼成の関係がどうか不明であるが大木5式の土器に赤味を帯びるものが多い。

〈形態・文様〉

出土土器の大半は深鉢形土器でそれをA・B・Cの3種類の器形に分けたが、その数量比率は主旨A（45%）、B（40%）、C（15%）となる。これは実測図上の数値で全体の数値とは異なると思われるがA型・B型がほぼ同数で、出土土器の8割以上を占めているようである。

また各時期ごとの器形の構成率は、複数の時期にまたがるものを時期ごとに均等に配分して計数し、それぞれの比率をみると下表のようになる。大木5式はA型が73.3%、

各時期の構成率

大木5		大木6		大木7a	
A	73.3	A	40.8	A	38.0
B	8.4	B	35.7	B	50.7
C	18.3	C	23.5	C	11.3
計	100	計	100	計	100

土器実測図構成率

器形	大木5	大木6	大木7a	計	%		
A	18	4	9	30	32	93	43.3
B	4			88		40.9	
	1	17	9	57			
C	3			34		15.8	
	1	6	10	2	12		

B型が8.4%とA型が

かなり多く、植木鉢形土器が圧倒的に多いようである。大木6式ではA型40.8%、B型35.7%と近接した割合になる。大木7a式ではA型38.0%、B型50.7%と頸部のくびれが明瞭な土器の方が多くなる。また、胴部上半は球状に膨らみ下半は台状を呈す深鉢Cの構成率は各時期とも低い、大

木7_a式の時期では他の時期よりさらに低くなっているようである。

文様や施文の特徴は分類の際に大きな要素として扱ったので前述してあるが、各時期の施文の特徴をまとめてみると次のようになる。

大木5式相当と思われるものは鋸歯状や格子状の粘土紐の貼り付け施文が口縁部～胴部に行われたり、横位または縦位の鋸歯状沈線が口縁部～胴部上位に施文されている。地文は単軸絡条体を口縁部以下縦方に回転施文しているものが多く、文様帯にも地文が残る場合が多い。

大木6式相当と思われるものは施文範囲が胴部中位付近まで広がり、中には胴部下位まで及ぶものもある。施文具としては竹管を多用するようで、特に竹管をフォーク状に尖がらして施文したと思われる細い平行沈線による施文が多い。地文はRLやLRの横方向の回転が多い。口縁部にも地文が残るものは少ない。

大木7_a式相当と思われるものは口縁部に文様帯が集結する。頸部に粘土帯が貼り巡らされるものも多い。地文は一端や両端を結節した結節縄文や羽状縄文を文様帯の下位から縦方向に連続回転するものが多く、地文も装飾的になるようである。結節縄文も横の間隔をおいて連続回転したり、四分の一周期だけに別種の地文を施文する例もある。また、口縁部文様帯にも地文が残る例は希である。

分類の時期区分で大木5～6式や大木6～7_a式としたものは、両者の要素があり容易に区分できなかったものである。さらに多くの要素を検討すれば明確な時期区分も可能と思われるが、過渡期にあるものも含まれるようである。

〈施文具〉

土器類の文様や地文の種類が豊富であったので刺突・押圧や沈線施文に用いられた施文具と地文の種類を整理してみた。

① 刺突・押圧

刺突・押圧に用いられた工具は、棒状工具と篋状工具・竹管である。棒状工具と篋状工具の施文痕は工具の太さや幅、器面に対する角度による違いはあるが、前者が円形、後者が長方形を基調としている。竹管は円形竹管と半截竹管、両側から斜めに削ったフォーク状竹管が使用されたようである。半截竹管を器面に対して斜位に施文する場合は竹管の外側と内側の2種の痕跡がある。

また縄文原体の側面圧痕もこの押圧施文に含まれるかもしれない。原体の種類はLやRの一段の撚りが多いが、組紐を使用したものもある。

② 沈線

沈線に用いられた工具は刺突、押圧施文と同様に棒状工具・篋状工具・竹管である。棒状工

具と篋状工具は主に1本引きの沈線に用いられ、竹管は1本引きと平行沈線の双方に用いられている。棒状工具による沈線は、太く、断面が丸味を帯びるものが多い。篋状工具による沈線は幅広のものでは断面が角張っている。竹管では円形竹管や半截竹管の外側で1本引きの沈線が引かれ、半截竹管の内側やフォーク状の竹管で平行沈線が引かれる。フォーク状竹管を使用した沈線の方が細く、深いようである。また半截竹管の先端の両端を交互に支点にして施文したコンパス文もある。1本引きの施文には押し引きしたものもある。篋状工具の沈線にも押し引きしたものがある。

③ 地文

地文は縄文によるものが大半を占め、他に棒状工具・櫛状工具あるいは半截竹管による条痕や格子状の文様が僅かに存在する。このうち縄文の原体は単軸絡条体・多軸絡条体・斜縄文に大別される。単軸絡条体は、縄を一方向に巻いただけのもの、木目状・格子状の3種類がある。斜縄文は無節(L・R)、単節(LR・RL)、複節(RLR)、附加条(RL軸にRを巻く)の種類がある。さらに結束(第1種と第2種がある)による羽状や、一端あるいは両端を結節したものがある。また結節の端の一部を結節部に絡らげて回転させたものや、2本の条をもって反対向きに連続して結節したものを回転させたものもある。

参考文献

- 相原淳一, 1986; 宮城県文化財調査報告書第117集(小梁川遺跡), 宮城県教育委員会。
相原康二・鈴木優子, 1982; 岩手県文化財調査報告書第70集(江釣子村鳩岡崎遺跡), 岩手県教育委員会。
稲野裕介他, 1983; 北上市文化財調査報告書第33集(滝ノ沢遺跡), 北上市教育委員会。
加藤 稔他, 1955; 吹浦遺跡, サイエンス社。
興野義一, 1969; 大木式土器理解のために(V), 考古学ジャーナル32, ニュー・サイエンス社。
興野義一, 1970; 大木式土器理解のために(IV), 考古学ジャーナル48, ニュー・サイエンス社。
草間俊一・相原康二, 1974; 天神カ丘遺跡, 岩手県大迫町教育委員会。
西川博孝, 1983; 竹管文, 縄文文化の研究第5巻 縄文土器III, 雄山閣出版。
及川 洵・遠藤勝博・牛沢百合子, 1979; 太陽台貝塚, 岩手県陸前高田市教育委員会。

8. 土製品 (第70図：写真図版60)

土製品は土偶及び土偶と思われるもの6点と円盤状土製品2点・有孔土製品2点・袖珍土器2点が出土している。これらの遺物はかなり脆弱であったので水溶性アクリル系樹脂（バインダーNo.17）を含浸して補強してある。

1は土偶の上半身である。肩から腕が短く張り出し、腰が締るようで、逆三角形の板状を呈している。頭部と右腕は破損している。胸部には乳房が突起で表わされている。腹部には細い溝が2条貫通している。胎土に細礫や粗砂を含むが表面は丁寧に研磨されている。背部に太い沈線状の施文が右肩付近で交差するように施文されている。

2は土偶と思われる板状の破片である。表裏面とも撚糸を2本ずつ並べて弧状や円状に押圧施文してある。胎土には粗砂を含む。

3は土偶の胴部と思われる板状の破片である。表にはへそと思われるくぼみが作られている。半截竹管によるとと思われる平行沈線が縦位に3単位あり、その中に鋸歯状の沈線が施文されている。裏面は平行沈線による短い弧状文が施文されている。胎土には粗砂や小礫が含まれる。

4は土偶の胴部破片である。腕は肩が張り出した形で表現され、腰は締っている。頭部は破損しているが単なる突起として表現されたようである。表面腹部付近にはへそと思われる突起があり、下位には片側に寄って細い溝が貫通している。1と同様に溝は2つあったようである。表面には細い沈線による不整な平行線が施文され、乳房付近は渦巻状に表現されている。裏面は肩部付近を中心に不整な平行沈線や弧状沈線が施文されている。また側面にも平行沈線が施文されている。胎土には細砂を少量含んでいる。

5は土偶の一部と思われる板状の破片である。一面には半截竹管を連続して押し引きし、菱形状に組み合った施文がなされている。もう一面には半截竹管によるとと思われる平行沈線が縦位に3条とその両側に波状に施文されている。胎土には石英粒や小礫を含む。

6も土偶の一部と思われる板状の破片である。中央付近と端寄りと思われる所に円孔が貫通している。中央の円孔付近には帯状のくぼみがある。表面には太い平行沈線が中央付近に2条あり、その両側に細い平行沈線が波状に、さらに端寄りには直線状に施文されている。裏面には端に寄った部分に太い沈線と細い沈線が不規則に施文されている。胎土には粗砂を含む。

7・8は円盤状土製品である。2点とも土器片を細かく打ち欠いて加工している。表面には縄文が残っている。双方とも胎土に粗砂が含まれている。

9は薄い円盤を縦・横反対方向に反らせ鞍状にした土製品である。中央付近に貫通孔がある。表面は丁寧になでられている。胎土には細砂を少し含む。

10はリング状をした土製品で、幾分ひしゃげている。胎土には粗砂や細礫を含む。

11・12は袖珍土器である。11は台付風の鉢と思われ、台部から胴部下位付近が残存している。12は深鉢形を呈している。口縁部は一部を残して破損している。双方とも無文である。胎土には粗砂を含んでいる。

9. 石器

石器は器種ごとに次の10種類に分類し、各器種ごとに形状や大きさ等でさらに細分した。

- | | | |
|---------|------|-------|
| a 石鏃・石槍 | b 石錐 | c 石匙 |
| d 石筥 | e 石斧 | f 削搔器 |
| g 残核 | h 磨石 | i 凹石 |
| j 石皿・台石 | | |

また石器の計測値や石質・産出地等は一覧表にして別にまとめて掲載した。

a 石鏃・石槍

両面調整による鋭利な先端部を有する槍先形の小型の石器である。基部と鏃身の形態を基準に以下のように分類した。石鏃と石槍は大きさや重量に差違が表われると思うが、中間的なものも少なくないので一緒に扱った。なお、遺構伴出遺物にのみ掲載したもの2点、不掲載のもの1点がある。

1類 基部が直線的なもの

遺物No.1～21・23 (第71図；写真図版61)

二等辺三角形を基本とするものが多く、細長いものと基部が広く正三角形に近いものに分かれる。鏃身の側縁はやや膨らみを持つものが多い。また周縁の剝離が不十分で、加工の途中と思われるものもある。表面に第1次剝離痕を残すものも多い。横断面形は菱形を基本とするようである。縦断面形は楔状を基本とするようであるが、先端が厚くなったものや全体が厚くなったものがある。

石質は硬質泥質凝灰岩と硬質凝灰質泥岩が82.6%を占める。他には粘板岩・玻璃質流紋岩・珪質細粒凝灰岩がある。寸法は長さ21～51mmで平均31.3mm、幅は15～29mmで平均20.8mm、厚さは3～10mmで平均6.5mm、重量は1.2～10.4gで平均5.01gである(破損品を除く)。

2類 基部が凹むもの

遺物No.22・24～64 (第71～73図；写真図版25—10・12、29—88・89、61・62)

基部の凹み部は直線状に近くほとんど抉られていないものから深く抉られたものまでである。抉りの少ないもので1類同様に細長いものは二等辺三角形状、幅広いものは正三角形状を呈している。縁辺は膨らむものも多く、正三角形に近いものほどその傾向がある。側縁の一部がく

びれ、段状になったものもある。

基部の抉入が特に深いものは基部の形状が馬蹄形状になっている。

横断面形は菱形または凸レンズ状を基本とし、縦断面形は楔状を基本とする。全体的に先端部の方が薄い。器面に第一次剝離痕が残るものは少ない。

石質は1類同様に硬質泥質凝灰岩と硬質凝灰質泥岩が多いが合わせて60%と1類よりはやや少な目である。粘板岩と泥岩がそれぞれ12%ずつある。他の石質としては鉄石英や玻璃質流紋岩・珪質細粒凝灰岩・淡緑色珪質細粒凝灰岩がある。

寸法は長さ16～44mmで平均26.7mm、幅12～25mmで平均17.1mm、厚さ2～10mmで平均5.3mmである（破損品は除く）。

重量は0.6～4.9gで平均2.13gである（破損品は除く）。

3類 基部が丸味をおびるもの

遺物No.65～72（第73図；写真図版25—11, 62—65～71）

細長く棒状に近いものから正三角形に近いものまでであるが、いずれも側縁は丸味を帯びている。横断面形は凸レンズ状、縦断面は両端の尖る楔状をなす。器面に第1次剝離痕が残るものが多い。

石質は硬質泥質凝灰岩と硬質凝灰質泥岩が多く、全体の75%を占る。それ以外の石質としては粘板岩と玻璃質流紋岩がある。

寸法は長さ27～43mmで平均36.2mm、幅11～28mmで平均20mm、厚さは4～9mmで平均5.5mmである（破損品は除く）。

重量は1.4～6.5gで平均4.02gであるが破損品には10.4gというものもある。

4類 大型で石槍と思われるもの

遺物No.73～77（第73図；写真図版63）

基部は丸味を帯び、あるいは尖りぎみである。厚いものが多く、中心よりやや下位が最大厚となる。石鏃を大型化しただけの感じのものもあるが尖頭状の石筥的なものもある。

石質は硬質凝灰質泥岩が3点で粘板岩と珪質細粒凝灰岩が各1点である。

寸法は長さ55～81mmで平均69.8mm、幅22～37mmで平均28mm、厚さ9～16mmで平均13.7mmである。重量は14.5～37.8gで平均24.92gである。

5類 有茎のもの

遺物No.78（第73図78；写真図版63—78）

分類	遺構外	遺構伴出	計	割合
1	21	2	23	28.4
2	39	4	43	53.1
3	7	1	8	9.9
4	5		5	6.2
5	1		1	1.2
6		1	1	1.2
計	73	8	81	100

1点だけの出土である。茎部の作り出しはそれほど長くない。横断面形は凸レンズ状を呈し、縦断面形は楔状を呈す。

石質は硬質凝灰質泥岩である。寸法は長さ23mm、幅14mm、厚さ4mm、重量12gである。

6類 破損して形状不明なもの

遺物No.97 (第34図97; 写真図版30-97)

1点だけであるが基部が破損しており形状が不明なものである。遺構(EVII陥し穴)に伴出している。基部が破損しているが、寸法は石槍とならないと思われる。石質は硬質凝灰質泥岩である。

全体としての石質は硬質泥質凝灰岩と硬質凝灰質泥岩が各28点で両者で70%近くを占める。その他には粘板岩8点、玻璃質流紋岩・珪質細粒凝灰岩・珪質泥岩が各5点、鉄石英と淡緑色珪質細粒凝灰岩が各1点である。

b 石 錐

錐の刃部として調整された棒状の尖頭部を有する石器である。当遺跡からは12点出土しており、そのうち2点は遺構に伴出している。手指等による保持のためつまみ状部分の形状や錐部の調整方法等で以下のように分類した。

1類 全面加工による棒状の形態をなすもの

遺物No.1 (第74図; 写真図版29-65)

1点のみの出土である。横断面形は菱形状を呈す。石質は硬質泥質凝灰岩である。

2類 調整の少ないつまみ状の頭部を持ち、鋭利な先端部に錐としての刃部調整を施したものの

遺物No.2~7 (第74図; 写真図版63)

細長い三角形の剥片を使用したものが多い。錐部横断面は菱形または多角形状を呈し、全側縁から調整が施されたものが多い。原材の第1次剥離面を残すものもある。石質は硬質泥質凝灰岩が2点と、粘板岩・硬質凝灰質泥岩・珪質泥岩・玉髓が各1点である。

3類 明瞭に加工されたつまみ状頭部をもち、錐部が相対的に長いもの

遺物No.8~12 (第74図; 写真図版29-87, 63-8~10, 12)

つまみ状の頭部は小さなもの(9~11)と割と幅広いもの(8)、幅・長さともに大きなもの(12)の3種類に分かれる。錐部の横断面形は菱形状を呈するものが多い。

石質は、硬質泥質凝灰岩3点と粘板岩・硬質凝灰質泥岩が各1点である。使用方法は1類は着柄を前提とした手揉み状の使用、2類は手指保持による揉み錐の使用、3類は着柄を前提とした弓錐用と考えられるがつまみ状頭部の特に大きいものは手指保持による使用も可能と思わ

れる。

c 石 匙

石匙は一般につまみ状の小突起を持ち、主として片面からの加撃、押圧剥離による刃部加工がなされた石器である。石匙の形態は縦型・横型などに大別されるが、本遺跡では、1類（縦型のもの）、2類（横型でつまみの位置が剥片の角にあるもの）、3類（横型のものでつまみの位置が中央にあるもの）に大別した。分類は右表のとおりである。不明としたものは破損品で、他の器種の破片の可能性もあるものである。

分類	登録数	比 率	掲載数
1	50	74.6	45
2	5	7.5	4
3	11	16.4	11
不明	1	1.5	0
	67	100	60

1類 遺物No.1～45（第75～77図；写真図版25—13・14，26—17，64—1～67—45）

細長い剥片を使用しているものが多く、長方形または木葉形状のものが多いが、やや幅広い逆三角形状や楕円形状のものもある。本遺跡ではこの1類が最も多い。表裏両面から刃部加工が施されたものも数点ある。破損部は刃部の途中が多い。43はかなり大きな剥片を利用して作られている。剥片には原材の自然面も残り、またつまみ部のつくり出しも表面からだけで完全ではない。44は一見釣針状をしており、表裏両面から調整加工が施されている。

石質は、硬質凝灰質泥岩が17点（34%）と最も多く、珪質細粒凝灰岩10点と硬質泥質凝灰岩8点がそれに続く、その他に鉄石英5点、粘板岩4点、珪質泥岩3点、硬質泥岩3点がある。

2類 遺物No.46～49（第77・78図；写真図版67）

器形は隅丸長方形のもの2点、台形状のもの2点、平行四辺形状のもの1点である。平行四辺形状のものは表裏両面から刃部調整が施されているがつまみ部の形成は不完全である。破損部位は刃部の途中から切損している。石質は、硬質凝灰質泥岩が4点、鉄石英が1点である。

3類 遺物No.50～60（第78図；写真図版67・68）

器形は三角形状または楕円形状を呈すものが多い。刃部調整が表裏両面からなされるものは1・2類よりやや多目である。60は三角形状であるが、つまみ部が少し端に寄り鉤状を呈している。石質は硬質凝灰質泥岩が8点（72.7%）と硬質泥質凝灰岩・鉄石英・粘板岩が各1点である。

まとめ

素材としては縦長の剥片を使用したものが多く、1類の器形が多い。刃部断面は片面調整のものは片刃状、両面調整のものは両刃状となる。また刃部を形成する縁辺部が薄く鋭いほど刃部調整は簡略化されているようである。石質は硬質凝灰質泥岩が28点（41.8%）と多いが鉄石英9点（13.4%）が他の器種と比較して多く使用されているのが注目される。

d 石筥 (第79~82図; 写真図版25-8, 26-18, 28-56~62, 68-1~72-45)

ほぼ左右対称の形態をなし、全面あるいは全周にわたって二次加工が加えられ、先端に刃部を作り出している石器である。平面形は撥形に近く、横断面形が蒲鋒形を呈するものが多い。平面形態で次のように分類し、二次加工の状態や刃部の形状について検討してみた。

平面形態では長さとの幅の比で次の5類に分けた。

- 1類 長幅比<1.5
- 2類 $1.5 \leq$ 長幅比<2.0
- 3類 $2.0 \leq$ 長幅比<3.0
- 4類 $3.0 \leq$ 長幅比
- 5類 破損品

形状 分類	a	b	c	d	計
1類	6	0	1	0	7
2類	4	6	1	1	13
3類	9	7	0	1	17
4類	0	1	0	4	5
5類	2	1	0	0	3
計	21	15	2	6	45

また視覚的な形状としては次の4種類に分けた。

- a. 三角形、 b. 長方形状、 c. 楕円形状、 d. 刃部が尖るもの

これらの分類結果は右上の表のようになる。形状として長幅比が1.5~3で、三角形ないしは長方形状のものが多い。3点ある破損品(5類)も原形は上記の形状に近かったと思われる。楕円形状のものは全体的に少なく2点だけである。刃部の尖るものは長幅比が大きいものに多い。一方二次加工の状態では形状調整が片面調整か両面調整か、刃部調整が片刃的か両刃的か、また刃部の形態は円刃・直刃・直刃ぎみの3種に分けて表にした。

形状調整

分類 調整	1a	1c	2a	2b	2c	2d	3a	3b	3d	4b	4d	5a	5b	計
片面	1	0	4	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	10
両面	5	1	1	5	0	1	6	7	1	1	4	2	1	35

刃部調整

分類 調整	1a	1c	2a	2b	2c	2d	3a	3b	3d	4b	4d	5a	5b	計
片刃	2	1	4	1	1	0	5	1	0	0	0	2	0	17
両刃	4	0	1	5	0	1	4	6	1	1	4	0	1	28

刃部加工

形状 分類	1a	1c	2a	2b	2c	2d	3a	3b	3d	4b	4d	5a	5b	計
円刃	2	1	0	2	1	1	5	0	1	0	3	1	1	18
直刃	1	0	1	1	0	0	1	3	0	0	0	1	0	8
直刃ぎみ	3	0	4	3	0	0	3	4	0	1	1	0	0	19

分類別加工調整状況

分類 調整	片面	両面	計	円刃	直刃	直刃ぎみ	計
1	1	6	7	3	1	3	7
2	6	7	13	4	2	7	13
3	3	14	17	6	4	7	17
4	0	5	5	3	0	2	5
5	0	3	3	2	1	0	3
a	8	14	22	8	4	10	22
b	1	14	15	3	4	8	15
c	1	1	2	2	0	0	2
d	0	6	6	5	0	1	6

形状の調整は片面だけ10点（22.2％）に対し、両面が35点（77.8％）である。刃部の調整は片刃的なもの17点（37.8％）に対し、両刃的なもの28点（62.2％）である。片面だけ調整したものはすべて片刃状であるが、両面調整のものにも7点（20％）ほど片刃状のものがある。刃部の形状は円刃状のものと直刃ぎみのものが同数ほどあり、直刃状のものは20％以下である。直刃状のものは片面調整のものに多い。

石質は硬質凝灰質泥岩が33点（73.3％）と多く、その他には珪質細粒凝灰岩4点、玻璃質流紋岩・珪質泥岩・白色細粒凝灰岩が各2点、硬質泥質凝灰岩・粘板岩各1点がある。

機能としては片刃的なものは削搔器的用途と考え、両刃的なものは削搔器としての機能の他にも用途が考えられる。特に長方形的なものや刃部の尖る形状のものは着柄して打製石斧としての使用も可能と思われる。

e 石斧（第83図～85図；写真図版28—42・59, 29—73, 34—78, 90—1～91—25）

石斧は打製石斧と磨製石斧が出土している。

(1) 打製石斧

2点出土している。1は両面から調整加工が施された打製石斧で、石篋4b類に形態が類似する。長さ123mm・幅34mm・厚さ18mm・重量90gで、石篋と分類したものよりだいぶ大きい。石質は硬質泥質凝灰岩である。2は表採品である。粗雑な調整加工が両面から加えられ、やや扁平な棒状を呈している。自然面も多く残る。石質は硬砂岩である。

(2) 磨製石斧

磨製石斧は24点出土している。横断面の形態で次のように分類した。

- 1類、全体に厚く横断面形が楕円形状のもの。
- 2類、1類よりは薄めで横断面形が隅丸長方形のもの。
- 3類、小型で鑿形を呈しているもの。

1類は15点あり、全体の62％を占める。全体に大型のものが多いようである。19は側縁の一部にすり切り痕が階段状に残っている。

2類は8点あり、側縁が平らに研磨されているので横断面形は隅丸長方形となる。1類より小型のものが多いが、3・17・18のようにやや大型で厚目のものもある。24はだいぶ小型で3類に近いがやや広い。

3類は1点のみである。基端と刃部の一部が破損している。鑿のような使用による結果の破損かどうかはわからない。

24点のうち破損品は19点で、全体の79％が破損していることになる。それだけ消耗の激しい器種だったようであるが、その割には磨製石斧の出土数が少ないようである。

(石斧集計表)

分類	完形	破損	計
1	4	11	15
2	1	7	8
3	0	19	24
計	5	19	24

石質は淡緑色珪質細粒凝灰岩が12点と出土数の50%を占める。他の石質では花崗閃緑岩・淡緑色砂質凝灰岩が各3点、粘板岩・粘板岩ホルンフェルスが各2点、濃緑色角礫凝灰岩・緑色凝灰岩が各1点である。

f 削搔器 (第86～99図；写真図版26～30, 72～89)

a～e以外の剥片石器を一括して削搔器としたが、刃部加工の状況等で以下のように分類した。遺物の登録数は363点であるが、掲載した石器は246点である。なおこの中には遺構伴出遺物図版にのみ掲載した29点も含まれる。

A類 両面から刃部加工が施され、両刃的刃部が形成されているもの。

B類 片面から刃部加工が施され、片刃的刃部が形成されているもの。

C類 周縁に部分的または不規則な刃部が形成されているもの。

A類は2つ以上の縁辺に刃部加工が施されているものが多い。尖った一端を中心に剥離加工が施されたもの(A1類)と縁辺を主に剥離加工が施されたもの(A2類)とに分けられる。A1類は剥離面が器面全体に及ぶものが多く、尖頭器的な形状を呈している。A2類は剥離面が縁辺部だけに限られているものが多い。

B類は刃部加工の施された縁辺が1辺のみのもの(B1類)と2辺以上の縁辺に刃部加工が施されたもの(B2類)とに分けられる。B1類は更に刃部加工された縁辺の形状が直線的なもの(a)と凸辺的なもの(b)、凹辺的なもの(c)とに分けること

ができる。B2類では刃部が隣接した縁辺に連続して形成されているものが多い。刃部の形成された縁辺の形状は凸辺的なものと直線的あるいは凹辺的なものの組み合わせが多い。またほぼ全周縁に刃部加工が及ぶものや表裏の別々の縁辺に刃部加工が施されたものもある。

C類はB類に類似し明確な刃部加工が施されているものもあるが、1縁辺の端から端まで刃部が形成されていない。不規則・不連続な刃部加工の他に、刃こぼれ状の剥離が連続するものもある。また215・216は上下両辺に階段状の剥離が施されており、楔形を呈している。

これらの剥片石器の石質は硬質凝灰質泥岩や珪質凝灰質泥岩・硬質泥質凝灰岩等が多く、他に鉄石英や粘板岩・玻璃質流紋岩等がある。

分類	掲載	未掲載	計
A1	11	6	17
A2	38	16	54
B1a	19	2	21
B1b	38	13	51
B1c	12	0	12
B2	53	28	81
C	75	53	128
計	246	118	364

g 残核 (第100～103図；写真図版92～96)

残核は37点出土しているが、中には4・14・17等のように剥片と思われるものもある。大きさはまちまちで重量6～600gまでである。石質は硬質凝灰質泥岩が14点、鉄石英6点、珪質凝灰

質泥岩が各5点、玻璃質流紋岩が3点、粘板岩と白色細粒凝灰岩が各2点である。

h 磨石 (第104~113図; 写真図版32-49・50, 33-76, 34-82, 97~103)

自然礫を素材として、その縁辺または平面を研磨に用いたため、その使用痕が研磨面として残っている石器である。棒状の自然礫を素材として縁辺に研磨面を持つもの(1類)と、楕円形状の礫の表裏面に研磨面をもつもの(2類)とに大別される。

1類は横断面形が三角形に近いもの(a)と長方形に近いもの(b)とに細分され、(a)は磨面が広がったために横断面形が台形状になったものもある。また素材の横断面形が楕円形に近いものも(a)に含めた。幅と厚さの比はそれほど大きくならない。(b)は半円形または楕円形の板状のものが多い。(a)・(b)ともに磨面に重複する敲打痕がある。敲打痕

器種分類による破損率

分類	完形品	破損品	計	破損率%
1a	10	45	55	81.8
1b	10	13	23	56.5
2a	15	3	18	16.7
2b	5	0	5	0
計	42	39	101	58.4

痕はいずれも磨面が形成される以前のものである。また(b)の方が敲打痕が多く認められる。また磨面は1縁辺にのみ形成されたものが多いが、(a)には2縁辺に形成されたものも少しある。ごく少量であるが3縁辺に研磨面が形成されたものもある。(b)の中には44・50・55のように表裏面の一部に敲打によるくぼみが形成されたものもある。

2類は平面形が円形に近いもの(a)と長目の楕円形状のもの(b)がある。(a)は表裏面に研磨面が形成されているものが多いが、(b)は一面と一縁辺あるいは縁辺の一部だけが研磨されている。敲打痕はくぼみ石からの転用品を除くと見られない。破損の割合は表のように棒状の器種(1類)の方が大きく、1a類81.8%、1b類56.5%

を示す。2類は破損品が少ないが、2a類に3点(16.7%)の破損品がある。これらの破損率の違いは形状による要因が大きいこともあるが、研磨面の下位に敲打痕が多く存在していることも要因の一つとして重要と思われる。また1類と2類では研磨面の形状が異なり、敲打痕と共に使用法に相違があったと考えられる。

石質と基種分類

石質No.	1a	1b	2a	2b	計
13	1				1
17	5	9			14
18	27	8	14	5	54
19	7	2			9
20	7	4			11
21	8		4		12
計	55	25	18	5	101

石質は表のように輝石安山岩が54点(53.5%)と多く、次いで緑色凝灰岩14点、両輝石安山岩12点、プロピライト11点、石英安山岩9点、花崗閃緑岩1点がある。1、2類とも輝石安山岩が多いが、1類の方が石質が豊富である。

i 凹石 (第114・115図; 写真図版31-1, 33-53・55, 34-80, 103~105)

敲打による擂鉢状のくぼみを有する石器である。平面形は円形ないしは楕円形状を呈するものが多いが、隅丸三角形のものもある。横断面形は隅丸長方形ないしは薄い楕円形状を呈している。擂鉢状のくぼみは複数個隣接して形成されていることが多く、中央部に1個だけのくぼみは少ない。磨石から転用されたため、磨面の残る例もある。また7のように周縁が磨石として利用されたものもある。くぼみの深さは5mm前後のものが多い。

大きさは長さ76mm・幅61mm・厚さ34mm・重量180gから長さ113mm・幅107mm・厚さ69mm・重量1,060gまでである。完形品のうち長さは100~120mmのものが16点(64%)、幅では75~100mmのものが21点(84%)、厚さでは31~50mmのものが19点(79.1%)を占めており、それぞれ平均値に近い値を示している。重量は400~720gのものが19点(86.4%)を占めている。石質は輝石安山岩20点(80%)が最多で、次いで両輝石安山岩4点・花崗閃緑岩1点がある。

j 石皿・台石類 (第116~119図; 写真図版106~109)

石皿あるいは台石類は27点出土している。盤状を呈し、横断面形は隅丸長方形ないしは台形状、平面形は不整形のものが多い。磨面はそれほどくぼまず、ツルツルしているものが多いが、遺物包含層以外から出土したものはプラウ耕作による傷痕が多く付いている。重量は5~30kgであるが10kg以上の物が多い。石質は全て両輝石安山岩である。

石皿・台石類は遺跡内の道路沿いや畑の傍にも多く見られ、耕作中にプラウに引っ掛かり除去されたものも多かったようである。

10. 石製品 (第120~122図; 写真図版110~112)

石製品としては棒状のもの・円盤状のもの・石錘・塊状耳飾等が含まれている。

1~4は薄い板状に加工され、両平面は研磨されている。3・4の側縁の一部には敲打による調整加工がなされている。5~12は石剣または石刀の破損品と思われる。これらの石製品の石質は粘板岩7点、凝灰質粘板岩4点、千枚岩1点である。

13~24は板状で周縁も研磨加工が施されている。平面形は円盤状のものが多いが、台形状のものや隅丸長方形のものもある。23・24には孔が開けられている。石質はすべて浮石である。

25~27は塊状耳飾である。25は破損品を補修して使用していたようである。27にも補修孔があるが他の破片は見受けられない。製作工程として25・27は一文字に擦り切った後、中央をほぼ円形に擦り切っており、26は先に中央を円形に擦り切ったようである。石質は3点とも石膏と鑑定された。

28~32は石錘である。平たく楕円形の自然礫を素材として、結縛用のくぼみを長軸あるいは

短軸の両端に施してある。重さは85～105 gが4点と190 gが1点である。石質は輝石安山岩と両輝石安山岩である。

33と34は石棒の破損品と思われる。石質によるとと思われる自然のくぼみは残るが表面は丁寧に研磨されている。34の一部は火熱を受け赤変している。石質は2点とも石英安山岩である。

35は円柱状の石器で一端は敲打により鋭角ぎみになっている。重量が1,680 gあるので、その重量を利用した敲打使用が考えられる。石質は両輝石安山岩である。

36は平たい楕円形状の礫の側縁に片刃状の粗い刃部加工が施され、一部は両刃状になっている。削搔器としての機能を有していると思われる。石質は輝石安山岩である。

IV 若干の考察とまとめ

〈遺 構〉

① 時 期

本遺跡で検出された遺構は前述のように住居跡2棟、柱穴群3ヵ所、焼土遺構19、埋設土器3、ピット20基、陥し穴2基である。これらの遺構の所属時期は以下になるとと思われる。

住居跡は2棟とも南の遺物包含層の下位に検出され、その埋土は遺物包含層と連続していた。伴出遺物は大木6式～7_a式の時期のもので、遺物包含層を構成している土器の時期もほぼ同様であった。これらのことから住居跡の時期は大木6式～7_a式期と思われる。

柱穴群は3ヵ所とも伴出遺物は少ないが、大木6式～7_a式の時期と思われる。また焼土遺構や埋設土器は柱穴群と何らかの関係を持って存在していたようで、出土遺物の時期もほぼ同様である。

ピットの中で11基はかなり新しく、現代のものと思われ、残り9基が縄文時代と思われる。ピットの伴出遺物はきわめて少ないが、後者の9基のピットも大木6式～7_a式の時期に相当するようである。

陥し穴は2基とも形状・規模が類似しており、同時期のものと思われる。一方の陥し穴は北の遺物包含層を掘り込んで構築されているので、埋土の伴出遺物（大木5式～7_a式）よりも新しい時期で、住居跡や柱穴群とは共存していないようである。

② 柱穴群

これまで柱穴群として取り扱ってきたが、柱痕跡の残るものは少なく、むしろ柱穴状ピットとした方がよかったかもしれない。しかし柱穴群の項（P24）で述べたように細く深いものが多く、柱穴と呼ぶのが最もふさわしい状況であった。その配置から何種類かの大型の長方形の建物が重複して建てられていたことが予想される。同時に検出された焼土遺構は柱穴群に伴

う地床炉と考えられ、焼土の一部は大型の耕作機械ブラウで破損しているので、床面と同レベルあるいはそれ以下まで耕作時に破壊され、壁があったとしてもその痕跡は残らなかったと思われる。伴出遺物が少ない原因の1つにこの耕作時の破壊があるようで、畑の縁から検出された石皿・台石類と磨石等がこの建物の中で使用されていた可能性がある。

長方形の配置を示す柱穴群が検出された同時代の遺跡としては、北上市滝ノ沢遺跡や紫波町西田遺跡等がある。滝ノ沢遺跡は出土遺物の時期も和光6区遺跡とほぼ同じで、柱穴群中に炉跡もある。西田遺跡は和光6区遺跡よりも少し新しい時期であるが、長方形の柱穴列が多数検出されている。焼土を伴う例は少なく、むしろ墓壙との関係から宗教的意味あいのある遺構と位置づけられているようである。

また、壁のある竪穴住居跡では、江釣子村鳩岡崎遺跡や雫石町塩ヶ森遺跡で検出された大型住居跡が類似するのかもしれない。

いずれにしてもこの柱穴群は岩手県内陸部から日本海側の遺跡に多く検出されている大型住居跡の一形態の可能性があるとと言えるようである。

③ 遺構配置

検出された遺構は2基の陥し穴と新しい11基のピットを除くとほぼ同時期のものと思われる。調査範囲は遺跡のごく一部であるが、これら同時期と思われる遺構の配置にはいくつかの特徴がある。

遺構配置図（P15～16）で見られるように丘陵の北縁と南縁に遺構が集中しており、丘陵中央部付近には遺構がないようである。

遺物の出土状況も前述のように北と南の沢状の斜面に形成された遺物包含層から大半の遺物が出土し、丘陵中央付近からはLVII区から器高73cmの大型の深鉢が得られたのみである。この大型深鉢は横位になり土圧で押し潰された状態で検出され、中央付近をブラウの耕作痕が縦位に通過し、その部分は欠損していた。この土器が棺として使用された可能性もあるが、墓壙と思われるような掘り込みは認められなかった。

また、ここまで丘陵として説明してきたが、地形概観の項でも述べたように南北幅100～150m、東西の長さ約700mの小段丘上に立地する遺跡であり、調査地の西側150mは一段高い永沢丘陵となっており、そこにも縄文時代の遺物が分布している。東の方はどこまで遺構が広がるか明確ではないが、調査地と西の丘陵との間付近を中心として楕円形状または細長く広がるような集落が営まれ、その集落は広場を中心として柱穴群・住居跡・ピットがそれを囲むように配置し、南北の沢状の斜面には遺物包含層が形成されていたのかもしれない。

〈遺物〉

① 土器

本遺跡から出土した土器は分類の項に引き続いて、器形や施文の特徴・構成比率についても整理しておいた。しかし、今回の発掘調査で出土した遺物だけで、主要な遺物出土地である北と南の遺物包含層の規模や時期差は比較できない。北の遺物包含層の範囲は調査地内に収まるが、南の遺物包含層は調査地の西側にも広がっている。そのため出土遺物の総量は現段階では北の方が南の約3倍（復元土器の比もほぼ同じ）になっているが、これをもとに双方の遺物包含層の規模を比較することはできない。

ただ、出土遺物の時期構成を見ると、いくらか違いがある。例えば大木5式相当と思われる土器のほとんどが北の遺物包含層出土で、南の遺物包含層には1点あるのみである。大木6式・7_a式の土器は南北両方の遺物包含層ともほぼ同様な構成で増加している。このことから北の遺物包含層の方がやや古くから形成され始めたという推測もできる。

② 石器

本遺跡から出土した石器の石質や数量は集計表のとおりであるが、その他にも多量の剥片が得られている。

石器の中で剥片石器、特に石鏃や石錐等小型の石器は耕作土の表面から採集したものが多く、礫石器類の多くは遺物包含層から出土している。また、石皿・台石類は畑の縁に寄せられた形でも出土し、プラウで削られた傷痕が付いている。小型の剥片石器は耕作土中にも相当含まれていたと思われ、土壌の水洗選別や篩い通しを行えば遺物の回収量も増加したであろう。石皿・台石類は柱穴群等の遺構に伴っていた可能性があるが、元の位置から移動しており、遺跡外に持ち出された遺物も少なくないようである。そのため石器の組成構成率を出すことは難しい。

だいたいの傾向として狩猟具としての剥片石器と植物加工具としての礫石器は共に多く、同時期の遺物を出土している北上市滝ノ沢遺跡と同様な構成比を示しているようである。しかし滝ノ沢遺跡と比較して石製品の占める割合は小さいようである。特に石製品の中に一括した礫石錘は5点しかなく、滝ノ沢遺跡の2,597点、江釣子村鳩岡崎遺跡の413点との差が大きく、生業の形態が異なっていたような感じを受ける。

石質鑑定をした結果、石質は27種であり、北上山地と奥羽山脈の両者から産出するもので構成されている。剥片石器で多いのは硬質凝灰質泥岩170点、硬質泥質凝灰岩77点、珪質凝灰質泥岩50点などで、奥羽山脈側から産出するものが多い。礫石器では輝石安山岩78点、両輝石安山岩43点などが多く、これらも奥羽山脈から産出するものが多い。石製品は軽石12点、粘板岩7点、輝石安山岩・凝灰質粘板岩各4点等で、奥羽山脈、北上産地それぞれで産出するものを器種ごとに使い分けている。石製品に限らず各器種とも用途に応じて適切な石材を用いている。

石 質 集 計 表

No.	器 種 石 質	石	石	石	石	石	削	残	磨	凹	石	石	計
		鎌・ 石槍	錐	匙	篋	斧	搔 器	核	石	石	皿・ 台石	製 品	
1	硬質泥質凝灰岩	27	6	7	1	1	35						77
2	鉄 石 英	1		7			1	6					15
3	粘 板 岩	8	2	5	1	2	20	2				7	47
4	硬質凝灰質泥岩	29	2	28	33		64	14					170
5	玻 璃 質 流 紋 岩	5			2		11	3					21
6	珪質細粒凝灰岩	5		7	4		32						48
7	淡黄色珪質細粒凝灰岩	1				12	2						15
8	珪 質 泥 岩	5	1	3	2		9	5					25
9	玉 髓		1										1
10	硬 質 泥 岩			3			20						23
11	白色細粒凝灰岩				2			2					4
12	硬 砂 岩					1							1
13	花 崗 閃 緑 岩					3			1	1			5
14	粘板岩ホルンフェルス					2							2
15	濃綠色角礫凝灰岩					1							1
16	淡綠色砂質凝灰岩					3							3
17	緑 色 凝 灰 岩					1			14				15
18	輝 石 安 山 岩								54	20		4	78
19	石 英 安 山 岩								9			2	11
20	プロピライト								11				11
21	両輝石安山岩								12	4	27	3	46
22	凝灰質粘板岩											4	4
23	千 板 岩											1	1
24	石 膏											3	3
25	軽 石											12	12
26	珪質凝灰質泥岩						45	5					50
27	細 粒 凝 灰 岩						8						8
計		81	12	60	45	26	247	37	101	25	27	36	697

〈まとめ〉

以上検出された遺構や遺物について述べてきたが、和光6区遺跡は尾根状に東西に伸びる段丘上に立地し、柱穴群や住居跡・ピット等で構成された集落が縄文時代前期後葉の大木5式から中期初頭の大木7_a式の時期に営まれ、その後間をおいてから陥し穴が作られ使用された時期があったようである。大木5式～7_a式に営まれた集落は西側の丘陵寄りの部分に広場を中心として、柱穴群・住居跡・ピットがそれを囲むように配置し、さらに沢状の斜面は遺物の廃棄場所として使用されていたらしい。この中には墓域の範囲は明確にされていないが、紫波町西田遺跡の例等から柱穴群の内側に広場を囲むように形成されていた可能性もある。

また、柱穴群が大型住居跡の一形態としての可能性をも持っていることから、現代の耕作により遺物の大半が移動しているが、住居跡内で遺物包含層を形成した大量の遺物を消費するような生活が行われていたことも予想される。今後、隣接地の発掘調査が行われ、集落の構成や生活形態が明らかになることを期待したい。

参考文献

- 相原康二・鈴木優子，1982；岩手県文化財調査報告書第7集（江釣子村鳩岡崎遺跡），岩手県教育委員会。
- 本沢慎輔，1982；岩手県埋文センター文化財調査報告書第31集（雫石町塩ヶ森Ⅰ・Ⅱ遺跡），（財）岩手県埋蔵文化財センター。
- 稲野裕介他，1983；北上市文化財調査報告書第33集（滝ノ沢遺跡），北上市教育委員会。
- 中村良幸，1982；大形住居，縄文文化の研究第8巻 社会・文化，雄山閣出版株式会社。
- 佐々木勝他，1980；岩手県文化財調査報告書第51号（西田遺跡），岩手県教育委員会。

土 器 観 察 表

本表は土器の観察所見および計測値を実測図の番号順に実測図版ごとに示したものである。

凡 例

- 実測図番号 上段の太字で示した番号は実測図番号を、また下段の()内に示した番号は登録番号を表す。
- 写真図版 写真図版の番号を表した。写真図版の遺物番号は実測図番号と一致する。
- 計 測 値 口径・最大径・器高・底径の単位はmmであり、また()は破損品の現存値を示す。
- 状 態 出土区の北包は北側遺物包含層を南包は南側遺物包含層を表す。焼成は良・普通・不良の3段階で示した。胎土は混入物を示した。
- 器 形 最初に器形による分類を示し、以下に細部の形状を表した。
- 文 様 口縁部・頸部・胴部・地文の順で説明を行ったが異なる場合もある。地文の観察は山内清男氏の分類(山内1979)に従った。
- 分 類 III章7節(P53)に示した分類のとおりである。
- 時 期 分類による時期を記入してみた。

実測図版 1 第35図

実測図番号	写真図版	計 測 値	状 態	器 形	文 様	分 類	時 期
1 (1198)	36	口径 (310) 最大径 (340) 器高 (100) 底径 —	出土区 北包 層位 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他 赤味を帯る	深鉢 A 4 単位の波状口縁で波頂部に有孔円盤状の貼り付けがなされる。胴部は膨らむ。	口縁部に蹄歯状の沈線が横位に数条巡る。	深鉢 A 1 類	大木 5
2 (1147)	36	口径 195 最大径 205 器高 (189) 底径 —	出土区 北包 層位 普通 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他 赤味を帯る	深鉢 A 4 単位の波状口縁で波頂部に有孔円盤状の貼り付けがなされる。胴部は内わんきみの植木鉢状を呈す。	波頂部の円盤状貼り付けと口縁部に円形竹管の連続刺突がある。地文は木目状の単軸絡糸体を口縁部から縦方向に連続回転施文している。	深鉢 A 1 類	大木 5
3 (1281)	36	口径 (342) 最大径 (342) 器高 (243) 底径 —	出土区 北包 層位 II 焼成 普通 胎土 粗砂・石英粒混入	深鉢 A 4 単位の波状口縁と思われ波頂部は波形の台状を呈す。胴部は膨らむ植木鉢状を呈す。	台状の波頂部は篋状工具で5つに分けられる。口縁部～胴部上位に粘土紐が蹄歯状に3列ずつ3単位巡り、一部では縦位に2列貼り付けられる。地文は R L を横方向に回転施文している。	深鉢 A 2 類	大木 5
4 (1148)	36	口径 185 最大径 195 器高 (155) 底径 —	出土区 北包 層位 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他 赤味かかる	深鉢 A 平縁で一部に山形の貼り付けがある。口縁部はやや外反し、胴部は植木鉢状を呈す。	口縁部から胴部のはほぼ全面に粘土紐が格子状や梯子状に貼り付けられる。地文は R L を横方向に回転施文している。	深鉢 A 2 類	大木 5
5 (1064)	36	口径 310 最大径 310 器高 279 底径 136	出土区 北包 層位 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢 A 4 単位の波状口縁で波頂部は肥厚した台状となる。全体として朝顔花形を呈す。	肥厚した台状の口縁部は上下方向に篋状工具で連続押圧されている。その下位には粘土紐が蹄歯状に2列巡りさらに下位には平行沈線が3条巡る。地文は R L で口縁部から胴部中位付近まで横方向に回転施文される。	深鉢 A 2 類	大木 5
6 (1095)	36	口径 232 最大径 232 器高 (130) 底径 —	出土区 南 層位 普通 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢 A 平縁で肥厚する。全体に円筒形または植木鉢状を呈す。	口縁部下位に粘土帯が巡り、その下位に瘤状の突起が4単位貼り付けられている。地文は単軸絡糸体 R を口縁部以下縦方向に回転施文している。	深鉢 A 15 類	大木 5

実測図版 2 第36図

7 (1191)	36	口径 (398) 最大径 (398) 器高 (344) 底径 (190)	出土区 北包 層位 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他 赤味かかる	深鉢 A 5～6 単位の波状口縁で波頂部に山形の貼り付けがある。口縁部は外反し、胴部は筒状	口縁部に粘土帯が波状や蹄歯状に貼り巡らされ、その粘土帯に沈線が蹄歯状に施文されている。地文は単軸絡糸体 L を口縁部以下縦方向に回転施文している。	深鉢 A 2 類	大木 5
8 (1213)	36	口径 (303) 最大径 (326) 器高 (230) 底径 —	出土区 北包 層位 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢 A 口縁部は緩い波状で短く外反する。胴部は筒状を呈す。	口縁部下位に粘土帯が巡り、篋状工具で連続押圧されている。地文は格子状の単軸絡糸体 R を口縁部以下回転施文している。	深鉢 A 15 類	大木 5

実測図番号	写真図版	計測値	状態	器形	文様	分類	時期
9 (1054)	36	口径 118 最大径 118 器高 (96) 底径 —	出土区 北包 層位 II 焼成 良 胎土 石英粒混入 その他	深鉢A 平縁で一部に山形の粘土帯が貼り付けられる。口縁部は外反し胴部は筒状を呈す。	無文	深鉢A 3類	大木5
10 (1277)	36	口径 (220) 最大径 (220) 器高 (70) 底径 —	出土区 北 層位 普通 焼成 粗砂混入 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 平縁で外反する。胴部はやや膨らむようである。	口縁部に平行沈線と鋸歯状の沈線が2条ずつ交互に巡る。地文はL・R・R L (結束第1種・羽状)を下位の沈線以下横方向に回転施文するがだいぶ摩滅している。	深鉢A 4類	大木5~6
11 (1248)	36	口径 (224) 最大径 (210) 器高 (216) 底径 —	出土区 北 層位 普通 焼成 粗砂混入 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 平縁で折り返し複合口縁。やや外反し胴部は少し膨らむ。	口縁部文様帯は上下を平行沈線で区画して間に鋸歯状の沈線が2列施文される。地文は刷毛目状の条痕で下位の沈線以下縦や斜方向に施文される。	深鉢A 4類	大木5~6
12 (1136)	37	口径 198 最大径 198 器高 (228) 底径 —	出土区 北 層位 普通 焼成 粗砂混入 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 口縁部はゆるい波状を呈す。全体にやや膨らむ植木鉢状を呈す。	口縁部に太い沈線が間隔をおいて3条巡り、その沈線間に鋸歯状の沈線が2列ずつ巡る。地文は両端を結節したL・R・R L (結束第1種・羽状)で、文様帯の下位から横位に回転施文している。	深鉢A 4類	大木5~6

実測図版 3 第37図

13 (1050)	37	口径 464 最大径 464 器高 730 底径 230	出土区 L.VII 層位 II 焼成 良 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 口縁部は緩い波状でやや外反する。全体に円筒状	口縁部~胴部上位に山形やY字状等の粘土帯が貼られ、半截竹管の連続刺突が施文されている。粘土帯に沿った粘土帯の間には平行沈線や竹管の連続刺突が施文される。地文はRの結束第1種を口縁部と胴部中位に横方向に回転施文し、L・R・R L (結束第1種・羽状)を文様帯の下位付近に横方向に回転施文している。	深鉢A 5類	大木6
--------------	----	---------------------------------------	--	----------------------------	---	--------	-----

実測図版 4 第38図

14 (1185)	37	口径 (622) 最大径 (622) 器高 620 底径 160	出土区 北包 層位 II 焼成 良 胎土 細礫・粗砂混入 その他	深鉢A 5~6単位の波状口縁で内わんぎみに外傾。胴部は一部にくびれがあるが膨れる植木鉢状	波頂部にボタン状の粘土塊が貼り付けられ、その下位に粘土帯が縦位に貼り付けられる。口縁部下位には竹管の連続刺突が巡る。竹管による細い平行沈線が口縁部に主に横位の鋸歯状に、胴部は横位や縦位の鋸歯状や直線状に施文され、一部は胴部中位以下まで続く。地文はLで胴部上・中位に横方向に回転施文している。	深鉢A 5類	大木6
15 (1086)	37	口径 (255) 最大径 (255) 器高 (210) 底径 —	出土区 北包 層位 II 焼成 良 胎土 石英粒・粗砂混入 その他	深鉢A 4単位の波状口縁で内わんぎみに外傾する。胴部は植木鉢状を呈する。	波底部の口唇に篋状工具の連続押圧がある。波頂部の下位に瘤状突起が貼り付けられ、それを囲むように直線や屈曲した沈線が施文される。口縁部下位には竹管の連続刺突が2列巡り間に平行沈線が2条巡る。胴部中位付近には竹管による細い平行沈線が数条巡り、胴部上位からその下位までは弧状や直線状の平行沈線が施文される。地文は無文のようである。	深鉢A 5類	大木6
16 (1260)	37	口径 (172) 最大径 (186) 器高 (173) 底径 —	出土区 北包 層位 II 焼成 良 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 平縁でやや外反する。胴部は少し膨らむ筒状を呈する。	口縁部~胴部上位に竹管による細い平行沈線が鋸歯状に2列巡り、その下位は同じ平行沈線が縦位の波状に施文される。地文はL・Rの縦方向の回転施文のようだがだいぶ摩滅している。	深鉢A 6類	大木6
17 (1114)	37	口径 212 最大径 212 器高 (73) 底径 —	出土区 北包 層位 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 口縁部は緩い波状を呈し肥厚する。朝顔花形の形状と思われる。	口唇部は棒状工具により連続押圧される。肥厚口縁の下位は篋状工具により連続押圧される。その下位は竹管による細い平行沈線が2列巡り、その内部に平行沈線が鋸歯状や三角形状に施文される。	深鉢A 6類	大木6
18 (1235)	37	口径 (295) 最大径 (295) 器高 (212) 底径 —	出土区 北包 層位 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 口縁部は緩い波状を呈し肥厚する。朝顔花形の形状と思われる。	肥厚口縁の上下が棒または篋状工具により連続押圧されている。その下位には竹管による細い平行沈線が2列巡り、その間に弧状の平行沈線が上下交互に施文される。地文はR Lで文様帯の下位から横方向に回転施文される。	深鉢A 6類	大木6

実測図版 5 第39図

19 (1156)	37	口径 (175) 最大径 (175) 器高 (227) 底径 —	出土区 北包 層位 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 口縁部は緩い波状を呈し肥厚する。朝顔花形の形状を呈す。	口縁部の肥厚部分には竹管の連続押圧が巡る。その下位には竹管による細い平行沈線が2列巡り、その間に平行沈線が弧状や山形状に施文されている。地文はL・Rで文様帯の下位に縦方向に回転施文されている。文様帯内の一にも地文が残る。	深鉢A 6類	大木6
20 (1129)	37	口径 (217) 最大径 (217) 器高 (234) 底径 —	出土区 北包 層位 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 平縁でやや外反する。胴部は筒状を呈する。	口縁部に竹管による平行沈線が鋸歯状に巡り、下位に口唇部に平行沈線が巡る。地文はR Lで文様帯の下位から横方向に回転施文する。	深鉢A 6類	大木6
21 (1247)	37	口径 (332) 最大径 (332) 器高 (88) 底径 —	出土区 北 層位 普通 焼成 粗砂混入 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 平縁でやや外反する。朝顔花形の形状と思われる。	口縁部に粘土帯が巡り、竹管が連続刺突されている。下位には竹管による細い平行沈線が巡り、それと隆帯との間には弧状の平行沈線が上下交互に施文されている。地文はL・Rで文様帯以下横方向に施文されるがだいぶ摩滅している。	深鉢A 6類	大木6
22 (1068)	38	口径 175 最大径 175 器高 (149) 底径 —	出土区 北 層位 良 焼成 粗砂混入 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 平縁で少し外反する。胴部は筒状を呈する。	口縁部に平行沈線が2条巡る。地文はL・Rの横方向の回転施文のようだがだいぶ摩滅している。	深鉢A 7類	大木6~7a
23 (1128)	38	口径 259 最大径 259 器高 (212) 底径 —	出土区 北包 層位 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 4単位の波状口縁で内わんぎみに外傾する。胴部は筒状を呈する。	波頂部下位にはボタン状の貼り付けがあり、その下位には山形の隆沈線が施文される。口縁部には平行沈線が3列巡り、各列の間に竹管背面の押し引き施文が巡る。地文は一端を結節するR Lのようで文様帯の下位から縦方向に回転施文されるが、だいぶ摩滅している。	深鉢A 7類	大木6~7a
24 (1052)	38	口径 218 最大径 218	出土区 北 層位	深鉢A 平縁で内わんぎみに外傾する。	嵌状の粘土帯に接して弧状の粘土帯が貼り付けられ、4分の1周ごとに弧状の粘土帯が貼り付けられ、粘土帯上	深鉢A 7類	大木7a

実測図番号	写真図版	計測値	状態	器形	文様	分類	時期
		器高 (148) 底径 —	焼成 胎土 その他	普通 粗砂混入 表面摩耗	胴部は筒状を呈する。 口唇部から口縁部に かけて蕨状の粘土帯 貼り付けがある。		

実測図版 6 第40図

25 (1094)	38	口径 (227) 最大径 (227) 器高 (245) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 細砂・粗 砂混入	深鉢A 平縁である。 全体に植木鉢状を呈 す。	口縁部に平行沈線が4条巡る。地文は一端に結節のある R・L・R (結束第1種) のように文様帯の下位から横 方向に回転施文されているがかなり摩滅している。	深鉢A 7類	大木7a
26 (1189)	38	口径 163 最大径 163 器高 (93) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 細砂混入	深鉢A 平縁でやや 外反する。全体とし て筒状を呈する。	口縁部に平行沈線が3条巡り、一部重なっている。その 下位に粘土帯が巡り連続押圧されている。地文はR・Lで 粘土帯の下位から横方向に回転施文されている。	深鉢A 7類	大木7a
27 (1229)	38	口径 (200) 最大径 (200) 器高 (80) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢A 平縁である。 全体として筒状また は植木鉢状を呈す。	口縁部に平行沈線が2条巡る。その下位に粘土帯が巡り 縄文原体Rの側面圧痕が連続して施文されている。地文 はL・Rのよう粘土帯の下位から横方向に回転施文され るがだいぶ摩滅している。	深鉢A 7類	大木7a
28 (1209)	38	口径 (263) 最大径 (263) 器高 (100) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢A 口縁部は緩 い波状を呈す。全体 として円筒状を呈す と思われる。	口縁部に粘土帯が巡り、粘土帯は棒状工具で連続押圧さ れている。粘土帯の上下には各3条の沈線が巡っている。 地文はR・Lで文様帯の下位から横方向に回転施文されて いる。	深鉢A 7類	大木7a
29 (1075)	38	口径 198 最大径 198 器高 325 底径 125	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢A 平縁で少し 外反する。全体とし て筒状を呈す。	口縁部に縄文原体Rの側面圧痕が3条巡り、その下位に 粘土帯が巡りその上にも縄文原体の側面圧痕が施文され ている。地文は組紐の単軸絡糸帯で粘土帯下位から縦方 向に連続回転施文されている。	深鉢A 8類	大木7a
30 (1062)	38	口径 (240) 最大径 (240) 器高 (150) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢A 平縁でやや 外反する。全体に円 筒状を呈す。	口縁部に縄文原体Lの側面圧痕が2～3条巡る。その下 位に粘土帯が巡り棒状工具により連続刺突されている。 地文は一端を結節するL・Rで粘土帯の下位から縦方向 に連続回転施文されている。	深鉢A 8類	大木7a
31 (1178)	38	口径 162 最大径 162 器高 (118) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢A 平縁で外傾 する。胴部は円筒状 を呈す。	口縁部に縄文原体Lの側面圧痕が2条巡る。地文はR・L ・L・R (結束第1種・羽状) を胴部上位から縦方向に連 続回転施文している。	深鉢A 8類	大木7a
32 (1004)	38	口径 117 最大径 117 器高 (106) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 良 雲母・粗 砂混入	深鉢A 平縁である。 全体として筒状ない しは植木鉢状を呈す。	口縁部に縦3本・横2本の平行沈線が交互に巡っている。 地文はR・Lで文様帯の下位から横方向に回転施文され ている。	深鉢A 9類	大木7a
33 (1107)	38	口径 179 最大径 179 器高 154 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢A 平縁でやや 外反する。円筒状を 呈す。	口縁部に縦2本・横3本ずつの沈線が交互に5単位巡り、 その下位に平行沈線が巡る。地文は刷毛目状の糸帯が文 様帯の下位から縦位に施文される。	深鉢A 9類	大木7a

実測図版 7 第41図

34 (1014)	39	口径 213 最大径 213 器高 (378) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北 普通 粗砂混入	深鉢A 平縁である。 全体に筒状を呈す。	口縁部に縦横3本ずつの沈線が交互に6単位巡り、その 下位に沈線が1条巡る。地文は単軸絡糸帯Rで文様帯の 下位から横方向に回転施文している。	深鉢A 9類	大木7a
35 (1051)	39	口径 246 最大径 246 器高 336 底径 120	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢A 平縁の複合 口縁で外反する。胴 部は植木鉢状を呈す 。	口縁部に縦4本・横3本の沈線が交互に施文される。地 文はR・Lで文様帯の下位から横方向に回転施文される。 摩滅していて不明瞭だが胴部下位は無文のようである。	深鉢A 9類	大木7a
36 (1081)	39	口径 294 最大径 294 器高 357 底径 158	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北 普通 粗砂混入	深鉢A 口縁部は緩 い波状で少し外反す る。全体として筒状 を呈す。	口縁部上位に棒状工具の連続刺突が巡り、その下位に4 ～5条の平行沈線が巡る。さらに下位には篋状工具で連 続押圧された隆帯が巡る。地文はR・Lと一端を結節し たR・Lを文様帯以下横方向に回転施文している。	深鉢A 10類	大木7a
37 (1118)	39	口径 170 最大径 170 器高 (230) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢A 平縁である。 全体として植木鉢状 を呈す。	口縁部は無文で下位に粘土帯が巡る。粘土帯は棒状工 具による連続押圧がなされている。地文は一端を結節し たL・Rで粘土帯の下位から縦方向に連続回転施文されて いる。	深鉢A 10類	大木7a
38 (1100)	19 (19)	口径 288 最大径 288 器高 (190) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	SI住 埋土 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢A 平縁でやや 外反する。胴部は筒 状を呈す。	口縁部に瘤状の粘土塊が上下に2つずつ5単位貼り付け され、瘤と瘤の間は3条の沈線が施文される。瘤の下位 には隆帯が巡り篋状工具で連続刺突されている。地文は 一端を結節したR・L・R (結束第1種・羽状) で隆帯 以下縦方向に回転施文されている。	深鉢A 10類	大木7a

実測図版 8 第42図

39 (1234)	39	口径 (183) 最大径 (191) 器高 308 底径 104	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢A 平縁である。 全体に筒状を呈す。	口縁部に円周に平行な沈線と鋸歯状の沈線が巡るよう である。下位に隆帯が巡る。地文は両端を結束したR・ R・L (結束第1種・羽状) で隆帯の下位から縦方向に連 続回転施文される。	深鉢A 10類	大木7a
--------------	----	---	------------------------------	------------------------	-------------------------	--	------------	------

実測図番号	写真図版	計測値	状態	器形	文様	分類	時期	
40 (1108)	39	口径 (264) 最大径 (272) 器高 (215) 底径 —	出土区 層位 成土 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢 A 平縁である。やや膨らむ筒状を呈する。	口縁部に平行沈線と小波状の沈線が巡る。ボタン状の粘土塊の貼り付けかしてあり、円形竹管の刺突が施されている。下位には粘土帯が巡り、陶文原体 L の断面圧痕が連続して押圧施文されている。地文は一端に結節のある L R で粘土帯の下位から縦方向に連続回転施文される。	深鉢 A 10 類	大木 7 a
41 (1047)	18 (13)	口径 178 最大径 178 器高 (150) 底径 —	出土区 層位 成土 胎土 その他	SI 住 埋土 普通 粗砂混入	深鉢 A 4 単位の波状口縁で肥厚する。全体として植木鉢状を呈す。	波頂部の下位には粘土帯が貼り付けられ、さらに下位には粘土帯が巡る。波頂部には棒状工具の連続刺突があり口縁部上位と下位の粘土帯には篋状工具による連続刺突施文されている。またその間には沈線が格子状に施文されている。粘土帯の下位の一部には沈線が斜位に施文されている。地文は L R・R L (結束第 2 種・羽状) で粘土帯の下位から縦方向に回転施文されている。	深鉢 A 10 類	大木 7 a
42 (1223)	39	口径 (218) 最大径 (218) 器高 240 底径 98	出土区 層位 成土 胎土 その他	北 普通 粗砂混入	深鉢 A 口縁部は緩い波状で肥厚する。全体に植木鉢状を呈する。	波頂部から始まり波頂部で終わる隆帯が 2 列巡り、竹管の連続刺突が施されている。また波頂部の器面に向かって左側の口唇には棒状工具の押圧が 4～5 回行なわれている。地文は R L で文様帯の下位から横方向に回転施文される。	深鉢 A 10 類	大木 7 a
43 (1019)	19 (18)	口径 (276) 最大径 (218) 器高 (262) 底径 —	出土区 層位 成土 胎土 その他	SI 住 埋土 普通 粗砂混入	深鉢 A 口縁部は緩い波状で内わんぎみに外傾する。胴部は筒状または植木鉢状を呈す。	口縁部に弧状の粘土帯が 1 つ貼り付けられ弧状の沈線が施文される。下位には隆帯が巡り棒状工具により連続刺突される。隆帯の上位と口唇部直下には平行沈線が巡りその間に波状の沈線と竹管の連続刺突が施文される。地文は両端を結節する L R で隆帯の下位から縦方向に連続回転施文される。	深鉢 A 10 類	大木 7 a
44 (1035)	19 (21)	口径 197 最大径 197 器高 (244) 底径 —	出土区 層位 成土 胎土 その他	SI 住 埋土 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢 A 4 単位の波状口縁で外反する。胴部は筒状を呈す。	波頂部の下位に円盤状の粘土塊が貼り付けられ、さらに下位には粘土帯が巡る。粘土帯と口縁部上位は篋状工具で連続刺突され、両者の内側に沿って沈線が巡る。またその沈線間には小波状の沈線が 2 条施文される。地文は一端に結節のある R L・L R (結束第 1 種・羽状) で粘土帯の下位から縦方向に連続回転施文される。	深鉢 A 10 類	大木 7 a

実測図版 9 第 43 図

45 (1084)	40	口径 139 最大径 139 器高 172 底径 92	出土区 層位 成土 胎土 その他	北 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢 A 平縁でやや外傾する。全体として筒状を呈す。	口縁部に沈線と粘土帯が巡り、粘土帯と口縁部上位には竹管の連続刺突が巡る。地文は L R で胴部上位～中位に横方向に回転施文される。一部に L R が見られるが摩滅して不明瞭である。	深鉢 A 10 類	大木 7 a
46 (1154)	40	口径 (290) 最大径 (290) 器高 (93) 底径 —	出土区 層位 成土 胎土 その他	北 普通 粗砂混入	深鉢 A 平縁で内わんぎみに外傾する。	口縁部下位に円盤状の粘土塊が 4 単位貼り付けられ連続刺突施文されている。その下位に粘土帯が巡り篋状工具で連続刺突されている。口縁部上位には沈線が巡り、その沈線と隆帯の間には弧状や短かい沈線による地文がなされている。地文は L R で粘土帯の下位から横方向に回転施文されるようである。	深鉢 A 11 類	大木 7 a
47 (1111)	40	口径 182 最大径 182 器高 (117) 底径 —	出土区 層位 成土 胎土 その他	北 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢 A 口縁部は一部に突起のある波状で内わんぎみに外傾する。胴部は筒状を呈す。	口縁部突起の口唇部に粘土紐の貼り付けがあり、突起部の下位から 4 分の 1 周ごとボタン状の粘土塊が貼り付けられる。その間に短い沈線が連続施文され、その下位に竹管の連続刺突が巡る。さらに下位には平行沈線が 4 条巡る。地文は R L・L R (結束第 1 種・羽状) で文様帯の下位から縦方向に回転施文される。	深鉢 A 11 類	大木 7 a
48 (1045)	19 (22)	口径 (230) 最大径 (230) 器高 (182) 底径 —	出土区 層位 成土 胎土 その他	SI 住 埋土 普通 粗砂混入	深鉢 A 口縁部は緩い波状を呈し外傾する。胴部は筒状を呈す。	口縁部下位に粘土帯が巡り、篋状工具で連続刺突される。一部にはりボン状のやや大きな突起がある。口縁部上位には口縁部に平行な沈線が巡り、その沈線と粘土帯の間には弧状や渦巻状の沈線や篋状工具の連続刺突が施文される。地文は一端を結節する R L・L R (結束第 2 種・羽状) を間隔をおいて縦方向に連続回転施文されている。	深鉢 A 11 類	大木 7 a
49 (1278)	40	口径 182 最大径 (182) 器高 (48) 底径 —	出土区 層位 成土 胎土 その他	北包 II 普通 金雲母混入	深鉢 A 平縁で内わんぎみに外傾する。胴部は筒状になるようだが不明。	口縁部に渦巻状の隆帯が 4 単位あり、渦巻間に波頂部が来る波状の隆帯が巡る。隆帯上と胴部上位は口縁部上位には竹管の連続刺突が施文される。また下位には粘土帯が巡り棒状工具で連続刺突されている。	深鉢 A 11 類	大木 7 a
50 (1220)	40	口径 (420) 最大径 (420) 器高 (192) 底径 —	出土区 層位 成土 胎土 その他	北包 II 良 粗砂混入	深鉢 A 平縁で少し外反する。胴部は少し膨れる筒状と思われる。	口縁部上位には地文が残り、その下位には小波状の沈線と平行沈線が 2 条ずつ交互に施文され、下位に粘土帯が巡る。粘土帯は棒状工具で連続刺突されている。地文は口縁部上位は L R を横方向に回転施文し、粘土帯の下位は両端を結節した R L・L R (結束第 1 種・羽状) を横方向に回転施文している。	深鉢 A 11 類	大木 7 a
51 (1116)	40	口径 (158) 最大径 (158) 器高 (170) 底径 —	出土区 層位 成土 胎土 その他	北包 II 良 粗砂混入	深鉢 A 波状口縁だが 1 単位分しか残存していない。全体として植木鉢状を呈す。	口縁部下位に粘土帯が巡り篋状工具で連続刺突される。波頂部から粘土帯まで大溝状のくぼみがある。一部に竹管による平行沈線がある。地文は刷毛目状の条痕で粘土帯以下縦位に施文される。	深鉢 A 12 類	大木 7 a
52 (1245)	40	口径 (320) 最大径 (320) 器高 (180) 底径 —	出土区 層位 成土 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢 A 平縁で内わんぎみに外傾する。胴部は少し膨れるようである。	口縁部下位に粘土帯が 2 列巡り、口唇部からその粘土帯まで縦位の粘土帯が貼り付けられ (4 単位と思われる) 篋状工具で連続刺突されている。粘土帯と口唇部の間には 7 条の平行沈線が巡り、沈線間には縦位の短かい沈線が多数施文される。地文は一端を結節する L R で文様帯の下位から縦方向に施文される。	深鉢 A 12 類	大木 7 a

実測図版 10 第 44 図

53 (1071)	40	口径 318 最大径 318 器高 425 底径 145	出土区 層位 成土 胎土 その他	北 普通 粗砂混入	深鉢 A 口縁部は緩い波状を呈し内わんぎみに外傾する。全体として植木鉢状を呈す。	口縁部は 2 本で 1 単位の縦の粘土帯で 6 分割され、下位には横位の粘土帯が巡る。粘土帯はいずれも篋状工具で連続刺突されている。横位の粘土帯と口唇部の間には平行沈線と波状沈線が交互に施文される。地文は両端に結節のある L R で文様帯の下位から間隔をおいて縦方向に連続回転施文している。	深鉢 A 12 類	大木 7 a
54 (1079)	18 (14)	口径 185 最大径 185 器高 207	出土区 層位 成土 胎土 その他	SI 住 埋土 良	深鉢 A 平縁である。全体として筒状を呈す。	口縁部は縦位の粘土帯貼り付けにより 4 分割され、下位には横位の粘土帯が巡る。粘土帯はいずれも篋状工具により連続刺突されている。横位の粘土帯と口唇部の間には	深鉢 A 12 類	大木 7 a

実測図番号	写真図版	計測値	状態	器形	文様	分類	時期	
		底径 —	胎土 その他	粗砂混入				
55 (1190)	40	口径 (240) 最大径 (240) 器高 (110)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢 A 平縁ではほぼ直立する。全体として筒状を呈す。	口縁部は縦位の粘土帯で分割され、下位に横位の粘土帯が巡る。粘土帯は篋状工具で連続刺突されている。区画された口縁部内には平行沈線や鋸歯状の沈線等が施文される。地文は両端を結節する L R で文様帯の下位から横方向に回転施文される。	深鉢 A 12類	大木 7 a
56 (1109)	40	口径 (216) 最大径 (216) 器高 (100)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢 A 平縁の複合口縁でやや外反する。胴部は筒状を呈すと思われる。	口縁部に棒状工具による斜位押圧が連続施文される。地文は R で口縁部下位から横方向に回転施文される。	深鉢 A 13類	大木 6 ~ 7 a
57 (1183)	40	口径 (250) 最大径 (250) 器高 (180)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢 A 口縁部は緩い波状を呈す。全体に植木鉢状を呈す。	口縁部にボタン状の粘土塊と棒状の粘土紐が 4 分の 1 周ごとに交互に貼り付けられ、その間には弧状の沈線が連続して施文される。下位には沈線と竹管の連続押圧が一条ずつ巡る。地文は無文である。	深鉢 A 12類	大木 6 ~ 7 a
58 [*] (1088)	40	口径 (278) 最大径 (278) 器高 (128)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北 良 粗砂混入	深鉢 A 平縁である。全体に植木鉢状を呈すようである。	口縁部に X 字状の粘土帯が貼り付けられ、下位に降線が巡る。地文は無文である。	深鉢 A 13類	大木 6 ~ 7 a
59 (1002)	40	口径 205 最大径 205 器高 216 底径 110	出土区 層位 焼成 胎土	北包 II 普通 石英粒・ 粗砂混入	深鉢 A 口縁部は緩い波状で外傾する。胴部は筒状を呈す。また上から見ると凸凹四辺形状である。	波頂部間に粘土塊の貼り付けがあり口唇部には沈線が施文される。口縁部下位には縄文原体 L の側面圧痕が波状に押し压される。地文は R L・L R (結束第 1 種・羽状) のように胴部上位から横方向に回転施文される。	深鉢 A 13類	大木 6 ~ 7 a

実測図版 11 第 45 図

60 (1280)	41	口径 (251) 最大径 (180) 器高 (180)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢 A 波状突起口縁だが単位は不明。全体として植木鉢状を呈す。	口縁部に粘土帯の貼り付けが巡るかほとんど剥落している。地文は L R で胴部上位以下横方向に回転施文される。	深鉢 A 13類	大木 6 ~ 7 a
61 (1119)	41	口径 (214) 最大径 (214) 器高 (287)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢 A 平縁の複合口縁である。全体に筒状を呈す。	口縁部は無文。地文は R L で口縁部の下位から横方向に回転施文される。	深鉢 A 13類	大木 6 ~ 7 a
62 (1132)	18 (15)	口径 280 最大径 (293) 器高 (170)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	SI 住 埋土 普通 粗砂混入	深鉢 A 波状口縁で波頂部に渦巻状の突起が貼り付けられる。全体に植木鉢状を呈すようである。	口縁部上位に口唇部に沿った沈線が下位には平行沈線が巡り、一部に竹管の連続刺突が施文される (4 分の 1 周?) 地文は R L で口縁部以下横方向に回転施文される。	深鉢 A 14類	大木 6 ~ 7 a
63 (1087)	41	口径 195 最大径 195 器高 (195)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢 A 口縁部は緩い波状を呈し外傾する。胴部は筒状を呈す。	波頂部下位の口縁部と胴部中位には瘤状突起が縦位に 2 個 1 単位で 4 単位ずつ貼り付けられる。地文は R L・L R (結束第 1 種・羽状) で口縁部以下横方向に回転施文される。	深鉢 A 14類	大木 6 ~ 7 a
64 (1177)	41	口径 (145) 最大径 (145) 器高 (165)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢 A 平縁でやや外反する。胴部は筒状を呈す。	口縁部に短かい粘土帯が縦位に 2 単位付けられ、沈線が一条巡っている。その下位に波状の粘土塊が胴部中位付近まで貼り付けられる。地文は L R で口縁部以下横方向に回転施文されるかかなり摩擦している。	深鉢 A 14類	大木 6 ~ 7 a
65 (1078)	19 (26)	口径 356 最大径 356 器高 (160)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	SI 住 埋土 良 粗砂混入	深鉢 A 4 単位の波状の複合口縁でやや外反する。全体に植木鉢状を呈すと思われる。	波頂部は環状の粘土紐を内外から押圧した形状を呈し、そこから縦位の粘土帯が 2 本ずつ貼り付けられる。地文は L R で口縁部以下横方向に回転施文される。	深鉢 A 14類	大木 6 ~ 7 a
66 (1048)	41	口径 170 最大径 173 器高 180	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢 A 緩い波状口縁で波頂部は外反する。全体として筒状を呈す。	口縁部下位に粘土帯が巡る。粘土帯と口唇部の間には縄文原体 L と R の側面圧痕が交互に施文され 2 条巡る。地文は R L・L R (結束第 1 種・羽状) で粘土帯の下位から横方向に回転施文される。	深鉢 A 14類	大木 6 ~ 7 a
67 (1266)	41	口径 (166) 最大径 (166) 器高 (78)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢 A 平縁で厚唇する複合口縁である。胴部は少し膨らむ筒状と思われる。	口縁部上位の一部には棒状工具の連続押圧がある。地文は L R で口縁部以下横方向に回転施文される。	深鉢 A 14類	大木 6 ~ 7 a

実測図版 12 第 46 図

68 (1186)	41	口径 (360) 最大径 (360) 器高 (394)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢 A 平縁の複合口縁でやや外反する。胴部は筒状を呈す。	口縁部下位は篋状工具の連続押圧で波状の隆起を呈す。地文は L R で口縁部以下主に横方向に回転施文される。	深鉢 A 14類	大木 6 ~ 7 a
69 (1027)	19 (23)	口径 224 最大径 224 器高 138	出土区 層位 焼成 胎土 その他	SI 住 埋土 普通 粗砂混入	深鉢 A 口縁部は緩い波状でやや外傾する。全体に植木鉢状を呈す。	地文は L R・R L (結束第 2 種・羽状) のように口縁部から縦方向に連続回転施文される。	深鉢 A 16類	大木 6 ~ 7 a
70 (1124)	41	口径 275 最大径 275 器高 344	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢 A 平縁の複合口縁でやや外反する。胴部は少し膨らむ筒状を呈す。	口縁部下位に弧状の粘土帯が貼り付けられる。地文は胴部上位~中位が一端を結節した L R で、口縁部と胴部中位以下は L R をいずれも横方向に回転施文している。	深鉢 A 14類	大木 6 ~ 7 a

実測図番号	写真図版	計測値	状態	器形	文様	分類	時期
71 (1207)	41	口径 (335) 最大径 (335) 器高 (413) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢 A 平縁の複合 口縁である。全体に 筒状を呈す。	口縁部下位に粘土帯が巡る。地文は R L で口縁部は横方向に、胴部は縦方向に回転施文される。	深鉢 A 14類 大木 6 ~7 a

実測図版13 第47図

72 (1091)	42	口径 (390) 最大径 (390) 器高 — 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	南 普通 粗砂混入	深鉢 A 平縁の複合 口縁でやや外傾する。 全体に筒状を呈す。	口縁部下位には縄文原体 R の側面圧痕が巡る。地文は L で口縁部以下主に横方向に回転施文される。	深鉢 A 14類 大木 6 ~7 a
73 (1077)	18 (9)	口径 172 最大径 172 器高 (251) 底径 (95)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	R I 住 埋土 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢 A 平縁である。 全体に少し影らむ植 木鉢状を呈す。	無文である。	深鉢 A 16類 大木 6 ~7 a
74 (1162)	42	口径 173 最大径 173 器高 (136) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢 A 平縁の複合 口縁でやや外傾する。 胴部は筒状を呈す。	地文は R L ・ L R (結束第 1 種・羽状) で口縁部は横方向に胴部は縦方向に回転施文される。	深鉢 A 16類 大木 6 ~7 a
75 (1104)	42	口径 287 最大径 287 器高 168 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 良 粗砂混入	深鉢 A 平縁の複合 口縁で外傾する。胴 部は少し影らむ植木 鉢状を呈す。	地文は L R で口縁部以下横方向に回転施文される。	深鉢 A 16類 大木 6 ~7 a
76 (1246)	42	口径 (218) 最大径 (218) 器高 (178) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北 普通 粗砂混入	深鉢 A 平縁の複合 口縁である。全体に 筒状を呈す。	胴部上位に縦位の粘土紐が数本貼り付けられる。地文は R L で口縁部以下主に横方向に回転施文される。	深鉢 A 16類 大木 6 ~7 a
77 (1053)	42	口径 (104) 最大径 (104) 器高 (100) 底径 (98)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢 A 平縁である。 全体に筒状を呈す。	地文は一端を結節した L R を口縁部以下間隔において縦方向に連続回転施文している。	深鉢 A 16類 大木 6 ~7 a
78 (1026)	20 (37)	口径 191 最大径 191 器高 217 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	H 埋設 良 粗砂混入	深鉢 A 平縁である。 全体に植木鉢状を呈 す。	地文は L の単軸絡糸体を口縁部以下縦方向に連続回転施文するか 4 分の 1 周分だけで、他は無文である。	深鉢 A 16類 大木 6 ~7 a

実測図版14 第48図

79 (1028)	42	口径 205 最大径 205 器高 (241) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土	北包 II 普通 石英粒・ 粗砂混入	深鉢 A 口縁部は緩 い波状を呈す。全体 として植木鉢状を呈 す。	地文は単軸絡糸体 L で口縁部以下縦横斜方向に回転施文される。	深鉢 A 15類 大木 5
80 (1089)	42	口径 212 最大径 212 器高 (169) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢 A 口唇部は押 圧により小波状。口 縁部は少し外反するが 全体として植木鉢状 を呈す。	口唇部は籠状工具による連続押圧施文で小波状になる。地文は単軸絡糸体 R で口縁部以下縦方向に回転施文される。	深鉢 A 15類 大木 5
81 (1131)	42	口径 (169) 最大径 (169) 器高 (212) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢 A 口縁部は緩 い波状で短く外反 する。胴部は少し影 らむ筒状を呈す。	地文は R L で口縁部以下横方向に回転施文される。	深鉢 A 16類 大木 6 ~7 a
82 (1176)	42	口径 180 最大径 180 器高 (180) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢 A 平縁である。 全体として植木鉢状 を呈す。	地文は単軸絡糸体 R で口縁部以下斜や縦方向に回転施文される。	深鉢 A 15類 大木 5
83 (1025)	42	口径 175 最大径 175 器高 (172) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	南 不良 粗砂混入 表面摩耗	深鉢 A 平縁の複合 口縁である。全体と して植木鉢状を呈す。	地文は縄文のようなが摩滅しており不明瞭。	深鉢 A 16類 大木 6 ~7 a
84 (1102)	42	口径 195 最大径 195 器高 (213) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	南 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢 A 平縁で短く 外反する。胴部は筒 状を呈す。	地文は L R で口縁部以下横方向に回転施文しているようだがかなり摩滅している。	深鉢 A 16類 大木 6 ~7 a
85 (1255)	42	口径 (216) 最大径 (216) 器高 (224) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	耕作土 普通 粗砂混入	深鉢 A 平縁である。 全体として筒状を呈 している。	地文は単軸絡糸体 R で口縁部以下横方向や縦方向に回転施文される。	深鉢 A 16類 大木 6 ~7 a
86 (1208)	43	口径 (440) 最大径 (440) 器高 (424) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 良 粗砂混入	深鉢 A 平縁で短く 外反する。胴部は影 らむ植木鉢状を呈す。	口縁部は無文のようである。地文は多軸絡糸体 L で胴部上位から主に縦方向に回転施文される。	深鉢 A 16類 大木 6 ~7 a

実測図版15 第49図

実測図番号	写真図版	計測値	状態	器形	文様	分類	時期
87 (1165)	43	口径 382 最大径 382 器高 (578) 底径 —	出土区 層位 北包 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 口縁部は緩い波状を呈し短く外反する。全身的に植木鉢状を呈す。	口縁部は無文のようである。地文は単軸絡糸体Rで胴部上位から主に縦方向に回転施文される。	深鉢A 15類	大木5
88 (1199)	43	口径 (470) 最大径 (470) 器高 (545) 底径 —	出土区 層位 北包 II 焼成 普通 胎土 細礫・粗砂混入 その他	深鉢A 平縁で外反する。胴部は植木鉢状を呈する。	地文は多軸絡糸体として口縁部以下縦や斜方向に回転施文される。	深鉢A 15類	大木5 ~6
89 (1069)	43	口径 (108) 最大径 (108) 器高 (152) 底径 (58)	出土区 層位 北包 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 口縁部は不規則な波状を呈す。全体として植木鉢状を呈す。	地文はR.L.で口縁部以下横方向に回転施文される。	深鉢A 15類	大木5
90 (1158)	43	口径 190 最大径 190 器高 252 底径 105	出土区 層位 北包 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 表面摩耗 その他	深鉢A 水平方向への波状口縁で少し外反する。全身的に植木鉢状を呈す。底部はやや張り出す。	地文はL.R.で口縁部以下横方向に回転施文されるようだがかなり摩滅している。	深鉢A 15類	大木5
91 (1257)	43	口径 185 最大径 185 器高 268 底径 98	出土区 層位 北包 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 小波状口縁全体として植木鉢状を呈す。底部付近少し張り出す。	口唇部は指頭等で連続押圧され小波状を呈す。地文は単軸絡糸体Rで口縁部以下縦方向に回転施文される。	深鉢A 15類	大木5
92 (1017)	43	口径 135 最大径 138 器高 (225) 底径 (75)	出土区 層位 北包 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 口縁部は緩い波状を呈す。全体として細長い植木鉢状を呈す。	地文は単軸絡糸体として口縁部以下縦や斜方向に回転施文される。	深鉢A 15類	大木5
93 (1144)	43	口径 167 最大径 167 器高 228 底径 (95)	出土区 層位 北 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢A 平縁である。全体として少し膨らむ植木鉢状を呈す。	地文は単軸絡糸体Rで口縁部以下主に縦方向に回転施文される。	深鉢A 15類	大木5

実測図版16 第50図

94 (1182)	44	口径 200 最大径 200 器高 (240) 底径 —	出土区 層位 北包 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢B 小波状口縁で外反する。胴部は少し膨らむ筒状を呈す。口縁部は水平方向に波状にひねられる。	頸部に平行沈線が2-3条巡り、その下位の胴部上位には鋸歯状の沈線が2列巡っている。地文は単軸絡糸体として口縁部以下縦や斜方向に回転施文される。	深鉢B 1類	大木5
95 (1225)	44	口径 180 最大径 (192) 器高 (105) 底径 —	出土区 層位 北包 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 表面摩耗 その他	深鉢C 口唇部は連続押圧により小波状を呈す。口縁部は少し肥厚する。胴部は球状に膨らむようである。	口縁部は無文、頸部に粘土紐が鋸歯状に貼り付けられるが剥落して一部しか残存しない。地文はR.L.で胴部上位以下横方向に回転施文されるがかなり摩滅している。	深鉢C 1類	大木5
96 (1096)	17 (2)	口径 (274) 最大径 (274) 器高 (160) 底径 —	出土区 層位 RI佳 II 焼成 普通 胎土 石英粒・粗砂混入 その他	深鉢B 4単位の波状口縁で内わきみに外反する。胴部は少し膨らむ。	波頂部は3つの山状に分かれ、中央の下位に丸いくぼみがある。口縁部下位は隆帯が回り、竹管により連続刺突施文される。頸部には粘土帯が回り篋状工具により連続押圧される。その下位から胴部にかけて竹管による細い平行沈線で円周に平行や波状に施文される。	深鉢B 2類	大木6
97 (1060)	44	口径 245 最大径 252 器高 (446) 底径 —	出土区 層位 北包 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 表面摩耗 その他	深鉢B 緩い波状口縁で外傾する。胴部は上位が少し膨らむ。	口縁部上位に太い沈線と丸いくぼみが交互に巡る。その下位から竹管による波状の平行沈線が胴部中位付近まで縦位に施文され、口頸部には円周に平行と波状の細い平行沈線が施文される。縦位と横位の平行沈線は交差しないようである。地文は単軸絡糸体として口頸部文様帯の下位から縦方向に回転施文される。	深鉢B 2類	大木6
98 (1137)	44	口径 169 最大径 169 器高 (228) 底径 —	出土区 層位 南包 II 焼成 不良 胎土 粗砂混入 その他	深鉢B 4単位の緩い波状口縁で外反する。胴部は少し膨らむ。	波頂部には3本の粘土帯が縦位に貼り付けられる。下位には粘土帯が横位に巡る。頸部には竹管による細い平行沈線が8条巡る。その下位には波頂部に対応する位置に粘土塊が4単位貼り付けられる。その粘土塊を中心として竹管による平行沈線が縦の波状や横方向の弧状に胴部中位付近まで施文される。地文はL.R.で胴部上位以下横方向に回転施文される。	深鉢B 2類	大木6
99 (1082)	44	口径 (174) 最大径 (186) 器高 (178) 底径 —	出土区 層位 北包 II 良 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢B 平縁で外反する。胴部は中位付近が膨らむようである。	口縁部に丸いくぼみが4単位あり、その下位の頸部にはボタン状の粘土塊の貼り付けが4単位ある。口縁部にはくぼみに寄るような斜位の沈線が連続施文される。頸部上位には平行沈線下位には鋸歯状の沈線が数条ずつ巡る。頸部のボタン状粘土塊の下位から胴部中位にかけて対角線入り長方形の平行沈線が施文される。地文はR.L.で胴部上位は縦方向、中位以下は横方向の回転施文がされる。	深鉢B 2類	大木6

実測図版17 第51図

100 (1221)	44	口径 (360) 最大径 (360) 器高 (314) 底径 —	出土区 層位 北包 II 焼成 普通 胎土 粗砂混入 その他	深鉢B 口縁部は緩い波状を呈する複合口縁である。胴部は少し膨らむ。	口縁部には棒状工具による連続押圧が巡る。頸部にも棒状工具で連続押圧された粘土帯が回り、その下位に串団子状の粘土塊が数単位貼り付けられる。口縁部には平行沈線、下位には波状の竹管による平行沈線が巡る。胴部は串団子状の粘土塊の下位から垂下する並行沈線とその両側に沿う波状平行沈線が胴部中位付近まで数単位施文され、それらの間を弧状や斜位の平行沈線が埋める。地文はR.L.で胴部上位以下縦や横方向に回転施文される。	深鉢B 2類	大木6
101 (1085)	44	口径 (187) 最大径 (187) 器高 (264)	出土区 層位 南 II 焼成 普通	深鉢B 4単位の波状の複合口縁で外反する。胴部は少し膨らむ。	波頂部は二山に分かれ、短い粘土帯が3本縦位に貼り付けられる。頸部には粘土帯が回り篋状工具で斜位に連続押圧される。波頂部に対応する胴部上位には2個、中	深鉢B 2類	大木6

実測図番号	写真図版	計測値	状態	器形	文様	分類	時期	
		口径 — 最大径 — 器高 — 底径 —	胎土 その他	粗砂混入 表面摩耗	らむ。			
102 (1097)	17 (3)	口径 (274) 最大径 (274) 器高 (366) 底径 —	出土区 層位 焼成土 胎土 その他	R1住 埋土 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位級の 浅い波状口縁である。 胴部は上位が少し膨らむ。	波頂部の下位には浅いくぼみがあり、それに対応する頸部下位には短い棒状粘土塊が貼り付けられる。口頸部には竹管による細い平行沈線が小波状に数列走り、下位には平行沈線が2列走る。棒状粘土塊を起点とする平行沈線による菱形文が胴部下位付近まで施文される。地文はLのようで胴部上位以下縦方向に回転施文される。	深鉢B 2類	大木6
103 (1142)	44	口径 (172) 最大径 (172) 器高 (204) 底径 —	出土区 層位 焼成土 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位級の波状口縁とかわれ、外反する。胴部は少し膨らむ。	波頂部に粘土帯が縦位の刻み状に貼り付けられる。頸部に竹管による細い平行沈線が円周に平行行くと小波状に数条走る。胴部には波頂部に対応する部分から平行沈線による菱形文の施文がなされるようである。地文はLRで胴部上位以下横方向に連続回転施文される。	深鉢B 2類	大木6
104 (1167)	44	口径 (240) 最大径 (247) 器高 (195) 底径 —	出土区 層位 焼成土 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁と思われ、外反する。胴部は中位付近が少し膨らむ。	口縁部に平行沈線が数条走り、頸部には平行沈線と竹管の連続刺突が走る。4分の1周ごとに竹管の列が変わるようである。頸部から胴部中位にかけて対角線入り長方形の平行沈線施文がされるようである。胴部中位の一部には竹管の連続刺突も走るようである。地文はLRで胴部上位以下主に縦方向に回転施文される。	深鉢B 2類	大木6

実測図版18 第52図

105 (1039)	44	口径 288 最大径 228 器高 (410) 底径 96	出土区 層位 焼成土 胎土 その他	南包 II 普通 粗砂混入 中間欠損	深鉢B 4単位級の波状口縁で外反する。胴部は少し膨らむ。	口縁部に篋状工具による連続押圧施文が走る。下位には棒状工具で連続押圧された粘土帯が走る。波頂部に対応する胴部上位には棒状粘土塊が4単位貼り付けられる。頸部には竹管による細い平行沈線が上位は小波状に下位は円周に平行に走る。棒状粘土塊から始まる平行沈線による菱形文が胴部下位付近まで施文される。地文はLRで胴部上位以下横方向に回転施文される。	深鉢B 2類	大木6
106 (1261)	45	口径 (278) 最大径 (278) 器高 (149) 底径 —	出土区 層位 焼成土 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で外反する。胴部は膨らむ。	口縁部上位と頸部に竹管の連続刺突が走る。その間には竹管による波状と水平の平行沈線が交互に走る。頸部下位には波状の平行沈線が走る。その下位から一部に縦位の平行沈線が施文される。地文はRLで胴部上位以下横方向に回転施文される。	深鉢B 2類	大木6
107 (1240)	45	口径 (210) 最大径 (210) 器高 (110) 底径 —	出土区 層位 焼成土 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位級の波状口縁で内わんぎみに外傾する。胴部は膨らむ。	波頂部の下位にボタン状の粘土塊の貼り付けがある。その上位には口唇部に沿って竹管の連続刺突と沈線が走る。その下位はボタン状粘土塊を中心とする弧状沈線が連続して施文される。頸部に沈線が走り、胴上位には波頂部に対応する位置から平行沈線の弧状文が施文される。	深鉢B 2類	大木6
108 (1029)	45	口径 244 最大径 244 器高 227 底径 120	出土区 層位 焼成土 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢B 4単位級の波状口縁で外反する。胴部は細長い筒状を呈す。	口縁部上位が少しくびれ、波底部には粘土塊が貼り付けられる。その下位と頸部には竹管による平行沈線が走り平行沈線間には鋸歯状の平行沈線が数列走る。地文はRLで文様帯の下位から横方向に回転施文される。	深鉢B 3類	大木6
109 (1072)	17 (5)	口径 367 最大径 367 器高 529 底径 199	出土区 層位 焼成土 胎土 その他	R1住 埋土 普通 粗砂混入 表面摩耗	小波状口縁で外反する。胴部はやや膨らむ。底部付近は少し外に張り出す。	口縁部上位に平行沈線による鋸歯状文が走る。頸部は平行沈線が走り内部は篋状工具により連続刺突されている。その上下位には平行沈線による小波状文が数列走っている。地文はRLの撚りと同方向に給けた附加条で、胴部上位は縦方向にその下位は横方向に回転施文している。	深鉢B 3類	大木6
110 (1230)	45	口径 (205) 最大径 (205) 器高 (121) 底径 —	出土区 層位 焼成土 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位級の波状口縁で肥厚し、外反する。胴部は膨らむ。	波頂部に輪状の隆沈線がある。頸部に隆帯が走り篋状工具で連続押圧されている。その下位には竹管による小波状の平行沈線が3列走り、さらに下位には円周に平行な沈線が5条走っている。	深鉢B 3類	大木6

実測図版19 第53図

111 (1135)	45	口径 270 最大径 270 器高 (183) 底径 —	出土区 層位 焼成土 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で外反する。胴部は少し膨らむ。	口縁部竹管による平行沈線連続刺突の弧状文が連続して走り、頸部には同様な施文が3条走る。地文はLで胴部上位以下縦方向に回転施文される。	深鉢B 4類	大木6
112 (1263)	45	口径 (180) 最大径 (184) 器高 (113) 底径 —	出土区 層位 焼成土 胎土 その他	北包 II 普通 細砂混入	深鉢B 口縁部は浅い波状を呈し外反する。胴部は少し膨らむ。	口縁部上位には口唇部に沿った、頸部には円周に平行な竹管の押し引き文が走り、その間に竹管の押し引きによる弧状文が連続するようである。地文は単軸絡条帯Rで胴部上位は縦方向、その下位は横方向に回転施文される。	深鉢B 4類	大木6
113 (1030)	45	口径 224 最大径 224 器高 (278) 底径 —	出土区 層位 焼成土 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は浅い波状を呈し内わんぎみに外傾する。胴部はやや膨らむ筒状。	口頸部には平行沈線が5条走り、沈線間に篋状工具の連続刺突が施文される。地文は一端を結節したLRで胴部上位以下縦方向に連続回転施文している。	深鉢B 5類	大木7a
114 (1251)	45	口径 (279) 最大径 (279) 器高 (259) 底径 —	出土区 層位 焼成土 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で外反する。胴部は少し膨らむ。	口縁部に平行沈線と波状の沈線が交互に走る。頸部には隆帯が走り篋状工具で三角形に連続施文される。地文は一端に結節のあるLRを文様帯の下位から間隔をおいて縦方向に連続回転施文している。	深鉢B 5類	大木7a
115 (1159)	45	口径 (282) 最大径 (282) 器高 (120) 底径 —	出土区 層位 焼成土 胎土	北包 II 普通 石英粒 粗砂混入	深鉢B 平縁で内わんぎみに外傾する。胴部は筒状のようである。	口縁部に沈線と篋状工具の連続刺突が交互に2単位走り、頸部に平行沈線が2条走る。地文はLを文様帯下位から縦方向に回転施文している。	深鉢B 5類	大木7a
116 (1268)	45	口径 248 最大径 248 器高 (98) 底径 —	出土区 層位 焼成土 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で内わんぎみに外傾する。屈曲部はやや突出する。胴部は筒状と思われる。	口頸部下位に弧状の粘土塊が4単位貼り付けられる。口頸部には平行沈線と竹管の押し引きが数条走るが4分の1周ごとに変わるようでもある。地文はRLを頸部以下横方向に回転施文する。	深鉢B 5類	大木7a

実測図番号	写真図版	計測値	状態	器形	文様	分類	時期	
117 (1194)	45	口径 268 最大径 (268) 器高 (55) 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で外傾する。屈曲部は突出する。胴部はたいぶ膨らむ様子。	口縁部の上・下位に平行沈線が巡り、その間に鋸歯状の沈線が施文される。頸部には篋状工具による連続刺突が2列以上巡る。	深鉢B 5類	大木7a
118 (1215)	18 (17)	口径 (368) 最大径 (296) 器高 (123) 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	S1住 埋土 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢B 口縁部は緩い波状を呈し内わんぎみに外傾する。胴部は少し膨らむようである。	波頂部がくぼみ、下位に瘤状の粘土塊が縦位に2つずつ4単位貼り付けられる。口頸部には平行沈線と波状沈線が巡り、4分の1周分には格子状に交差する連続刻み施文がある。また頸部下位には篋状工具の連続刺突が巡る地文は一端に結節のあるLRを文様帯以下縦方向に連続回転施文しているようである。	深鉢B 5類	大木7a

実測図版20 第54図

119 (1216)	45	口径 (190) 最大径 (189) 器高 (92) 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢B 波状口縁で外反する。頸部の屈曲は大きい。胴部は膨らむ。	口縁部は水平方向に交互にひねる波状である。口縁部は無文。頸部に粘土帯が巡り、篋状工具で連続刺突されている。その下位に平行沈線が3条巡る。	深鉢B 5類	大木7a
120 (1214)	18 (16)	口径 (337) 最大径 (350) 器高 (150) 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	S1住 埋土 普通 粗砂混入 その他	深鉢B 4単位の緩い波状口縁で内わんぎみに外傾する。頸部の屈曲部は内側がやや突出する。胴部は少し膨らむ。	波頂部がくぼみ、下位に瘤状の粘土塊が縦位に2個ずつ4単位貼り付けられる。口頸部には円周に並行な沈線と波状の沈線が交互に巡る。地文は両端に結節のあるRLを頸部以下間隔をおいて縦位に連続回転施文する。	深鉢B 5類	大木7a
121 (1133)	46	口径 318 最大径 318 器高 (243) 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	北 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢B 平縁で少し外反する。胴部は筒状を呈す。	口縁部に太い沈線による弧状施文がなされ、頸部は細い平行沈線が数条巡る。胴部は摩滅しているか無文のようである。	深鉢B 5類	大木7a
122 (1076)	20 (30)	口径 (170) 最大径 (176) 器高 (240) 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	北柱穴群 埋土 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢B 平縁で少し外反する。胴部は少し膨らむ筒状を呈す。	口縁部に太い沈線による弧状施文がなされる。地文は一端に結節のあるLRで頸部以下縦方向に連続回転施文される。	深鉢B 5類	大木7a
123 (1130)	46	口径 272 最大径 272 器高 (158) 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は緩い波状で内わんぎみに外傾する。胴部は少し膨らむ。	口縁部に沈線による弧状文が上下交互に巡り、下位に竹管の連続刺突が巡る。頸部には平行沈線が4条巡る。地文はRLで文様帯の下位から横方向に回転施文される。	深鉢B 5類	大木7a
124 (1121)	46	口径 215 最大径 215 器高 (175) 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で少し外反する。胴部は少し膨らむ。	口縁部にボタン状粘土塊が4単位貼り付けられる。口縁部上・下位に粘土帯が巡り、竹管で連続刺突施文される。その間には弧状の沈線文が上下交互に巡る。頸部には平行沈線が4条巡る。地文はLRで頸部以下横方向に回転施文される。	深鉢B 5類	大木7a
125 (1168)	46	口径 271 最大径 271 器高 (200) 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で内わんぎみに外傾する。胴部は少し膨らむ。	口縁部は沈線が弧状に施文される。頸部には平行沈線が3条巡る。地文は一端に結節のあるRLで頸部以下横方向に回転施文している。	深鉢B 5類	大木7a
126 (1252)	46	口径 (193) 最大径 (193) 器高 (139) 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で内わんぎみに外傾する。屈曲部は内側にやや突出する。胴部は少し膨らむ。	口縁部に平行沈線による弧状文が上下交互に巡り、棒状工具の連続刺突も施文される。頸部には平行沈線が2条巡っている。地文はRLで胴部上位以下横方向に回転施文される。	深鉢B 5類	大木7a

実測図版21 第55図

127 (1163)	46	口径 335 最大径 335 器高 (463) 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は緩い波状で外反する。胴部は少し膨らむ。	口縁部に平行沈線によるW状施文が連続して巡る。頸部には平行沈線が3条巡る。地文は単軸絡条体Lを胴部上位以下縦方向に連続回転施文している。	深鉢B 5類	大木7a
128 (1143)	46	口径 200 最大径 200 器高 (130) 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	北 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は緩い波状を呈し内わんぎみに外傾する。胴部は少し膨らむ。	口縁部に平行沈線による弧状文が上下交互に連続施文される。頸部には平行沈線が2条巡り、沈線間に棒状工具による連続刺突が巡る。地文はRLを胴部上位以下主に横方向に回転施文している。	深鉢B 5類	大木7a
129 (1233)	46	口径 (234) 最大径 (234) 器高 (280) 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は緩い波状を呈し内わんぎみに外傾する。胴部は少し膨らむ。	口縁部には弧状の平行沈線が上下交互に連続施文される。地文はRL・LR(結束第1種・羽状)を頸部以下縦方向に回転施文している。	深鉢B 5類	大木7a
130 (1153)	46	口径 188 最大径 (180) 器高 (80) 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で内わんぎみに外傾する。胴部は少し膨らむようである。	口縁部には弧状の平行沈線が上下交互に連続施文され、一部は波状になる。頸部には平行沈線が2～3条巡る。地文は一端に結節のあるLRを胴部上位以下縦方向に連続回転施文している。	深鉢B 5類	大木7a
131 (1279)	46	口径 (308) 最大径 (308) 器高 (194) 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は緩い波状を呈し内わんぎみに外傾する。胴部は少し膨らむ。	口縁部には弧状の平行沈線が上下交互に連続施文され、一部は波状になる。頸部には円周に平行な沈線と波状文が巡る。地文はLR・RL(結束第2種・羽状)を胴部上位以下縦方向に連続回転施文している。	深鉢B 5類	大木7a
132 (1013)	46	口径 226 最大径 (291) 器高 — 底径 —	出土区 層位 成胎土 その他	北包 II 良 粗砂混入 表面摩耗	深鉢B 口縁部は緩い波状を呈し、内わんぎみに外傾する。胴部は少し膨らむ。	口縁部には弧状の平行沈線が上下交互に連続施文される。地文はRL・LR(結束第1種・羽状)を口縁部以下縦方向に連続回転施文する。	深鉢B 5類	大木7a

実測図版22 第56図

実測図番号	写真図版	計測値	状態	器形	文様	分類	時期	
133 (1106)	47	口径 298 最大径 298 器高 (394) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は緩い波状を呈す。複合口縁で少し外反する。胴部は筒状を呈す。	波頂部は小波状を呈す。一部の下部には沈線が楕円形状に施されそこを起点とする平行沈線が巡る。波状になる所もある。頸部には平行沈線が5～6条巡る。地文はR・L・R(結束第1種・羽状)で頸部以下縦方向に回転施文される。	深鉢B 5類	大木7a
134 (1254)	47	口径 (287) 最大径 (287) 器高 (229) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で外傾する。屈曲部内側は少し突出する。胴部は筒状を呈す。	口縁部に棒状粘土塊が縦横交互に4分の1周ごとに貼り付けられる。その粘土塊を中心とした平行沈線や弧状の沈線が施文される。頸部には沈線が1条巡り、一部に棒状の粘土塊が貼り付けられる。地文は一端に結節のあるR・L・Rで文様帯の下位から横方向に回転施文される。	深鉢B 6類	大木7a
135 (1008)	47	口径 214 最大径 214 器高 306 底径 123	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 良 粗砂混入	深鉢B 平縁で内わんぎみに外傾する。胴部はやや膨らむ。	口頸部文様帯は上・下位に巡る沈線で区画され、弧状や波状の沈線で構成される文様が4単位巡る。地文は木目状の単軸絡糸体Lを胴部上位以下縦方向に連続回転施文している。	深鉢B 6類	大木7a

実測図版23 第57図

136 (1227)	47	口径 (476) 最大径 (476) 器高 (220) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で外傾する。口唇部付近は肥厚する。胴部は膨らむ。	口縁部に粘土帯が渦巻状に4単位貼り付けられ、それらの間を平行沈線で区画し内部に鋸歯状沈線が施文される。頸部には小波状の沈線が巡る。地文はL・R・L(結束第2種・羽状)で文様帯以下横方向に回転施文される。	深鉢B 6類	大木7a
137 (1201)	20 (34)	口径 (342) 最大径 (342) 器高 (109) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	E層附土 埋土 良 石英粒混入	深鉢B 平縁で内わんぎみに外傾する。胴部少し膨らむ。	口縁部の上下両端に竹管の連続刺突が巡る。口縁に棒状の粘土帯と渦巻状の粘土帯が4分の1周ごとに交互に貼り付けられ、渦巻状の粘土帯を囲むように平行沈線による菱形文が施文される。頸部には沈線が巡る。地文はL・Rを胴部上位から回転施文している。	深鉢B 6類	大木7a
138 (1166)	47	口径 182 最大径 182 器高 255 底径 105	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位の波状口縁で外反する。胴部は少し膨らむ。	波頂部には孔があり橋状を呈す。波頂部のほぼ下位の口縁部と頸部には粘土塊が縦位に2個ずつ4単位貼り付けられる。口頸部文様帯は二段に分かれ、弧状の沈線と波状の沈線が連続して施文される。地文は木目状の単軸絡糸体Lを文様帯以下縦方向に連続回転施文している。	深鉢B 6類	大木7a
139 (1001)	47	口径 (210) 最大径 (222) 器高 (354) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 石英粒・粗砂混入	深鉢B 平縁で内わんぎみに外傾する。胴部は少し膨らむ。	口縁部に2本1組の縦位の粘土帯が4単位貼り付けられる。口縁部の上下端に沈線が巡り、弧状の平行沈線や波状沈線が施文される。頸部には平行沈線と波状沈線が巡る。地文はR・L・R(結束第1種・羽状)で頸部以下横方向に回転施文される。	深鉢B 6類	大木7a
140 (1149)	47	口径 (182) 最大径 (200) 器高 (88) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で内わんぎみに外傾する。胴部は膨らむ。	口縁部に縦位の3本の沈線が4単位施文される。上下端に鋸歯状の沈線が巡り、円形竹管の連続刺突が巡る。頸部から胴部上位には鋸歯状や渦巻状、弧状の沈線施文が巡る。	深鉢B 6類	大木7a
141 (1145)	47	口径 253 最大径 (253) 器高 (120) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は緩い波状で内わんぎみに外傾する。胴部は少し膨らむ。	口縁部には平行する弧状沈線が連続して波状に巡り、下位の空間には円形のくぼみ、上位の空間には平行沈線が施文される。頸部には平行沈線が3条巡る。地文は一端に結節のあるL・Rで文様帯の下位から縦方向に連続回転施文される。	深鉢B 6類	大木7a

実測図版24 第58図

142 (1123)	48	口径 327 最大径 327 器高 539 底径 (210)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で少し外反する。胴部は中位が少し膨らむ。	口縁部は弧状の平行沈線が上下交互に巡り、弧の中心付近には棒状工具の押圧が施文される。頸部には平行沈線が5条巡る。地文は一端を結節するL・Rを文様帯以下縦方向に連続回転施文している。	深鉢B 6類	大木7a
143 (1150)	48	口径 (338) 最大径 (344) 器高 (392) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で少し外反する。胴部は少し膨らむ。	口縁部に瘤状の粘土塊が4単位貼り付けられ、それを囲むように弧状の沈線が連続して施文される。文様帯の上下端は平行沈線で区画される。頸部には沈線が巡る。地文はR・L・R(結束第1種・羽状)で胴部上位以下横方向に回転施文される。	深鉢B 6類	大木7a
144 (1228)	17 (7)	口径 (180) 最大径 (180) 器高 (158) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	R1住 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で少し外反する。胴部はやや膨らむ。	口縁部に渦巻状や弧状の沈線が施文される。頸部には竹管の押し引きによるような波状文と円形竹管の連続刺突が2列ずつ巡っている。地文はL・Rで胴部上位以下横方向に回転施文される。	深鉢B 6類	大木7a

実測図版25 第59図

145 (1067)	48	口径 185 最大径 185 器高 (144) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で外傾する。胴部内側が少し突出する。胴部は少し膨らむ。	口縁部に縦4本、横3本の沈線が交互に4単位ずつ巡る。頸部に平行沈線が2条巡る。地文は刷毛目状の糸状で胴部上位以下縦方向に施文される。	深鉢B 7類	大木7a
146 (1126)	48	口径 (220) 最大径 (220) 器高 (200) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北 普通 石英粒・粗砂混入	深鉢B 平縁で外反する。胴部は筒状を呈す。	口縁部に縦・横4本ずつの沈線が交互に巡るようである。頸部には沈線が1条巡る。地文は一端を結節したL・Rで胴部上位以下縦方向に連続回転施文されるようだがかなり摩滅している。	深鉢B 7類	大木7a
147 (1243)	48	口径 (225) 最大径 (225) 器高 (95) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で内わんぎみに外傾する。胴部は膨らむ。	口縁部に縦・横3本ずつの沈線が交互に巡り、横位の沈線間には竹管の連続刺突が巡る。頸部には平行沈線と竹管の連続刺突が交互に2条ずつ巡る。地文はL・Rで胴部上位以下主に横方向に回転施文される。	深鉢B 7類	大木7a
148 (1073)	18 (11)	口径 (150) 最大径 (162) 器高 (100) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	S1住 埋土 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位の波状複合口縁である。胴部は膨らむ。	波頂部下位に3～4条の縄文原体Lの側面圧痕が縦位に施され、波頂部間には縄文原体Lの横位の側面圧痕が4～5条施文される。地文はR・Lで文様帯以下横方向に回転施文される。	深鉢B 8類	大木7a

実測図番号	写真図版	計測値	状態	器形	文様	分類	時期	
149 (1211)	48	口径 (275) 最大径 (275) 器高 (284) 底径 —	出土区 層位 II 普通 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は緩い波状で内わんぎみに外傾する。胴部は少し膨らむ。	口縁部は縄文原体Rの側面圧痕を縦・横4本ずつ交互に4単位ずつ施文する。地文はLを胴部上位以下縦方向に回転施文する。	深鉢B 8類	大木7a
150 (1065)	48	口径 380 最大径 380 器高 526 底径 135	出土区 層位 II 普通 焼成 胎土 その他	南(RI) II 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢B 4単位の波状口縁でやや肥厚し外反する。胴部は少し膨らむ。	波頂部の下位は構内形状にくぼむ。そのくぼみを除いて口縁部上位には組紐が2条押圧される。その下位には組紐の圧痕が平行した弧状に連続して施文される。頸部には隆帯が巡り篋状工具で連続押圧される。地文はL.Rで胴部上位以下横方向に回転施文される。	深鉢B 9類	大木7a

実測図版26 第60図

151 (1015)	49	口径 293 最大径 293 器高 472 底径 133	出土区 層位 II 普通 焼成 胎土 その他	南包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は緩い波状で内わんぎみに外傾する。胴部は少し膨らむ。	口縁部に環状の粘土帯が4単位貼り付けられる。また平行沈線が6-7条巡っている。頸部には粘土帯が2本巡り篋状工具で連続押圧されている。粘土帯間には鋸歯状の沈線が2条巡る。地文は一端に結節のあるL.Rで胴部上位以下縦方向に連続回転施文される。	深鉢B 10類	大木7a
152 (1249)	49	口径 (203) 最大径 (203) 器高 (184) 底径 —	出土区 層位 II 普通 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 細礫・粗砂混入	深鉢B 平縁で少し外反する。胴部はやや膨らむ筒状を呈す。	口縁部無文。頸部に粘土帯が巡り棒状工具で連続押圧される。地文は両端を結節したL.Rを胴部上位以下横方向に回転施文しているがだいぶ摩滅している。	深鉢B 10類	大木7a
153 (1267)	49	口径 227 最大径 227 器高 (60) 底径 —	出土区 層位 II 普通 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢B 平縁で少し外反する。胴部は膨らむ。	口縁部無文。頸部に隆帯が巡り篋状工具により連続押圧施文される。地文はL.Rを胴部上位以下横方向に回転施文しているようである。かなり摩滅している。	深鉢B 10類	大木7a
154 (1092)	17 (4)	口径 259 最大径 (259) 器高 151 底径 —	出土区 層位 II 普通 焼成 胎土 その他	R1住 埋土 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位の波状口縁で内わんぎみに外傾する。胴部は少し膨らむ。	波頂部には弧状の粘土帯の貼り付けと丸いくぼみがあり、波底部には棒状粘土帯の縦位の貼り付けがある。また口縁部の上・下位は隆帯状になっている。頸部には粘土帯が巡り篋状工具で連続押圧されている。この粘土帯と口縁部隆帯の間には波状の沈線が数条巡っている。地文はL.Rを胴部に横方向に回転施文しているようである。	深鉢B 10類	大木7a
155 (1058)	20 (32)	口径 189 最大径 189 器高 252 底径 98	出土区 層位 II 普通 焼成 胎土 その他	南柱穴群 埋土 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は緩い波状で内わんぎみに外傾する。屈曲部の内側は突出する。胴部は少し膨らむ。	口縁部は縦位の粘土帯貼り付けにより4分割される。頸部には横位の粘土帯が巡り、いずれの粘土帯も篋状工具で連続押圧される。口縁部の区画内には平行沈線と鋸歯状の沈線が施文される。地文は両端に結節のあるL.Rを胴部上位以下間隔をおいて縦方向に連続回転施文する。	深鉢B 11類	大木7a
156 (1037)	49	口径 (212) 最大径 (212) 器高 (281) 底径 —	出土区 層位 II 普通 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位の緩い波状口縁で内わんぎみに外傾する。屈曲部は内側に突出する。胴部は膨らむ。	波頂部に縦位の粘土帯が貼り付けられ、頸部には横位の粘土帯が巡る。いずれの粘土帯も篋状工具で連続押圧される。口縁部は平行沈線と竹管の連続刺突が巡る。地文は一端を結節し端の1本を結節に絡らせたR.Lを胴部上位以下縦方向に連続回転施文している。	深鉢B 11類	大木7a

実測図版27 第61図

157 (1262)	49	口径 (370) 最大径 (370) 器高 (110) 底径 —	出土区 層位 II 普通 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位の波状口縁で内わんぎみに外傾する。胴部は膨らむ様子。	波頂部に縦位の粘土帯が貼り付けられ篋状工具で連続押圧される。粘土帯間を含む口頭部には平行沈線と篋状工具の連続押圧が巡る。	深鉢B 11類	大木7a
158 (1134)	49	口径 373 最大径 373 器高 397 底径 —	出土区 層位 II 普通 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢B 平縁で内わんぎみに外傾する。胴部はやや膨らむ。	口縁部に2本1組の粘土帯が4単位貼り付けられ篋状工具で連続押圧される。頸部には粘土帯が巡り篋状工具で連続押圧される。粘土帯で区画された内部には平行沈線と篋状工具の連続刺突による弧状文が施文される。地文は両端に結節のあるR.L・L.R(結束第1種・羽状)を胴部上位以下間隔をおいて縦方向に連続回転施文する。	深鉢B 11類	大木7a
159 (1224)	49	口径 (335) 最大径 (335) 器高 (212) 底径 163	出土区 層位 II 普通 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位の波状口縁で外傾する。屈曲部内側は突出する。胴部は膨らむ。	波頂部には縦位の粘土帯、頸部には横位の粘土帯が貼り付けられ篋状工具で連続押圧される。口縁部文様帯は4分の1周ごとに異なるよう一区画は平行沈線と波状文が施文され、一区画は平行沈線と竹管の連続押圧が施文されている。地文は両端を結節したR.L・L.R(結束第2種・羽状)を胴部上位以下間隔をおいて縦方向に連続回転施文する。	深鉢B 11類	大木7a

実測図版28 第62図

160 (1125)	50	口径 (296) 最大径 (300) 器高 (505) 底径 —	出土区 層位 II 普通 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で内わんぎみに外傾する。胴部は少し膨らむ。	口縁部に2本1組の縦位の粘土帯が4単位巡り、篋状工具で連続押圧されている。粘土帯間には平行沈線と波状の沈線が施文される。頸部下位は肥厚し篋状工具で鋸歯状に押圧施文される。地文は一端を結節したR.L・L.R(結束第1種・羽状)を胴部上位以下縦方向に連続回転施文している。	深鉢B 11類	大木7a
161 (1005)	50	口径 192 最大径 192 器高 (198) 底径 —	出土区 層位 II 普通 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位の波状口縁で内わんぎみに外反する。胴部は少し膨らむ。	波頂部には縦位の粘土帯が貼り付けられ竹管の連続刺突が施文される。粘土帯間には沈線による三角形や鋸歯状の施文がなされる。頸部には鋸歯状の沈線文・竹管の連続刺突・平行沈線が巡る。地文はL.Rで胴部上位以下横方向に回転施文する。	深鉢B 11類	大木7a
162 (1200)	50	口径 (272) 最大径 (272) 器高 (240) 底径 —	出土区 層位 II 普通 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は緩い波状で内わんぎみに外傾する。屈曲部は内側に突出する。胴部は少し膨らむ。	口縁部に粘土帯が縦位に4単位貼り付けられる。地文はR.L・L.R(結束第1種・羽状)を口縁部以下横方向に回転施文する。一部は粘土帯上にも施文される。	深鉢B 11類	大木7a
163 (1264)	50	口径 (212) 最大径 (220) 器高 (83) 底径 —	出土区 層位 II 普通 焼成 胎土 その他	北 II 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位の緩い波状口縁で内わんぎみに外反する。胴部は膨らむと思われる。	波頂部から縦位の粘土帯が貼り付けられる。粘土帯間には平行沈線と波状の平行沈線が交互に巡る。地文はL.Rを口縁部以下横方向に回転施文している。	深鉢B 11類	大木7a

実測図番号	写真図版	計測値	状態	器形	文様	分類	時期	
164 (1160)	50	口径 (474) 最大径 (474) 器高 (276) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位の波状複合口縁で少し外反する。胴部は膨らむ。	波頂部には縦位の粘土帯が貼り付けられ、口縁部下位には粘土帯が巡る。粘土帯上は篋状工具で連続押圧される。縦位の粘土帯間には平行沈線と竹管の連続刺突が巡っている。地文はR L・L R (結束第1種・羽状)で文様帯下位から間隔をおいて縦方向に連続回転施文している。	深鉢B 11類	大木7a

実測図版29 第63図

165 (1192)	50	口径 370 最大径 370 器高 (339) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位の波状複合口縁で少し外反する。胴部は少し膨らむ。	波頂部の内外には環状の貼り付けがあり、外側には粘土帯が縦位に貼り付けられる。粘土帯間には刷毛目状の条痕が2〜3列施文され、粘土帯には同様な条痕が縦位に1列胴部中位付近まで施文される。地文はR Lを口縁部以下横方向に回転施文する。	深鉢B 11類	大木7a
166 (1040)	18 (8)	口径 (200) 最大径 (200) 器高 — 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	R I住 埋土 不良 粗砂混入 表面摩耗	深鉢B 4単位の波状口縁で外反する。胴部は少し膨らむ。	波頂部は二山状になり、そこから口縁部にかけて8の字状の隆帯が巡る。頭部には短い粘土紐が間隔をおいて貼り付けられる。地文は一端を結節したR Lを胴部上位以下縦方向に連続回転施文する。	深鉢B 12類	大木7a
167 (1161)	50	口径 (215) 最大径 (215) 器高 (95) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は4単位の波状を呈し短く外反する。胴部は少し膨らむ。	波頂部と波底部には粘土紐が縦位に貼り付けられ、さらに波頂部には環状の粘土紐が貼り付けされる。環状粘土紐の上位から波底部粘土紐に向かって弧状の粘土紐が貼り付けされる。地文はL Rを頭部以下縦方向に回転施文している。	深鉢B 12類	大木7a
168 (1157)	50	口径 228 最大径 (260) 器高 (185) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位の緩い波状口縁で少し外反する。胴部は膨らむ。	波頂部には粘土紐が3本1組で縦位に貼り付けされる。粘土帯間には棒状工具の連続押圧が巡る。頭部には粘土帯が巡り平行沈線が縦向に施文される。地文はR Lを胴部上位以下主に縦方向に連続回転施文する。	深鉢B 12類	大木7a
169 (1139)	51	口径 (362) 最大径 (362) 器高 (340) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 4単位の波状口縁で内わんきみに外傾する。胴部は膨らむ。	波頂部に環状の粘土紐が貼り付けられ、その下位には粘土紐がX字状に貼り付けされる。地文はR Lを頭部以下主に縦方向に回転施文している。	深鉢B 13類	大木7a
170 (1275)	51	口径 (184) 最大径 (184) 器高 (99) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入 石英粒混入 表面摩耗	深鉢B 平縁の複合口縁で少し外反する。胴部は少し膨らむ。屈曲部は内側に少し突出する。	口縁部に太い斜位の沈線が連続施文される。地文はL Rを頭部以下主に縦方向に回転施文しているようである。	深鉢B 14類	大木6 ~7a
171 (1244)	51	口径 (189) 最大径 (189) 器高 (111) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で外反する。胴部はやや膨らむ。	頭部に粘土帯が巡り篋状工具で連続刻み施文される。地文はL Rを口縁部以下主に横方向に回転施文している。	深鉢B 15類	大木6 ~7a

実測図版30 第64図

172 (1098)	19 (20)	口径 (205) 最大径 (256) 器高 (112) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	S I住 埋土 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は緩い波状を呈す複合口縁で外反する。胴部は膨らむ。	地文はL Rを口縁部以下横方向に回転施文する。	深鉢B 16類	大木6 ~7a
173 (1276)	51	口径 (256) 最大径 (256) 器高 (93) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で外反する。胴部は膨らむ。	口縁部無文。地文は格子状の単軸絡糸体Rを頭部以下縦方向に回転施文する。	深鉢B 16類	大木5 ~7a
174 (1083)	18 (10)	口径 (198) 最大径 (198) 器高 (130) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	R I住 埋土 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で外反する。胴部は膨らむ。	地文はR Lを口縁部以下主に横方向に回転施文する。	深鉢B 16類	大木5 ~7a
175 (1006)	51	口径 112 最大径 112 器高 118 底径 (65)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	南包 II 普通 粗砂混入 表面劣化	深鉢B 口縁部は緩い波状で外反する。胴部は少し膨らむ。	地文は一端を結節したL Rを口縁部以下間隔をおいて縦方向に連続回転施文する。表面は剥落している部分が多い。	深鉢B 16類	大木6 ~7a
176 (1141)	51	口径 (204) 最大径 (204) 器高 — 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 良 粗砂混入	深鉢B 平縁で外反する。胴部は少し膨らむ。	地文は撚りと同方向に附加糸を絡らげたL Rを口縁部以下横方向に回転施文している。	深鉢B 16類	大木6 ~7a
177 (1212)	51	口径 (166) 最大径 (166) 器高 (124) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は緩い波状を呈し少し外反する。胴部は少し膨らむ。	地文は刷毛目状の条痕文で口縁部以下縦方向に施文される。	深鉢B 16類	大木6 ~7a
178 (1222)	51	口径 (146) 最大径 (146) 器高 (167) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢B 口縁部は緩い波状を呈し少し外反する。胴部は少し膨らむ。	地文は単軸絡糸体Lを頭部以下主に縦方向に回転施文している。	深鉢B 16類	大木5 ~7a
179 (1046)	17 (6)	口径 189 最大径 189 器高 (203) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	R I住 埋土 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で外反する。胴部は少し膨らむ。	口縁部無文。頭部〜胴部上位に両端を結節したL Rを横方向に回転施文する。その下位には2本の糸を反対向きに連続して結節したものを横方向に回転施文している。	深鉢B 16類	大木6 ~7a
180 (1231)	51	口径 (200) 最大径 (206) 器高 (76)	出土区 層位 焼成	北 不良	深鉢B 平縁で少し外反する。胴部は少し膨らむ。	器表面は摩滅しており地文は不明。	深鉢B 16類	大木6 ~7a

実測図番号	写真図版	計測値	状態	器形	文様	分類	時期
		口径 — 最大径 — 器高 — 底径 —	胎土 粗砂混入 表面摩耗				
181 (1033)	51	口径 204 最大径 204 器高 (240) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	R1住 埋土 普通 粗砂混入	深鉢B 平縁で外反する。胴部は少し膨らむ。	地文は一端を結節するLRを口縁部以下縦方向に回転施文している。	深鉢B 16類 大木6 ~7a

実測図版31 第65図

182 (1012)	51	口径 136 最大径 (147) 器高 272 底径 103	出土区 層位 焼成 胎土 その他	南包 II 不良 粗砂混入 表面摩耗	深鉢B 平縁で外反する。胴部は少し膨らむ。	地文はR1で頸部以下主に横方向に回転施文しているようである。器表面はだいぶ摩滅している。	深鉢B 16類 大木5 ~7a
183 (1038)	51	口径 (283) 最大径 (283) 器高 (336) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	南包 II 普通 粗砂混入	深鉢C 4単位の波状口縁で外反する。胴部上半は球状に膨らみ下半は台状になる。	波頂部は二山状になる。口縁部には鋸歯状の沈線が3~4条巡る。頸部は篋状工具の連続刺突が2~3列巡る。地文は結節部の一端を結節部に絡らせたLRを胴部上位以下縦方向に連続回転施文している。	深鉢C 1類 大木5 ~6
184 (1101)	52	口径 (308) 最大径 (308) 器高 (245) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢C 4単位の波状口縁で内わんぎみに外反する。胴部上半は球状に膨らみ、下半は台状を呈す。	口縁部は竹管による平行沈線で波状に施文される。頸部には同様な平行沈線が巡る。地文は格子状の単軸絡糸体Rを頸部以下縦方向に回転施文している。	深鉢C 1類 大木5 ~6
185 (1009)	52	口径 256 最大径 292 器高 (203) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢C 平縁で内わんぎみに外傾する。胴部上半は球状に膨らみ下半は台状を呈す。	口縁部は平行沈線で長方形に区画され内部に竹管の連続刺突と波状沈線等が施文される区画文が巡る。頸部~胴部上位には沈線とそれに沿う竹管の連続刺突で菱形や鋸歯状に施文される。	深鉢C 2類 大木6
186 (1059)	52	口径 307 最大径 307 器高 414 底径 181	出土区 層位 焼成 胎土 その他	南包 II 普通 粗砂混入	深鉢C 4単位の波状口縁で内わんぎみに外傾する。胴部上半は球状に膨らみ下半は台状を呈す。	波頂部は二山状になり、さらにその間に棒状工具で押圧している。頸部には竹管による細い平行沈線が鋸歯状に4~5条巡る。地文はLRで胴部上位以下主に横方向に回転施文される。	深鉢C 1類 大木5 ~6

実測図版32 第66図

187 (1093)	52	口径 (218) 最大径 (218) 器高 (132) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 良 粗砂混入	深鉢C 平縁で外反する。胴部上半は球状に膨らみ、下半は台状を呈すと思われる。	口縁部は竹管の押し引きが弧状や円周に平行に施文される。胴部上位も竹管の押し引きによる山形文や同心円文が施文される。	深鉢C 2類 大木6
188 (1021)	52	口径 286 最大径 320 器高 (247) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 良 粗砂混入	深鉢C 8単位の波状口縁で外反する。胴部上半は球状に膨らみ、下半は台状を呈すと思われる。	口縁部は無文。胴部上位には4個1組の粘土塊が縦横・横位交互に4単位ずつ施文される。胴部上半は竹管による細い平行沈線が弧状や鋸歯状に施文されている。地文はLRを頸部以下縦方向に回転施文している。	深鉢C 2類 大木6
189 (1250)	52	口径 (221) 最大径 (250) 器高 (140) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢C 平縁で少し外反する。胴部上半は球状に膨らみ、下半は球状を呈すと思われる。	口縁部上下位には竹管の連続刺突が巡る。頸部と胴部上半中位付近には竹管による細い平行沈線が巡り、その間に同じ平行沈線による半円状や山形状の施文がなされている。地文はLRを口縁部と胴部上位以下に横方向に回転施文している。	深鉢C 2類 大木6
190 (1090)	52	口径 (298) 最大径 (308) 器高 (186) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢C 平縁で内わんぎみに外傾する。屈曲部は内側に突出する。胴部上半は球状に膨らみ、下半は台状を呈すと思われる。	口縁部は上下位に粘土紐が平行に巡り、その間に波状の粘土紐が巡り、いずれも篋状工具で連続刺突される。胴部は口縁部同様篋状工具で連続刺突された粘土紐が波状や渦巻状等に上半中位付近まで施文される。地文はRLを頸部以下主に横方向に回転施文している。	深鉢C 2類 大木6
191 (1236)	52	口径 128 最大径 128 器高 (143) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢C 4単位の波状口縁で内わんぎみに外傾する。胴部は算盤玉状を呈す。	波頂部は二山状になり、下位には竹管の連続刺突が頸部まで施文される。口唇部に沿った平行沈線と波状の平行沈線が巡る。頸部には粘土帯が巡り、篋状工具で連続押圧される。胴部の張り出し部には竹管の連続刺突が巡る。地文はLRで胴部上位以下主に横方向に回転施文される。	深鉢C 2類 大木6
192 (1169)	52	口径 (240) 最大径 (240) 器高 (210) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢C 平縁で内わんぎみに外傾する。胴部上半は球状に膨らみ、下半は台状を呈す。	口縁部に波状の粘土帯が貼り付けられ、4分の1周付近には団子状の粘土塊が上下2個貼り付けられる。粘土帯の上位には竹管の連続刺突が巡り、それ以外のところには平行沈線や波状の沈線が巡る。胴部上半中位には平行沈線が3条巡り、沈線間に篋状工具の連続押圧が施文される。そこと頸部の間は弧状の平行沈線が上下交互に施文されて巡る。地文はRLRを文様帯以下主に横方向に回転施文している。	深鉢C 2類 大木6
193 (1258)	53	口径 323 最大径 323 器高 (253) 底径 —	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢C 口縁部は緩い波状を呈し内わんぎみに外傾する。胴部上半は上方が膨らみ下半は台状を呈すと思われる。	口縁部に弧状の粘土帯が貼り付けられる。口唇部は棒状工具で連続押圧される。口縁部下位には竹管の連続刺突が巡る。頸部にも竹管の連続押圧が2条と平行沈線が巡る。胴部上位にはボタン状の粘土塊が6~8単位貼り付けられ、その間を弧状の平行沈線が結んでいる。それらの下位には平行沈線が2列巡っている。地文はLRで胴部上位以下縦方向に回転施文されている。	深鉢C 2類 大木6

実測図版33 第67図

194 (1259)	53	口径 — 最大径 (378) 器高 (214) 底径 (170)	出土区 層位 焼成 胎土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢C 口頸部~胴部上位は欠損するが胴部上半は球状に膨らみ、下半は台状を呈す。	胴部上半の下位付近まで平行沈線による菱形状の施文がなされるようである。地文はRLを横方向に回転施文している。	深鉢C 2類 大木6
---------------	----	---	------------------------------	------------------------	---	--	------------------

実測図番号	写真図版	計測値	状態	器形	文様	分類	時期
195 (1057)	53	口径 — 最大径 — 器高 (80) 底径 (126)	出土区 層位 成 胎土 土 その他	南包 II 普通 粗砂混入	深鉢C 胴部下位のみの残存であるか胴上半は球状、下半は台状を呈していたと思われる。	深鉢C 2類	大木6
196 (1042)	20 (31)	口径 119 最大径 119 器高 84 底径 —	出土区 層位 成 胎土 土 その他	北柱穴群 埋土 普通 粗砂混入 その他	深鉢C 口縁部は緩い波状を呈し外反する。胴部は算盤玉状に膨らみ、下位は台状になるとと思われる。	深鉢C 3類	大木7a
197 (1151)	53	口径 275 最大径 275 器高 (162) 底径 —	出土区 層位 成 胎土 土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢C 平縁で外傾する。胴部上半は球状に膨らみ下半は台状を呈すと思われる。	深鉢C 3類	大木7a
198 (1034)	53	口径 198 最大径 198 器高 (98) 底径 —	出土区 層位 成 胎土 土 その他	北包 II 不良 粗砂混入 表面摩耗	深鉢C 口縁部は緩い波状を呈し少し外反する。胴部は球状を呈すよう下半は台状と思われ。	深鉢C 3類	大木7a
199 (1007)	53	口径 (260) 最大径 (260) 器高 (176) 底径 —	出土区 層位 成 胎土 土 その他	北包 II 良 石英粒・粗砂混入	深鉢C 波状突起口縁だがその単位は不明。外傾する。胴部上半は球状に膨らみ下半は台状になるとと思われる。	深鉢C 4類	大木7a
200 (1146)	53	口径 200 最大径 200 器高 (80) 底径 —	出土区 層位 成 胎土 土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢C 口縁部は緩い波状を呈し内わんぎみに外傾する。屈曲部内側は突出する。胴部上半は球状下半は台状を呈すと思われる。	深鉢C 4類	大木7a
201 (1036)	53	口径 159 最大径 159 器高 170 底径 (91)	出土区 層位 成 胎土 土 その他	北 普通 石英粒・粗砂混入	深鉢C 4単位の波状口縁で内わんぎみに外傾する。屈曲部内側は突出する。胴部上半は球状、下半は台状を呈す。	深鉢C 4類	大木7a
202 (1049)	53	口径 199 最大径 199 器高 162 底径 96	出土区 層位 成 胎土 土 その他	南包 II 普通 粗砂混入	深鉢C 口縁部は緩い波状を呈し内わんぎみに外傾する。胴部屈曲部は内側に大きく突出する。胴部上半は球状を下半は台状を呈す。	深鉢C 4類	大木7a

実測図版34 第68図

203 (1011)	54	口径 (250) 最大径 (250) 器高 120 底径 —	出土区 層位 成 胎土 土 その他	南 普通 粗砂混入	深鉢C 平縁で外傾する。胴部上半は球状に膨らみ下半は台状を呈すと思われる。	深鉢C 4類	大木7a
204 (1152)	54	口径 250 最大径 270 器高 (143) 底径 —	出土区 層位 成 胎土 土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢C 平縁で少し外反する。胴部上半は球状に膨らみ下半は台状を呈すと思われる。	深鉢C 4類	大木7a
205 (1210)	54	口径 (362) 最大径 (362) 器高 (138) 底径 —	出土区 層位 成 胎土 土 その他	北包 II 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢C 4単位の波状口縁で内わんぎみに外傾する。胴部上半は球状に膨らみ下半は台状を呈すと思われる。	深鉢C 4類	大木7a
206 (1003)	54	口径 203 最大径 203 器高 (100) 底径 —	出土区 層位 成 胎土 土 その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢C 4単位の波状口縁で内わんぎみに外傾する。屈曲部内側は突出する。胴部上半は球状に膨らみ下半は台状を呈す。	深鉢C 4類	大木7a
207 (1063)	19 (24)	口径 232 最大径 252 器高 (255) 底径 —	出土区 層位 成 胎土 土 その他	S I 住 II 良 粗砂混入	深鉢C 4単位の波状複合口縁で少し外反する。胴部上半は球状に膨らみ下半は台状を呈す。	深鉢C 5類	大木6 ~7a
208 (1061)	54	口径 223 最大径 223 器高 (205) 底径 —	出土区 層位 成 胎土 土 その他	北 良 粗砂混入	深鉢C 平縁で外傾する。胴部内側は突出する。胴部上半は球状を下半は台状を呈す。	深鉢C 4類	大木7a
209 (1010)	54	口径 223 最大径 223 器高 (108) 底径 —	出土区 層位 成 胎土 土 その他	北 良 粗砂混入 表面摩耗	深鉢C 平縁で外反する。胴部上半は球状に膨らみ下半は台状を呈すと思われる。	深鉢C 7類	大木5 ~6

実測図番号	写真図版	計測値	状態	器形	文様	分類	時期	
210 (1099)	54	口径 (235) 最大径 (242) 器底径 (104) —	出土区 層位 焼成土 胎その他	南 普通 粗砂混入	深鉢C 口縁部は緩い波状でやや外傾する。胴部上半は球状に膨らみ下半は台状を呈すと思われる。	口縁部に粘土帯が巡り筒状工具で連続押圧される。地文は高端を結節したRLを粘土帯以下間隔をおいて縦位に連続回転施文している。	深鉢C 6類	大木6 ~7a
実測図版35 第69図								
211 (1112)	54	口径 270 最大径 270 器底径 (326) —	出土区 層位 焼成土 胎その他	北包 II 普通 粗砂混入	深鉢C 4単位の波状口縁で内わんぎみに外傾する。胴部上半は球状に膨らみ下半は台状を呈すと思われる。	地文はLRを口縁部以下横方向に連続回転施文している。	深鉢C 7類	大木5 ~6
212 (1024)	17 (1)	口径 (180) 最大径 (180) 器底径 200 (90)	出土区 層位 焼成土 胎その他	R I住 埋土 普通 粗砂混入	深鉢C 4単位の波状口縁で外傾する。胴部上半は球状に膨らみ、下半は台状を呈す。	無文である。	深鉢C 7類	大木5 ~6
213 (1195)	54	口径 — 最大径 (55) 器底径 145	出土区 層位 焼成土 胎その他	北 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢C 台状の胴部下半の残存である。	地文はLR・LR(結東第1種)を横方向に回転施文している。	深鉢C 8類	大木5 ~7a
214 (1205)	54	口径 — 最大径 (75) 器底径 128	出土区 層位 焼成土 胎その他	北包 II 普通 粗砂混入 表面摩耗	深鉢C 台状の胴部下半の残存である。	地文はLRを主に横方向に回転施文している。	深鉢C 8類	大木5 ~7a
215 (1080)	54	口径 — 最大径 (165) 器底径 (135) (97)	出土区 層位 焼成土 胎その他	南 普通 粗砂混入	深鉢C 口縁部欠損胴部上半は球状、下半は台状を呈す。	地文はRLを主に縦方向に回転施文している。	深鉢C 8類	大木5 ~7a
216 (1016)	20 (28)	口径 300 最大径 300 器底径 120 105	出土区 層位 焼成土 胎その他	S I住 埋土 良 粗砂混入	浅鉢 口縁部は緩い波状を呈す。口縁部から胴部は内わんぎみに外傾する。	無文で研磨されている。	浅鉢 1類	大木5 ~7a
217 (1110)	54	口径 192 最大径 198 器底径 110 108	出土区 層位 焼成土 胎その他	北包 II 普通 粗砂混入	浅鉢 4単位の波状複合口縁で内側が肥厚する。口縁部から胴部は内わんぎみに外傾する。	地文はLRを口縁部以下主に横方向に回転施文している。	浅鉢 1類	大木5 ~7a
218 (1066)	54	口径 178 最大径 178 器底径 79 92	出土区 層位 焼成土 胎その他	北包 II 良 粗砂混入	浅鉢 緩い波状の複合口縁で一部に波状の突起がある。口縁部は外傾し、胴部は内わんぎみに外傾する。	波状突起部に小粘土塊が貼り付けされる。無文で研磨される。	浅鉢 1類	大木5 ~7a
219 (1031)	20 (27)	口径 (135) 最大径 (139) 器底径 87 73	出土区 層位 焼成土 胎その他	S I住 埋土 普通 粗砂混入	浅鉢 平縁の複合口縁で一部に波状の突起がある。胴部上半は膨らみ、下半は台状を呈す。	無文で研磨される。	浅鉢 2類	大木5 ~7a

土製品一覧表

No.	図版	写真	器種	出土地・層位	長さ	幅	厚	胎土	施文具
1	70	60	土 偶	南 斜面 II	(60)	(57)	11	粗砂・細礫を含む	棒状工具
2	70	60	土 偶 ?	北柱穴群	(38)	(32)	10	粗砂を含む	撚 糸
3	70	60	土 偶 ?	北包含層 II	(52)	(48)	17	粗砂・小礫を含む	半截竹管
4	70	60	土 偶	P III柱穴群	(44)	(38)	13	細砂少量含む	串状工具
5	70	60	土 偶 ?	北包含層 II	(54)	(57)	14	石英粒・小礫を含む	半截竹管
6	70	60	土 偶 ?	北包含層 II	(68)	(77)	16	粗砂・細礫を含む	棒状工具 半截竹管
7	70	60	円盤状土製品	北 斜面	37	39	9	粗砂を含む	
8	70	60	円盤状土製品	北包含層 II	33	34	10	粗砂を含む	
9	70	60	有孔土製品	北包含層 II	27	26	5	細砂少量含む	
10	70	60	有孔土製品	北包含層 II	38	39	11	粗砂・細礫含む	
11	70	60	袖珍土器	北包含層 II	(23)		21	粗砂を含む	
12	70	60	袖珍土器	北包含層	64	67	45	粗砂を含む	

計測値の単位はmm、袖珍土器は幅→口径、厚さ→底径

土 器 片 観 察 表

写真図版55 遺構外出土土器片(1)

遺物番号	登録番号	出土区層位	器 形 ・ 文 様	分 類	時 期
220	108	北 包	口縁部は平縁で一部が台状に高くなるようである。そこから胴部中位付近まで粘土帯が格子状に貼り付けられる。地文はRLを口縁部以下横方向に回転施文している。	深鉢A 2類	大木5
221	88	南 包 II	口縁部は波状で肥厚する。肥厚部には太い沈線と円形竹管の連続刺突施文が巡る。口唇部にも円形竹管の連続刺突が施文される。胴部上位に竹管による細い平行沈線が巡る。	深鉢A 6類	大木6
222	95	北 包 II	口縁部は平縁で肥厚する。竹管による平行沈線が縦横や楕円形状に施文され、竹管の連続刺突が縦横や弧状に施文される。	深鉢A 6類	大木6
223	121	北 包 II	波状口縁で肥厚している。波頂部には横位の粘土塊が貼り付けられる。竹管による細い平行沈線と押し引きによる鋸歯状文が巡っている。地文はRLで文様帯の下位から横方向に回転施文される。	深鉢A 6類	大木6
224	130	北 包 II	口縁部は平縁で肥厚する。竹管による細い平行沈線が上下位に巡り、間に鋸歯状の平行沈線が施文される。	深鉢A 6類	大木6
225	77	南 包 II	口縁部は緩い波状を呈し、内側に粘土紐が貼り付けられる。波頂部には橋状突起が貼り付けられ連続刻み施文される。下位には環状の粘土帯が貼り付けられ連続刻み施文される。平行沈線で区画され、内部に直線状や弧状の連続刻み施文がなされる。	深鉢A 7類?	大木7a ?
226	78		波状口縁で肥厚する。波頂部に粘土紐と瘤状粘土塊の貼り付けがある。口縁部に波状の沈線が巡り、一部は楕円形状になっている。	深鉢A 7類	大木7a
227	114	北 包 II	口縁部は平縁で肥厚する。口縁部に瘤状粘土塊の貼り付けがあり、LRの側面圧痕が4本巡る。地文は一端を結節するRLを文様帯以下横方向に連続回転施文している。	深鉢A 8類	大木7a
228	111	北 包	口縁部は平縁または緩い波状を呈し肥厚する。口縁部下位に粘土帯が巡り、一部に口唇部まで達する山形の粘土帯が貼り付けられ籠状工具で連続押圧される。粘土帯の上位には竹管による細い平行沈線が鋸歯状に施文される。地文は一端を結節したLRを粘土帯の下位から縦方向に連続回転施文する。	深鉢A 10類	大木7a
229	100	北 包 II	波状口縁で波頂部はやや肥厚する。波頂部下位には鍋蓋状の粘土塊の貼り付けがあり、そこから粘土紐で長方形に区画し内部に鋸歯状に貼り付けした施文が巡る。	深鉢A 11類?	大木7a ?
230	113	北 包 II	口縁部は平縁で肥厚する。肥厚部にはLの側面圧痕が2条巡る。幅広の粘土帯が縦位に貼り付けられ文様帯を分割している。下位には横位の粘土帯が巡り籠状工具で連続押圧している。文様帯内には竹管による細い平行沈線と竹管の連続刺突が巡っている。	深鉢A 12類	大木7a
231	112	北 包 II	波状口縁で肥厚する。波頂部には幅広の粘土帯が縦位に貼り付けられる。横位に回転する平行沈線と縦位の連続刻み状沈線が施文される。	深鉢B 11類	大木7a
232	102	北 包 II	平縁である。粘土帯が縦位に貼り付けられ籠状工具で連続押圧される。下位には隆帯が巡り文様帯が区画される。文様帯内には竹管による平行沈線とコンパス文風波状文が施文される。地文はRLで文様帯の下位から横方向に回転施文される。	深鉢A 12類	大木7a
233	90	北 包 II	波状口縁で波頂部は台状を呈し粘土紐が波状に貼り付けられる。口縁部に沿った波状の粘土帯と縦位の粘土帯が貼り付けられ、棒状工具で連続押圧される。地文は木目状の単軸絡条体Lを口縁部以下縦方向に回転施文している。	深鉢A 12類?	大木7a ?
234	81	南	平縁でやや肥厚する。縦位の粘土紐の貼り付けが数単位ある。竹管による細い平行沈線が上位に巡り区画の中央付近には縦位の施文もある。粘土紐の上位から次の粘土紐の上位まで弧状に並行する竹管の連続刺突がある。低い所から右と左に向かって上りながらの施文である。地文はLRを口縁部以下横方向に回転施文している。	深鉢A 12類	大木7a

写真図版56 遺構外出土土器片(2)

遺物番号	登録番号	出土区層位	器形・文様	分類	時期
235	80	南包	波状口縁で肥厚する。波頂部の内外に粘土紐が渦巻状に貼り付けられる。地文は無文	深鉢A 13類	大木6 ~7a
236	76	南包	波状口縁で肥厚する。波頂部に棒状工具による押圧があり、その上位に竹管による細い平行沈線が山形に施文され、下位には同様な平行沈線が波状に胴部上位まで施文される。地文はRLを口縁部以下縦方向に回転施文している。	深鉢A 13類	大木6 ~7a
237	94	北包 II	口縁部は緩い波状を呈するようである。口唇部は棒状工具で連続押圧される。また口唇部に沿った粘土帯が貼り付けられ棒状工具で連続押圧される。地文は木目状の単軸絡糸体Lを口縁部から縦方向に回転施文している。	深鉢A 13類	大木6 ~7a
238	117	北包 II	平縁でやや肥厚する。口縁部下位には篋状工具による連続押圧が巡っている。地文は一端を結節したRLで口縁部は横方向、胴部は縦方向に回転施文している。	深鉢A 14類	大木7a ?
239	92	北包 II	口縁部は平縁で肥厚する。口唇部に平行する粘土帯が貼り付けられ、LRの側面圧痕が施される。地文はLRで粘土帯以下に縦方向に回転施文される。	深鉢A 14類	大木6 ~7a
240	101	北包 I	平縁で肥厚する。弧状の粘土紐が縦位に貼り付けられ篋状工具で連続押圧される。地文はLRを口縁部以下横方向に回転施文している。	深鉢A 14類	大木6 ~7a
241	123	北包 II	口縁部は波状で肥厚する。波頂部から口唇部に沿って輪ゴムを横に引き延ばしたような粘土紐が貼り付けられる。	深鉢A 14類?	大木6 ~7a
242	122	中央	波状口縁で肥厚する。口唇部に沿って篋状工具の連続押圧が施文され、その下位に平行沈線が口唇部に沿って施文される。波頂部の下位には半球状の粘土貼り付けがあり、四つの孔が貫通する。その周囲は篋状工具で連続押圧されている。地文は刷毛目状の平行沈線のようなものである。	深鉢A	大木7a ?
243	115	北包 II	口縁部は波状で肥厚する。口唇部下位と頸部下位に竹管による細い平行沈線が巡り、その間に同心円状や鋸歯状の平行沈線施文がなされる。	深鉢B 7類	大木6
244	75	南包 II	口縁部は波状で肥厚している。口頸部に竹管による細い平行沈線が小波状に十数列巡り、一部は胴部にも及んでいる。地文はRLを胴部上位以下横方向に回転施文しているようだが摩滅している。	深鉢B 3類	大木6
245	86	南包 II	口縁部は緩い波状を呈しているようである。口頸部に竹管による細い平行沈線が小波状に7~8列巡り、下位は円周に平行方向に巡っている。	深鉢B 3類	大木6
246	136	北包 II	口縁部は平縁でやや肥厚する。口頸部から胴部にかけて竹管による細い平行沈線が鋸歯状に施文され一部は変形状になる。	深鉢B 3類	大木6
247	118	南包 II	口縁部は平縁でやや肥厚する。口縁部に短い粘土紐が貼り付けられ棒状工具で押圧される。上位には沈線が1条巡り、その下位には波状の沈線が2条巡る。頸部は棒状工具により連続押圧される。地文はRL・LR(結束第1種・羽状)を頸部以下縦方向に回転施文している。	深鉢B 5類	大木6 ~7a
248	125	北包 II	口縁部は波状で肥厚する。口唇部内側は段状になる。波頂部には細い粘土紐の貼り付けや篋状工具による刺突・押圧施文がされる。その下位には数条の平行沈線が巡り間に鋸歯状の沈線も巡る。	深鉢B 5類	大木6 ~7a
249	127	北包 II	口縁部は緩い波状を呈しているようである。口縁部上位には口唇部に沿った竹管の連続刺突と沈線が、下位には円周に平行な沈線が巡り、その間には弧状の平行沈線や竹管の連続刺突が施文される。頸部には竹管の連続刺突と平行沈線が巡る。	深鉢B 5類	大木7a
250	134	北包 II	口縁部は平縁でやや肥厚する。口縁部は無文で頸部に竹管の連続刺突が2~3列巡る。地文はLRを横方向に回転施文するようで口頸部にも少し施文されている。	深鉢B 5類?	大木7a ?

写真図版57 遺構外出土土器片(3)

遺物番号	登録番号	出土区層位	器形・文様	分類	時期
251	128	北包 II	口縁部は波状を呈し波頂部は二山状になるようである。口唇部から口縁部にかけて粘土帯が鈎状に貼り付けられる。下位には弧状の平行沈線が施文される。	深鉢B 5類?	大木7a ?
252	129	北包 II	口縁部は緩い波状を呈すと思われる。上位には口唇部に沿う平行沈線が施文され、その下位には幅広の粘土帯が渦巻状に貼り付けられ、篋状工具で連続押圧施文される。さらに下位には竹管の連続刺突が巡っている。	深鉢B 5類	大木7a ?
253	106	北包 II	口縁部は波状を呈すると思われ、肥厚している。口縁部に太い沈線と棒状工具による連続刺突が弧状に施文される。頭部には平行沈線と竹管の連続押圧が巡る。	深鉢B 5類	大木7a
254	109	北包	口縁部は平緑でやや肥厚する。口唇部下位に沈線が巡りその下位には波状の沈線とR Lの側面圧痕が2本ずつ交互に4列巡る。頭部には隆帯が巡り、棒状工具で連続押圧されている。	深鉢B 5類	大木7a
255	137	北包 II	口縁部は波状で肥厚する。波頂部の下位には短い棒状の粘土塊が貼り付けられ沈線が施文されている。口縁部を二等分するように平行沈線が3条巡り、その間に弧状の沈線が上位は下向、下位は上向で連続して施文される。地文はR Lを頭部以下縦方向に回転施文している。	深鉢B 5類	大木7a
256	97	北包	口縁部は平緑と思われる。上下両端に竹管の連続刺突が巡る。その内側には弧状の平行沈線が施文される。頭部には平行沈線が巡る。	深鉢B 6類	大木7a
257	103	北包	口縁部は平緑と思われる。口頭部には平行沈線が巡り、一部は蕨状を呈す。地文は両端を結節するL R・R L(結束第1種・羽状)を横方向に回転施文している。	深鉢B 6類	大木7a
258	116	北包 II	口縁部は緩い波状を呈するようである。口縁部は沈線で横長の長方形に区画され、その内部に竹管の連続刺突が三列ずつ施文される。頭部には平行沈線が巡る。地文はR Lを頭部下位から横方向に回転施文している。	深鉢B 7類	大木7a
259	84	南包 II	口縁部は緩い波状を呈し、内側に幅広の粘土帯が貼られ肥厚している。竹管による細い平行沈線と竹管の連続刺突が交互に5列ずつ巡る。頭部には粘土帯が巡り、竹管が連続押圧される。	深鉢B 10類?	大木7a
260	107	北包 II	口縁部は平緑で肥厚し、肥厚部には円形の押圧が連続施文される。その下位には竹管による平行沈線が鋸歯状に数条巡る。頭部には粘土帯が巡り、篋状工具で連続押圧されている。地文はL Rを粘土帯の下位から縦方向に回転施文している。	深鉢B 10類	大木7a
261	93	北包 II	口縁部は平緑で肥厚する。口唇部に沈線と篋状工具の連続押圧施文が巡る。口縁部にも篋状工具の連続押圧が巡る。頭部には粘土帯が貼り付けられ、篋状工具で連続押圧されている。	深鉢B 10類	大木7a
262	96	北包	口縁部は波状で肥厚する。波頂部の口唇は沈線で区画され内側に篋状工具の連続押圧がなされる。その下位には渦巻状の粘土帯が貼り付けられ、さらに下位と頭部付近には円周に平行な粘土帯が貼り付けられ、いずれも篋状工具で連続押圧されている。渦巻状の貼り付けの周囲には平行沈線による弧状や菱形状の施文がなされている。	深鉢B 10類	大木7a
263	99	北包	口縁部は波状を呈す。輪ゴムを平らに押し潰したような形状の粘土紐が連続して貼り付けられているようである。頭部には粘土帯が貼り付けられ、篋状工具で連続押圧されている。	深鉢B 10類	大木7a
264	110	北包 II	口縁部は波状を呈し、波頂部は二山状になっている。波頂部に粘土帯が3本縦位に貼り付けられ、下位には隆帯が巡り、いずれも篋状工具で連続押圧される。隆帯と口唇部の間には平行沈線が施文され、その間に小波状の平行沈線が2条巡っている。頭部下位には隆帯が巡り、波頂部に対応する付近は篋状工具で鋸歯状に施文されている。地文は一端を結節するL Rを頭部隆帯の下位から縦方向に連続回転施文している。	深鉢B 11類	大木7a

写真図版58 遺構外出土土器片(4)

遺物番号	登録番号	出土区層位	器形・文様	分類	時期
265	105	北包 II	口縁部は波状を呈す。波頂部に縦位の粘土紐を貼り付け、頸部付近には横位に巡る粘土帯が貼り付けられ、いずれも篋状工具で連続押圧されている。口縁部には数本の平行沈線が巡り、沈線間には篋状工具の連続刺突施文が波頂部の左右で一段ずつずらして施文される。	深鉢B 11類	大木7a
266	120	北包 II	波状口縁で波頂部の内外に環状の粘土紐が貼り付けられる。表面はさらに橋状の隆帯と縦位の粘土帯2本が貼り付けられる。竹管による細い平行沈線が口唇部に沿って施文されるようである。地文はRLを口縁部以下横方向に回転施文している。	深鉢B 11類	大木7a
267	135	北包 II	口縁部は平縁で肥厚する。口縁部には縦位の粘土帯が2本貼り付けられ、頸部には隆帯が巡る。口唇部下位の肥厚部分と頸部隆帯上には沈線が施文される。胴部上位には竹管による平行沈線が波状に巡っている。	深鉢B 11類	大木7a
268	138	北包 II	口縁部は緩い波状を呈するようである。幅広の粘土帯が2本縦位に貼り付けられ平行沈線が施文される。竹管による細い平行沈線が上位は口唇部に沿って下位は弧状に施文される。	深鉢B 11類	大木7a
269	104	北包 II	平縁と思われる。口縁部に縦位の粘土帯が貼り付けられ沈線が施文される。頸部には竹管の連続刺突と平行沈線が巡る。地文はLRを胴部上位以下横方向に連続回転施文しているが、その上に刷毛目状の条痕が縦方向に施文されている。	深鉢B 11類	大木7a
270	89	北包 II	波状口縁で波頂部は二山状になる。波頂部には粘土帯が2本縦位に貼り付けられ両側に竹管の連続刺突がある。口唇部と頸部に沿って竹管の平行沈線が施文される。地文はRLを横方向に回転施文している。	深鉢B 11類	大木7a
271	91	北包 II	口縁部は平縁でやや肥厚している。平行沈線が斜位に向き合って施文され、一部は鉤状に曲がる。頸部には平行沈線が巡る。	深鉢B 5類	大木7a
272	83	南包 II	波状口縁で肥厚している。波頂部付近には粘土帯が縦位に貼り付けられる。竹管による細い平行沈線が上位から波状・円周と平行・波状・波状の順序に施文される。地文はLを口縁部以下横方向に回転施文している。	深鉢B 11類?	大木7a
273	87	南包 II	波状口縁で少し肥厚する。口唇部下位の肥厚部分は波頂部の右側だけ篋状工具で連続押圧される。波頂部から幅広の粘土帯が縦位に貼り付けられ篋状工具で連続押圧されている。粘土帯の両側には竹管の連続押圧がなされ、さらに口唇部に平行する沈線や竹管の連続刺突が施文される。	深鉢B 11類	大木7a
274	82	南包 II	波状の複合口縁で、波頂部には幅広の粘土帯が縦位に貼り付けられ鋸歯状の平行沈線が施文される。平行沈線による長方形の区画がなされ、区画内には沈線による三角状文と渦巻文が施文され、区画外には沈線による三角状文や波状の施文がなされている。頸部には隆帯が巡り篋状工具で連続押圧されている。一部には橋状の粘土帯が貼られ沈線が施文される。地文は口縁部はRLを縦方向に回転施文し、文様帯の下位は両端を結節したLR・RL(結束第1種・羽状)を間隔をおいて横方向に連続回転施文している。	深鉢B 11類?	大木7b ?
275	132	北包 II	口縁部は平縁のようである。地文は多軸絡条体Rを縦方向に回転施文している。	深鉢B 16類	大木5 ~7a
276	131	北包 II	口縁部は波状で肥厚する。波頂部は二山状になる。波頂部には粘土帯がU字状に貼り付けられ、棒状工具で連続押圧されている。頸部には不明瞭な沈線が巡る。地文はRLを口縁部以下縦方向に回転施文している。	深鉢B	大木7a ?

写真図版59 遺構外出土土器片（5）

遺物番号	登録番号	出土区層位	器形・文様	分類	時期
277	79		波状口縁で肥厚する。波頂部は二山状になり、下位に棒状工具による丸いくぼみがある。頸部に波状の沈線が3列巡る。胴部上位には波頂部と波底部に対応する位置に環状の粘土帯が貼り付けられる。その間を3本の平行沈線がW字状に結んでいる。地文はL R・R L（結束第1種・羽状）を頸部下位以下縦方向に回転施文している。	深鉢C 2類	大木6
278	85	南包	口縁部は平緑か緩い波状を呈するようである。頸部には竹管による平行沈線と竹管の連続刺突が交互に巡る。胴部上位には横位と縦位の平行沈線が施文され、横位の沈線に沿って竹管の連続刺突がある。	深鉢C 2類	大木6
279	133	南包II	口縁部は波状を呈し肥厚する。頸部の屈曲部は内側に突出する。波頂部の内外には粘土帯が貼り付けられ、外側の粘土帯と口唇部付近は篋状工具で連続押圧される。粘土帯の下位には橋状の粘土帯が貼り付けられ、沈線が施文される。その両側と下位には鋸歯状の沈線が4列巡っている。頸部には隆帯が2列巡り、篋状工具で連続押圧されている。	深鉢C 4類	大木7a
280	98	北包	平緑と思われる。口唇部付近に半截竹管の連続刺突が巡る。その下位に瘤状の粘土塊が貼り付けられ、周囲には弧状や渦巻状の沈線が施文される。	不明	大木7a ?
281	126	北包II	口縁部は波状を呈し肥厚する。波頂部には楕円形状の沈線が施文され、その内部中央に棒状工具による刺突とそこから放射状に広がる刻み状沈線が施文される。口唇部と口縁部外面には波頂部の楕円形状沈線から広がるような沈線施文と棒状工具の刺突がなされ、それらの隙間には刻状沈線が施文される。それらの下位には円周に平行な沈線が巡り、さらに下位には粘土帯が斜位に貼り付けられ、隙間に弧状の平行沈線が施文される。	不明	大木7a ?
282	124	北包	口縁部は波状を呈し肥厚する。肥厚部には口唇部に沿った太い沈線が施文される。下位には波状の沈線が数列巡り、楕円形または菱形が連続するような施文がなされ、各菱形の中央には棒状工具の押圧がなされている。	不明	大木7a ?
283	119	北包II	波状口縁で肥厚する。波頂部は二山状を呈す。竹管による細い平行沈線が口唇部に沿って施文され、波頂部中央で蕨状に回転するようである。地文はRを肥厚部の下位から横方向に回転施文している。	不明	大木6 ~7a
284	139	北包II	口縁部、底部ともに欠損している。細い沈線を多用して毛髪が垂れ下がるような文様が全体として菱形状に施文される。菱形の上と横の角付近には渦巻状の施文もあり見ようによっては人物を表現しているようでもある。同様な文様は右側にも転回しているようである。左側には篋状工具によるV字状に交差する浅い沈線が縦位に連続して施文される。地文はR Lを横方向に回転施文している。		
285	140	北包II	284と同一個体で胴部、底部とも欠損している。284と同様に人物とも見られる沈線を多用した施文が2単位と篋状工具による浅い沈線が施文され、一部はV字状に交差している。地文はR Lを横方向に回転施文している。		

石 器 集 計 表

凡 例

1. この集計表には実測図に掲載した遺物をすべて入れてある。
2. 遺構伴出遺物については重複する図版の頁とNoを備考欄に()で記載した。
3. 石質Noは下記のとうりである。

No.	岩 石 名	産 出 地
1	硬質泥質凝灰岩	奥羽山脈—新第三系中新統
2	鉄石英	奥羽山脈—新第三系鮮新統
3	粘板岩	北上山地—古生界
4	硬質凝灰質泥岩	奥羽山脈—新第三系中新統
5	玻璃質流紋岩	奥羽山脈—新第三系中新統
6	珪質細粒凝灰岩	奥羽山脈—新第三系中新統
7	淡緑色珪質細粒凝灰岩	奥羽山脈—新第三系中新統
8	珪質泥岩	奥羽山脈—新第三系中新統
9	玉髓	産地時代不詳
10	硬質泥岩	奥羽山脈—新第三系中新統
11	白色細粒凝灰岩	奥羽山脈—新第三系中新統
12	硬砂岩	北上山地—古生界
13	花崗閃緑岩	北上山地—中生界
14	粘板岩ホルンフェルス	北上山地—古生界
15	濃緑色角礫凝灰岩	奥羽山脈—新第三系中新統
16	淡緑色砂質凝灰岩	奥羽山脈—新第三系中新統
17	緑色凝灰岩	奥羽山脈—新第三系中新統
18	輝石安山岩	奥羽山脈東縁—新第三系鮮新統
19	石英安山岩	奥羽山脈—新第三系中新統
20	プロピライト	奥羽山脈—新第三系中新統
21	両輝石安山岩	駒ヶ岳火脈—第四系
22	凝灰質粘板岩	北上山地—古生界
23	千枚岩	北上山地—古生界
24	石膏	奥羽山脈—新第三系中新統
25	軽石	奥羽山脈東縁—第四系
26	珪質凝灰質泥岩	奥羽山脈—新第三系中新統
27	細粒凝灰岩	奥羽山脈—新第三系中新統

a 石鏃・石槍集計表

遺物 No.	登録 No.	図版	写真	器種 分類	出土地 層位	計測値 (mm, g)				石質 番号	備考
						長さ	幅	厚さ	重量		
1	64	71	61	1	北	51	24	8	9.2	1	
2	75	71	61	1	北 II	53	21	10	9.5	5	
3	8	71	61	1	北	34	17	5	2.5	1	
4	5	71	61	1	北	35	16	4	2.2	4	
5	25	71	61	1	北	21	15	4	1.2	1	
6	27	71	61	1	南	(21)	17	4	(1.5)	1	破損品
7	6	71	61	1	南 II	25	19	5	(1.9)	4	
8	53	71	61	1	北 II	33	23	7	6.0	4	
9	7	71	61	1	北 II	25	18	3	1.5	1	
10	52	71	61	1	北	22	18	9	3.5	6	
11	28	71	61	1	北 II	27	21	5	2.5	1	
12	69	71	61	1	中央	38	27	7	5.7	1	
13	63	71	61	1	北 II	38	23	7	4.9	4	
14	67	71	61	1	北	43	28	9	9.5	4	
15	66	71	61	1	北 II	(43)	29	7	10.4	4	破損品
16	74	71	61	1	南	41	23	9	8.7	4	
17	54	71	61	1	北 II	29	20	6	2.8	4	
18	68	71	61	1	中央	37	21	8	4.4	4	
19	73	71	61	1	南 II	36	23	6	5.0	6	
20	60	71	61	1	北 II	33	17	6	3.6	3	
21	12	71	61	1	北 II	31	17	5	2.1	1	
22	3	71	61	2	北 II	44	15	5	2.5	3	
23	62	71	61	1	北 II	(30)	20	9	(4.8)	4	破損品
24	71	71	61	2	南 II	34	24	6	4.9	1	
25	55	71	61	2	北	27	20	6	3.7	4	
26	2	71	61	2	北 II	22	17	3	1.2	2	
27	20	71	61	2	北	19	16	4	1.2	8	
28	18	71	61	2	南	16	12	4	0.7	6	
29	4	72	61	2	北	27	17	8	2.6	1	
30	11	72	61	2	中央	34	15	7	3.0	4	
31	17	72	61	2	南	16	13	2	0.6	6	
32	15	72	61	2	北	18	16	3	0.8	4	
33	14	72	61	2	北 II	23	14	5	0.8	5	
34	16	72	61	2	北	19	14	5	1.1	1	
35	13	72	62	2	南 II	20	15	6	1.6	1	
36	9	72	62	2	中央	(21)	18	4	(1.7)	4	破損品
37	10	72	62	2	北 II	31	18	5	2.1	1	
38	36	72	62	2	北	28	20	6	3.0	1	
39	51	72	62	2	北 II	29	15	7	3.3	1	
40	30	72	29	2	南柱穴25	29	16	7	2.5	5	(34-88)
41	43	72	29	2	南柱穴2	36	17	7	3.5	3	(34-89)
42	31	72	62	2	北	26	15	5	1.6	1	
43	29	72	62	2		28	16	5	1.9	8	
44	50	72	62	2	北 II	23	15	4	1.7	4	
45	34	72	62	2	北 II	31	15	5	1.6	1	
46	35	72	62	2	北 II	27	17	4	2.0	8	
47	32	72	25	2	SI住埋土	26	18	3	1.3	1	(26-12)
48	37	72	62	2	北 II	38	20	6	4.0	3	
49	72	72	62	2	南	(34)	25	7	(10.4)	4	破損品
50	23	72	62	2	北 II	21	17	5	1.5	4	
51	40	72	62	2	北 II	33	16	6	1.9	5	
52	19	72	62	2	南	20	18	7	1.9	7	
53	21	72	62	2	北	19	18	4	1.1	4	
54	22	72	62	2	北	18	18	4	1.2	8	

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
55	24	72	62	2	南	19	21	4	1.3	8	
56	33	72	62	2	北	26	14	4	1.6	1	
57	49	72	62	2	北 II	34	15	6	2.7	3	
58	38	72	25	2	SI住埋土	36	17	7	3.5	1	(26-10)
59	39	72	62	2	中央	(28)	18	5	(2.9)	3	破損品
60	46	72	62	2	南 II	27	20	5	2.2	4	
61	42	72	62	2	北	(26)	21	4	(2.0)	4	破損品
62	48	72	62	2	南	34	15	10	4.8	1	
63	47	72	62	2	北 II	(23)	19	5	(2.6)	4	破損品
64	45	73	62	2	表 採	32	19	6	3.8	4	
65	56	73	62	3	北 II	36	11	4	1.4	5	
66	70	73	62	3	中 央	30	18	5	3.2	1	
67	58	73	62	3	北 II	42	19	5	4.7	4	
68	59	73	62	3	北 II	39	28	6	6.5	3	
69	81	73	62	3	南	27	18	6	3.0	1	
70	65	73	62	3	北	43	25	5	5.3	1	
71	82	73	62	3	南	(47)	25	9	(10.4)	4	破損品
72	26	73	25	3	SI住埋土	(35)	16	4	(2.2)	1	(26-11) 破損品
73	61	73	63	4	北 II	55	37	13	19.7	4	
74	78	73	63	4	北	70	22	15	25.0	3	
75	76	73	63	4	北	70	23	9	14.5	4	
76	79	73	63	4	北 II	81	32	16	37.8	6	
77	77	73	63	4	北 II	73	26	14	27.9	4	
78	1	73	63	5	表 採	23	14	4	12	1	
	80	26	25	1	SI住埋土	43	25	9	9.5	1	(26-9)
	57	34	30	6	EⅦ臨L穴	(26)	(14)	5	(1.0)	4	(34-97)
	41			2	北	26	14	5	1.5	4	

b 石 錐 集 計 表

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
1	3	74	29	1	北柱穴群	52	10	6	3.2	1	(31-65)
2	5	74	63	2	北 II	35	17	5	3.0	3	
3	1	74	63	2	表 採	33	16	10	4.5	9	
4	6	74	63	2	北 II	44	22	10	3.8	8	
5	11	74	63	2	南 II	89	20	15	24.0	1	
6	2	74	63	2	表 採	57	25	18	17.2	1	
7	51	74	63	2	中 央	74	23	11	18.5	4	
8	9	74	63	3	南	(42)	35	10	(10.3)	1	破損品
9	7	74	63	3	北 II	34	11	3	1.0	3	
10	8	74	63	3	北 II	(61)	18	8	(8.2)	1	破損品
11	10	74	29	3	南柱穴25	71	13	7	4.0	1	(34-87)
12	4	74	63	3	中 央	83	24	10	14.6	4	

C 石 匙 集 計 表

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石 質 番 号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
1	34	75	64	1	南	53	17	6	5.1	1	
2	40	75	64	1	南	71	28	9	18.9	3	
3	35	75	64	1	南	74	22	8	13.9	4	
4	50	75	64	1	中 央	62	26	7	10.3	1	
5	13	75	64	1	北 II	46	25	4	5.7	6	
6	6	75	64	1	北	(66)	26	11	(21.0)	1	破損品
7	47	75	64	1	南 II	78	30	11	18.9	4	
8	36	75	64	1	南	51	30	5	9.0	4	
9	55	75	25	1	SI住埋土	49	27	5	6.1	4	(26-13)
10	29	75	64	1	北 II	(45)	30	5	(8.6)	4	破損品
11	12	75	64	1	北	75	36	14	34.4	6	
12	28	75	64	1	北 II	(42)	36	5	(8.9)	4	破損品
13	225	75	64	1	南 II	69	34	6	15.7	3	
14	32	75	64	1	北 II	(55)	45	12	24.3	8	破損品
15	19	75	65	1	北 II	63	30	9	(20.1)	3	
16	38	75	65	1	南	72	33	11	19.8	1	
17	16	76	65	1	北 II	49	27	4	6.4	6	
18	14	76	65	1	北 II	49	26	11	14.1	4	
19	49	76	65	1	南 II	63	46	13	38.8	4	
20	37	76	65	1	南	53	35	7	16.9	4	
21	65	76	65	1	南	30	17	4	1.6	2	
22	58	76	26	1	SI住埋土	60	62	10	32.7	3	(26-17)
23	59	76	25	1	SI住埋土	(37)	38	6	(8.9)	8	(26-14)破損品
24	18	76	65	1	北 II	48	23	7	8.2	6	
25	21	76	65	1	北 II	53	35	9	16.4	10	
26	2	76	65	1	北	58	36	11	21.8	10	
27	54	76	65	1	中 央	55	29	9	17.2	10	
28	62	76	65	1	S III(P)	55	39	5	12.6	4	
29	66	76	65	1	北	(56)	33	9	(14.0)	1	
30	8	76	66	1	北	34	21	7	5.7	2	
31	67	76	66	1	北	64	41	7	17.7	4	
32	20	76	66	1	北 II	61	44	9	21.2	6	
33	15	77	66	1	北 II	61	24	6	11.0	4	
34	39	77	66	1	南	67	31	9	9.4	4	
35	1	77	66	1	北	70	36	17	39.9	4	
36	5	77	66	1	北	68	21	6	11.6	4	
37	46	77	66	1	南 II	44	16	5	4.0	2	
38	17	77	66	1	北 II	63	28	7	11.2	1	
39	7	77	66	1	北	56	19	5	7.0	4	
40	4	77	66	1	北	54	21	6	8.0	4	
41	60	77	66	1	表 採	97	23	9	11.8	8	
42	31	77	66	1	北 II	(51)	(34)	11	(16.8)	6	
43	68	77	67	1	北	130	41	15	70	6	
44	1	77	67	1	北 II	34	23	4	2.1	2	
45	61	77	67	1		61	33	10	27.6	2	
46	3	77	67	2	北	73	30	8	19.3	4	
47	48	78	67	2	南 II	42	46	11	16.8	4	
48	26	78	67	2	北 II	50	57	7	14.0	4	
49	41	78	67	2	南	33	58	8	12.2	2	
50	25	78	67	3	北 II	34	47	8	12.9	4	

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
51	53	78	67	3	南 II	44	67	9	20.2	4	(34-96)
52	64	78	30	3	PV(P)埋土	53	35	8	13.0	4	
53	24	78	67	3	北 II	33	51	6	10.2	4	
54	63	78	68	3	表 採	32	58	8	12.0	1	
55	57	78	25	3	SI住埋土	42	63	12	20.5	4	
56	56	78	25	3	SI住埋土	41	55	9	14.2	4	
57	42	78	68	3	南	26	64	7	10.3	4	
58	52	78	68	3	中 央	36	54	11	15.7	4	
59	23	78	68	3	北 II	42	46	8	11.2	3	
60	22	78	68	3	北 II	25	52	5	5.4	2	

d 石 筥 集 計 表

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
1	31	79	68	1 a	北	61	60	15	55.8	4	(27-18)
2	39	79	68	1 a	北	66	48	17	36.9	4	
3	53	79	26	1 c	SI住埋土	55	41	17	41.2	4	
4	380	79	68	1 a	北 II	56	41	24	46.3	11	
5	52	79	68	1 a	南 II	53	37	9	17.5	4	
6	48	79	68	1 c	南	48	35	13	17.4	5	
7	44	79	68	1 a	中 央	68	42	14	45.9	4	
8	36	79	69	2 a	北	48	31	11	16.0	4	
9	397	79	69	2 c	北	75	49	22	65	6	
10	30	79	69	2 a	北	64	38	19	52.9	8	
11	16	79	69	2 b	北 II	67	39	19	59.0	4	
12	15	80	69	2 b	北 II	54	32	17	33.6	4	
13	20	80	69	2 b	北 II	61	36	15	44.8	4	
14	40	80	69	2 b	北 II	76	45	16	70	4	
15	29	80	69	2 a	表 採	61	33	12	26.8	4	
16	34	80	69	2 a	北	61	34	13	26.8	5	
17	200	80	70	2 b	南 II	78	42	8	51.1	4	
18	2	80	70	2 a	北	72	38	15	39.1	6	
19	5	80	70	2 b	北 I	77	40	17	54.0	4	
20	51	80	70	2 d	南	40	25	10	10.5	4	
21	19	80	70	3 a	北 II	79	37	19	27.1	11	
22	14	81	70	3 b	南 II	68	32	14	37.2	4	
23	8	81	70	3 a	北	60	28	12	23.3	4	
24	89	81	70	3 a	北 II	42	20	6	5.8	4	
25	27	81	28	3 a	北柱穴群	67	31	11	26.2	4	
26	17	81	70	3 b	南	67	31	16	33.3	4	
27	26	81	28	3 b	北柱穴群	60	26	14	23.3	6	
28	18	81	70	3 a	南 II	78	35	15	47.6	4	
29	24	81	28	3 b	北柱穴群	51	23	11	16.3	4	
30	224	81	71	3 a	北 II	80	34	14	41.0	1	
31	25	81	28	3 a	北柱穴群	63	27	12	27.1	6	
32	13	81	71	3 d	北 II	62	27	14	26.7	4	
33	1	81	71	3 b	北	62	25	11	20.5	4	
34	28	82	71	3 a	北	83	31	16	48.4	4	
35	10	82	71	3 a	北 II	72	30	12	25.9	4	
36	4	82	71	3 b	北	83	32	14	44.0	4	
37	12	82	71	3 b	南	69	25	15	26.6	4	

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
38	9	82	71	4 d	北 II	72	24	12	24.1	4	(26-8) 破損品 破損品 破損品
39	11	82	71	4 d	南	69	24	11	23.0	4	
40	3	82	71	4 b	北	97	29	17	53.5	4	
41	7	82	71	4 d	北 II	62	20	11	15.6	4	
42	23	82	25	4 d	SI住埋土	64	17	8	8.7	4	
43	6	82	72	5 a	北 II	(22)	30	47	(7.8)	3	
44	35	82	72	5 b	北	(38)	30	12	(17.2)	4	
45	45	82	72	5 a	中 央	(44)	42	12	(29.6)	8	

e 石 斧 集 計 表

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
1	7	83	90		北 II	123	34	18	90	1	打製石斧
2	30	83	90		表 採	249	79	52	1060	12	打製石斧
3	4	83	90	1	北	183	49	37	520	13	
4	3	83	90	1	北	120	48	29	310	7	
5	16	83	90	1	中 央	132	47	30	325	13	
6	2	84	90	1	北	106	48	30	270	7	
7	14	84	90	1	南 II	(82)	54	32	(255)	15	基部欠損
8	5	84	90	1	北	92	52	34	270	16	刃部欠損
9	9	84	90	1	北 II	(126)	58	38	(480)	13	刃部欠損
10	119	84	34	1	南柱穴群	(136)	(55)	(33)	(442)	16	(32-78)刃部欠損
11	18	84	90	1	中 央	(36)	(45)	(10)	(22.5)	7	刃部破片
12	10	84	91	1	北 II	(55)	(20)	(27)	(42.4)	7	刃部破片
13	12	84	28	1	北柱穴群	(35)	(43)	(13)	(31.7)	7	(31-59)破片
14	19	84	91	1	北 II	(79)	42	29	(160)	7	刃部欠損
15	127	85	91	1	北 II	(88)	(65)	21	(205)	17	破損品
16	17	85	91	1	中 央	(124)	(55)	37	(365)	16	刃部欠損
17	13	85	91	1	南	(82)	39	19	(100)	3	刃部欠損
18	8	85	91	2	北 II	(115)	(49)	21	(235)	14	刃部破損
19	22	85	91	2	北 II	69	35	9	42.3	7	
20	11	85	91	2	北 II	(59)	41	24	(90)	7	刃部欠損
21	20	85	91	2	南	(64)	(41)	(16)	(35.6)	14	破片
22	21	85	29	2	PⅢ柱穴群	(65)	(33)	14	(52.6)	7	(32-73)刃部・基部欠損
23	6	85	91	2	北 II	(59)	36	14	(49.5)	7	基部破損
24	15	85	91	2	南 II	72	31	(9)	(33.0)	7	破損品
25	1	85	91	2	北	(36)	21	7	(10.4)	7	刃部欠損
26	25	85	28	2	SI住埋土	(50)	12	7	(6.1)	3	(28-42)破損品

f 削 搔 器 集 計 表

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
1	183	86	72	A 1	南	(43)	(37)	11	(15.0)	4	
2	391	86	72	A 1		(58)	38	9	(17.3)	26	
3	256	86	72	A 1	中 央	74	27	20	28.8	1	
4	46	86	72	A 1	南 II	50	39	14	18.4	3	
5	249	86	72	A 1	北 II	52	19	10	10.8	6	
6	230	86	72	A 1	南 II	50	26	14	14.8	26	

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
7	248	86	72	A1	北 II	(34)	(28)	9	(4.5)	8	
8	244	86	72	A1	北 II	97	32	17	51.1	4	
9	227	86	72	A1	北	(50)	34	15	(30.9)	26	
10	245	86	26	A1	SI住埋土	72	28	15	24.7	4	(27-22)
11	241	86	72	A1	北 II	(26)	25	10	(6.5)	10	
12	250	86	72	A2	北 II	39	24	13	(15.2)	1	
13	170	86	73	A2	中 央	72	40	12	37.7	3	
14	84	86	73	A2	北	57	40	15	35.2	10	
15	54	86	73	A2	北	53	19	7	8.3	26	
16	146	87	73	A2	北 II	59	25	15	17.4	4	
17	265	87	73	A2	中 央	68	30	16	35.3	1	
18	21	87	73	A2	北 II	67	42	9	28.9	8	
19	122	87	73	A2	北 II	(48)	25	10	(11.7)	1	
20	127	87	73	A2	北 II	63	32	7	18.2	4	
21	231	87	73	A2	北 II	51	31	18	20.0	1	
22	385	87	26	A2	SI住埋土	42	30	8	8.1	4	(27-19)
23	115	87	73	A2	北 II	46	48	7	10.6	27	
24	43	87	73	A2	北 II	(27)	31	7	(7.8)	4	
25	148	87	73	A2	北 II	44	70	9	34.7	3	
26	300	87	73	A2	北 II	38	44	15	22.7	5	
27	236	87	74	A2	北	31	58	9	14.2	6	
28	32	87	74	A2	北	49	61	22	41.7	4	
29	70	87	74	A2	北	30	60	11	18.2	4	
30	189	87	74	A2	南	38	53	10	22.5	10	
31	308	87	74	A2	北 II	37	59	12	25.0	26	
32	47	88	74	A2	南	41	39	12	19.7	5	
33	38	88	74	A2	北 II	39	41	10	20.2	4	
34	91	88	74	A2	北 II	40	27	9	9.5	8	
35	73	88	74	A2	北	33	(62)	16	50.5	6	
36	205	88	74	A2	南 II	54	35	9	16.6	5	
37	229	88	74	A2	北 I	31	70	16	41.4	1	
38	301	88	74	A2	北 II	33	47	12	12.1	4	
39	237	88	75	A2	北	27	79	15	21.8	10	
40	260	88	75	A2	南 II	25	43	8	7.2	1	
41	362	88	29	A2	北柱穴群	25	33	10	8.7	6	(31-68)
42	280	88	75	A2	北 II	16	27	5	3.3	4	
43	267	88	75	A2	北	30	52	9	18.3	1	
44	72	88	75	B1 a	北	60	57	10	31.8	27	
45	153	88	75	B1 a	北 II	49	74	17	59.0	10	
46	71	88	75	B1 a	北 I	42	51	10	17.8	4	
47	198	88	75	B1 a	南 II	55	68	14	48.1	6	
48	117	89	75	B1 a	北 II	40	52	10	15.7	4	
49	81	89	76	B1 a	北	50	68	11	41.9	4	
50	177	89	76	B1 a	南	41	57	17	33.7	6	
51	215	89	26	B1 a	SI住埋土	48	46	9	21.6	26	(27-26)
52	75	89	76	B1 a	北	51	83	10	42.2	10	
53	390	89	76	B1 a	南 II	54	35	14	26.2	1	
54	223	89	30	B1 a	南柱穴群	60	75	8	29.1	4	(34-94)
55	113	89	76	B1 a	北 II	56	42	12	19.0	27	
56	176	89	76	B1 a	南	50	62	13	33.4	3	
57	307	89	76	B1 a	南	49	39	10	15.4	1	
58	159	89	76	B1 a	北 II	55	95	20	125	3	
59	186	89	76	B1 a	南	36	30	7	4.4	4	
60	144	90	77	B1 b	北 II	56	63	8	31.0	10	

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
61	121	90	77	B1b	北 II	29	60	10	16.0	6	
62	141	90	77	B1b	北 II	38	62	13	27.2	4	
63	104	90	77	B1b	北 II	49	53	8	21.2	4	
64	163	90	77	B1b	中 央	28	(56)	8	(13.4)	4	
65	120	90	77	B1b	北 II	45	47	8	23.1	5	
66	139	90	77	B1b	北 II	37	52	9	19.8	4	
67	50	90	77	B1b	南	33	58	13	21.1	4	
68	101	90	77	B1b	北 II	39	51	12	24.7	27	
69	100	90	77	B1b	北 II	62	18	14	18.8	26	
70	165	90	70	B1b	中 央	29	52	8	10.4	4	
71	76	90	78	B1b	北	94	56	20	90.0	3	
72	157	90	78	B1b	北 II	51	103	17	90.0	5	
73	109	90	78	B1b	北 II	29	30	6	56.0	4	
74	41	90	78	B1b	北 II	30	33	12	14.6	4	
75	147	90	78	B1b	北 II	37	51	8	12.0	5	
76	197	90	78	B1b	南 II	28	41	7	86.0	3	
77	247	91	78	B1b	北	38	85	13	31.9	1	
78	314	91	78	B1b	北 II	30	39	9	6.7	6	
79	187	91	78	B1b	南	57	45	17	36.6	26	
80	192	91	78	B1b	南	49	59	15	38.4	26	
81	140	91	79	B1b	北 II	57	51	13	27.4	1	
82	61	91	79	B1b	北	58	33	10	23.5	10	
83	64	91	79	B1b	北	37	70	13	36.6	1	
84	60	91	79	B1b	北	51	47	8	13.7	26	
85	190	91	79	B1b	南	30	44	12	11.6	4	
86	143	91	79	B1b	北 II	48	55	7	13.6	4	
87	96	91	79	B1b	北 II	30	46	8	11.8	26	
88	94	91	79	B1b	北 II	36	30	8	7.7	26	
89	114	91	79	B1b	北 II	34	(36)	10	(12.2)	26	
90	311	91	79	B1b	北 I	55	51	9	16.0	1	
91	242	91	79	B1b	北 II	52	33	10	18.2	4	
92	266	91	79	B1b	南 II	45	24	8	10.3	6	
93	191	92	79	B1c	南	47	77	15	42.6	26	
94	166	92	80	B1c	中 央	50	39	7	8.2	4	
95	161	92	80	B1c	中 央	35	48	9	12.0	6	
96	151	92	80	B1c	北 II	55	65	15	65.0	4	
97	218	92	27	B1c	SI住埋土	56	60	17	47.9	3	(27-30)
98	278	92	80	B1c	中 央	32	76	11	30.8	3	
99	195	92	80	B1c	南 II	88	44	12	43.4	27	
100	63	92	80	B1c	北	30	68	11	22.1	6	
101	155	92	80	B1c	北 II	48	95	18	60.0	26	
102	201	92	80	B1c	南 II	32	100	18	70.0	10	
103	158	92	81	B1c	北 II	47	115	18	65.0	27	
104	33	93	81	B2	北	96	50	20	105.0	4	
105	172	93	81	B2	中 央	90	35	10	30.8	8	
106	175	93	81	B2	南 I	64	28	11	14.8	26	
107	168	93	81	B2	中 央	49	29	11	16.9	3	破損品 ?
108	220	93	28	B2	北柱穴群	68	35	14	29.8	3	(31-58)
109	82	93	81	B2	北	70	48	15	38.9	26	
110	358	93	26	B2	SI住埋土	56	31	15	22.4	3	(27-25)
111	99	93	81	B2	北 II	46	35	9	18.0	10	
112	112	93	81	B2	北 II	46	29	12	17.5	26	
113	386	93	26	B2	SI住	56	25	6	8.6	1	(27-21)
114	402	93	81	B2	北 II	42	21	9	6.8	6	
115	348	93	81	B2	南 I	42	27	10	8.7	6	

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
116	406	93	82	B2	北 II	46	26	7	9.1	1	火熱により赤変
117	179	93	82	B2	南 I	52	33	9	14.2	4	
118	288	93	82	B2	北 II	50	31	10	16.7	26	
119	222	93	28	B2	北柱穴群	62	38	13	37.1	26	(31-60)
120	37	94	82	B2	北	55	54	17	52.1	6	
121	149	94	82	B2	北 II	(52)	40	15	(29.1)	6	
122	164	94	82	B2	中 央	61	31	12	25.0	26	
123	55	94	82	B2	北	52	34	6	11.9	10	
124	136	94	82	B2	北 II	51	40	7	17.1	10	
125	123	94	82	B2	北 II	53	25	11	16.1	1	
126	137	94	82	B2	北 II	57	33	5	13.6	4	
127	98	94	82	B2	北 II	49	29	7	10.7	26	
128	173	94	82	B2	南	60	31	7	10.9	6	
129	206	94	82	B2	南	(67)	25	7	(12.8)	26	
130	174	94	82	B2	南	72	40	11	29.3	4	
131	217	94	26	B2	SI住埋土	74	21	10	15.6	26	(27-24)
132	102	94	83	B2	北 II	50	36	9	15.7	3	
133	292	94	83	B2	北	34	43	8	9.6	3	破損品?
134	210	94	28	B2	北柱穴群	37	39	9	12.2	3	(31-64)
135	138	94	83	B2	北 II	65	40	7	26.3	6	
136	202	94	83	B2	南 II	49	124	16	95.0	26	
137	219	95	26	B2	SI住埋土	88	52	22	110.0	10	(27-23)
138	74	95	83	B2	北	71	53	18	50.5	10	
139	90	95	83	B2	北 II	45	25	10	94.0	26	
140	119	95	83	B2	北 II	(37)	38	12	22.0	8	
141	135	95	83	B2	北 II	57	30	7	11.6	26	
142	103	95	83	B2	北 II	64	43	11	30.8	26	
143	154	95	83	B2	北 II	48	90	10	33.4	4	
144	80	95	84	B2	北	27	40	5	6.2	26	
145	169	95	84	B2	中 央	41	53	13	26.0	1	
146	65	95	84	B2	北	(52)	33	11	12.0	1	
147	129	95	84	B2	北 II	44	46	5	10.3	1	
148	49	95	84	B2	南	37	41	12	15.5	4	
149	105	95	84	B2	北 II	37	53	10	19.3	6	
150	118	95	84	B2	北 II	48	24	6	5.9	6	
151	372	95	27	B2	SI住埋土	36	23	3	2.5	4	(28-39)
152	22	95	84	B2	北 II	75	30	17	27.0	4	
153	56	95	84	B2	北	62	32	8	10.2	26	
154	156	96	84	C	北 II	89	42	15	47.3	3	
155	283	96	84	C	北 I	66	85	15	70.0	1	
156	345	96	85	C	北 II	102	27	14	31.4	4	
157	359	96	27	C	SI住埋土	50	27	8	10.3	4	(28-37)
158	322	96	85	C	北 I	78	55	17	44.3	10	
159	110	96	85	C	北 II	37	27	10	10.4	1	
160	327	96	85	C	北 II	28	40	11	11.8	2	
161	351	96	85	C	北 II	63	29	15	17.4	4	
162	331	96	85	C	南 I	79	41	8	33.5	3	
163	287	96	85	C	北	90	50	11	45.2	6	
164	286	96	85	C	南 II	44	29	13	14.8	6	
165	338	96	85	C	北 II	34	36	6	8.4	6	
166	318	96	85	C	北	33	49	10	13.6	4	
167	152	97	85	C	北 II	64	56	9	43.7	27	
168	167	97	86	C	中 央	58	20	10	11.5	26	
169	346	97	86	C	北 II	50	26	8	8.3	4	
170	97	97	86	C	北 II	61	30	6	8.3	26	

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
171	273	97	86	C	北 II	66	49	15	42.7	1	
172	196	97	86	C	南 II	65	27	5	4.6	8	
173	354	97	86	C	北 II	48	24	6	7.3	4	
174	357	97	86	C	北 II	47	39	15	26.4	3	
175	142	97	86	C	北 II	48	56	12	30.3	8	
176	277	97	86	C	北 II	53	46	17	34.8	8	
177	269	97	86	C	南	40	24	9	8.1	4	
178	251	97	86	C	北 II	58	32	16	22.3	10	
179	268	97	86	C	表 採	32	47	10	9.2	26	
180	258	97	86	C	北 II	27	54	11	15.8	1	
181	276	97	87	C		35	62	14	33.2	4	
182	68	97	87	C	北 I	51	51	10	25.2	27	
183	342	98	87	C	北 II	49	36	14	21.7	4	
184	401	98	29	C	北柱穴群	39	29	11	14.8	5	(31-70)
185	42	98	87	C		40	37	11	15.0	8	
186	296	98	87	C	北	43	38	9	14.8	1	
187	87	98	87	C	北 II	32	28	3	3.9	26	
188	393	98	87	C	南	30	38	8	7.5	5	
189	66	98	87	C	北 I	42	45	8	16.1	1	
190	107	98	87	C	北 II	26	32	4	3.4	26	
191	207	98	87	C	表 採	72	45	10	34.5	10	
192	216	98	27	C	SI住埋土	66	46	14	26.5	26	(28-38)
193	203	98	87	C	南 II	35	27	4	4.0	4	
194	69	98	87	C	北	45	55	14	23.1	4	
195	86	98	87	C	北 II	32	19	6	2.7	26	
196	182	98	87	C	南 I	54	28	10	12.8	4	
197	67	98	88	C	北	33	56	11	13.2	4	
198	95	98	88	C	北 II	34	20	12	6.8	26	
199	83	98	88	C	北	55	38	10	20.7	4	
200	315	98	88	C	北 I	38	46	9	17.8	10	
201	336	98	88	C	北 II	48	37	13	24.2	1	
202	193	98	88	C	南 II	51	21	7	8.6	4	
203	398	99	88	C2	北	57	38	8	12.2	6	火熱により赤変
204	150	99	88	C2	北 II	68	39	18	28.8	5	
205	178	99	88	C2	南 I	48	21	8	7.9	6	
206	211	99	29	C2	PⅢ柱穴群	77	52	16	54.2	10	(32-75)
207	124	99	88	C2	北 II	36	53	18	31.1	26	
208	185	99	89	C2	南	37	13	4	2.4	26	
209	111	99	89	C2	北 II	48	33	10	17.5	5	
210	62	99	89	C2	北 II	54	43	15	24.9	4	
211	162	99	89	C2	中 央	34	39	9	10.8	26	
212	400	99	89	C2	北	43	28	11	10.3	4	
213	199	99	89	C2	南 II	73	56	16	34.7	26	
214	188	99	89	C2	南	52	46	13	26.5	26	
215	226	99	89	C2	北 II	27	32	6	4.9	6	
216	263	99	89	C2	北 II	25	30	7	4.0	6	
217	132	99	89	C2	北 II	42	41	10	28.5	3	
	384	26	25	B2	R住埋土	38	28	6	7.5	1	(26-4)
	374	26	25	C	R住埋土	29	31	7	7.7	4	(26-5)
	375	26	25	B2	R住埋土	41	29	4	3.7	1	(26-6)
	373	26	25	C	R住埋土	35	29	12	11.8	4	(26-7)
	363	27	26	C	SI住埋土	41	25	8	7.5	26	(27-20)
	367	27	27	A2	SI住埋土	60	60	15	54.1	1	(27-27)
	212	27	27	B2	SI住埋土	(24)	(44)	(9)	11.0	4	(27-28)
	213	27	27	B1 b	SI住埋土	(34)	(45)	(14)	(17.2)	4	(27-29)

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
	44	27	27	A2	SI住埋土	32	18	4	1.7	4	(27-31)
	383	27	27	A2	SI住埋土	56	49	7	11.6	6	(27-32)
	214	28	27	B1a	SI住埋土	(45)	(35)	14	(12.9)	6	(28-33)
	364	28	27	C	SI住埋土	43	36	12	15.1	1	(28-34)
	381	28	27	A2	SI住埋土	32	27	12	8.0	26	(28-35)
	371	28	27	B2	SI住埋土	27	22	5	2.7	1	(28-36)
	361	28	28	C	SI住埋土	32	63	13	24.3	6	(28-40)
	368	28	28	C	SI住埋土	50	72	20	80	1	(28-41)
	235	31	28	B2	北柱穴群	50	33	15	19.0	6	(31-63)
	370	31	29	C	北柱穴群	30	27	5	4.0	4	(31-66)
	221	31	29	A2	北柱穴群	74	42	9	25.4	10	(31-67)
	369	31	29	C	北柱穴群	77	40	19	35.2	4	(31-69)
	365	31	29	C	北柱穴群	73	37	11	25.2	6	(31-71)
	394	32	29	B2	PⅢ柱穴群	72	24	7	11.0	7	(32-74)
	131	34	30	C	南柱穴群	21	32	8	25.2	4	(34-91)
	130	34	30	C	南柱穴群	32	36	15	25.8	4	(34-92)
	387	34	30	C	南柱穴群	65	49	13	33.7	5	(34-93)
	388	34	29	B1c	南柱穴群	67	35	8	16.4	7	(34-90)
	389	34	30	B1a	南柱穴群	56	46	12	27.8	1	(34-95)
	366	34	30	C	EⅦ陶片埋土	59	67	13	46.8	6	(34-98)
	360	34	30	A2	EⅦ陶片穴	54	34	19	33.3	1	(34-99)
	396	34	30	C	EⅦ陶片穴	69	46	12	44.9	3	(34-100)

g 残 核 集 計 表

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
1	36	100	92		中 央	49	30	22	34.4	4	
2	31	100	92		南 II	47	47	30	70.0	4	
3	27	100	92		南	53	57	35	75.0	8	
4	22	100	92		北 II	69	52	22	75.0	8	
5	9	100	92		北 II	43	51	22	32.8	26	
6	14	100	92		北 II	57	60	21	59.6	4	
7	15	100	92		北 II	52	64	20	70.0	4	
8	12	100	92		北 II	33	43	20	25.4	5	
9	33	100	93		南 II	39	78	30	65.0	4	
10	3	100	92		北	54	29	16	24.7	4	
11	6	101	93		北	40	79	24	85.0	4	
12	7	101	92		北 II	30	35	19	19.4	3	
13	42	101	93		北 II	49	53	30	90.0	2	
14	20	101	93		北 II	100	55	17	90.0	8	
15	23	101	93		北 II	52	60	26	80.0	5	
16	8	101	93		北 II	45	34	19	25.6	26	
17	29	101	93		南 II	37	68	16	37.0	4	
18	40	101	94		SI住埋土	64	54	32	105	2	
19	37	101	93		中 央	38	49	33	59.8	26	
20	10	101	94		北 II	28	39	18	21.9	8	
21	4	101	94		北	45	59	26	50.2	26	
22	26	102	94		北 II	81	101	37	300	4	
23	11	102	94		北 II	35	53	21	30.4	26	
24	43	102	95		北 II	88	80	69	600	2	
25	32	102	94		南	36	36	18	23.4	11	
26	34	102	94		中 央	36	45	15	29.3	8	

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
27	2	102	94		北	53	41	20	38.1	4	
28	38	102	95		表 採	72	63	30	145	5	
29	16	103	95		北 II	57	91	28	115	4	
30	1	103	96		北	30	18	18	6.0	11	
31	28	103	96		南 II	41	40	20	33.3	4	
32	21	103	96		北 II	75	70	29	110	3	
33	35	103	96		中 央	41	33	22	37.7	2	
34	18	103	96		北 II	46	49	32	80.0	2	
35	17	103	96		北 II	71	51	28	115	4	
36	19	103	96		北 II	74	57	33	175	2	
37	5	103	96		北	71	38	32	90.0	4	

h 磨石集計表

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
1	117	104	35	1a	南柱穴群	170	86	75	1430	18	(33-79)
2	36	104	97	1a	北	155	49	62	740	18	
3	124	104	35	1a	南柱穴群	173	48	60	730	18	(33-85)
4	60	104	97	1a	中 央	137	67	68	760	19	
5	50	104	97	1a	南 II	144	74	71	1130	18	
6	32	104	97	1a	北	147	52	70	810	18	
7	20	104	97	1a		(79)	48	68	(225)	17	破損品
8	19	104	97	1a	北	(92)	52	65	(400)	20	破損品
9	30	104	97	1a	北	(112)	59	50	(530)	19	破損品
10	45	105	32	1a	北柱穴群	(128)	57	72	(550)	18	(30-51)破損品
11	31	105	97	1a	北	(124)	69	61	(750)	18	破損品
12	118	105	35	1a	南柱穴群	(126)	40	65	(550)	18	(33-84)破損品
13	121	105	35	1a	南柱穴群	159	55	77	880	21	(33-83)
14	49	105	97	1a	南 I	(120)	60	64	(540)	18	破損品
15	28	105	97	1a	北	(125)	58	73	(710)	18	破損品
16	44	105	32	1a	北柱穴群	(133)	56	62	(590)	18	(30-52)破損品
17	62	105	31	1a	SI住埋土	(158)	60	66	950	19	(29-48)破損品
18	33	105	97	1a	北	(119)	50	(79)	(600)	18	破損品
19	34	106	97	1a	北 II	(130)	66	77	(730)	18	破損品
20	53	106	98	1a	南	(113)	53	72	(690)	20	破損品
21	43	106	33	1a	北柱穴群	(138)	59	67	(590)	18	(30-54)破損品
22	26	106	98	1a	北	(97)	(51)	71	(435)	18	破損品
23	41	106	98	1a	北 II	(107)	51	62	(220)	20	破損品
24	116	106	33	1a	南柱穴群	(84)	45	66	(440)	18	(32-77)破損品
25	61	106	98	1a	中 央	(96)	46	53	(350)	20	破損品
26	22	106	98	1a	北 I	(90)	(57)	(66)	(435)	18	破損品
27	59	106	98	1a	南 II	(155)	44	65	660	19	破損品
28	97	106	98	1a	北 II	(83)	45	56	(305)	21	破損品
29	27	106	98	1a	北	(117)	51	57	(435)	18	破損品
30	111	107	98	1a	中 央	177	45	70	920	18	
31	21	107	98	1a	北	(81)	55	63	(315)	18	破損品
32	63	107	31	1a	SI住埋土	(83)	58	68	(490)	21	(28-44)破損品
33	95	107	98	1a	北 II	(86)	52	69	(420)	21	破損品
34	64	107	98	1a	表 採	(127)	49	56	(520)	18	破損品
35	93	107	98	1a	北 II	(100)	49	82	(600)	21	破損品
36	57	107	98	1a	表 採	(90)	39	61	(350)	20	破損品
37	51	107	99	1a	南 II	(116)	44	(81)	(550)	17	破損品

遺物 No.	登録 No.	図版	写真	器種 分類	出土地 層位	計測値 (mm, g)				石質 番号	備考
						長さ	幅	厚さ	重量		
38	58	107	99	1 a	南 II	119	48	60	(405)	17	破損品
39	3	107	99	1 a	北 II	121	42	62	440	20	
40	25	107	99	1 a	北 I	(62)	55	53	(190)	18	破損品
41	115	108	99	1 a	北	(144)	55	82	(920)	18	破損品
42	11	108	99	1 b	南	144	43	82	600	17	
43	35	108	99	1 a	北	(130)	43	70	(560)	13	破損品
44	109	108	99	1 b	中央	156	36	68	530	18	
45	47	108	99	1 b	南 I	(129)	45	70	(610)	18	破損品
46	55	108	99	1 b	南	(112)	46	73	(475)	17	破損品
47	54	108	99	1 a	南	(95)	64	77	(620)	20	破損品
48	23	108	99	1 a	北	(95)	44	68	(350)	18	破損品
49	39	108	100	1 a	南	93	32	49	(185)	17	破損品
50	37	108	100	1 a	南	64	40	68	(180)	21	破損品
51	24	108	100	1 a	北	72	41	63	(260)	18	破損品
52	40	109	100	1 a	北 II	(127)	37	(32)	(200)	18	破損品
53	42	109	100	1 a	北 II	(161)	(62)	(65)	(750)	19	破損品
54	48	109	100	1 a	南	206	46	56	860	18	
55	38	109	100	1 a	北 II	(82)	(50)	57	(290)	19	破損品 凹有
56	29	109	100	1 a	北	(106)	59	60	(465)	17	破損品
57	122	109	34	1 a	南柱穴群	(101)	53	60	(495)	21	(33-81)破損品
58	128	109	100	1 a	北 II	(92)	(45)	67	(340)	19	破損品
59	99	109	100	1 a	北 II	(71)	48	65	(270)	21	破損品
60	120	109	33	1 b	P III柱穴群	(87)	32	66	(265)	18	(32-72)破損品
61	126	109	35	1 b	南柱穴群	140	34	68	465	18	(33-86)
62	2	109	100	1 b	北 II	(100)	39	64	(380)	20	破損品
63	14	110	100	1 b	南 II	157	36	61	510	17	
64	16	110	31	1 b	SI住埋土	168	39	65	610	19	(29-47)接合品
65	15	110	101	1 b	中央	134	28	66	380	19	
66	9	110	101	1 b	南 II	(141)	23	65	(220)	18	破損品
67	13	110	101	1 b	南 II	(96)	38	71	(360)	17	破損品
68	6	110	101	1 b	北 II	(98)	34	67	(310)	17	破損品
69	12	110	101	1 b	南	137	32	59	350	18	
70	10	110	101	1 b	南	(124)	26	65	(320)	17	破損品
71	7	110	101	1 b	北 II	(122)	33	83	(560)	20	破損品
72	8	110	101	1 b	北 II	(83)	33	69	(270)	20	破損品
73	17	110	32	1 b	SI住埋土	(62)	33	62	(150)	18	(28-46)破損品
74	18	110	31	1 b	SI住埋土	(92)	29	61	(225)	17	(28-43)破損品
75	5	110	101	1 b	北 II	(85)	24	78	(250)	20	破損品
76	4	110	101	1 b	北 II	92	21	65	(205)	17	
77	52	111	101	1 b	南 II	118	39	85	630	17	
78	56	111	101	1 b	南	106	43	95	680	18	
79	125	111	33	2 b	南柱穴群	(92)	42	73	(440)	18	(32-76)破損品
80	1	111	102	2 b	北	132	42	79	770	18	
81	66	111	101	2 b	北 II	101	48	67	415	18	
82	74	111	102	2 a	南	57	50	32	110	18	
83	46	111	102	2 b	南	85	53	44	290	18	
84	72	111	102	2 a	北 II	(119)	94	56	(660)	18	破損品
85	71	111	102	2 a	北 II	123	91	52	780	21	
86	75	111	102	2 a	南 II	84	70	42	310	18	
87	65	111	102	2 a	北 II	55	57	40	190	18	
88	70	111	102	2 a	北 II	(103)	93	52	(720)	18	破損品
89	78	111	102	2 a	南	106	80	53	630	18	
90	82	112	102	2 b	中央	109	85	49	700	18	
91	69	112	102	2 a	北 II	105	103	55	710	18	
92	80	112	34	2 a	南柱穴群	(101)	101	60	(740)	18	(33-82)破損品

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
93	79	112	102	2 a	南 II	116	92	49	800	18	
94	76	112	102	2 a	南セクション 包含層下位	114	95	51	790	18	
95	68	112	102	2 a	北 II	99	83	44	490	18	
96	67	112	103	2 a	北 II	109	92	56	800	18	
97	77	112	103	2 a	南 II	104	90	53	650	21	
98	81	112	103	2 a	中 央	74	76	44	275	18	
99	84	112	32	2 a	SI住埋土	101	88	45	610	21	(29—50)
100	83	113	103	2 a	中 央	108	89	60	880	18	
101	85	113	32	2 a	SI住埋土	114	91	48	770	21	(29—49)

i 凹石集計表

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
1	88	113	103		北	118	99	44	670	18	
2	107	113	103		南 II	96	95	49	610	18	
3	113	113	103		中 央	89	87	36	435	18	
4	112	113	33		HⅧ埋設 土器	98	84	44	470	18	(30—55)
5	90	113	103		北 II	112	90	(51)	(500)	18	破損品
6	110	113	103		中 央	113	107	69	1060	18	
7	86	114	31		RI住埋土	103	75	31	400	13	(26—1)
8	95	114	103		北 II	76	61	34	180	18	
9	108	114	103		中 央	134	79	38	550	18	
10	105	114	104		南	108	83	60	720	18	
11	96	114	104		北 II	120	75	33	430	21	
12	103	114	104		南	86	57	35	205	18	
13	73	114	33		北柱穴群	101	85	42	490	18	(30—53)
14	100	114	104		北 II	120	93	40	500	18	
15	92	114	104		北 II	143	66	37	470	18	
16	123	114	34		南柱穴群	110	78	46	(440)	21	(33—80)破損品 火熱受けている
17	101	115	104		北 II	106	89	48	670	21	
18	104	115	104		南	140	78	52	(720)	18	破損品
19	102	115	105		北 II	117	83	53	650	18	
20	114	115	105		北 II	103	97	32	465	18	
21	91	115	105		北 II	100	95	42	495	21	
22	94	115	105		北 II	103	81	48	480	18	
23	106	115	105		南	107	78	43	405	18	
24	89	115	105		北	89	80	45	420	18	
25	87	115	105		北	113	80	51	620	18	

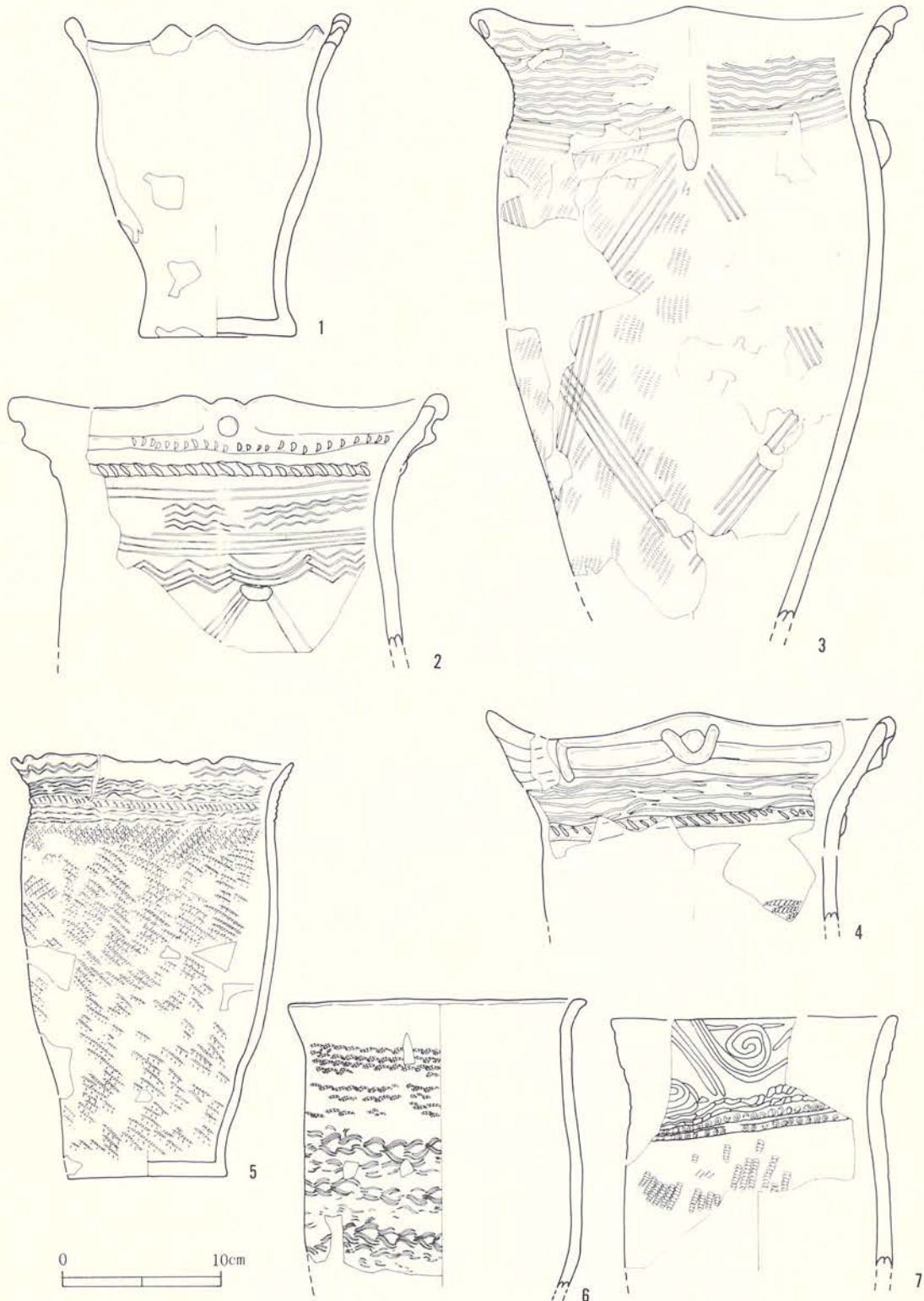
j 石皿・台石類集計表

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, kg)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
1	2	116	106		北 II	320	266	72	8	21	破損品
2	5	116	106		北 II	416	255	115	13	21	
3	12	116	106		北	590	320	105	25	21	
4	4	116	106		北 II	275	205	150	11	21	
5	9	116	106		北 II	284	246	105	10	21	
6	6	116	106		北 II	496	158	115	14	21	
7	7	116	106		北 II	285	290	150	20	21	
8	13	117	107		北 II	580	318	145	24	21	
9	14	117	107		北柱穴群	570	290	110	23	21	
10	8	117	107		北 II	436	245	110	19	21	
11	10	117	107		北 II	327	286	104	14	21	
12	15	117	107		南	318	294	75	10	21	
13	16	117	107		南	385	293	150	24	21	
14	11	118	108		北 II	365	300	130	15	21	
15	17	118	108		南	325	268	70	11	21	
16	19	118	108		南	354	268	120	17	21	
17	21	118	108		南	246	335	95	16	21	
18	23	118	108		南	435	370	120	30	21	
19	20	118	108		南	380	320	100	18	21	
20	18	119	109		南	354	290	110	16	21	
21	22	119	109		南	380	295	150	20	21	
22	26	119	109		PIII柱穴群	422	134	115	9	21	
23	27	119	109		不 明	320	260	70	10	21	
24	3	119	109		北柱穴群	355	278	110	15	21	
25	1	119	109		北 II	254	175	103	5	21	
26	24	119	109		南	320	326	160	25	21	
27	25	119	109		南	304	370	185	23	21	

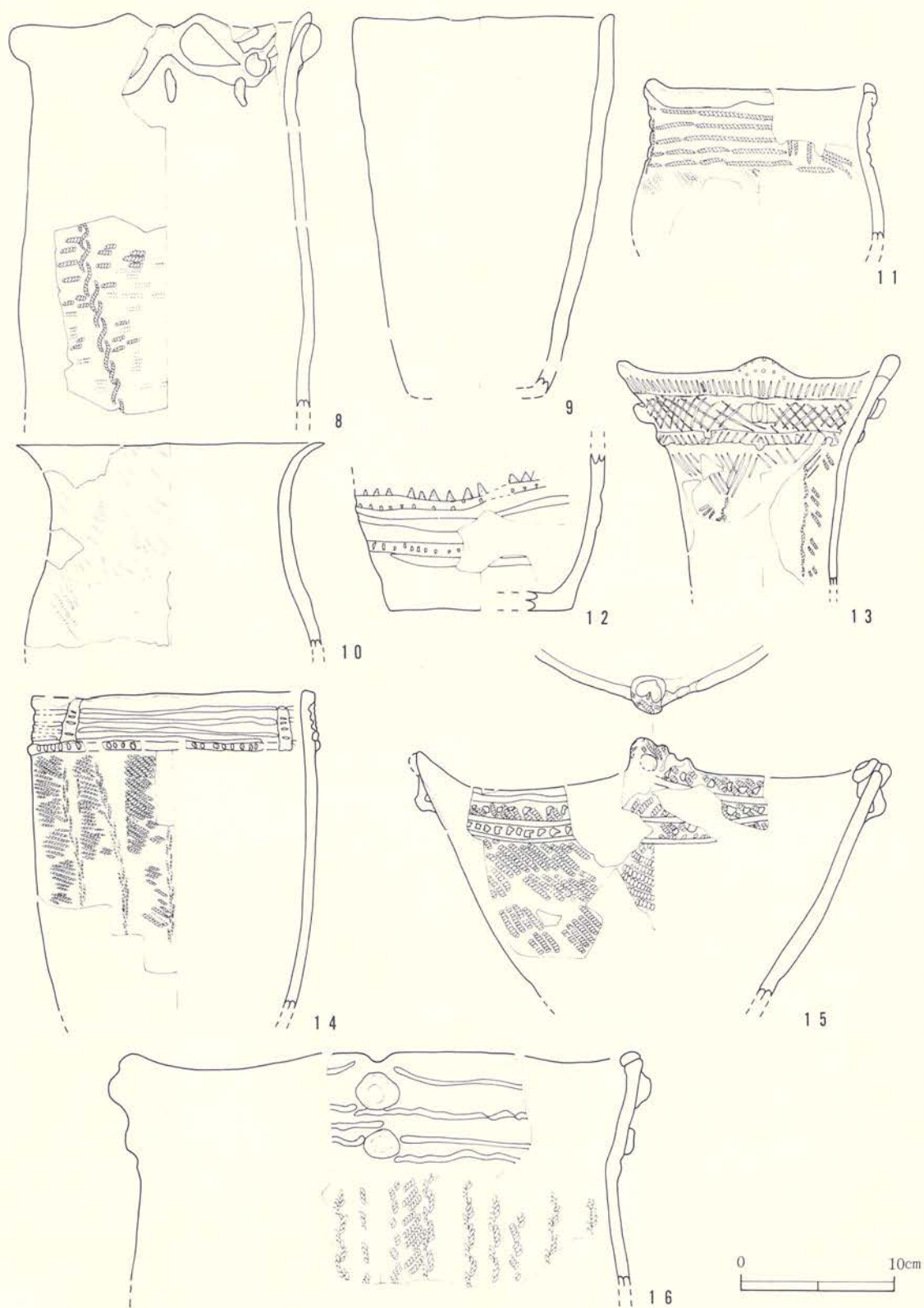
石 製 品 集 計 表

遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考	
						長 さ	幅	厚 さ	重 量			
1	11	120	110		北 II	(32)	26	7	(9.8)	3	(28-45)	
2	14	120	110		中 央	(71)	42	12	(51.3)	3		
3	6	120	110		北	(55)	39	8	(36.7)	3		
4	16	120	28		SI住埋土	73	35	6	23.0	3		
5	8	120	110	石 剣	北 II	(76)	30	(9)	(37.4)	22		
6	9	120	110	石 剣	北 II	(84)	26	(8)	(27.0)	22		
7	10	120	110	石 剣	北 II	(62)	27	9	(21.5)	23		
8	12	120	110	石 剣	北 II	(63)	23	4	(8.3)	22		
9	7	120	110	石 剣	北	(72)	29	9	(29.4)	22		
10	13	120	110	石 剣	南	(106)	27	12	(50.4)	3		
11	17	120	30	石 剣	E ^Ⅳ 臨し 穴埋土	(156)	28	14	(80.0)	3		(34-101)
12	38	120	110	石 棒?	北 II	(150)	30	(14)	90	3		
13	20	120	110	石製円盤	北 II	45	46	26	31.5	25		

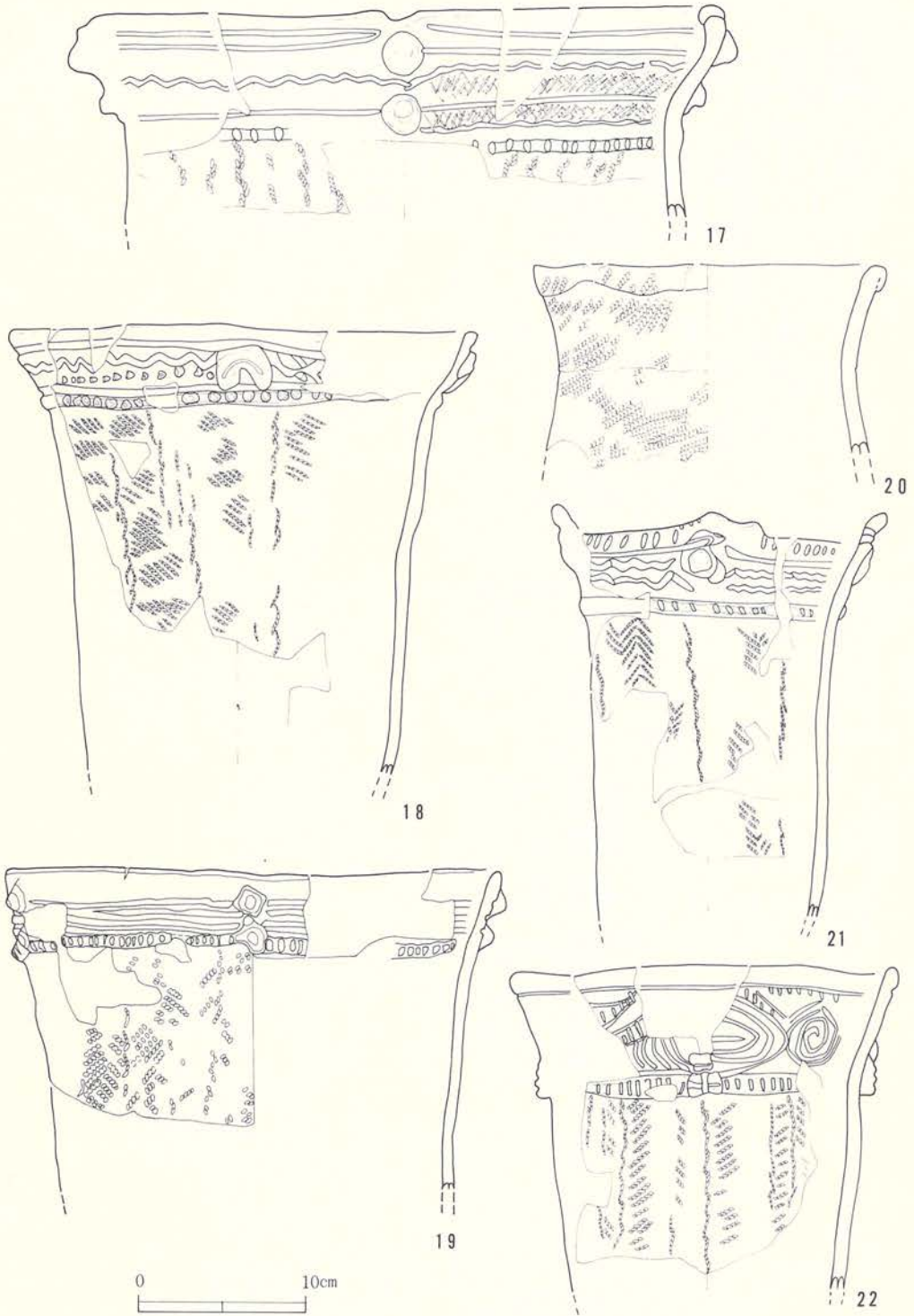
遺物 No.	登録 No.	図 版	写 真	器 種 分 類	出 土 地 層 位	計 測 値 (mm, g)				石質 番号	備 考
						長 さ	幅	厚 さ	重 量		
14	23	120	110	石製円盤	北 II	49	46	17	21.2	25	(26-2)
15	24	120	110	石製円盤	北 II	45	40	16	14.8	25	
16	27	120	25	石製円盤	RI住埋土	42	41	18	16.7	25	
17	25	120	110	軽石製品	北 II	44	42	17	(17.9)	25	
18	26	120	110	軽石製品	北 II	71	28	24	85.0	25	
19	19	120	110	石製円盤	北 II	53	50	21	31.8	25	
20	21	120	111	石製円盤	北 II	52	57	14	24.2	25	(26-3)
21	22	120	25	石製円盤	RI住埋土	47	50	19	26.3	25	
22	18	121	111	軽石製品	北 II	53	36	10	11.0	25	
23	5	121	111	軽石製品	北 II	(40)	43	11	(8.4)	25	
24	4	121	111	軽石製品	北 II	54	34	12	82.0	25	
25	3	121	111	块状耳飾	不 明	48	37	6	14.5	24	
26	2	121	111	块状耳飾	北 II	(45)	(23)	6	7.7	24	火熱痕有
27	28	121	111	块状耳飾	北 II	(36)	(14)	6	(5.4)	24	
28	32	121	111	石 錘	北 II	69	64	33	135	18	
29	33	121	111	石 錘	北 II	67	60	33	190	21	
30	31	121	111	石 錘	北 II	48	75	23	105	21	
31	30	121	111	石 錘	北 II	68	56	21	95.0	18	
32	29	121	111	石 錘	北 II	61	57	16	85.0	18	火熱痕有
33	34	122	112	石 棒?	南 II	(201)	(132)	(102)	3800	19	
34	35	122	112	石 棒?	南	(83)	114	102	1245	19	
35	36	122	112		北 II	200	87	74	1680	21	
36	37	122	112		北 II	118	80	20	260	18	



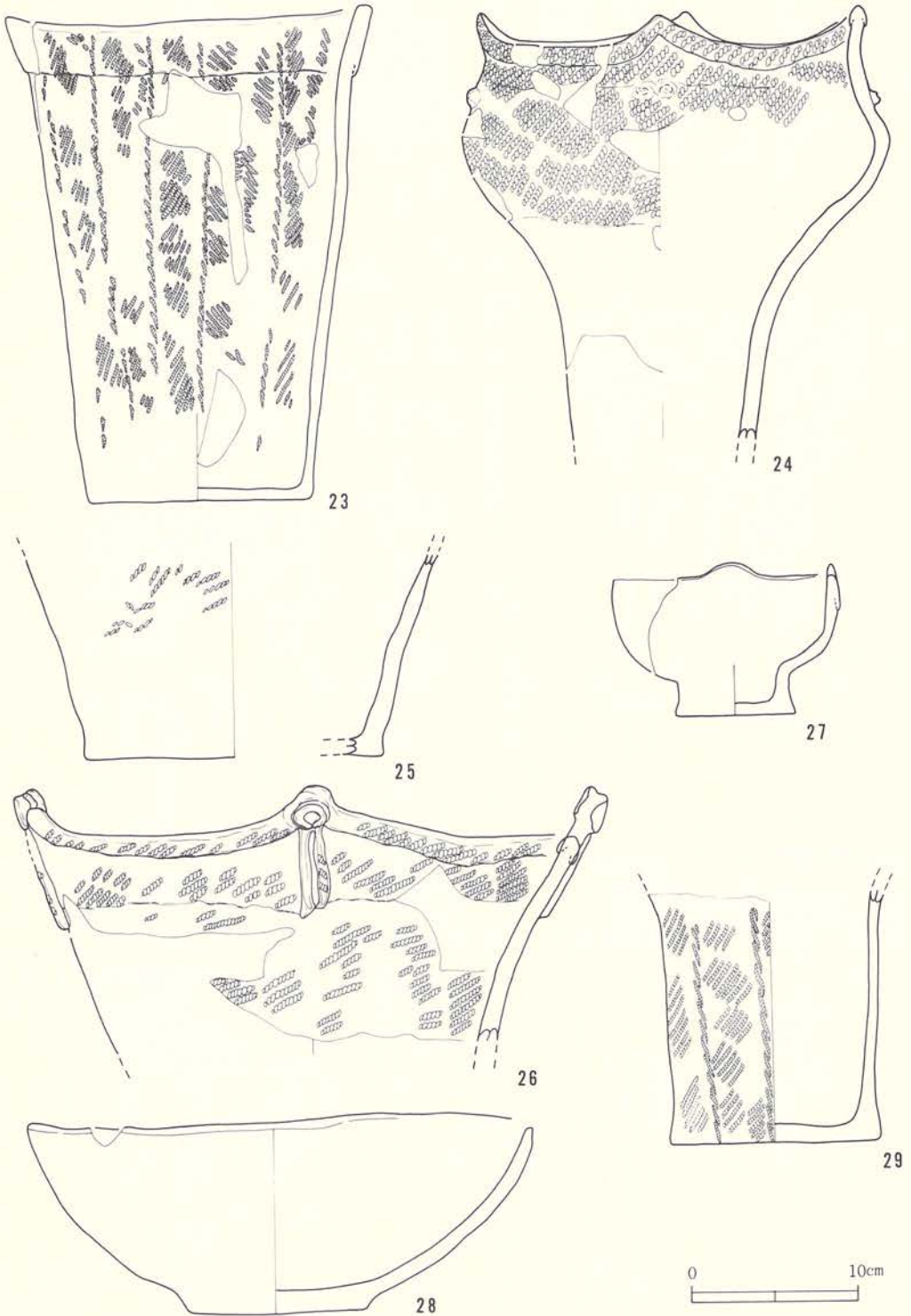
第21図 遺構伴出土器(1) R I住居跡 (5は縮尺1/8)



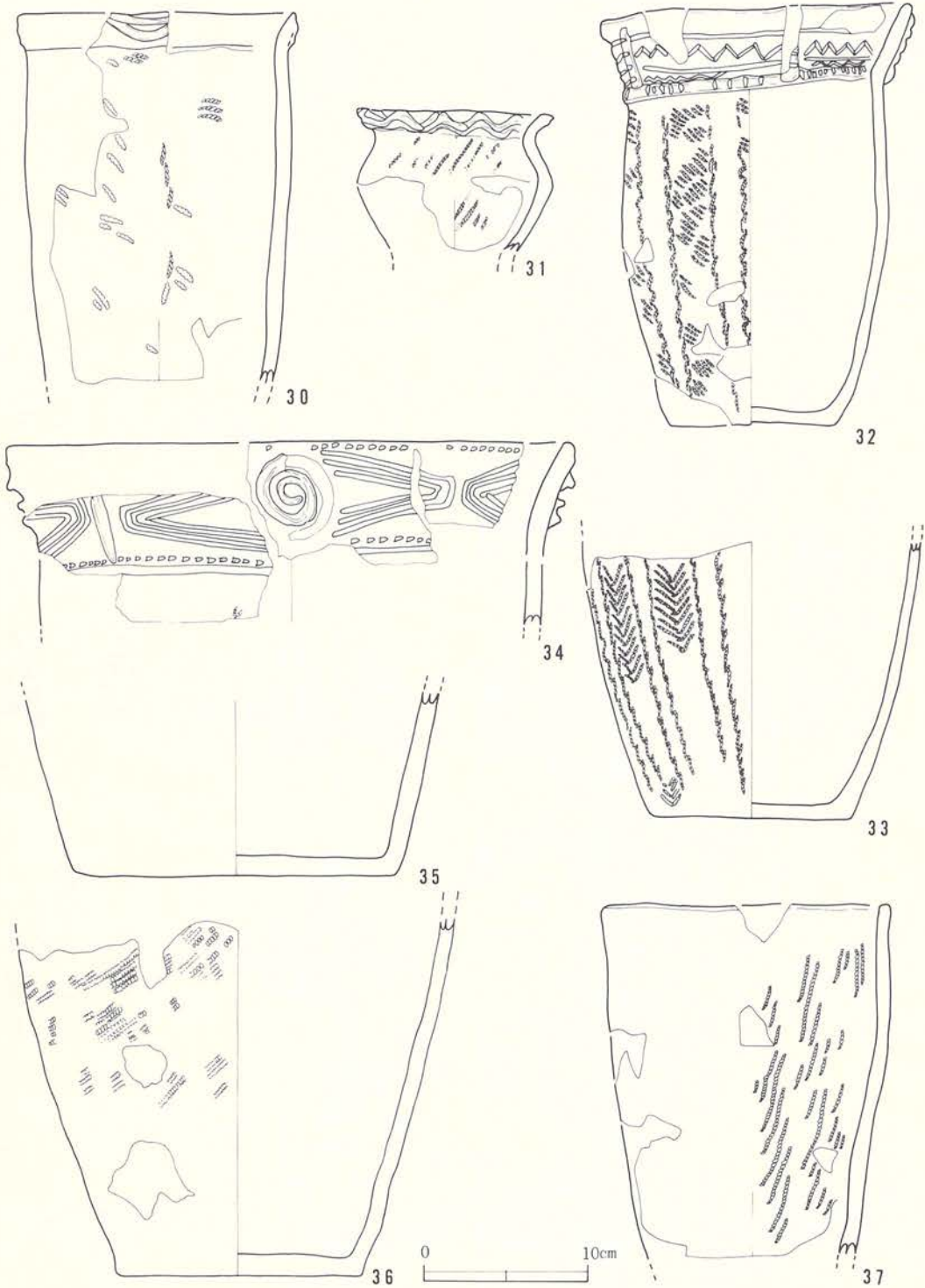
第22図 遺構伴出土器(2) 8~10R I住居跡、11~16S I住居跡



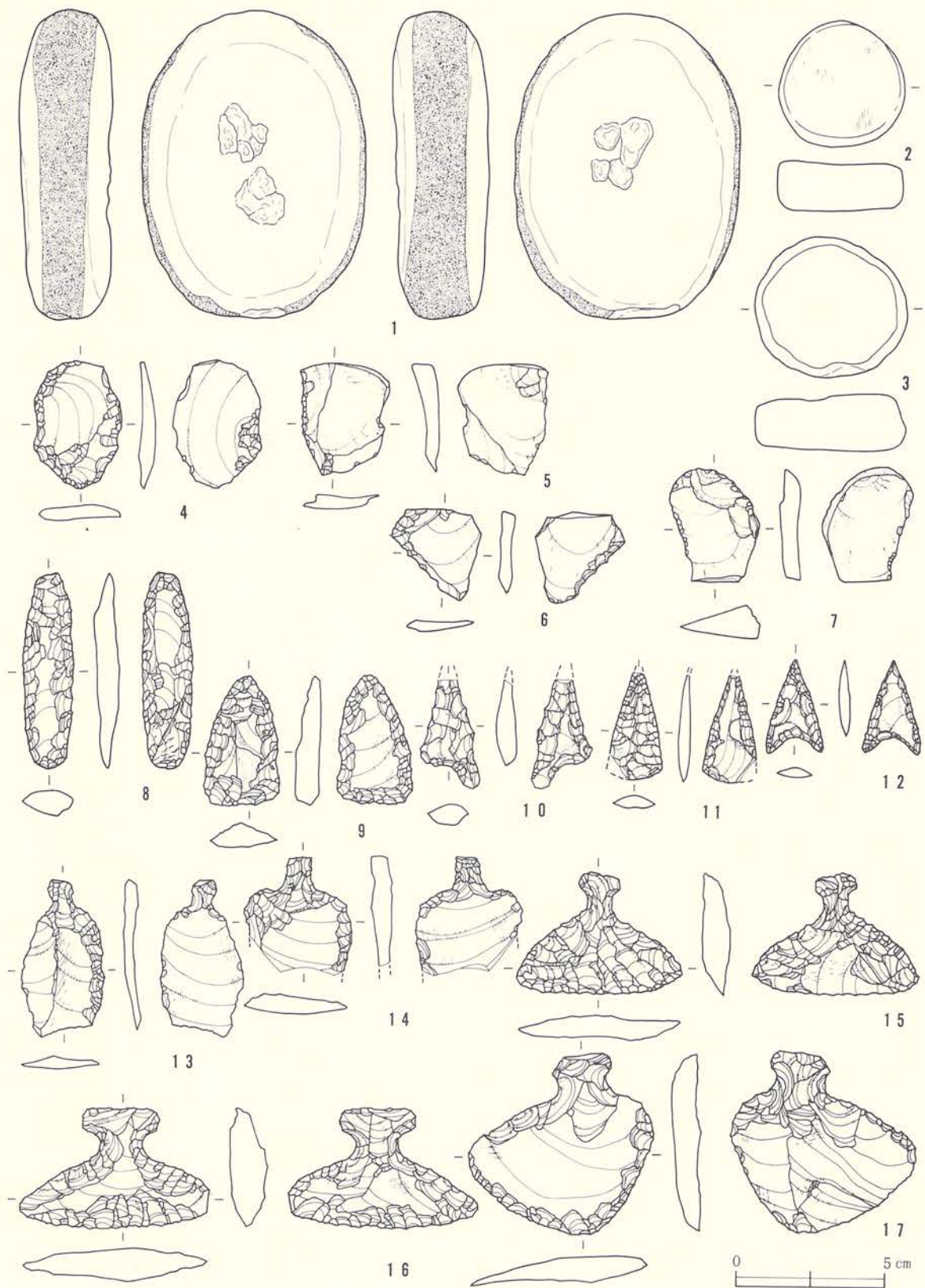
第23図 遺構伴出土器(3) S I 住居跡



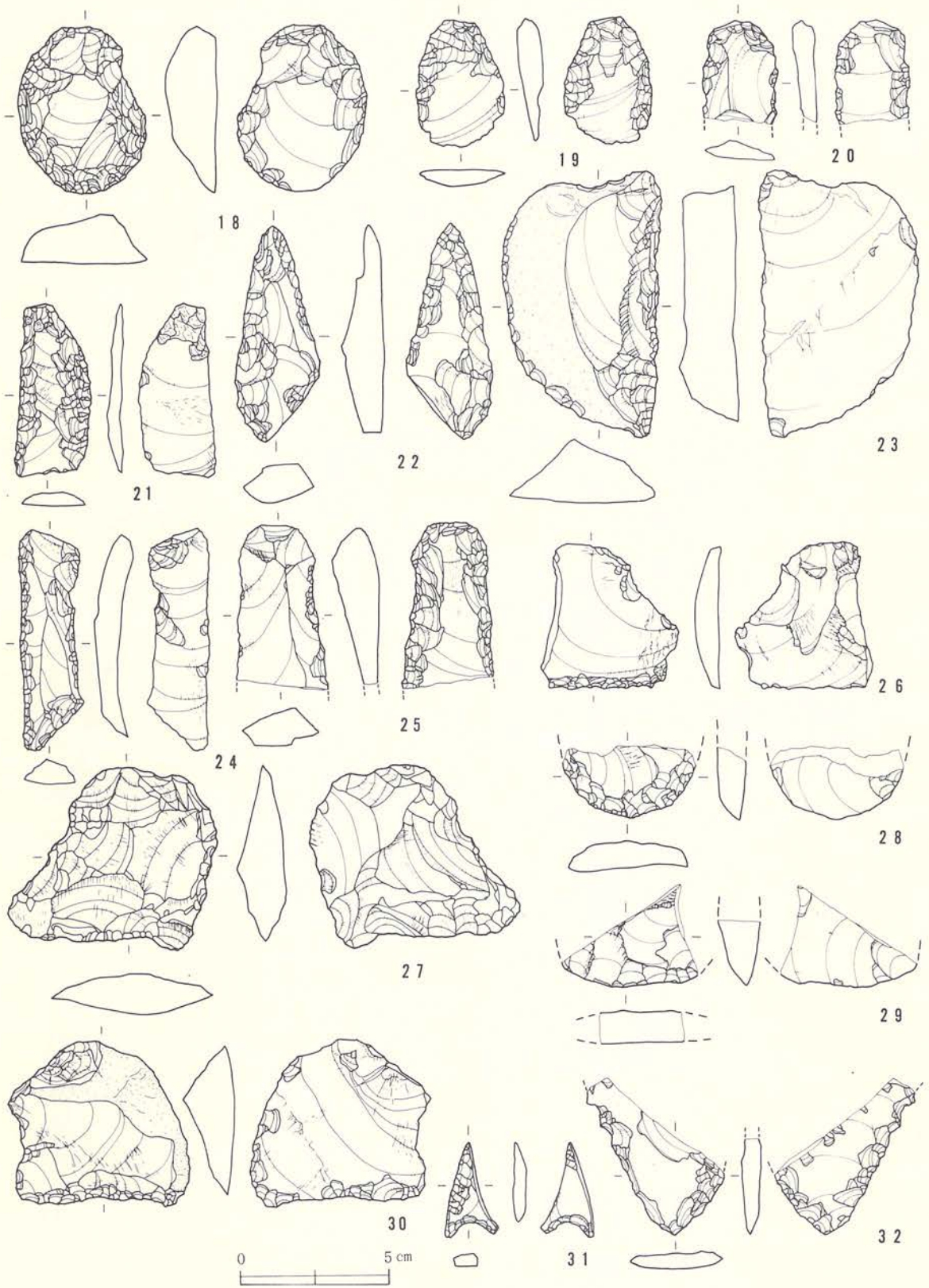
第24図 遺構伴出土器(4) 23~28 S I 住居跡、29北柱穴群



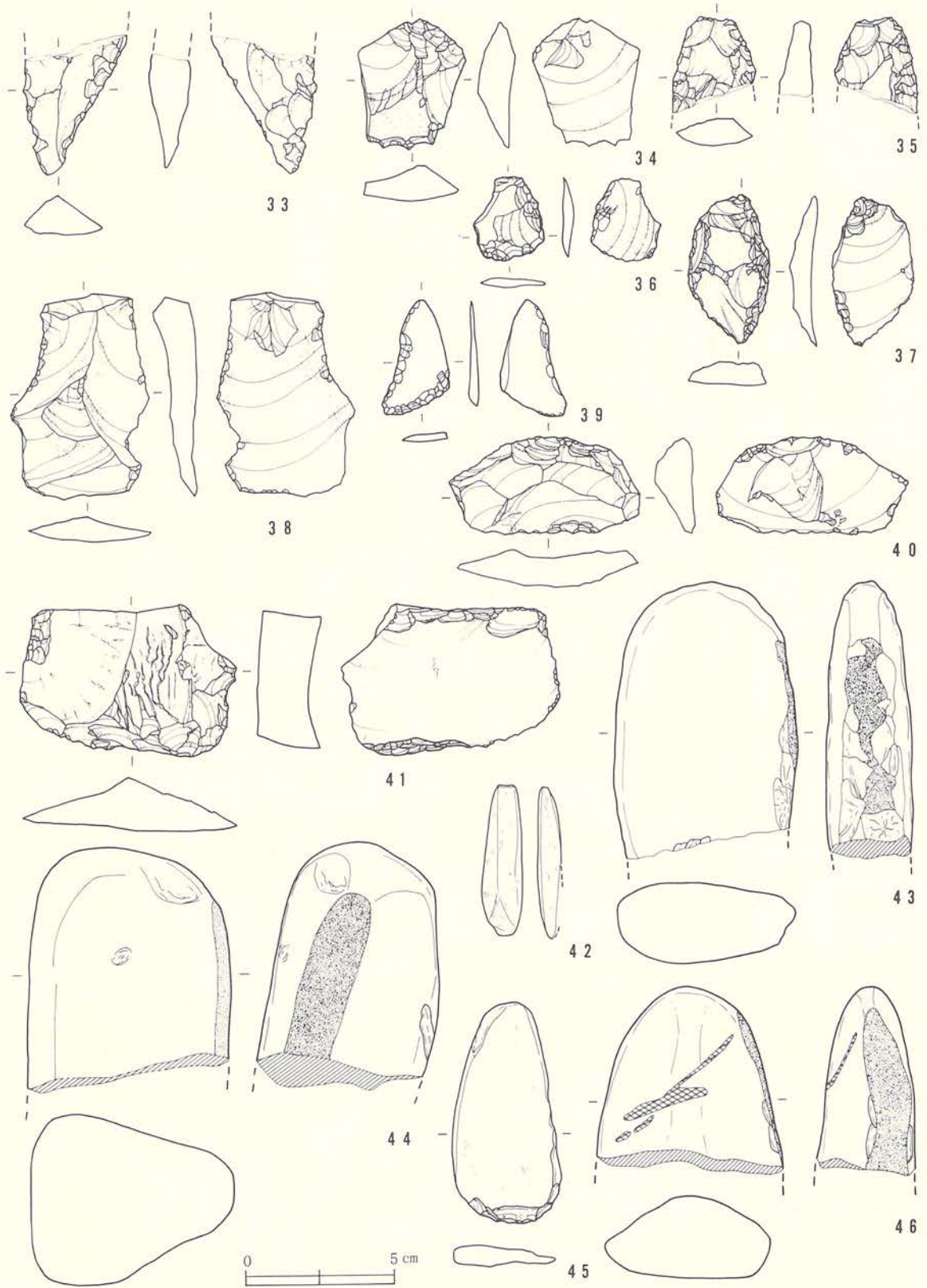
第25図 遺構伴出土器(5) 30・31北柱穴群、32南柱穴群、33・34 E VII陥し穴
35 F VIII埋設土器、36 H VII埋設土器、37 H VIII埋設土器



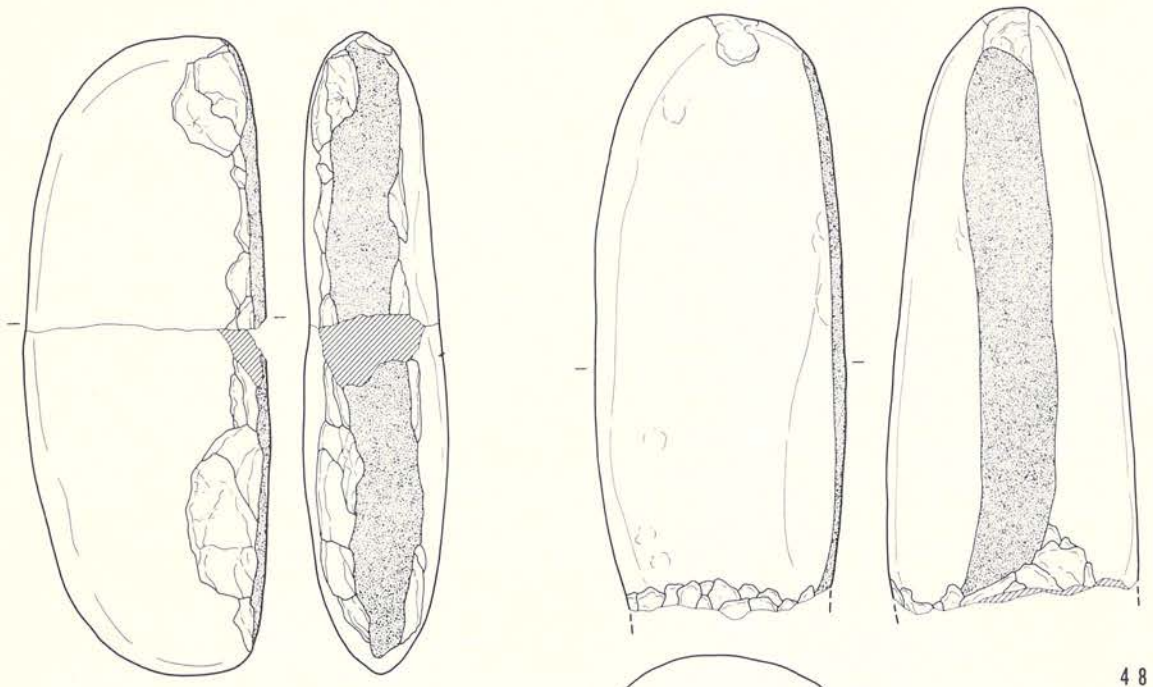
第26図 遺構伴出石器(I) 1~7 R I住居跡、8~17 S I住居跡



第27図 遺構伴出石器(2) S I 住居跡

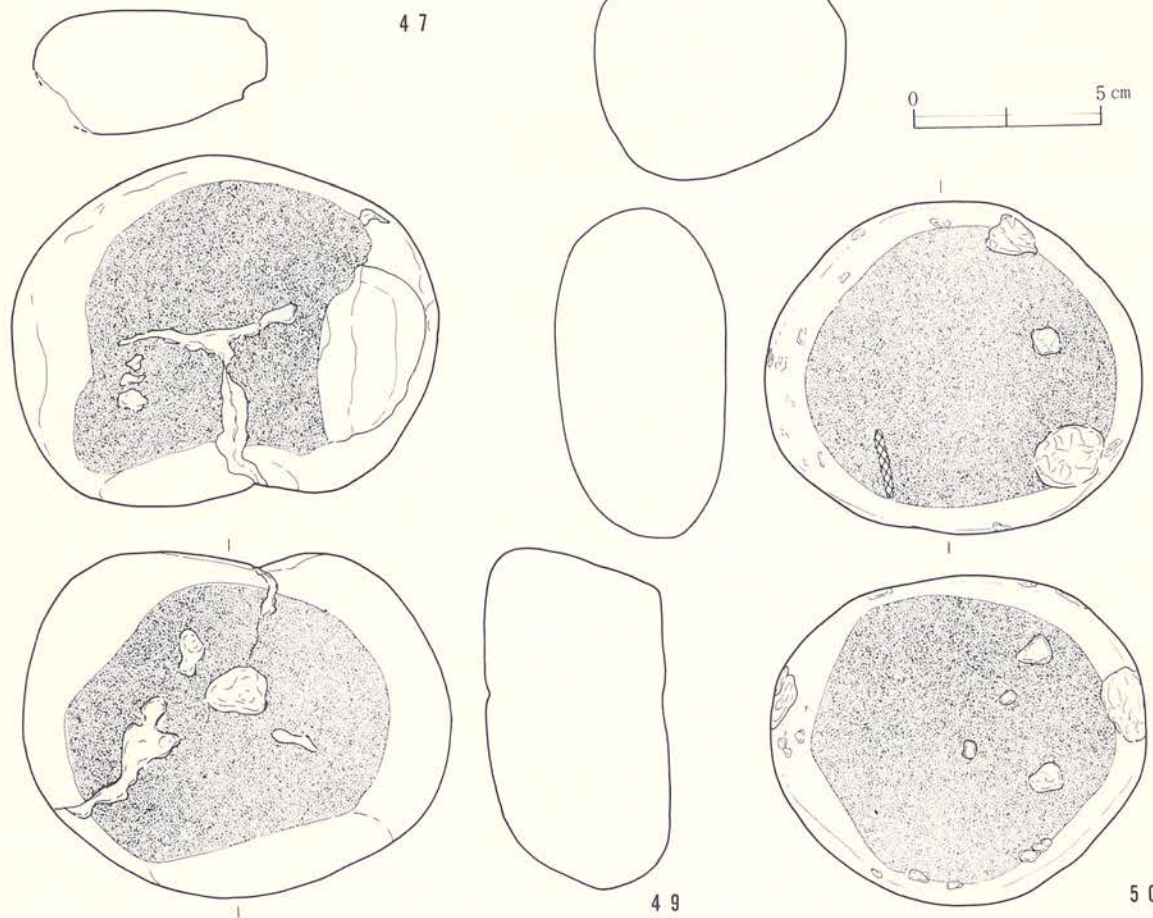
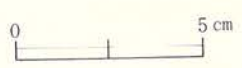


第28図 遺構伴出石器(3) S I 住居跡



47

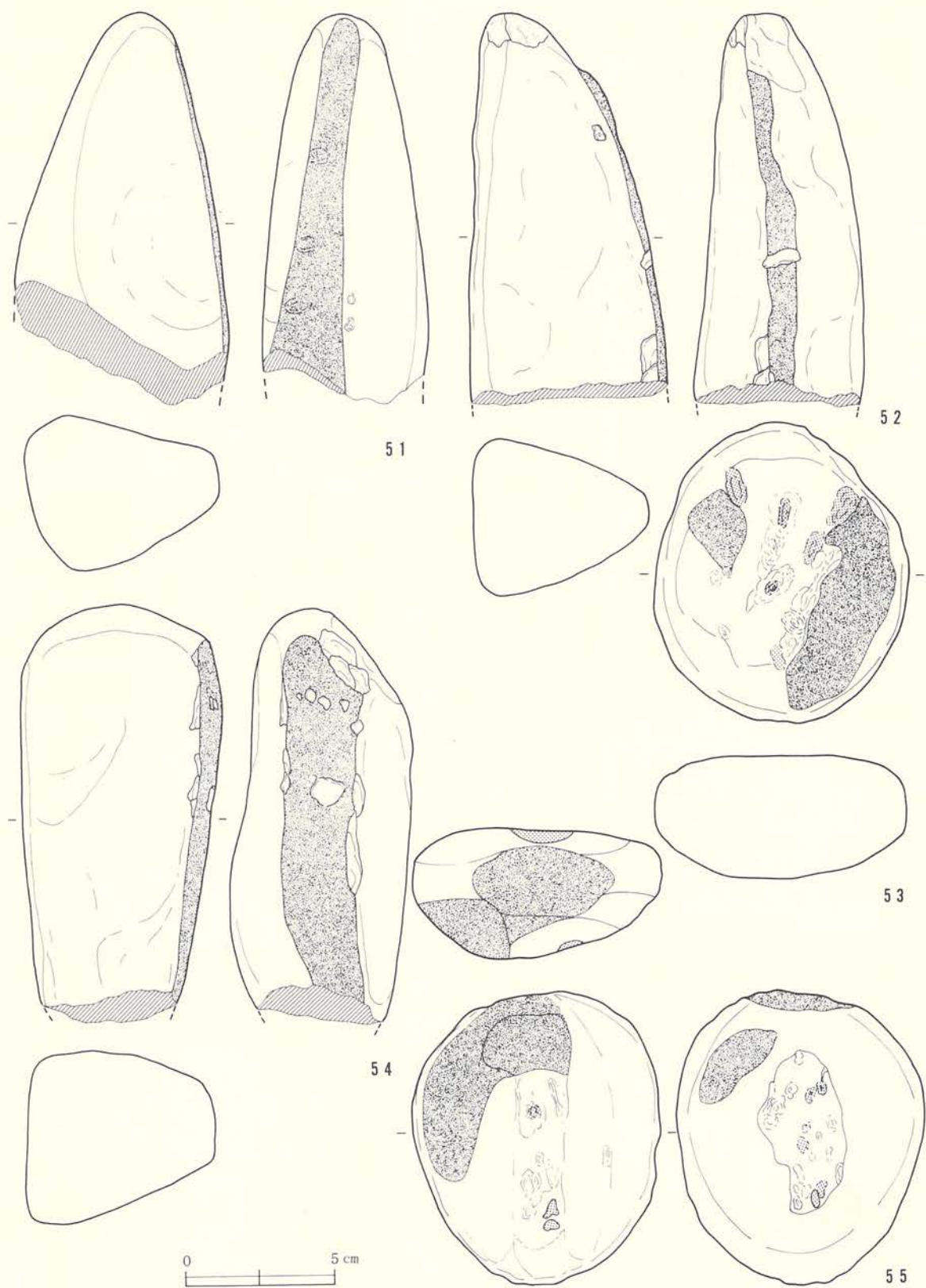
48



49

50

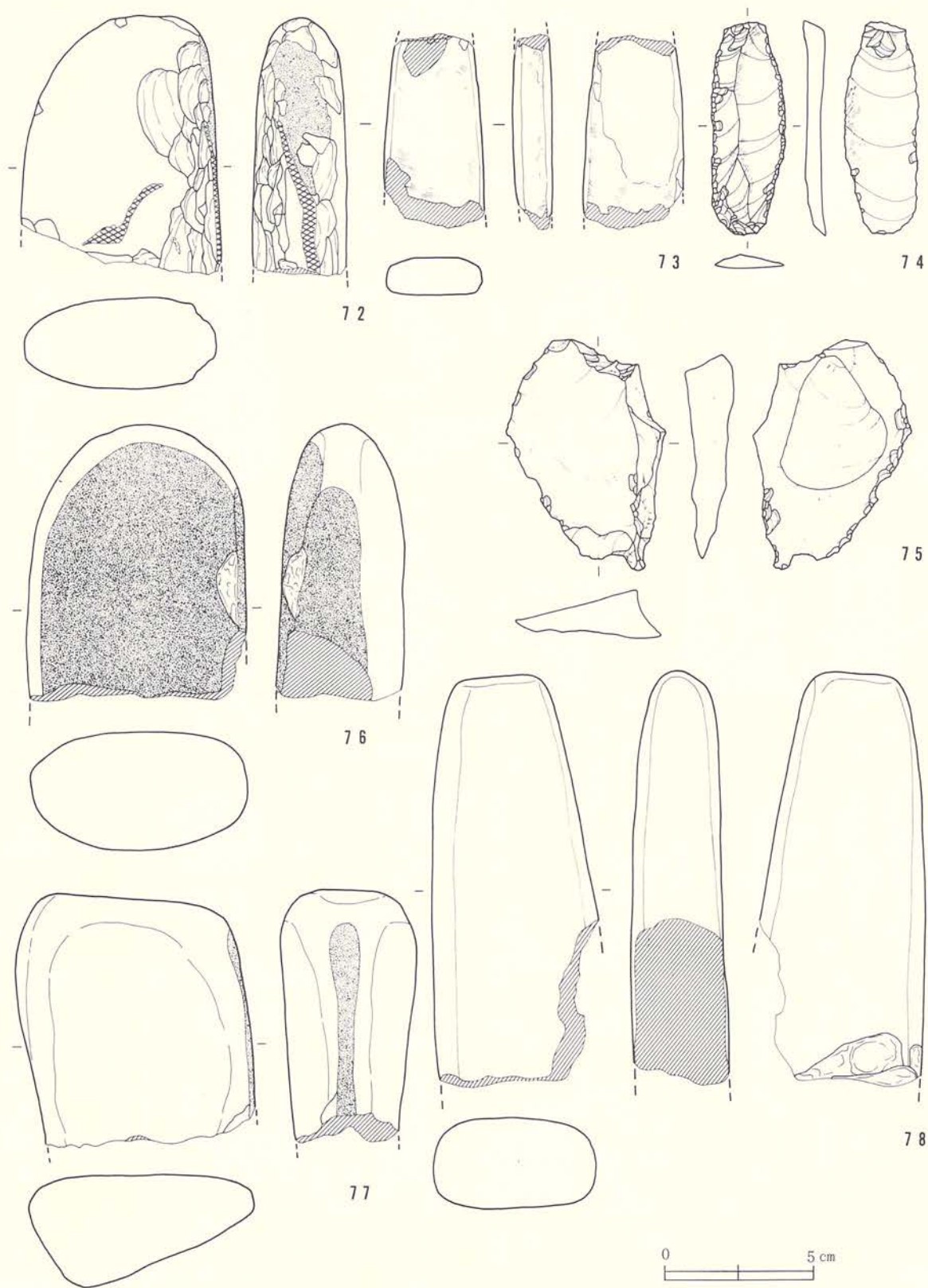
第29図 遺構伴出石器(4) S I 住居跡



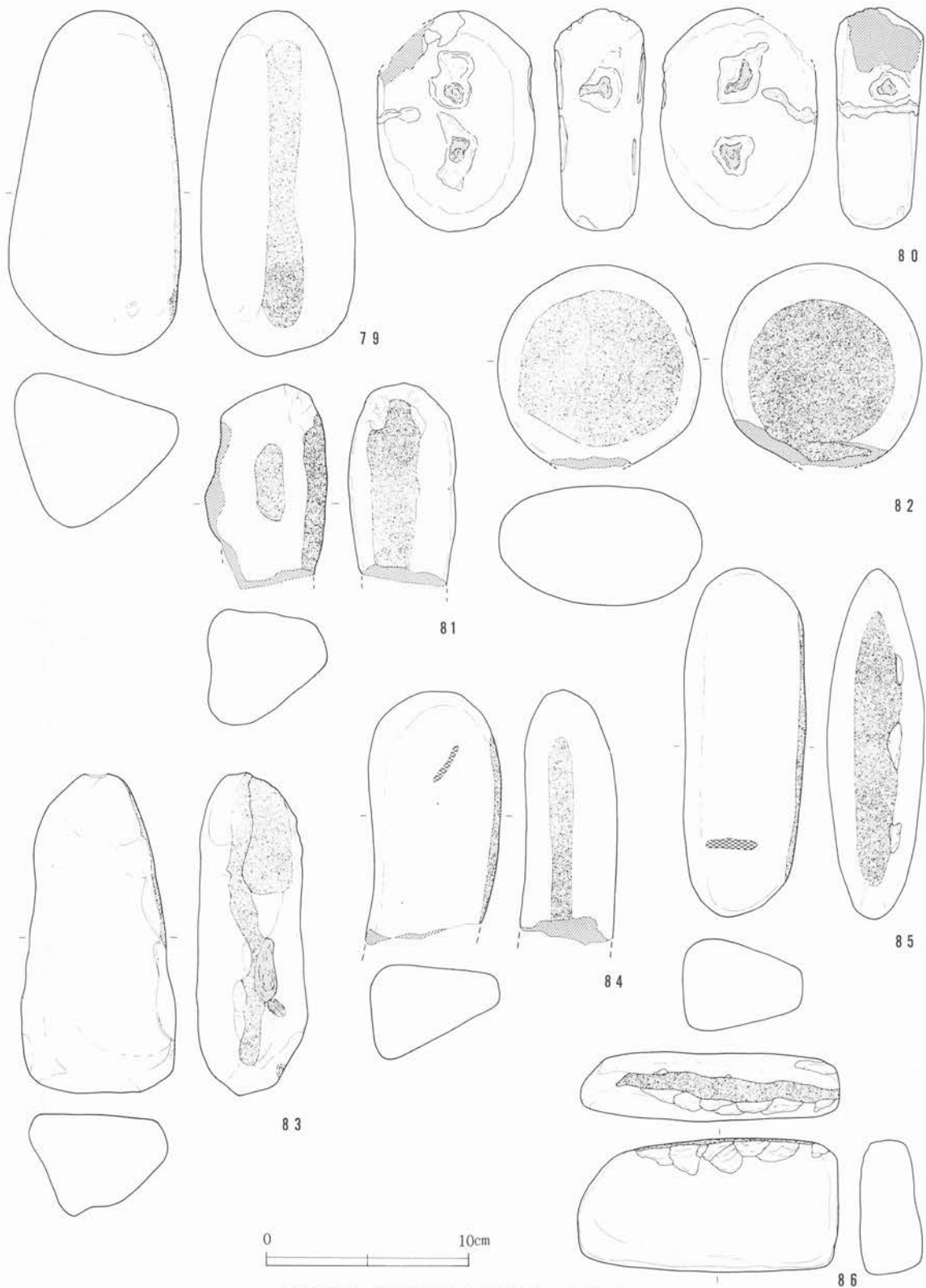
第30図 遺構伴出石器(5) 51~54北柱穴群、55 H VIII埋設土器



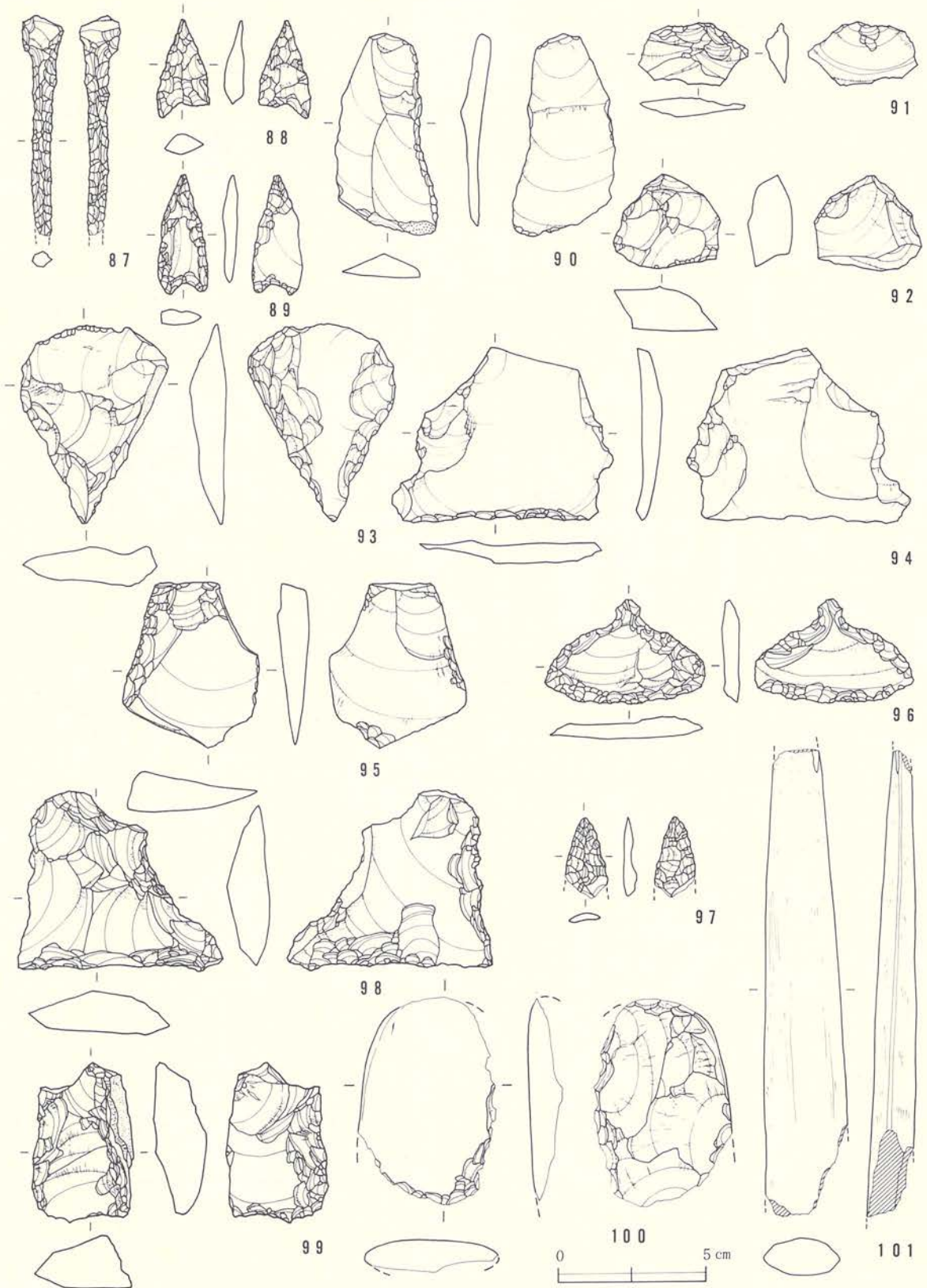
第31图 遺構伴出石器(6) 北柱穴群



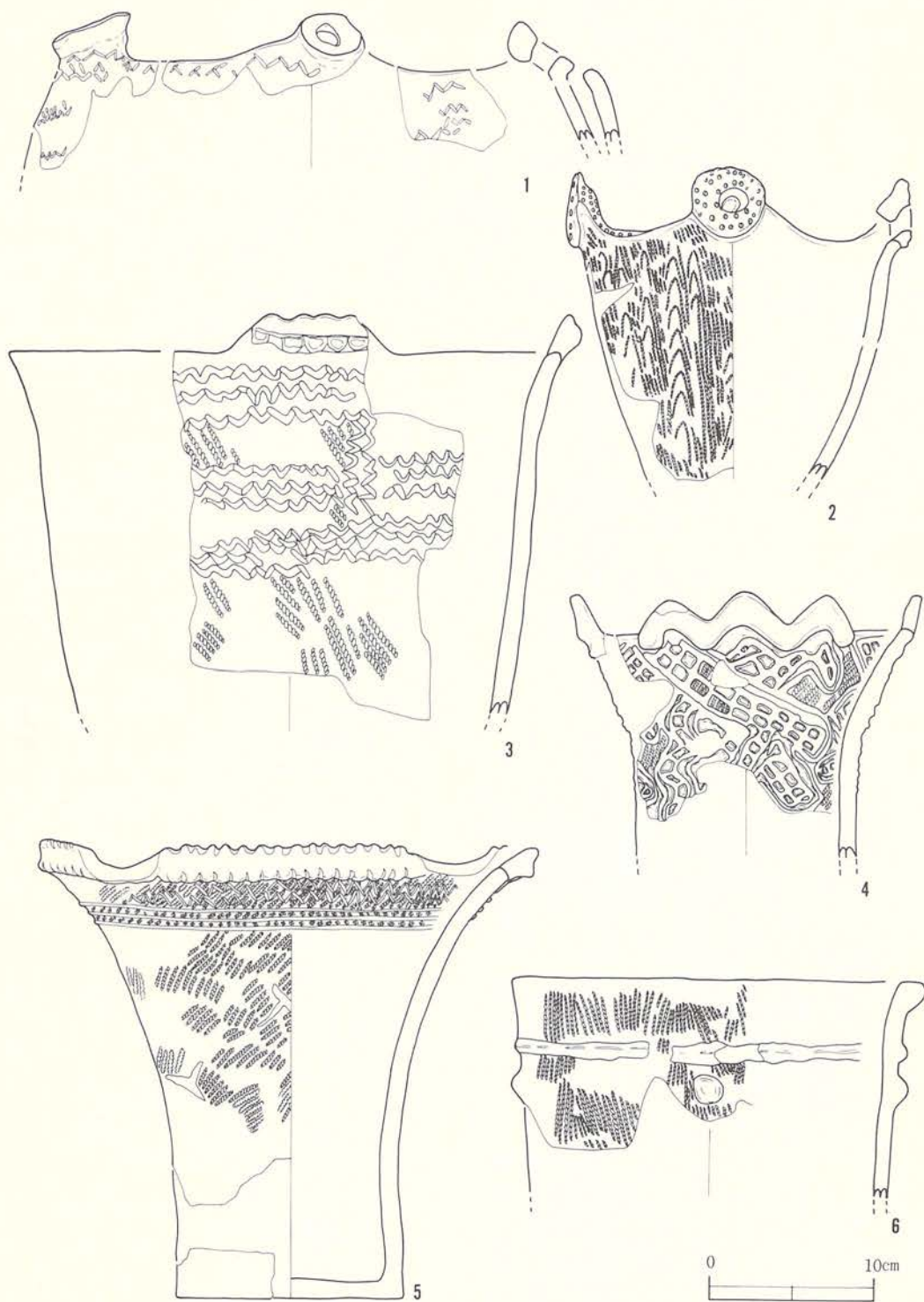
第32図 遺構伴出石器(7) 72~75 P III柱穴群、76~78南柱穴群



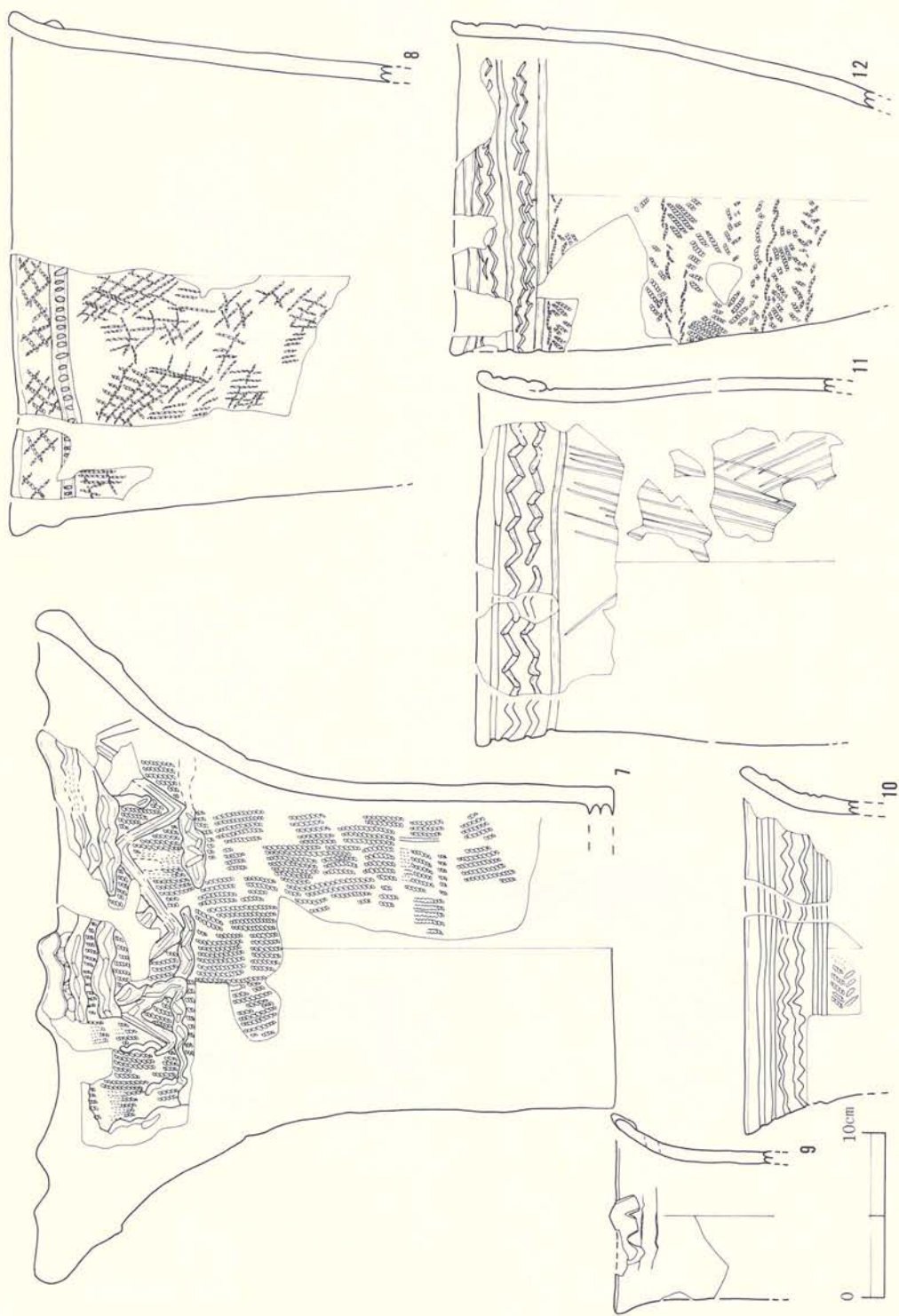
第33图 遺構伴出石器(8) 南柱穴群



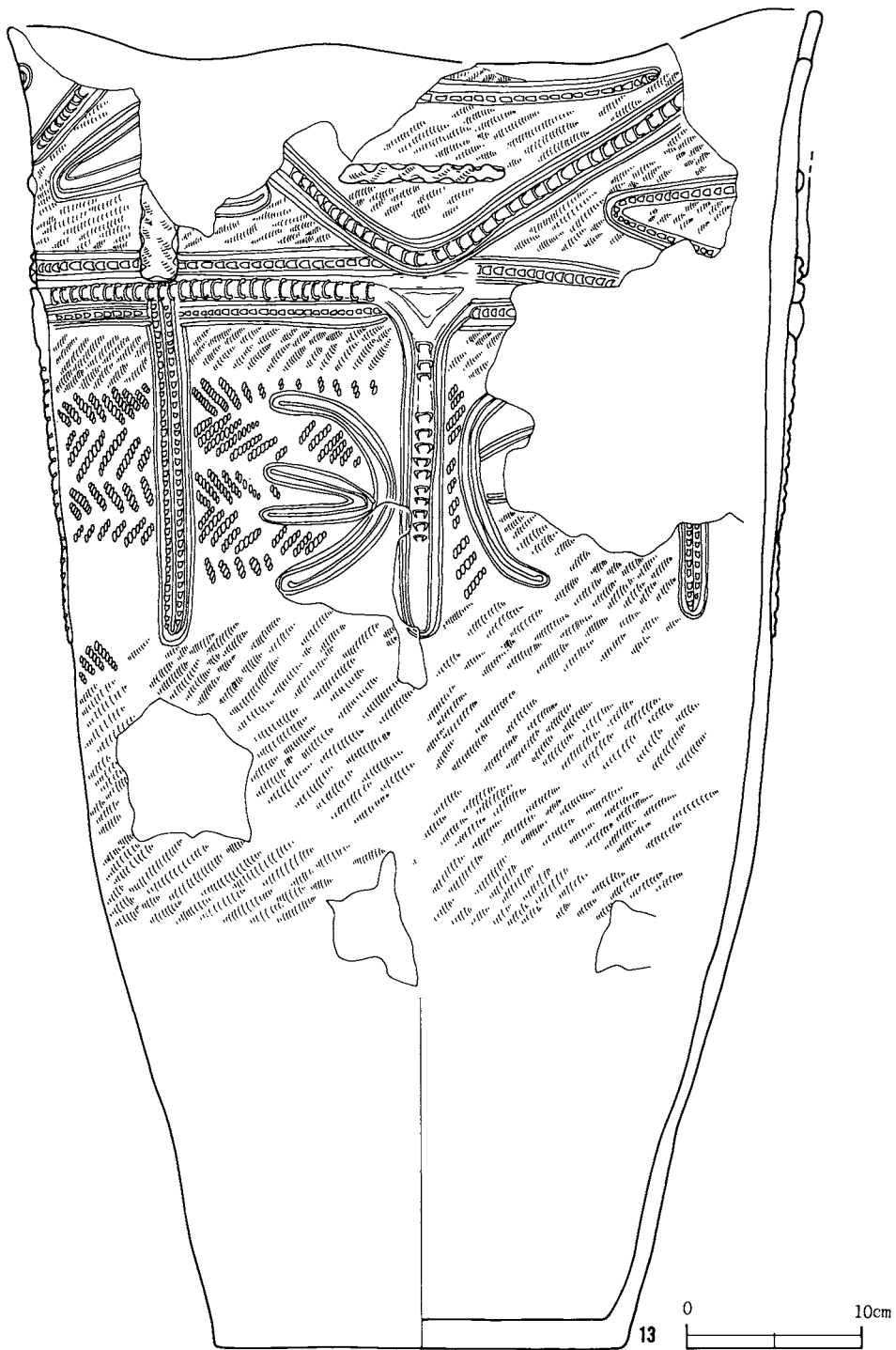
第34図 遺構伴出石器(9) 87~95南柱穴群、96 P V - I ピット
97~101 E VII陥し穴



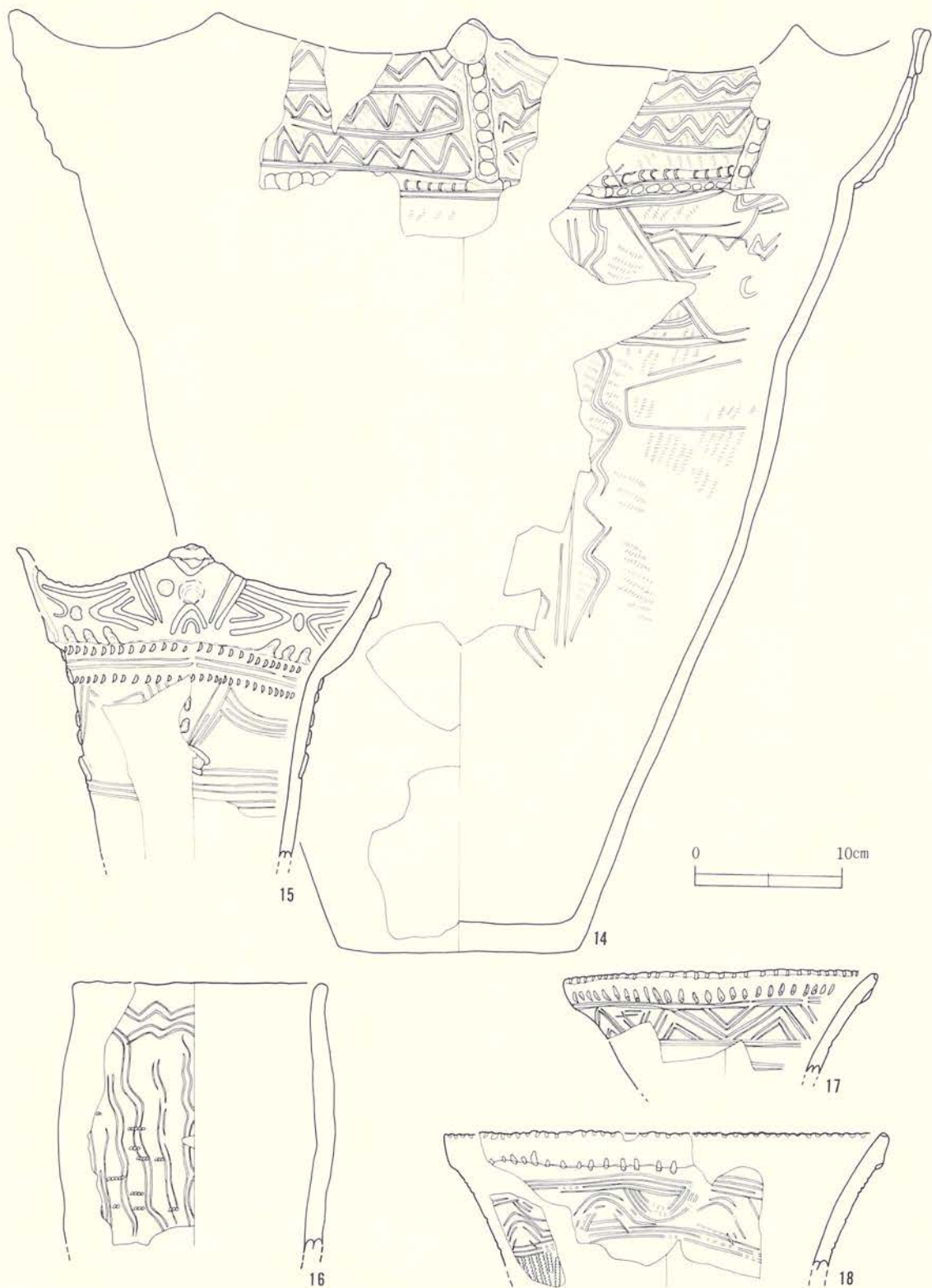
第35图 土器実測图(1)



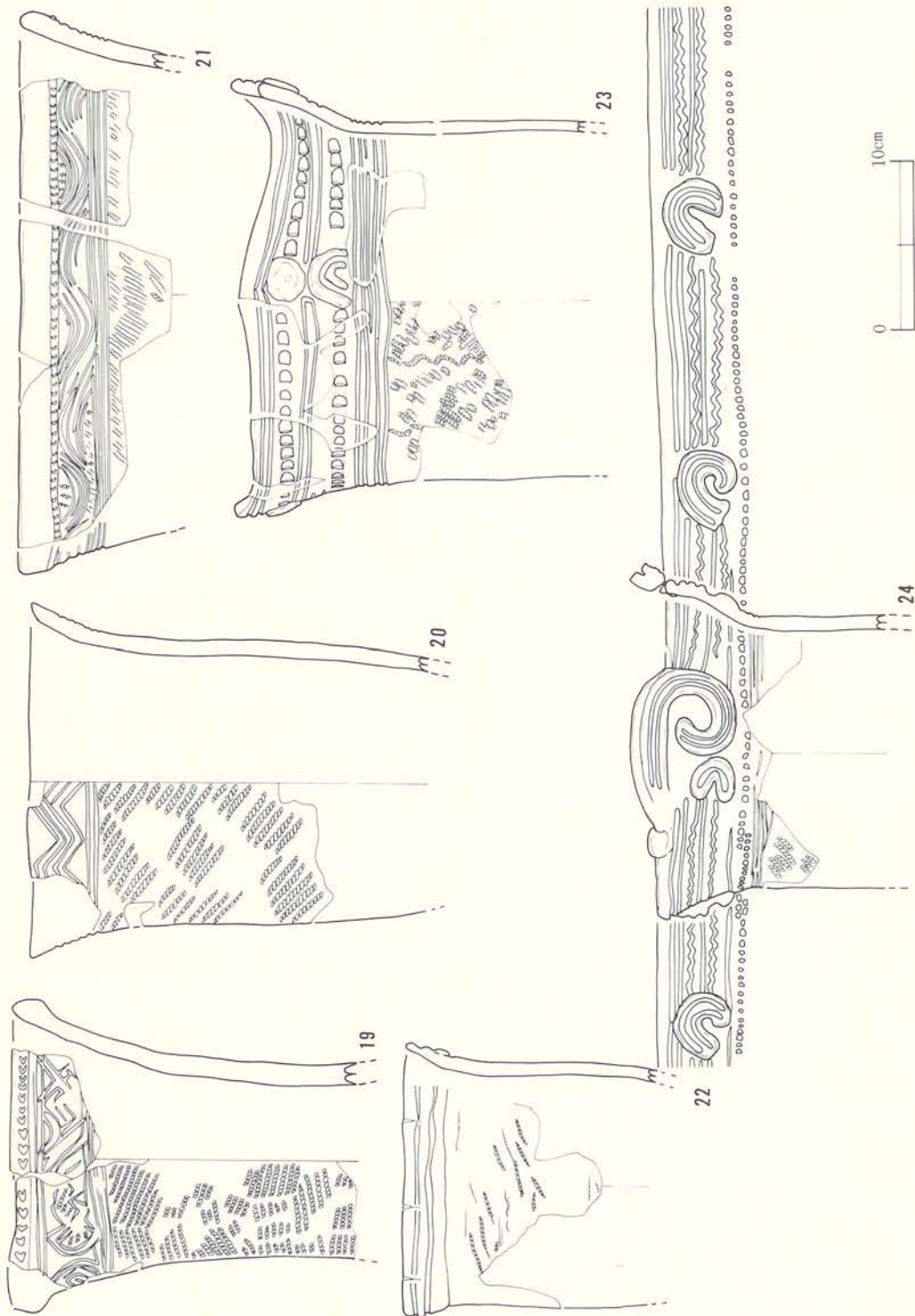
第36图 土器実測图(2)



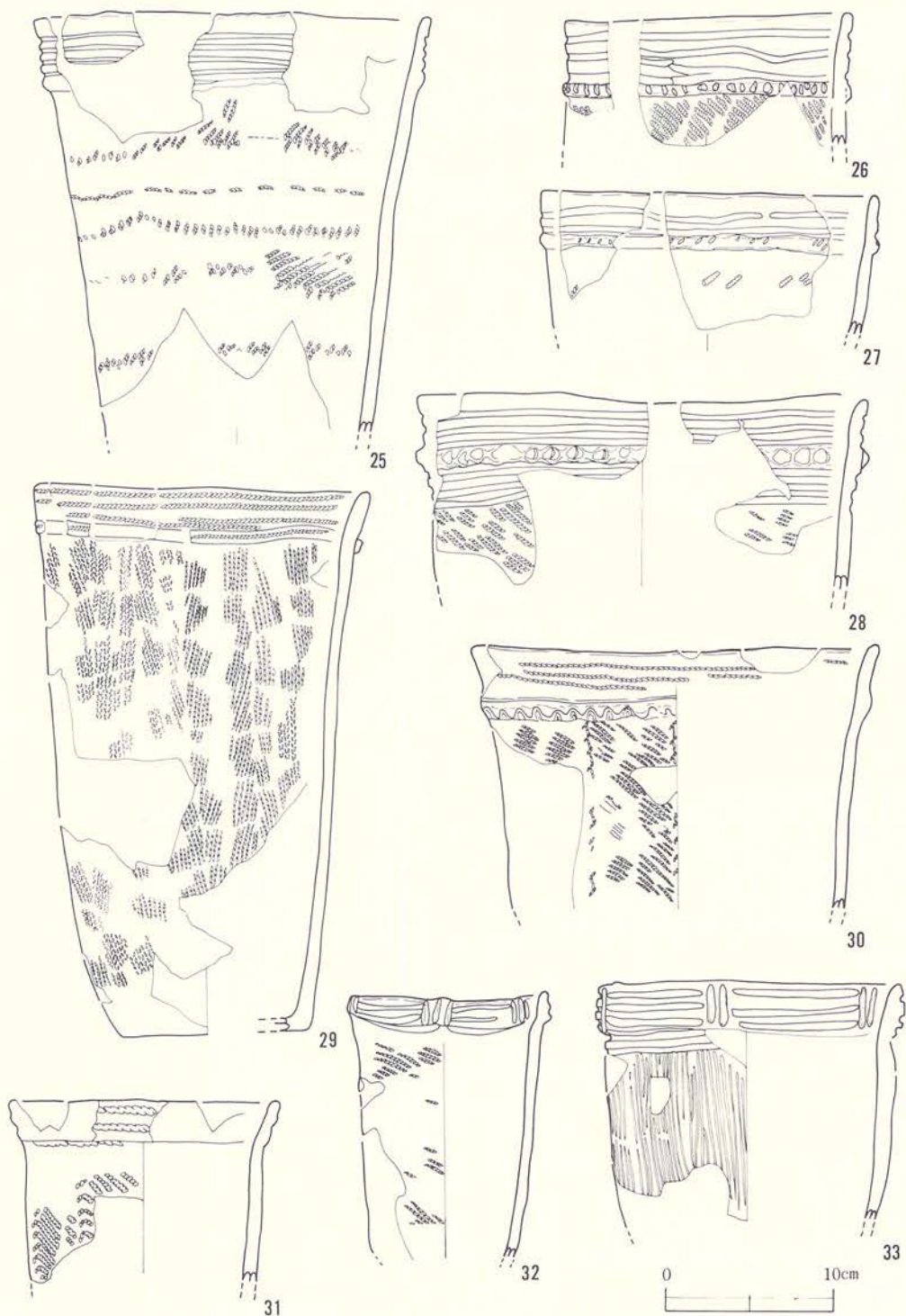
第37图 土器実測图(3)



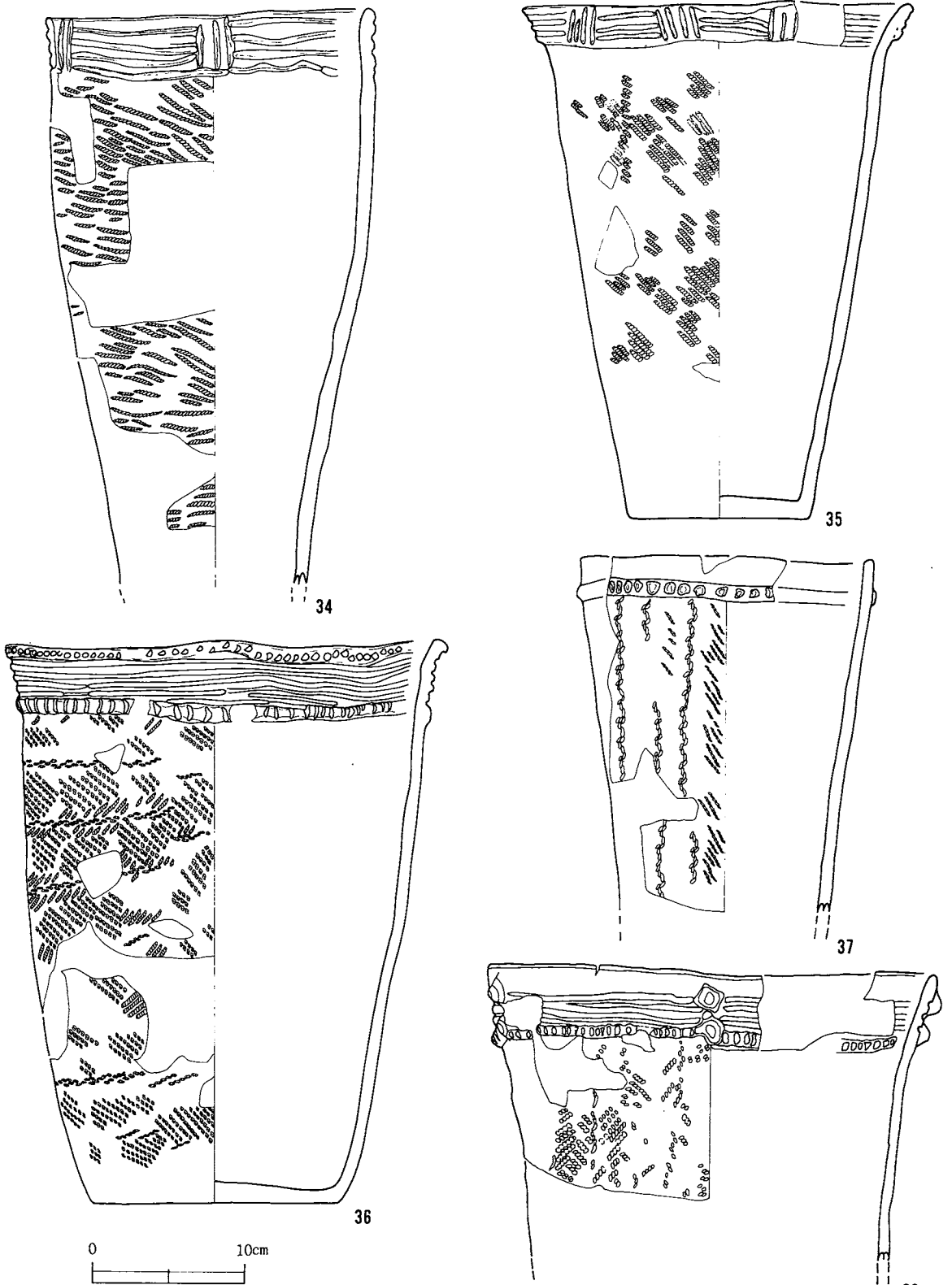
第38图 土器実測图(4)



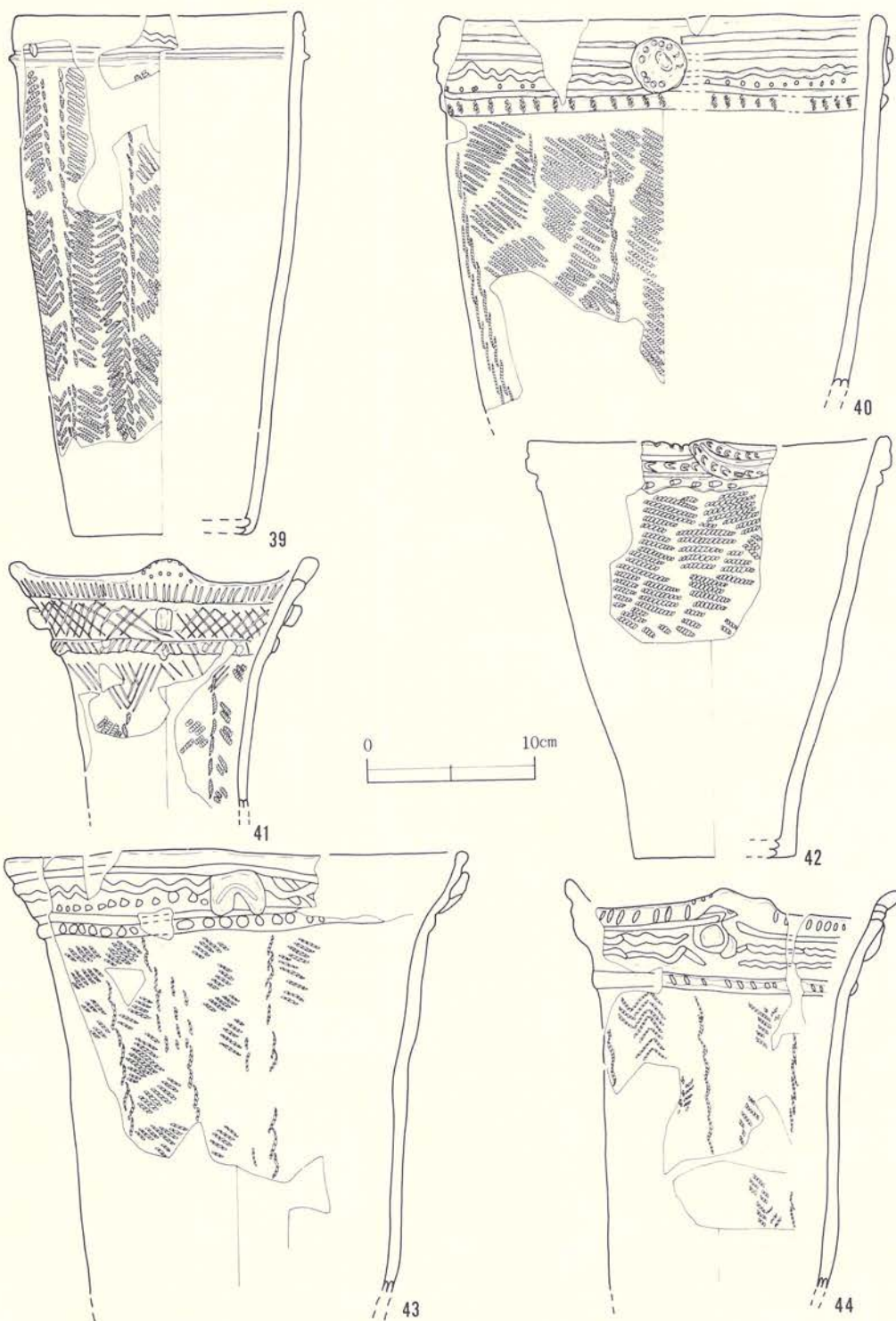
第39图 土器実測图(5)



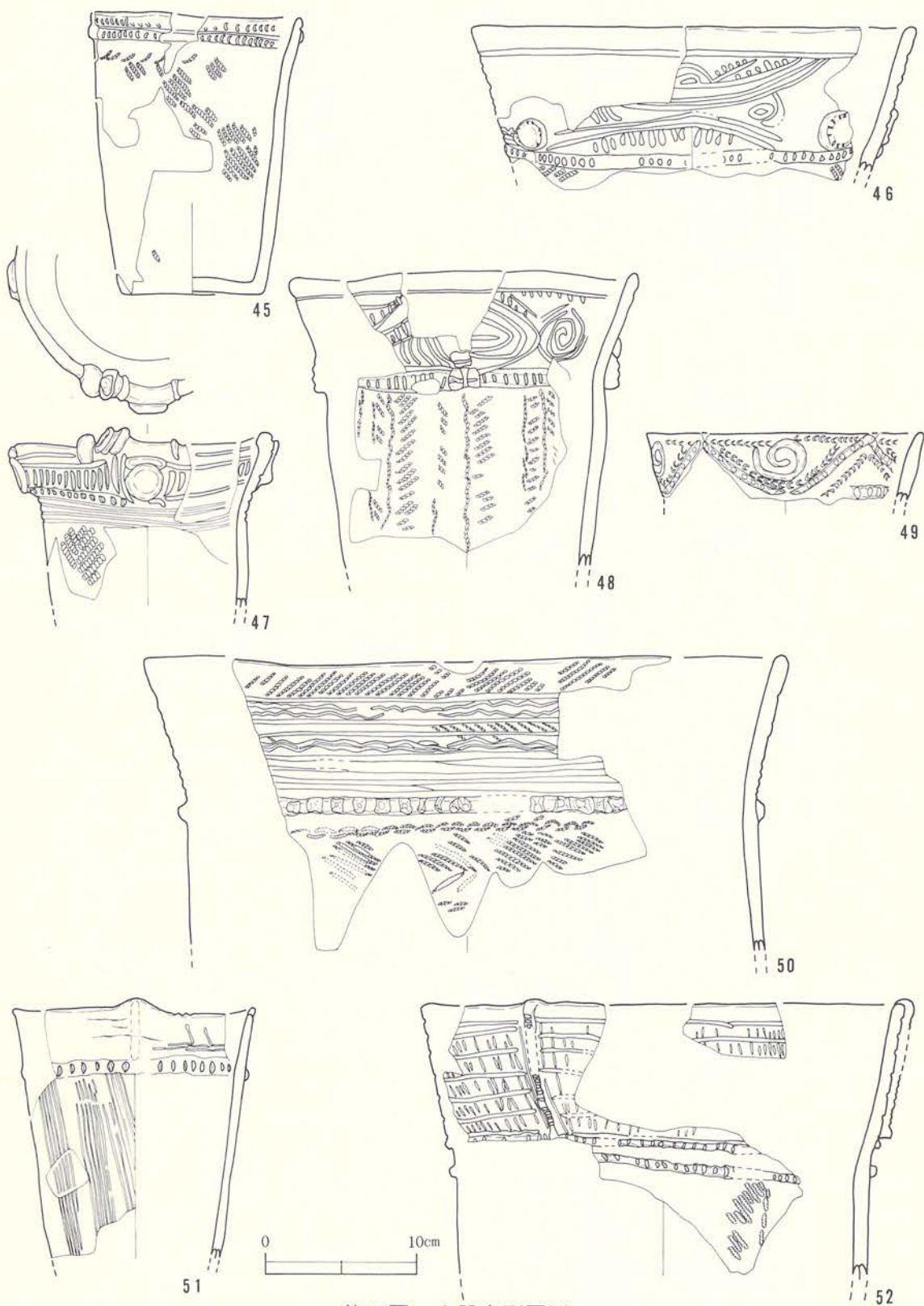
第40图 土器実測图(6)



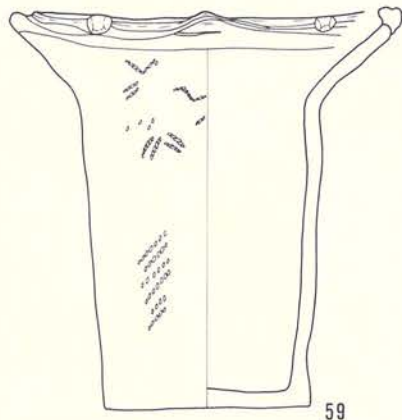
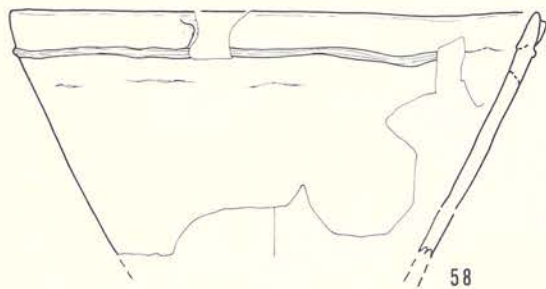
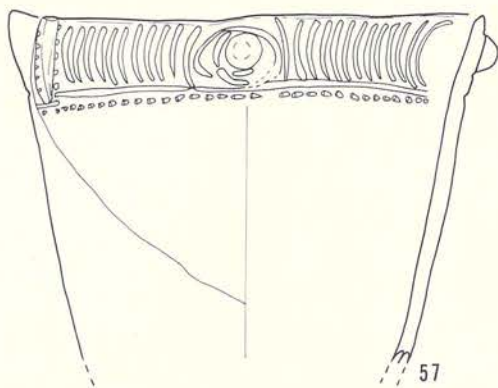
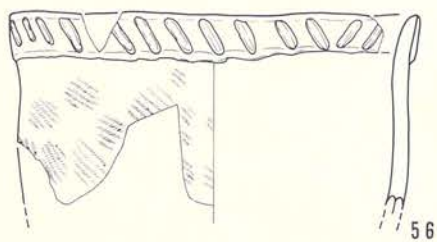
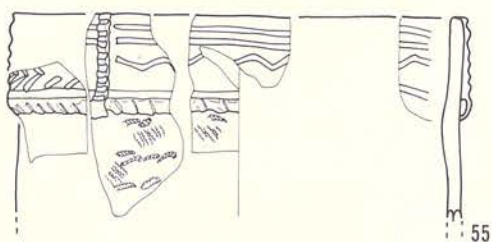
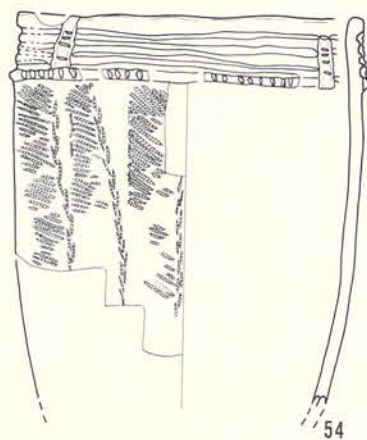
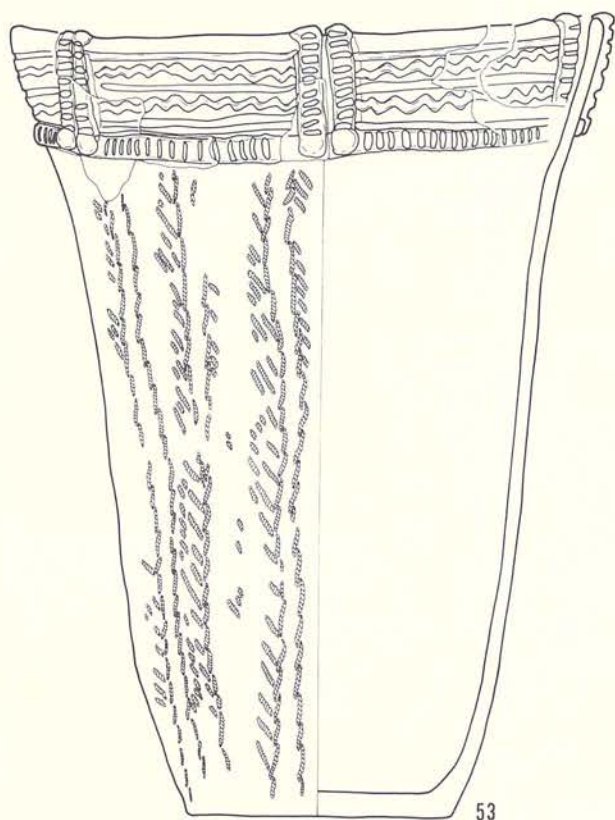
第41图 土器実測図(7)



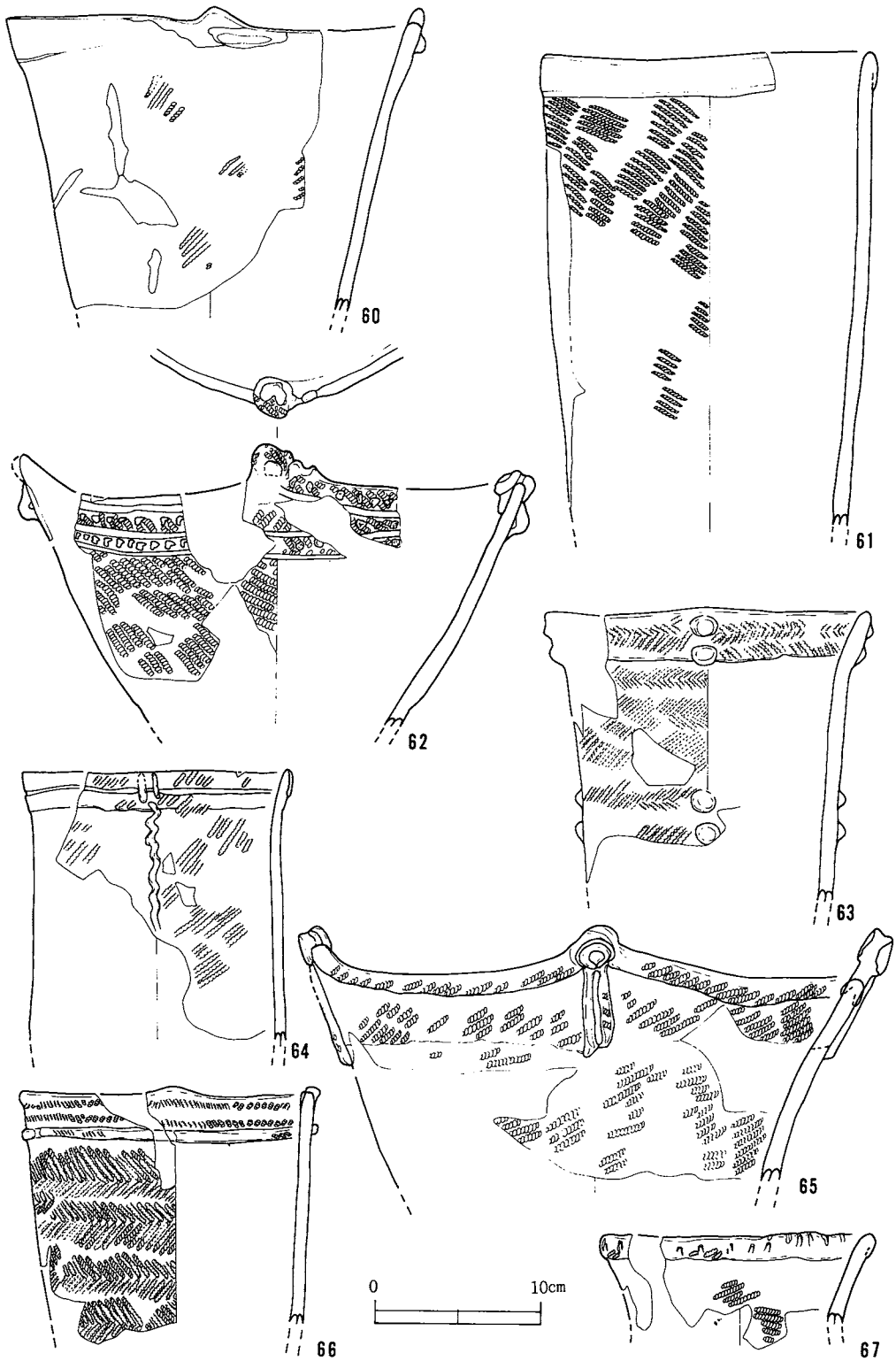
第42图 土器実測图(8)



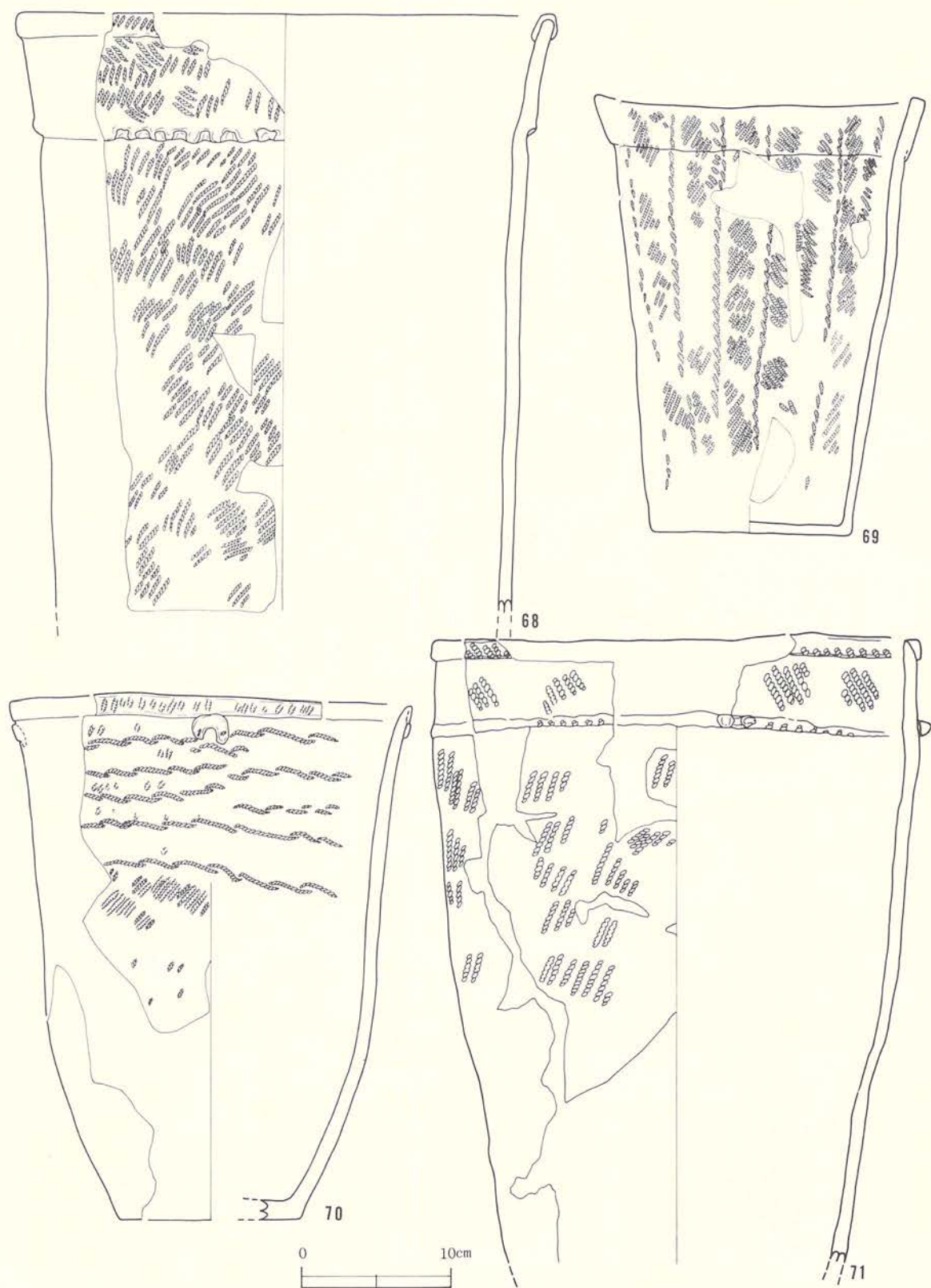
第43图 土器実測図(9)



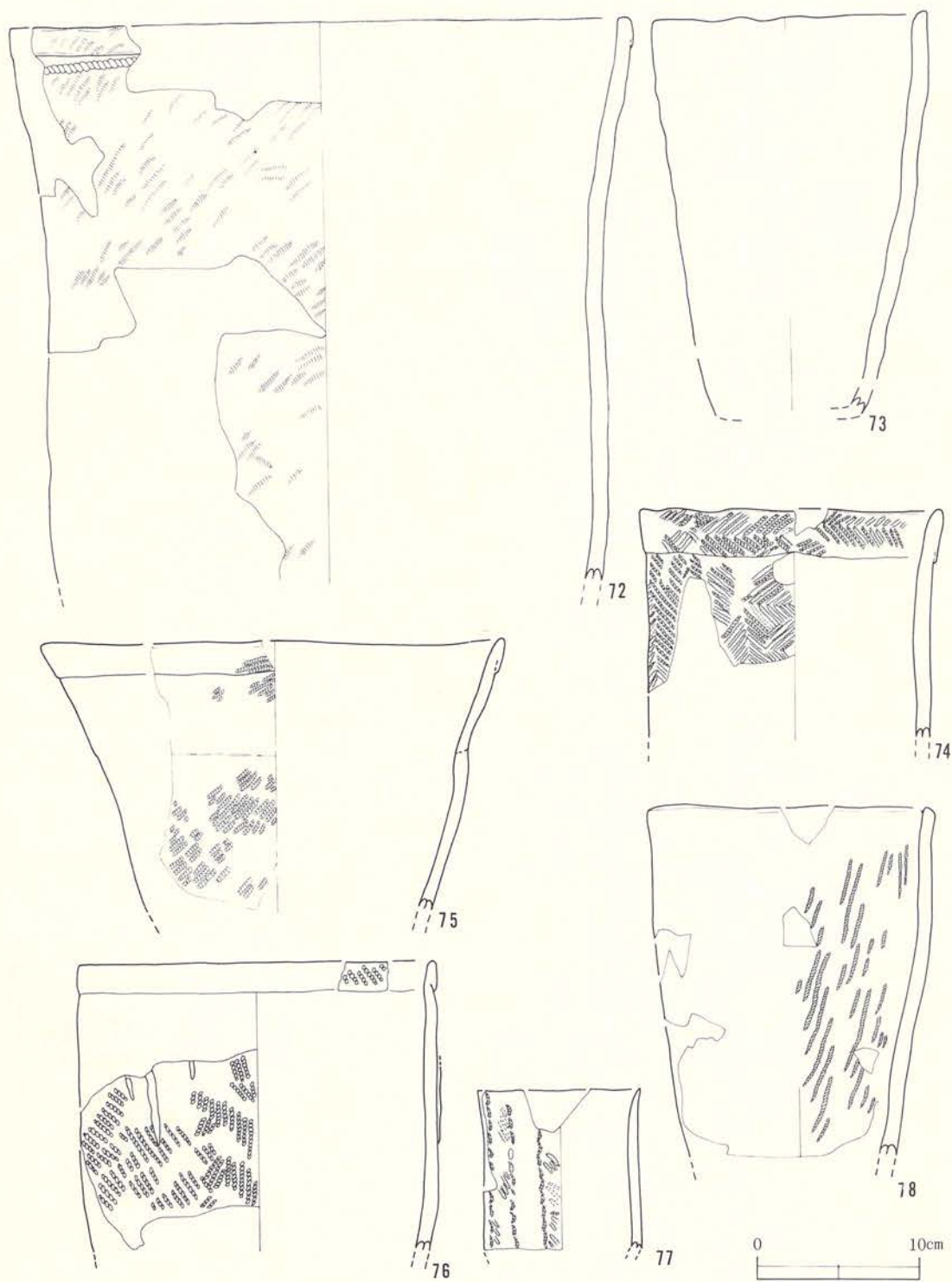
第44图 土器実測图(10)



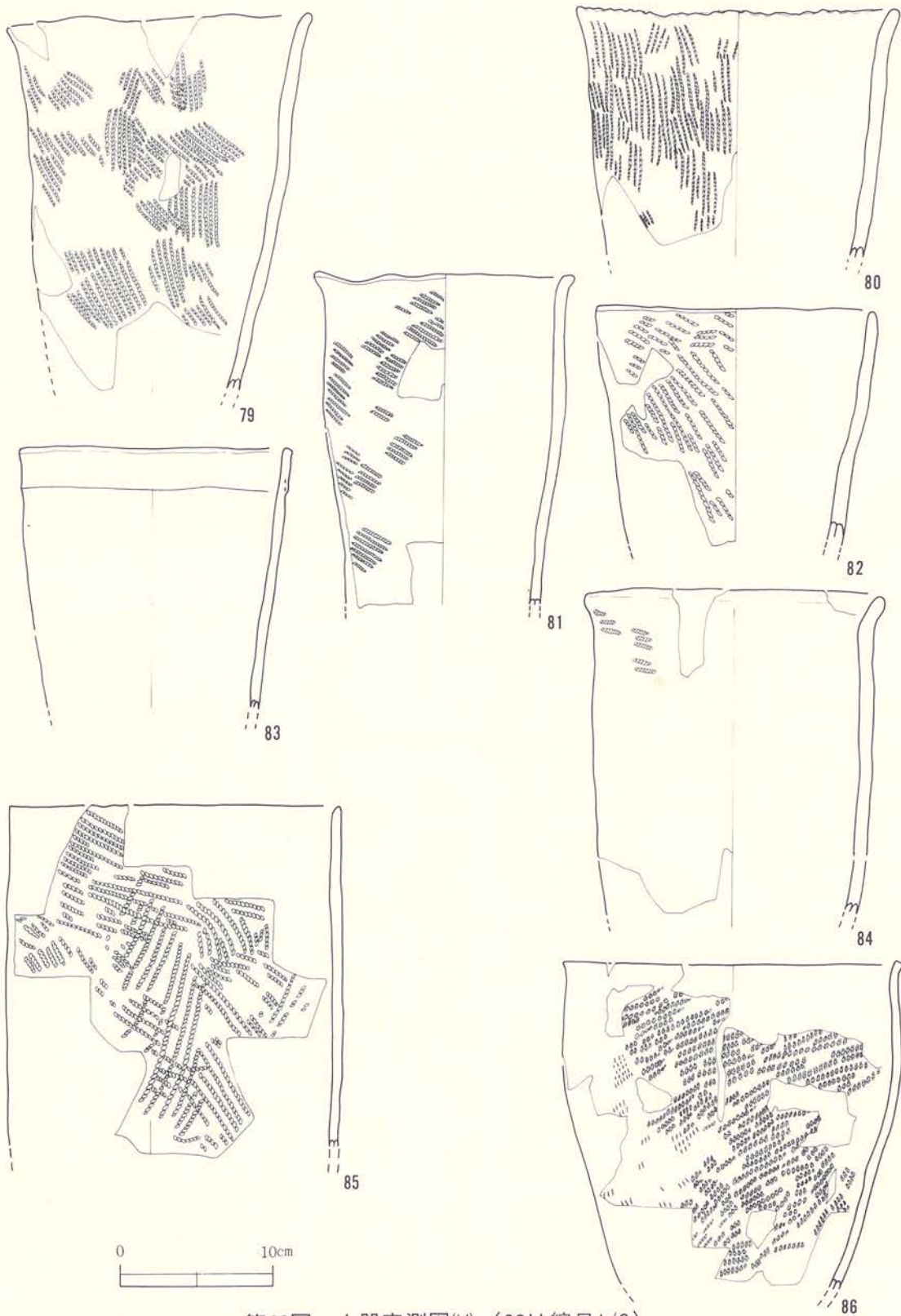
第45图 土器実測图(II)



第46图 土器実測图(12)



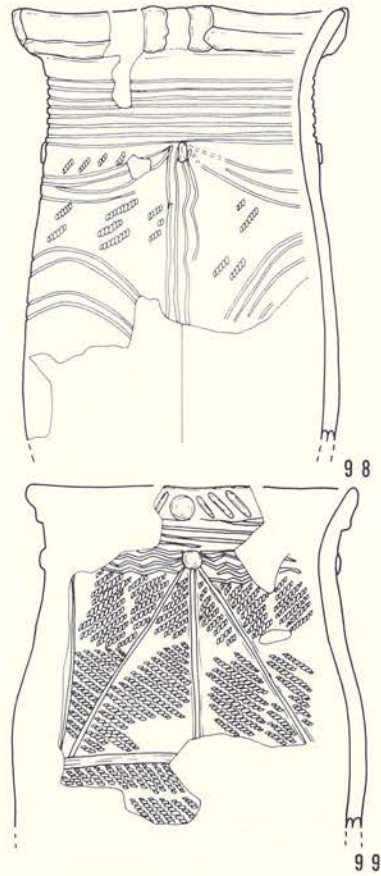
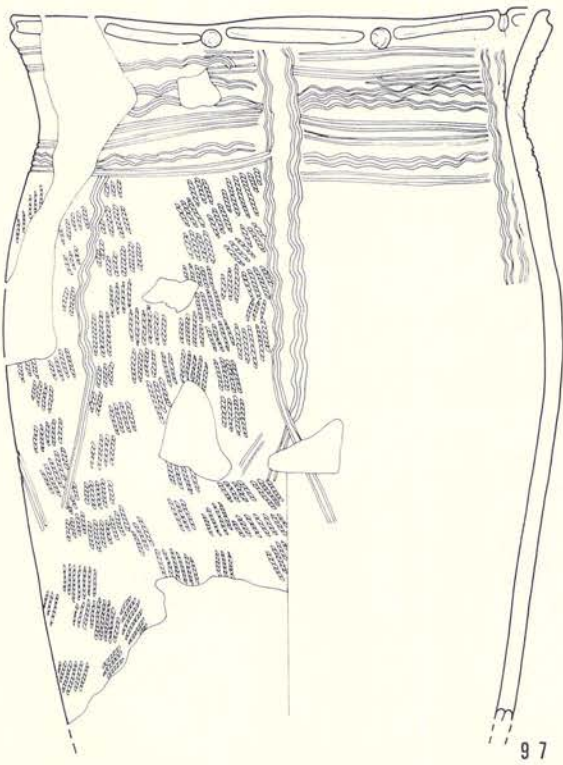
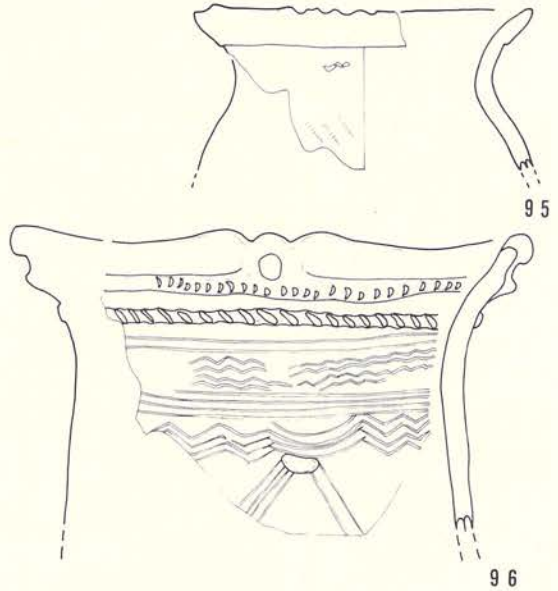
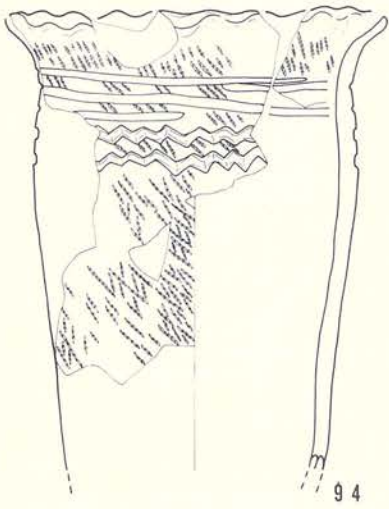
第47図 土器実測図(13)



第48図 土器実測図(14) (86は縮尺1/8)

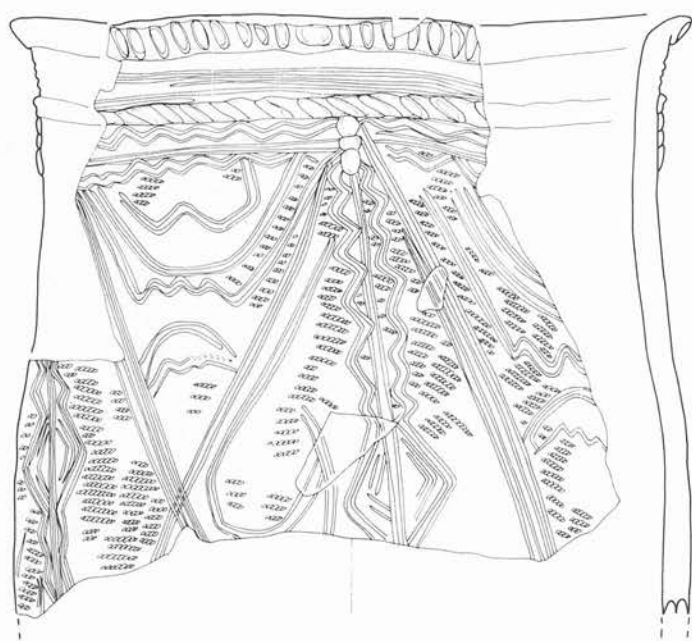


第49図 土器実測図(15) (88は縮尺1/8)

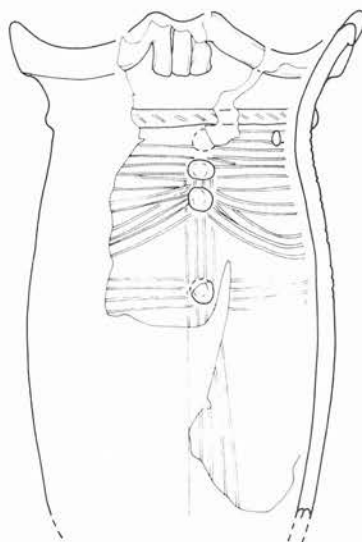


0 10cm

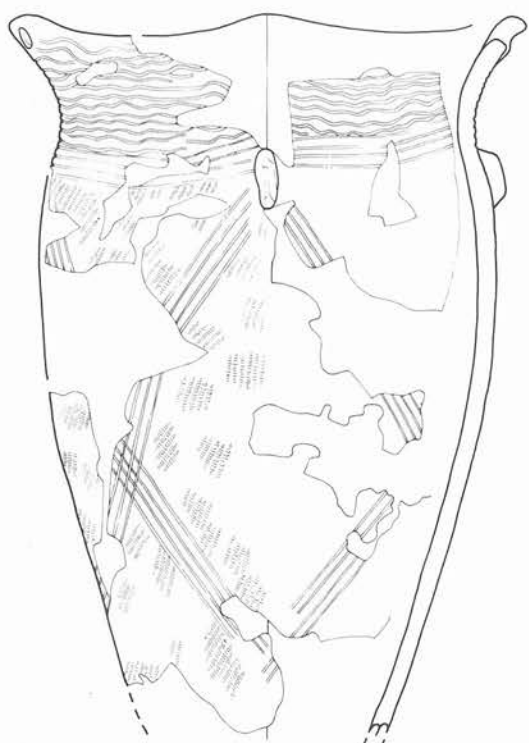
第50图 土器実測图(16)



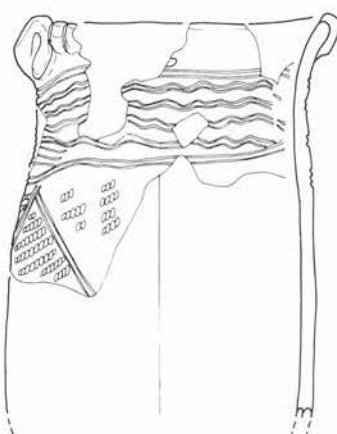
100



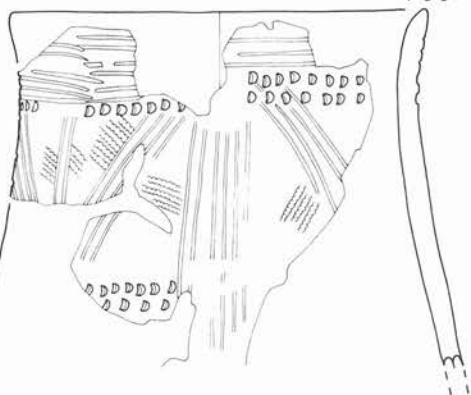
101



102

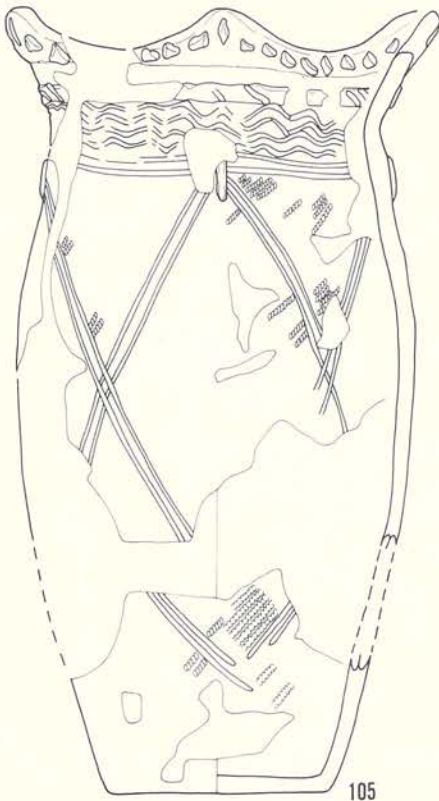


103

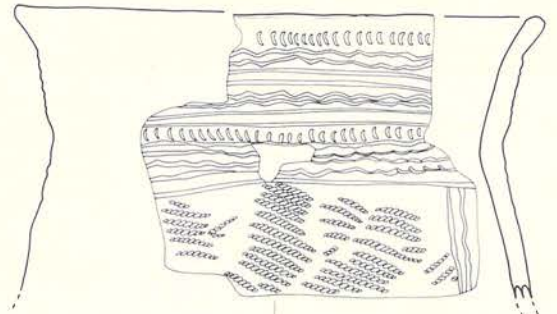


104

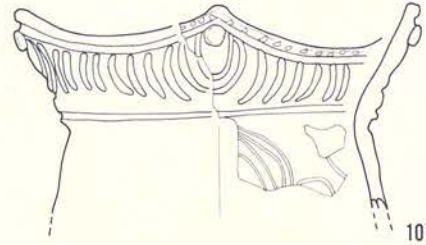
第51図 土器実測図(17)



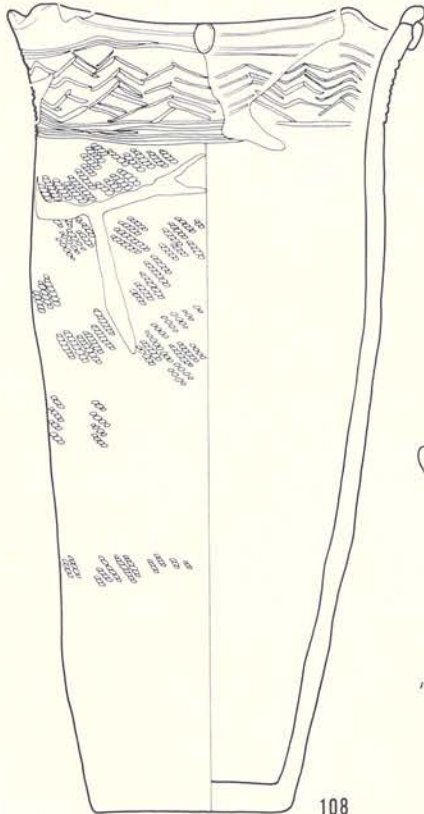
105



106



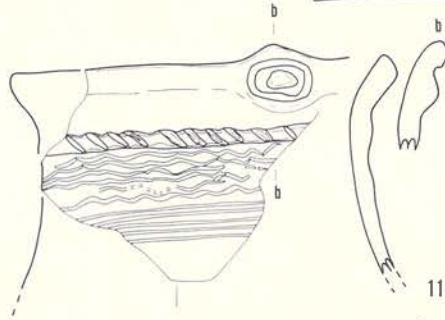
107



108



109

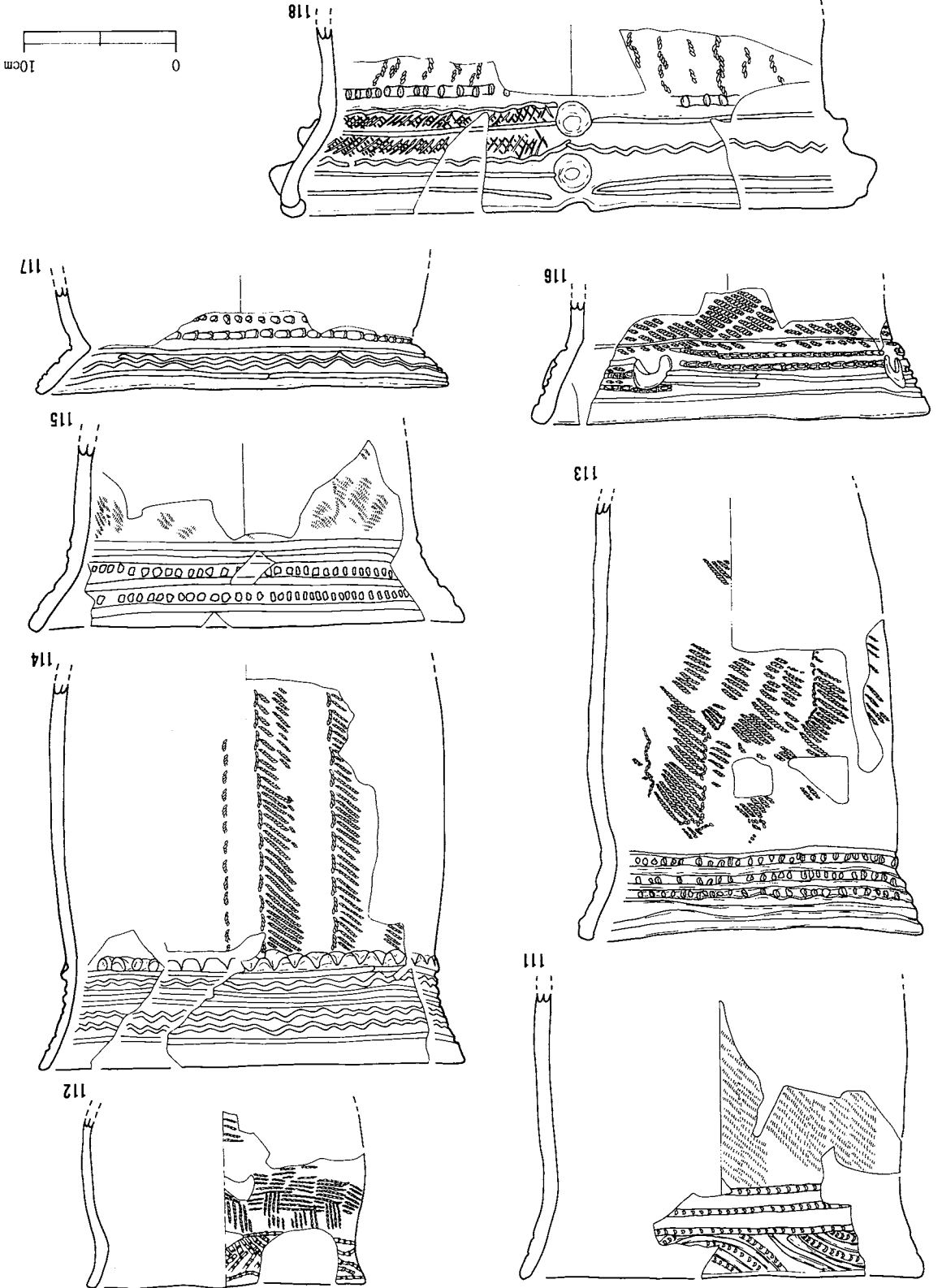


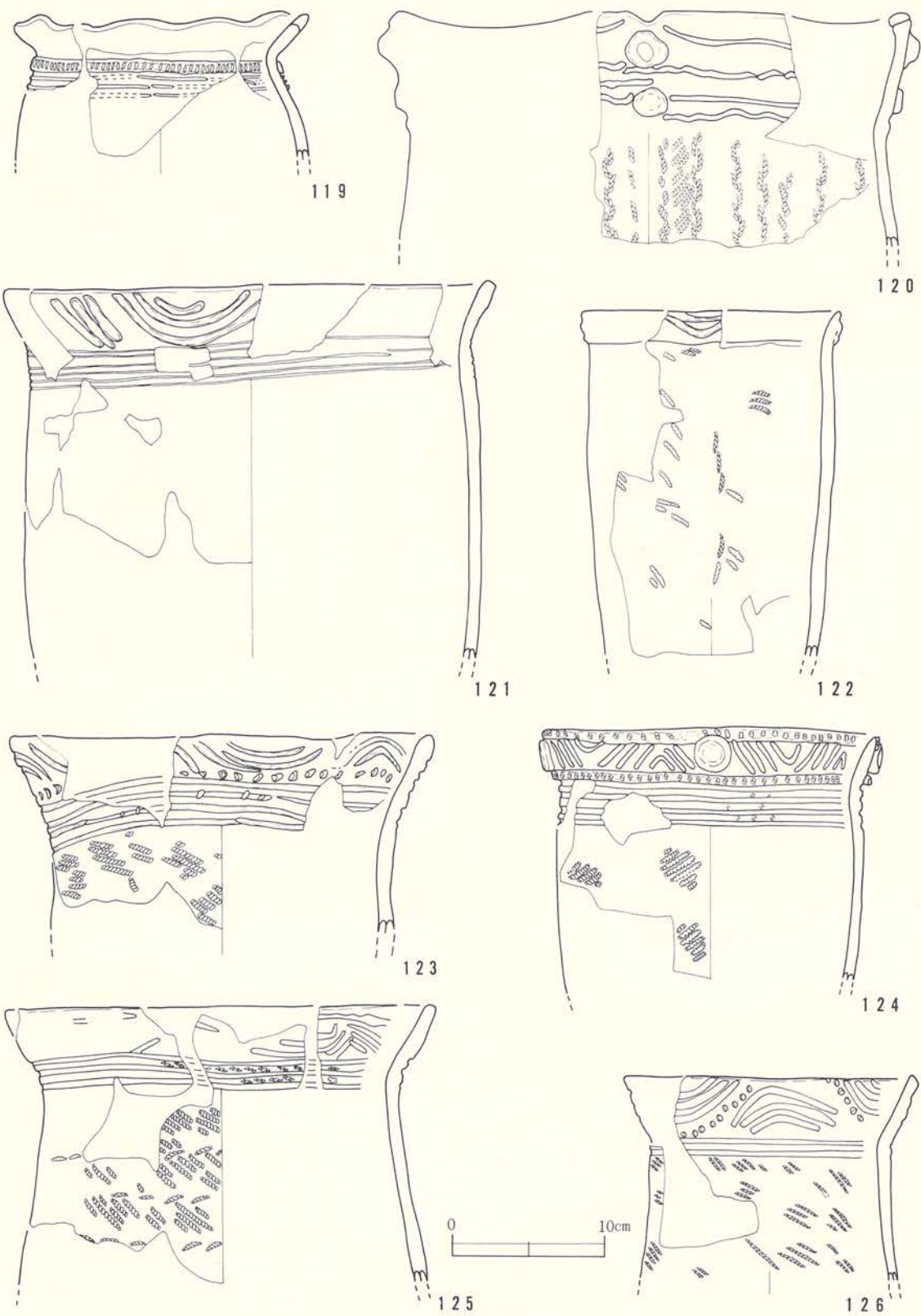
110



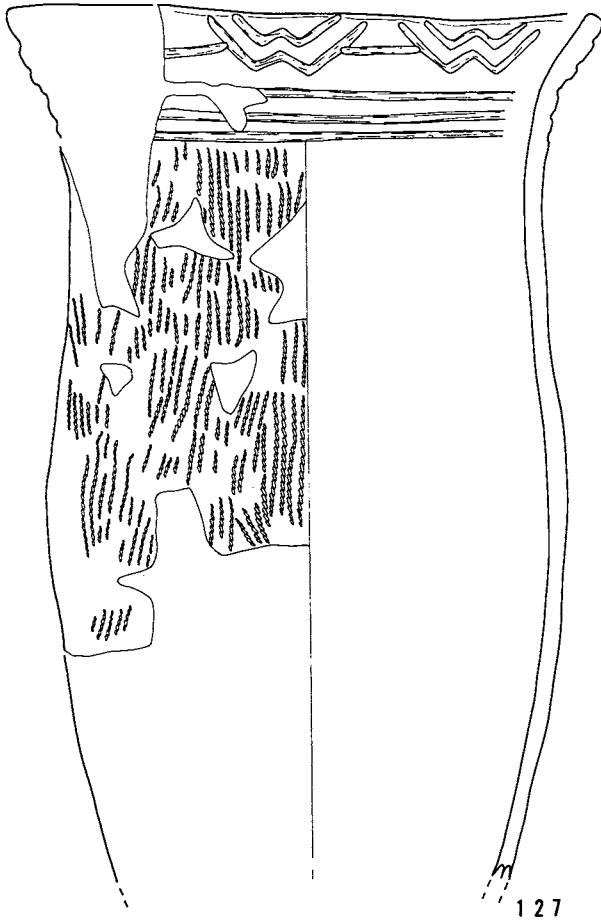
第52図 土器実測図(18) (109は縮尺1/8)

第53图 土器美测图(19)

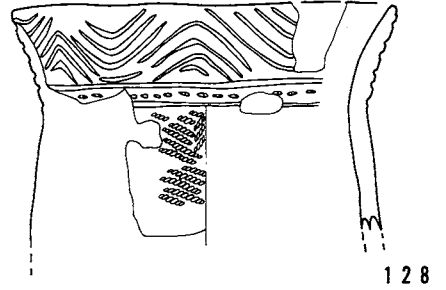




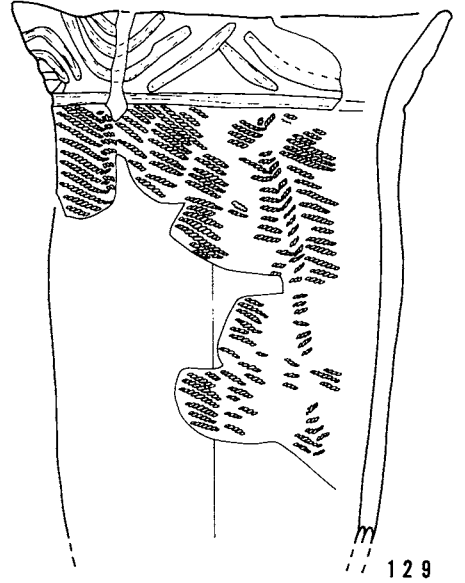
第54図 土器実測図(20)



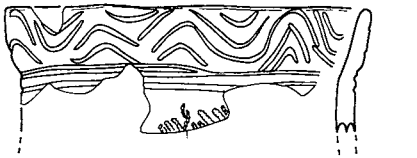
127



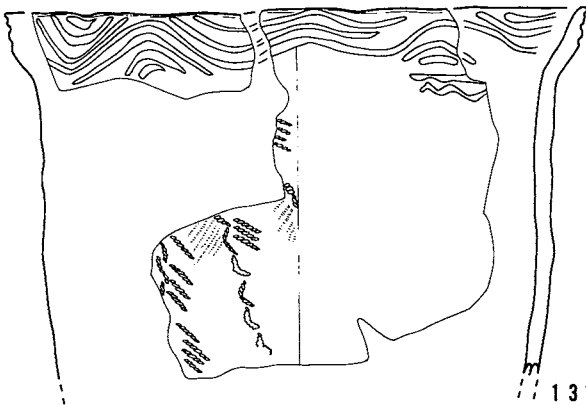
128



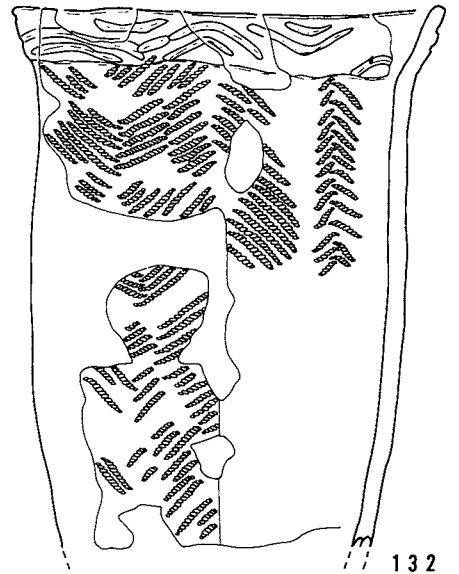
129



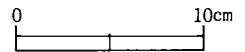
130



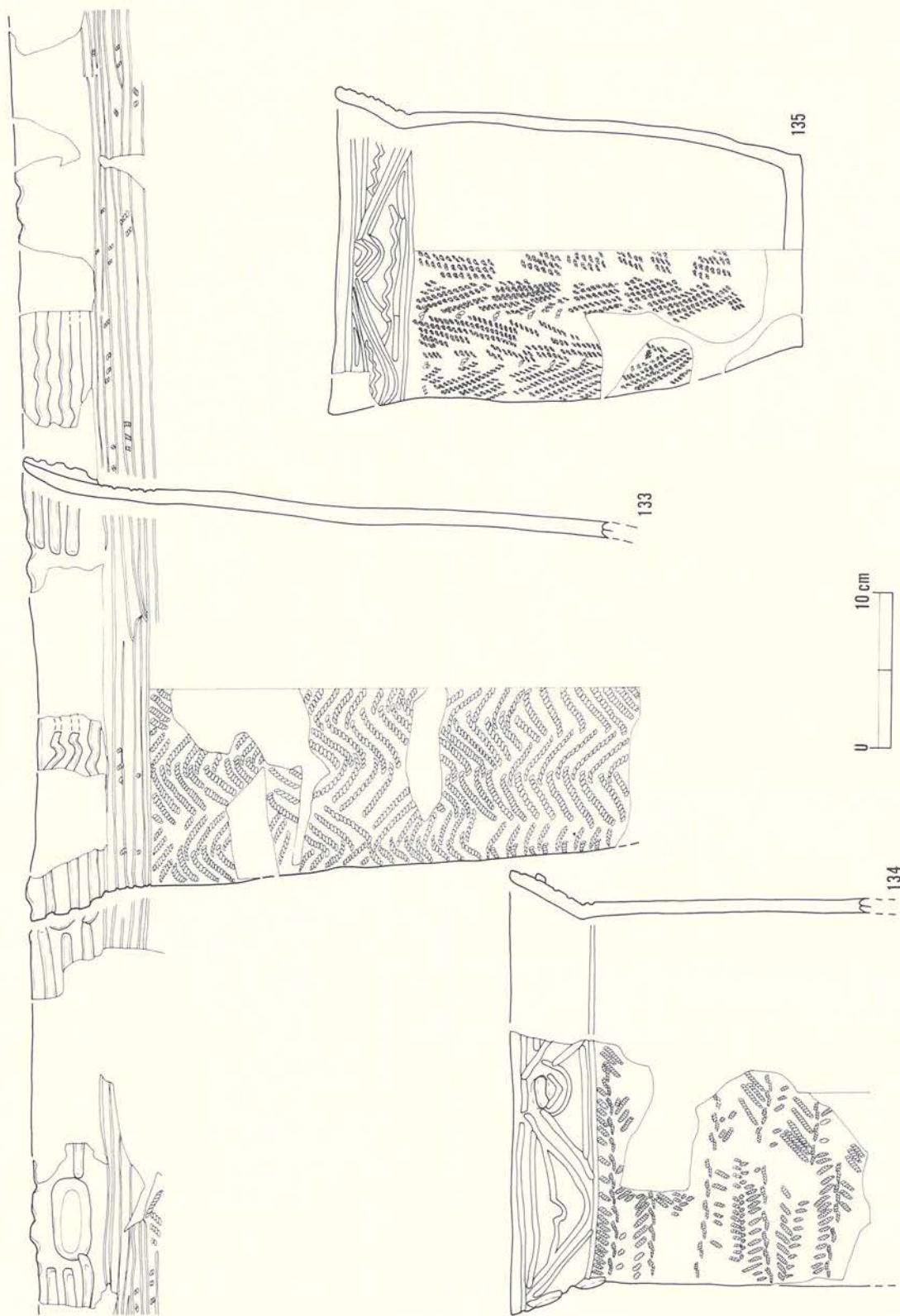
131



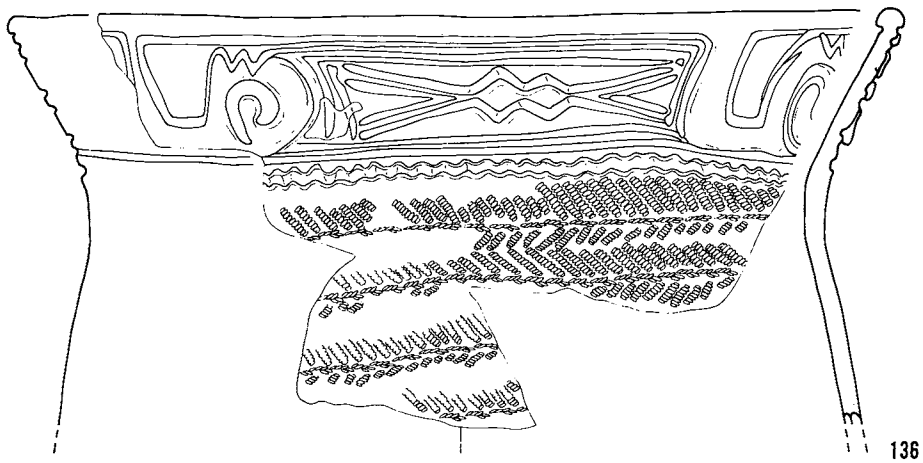
132



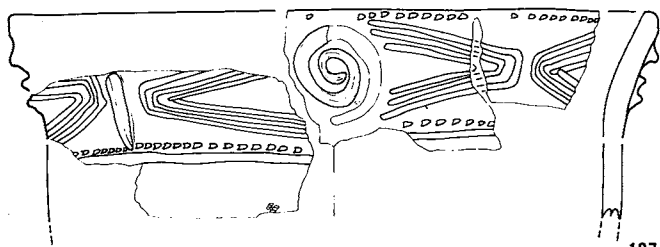
第55图 土器実測图(21)



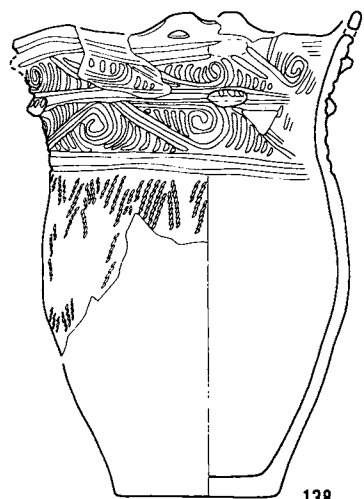
第56图 土器実測図(2)



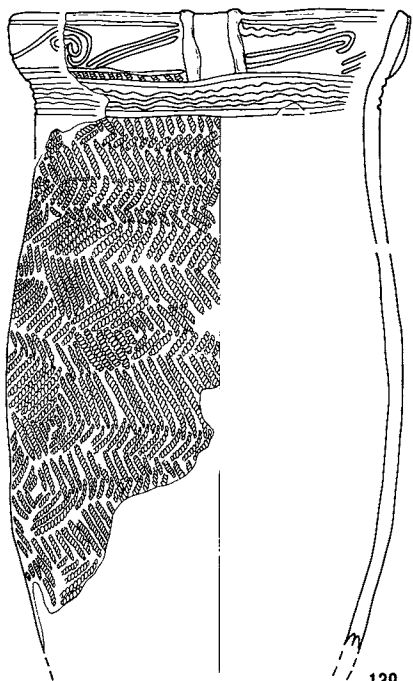
136



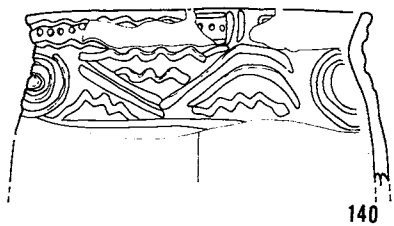
137



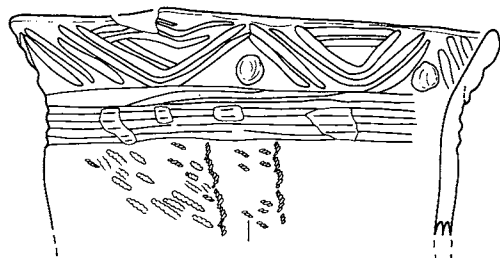
138



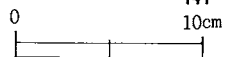
139



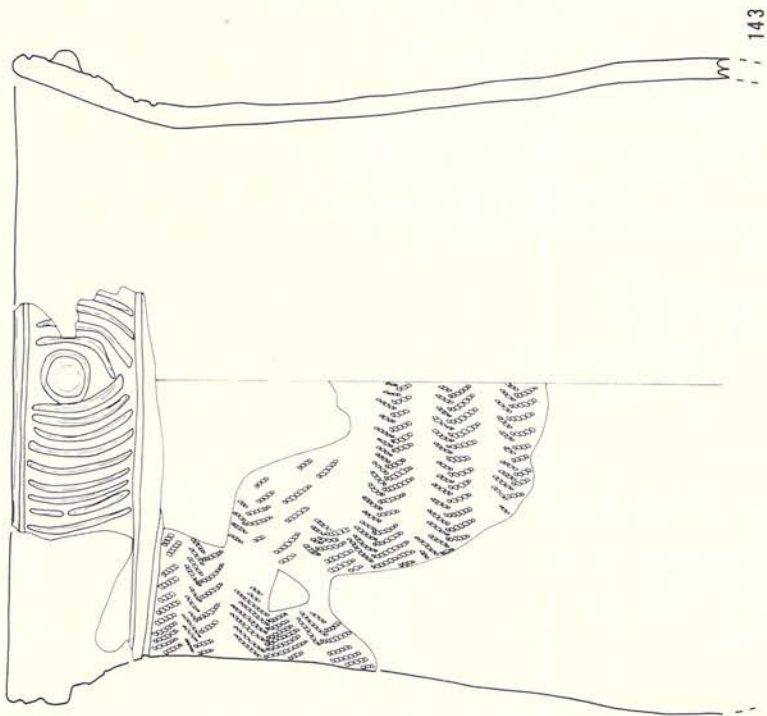
140



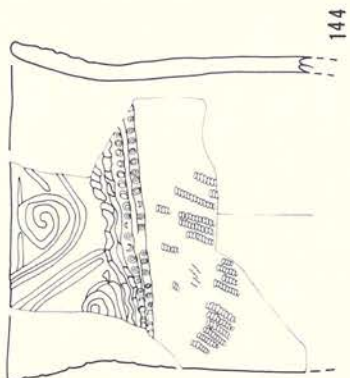
141



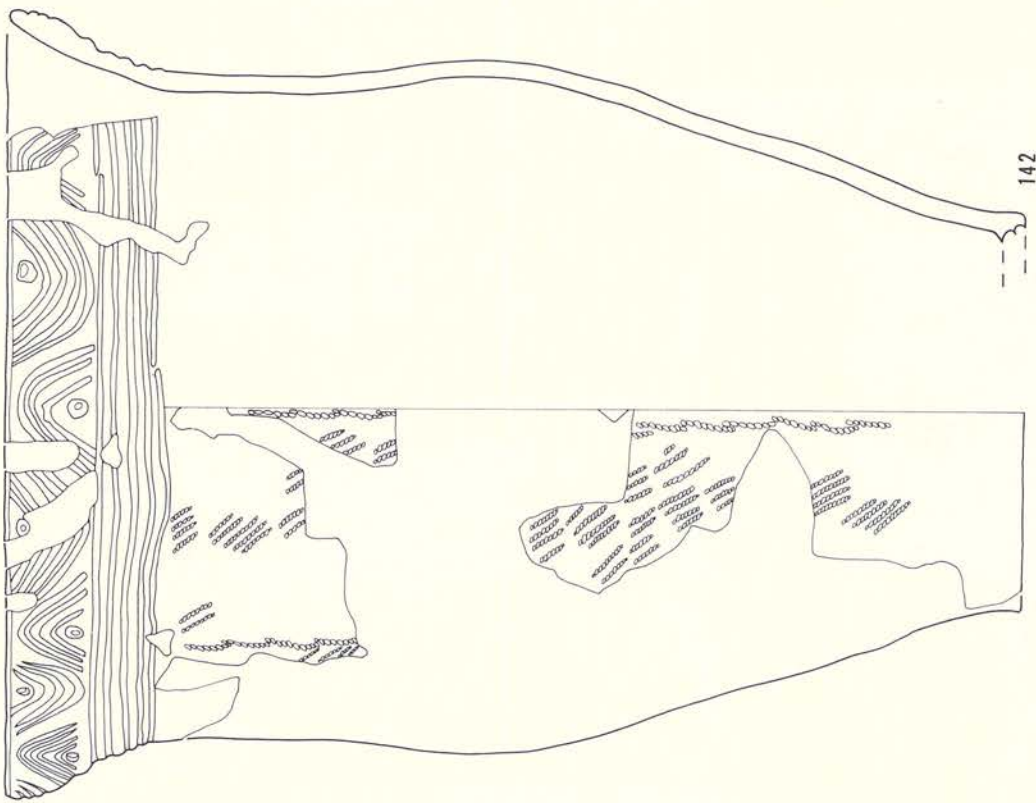
第57图 土器実測图(23)



143

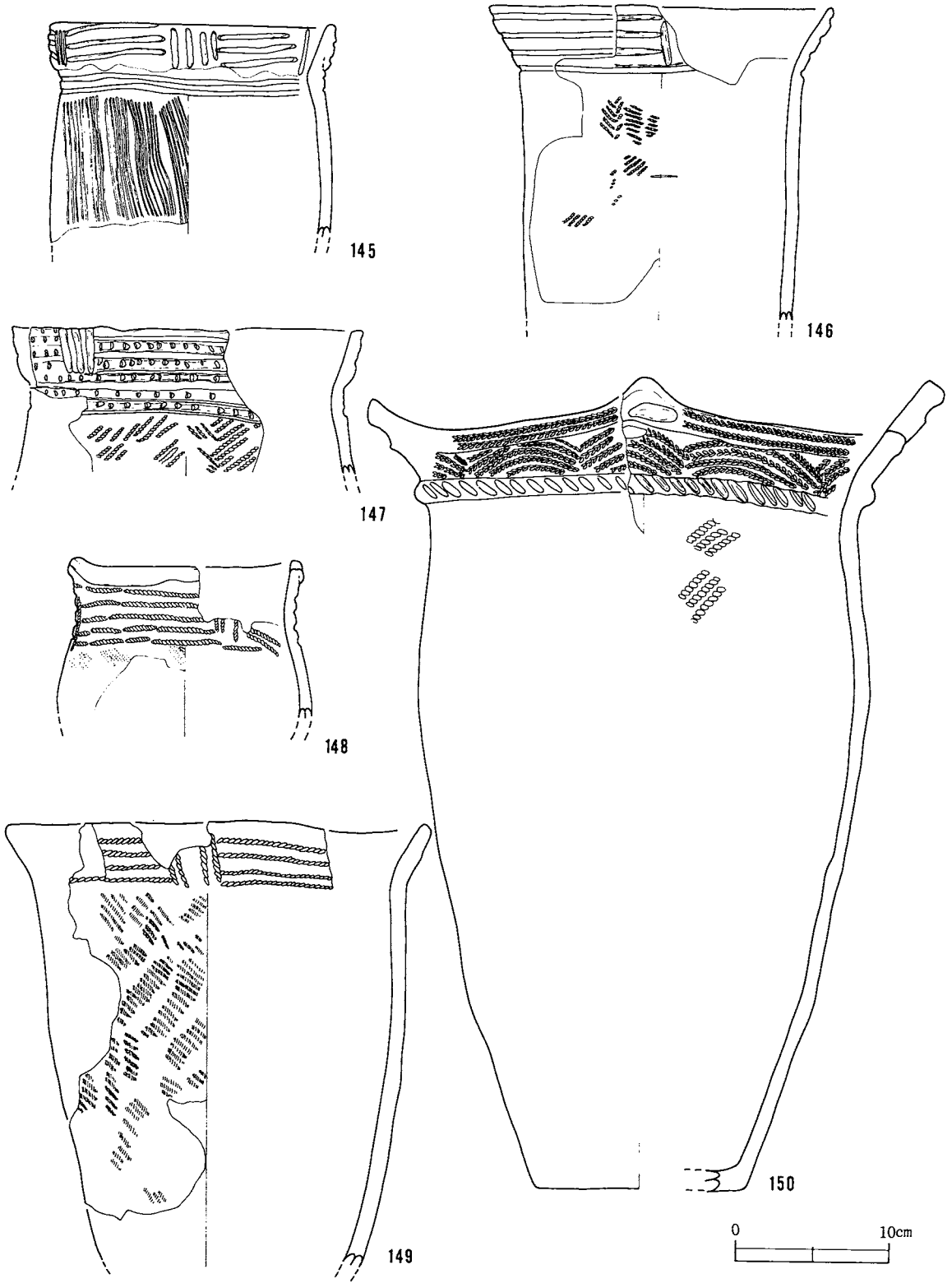


144

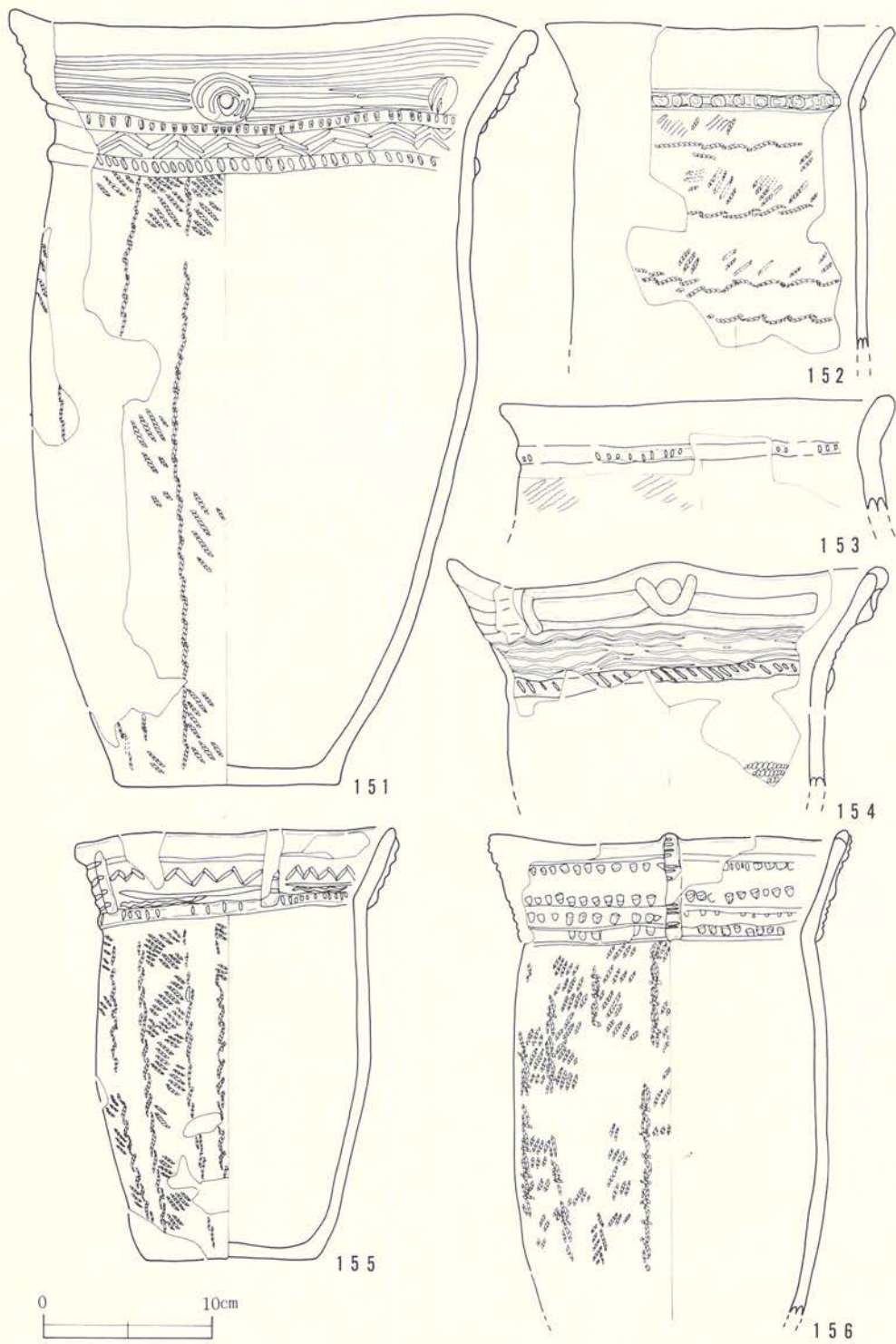


142

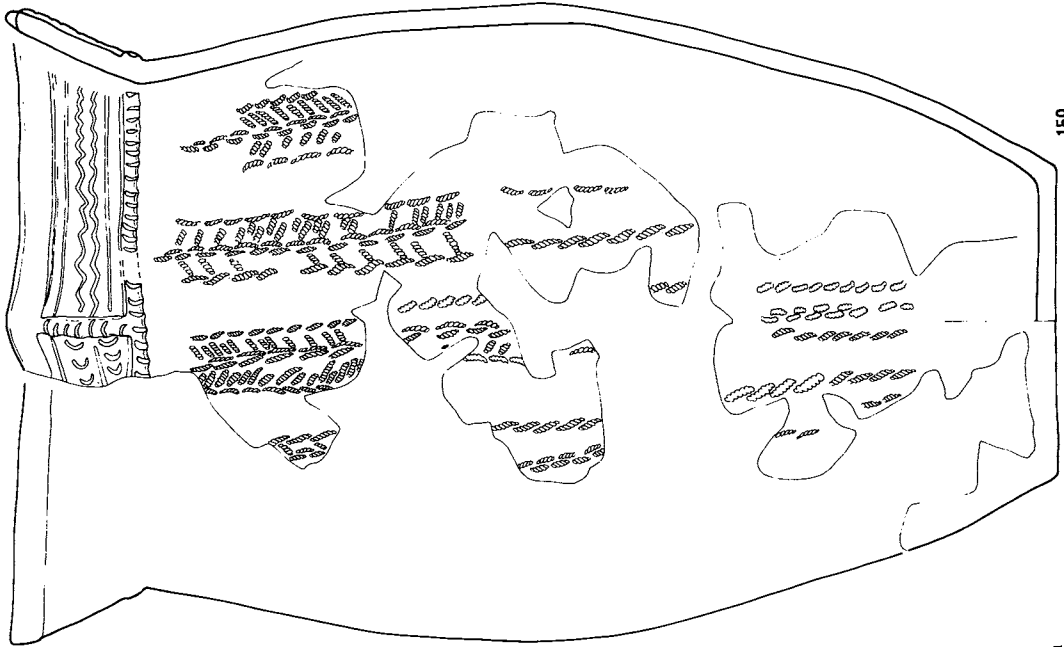
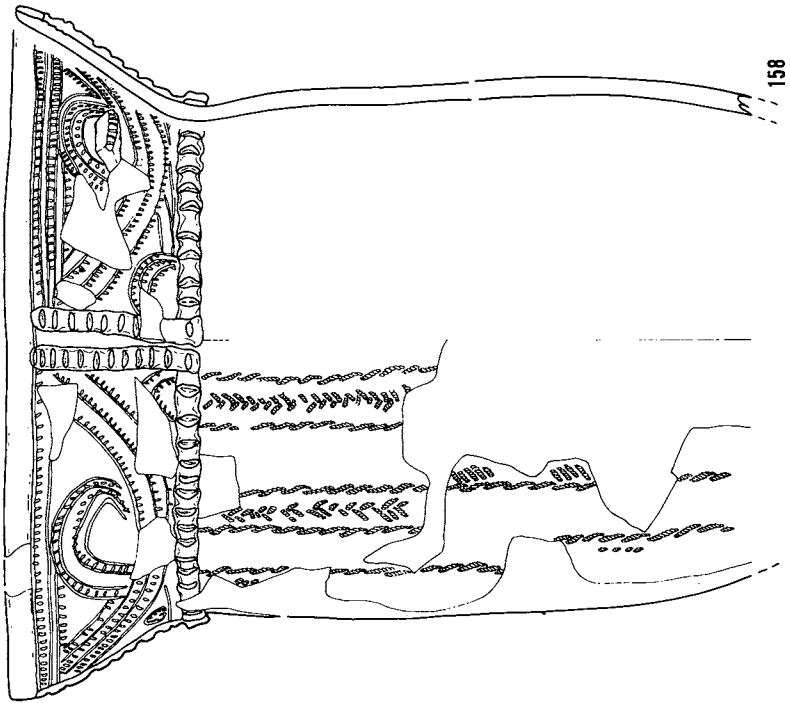
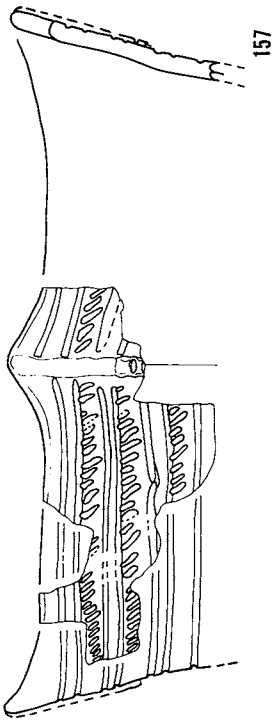
第58图 土器実測図(24)



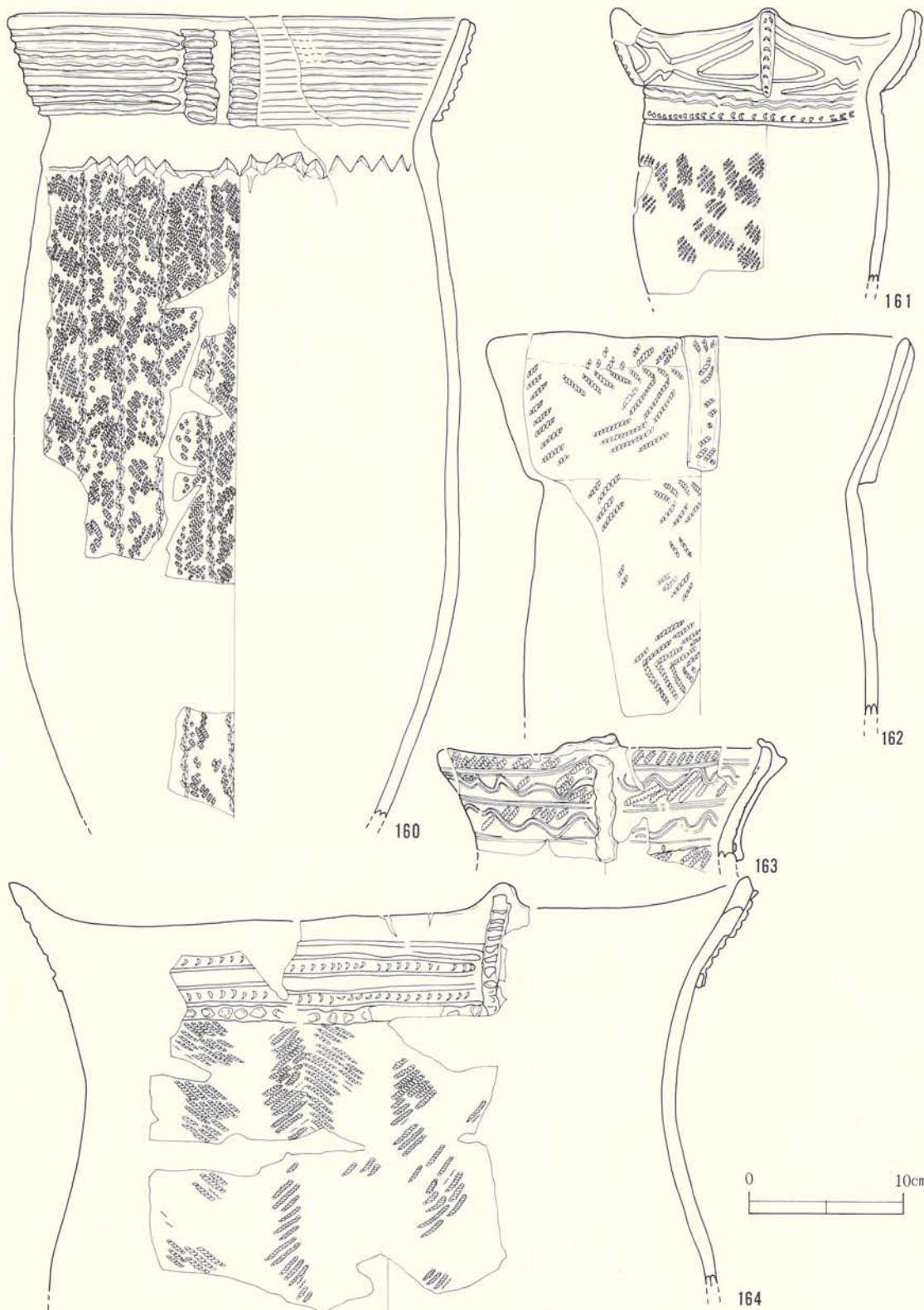
第59图 土器実測图(25)



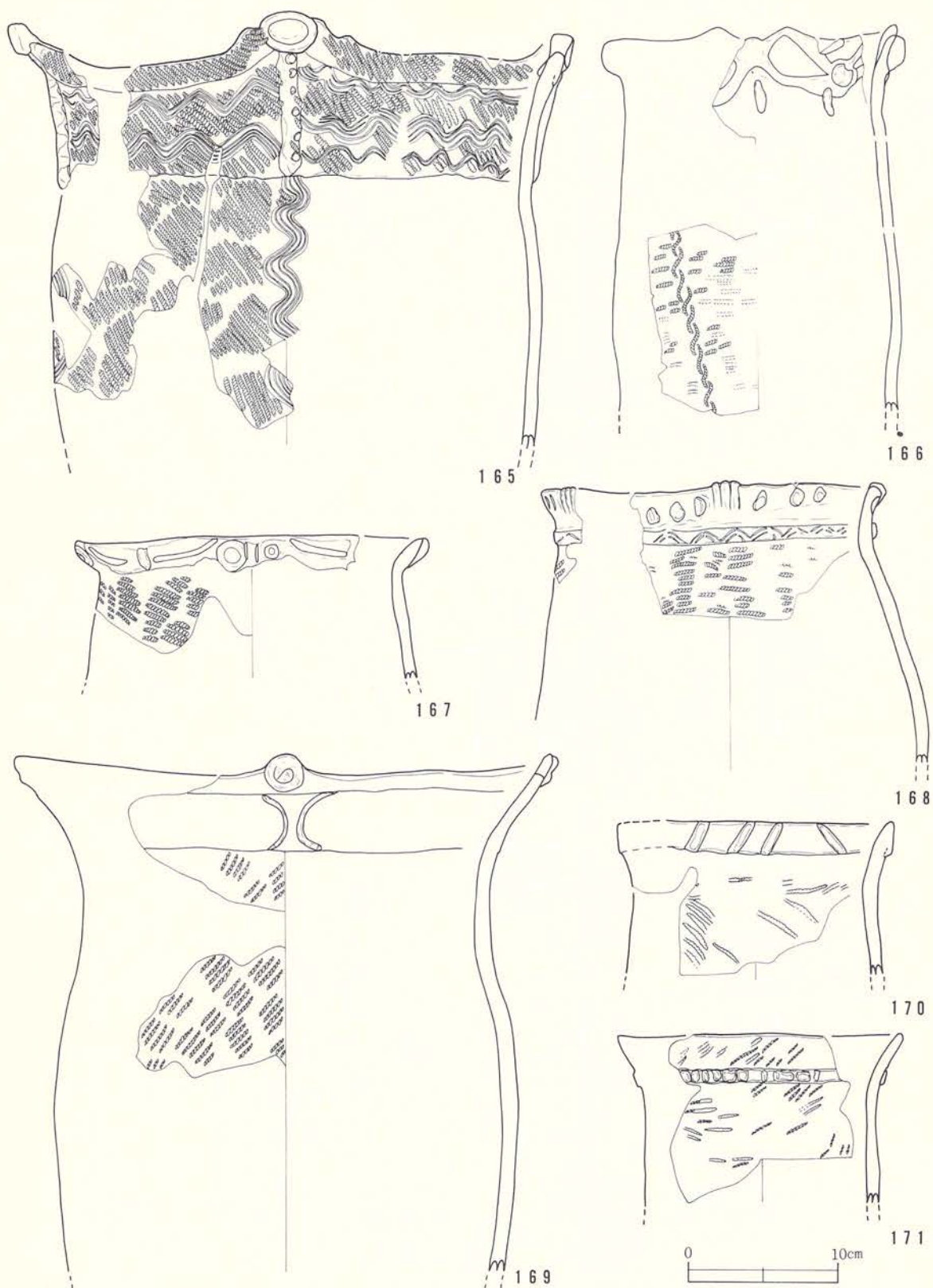
第60图 土器実測図(26)



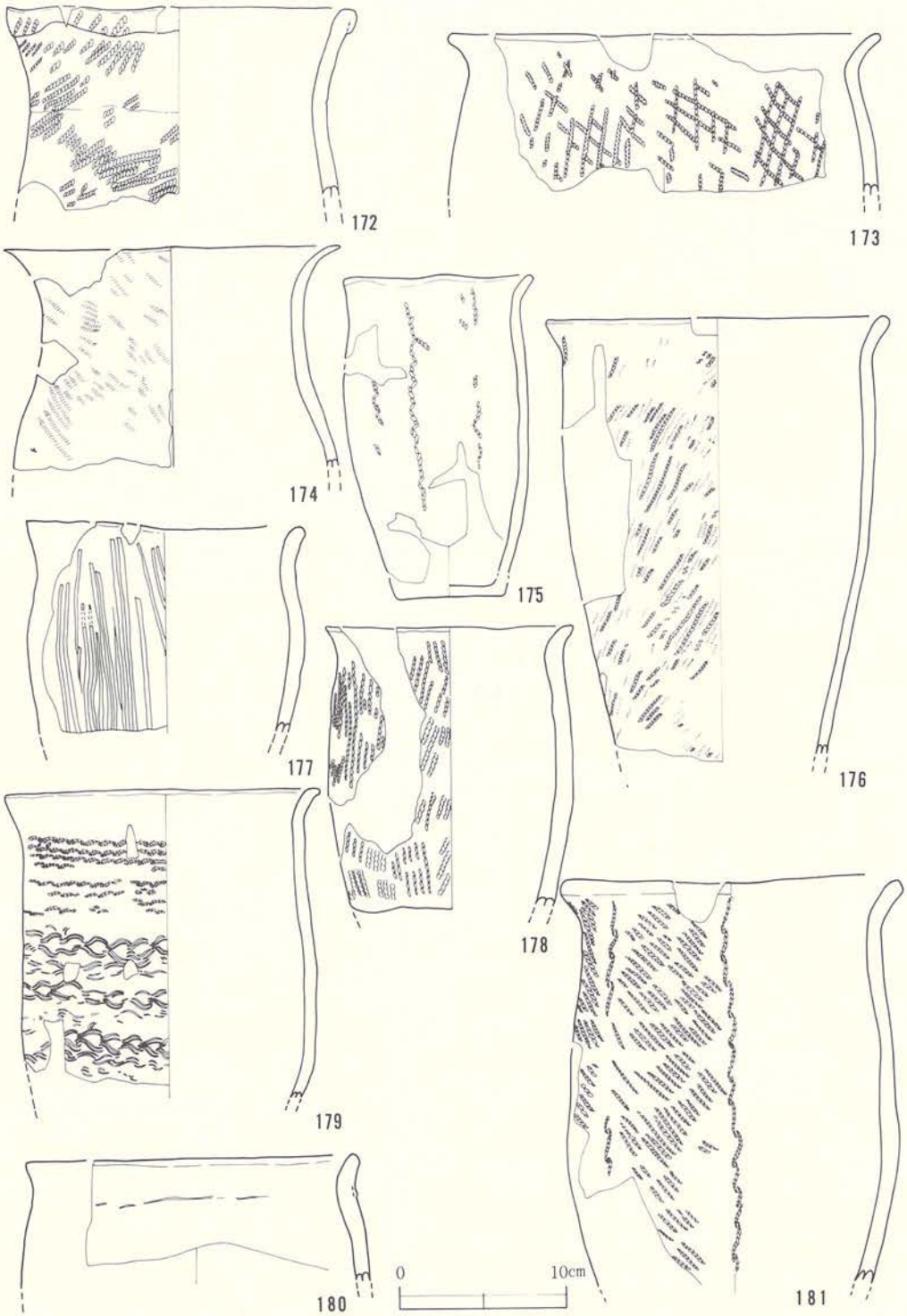
第61图 土器実測図(27)



第62图 土器実測図(28)



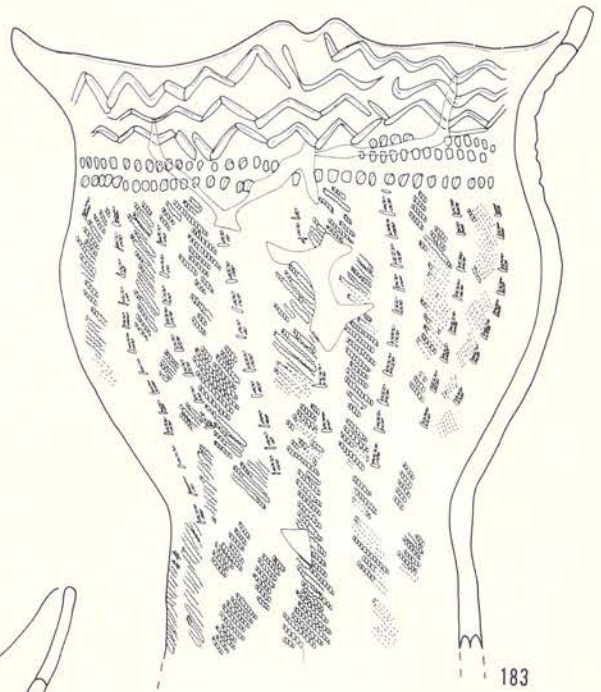
第63図 土器実測図(29)



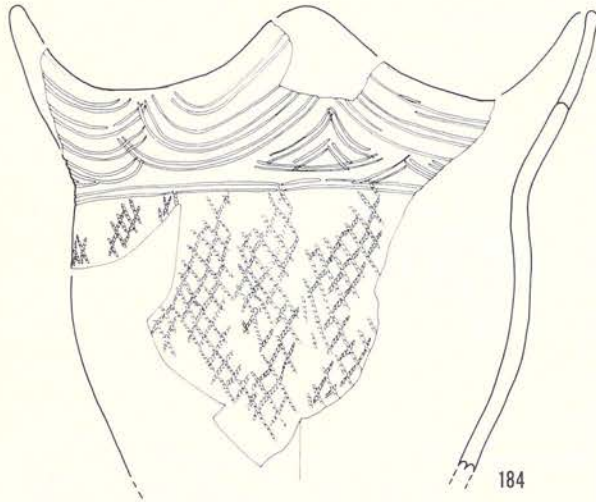
第64図 土器実測図(30)



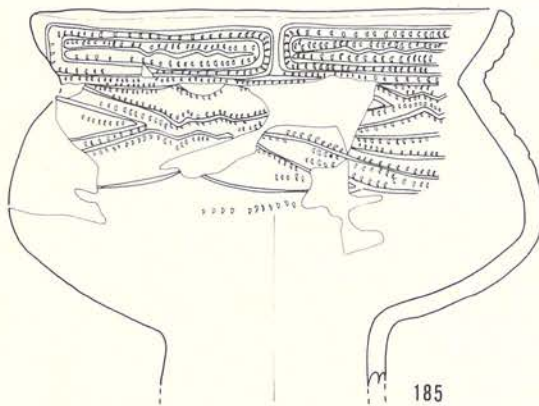
182



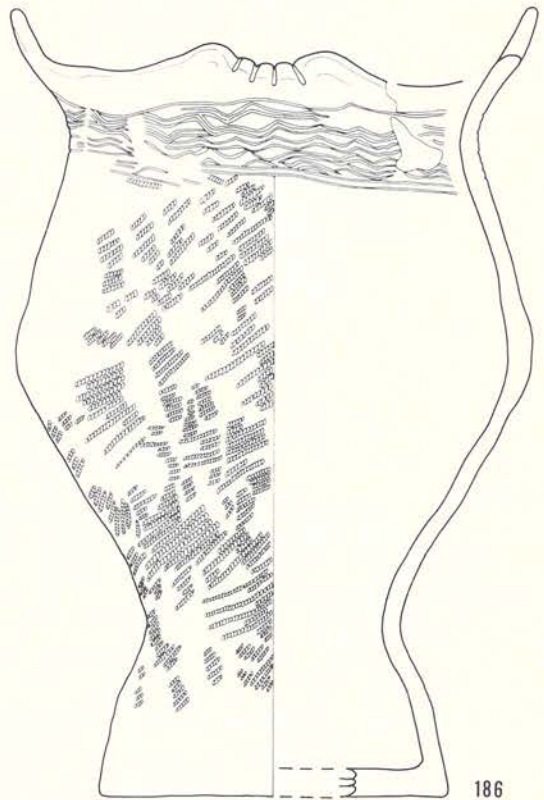
183



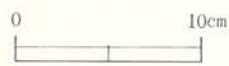
184



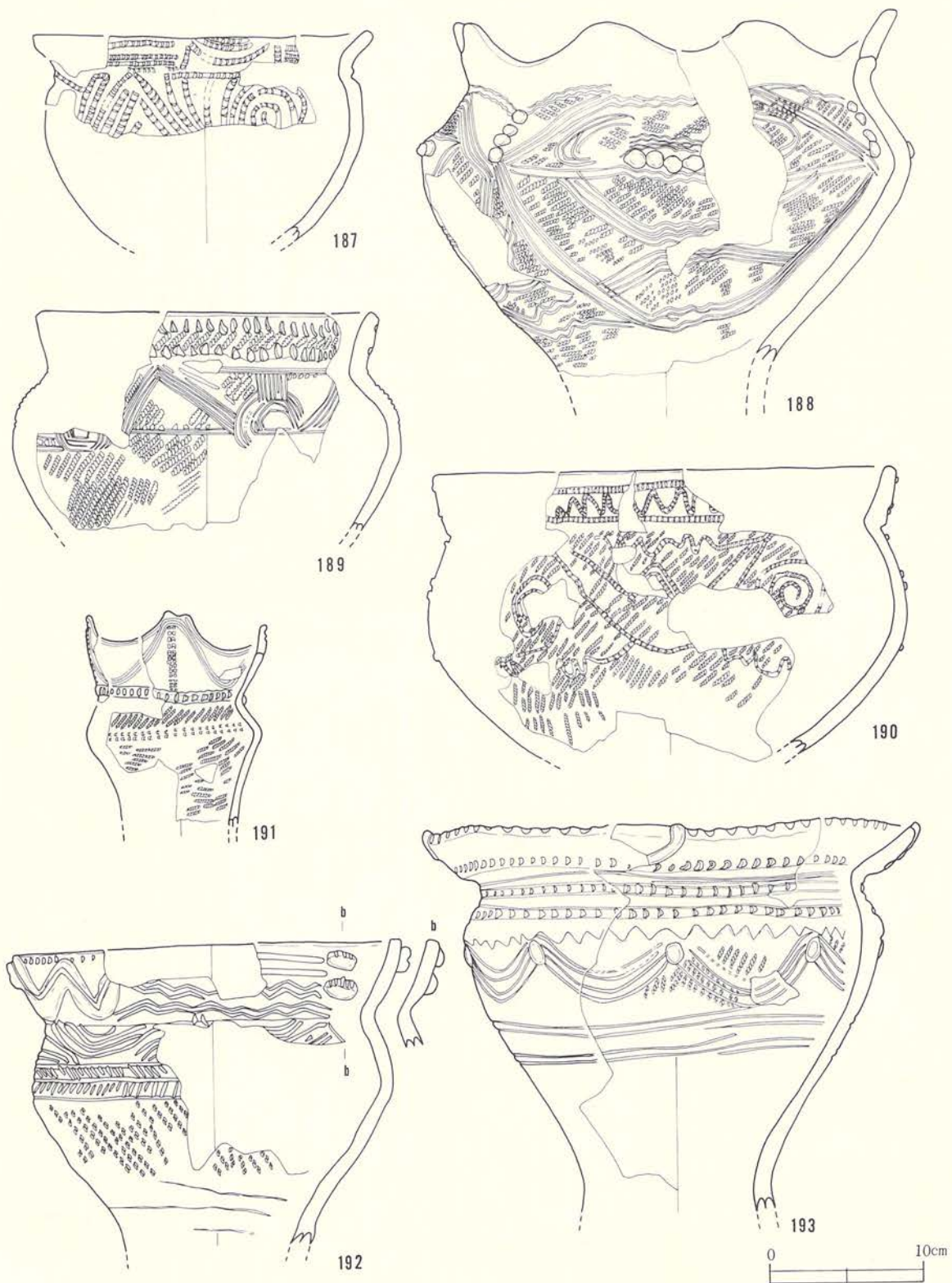
185



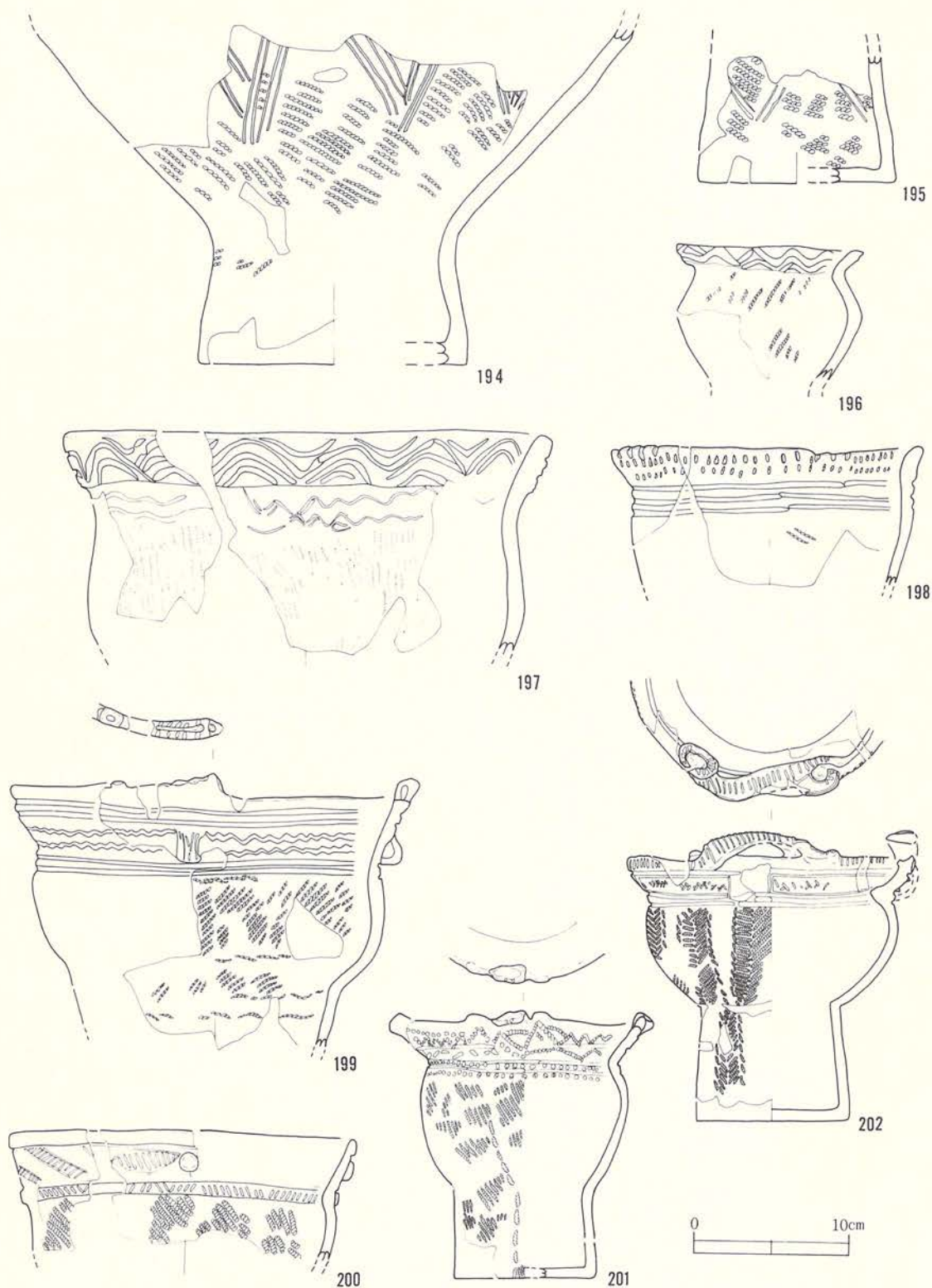
186



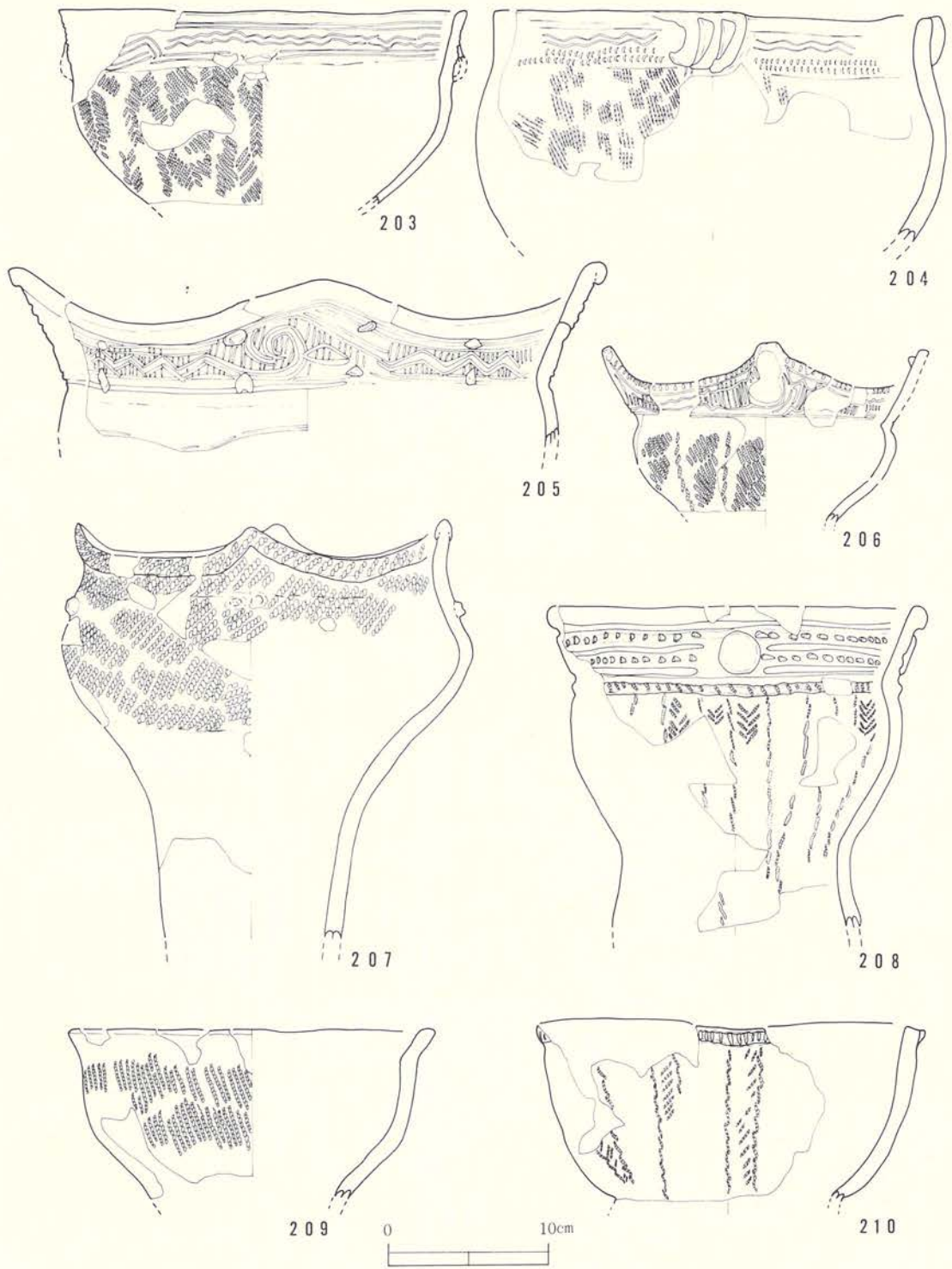
第65图 土器実測図(31)



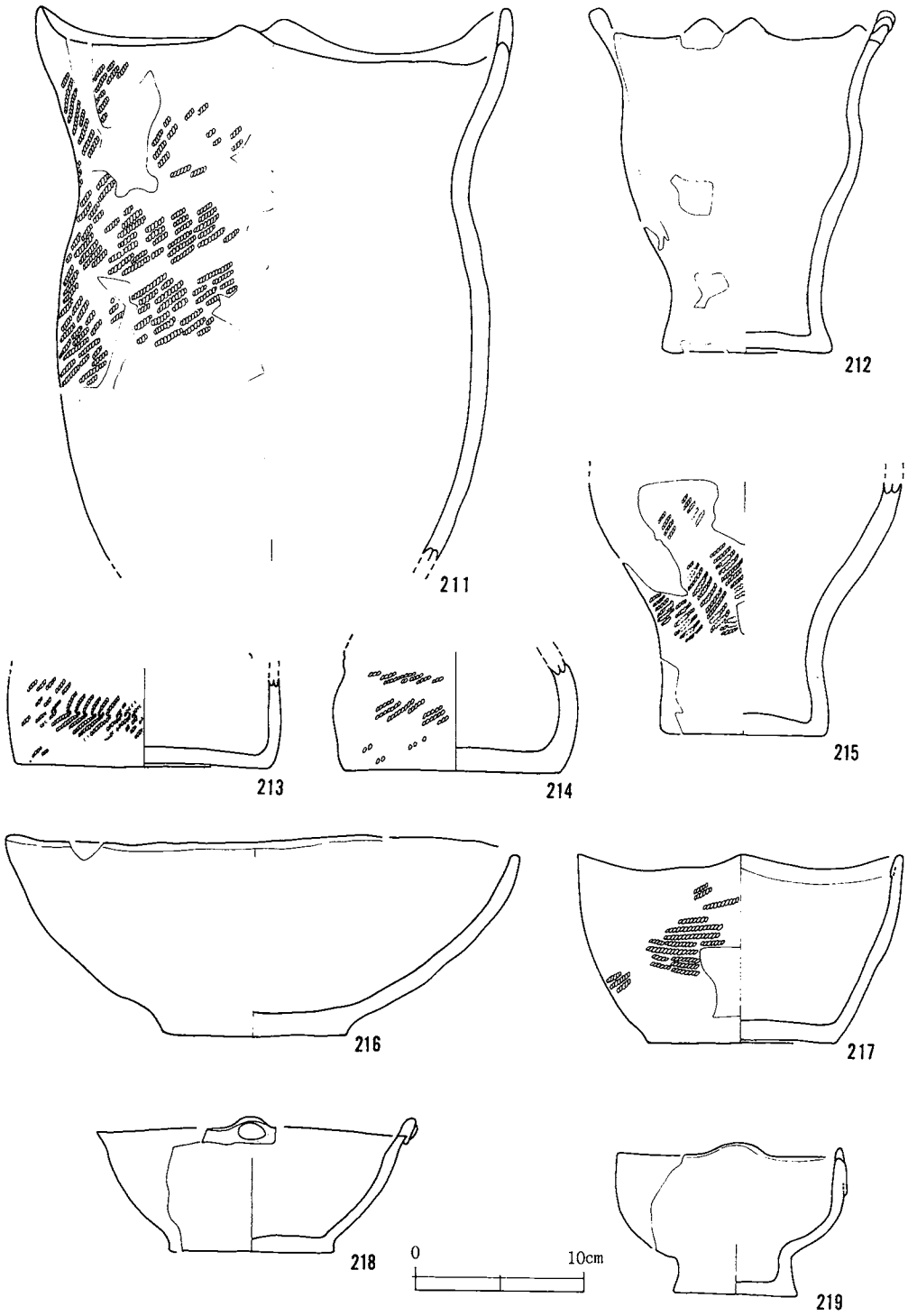
第66图 土器実測图(32)



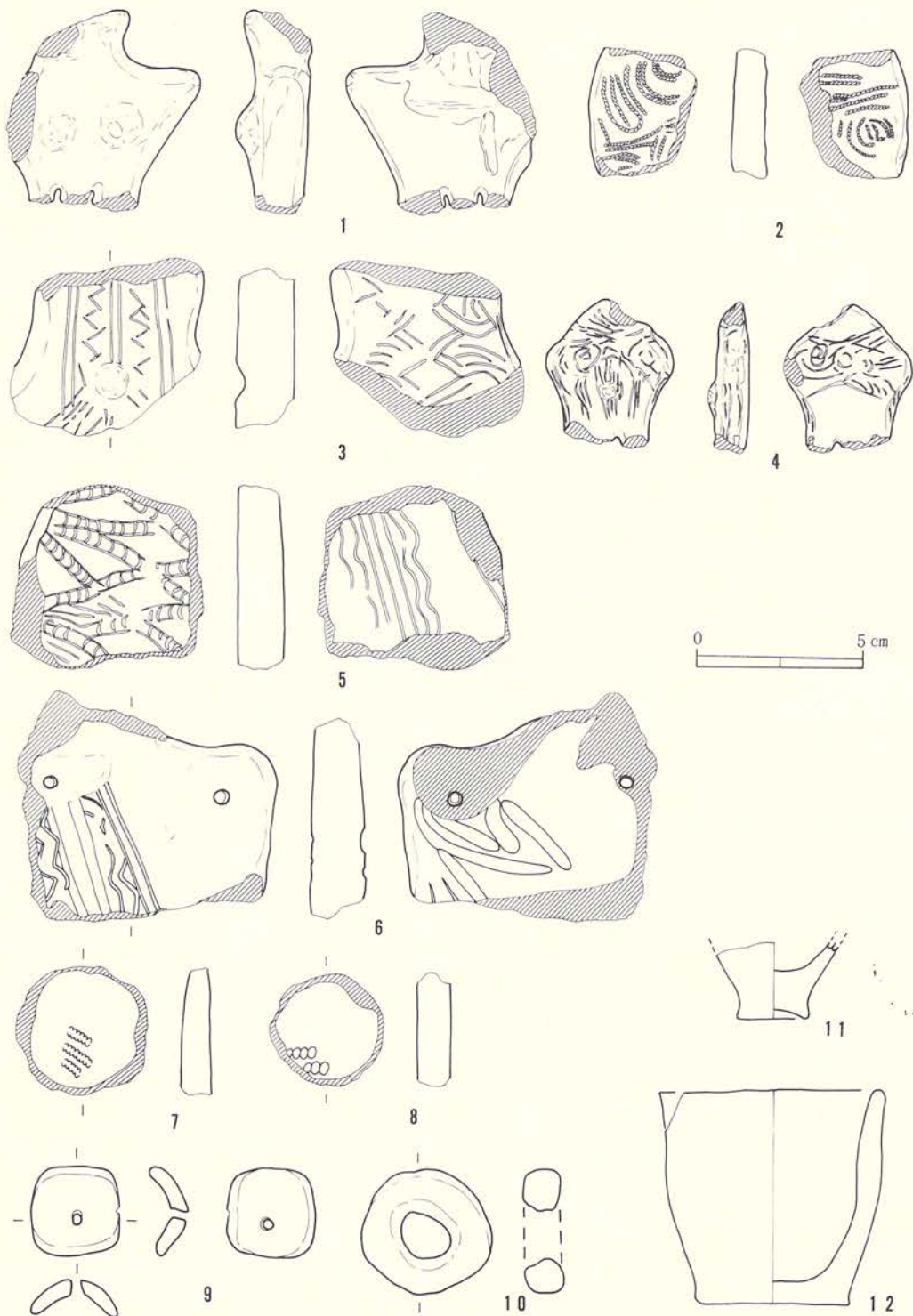
第67图 土器実測図(33)



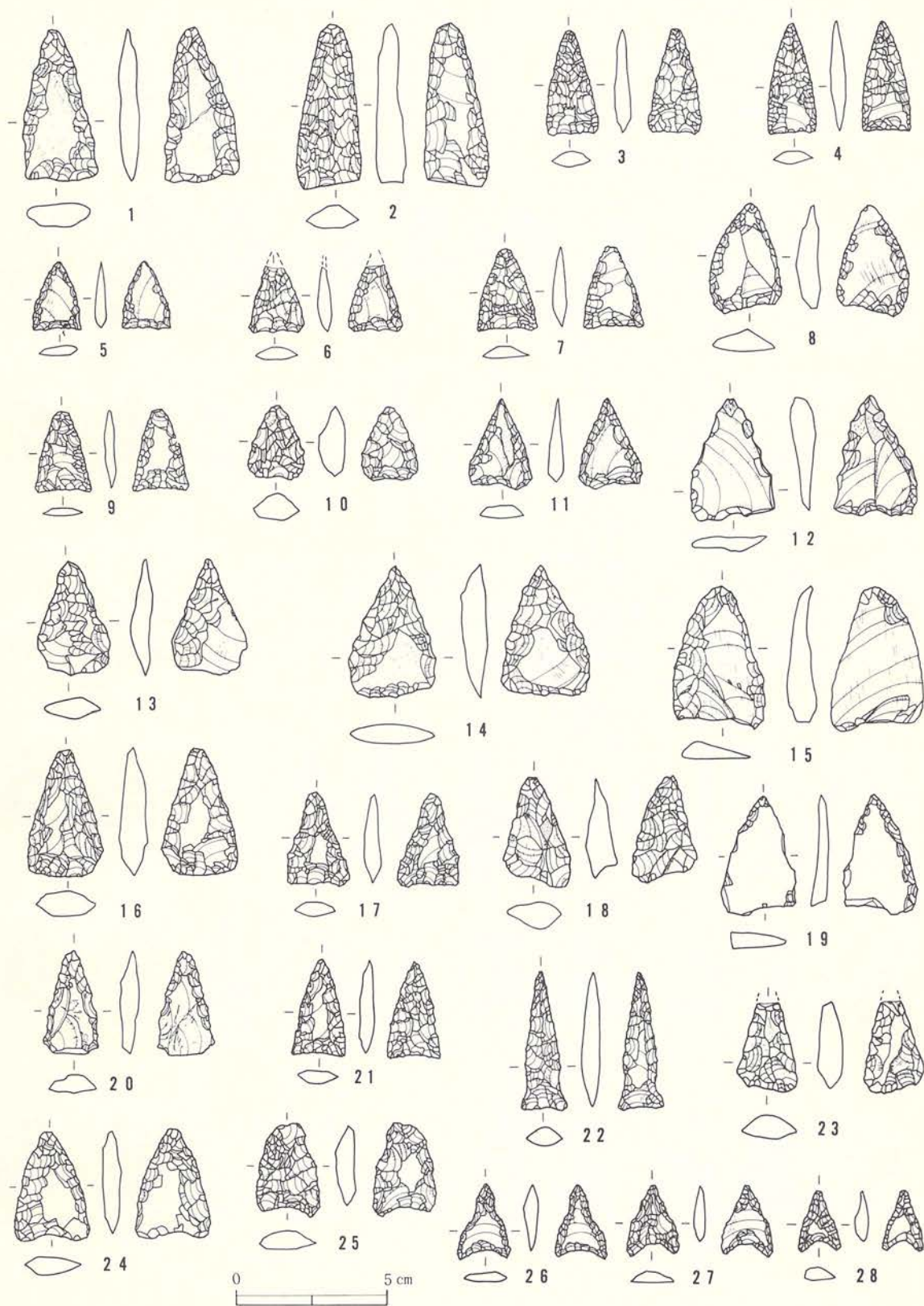
第68図 土器実測図(34)



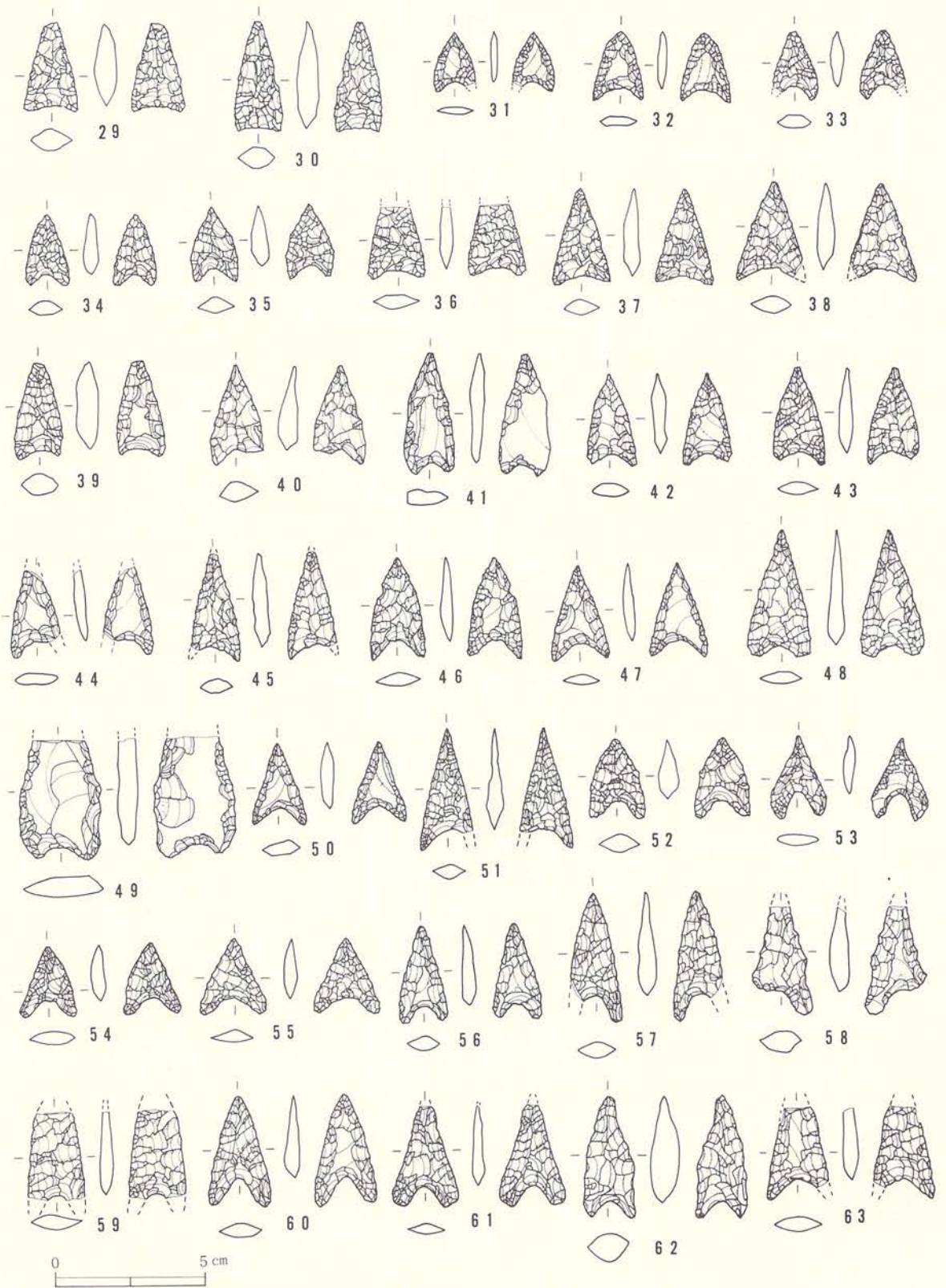
第69図 土器実測図(35)



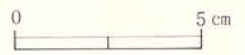
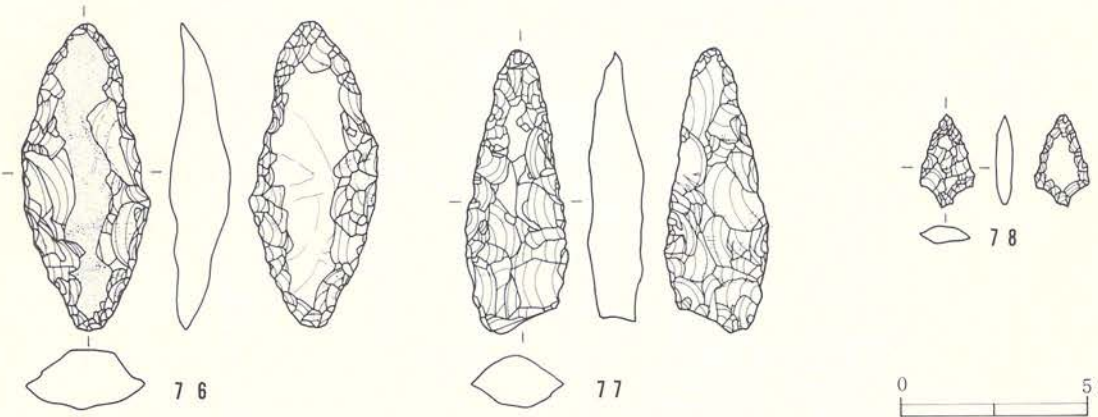
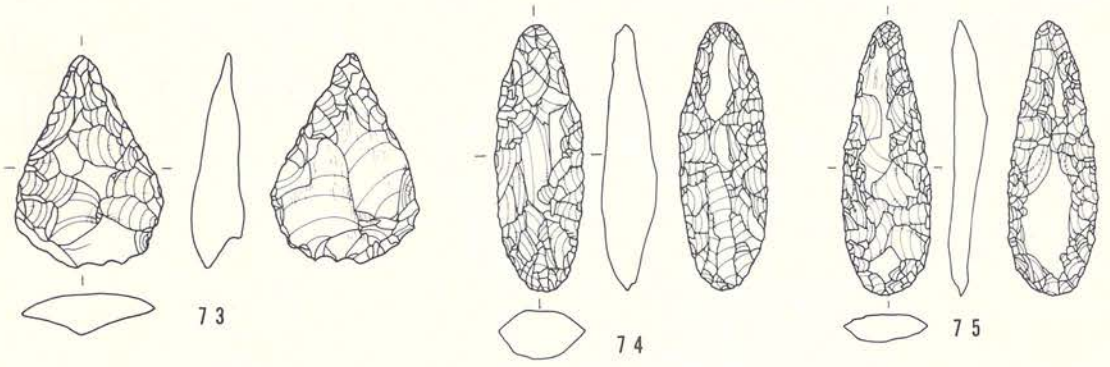
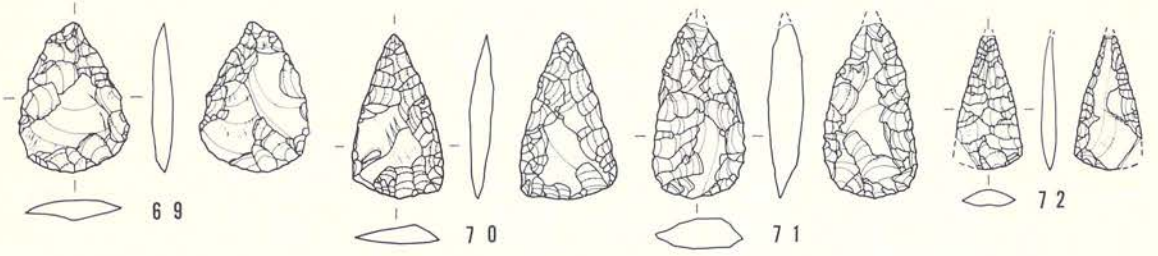
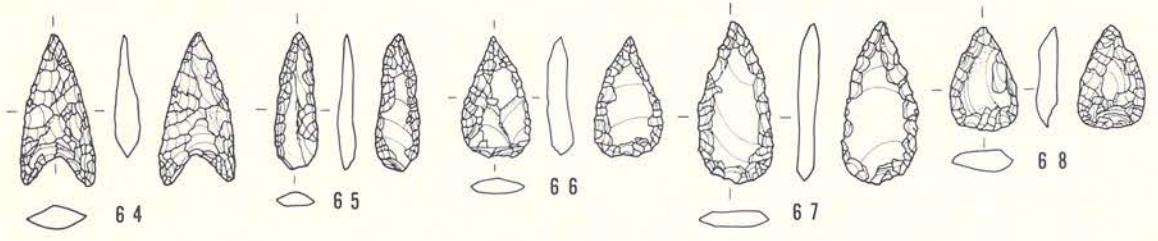
第70图 土製品



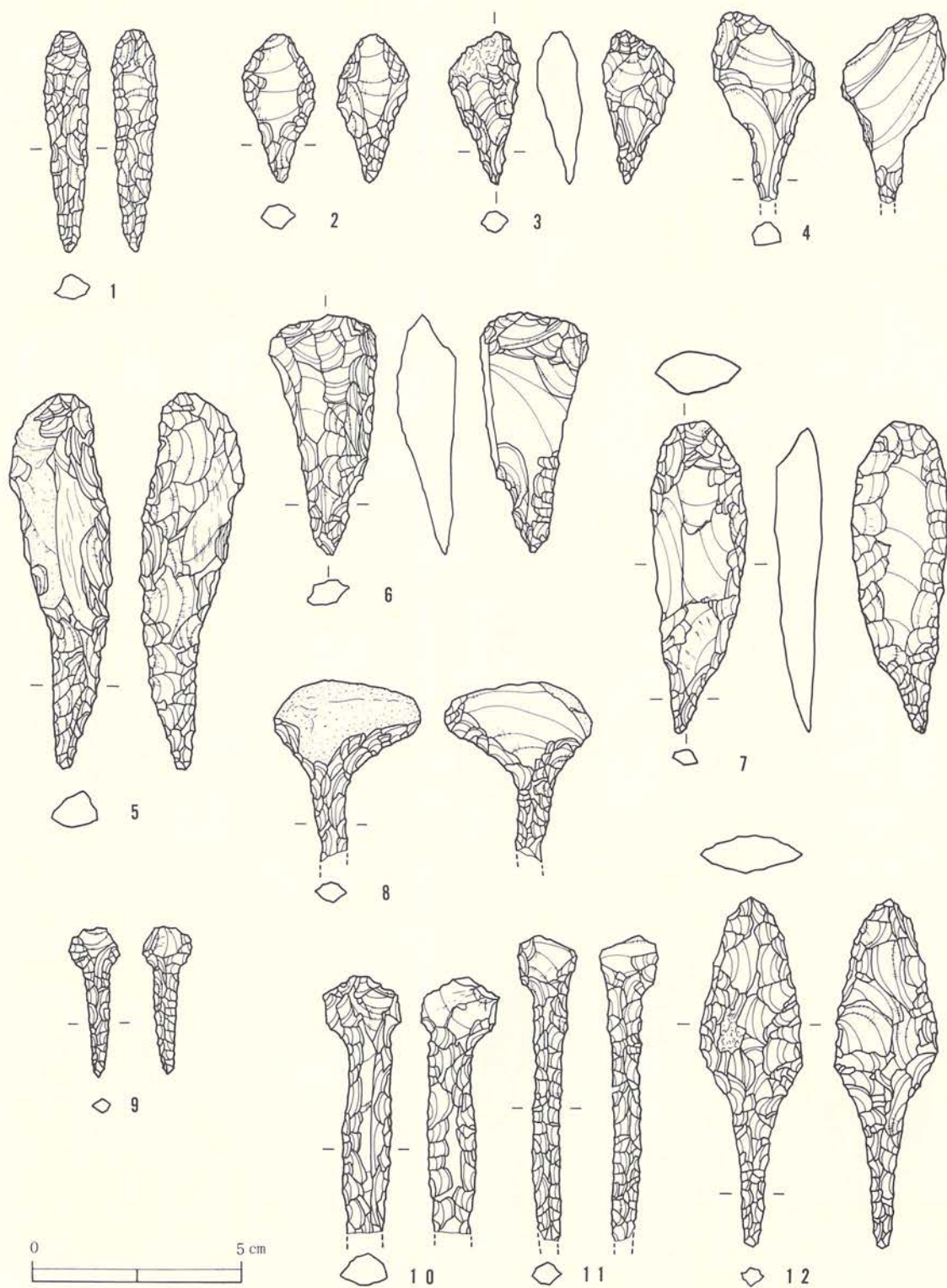
第71図 a. 石鏃・石槍(1)



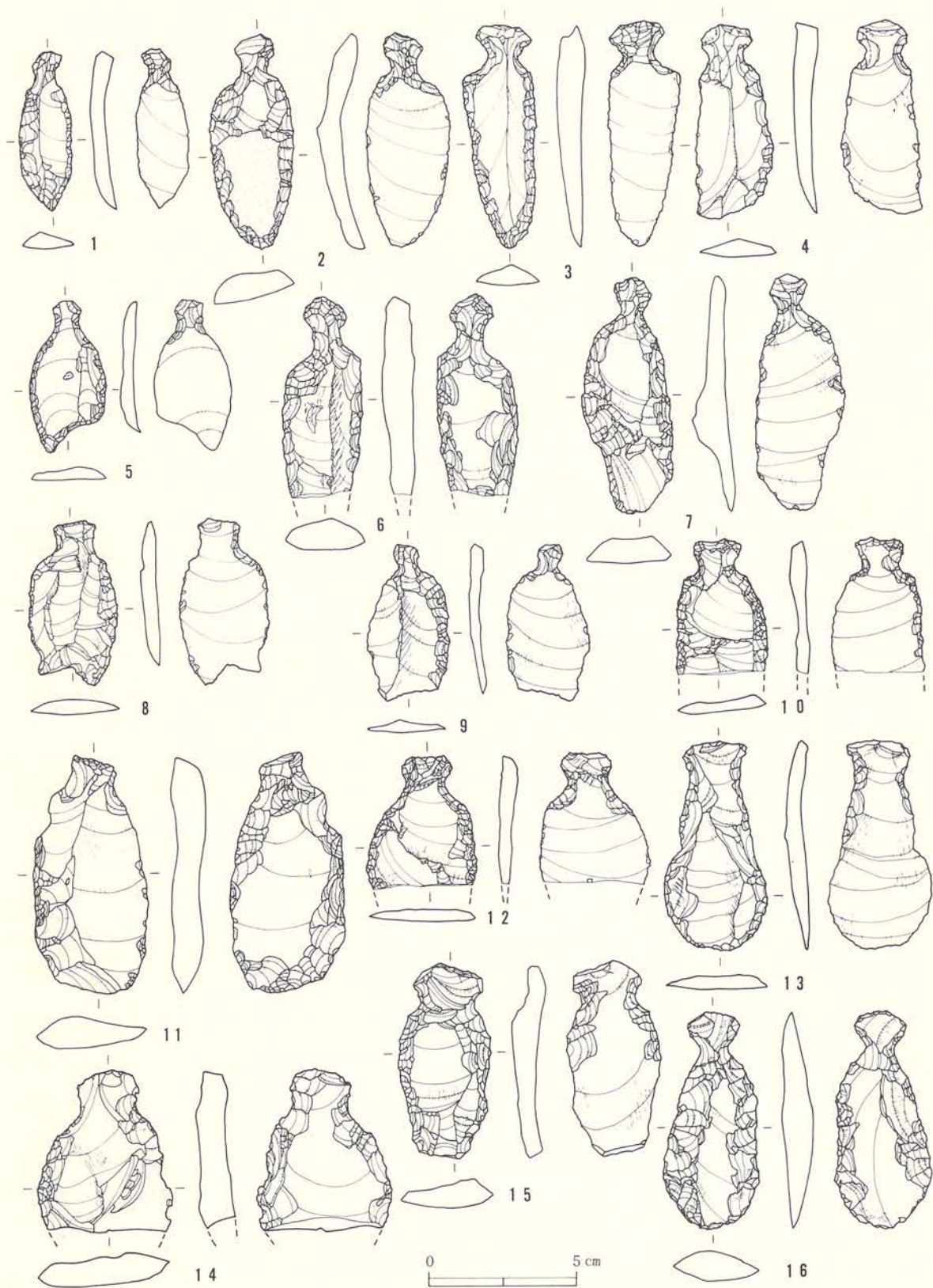
第72図 a. 石鏃・石槍(2)



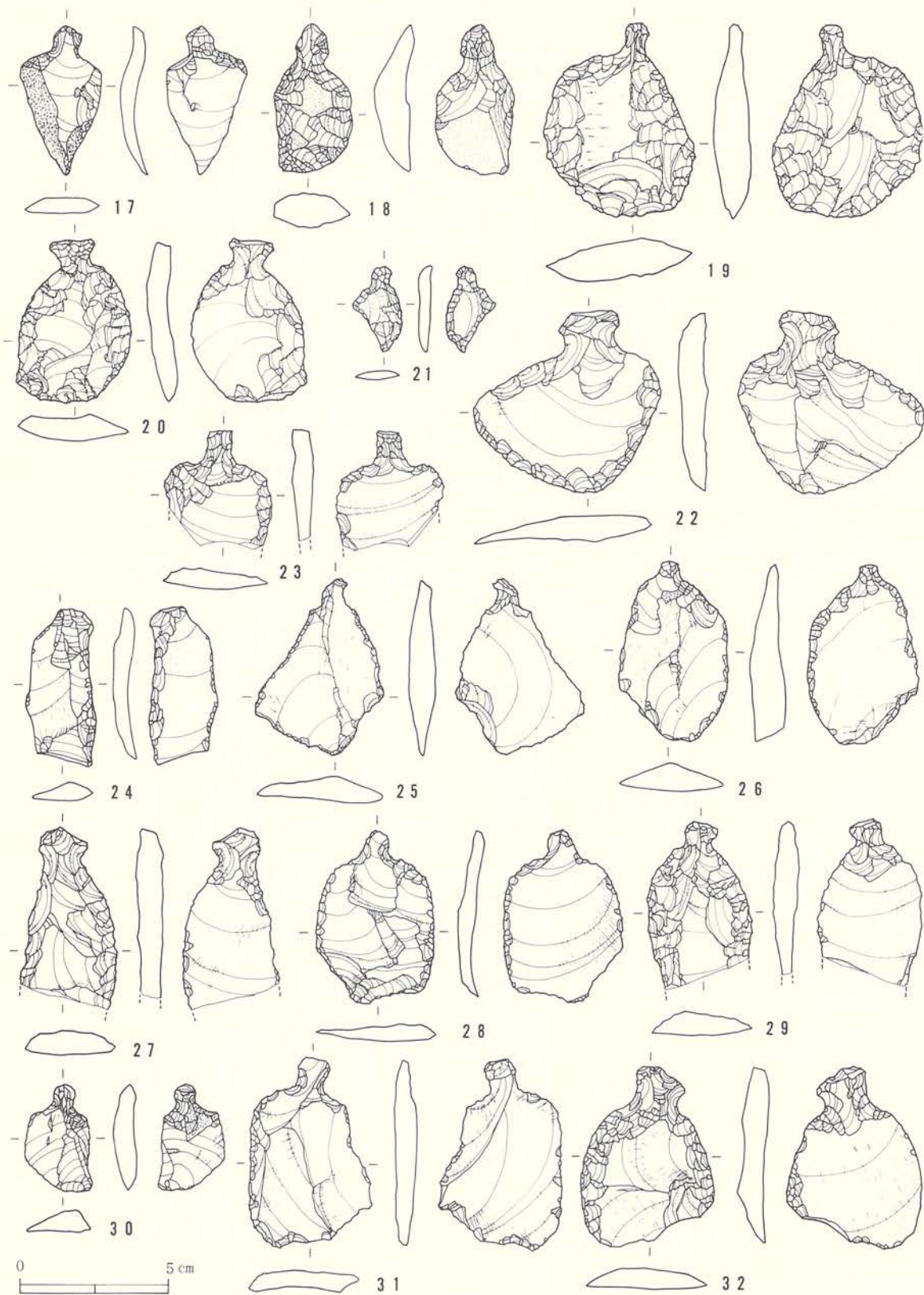
第73図 a. 石鏃・石槍(3)



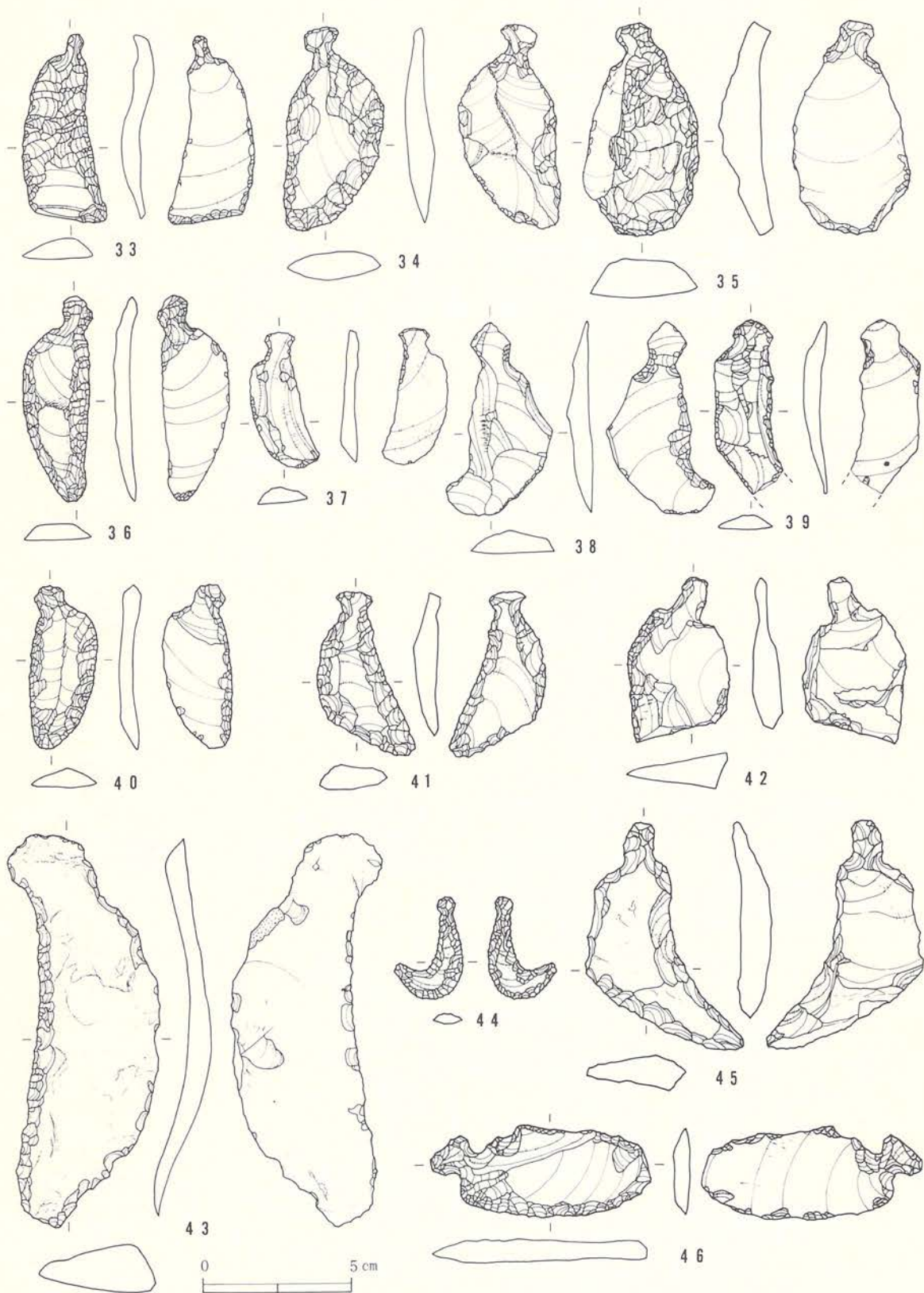
第74図 b. 石錐



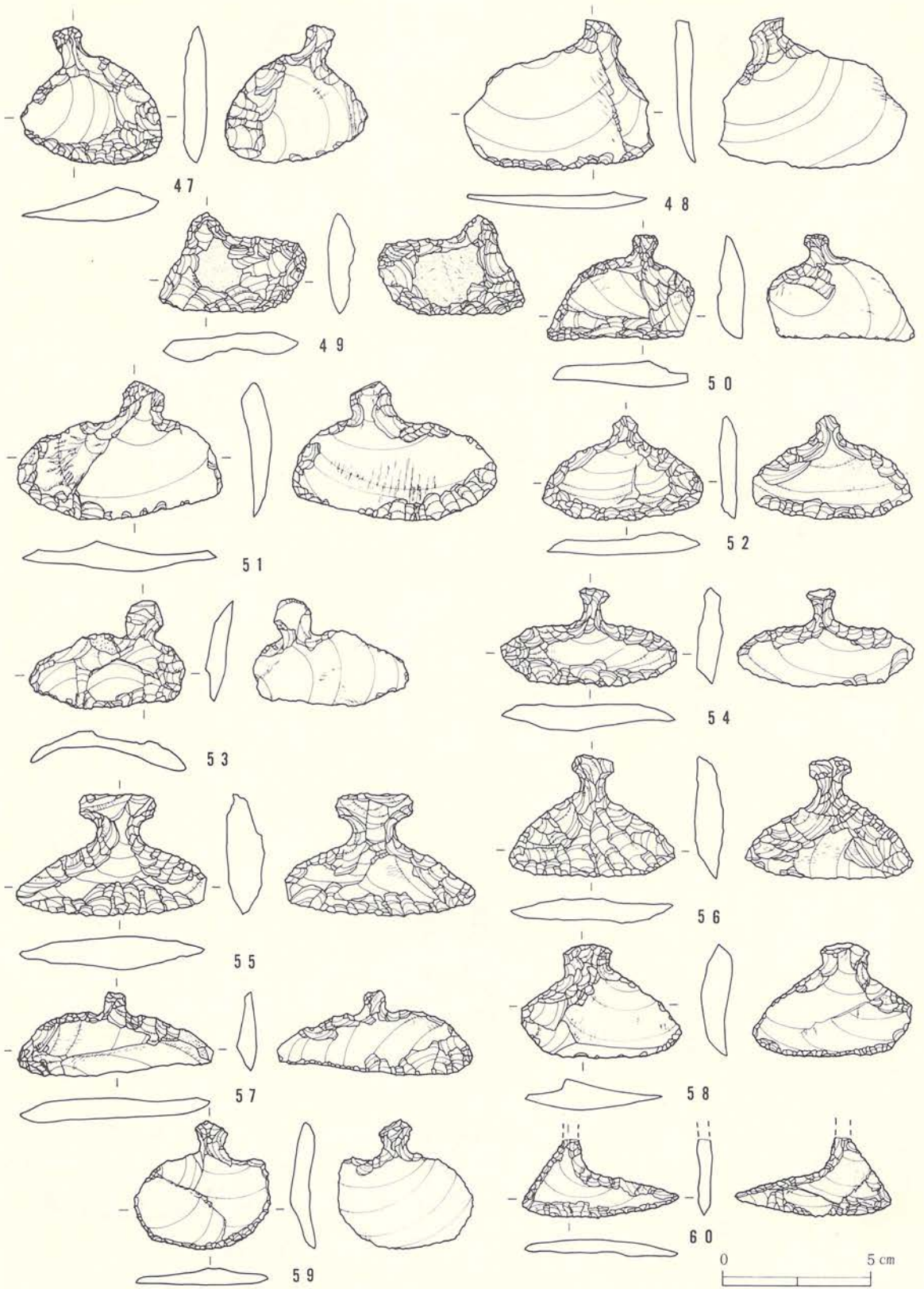
第75图 c. 石匙(1)



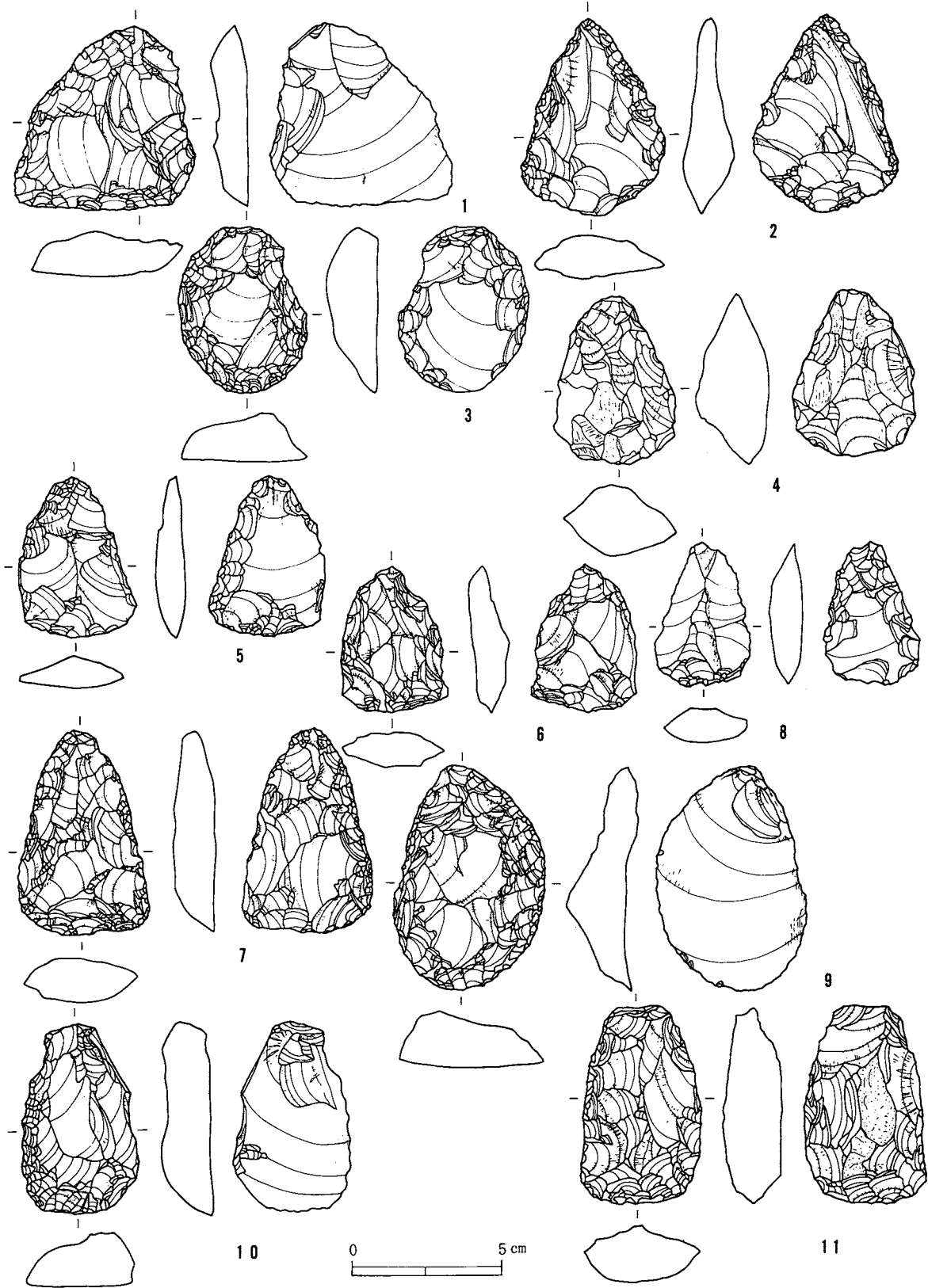
第76图 c. 石匙(2)



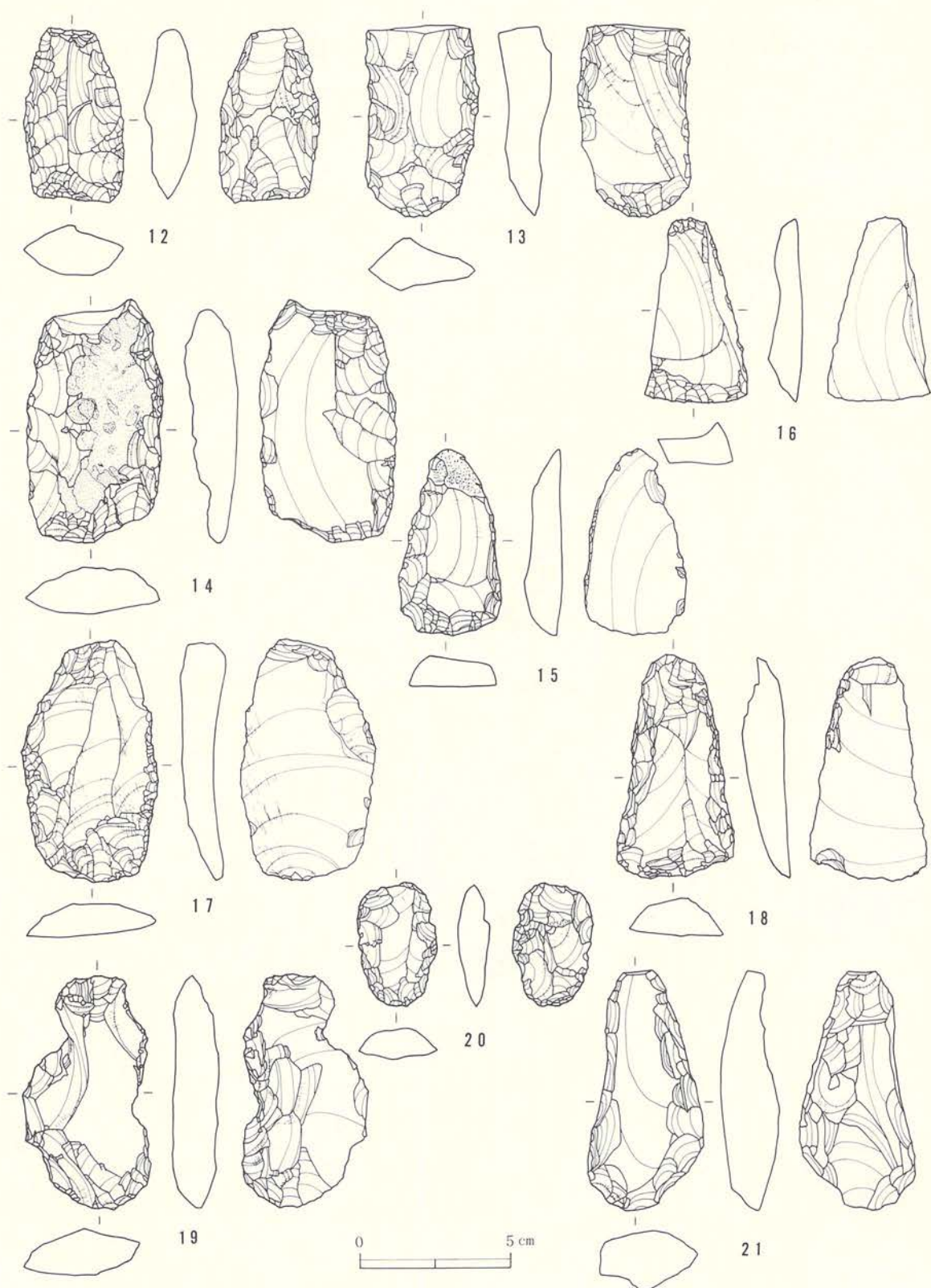
第77图 c. 石匙(3)



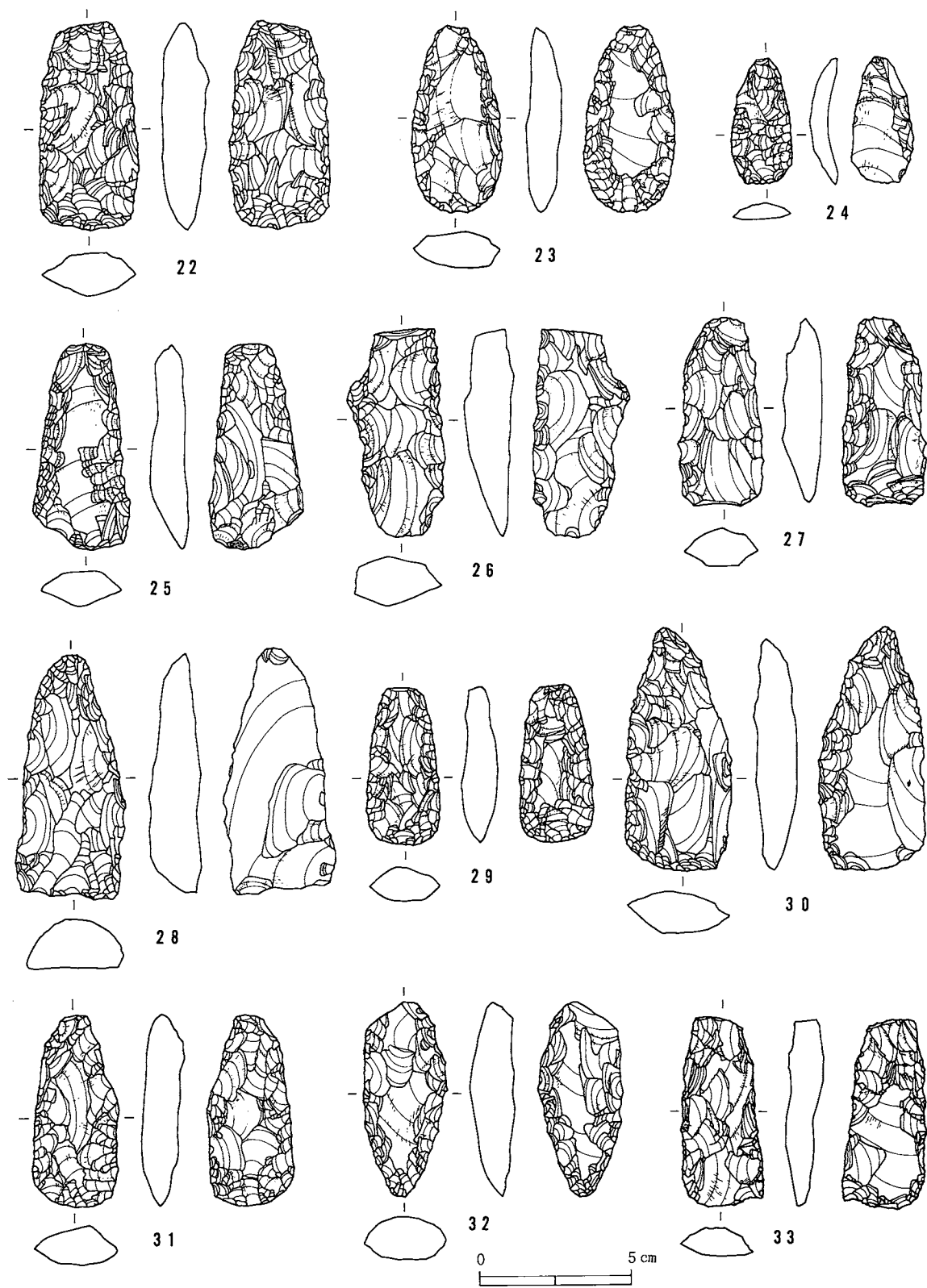
第78图 c. 石匙(4)



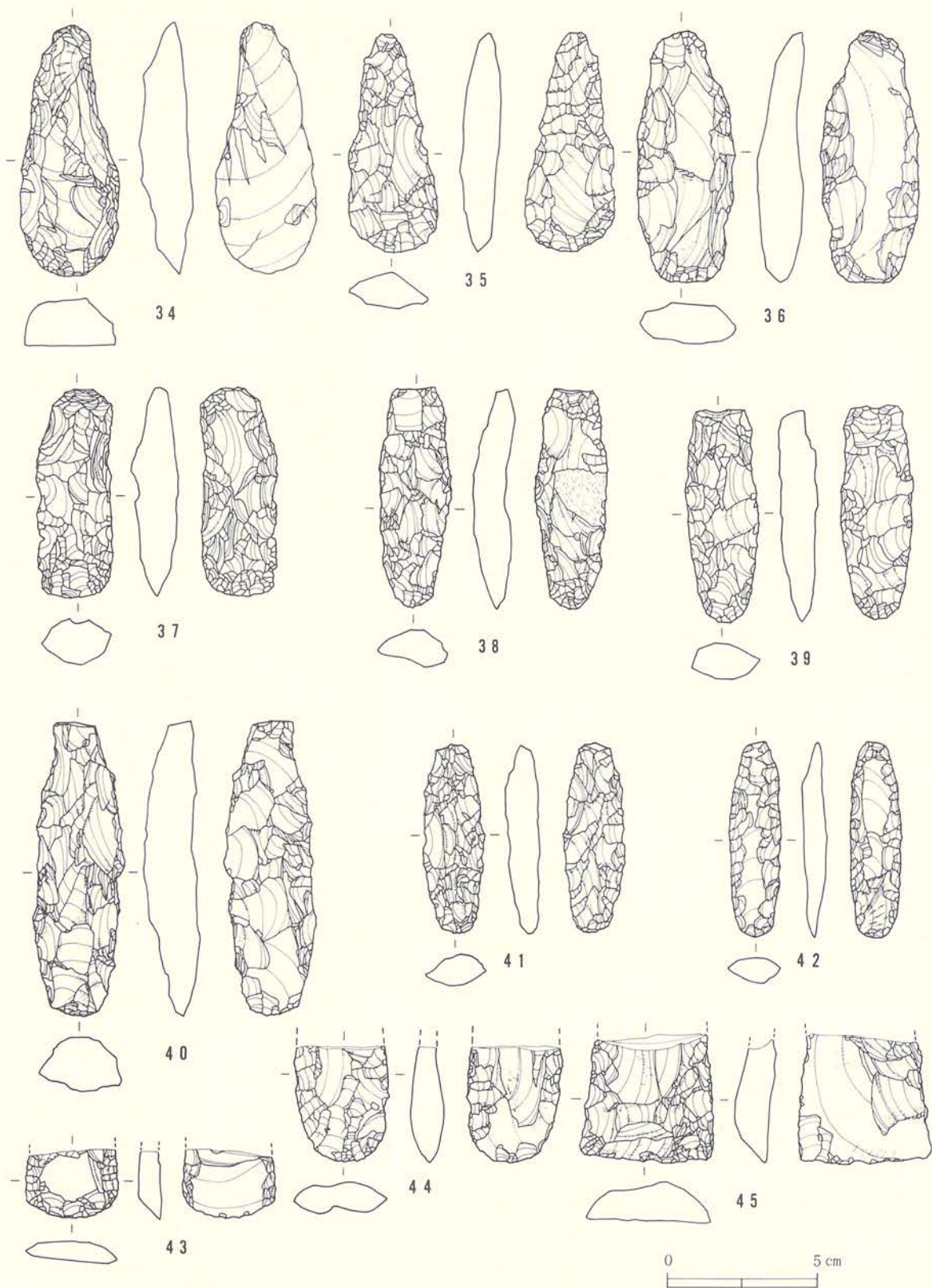
第79图 d. 石篋(I)



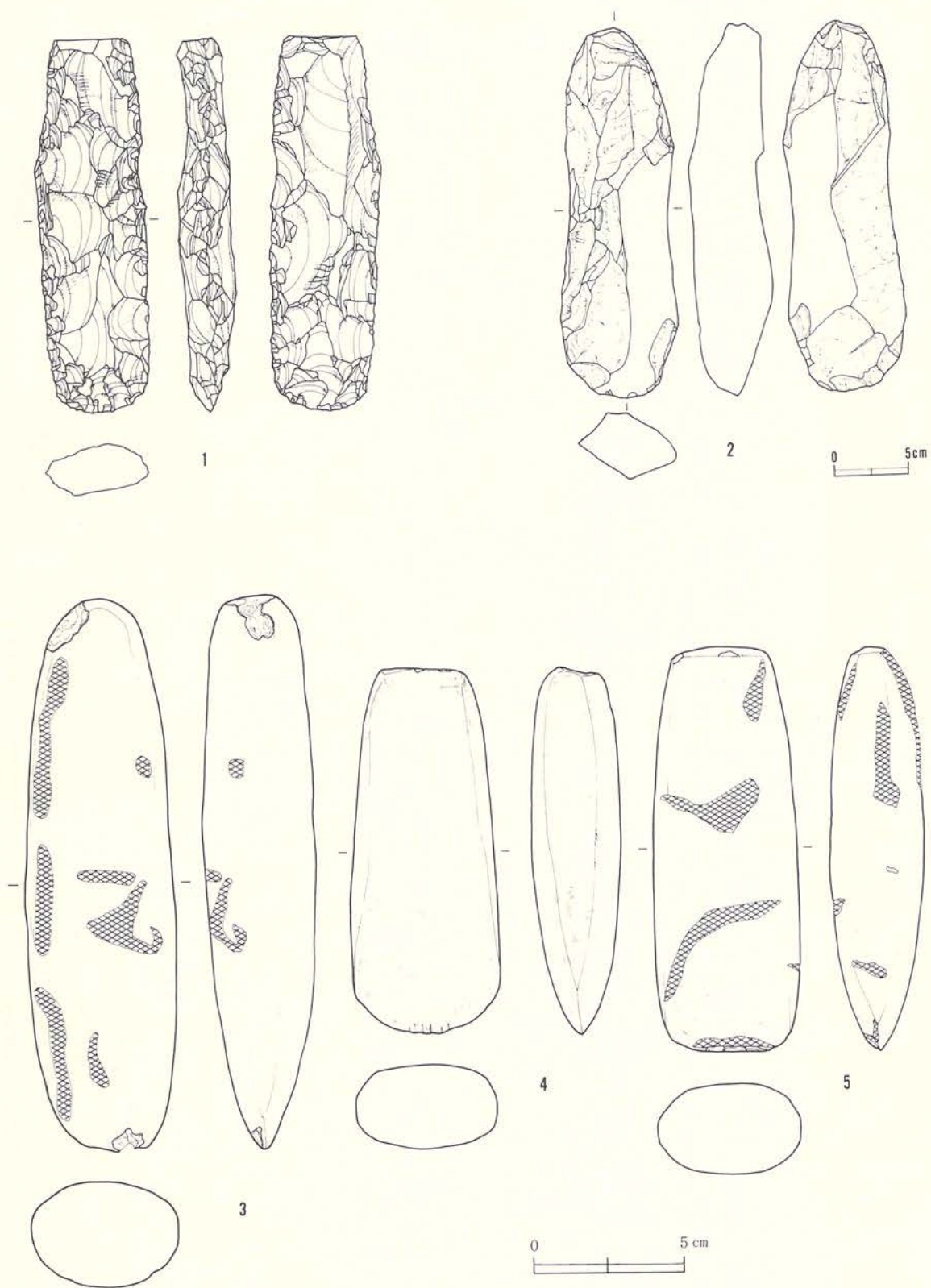
第80图 d. 石筩(2)



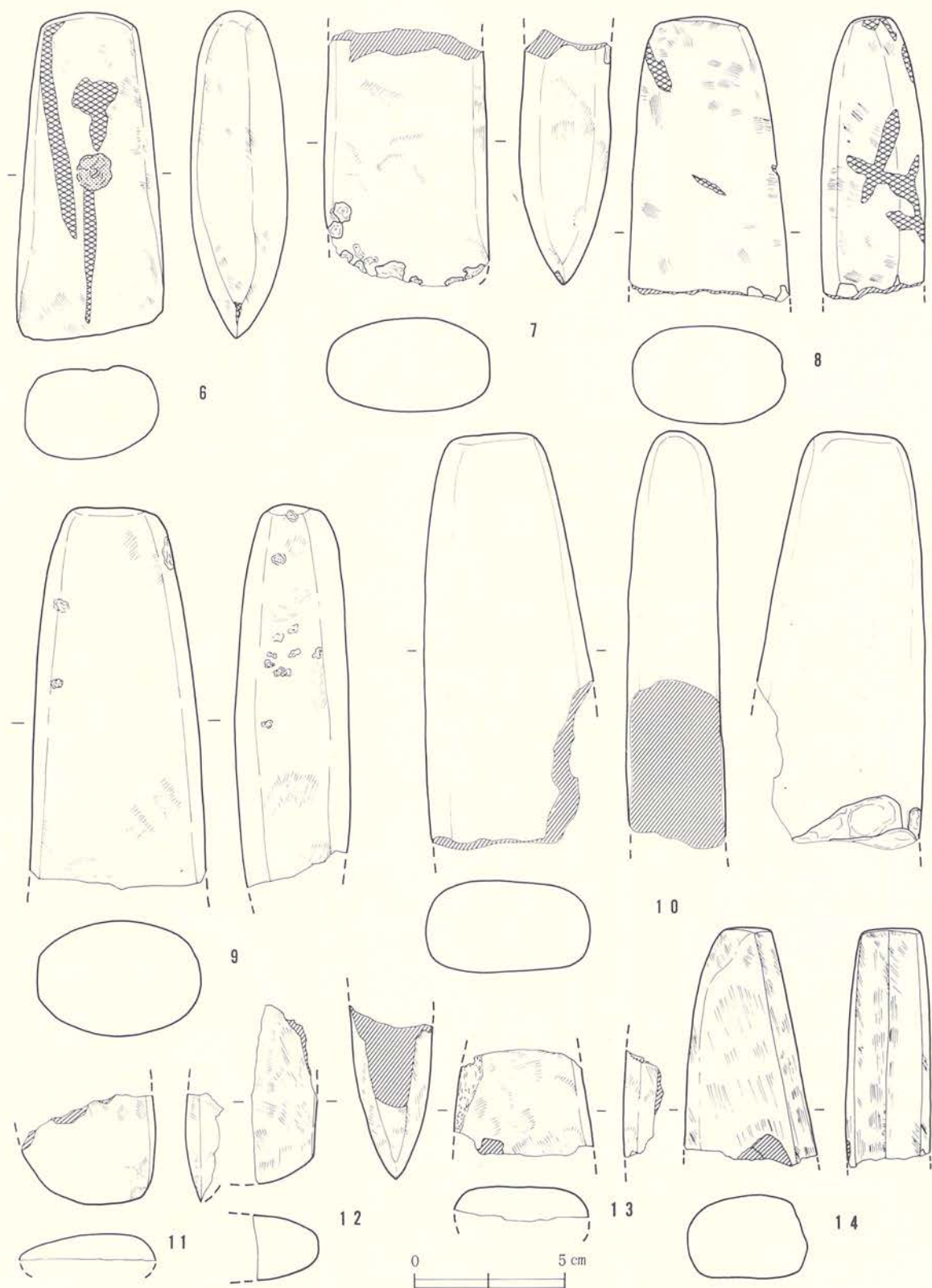
第81图 d. 石篋(3)



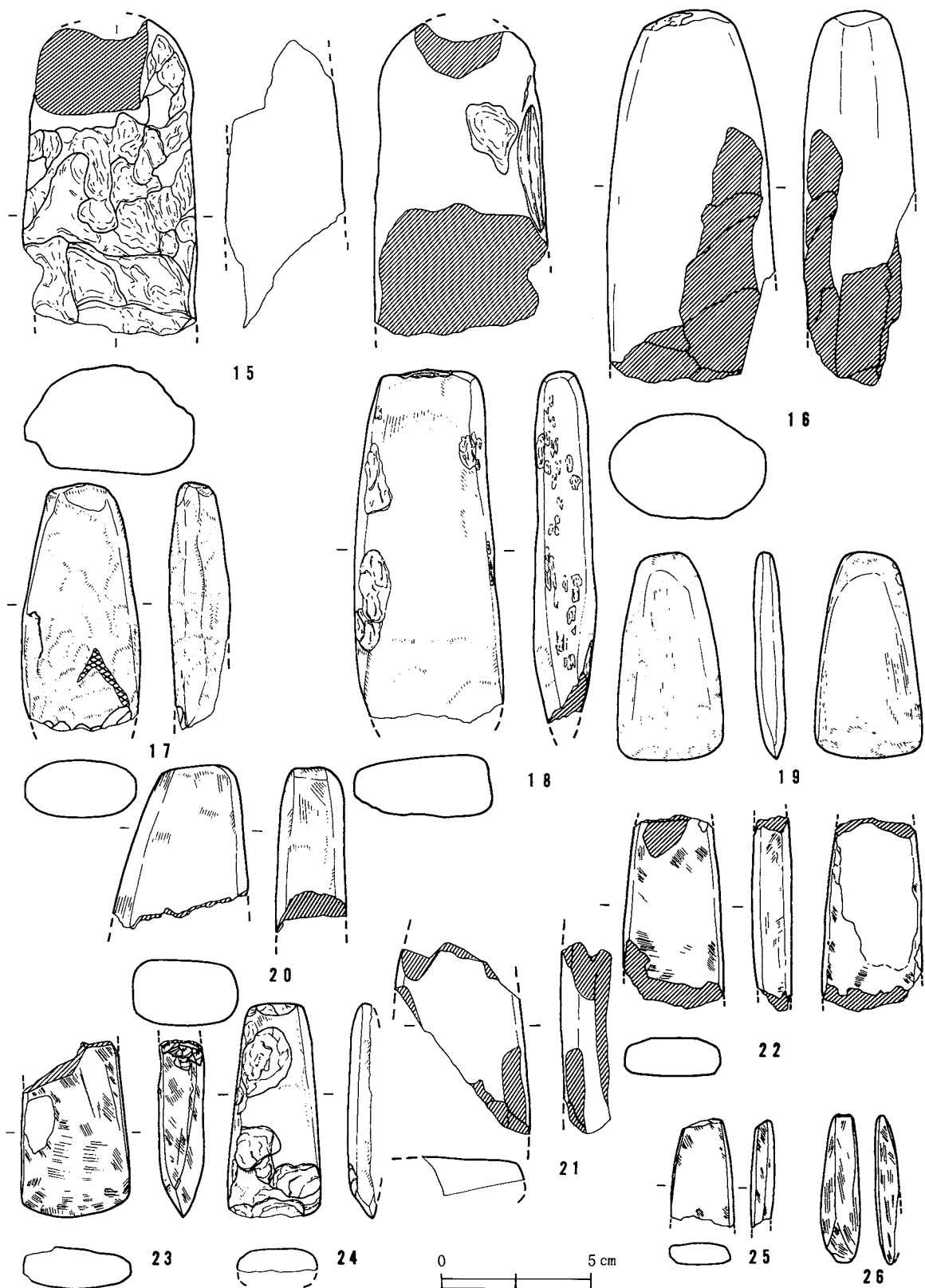
第82図 d. 石筩(4)



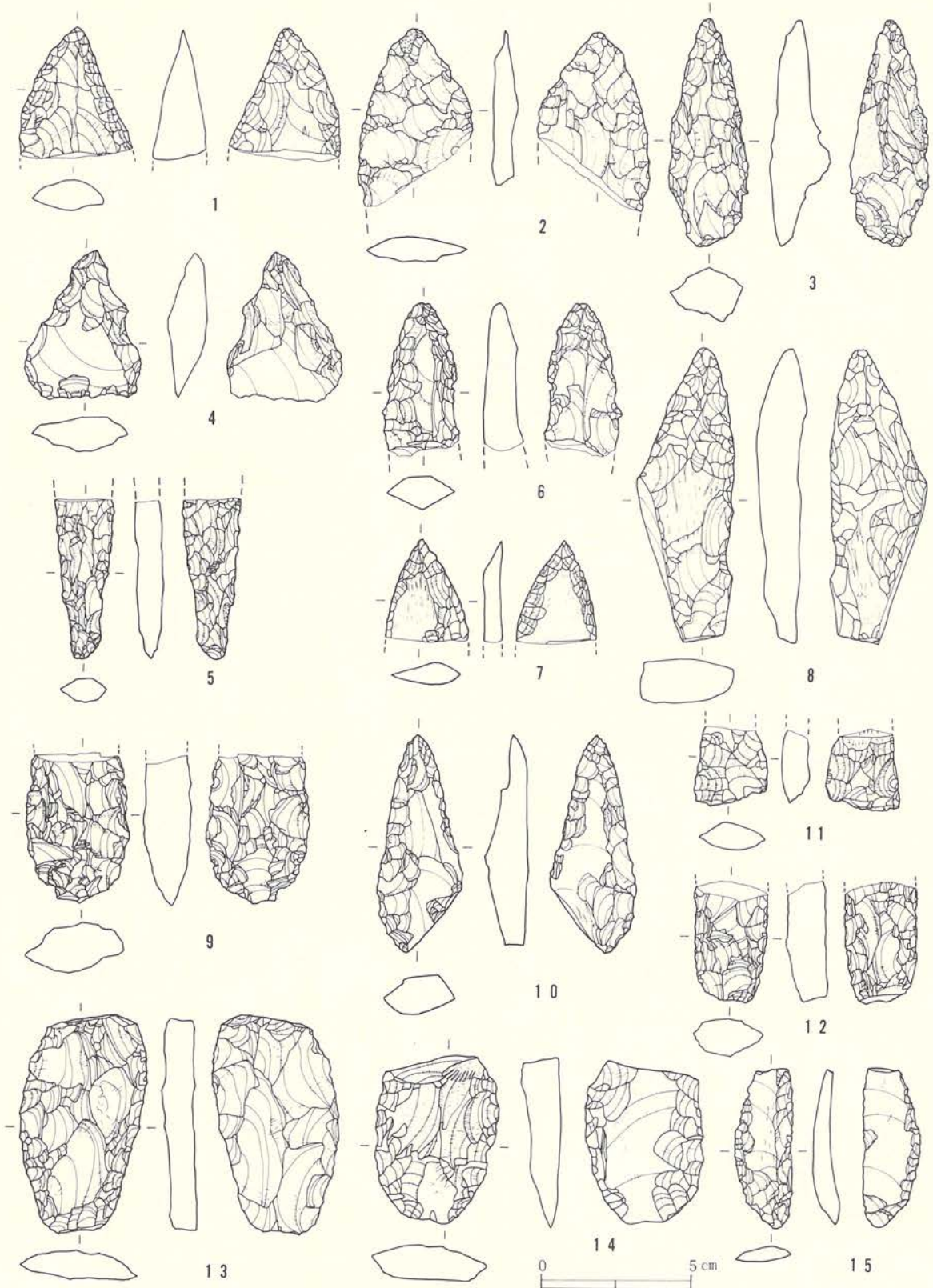
第83图 e. 石斧(I)



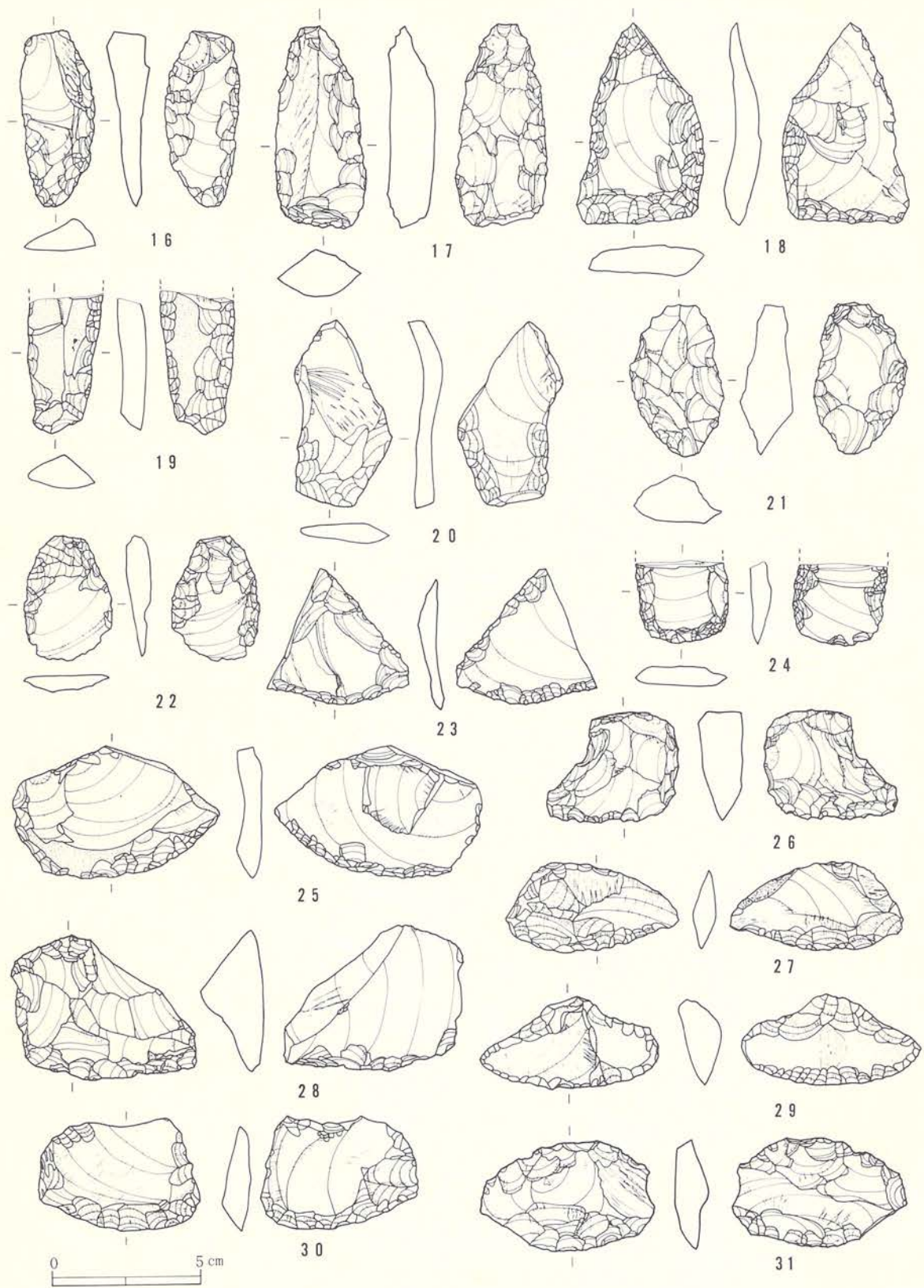
第84图 e. 石斧(2)



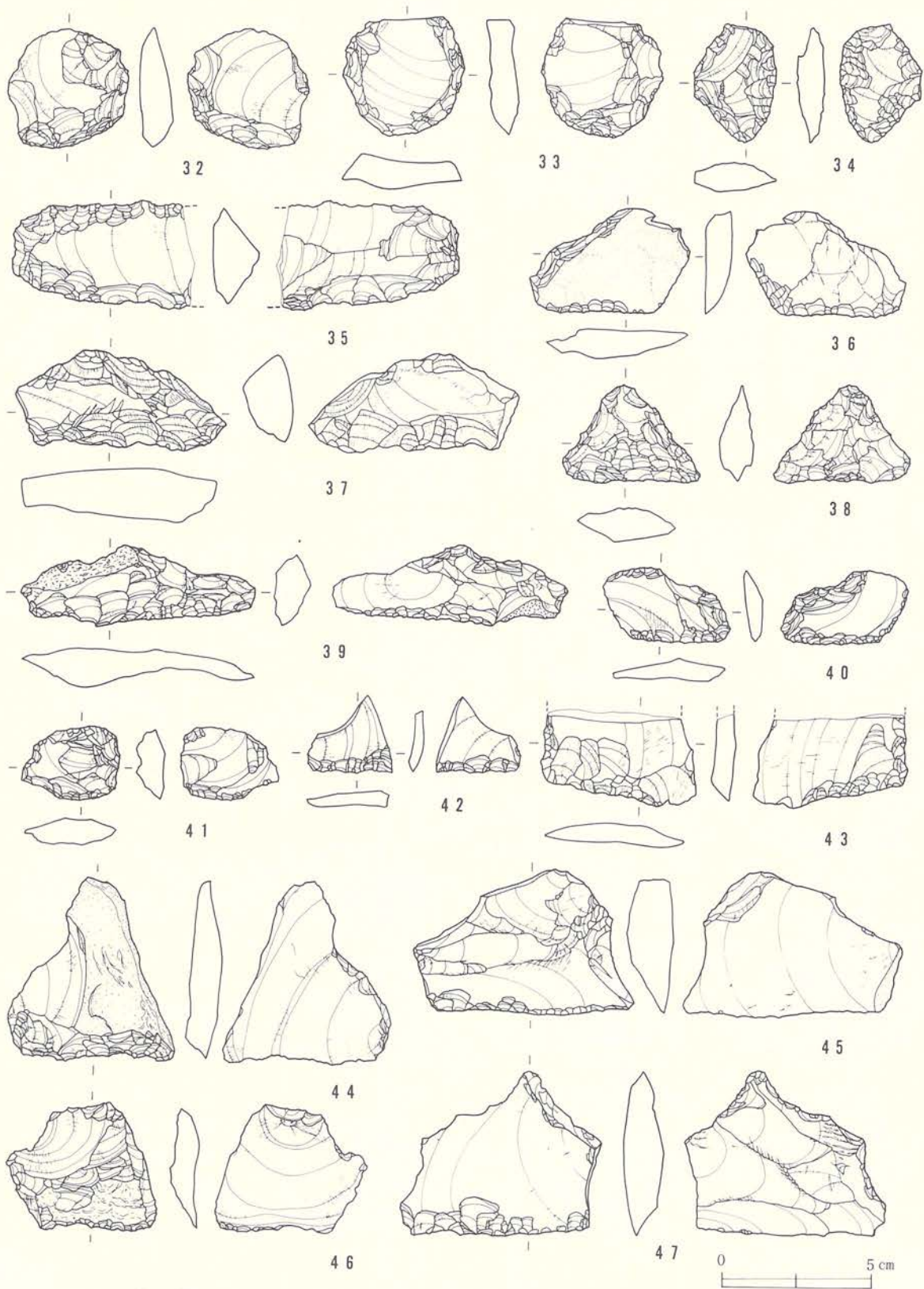
第85图 e. 石斧(3)



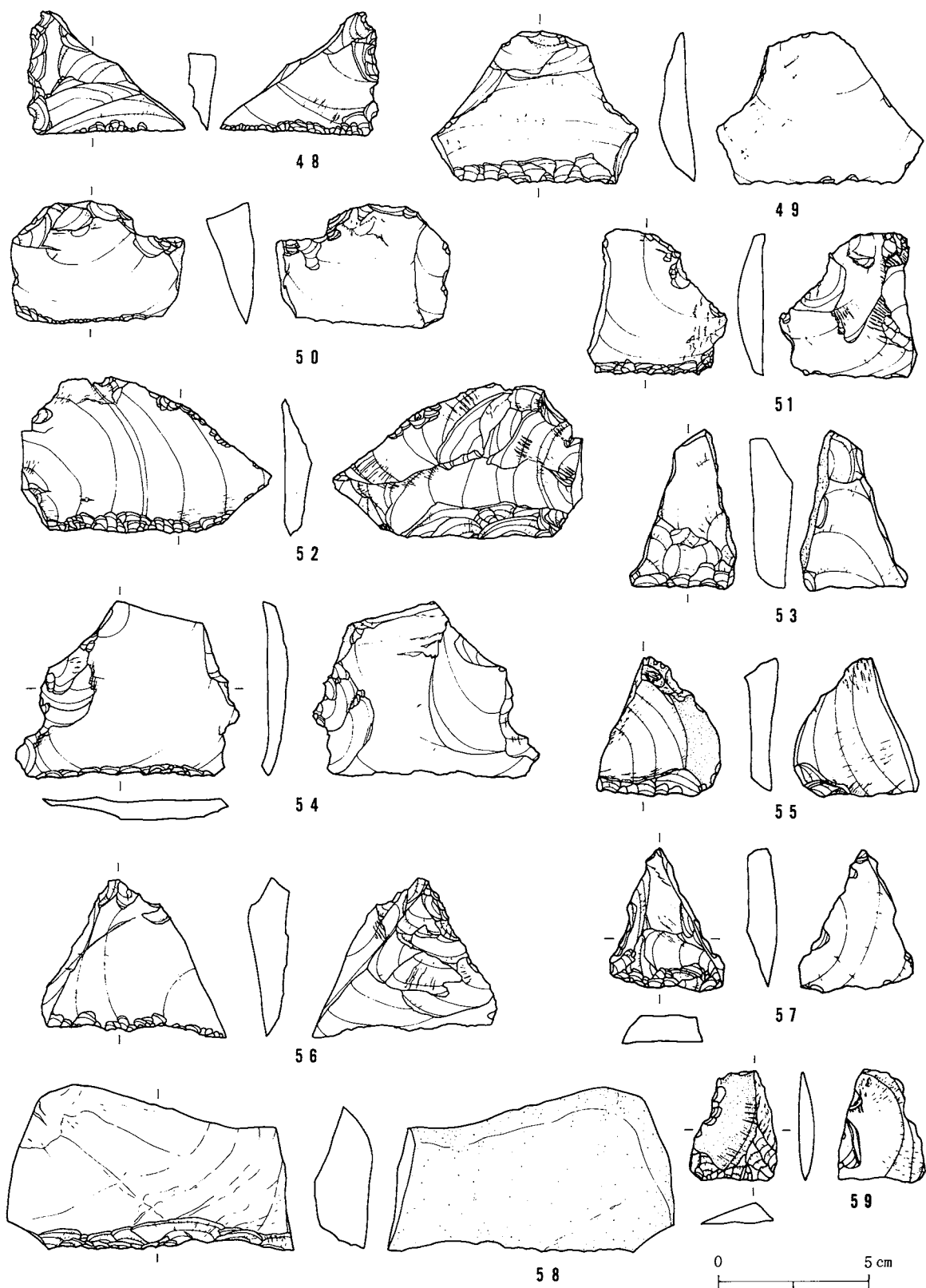
第86図 f. 削搔器(I) 1~11-A 1類、12~15-A 2類



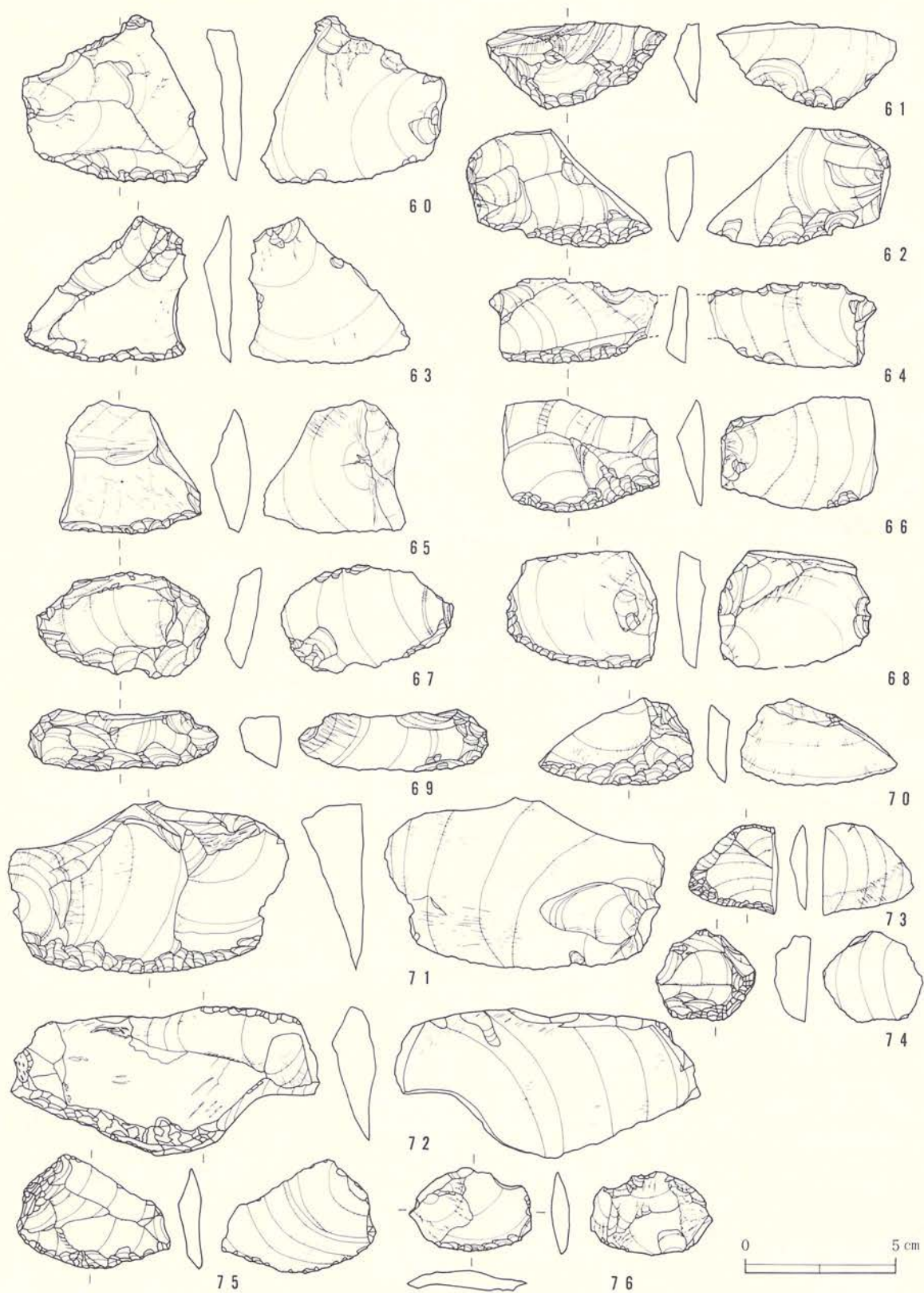
第87图 f. 削搔器(2) A 2 類



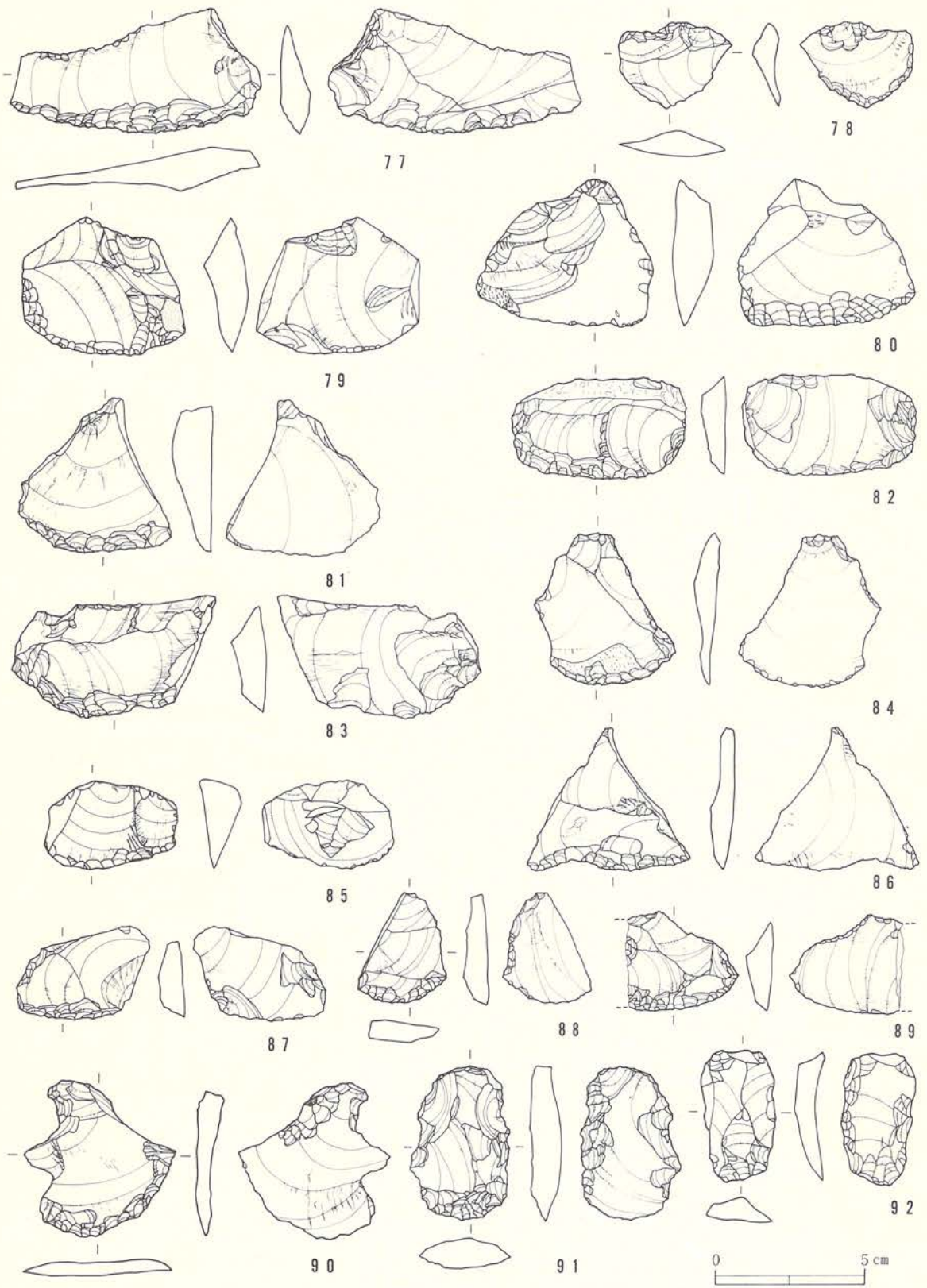
第88図 f. 削搔器(3) 32~43—A 2類、44~47—B I a類



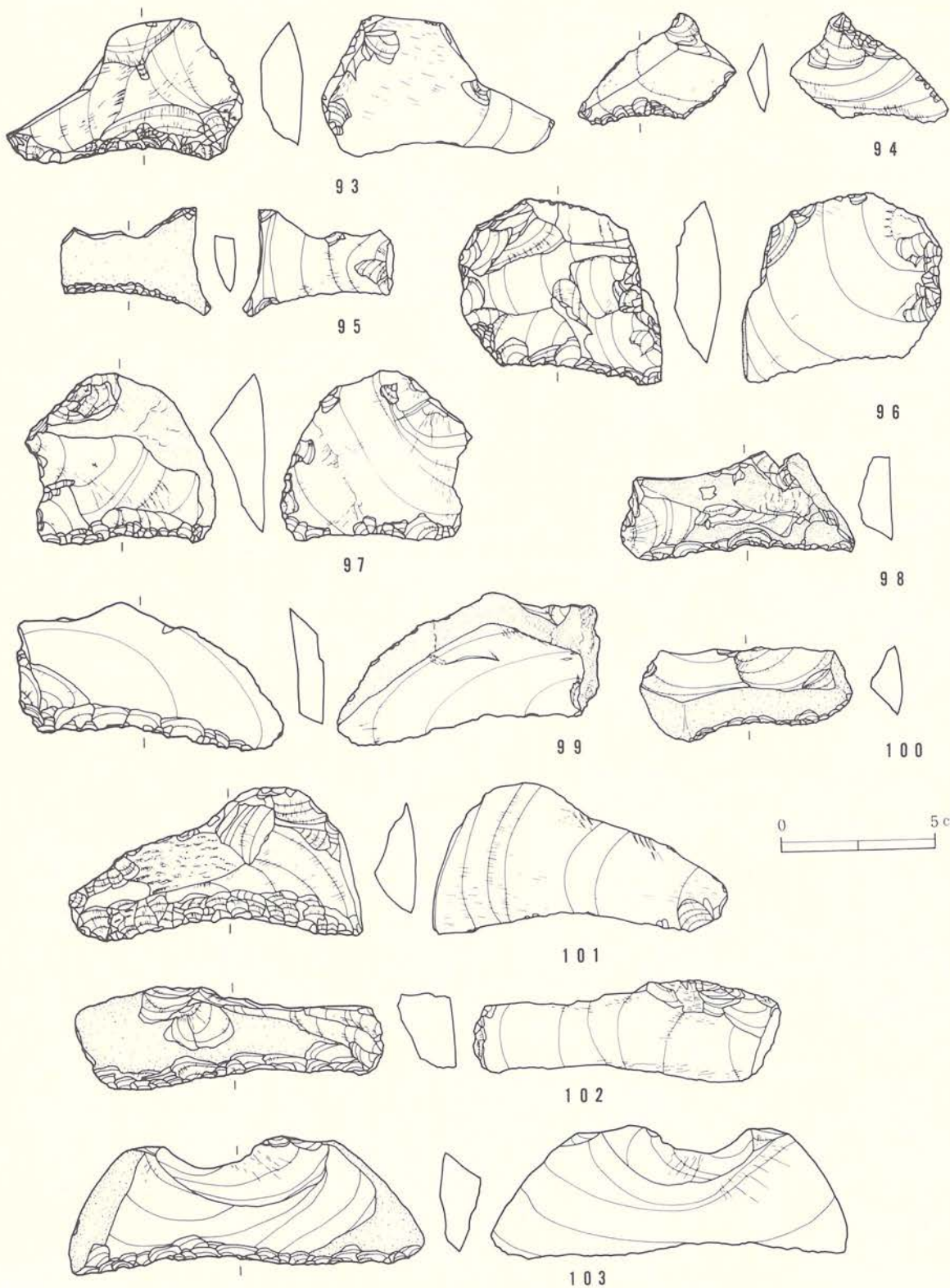
第89図 f. 削搔器(4) B I a類



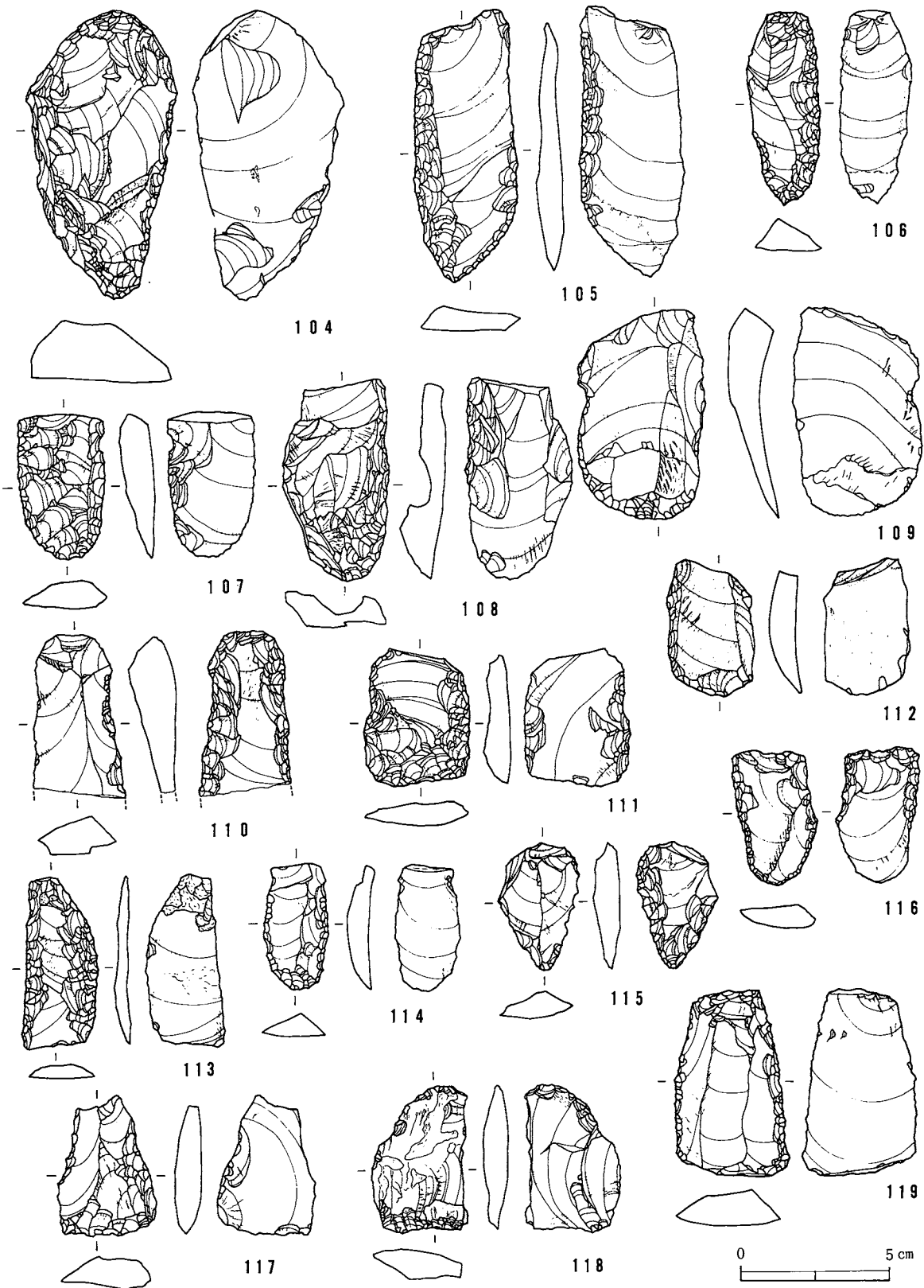
第90図 f. 削搔器(5) B I b類



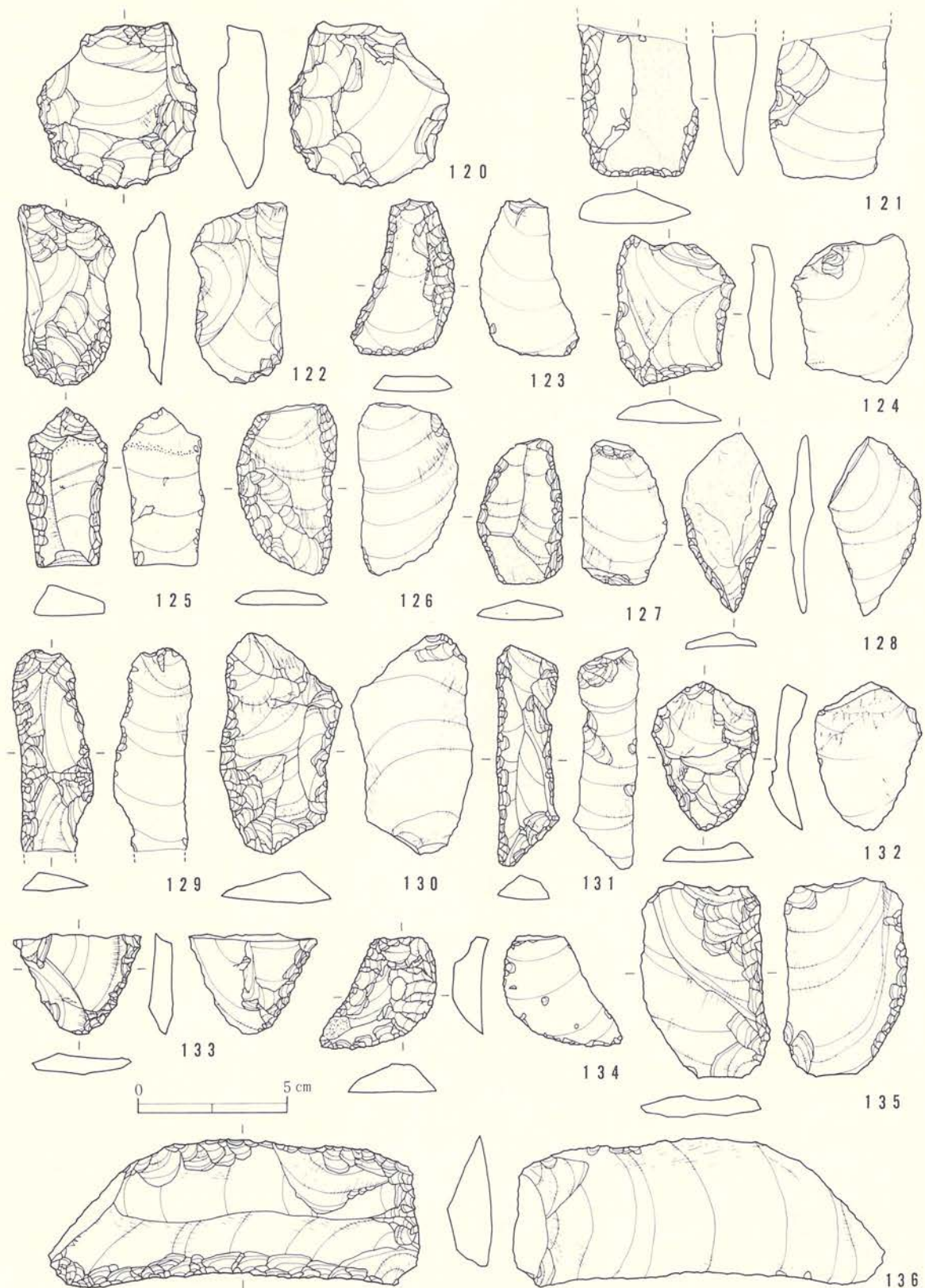
第91图 f. 削搔器(6) B I b 類



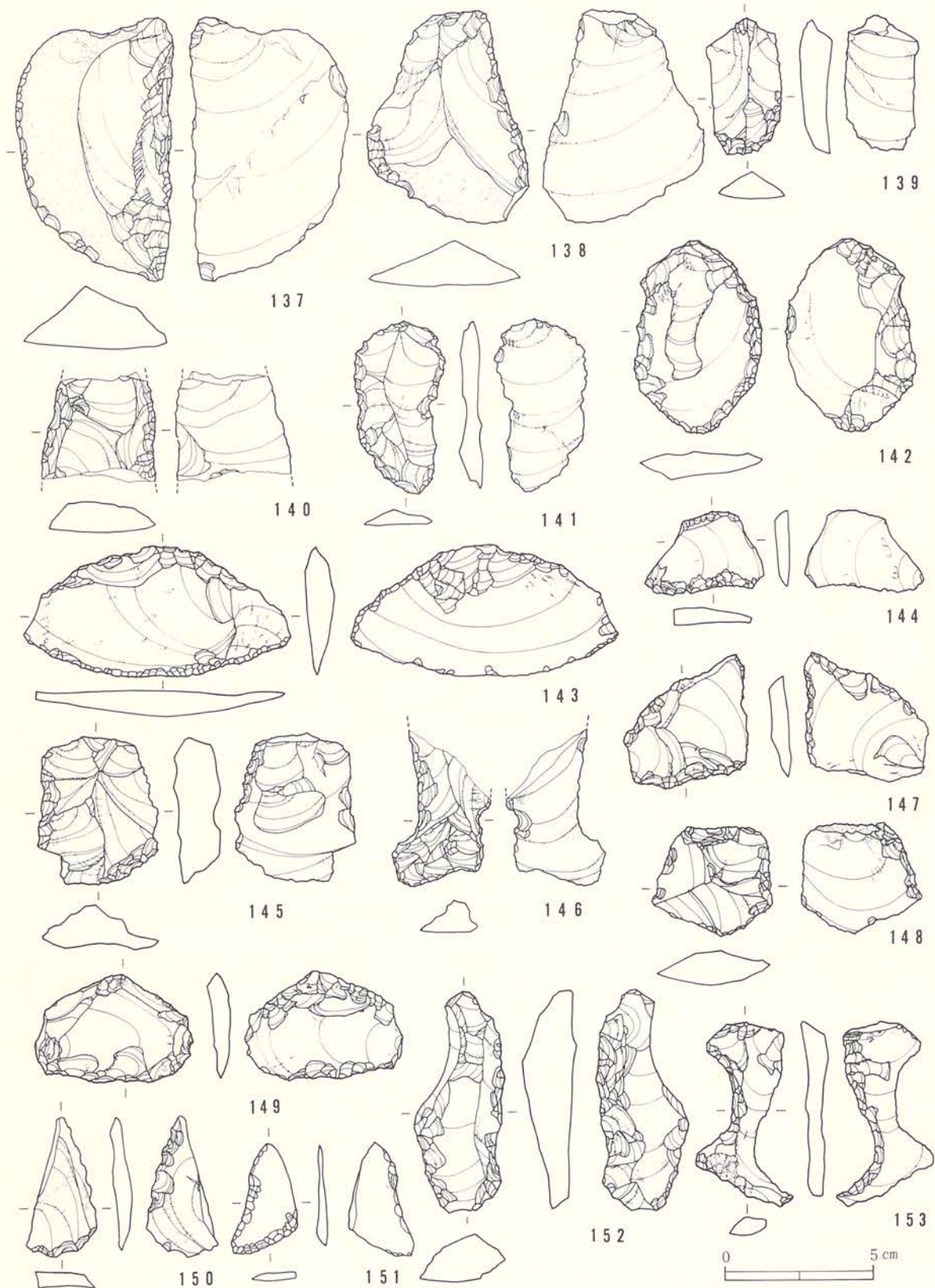
第92図 f. 削搔器(7) B I c類



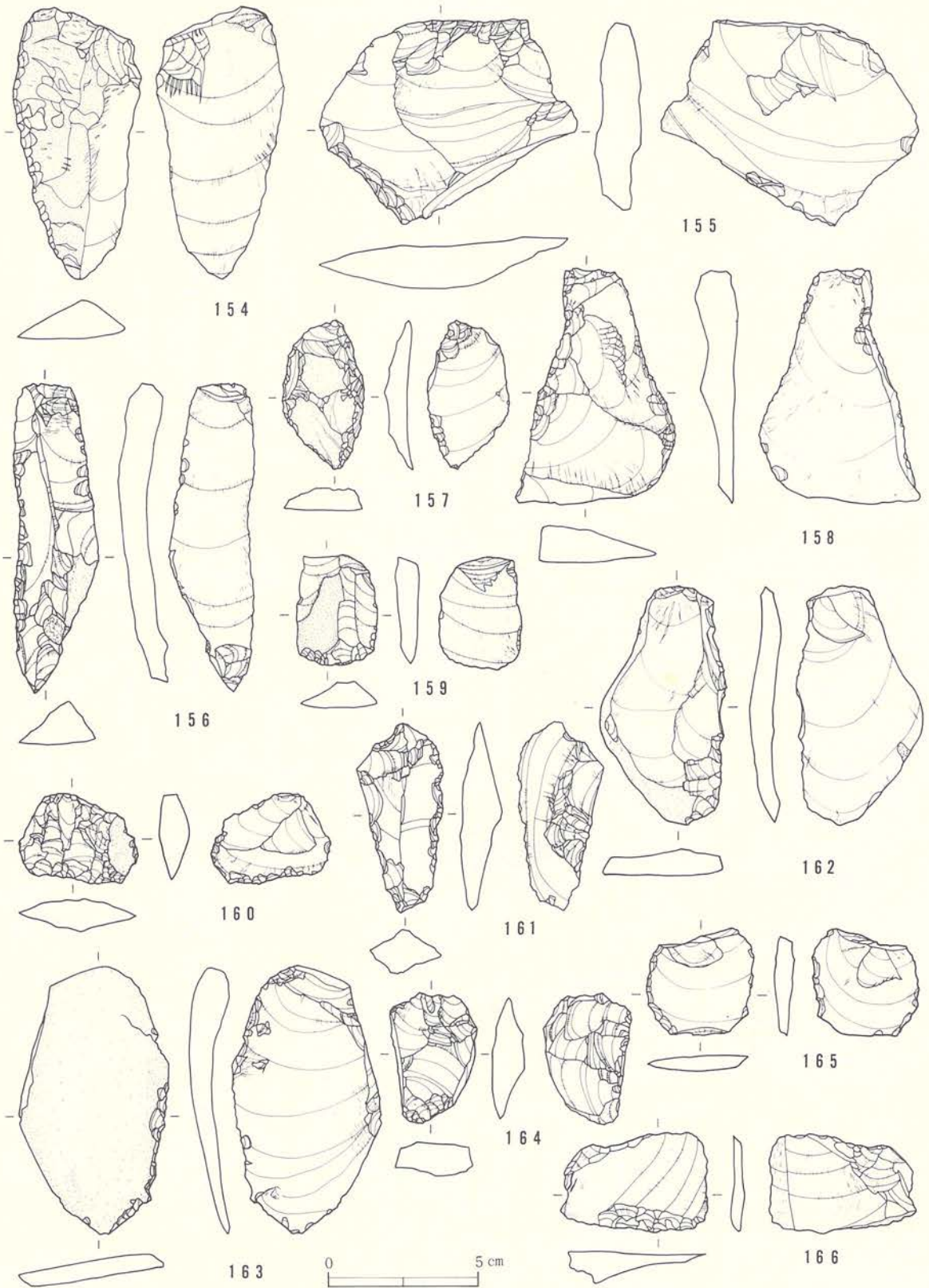
第93图 f. 削搔器(8) B 2 類



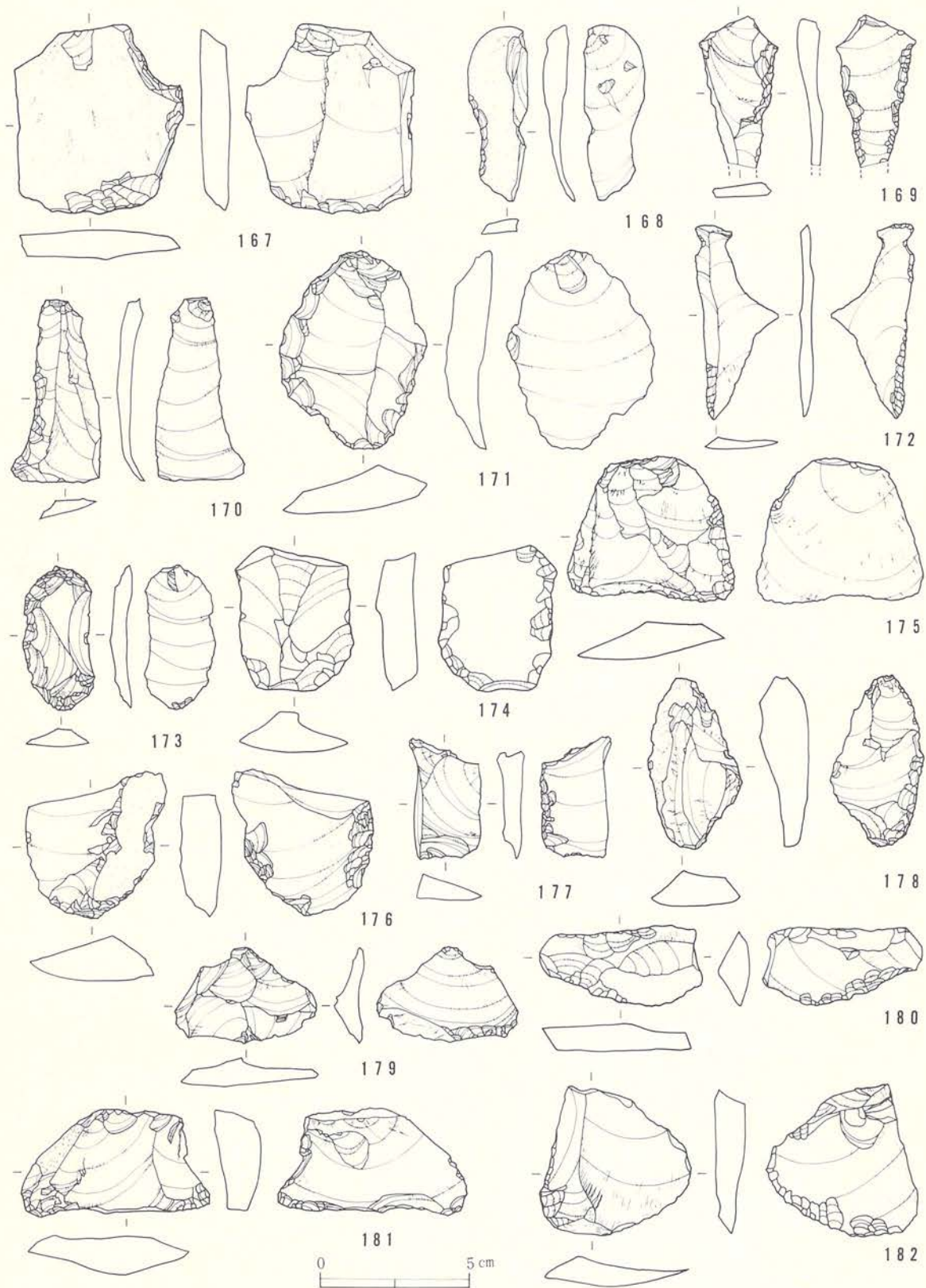
第94图 f. 削搔器(9) B 2 類



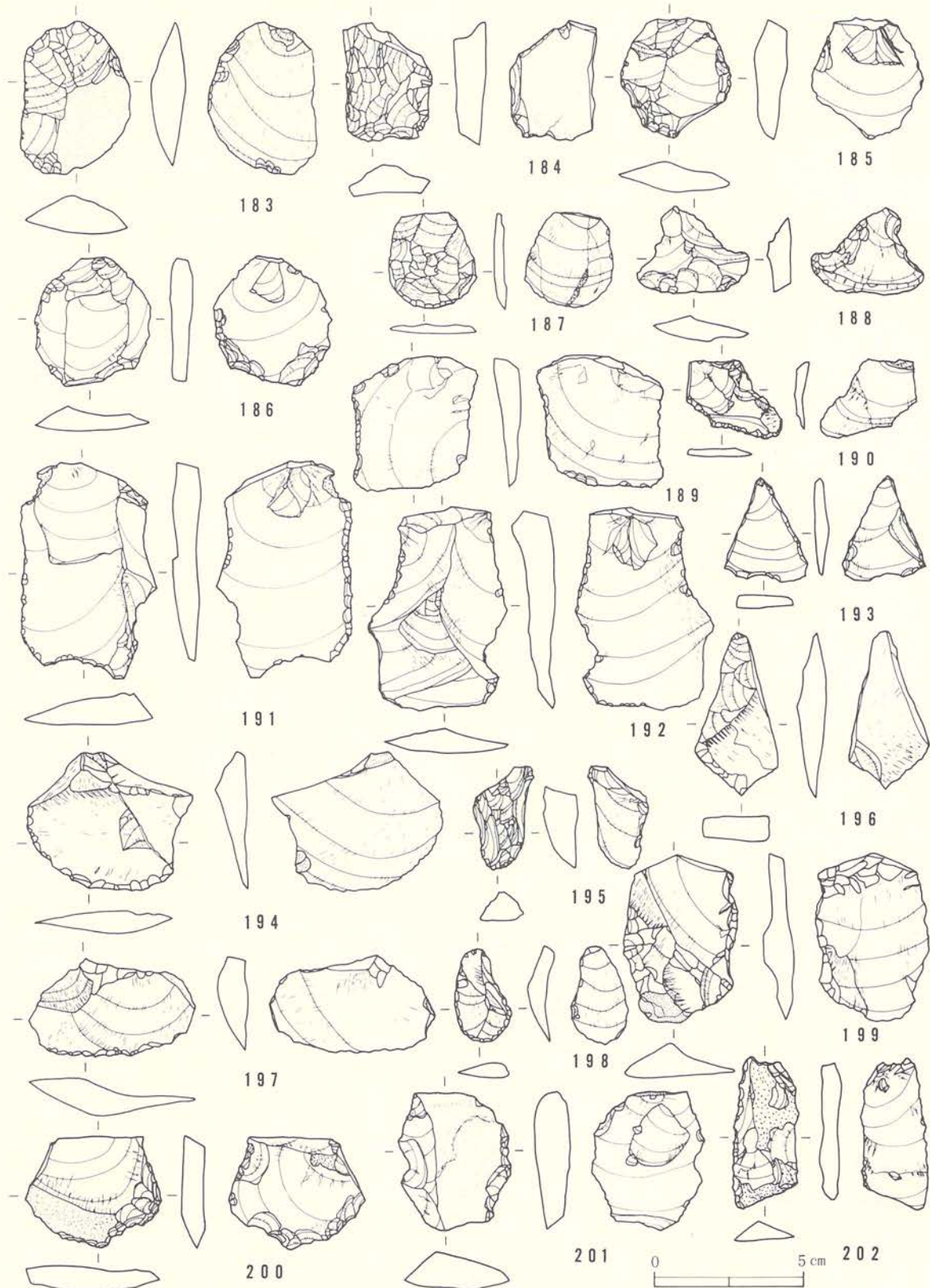
第95図 f. 削搔器(10) B 2 類



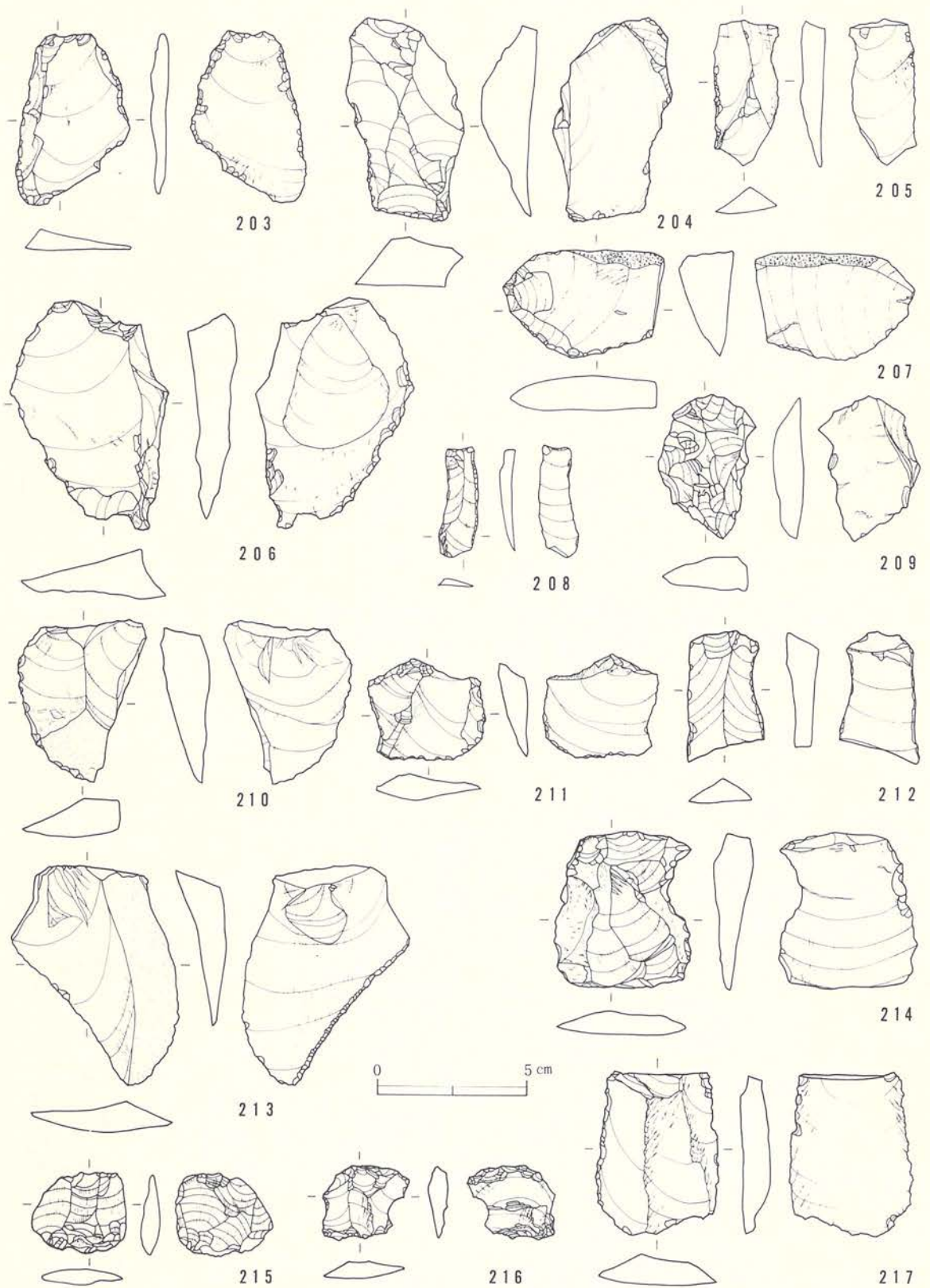
第96圖 f. 削搔器(II) C類



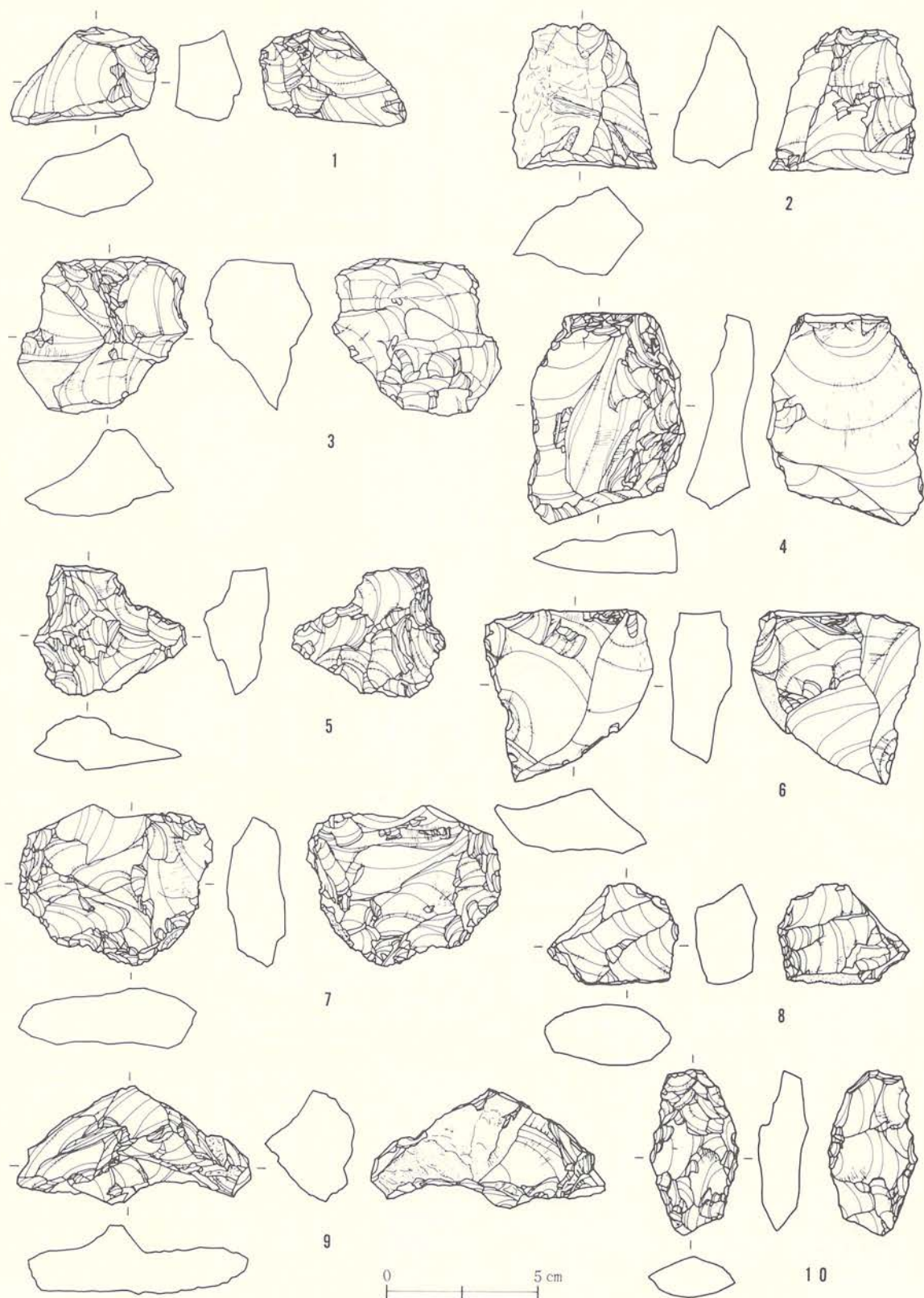
第97図 f. 削搔器(12) C類



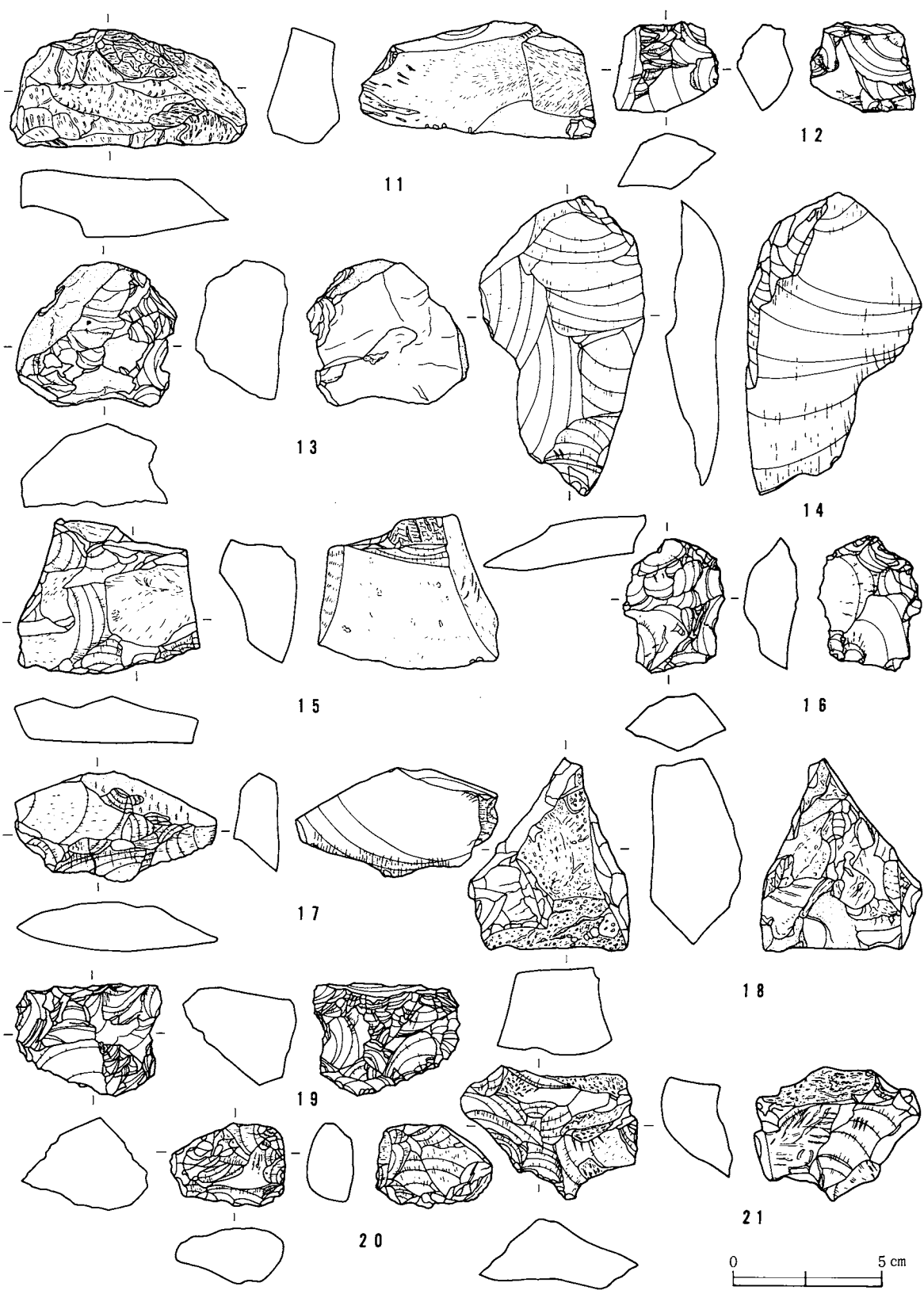
第98图 f. 削搔器(13) C類



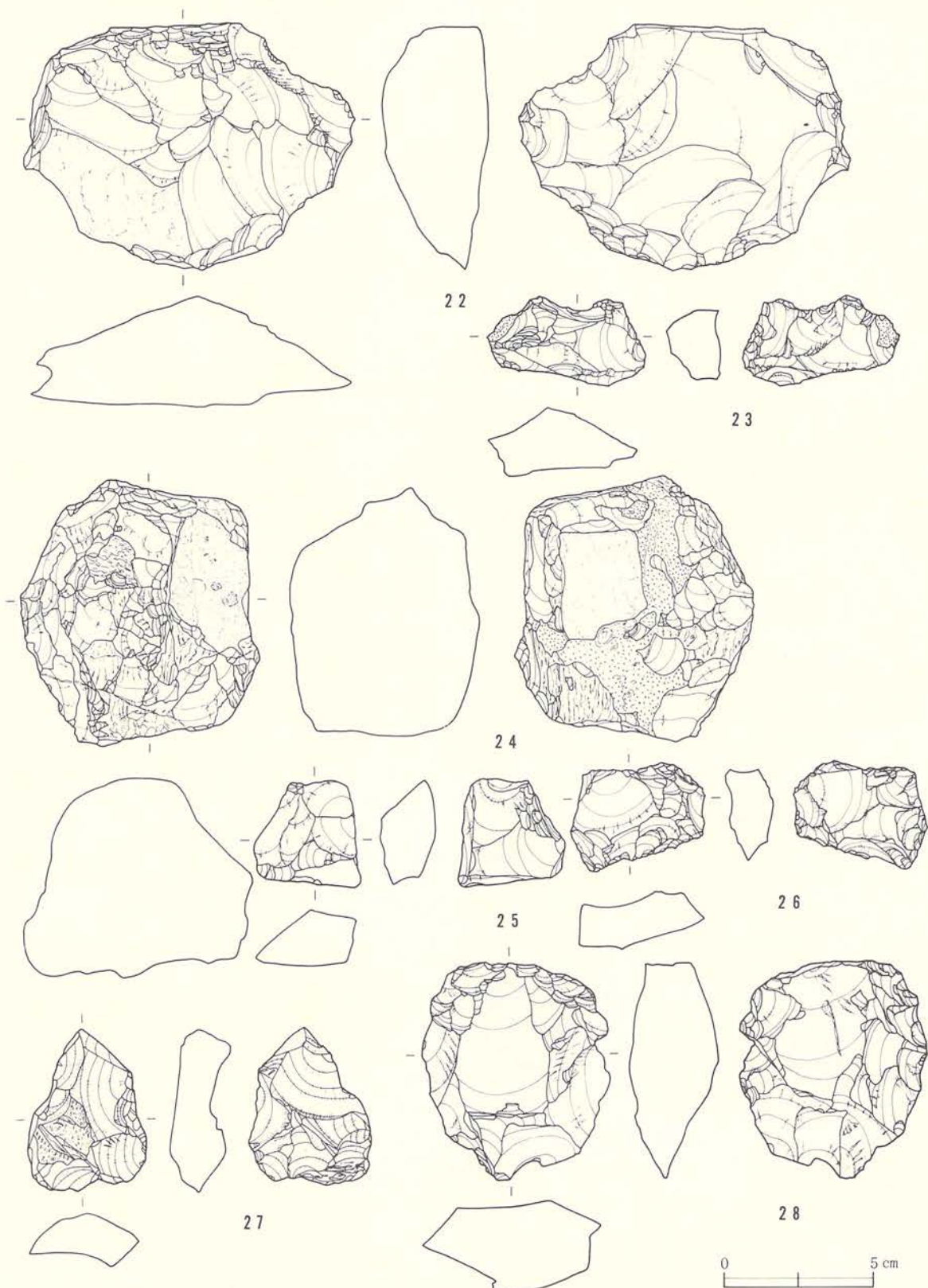
第99图 f. 削搔器(14) C类



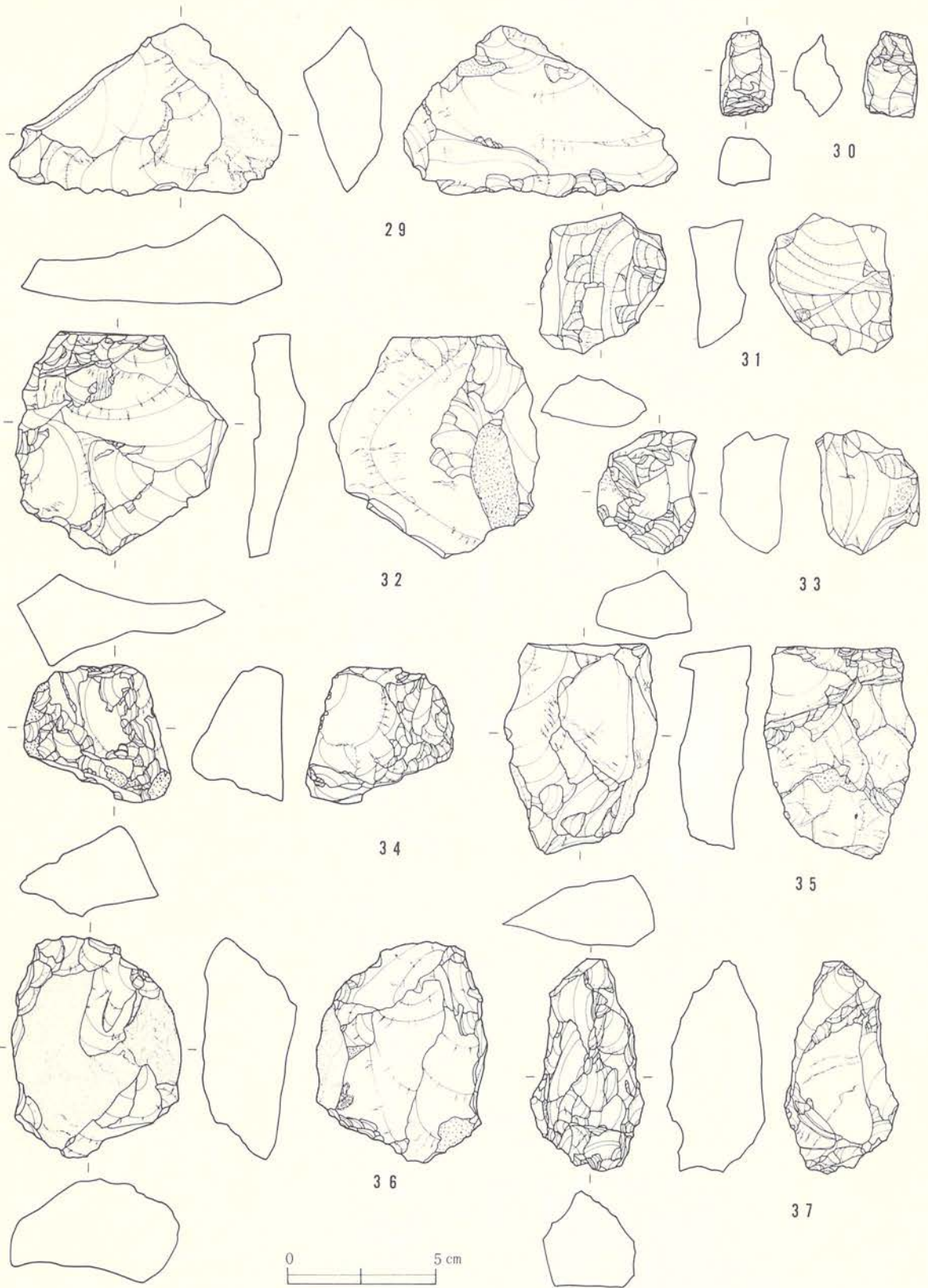
第100图 g. 残核(I)



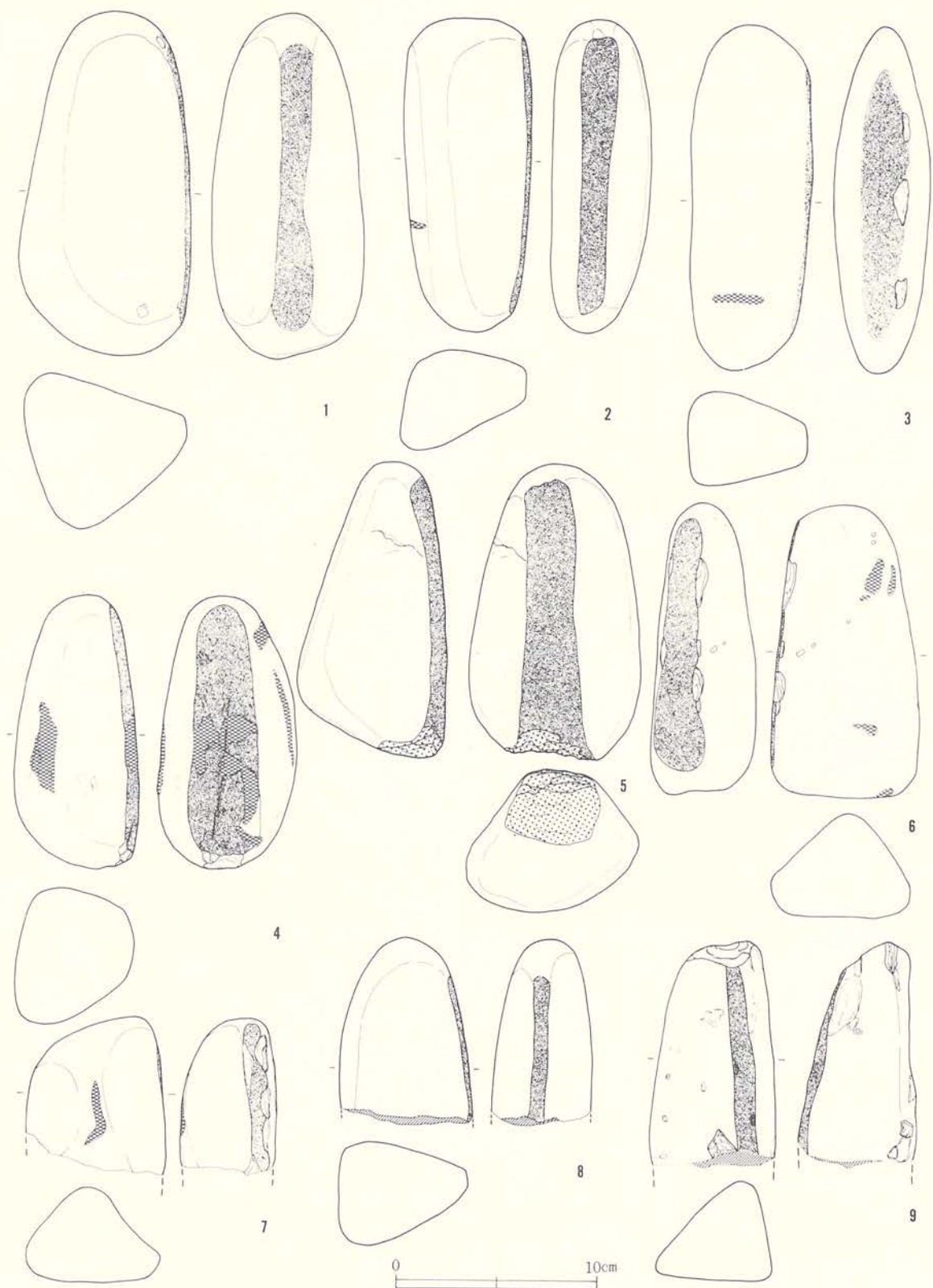
第101图 g. 残核(2)



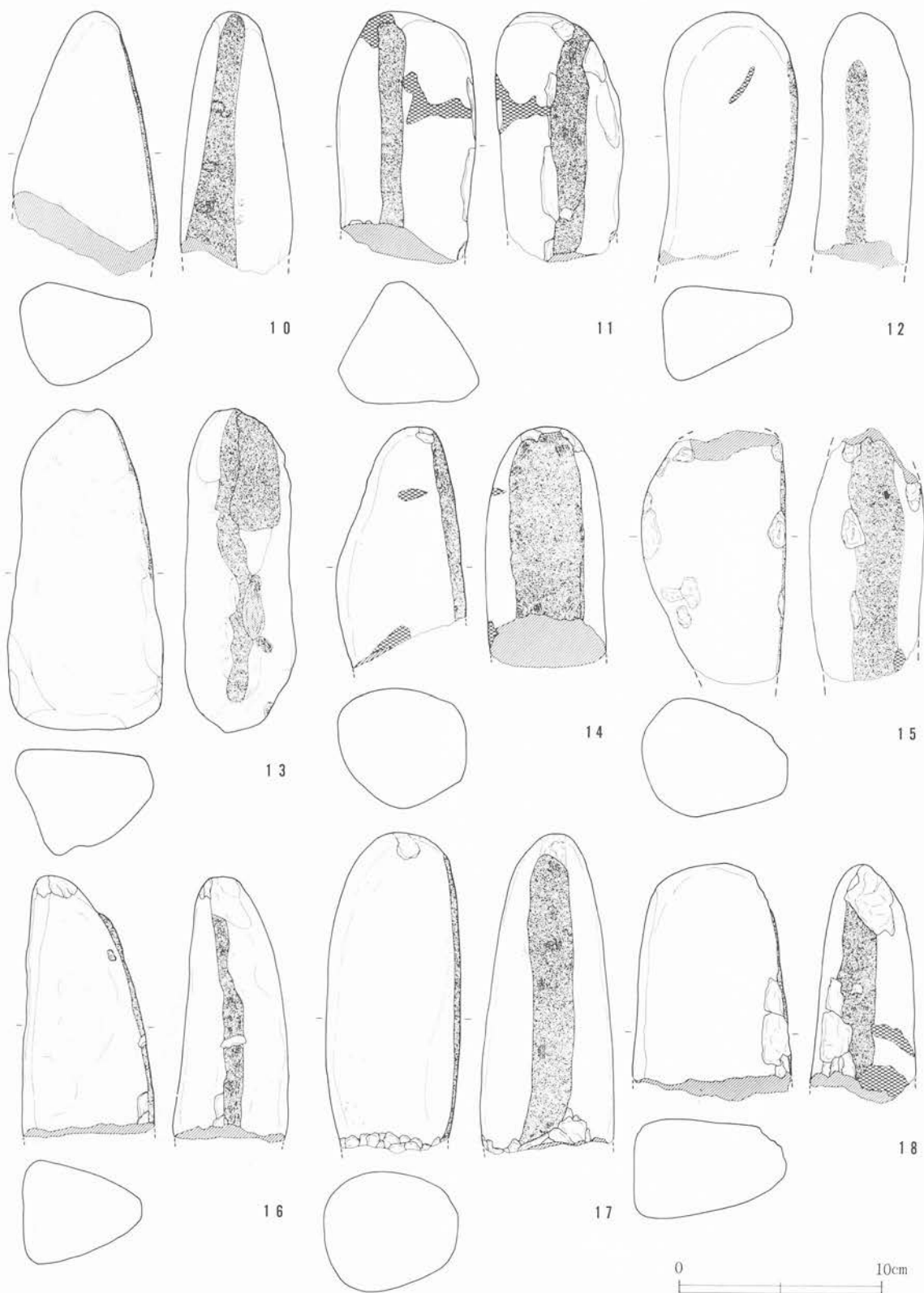
第102図 g. 残核(3)



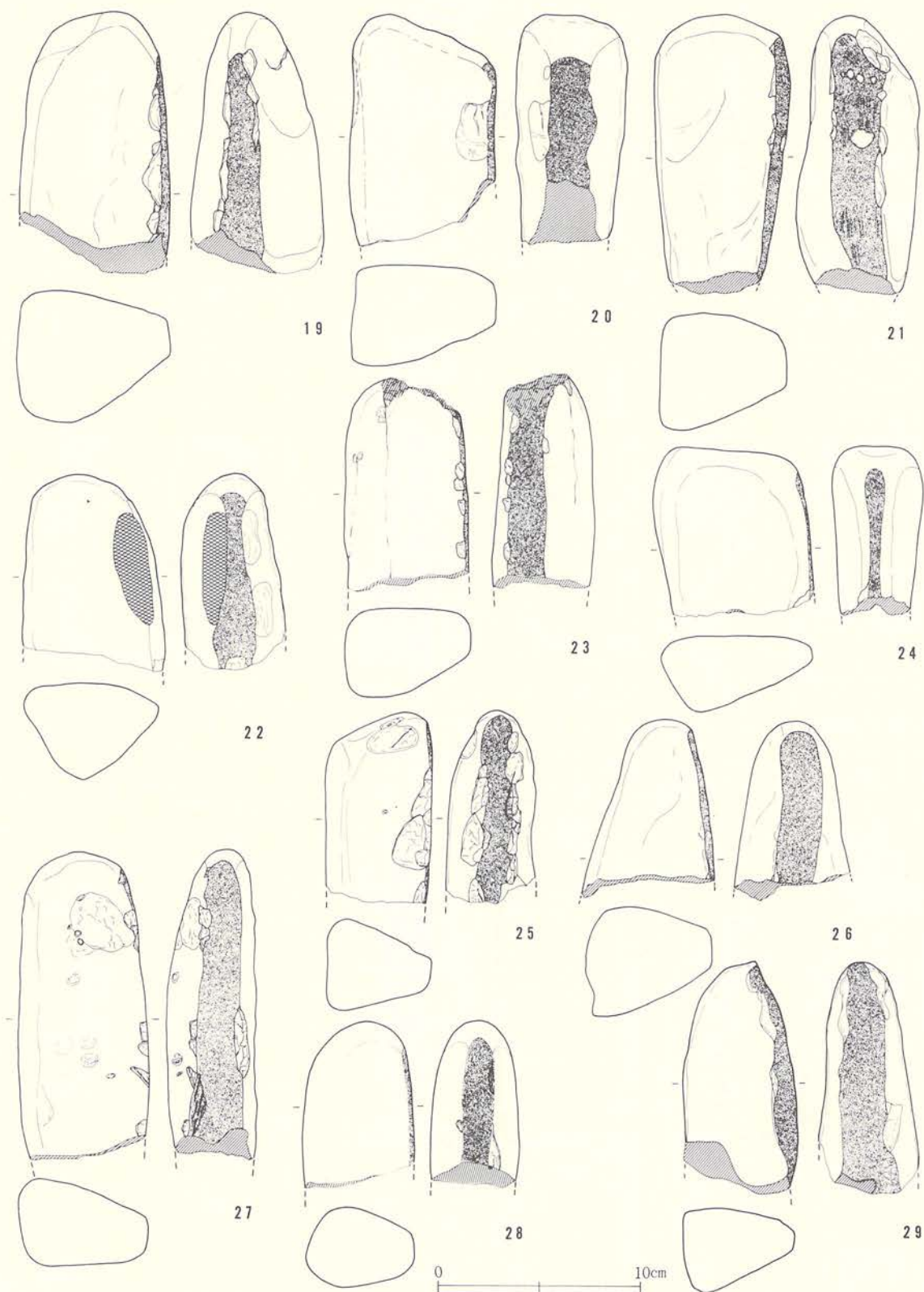
第103图 g. 残核(4)



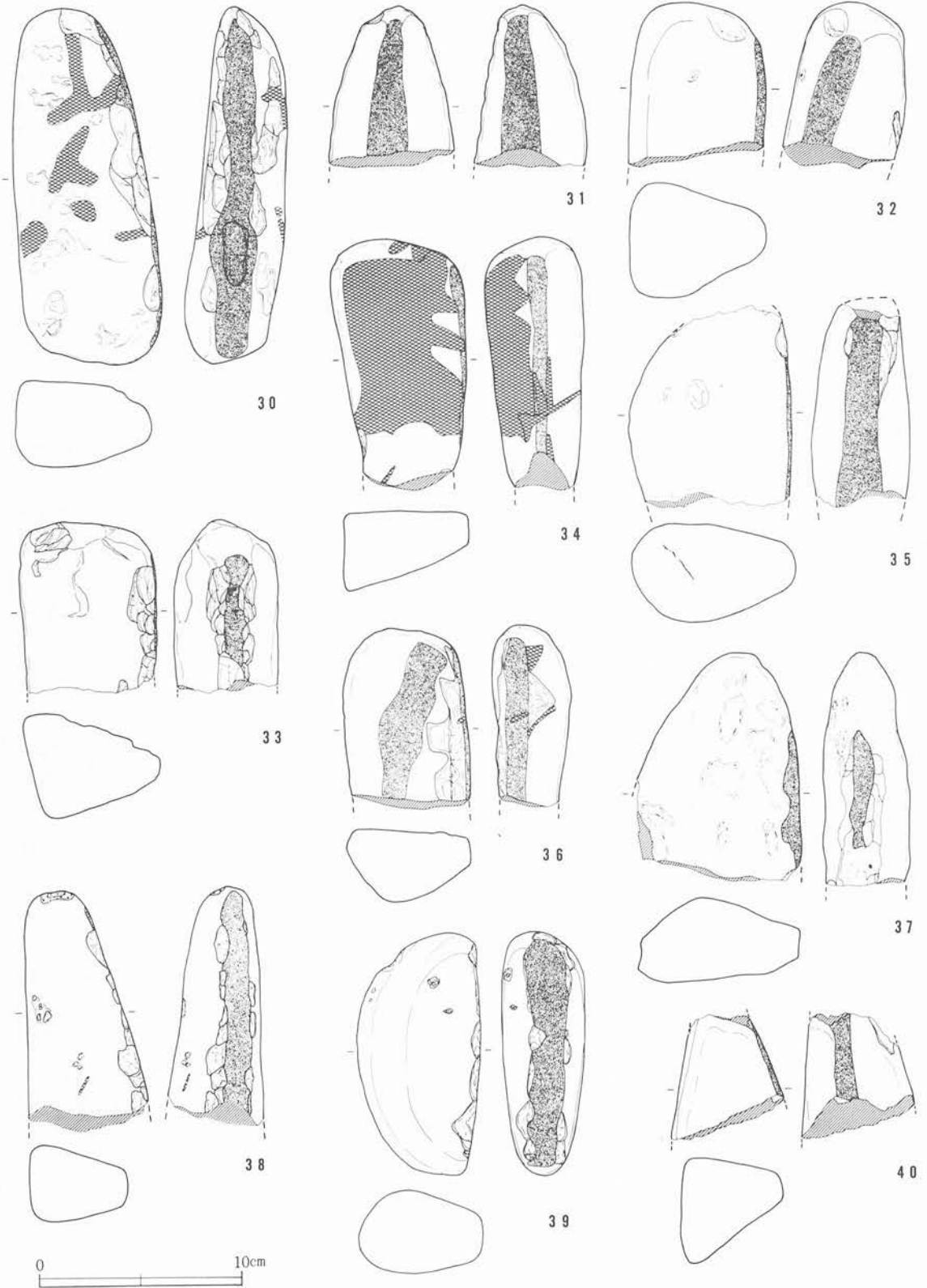
第104図 h. 磨石(I)



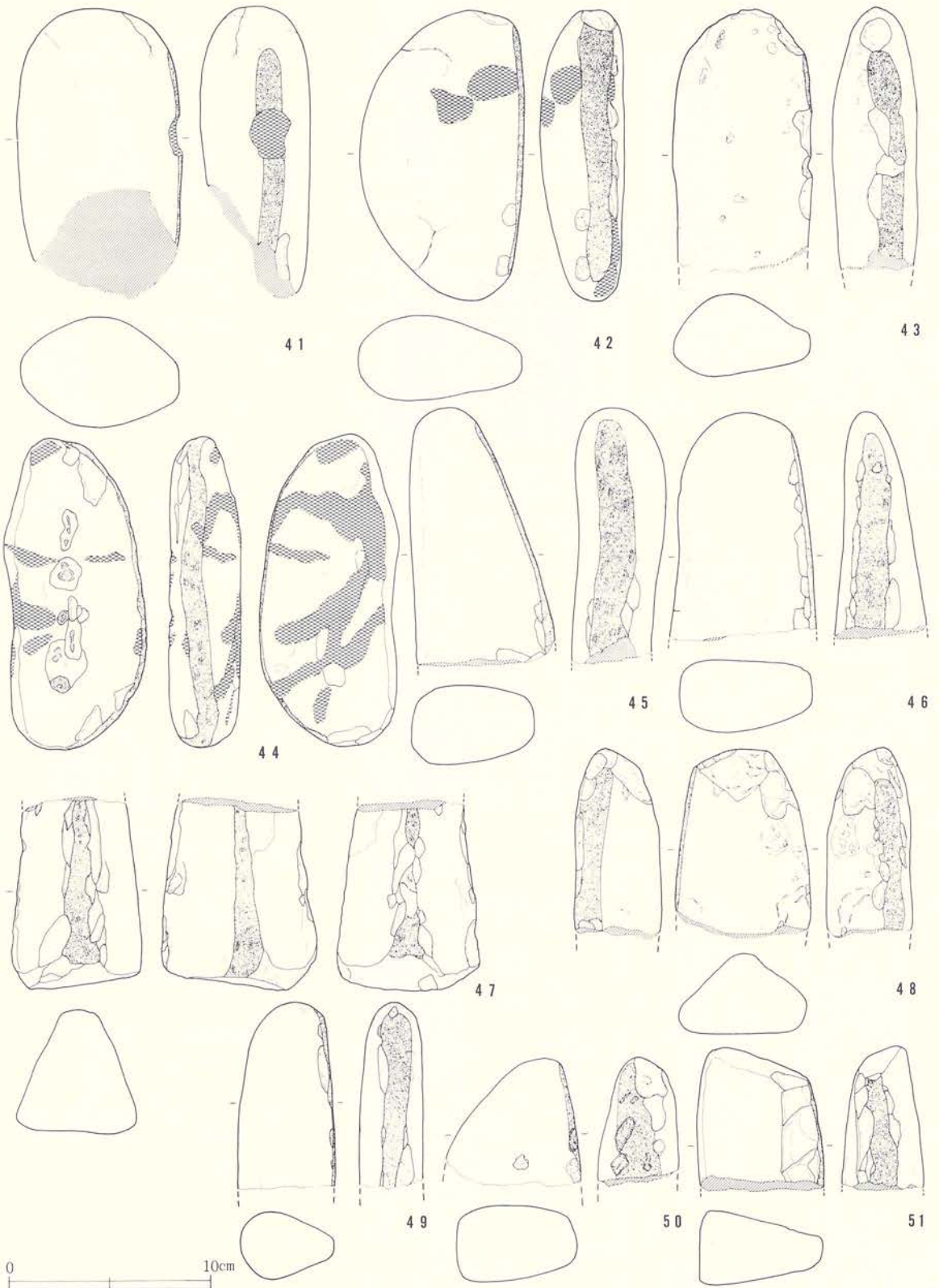
第105図 h. 磨石(2)



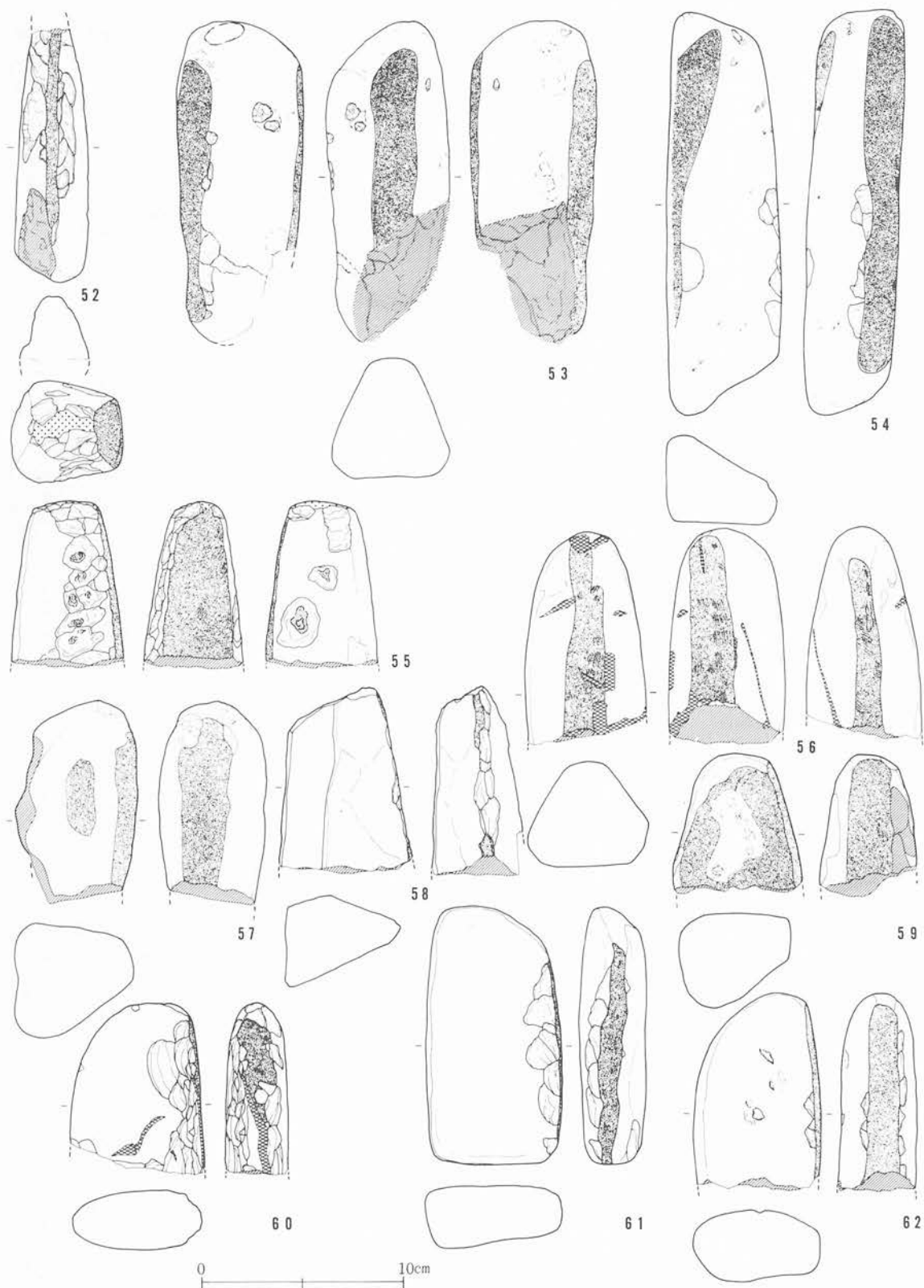
第106図 h. 磨石(3)



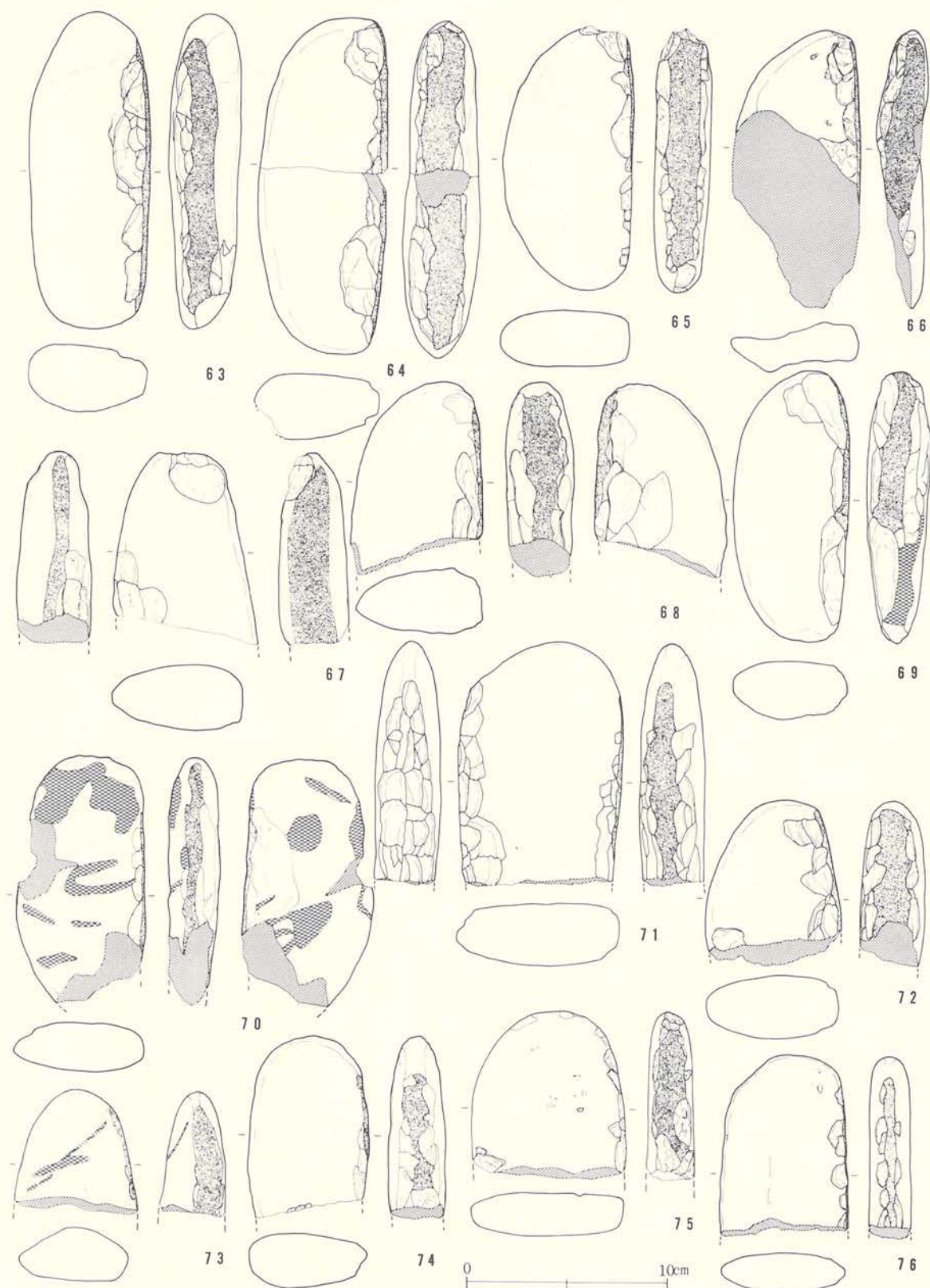
第107图 h. 磨石(4)



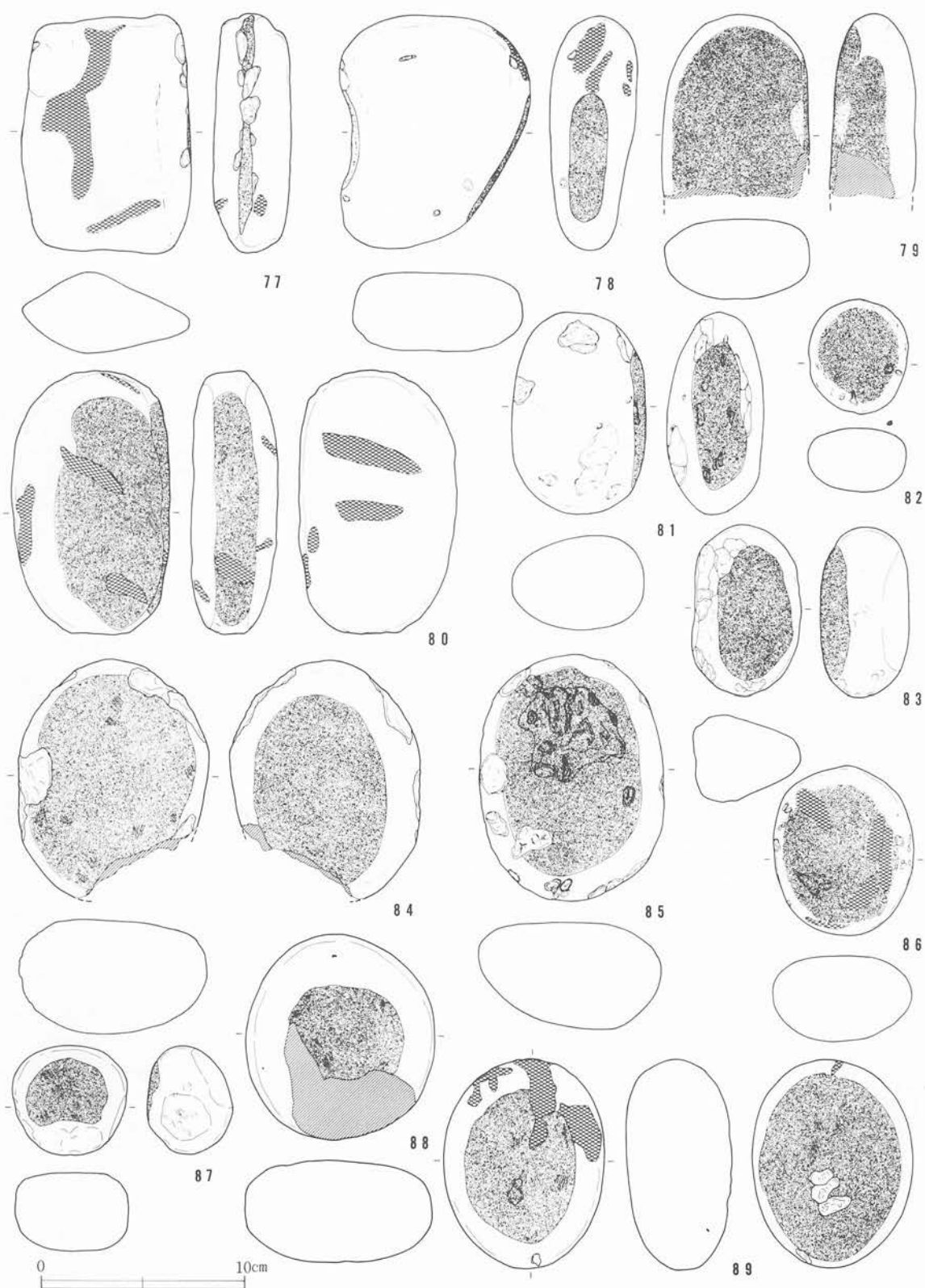
第108図 h. 磨石(5)



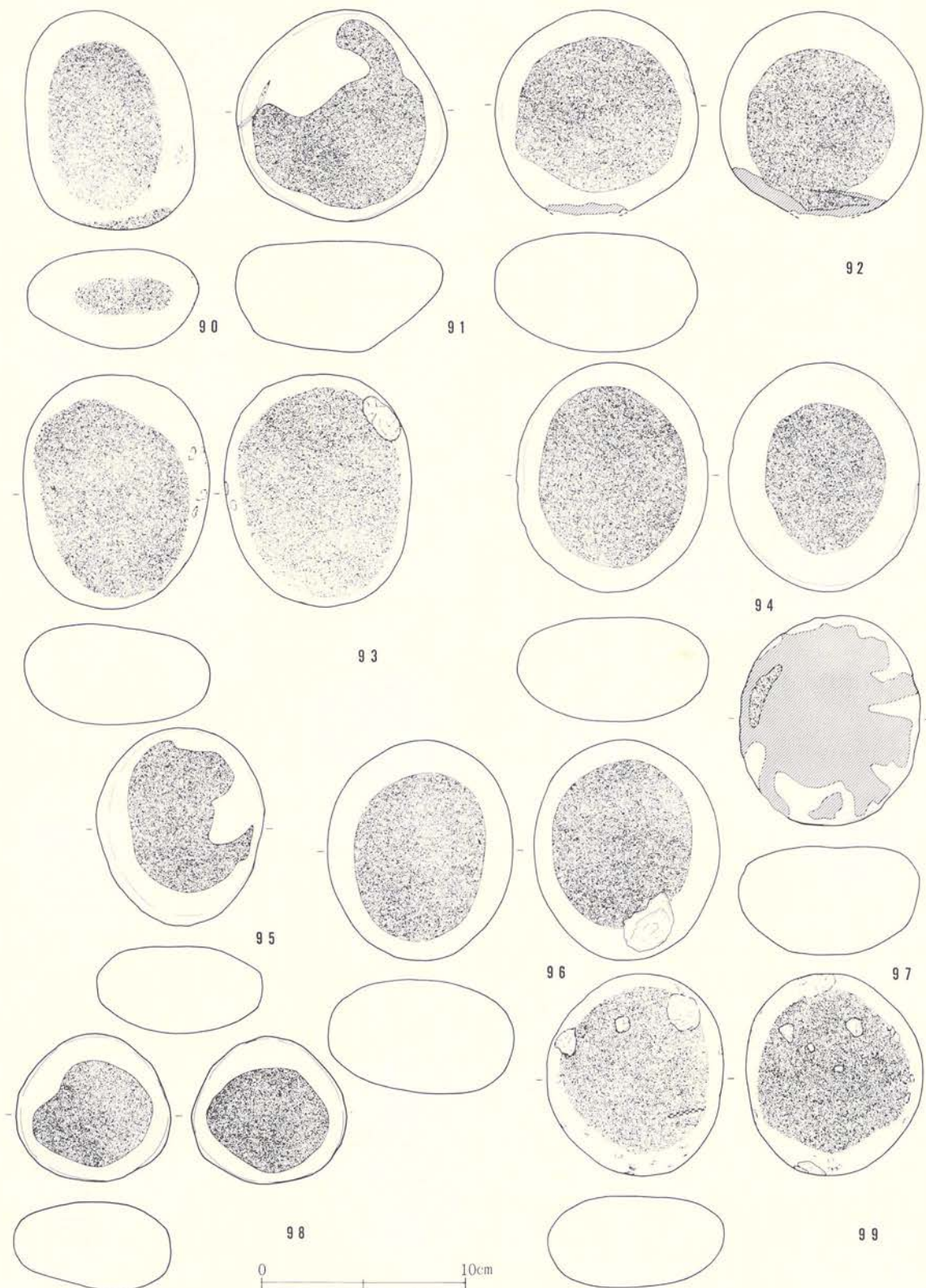
第109图 h. 磨石(6)



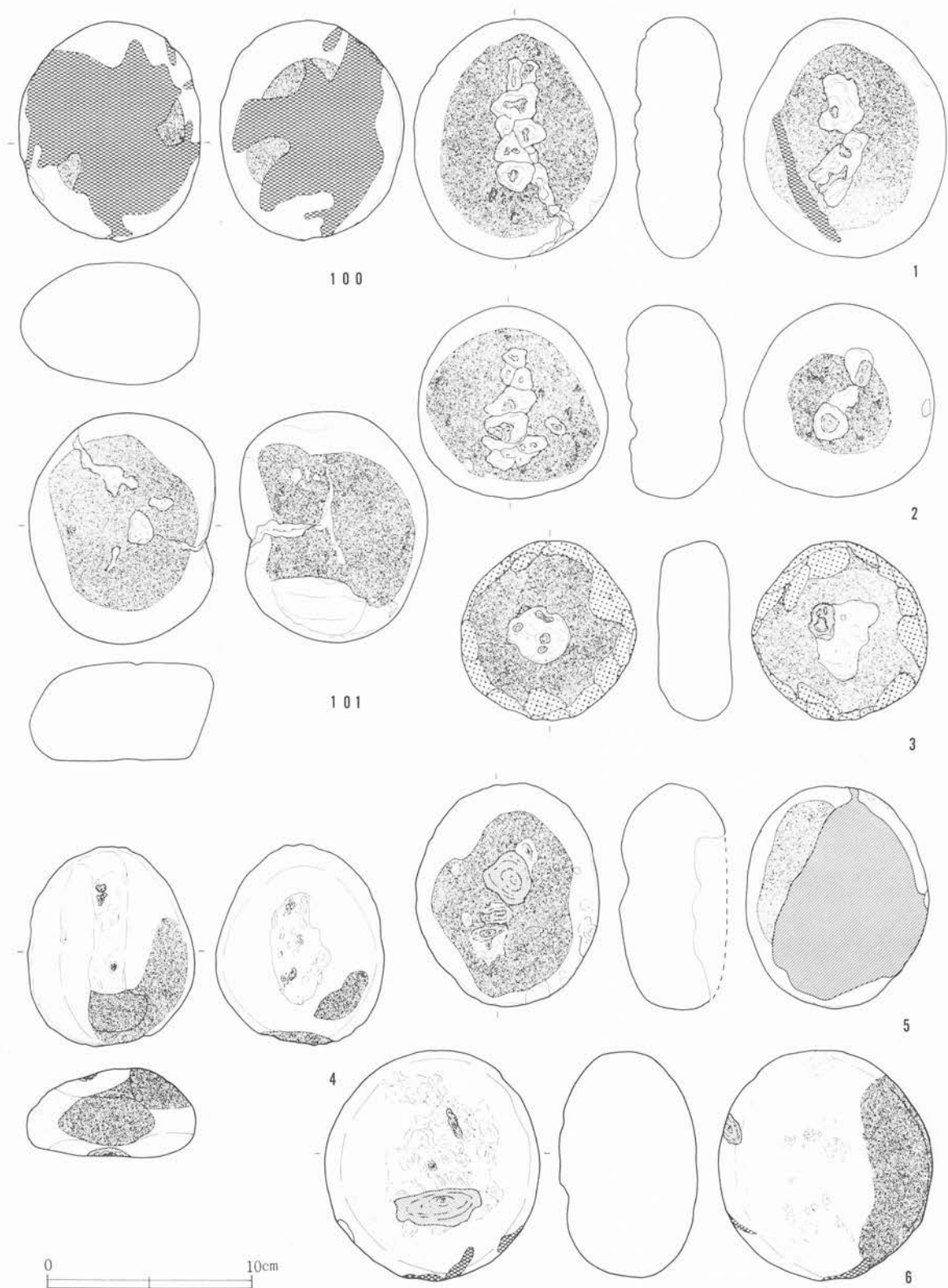
第110図 h. 磨石(7)



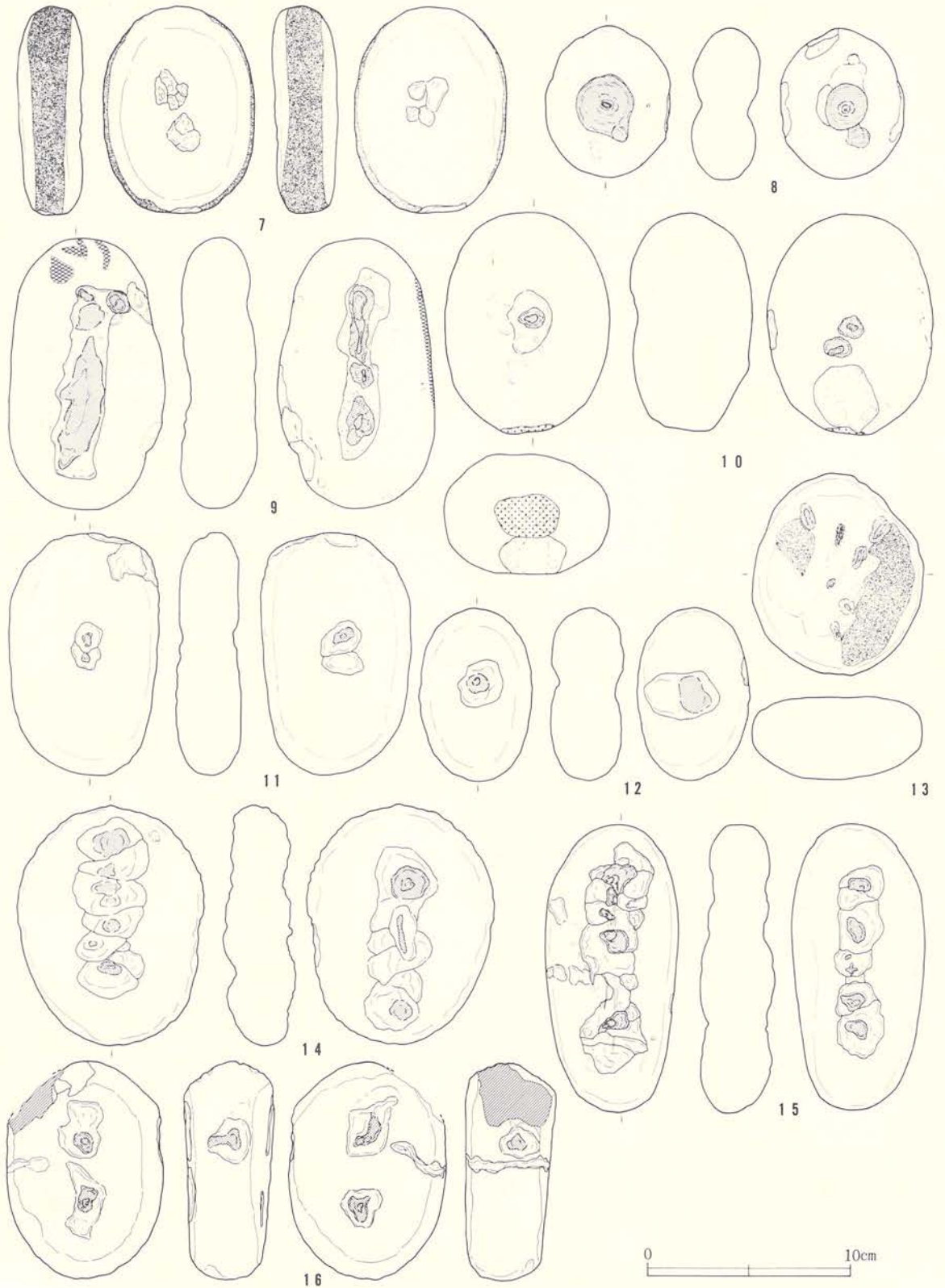
第III図 h. 磨石(8)



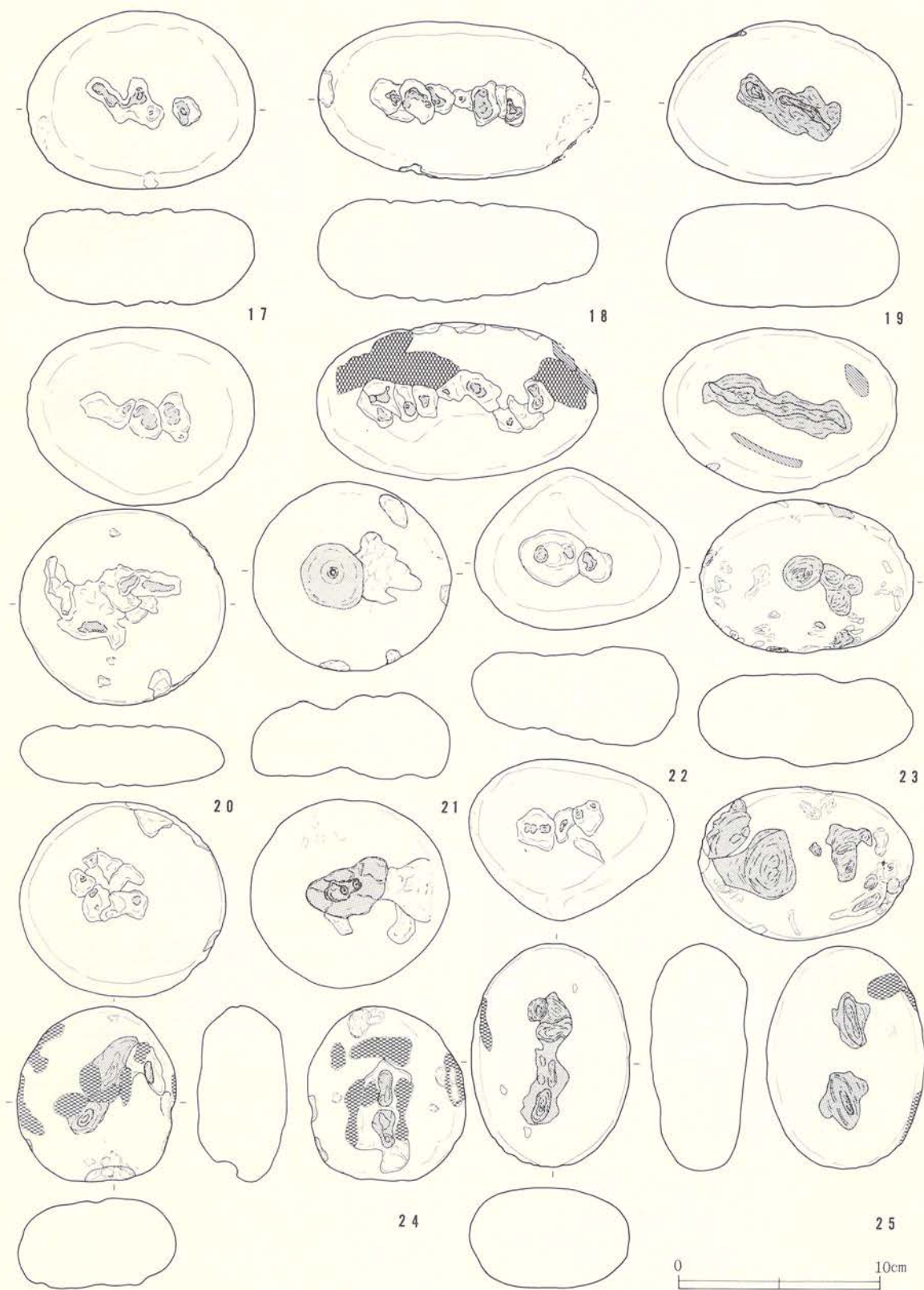
第112図 h. 磨石(9)



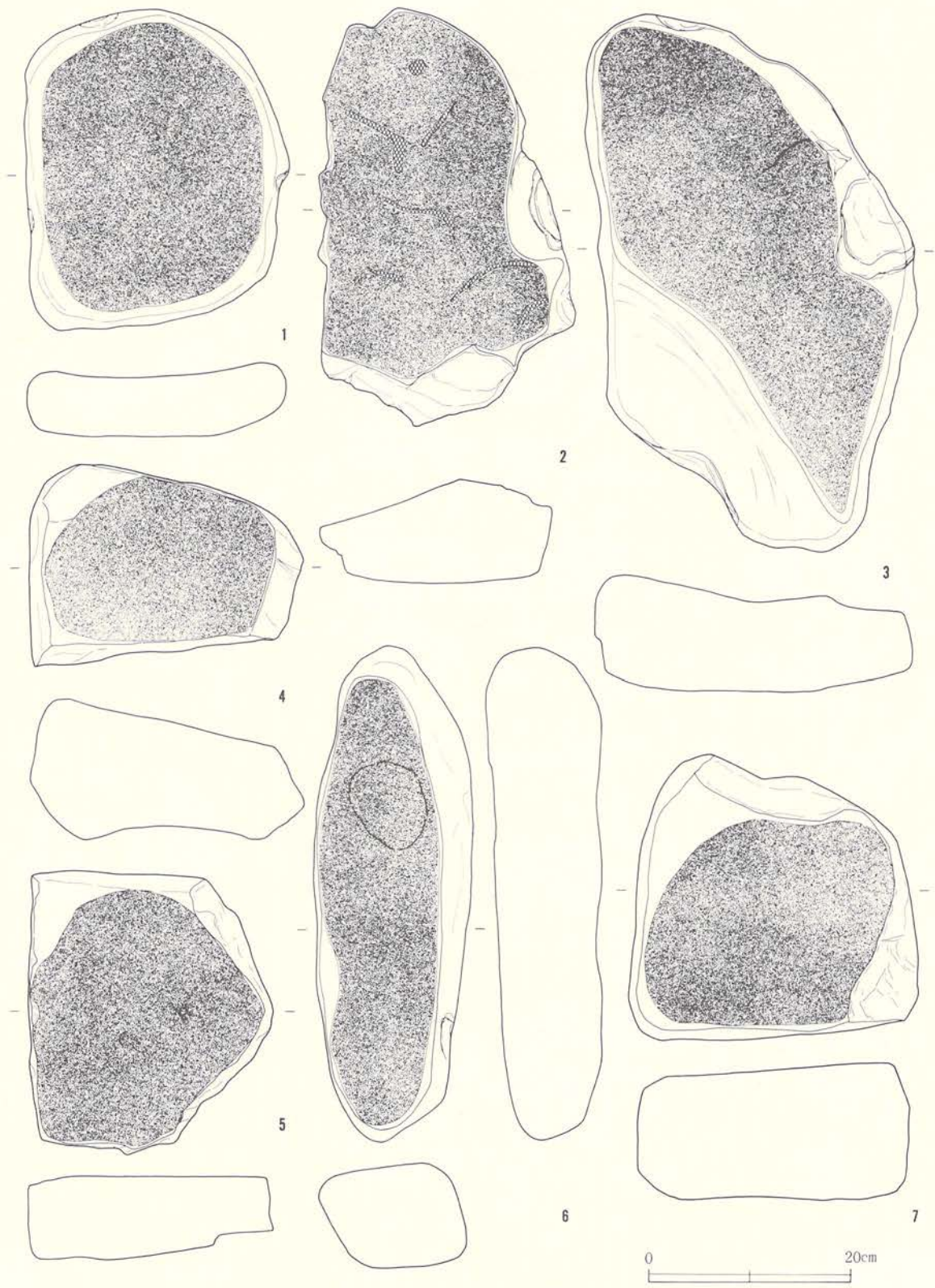
第113图 h. 磨石(10)、i. 凹石(1)



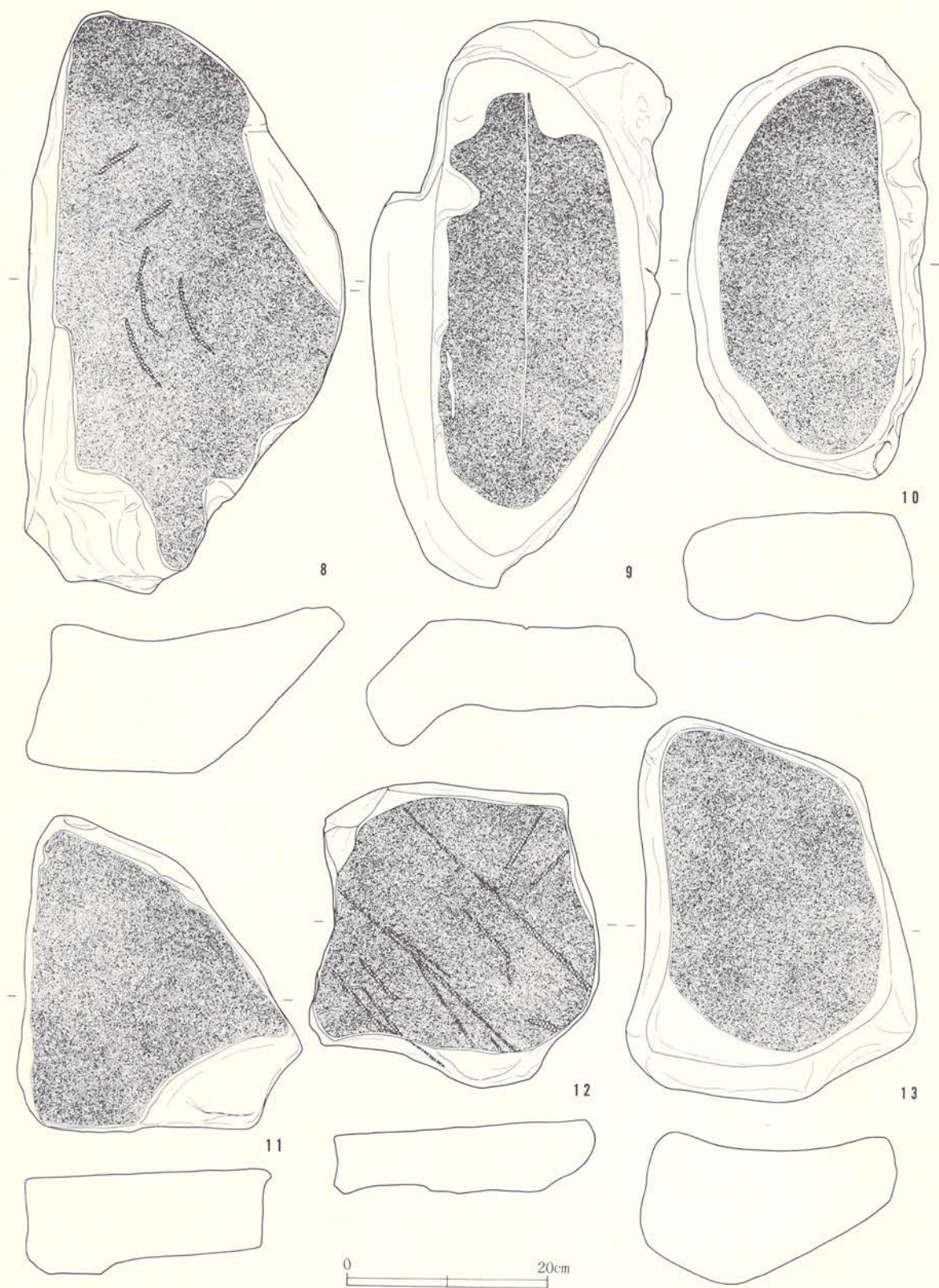
第114图 i. 凹石(2)



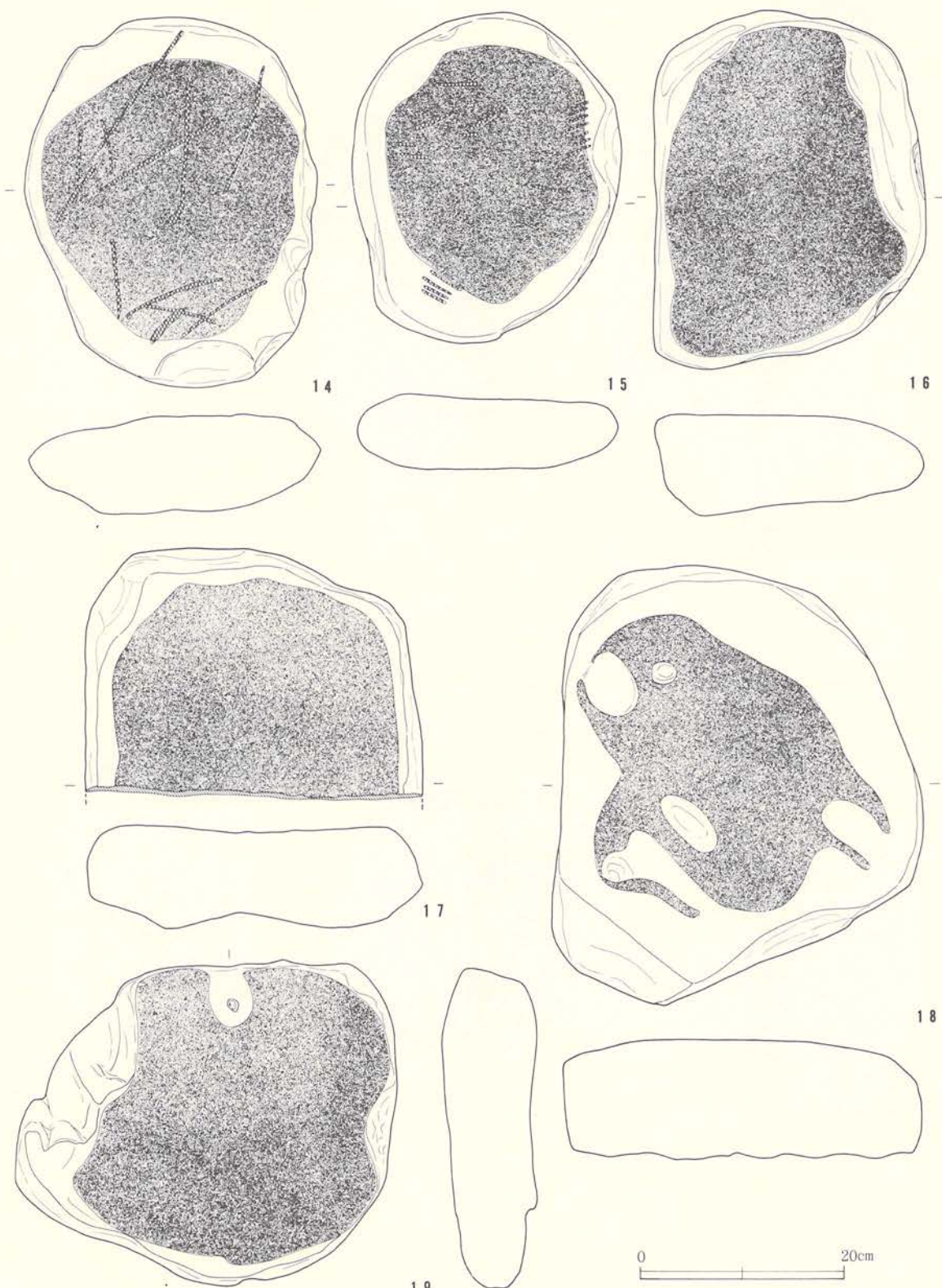
第115图 i. 凹石(3)



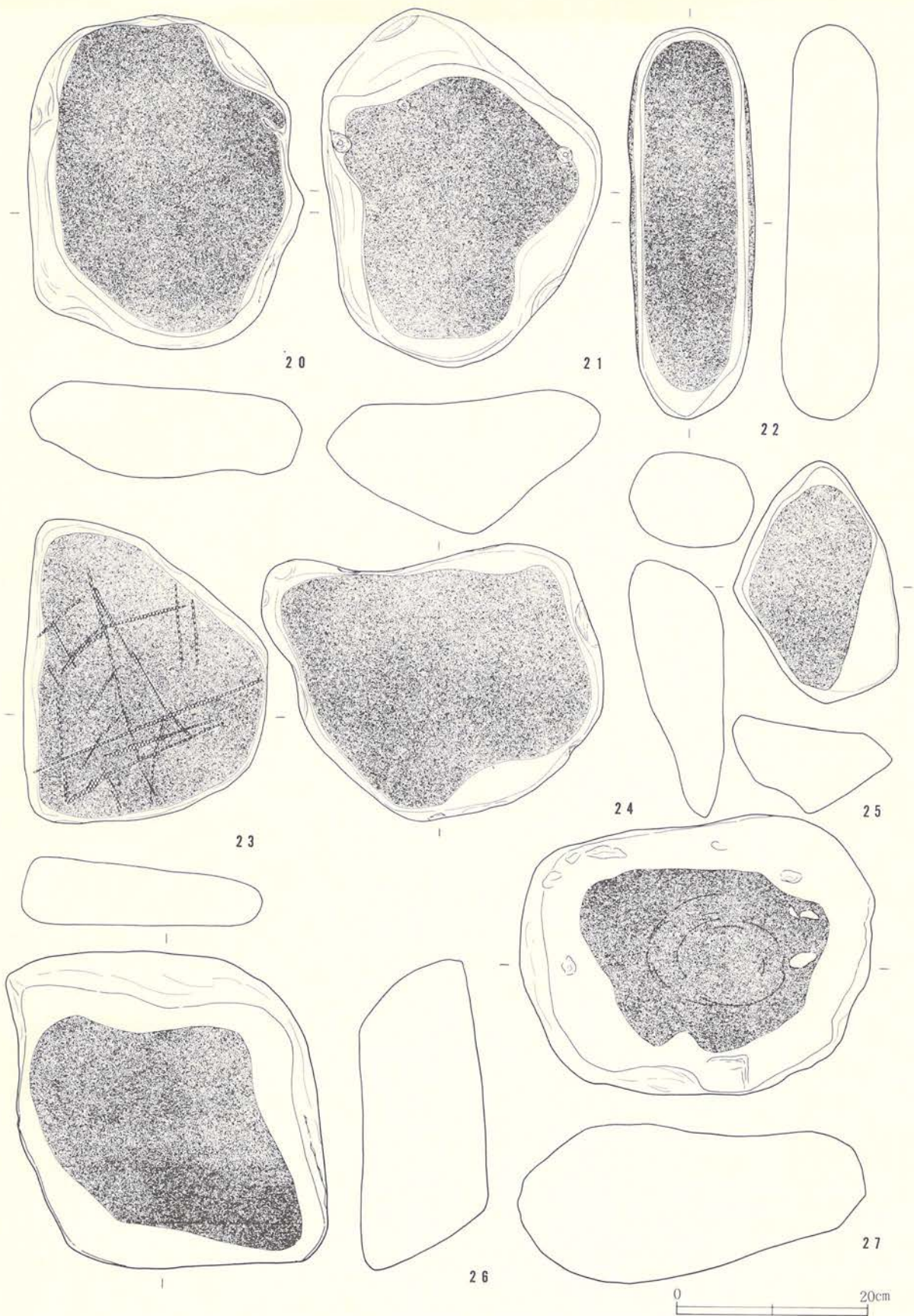
第116図 j. 石皿・台石(1)



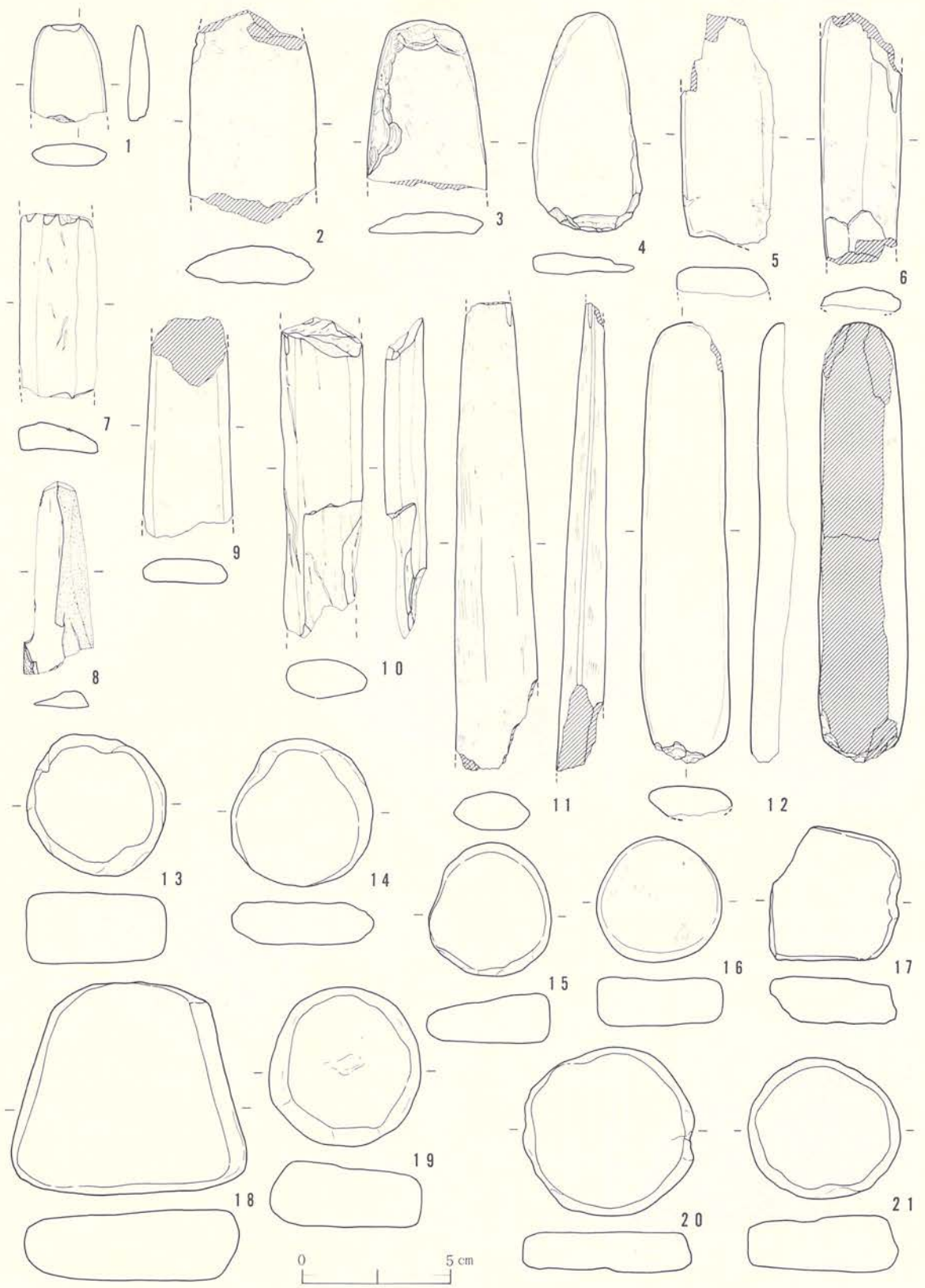
第117図 j. 石皿・台石(2)



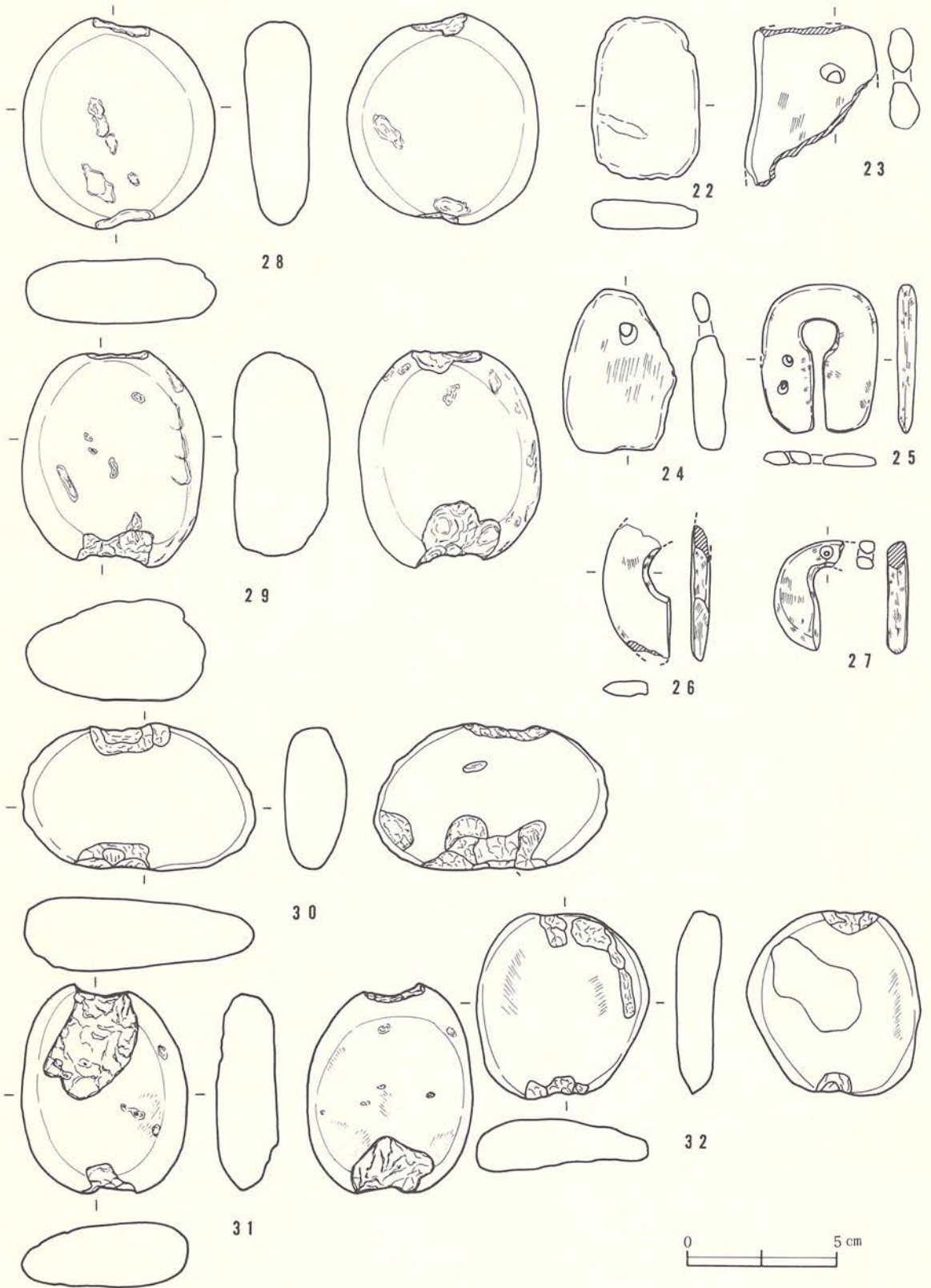
第118図 j. 石皿・台石(3)



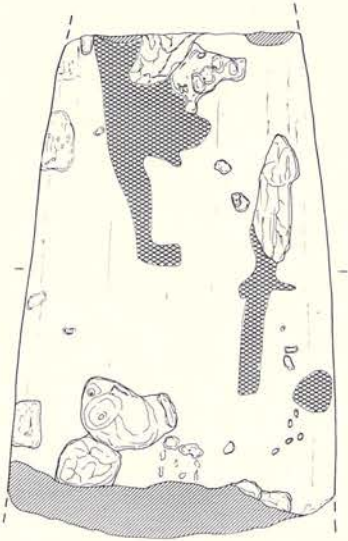
第119図 j. 石皿・台石(4)



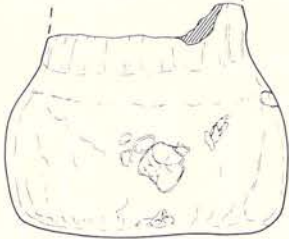
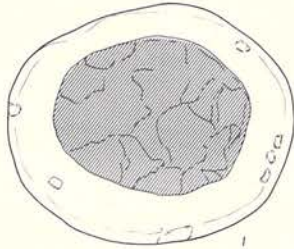
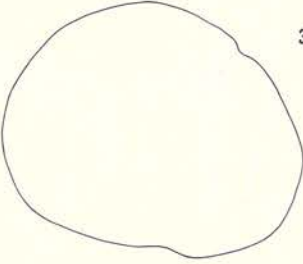
第120図 石製品(1)



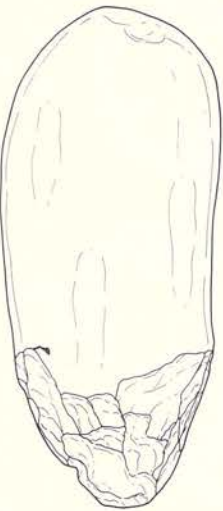
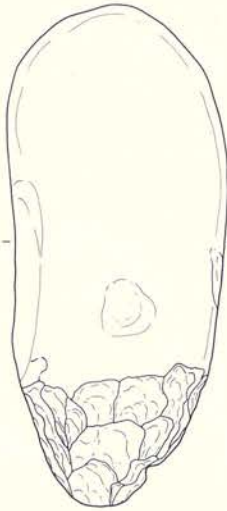
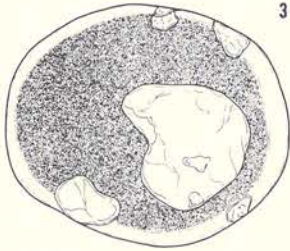
第121図 石製品(2)



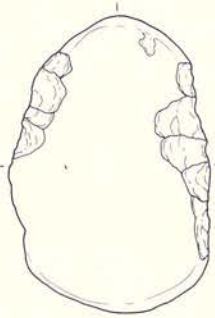
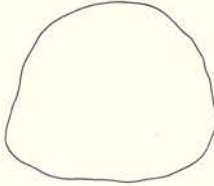
33



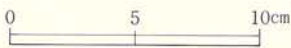
34



35



36

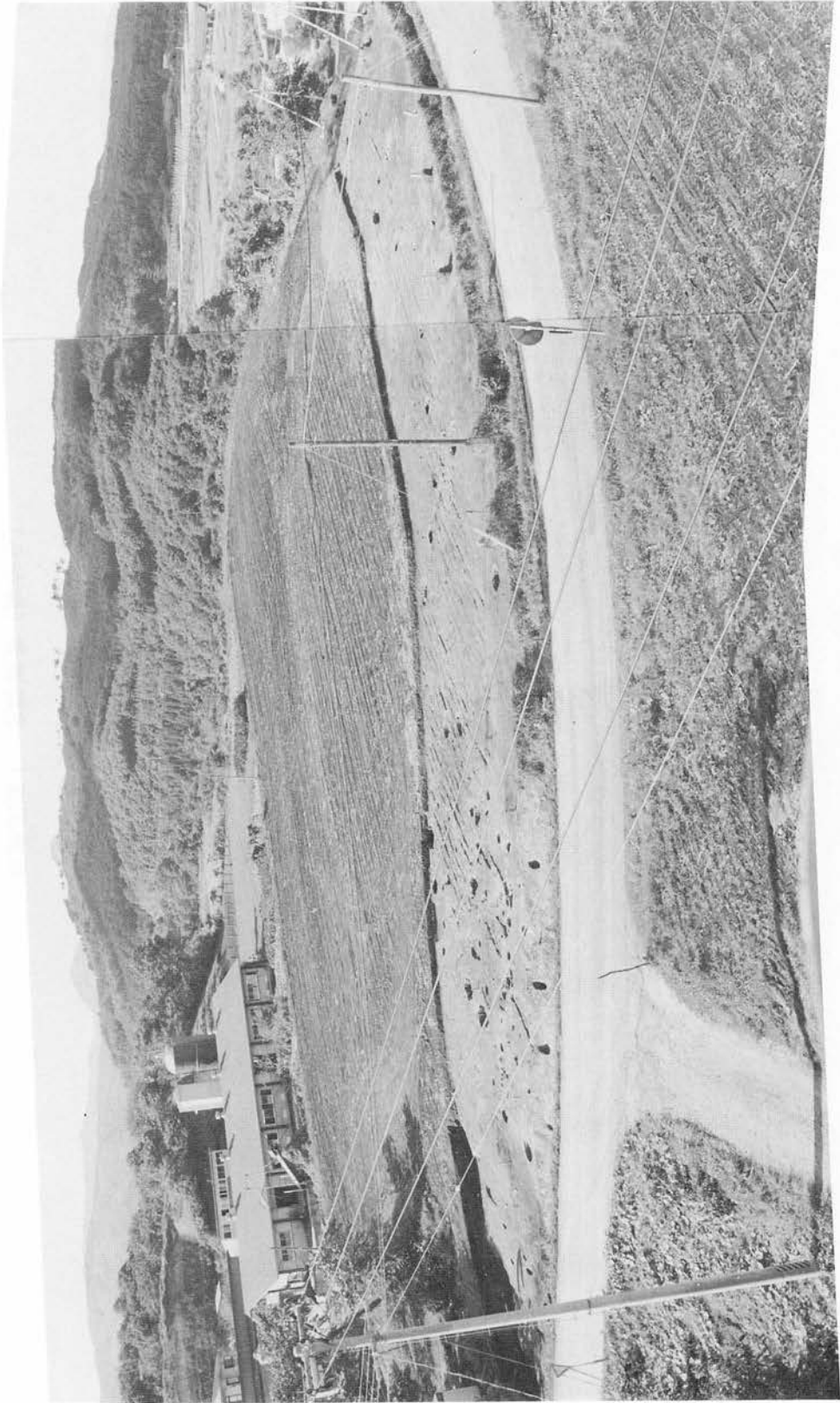


第122図 石製品(3)

写真図版



写真図版 I 遺跡遠景 (南から)



写真図版 2 遺跡全景（南東から）



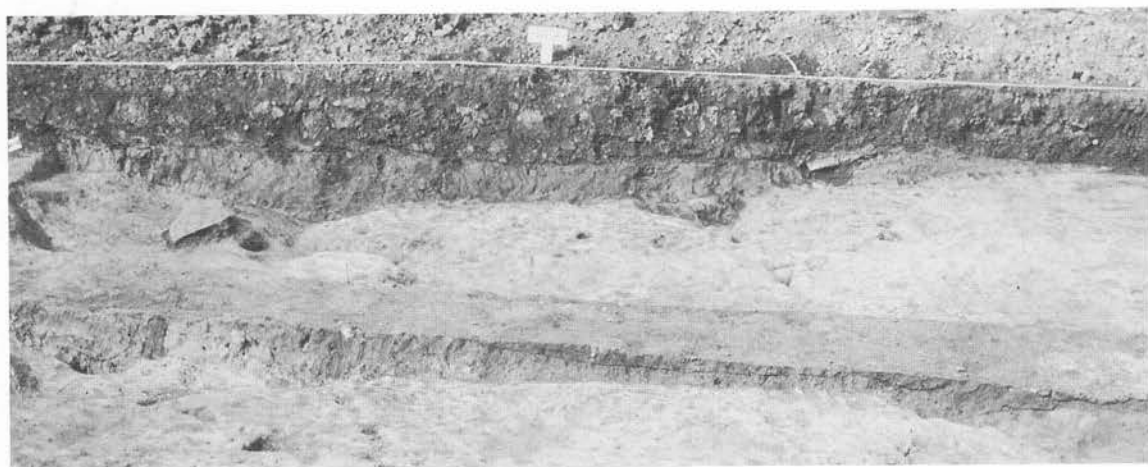
R I 住居跡 埋土断面(上)、全景(下)



S I 住居跡 埋土断面(上)、全景(下)
写真図版 3 R I 住居跡、S I 住居跡



写真図版 4 北柱穴群(1) 全景



耕作土及埋土断面



柱穴No.22 礫混入状況

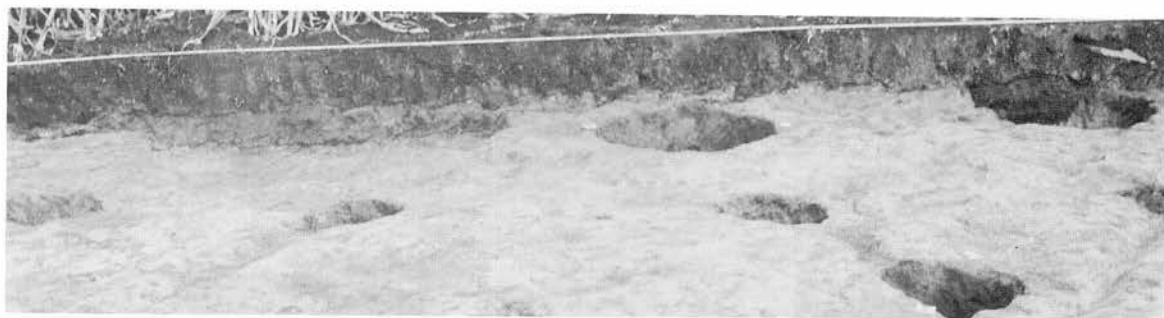


柱穴No.31 礫混入状況



柱穴No.34 土器混入状況

写真図版 5 北柱穴群(2)



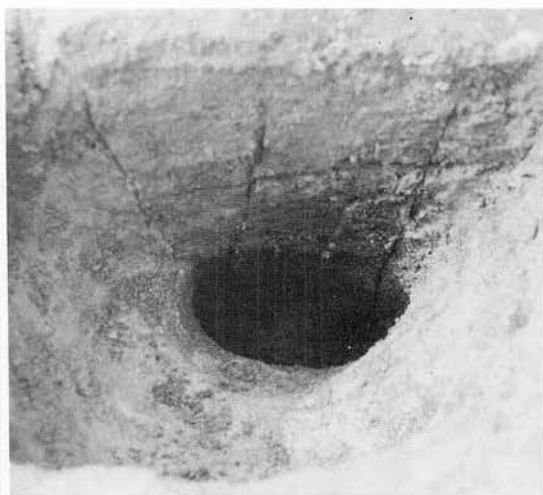
耕作土及埋土断面



全 景



柱穴No.1 埋土断面

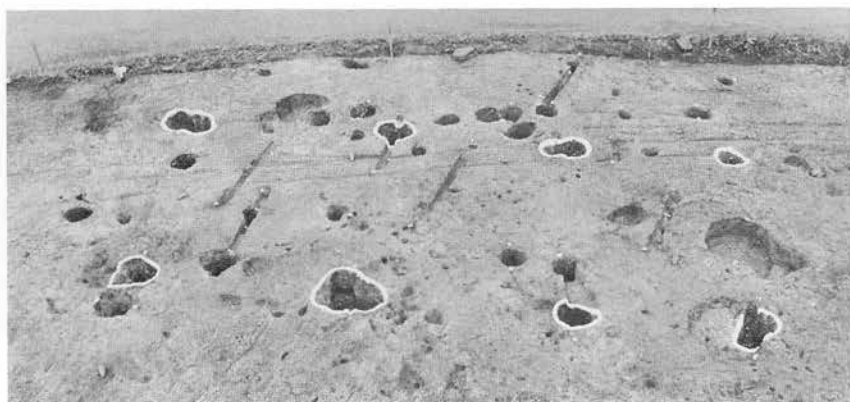


柱穴No.2 断 面

写真図版 6 P III柱穴群



全 景



柱穴配置予想(1)



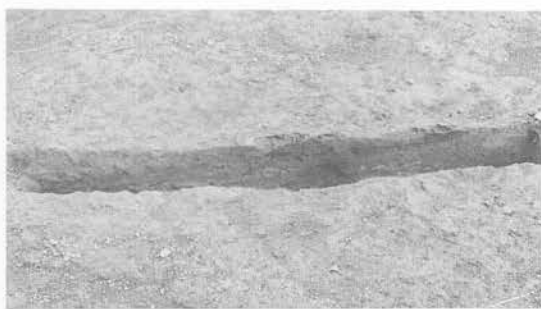
柱穴配置予想(2)



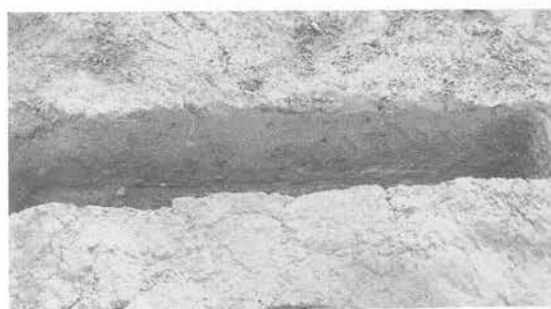
QⅣ区付近遺物出土状況
写真図版 7 南柱穴群



F VII 烧土遺構断面



G VI 烧土遺構断面



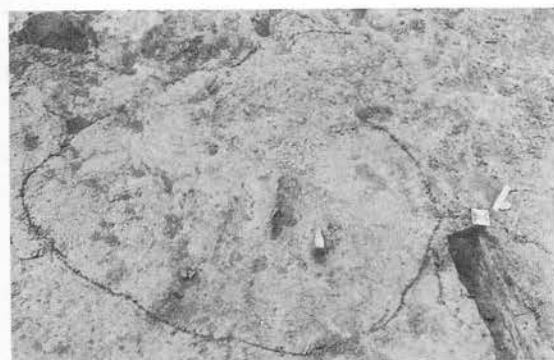
G VII-3 烧土遺構断面



H VIII-1 烧土遺構断面



H VIII-2 烧土遺構断面



P III 烧土遺構断面



Q V-1 烧土遺構 全景(上)、断面(下)

写真図版 8 烧土遺構(I)



RⅣ-1 烧土遺構 全景



QⅤ-2 烧土遺構 全景(上)、断面(下)



RⅣ-3 烧土遺構 全景(上)、断面(下)

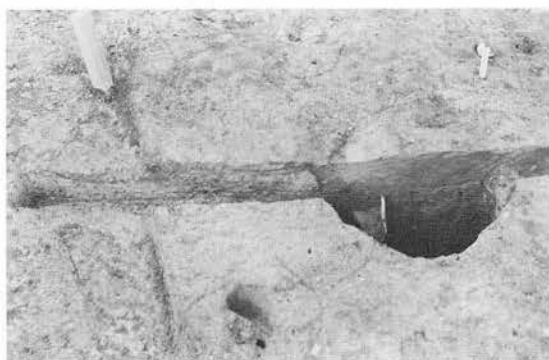
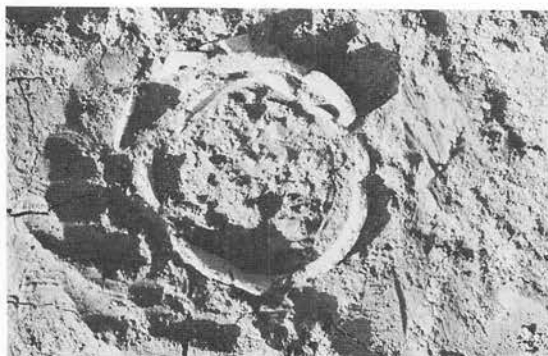


RⅣ-2 烧土遺構 全景(上)、断面(下)



RⅣ-5 烧土遺構断面

写真図版 9 烧土遺構(2)



R IV-4 烧土遺構 全景(上)、断面(下)

F VII埋設土器 全景(上)、断面(下)

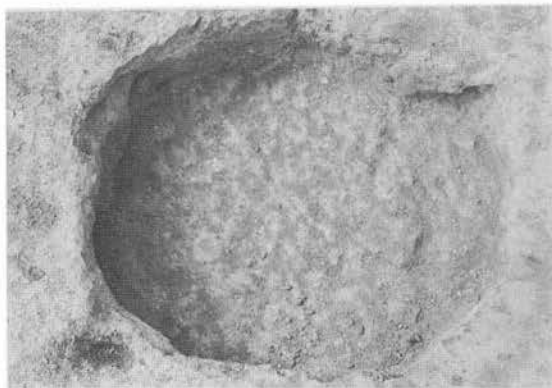
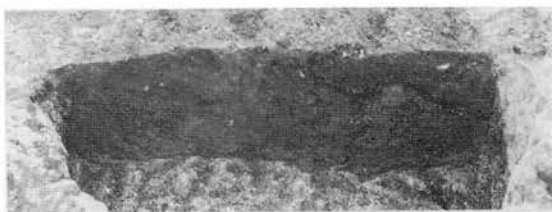


H VII埋設土器断面



H VIII埋設土器 全景(上)、断面(下)

図版10 烧土遺構(3)、埋設土器



G VIIピット 埋土断面(上)、全景(下)

N VI-1ピット 埋土断面(上)、全景(下)



N VI-2ピット 埋土断面(上)、全景(下)

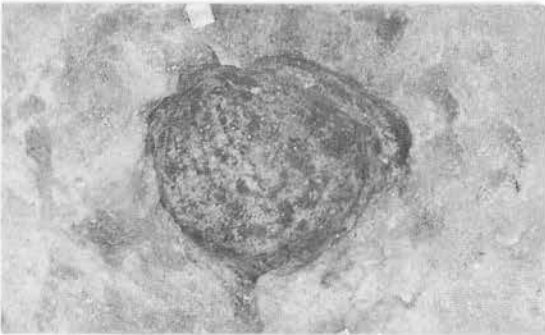
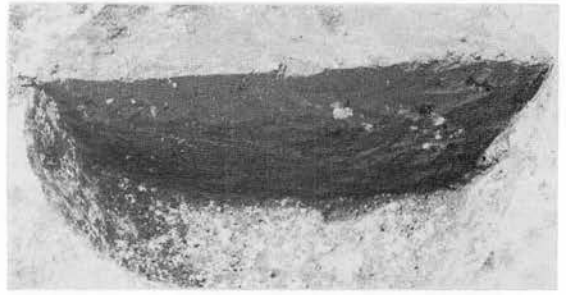
P V-1ピット 埋土断面(上)、全景(下)



P III-1ピット断面

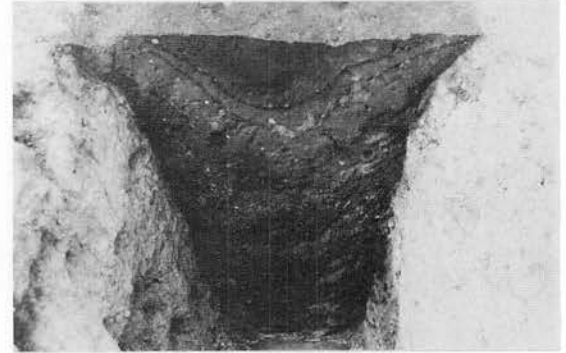
R V-1ピット断面

写真図版II ピット(I)



R III-1ピット 埋土断面(上)、全景(下)

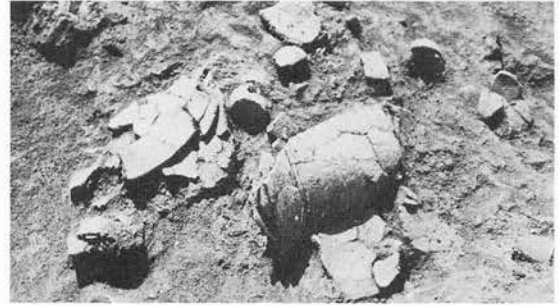
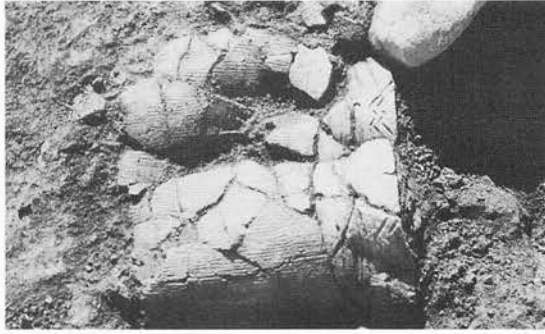
S IIIピット 埋土断面(上)、全景(下)



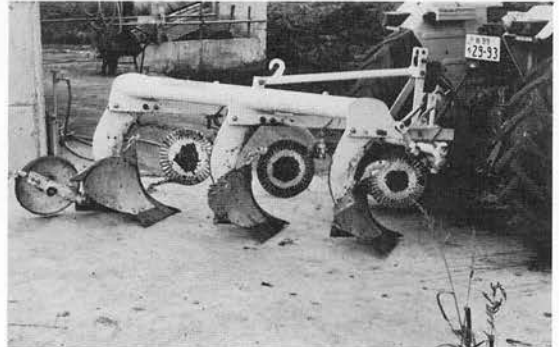
E VII陥し穴 埋土断面(上)、全景(下)

J VII陥し穴 埋土断面(上)、全景(下)

写真図版12 ピット(2)、陥し穴



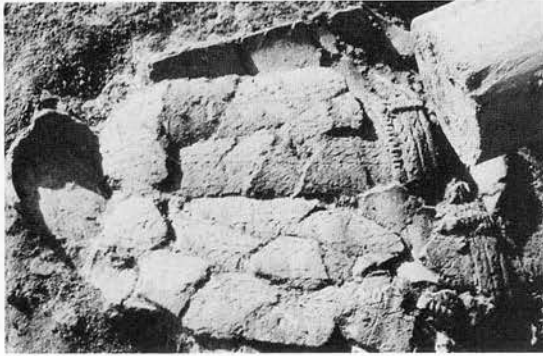
L VII区遺物出土状況



耕作に使用されるトラクターとブラウ
写真図版13 北包含層遺物出土状況



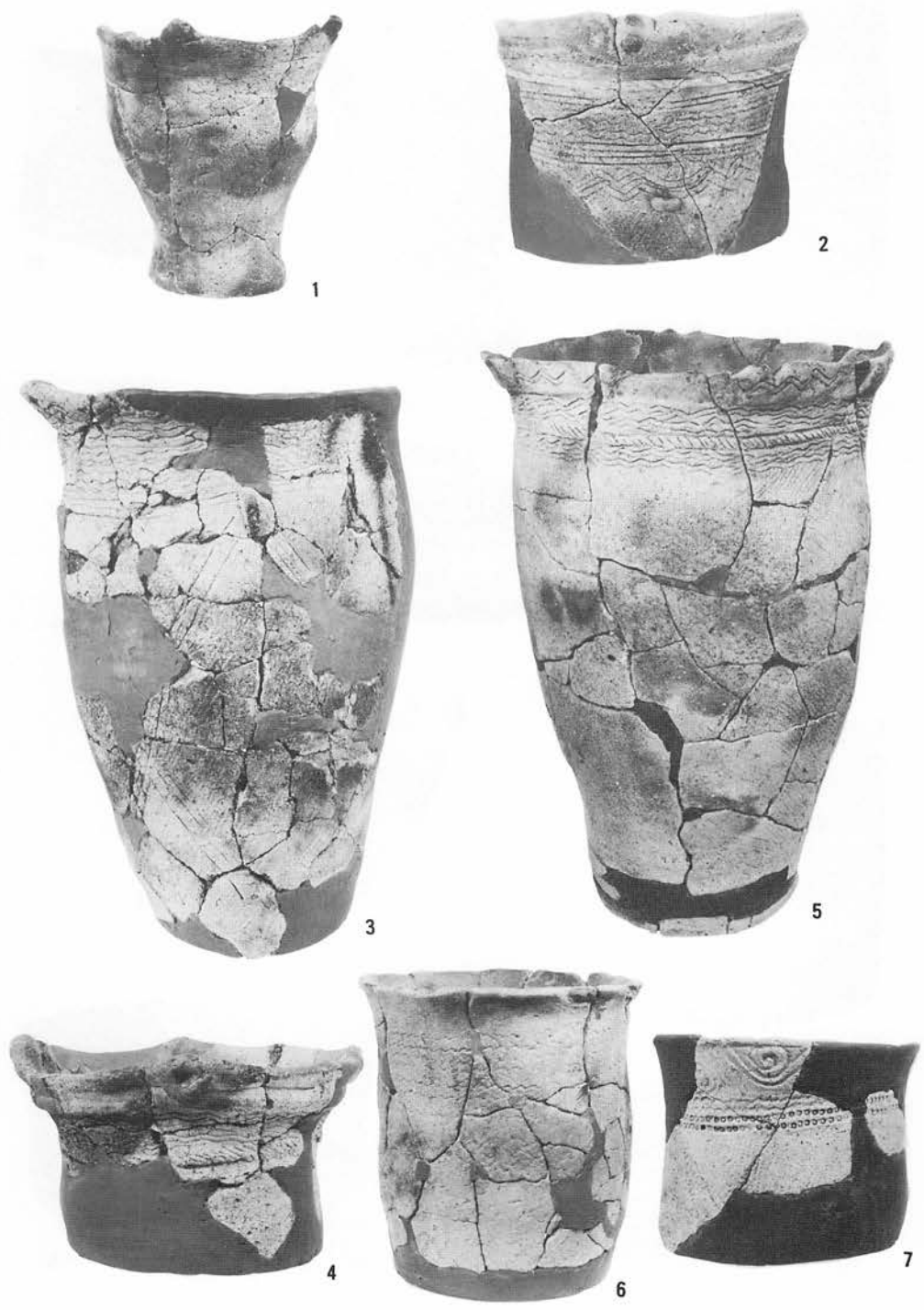
写真図版14 南包含層遺物出土状況(1)



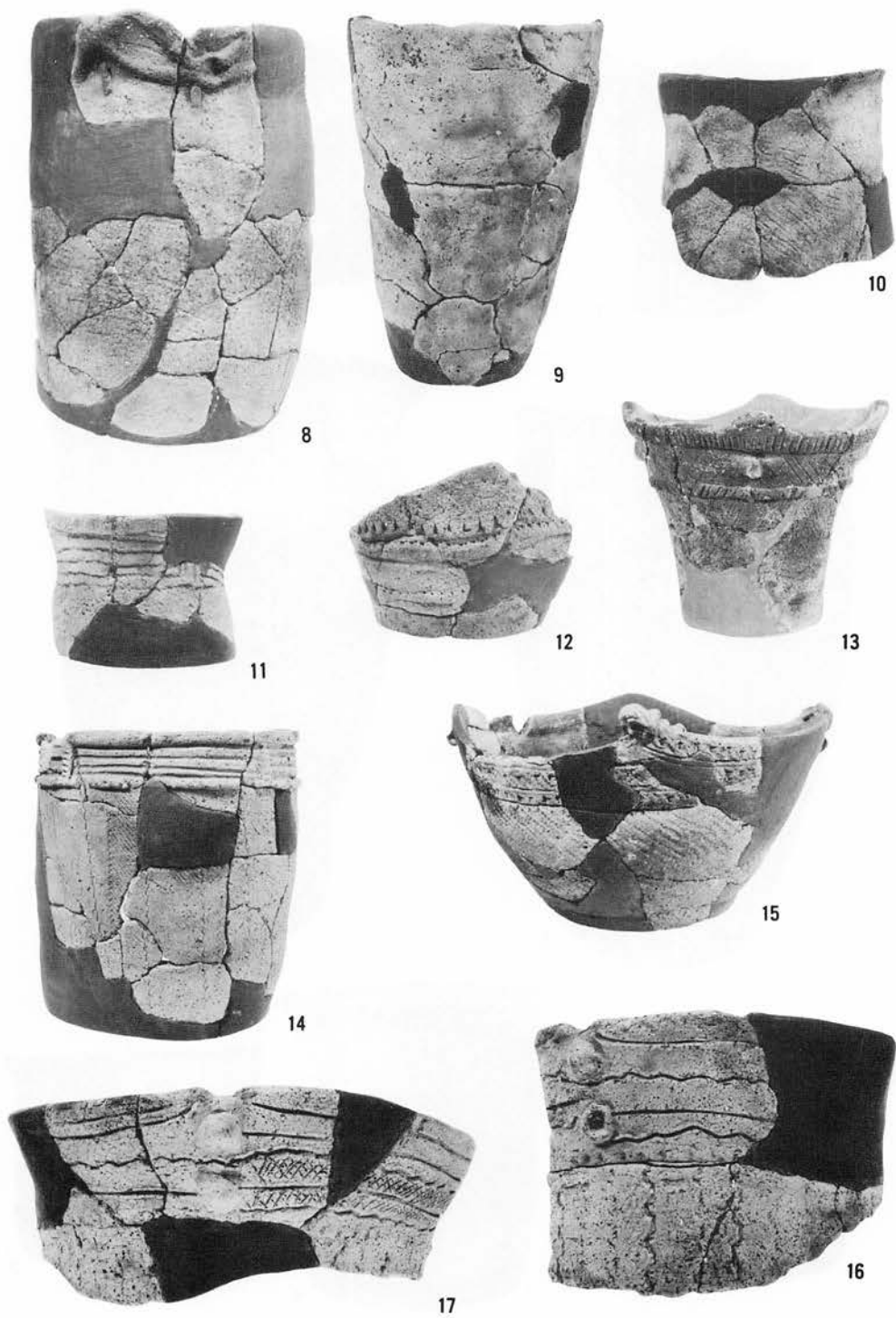
写真図版15 南包含層遺物出土状況(2)



写真図版16 南包含層遺物出土状況(3)



写真図版17 遺構伴出土器(1) R I住居跡



写真図版18 遺構伴出土器(2) 8～10R I住居跡、11～17S I住居跡



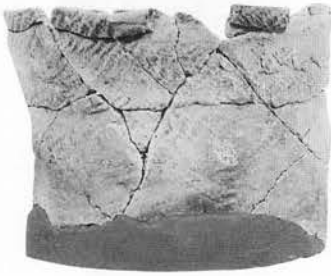
18



19



21



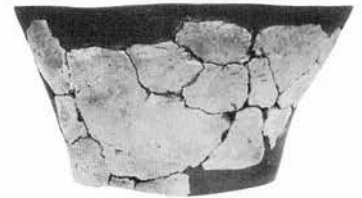
20



23



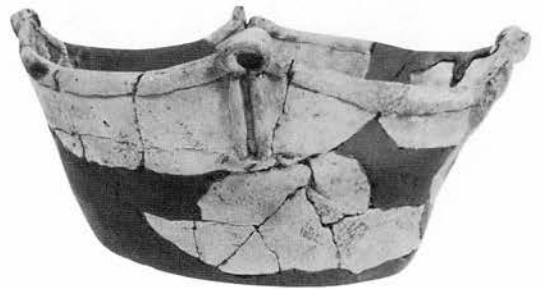
22



25

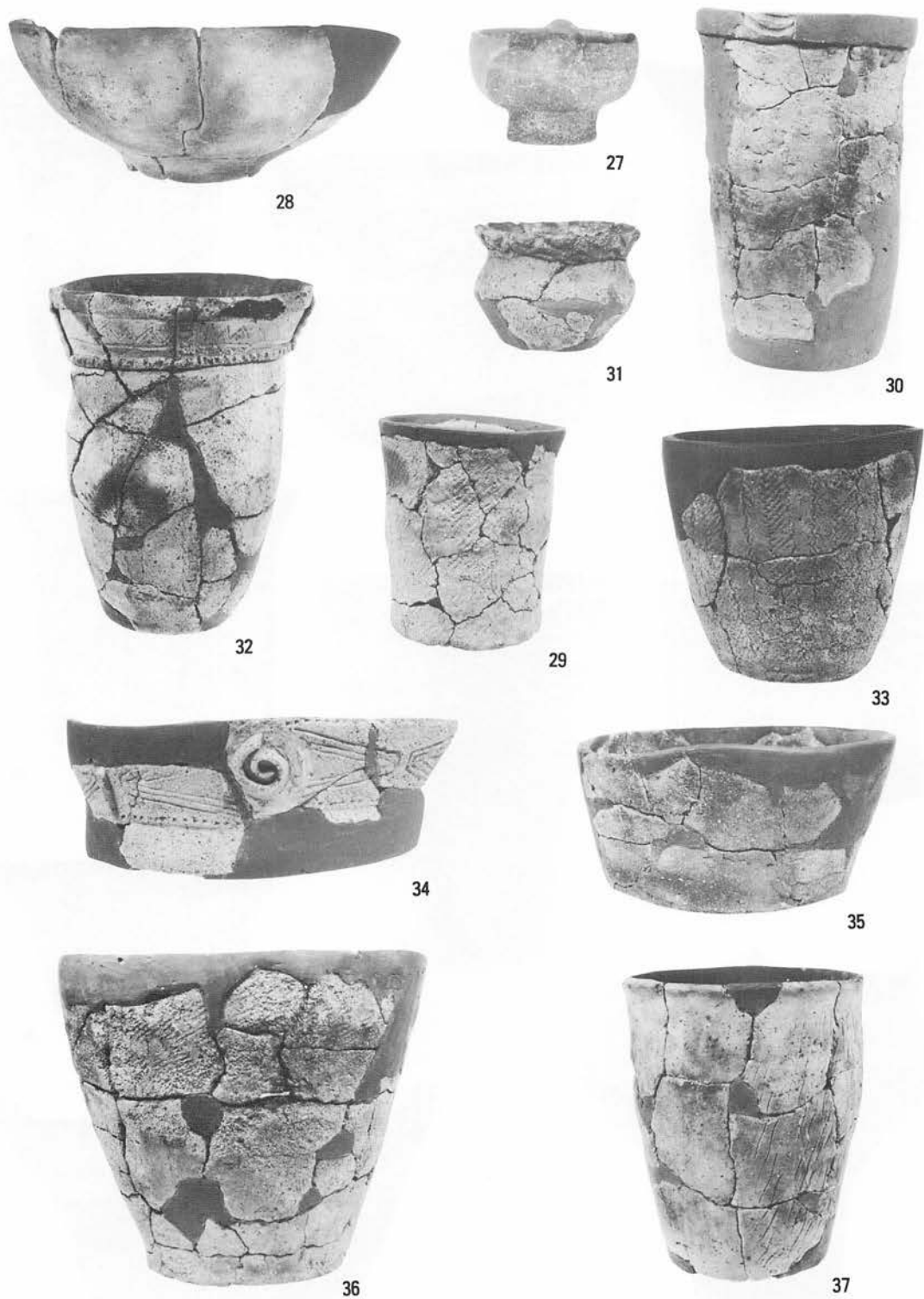


24



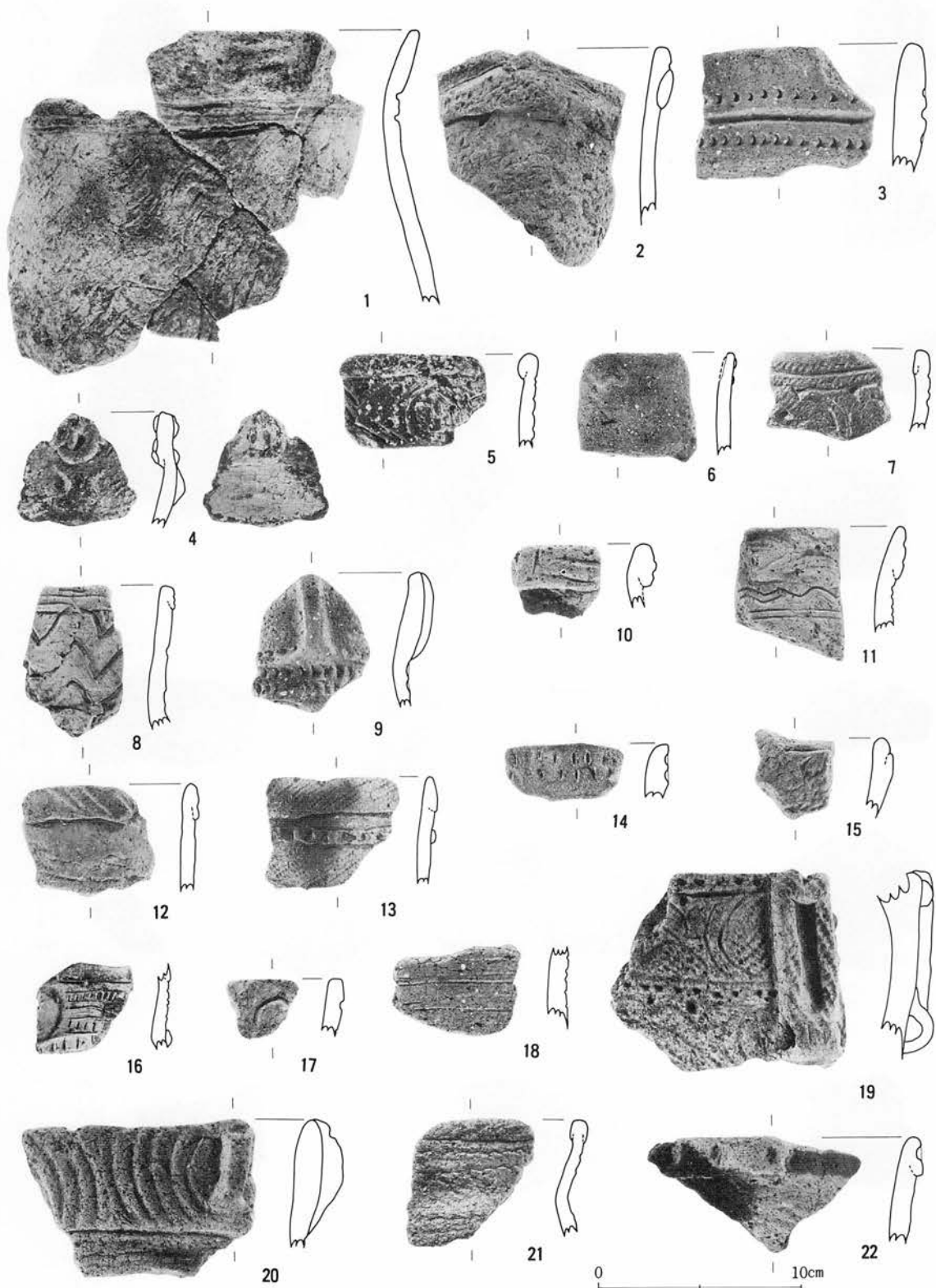
26

写真図版19 遺構伴出土器(3) S I 住居跡

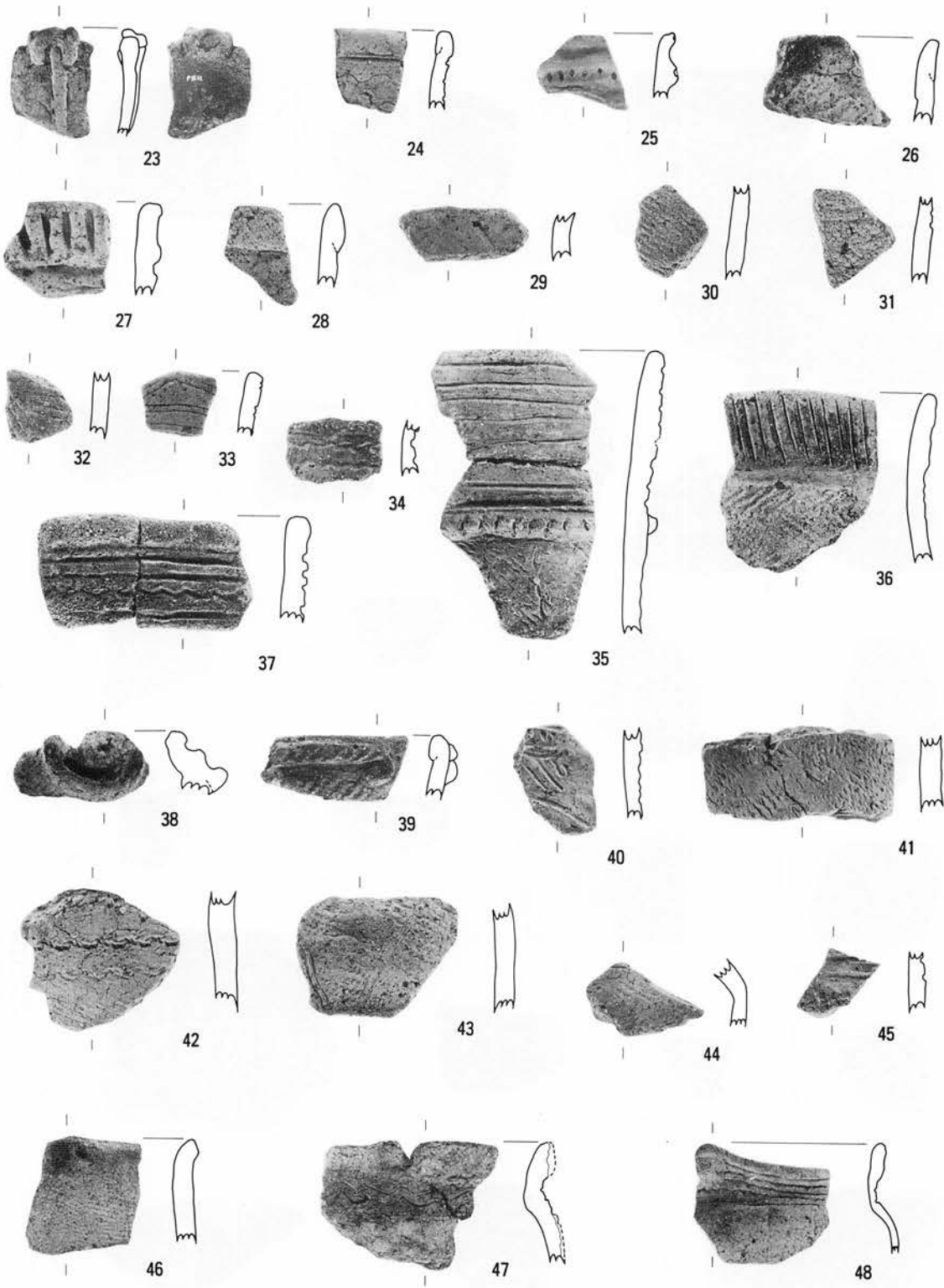


27・28 S I 住居跡、29～31北柱穴群、32南柱穴群、33・34 E VII 陥し穴
 35 F VII 埋設土器、36 H VII 埋設土器、37 H VIII 埋設土器

写真図版20 遺構伴出土器(4)



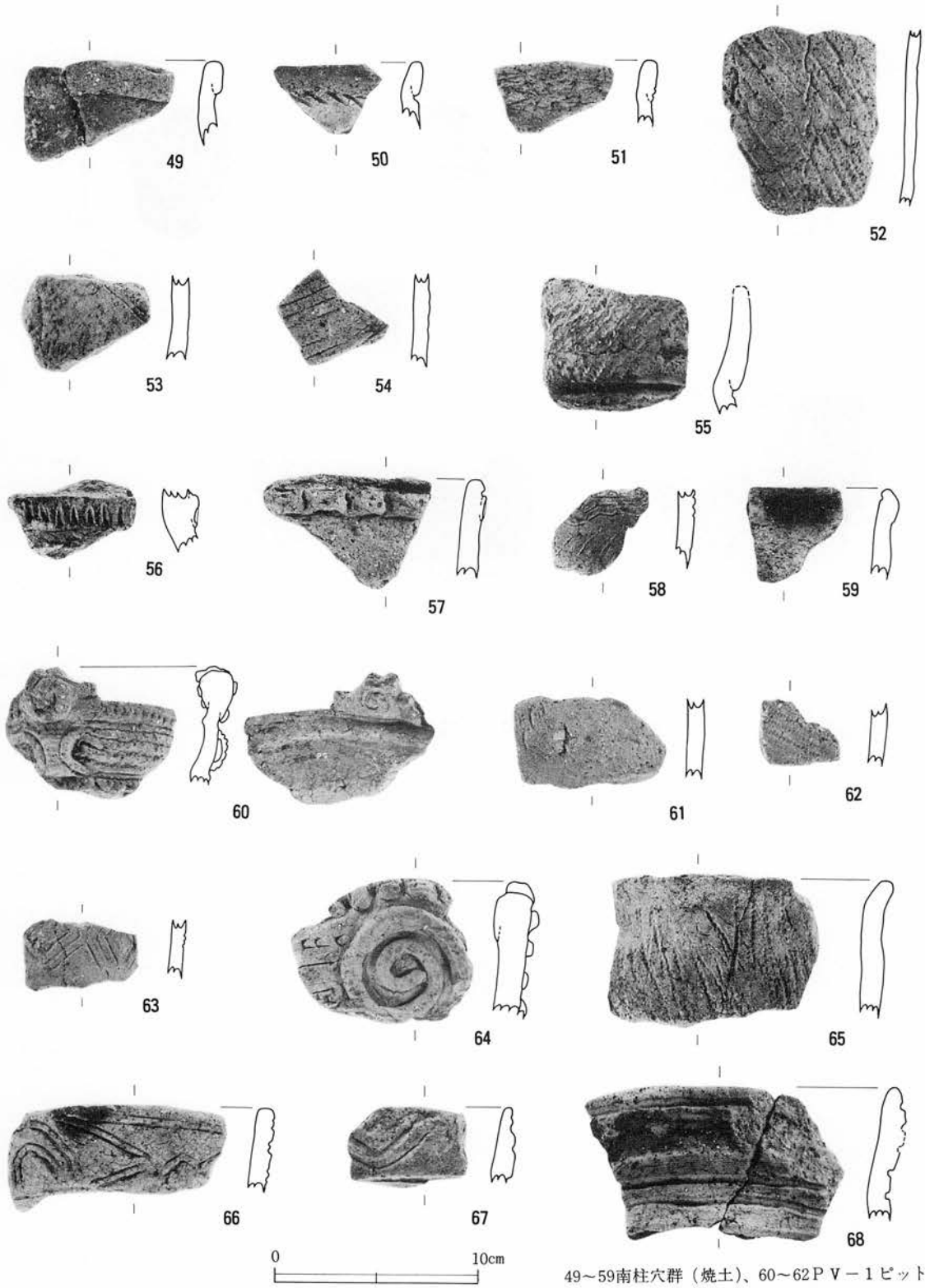
写真図版21 遺構伴出土器片(I)
1~19北柱穴群、20~22PⅢ柱穴群



0 10cm

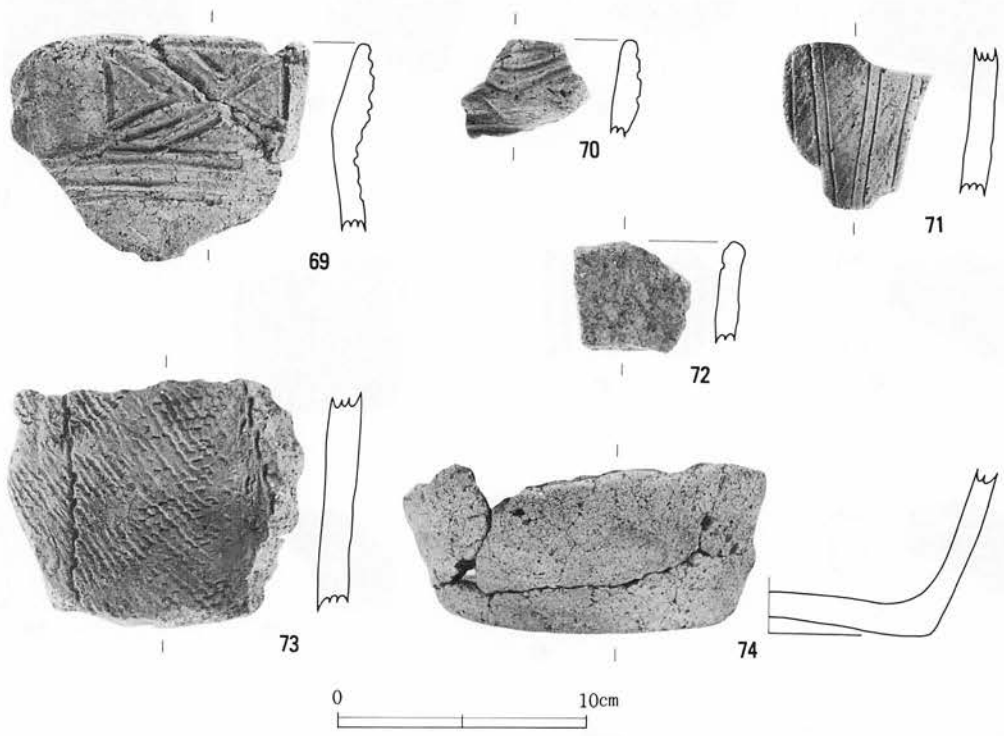
23~34 P III柱穴群、35~45南柱穴群
46~48南柱穴群（焼土）

写真図版22 遺構伴出土器片(2)

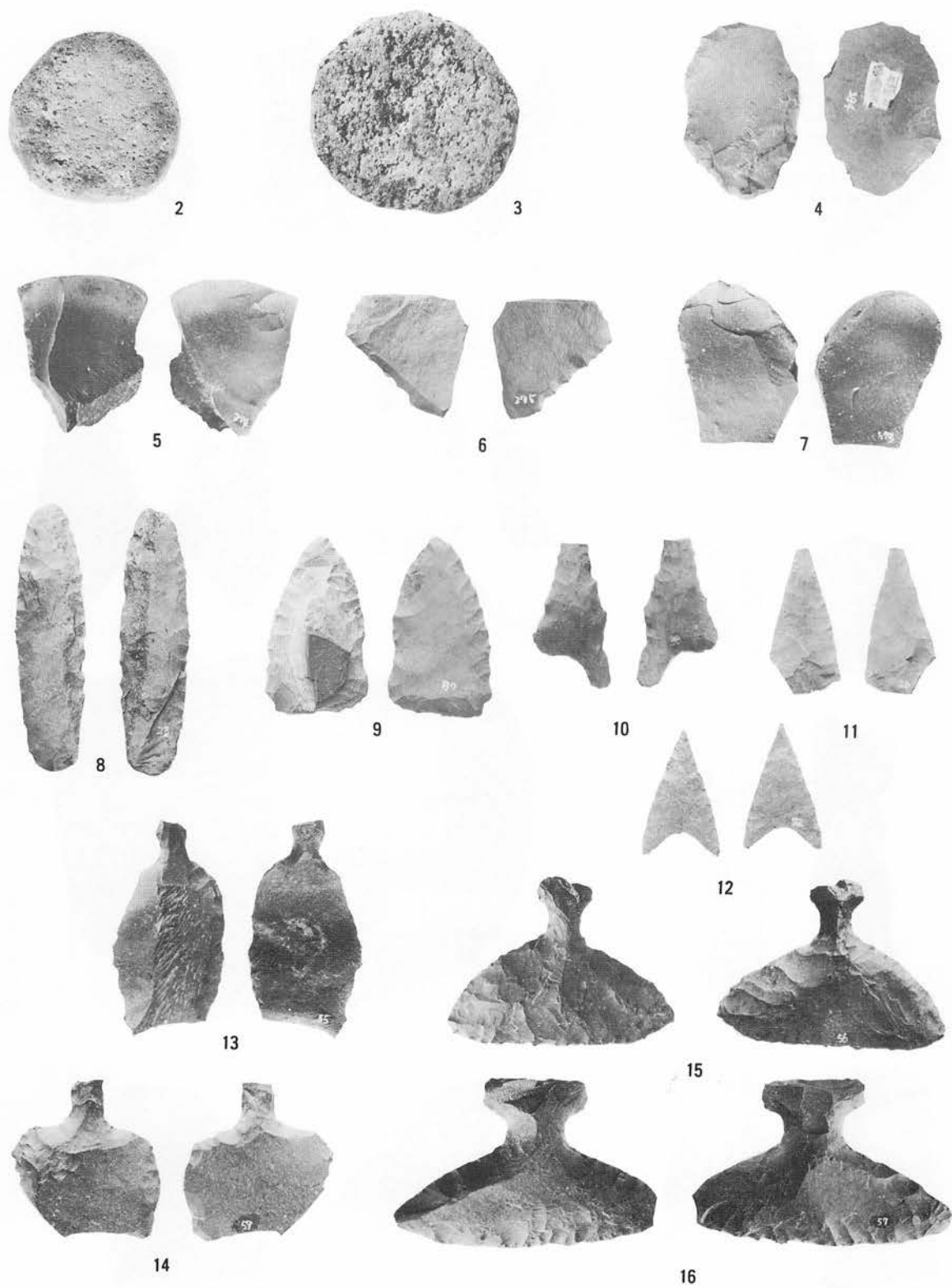


49~59南柱穴群（焼土）、60~62P V - 1ピット
63 R III - 1ピット、64~68 E VII陥し穴

写真図版23 遺構伴出土器片(3)

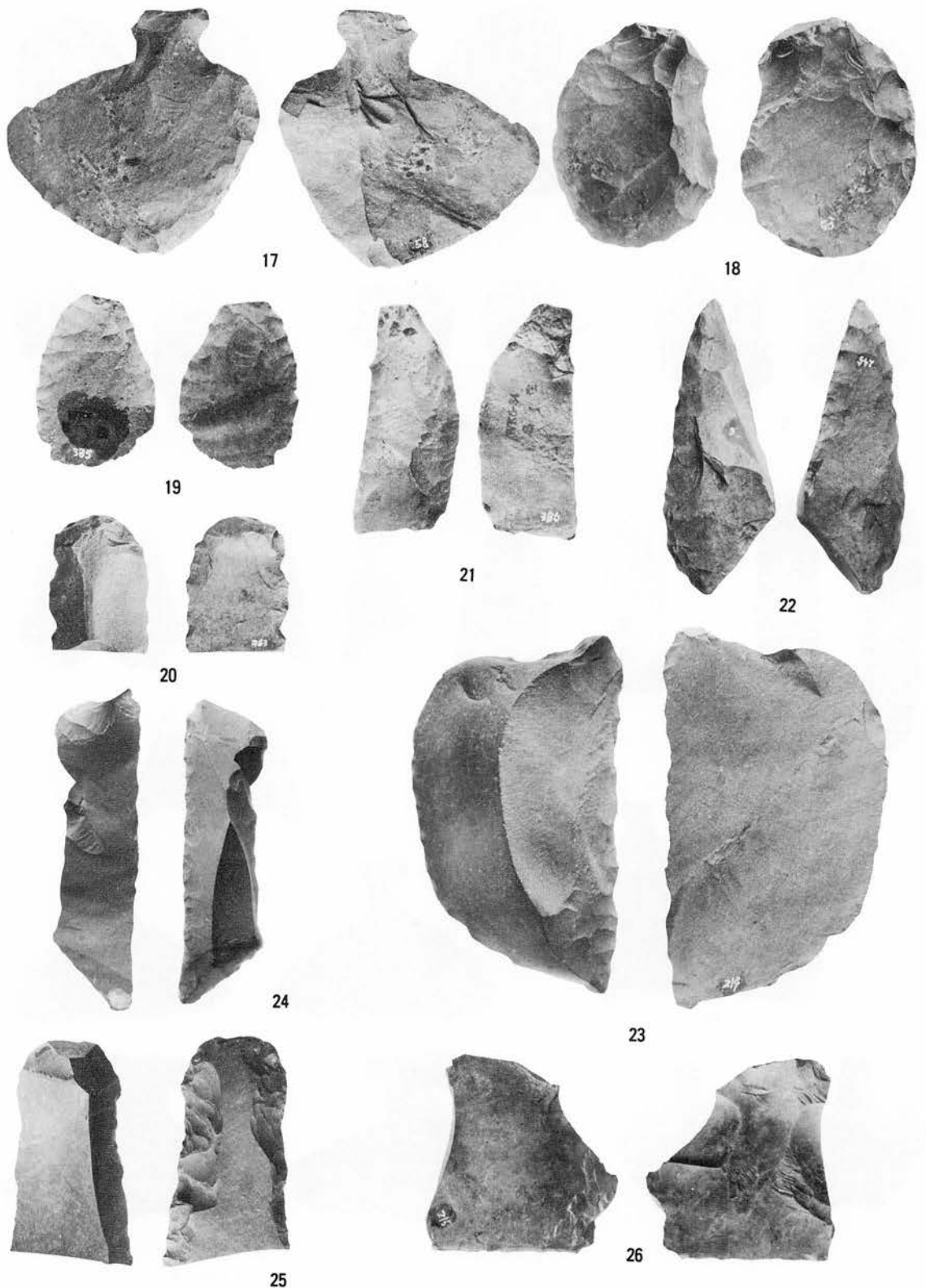


写真図版24 遺構伴出土器片(4) EⅦ陥し穴

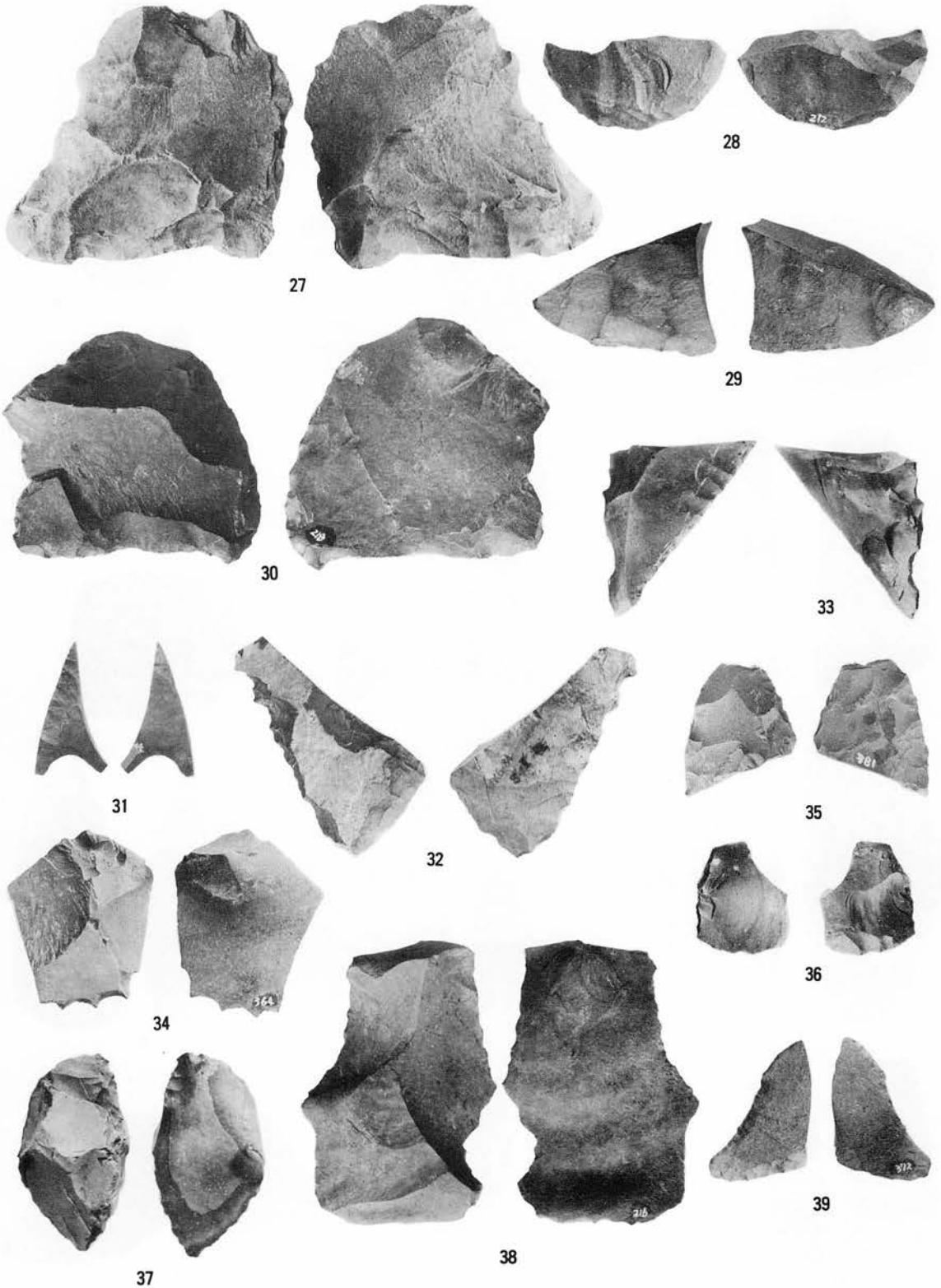


2 ~ 7 R I 住居跡、8 ~ 16 S I 住居跡

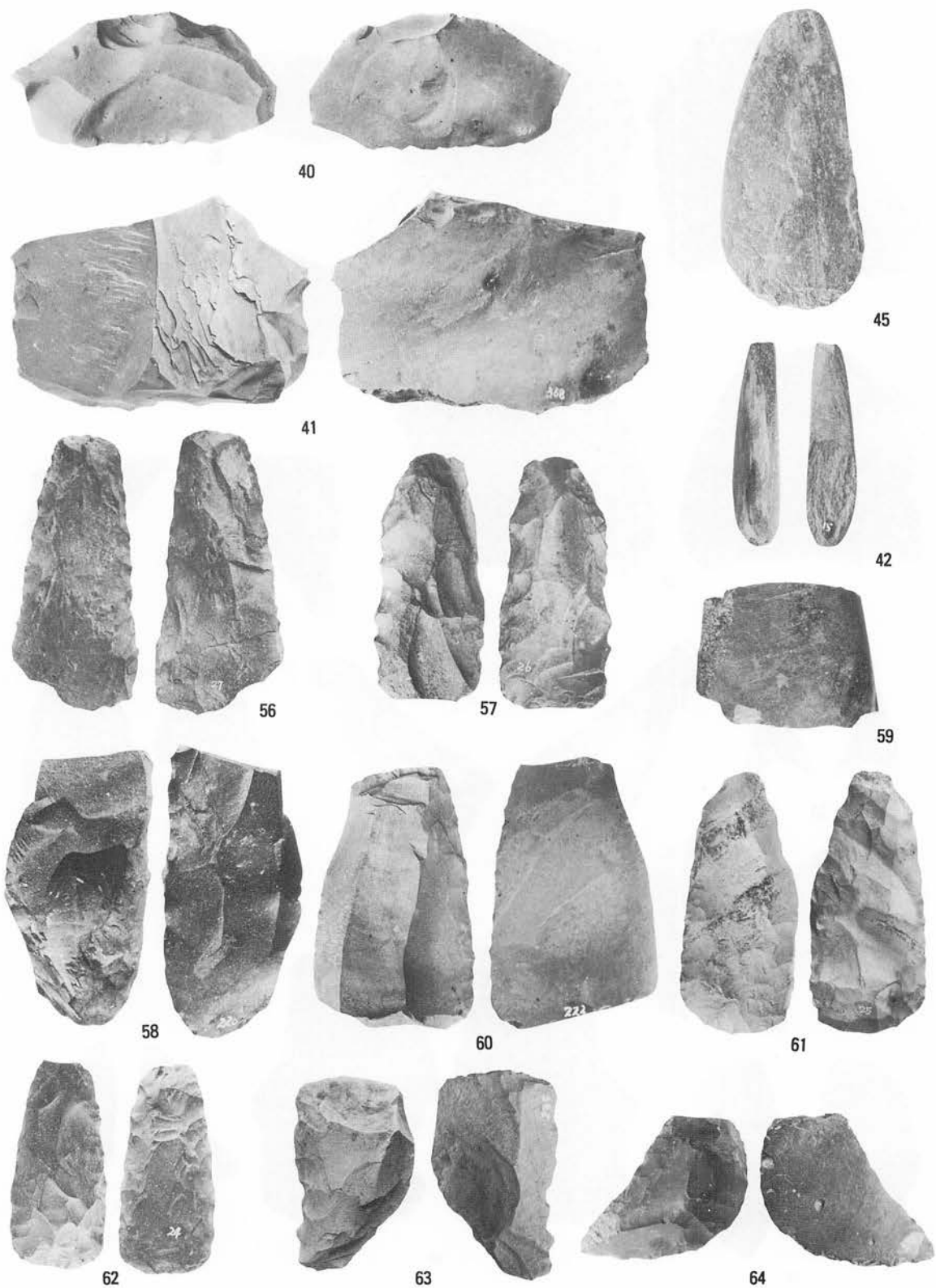
写真図版25 遺構伴出石器(1)



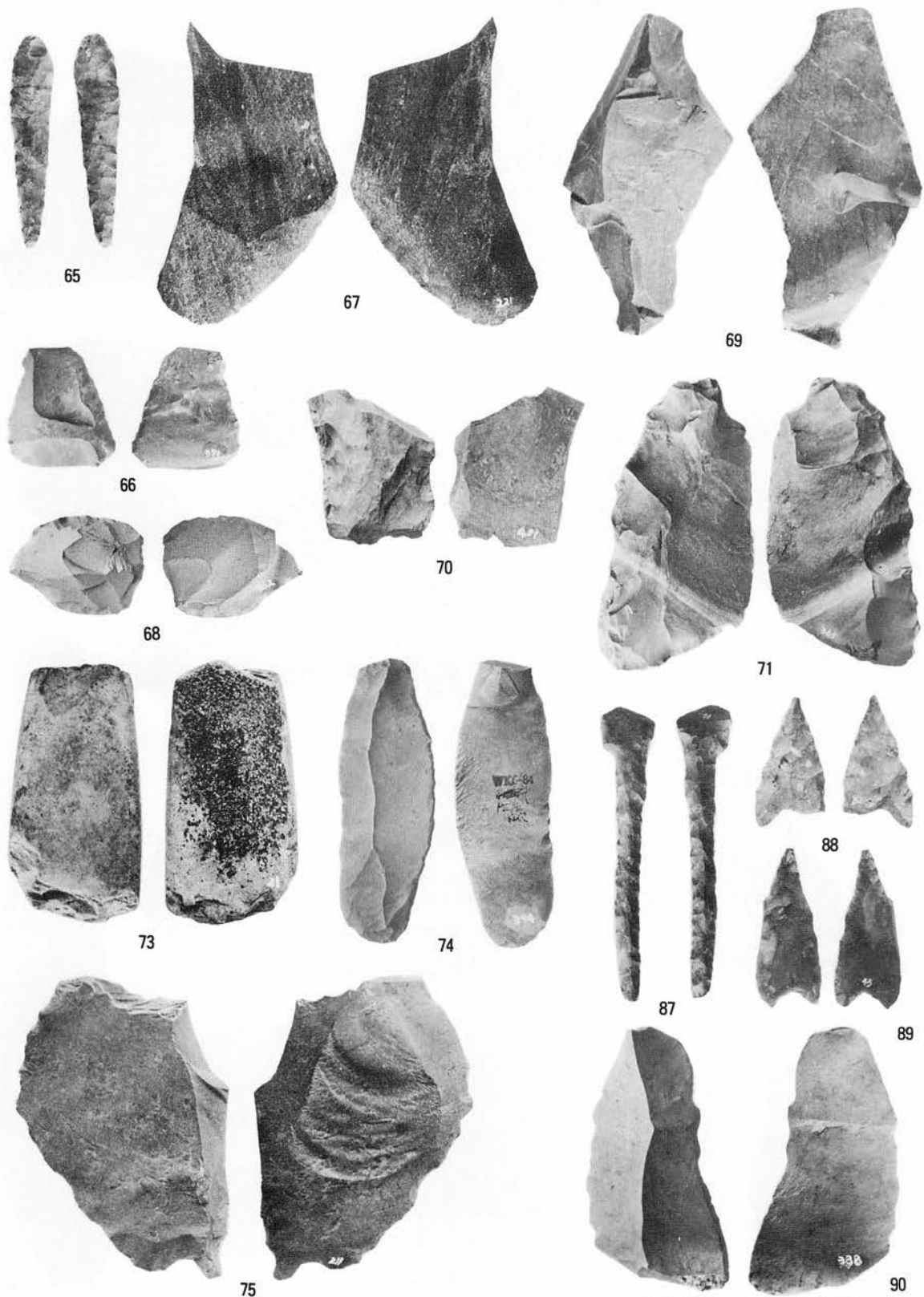
写真図版26 遺構伴出石器(2) S I住居跡



写真図版27 遺構伴出石器(3) S I住居跡

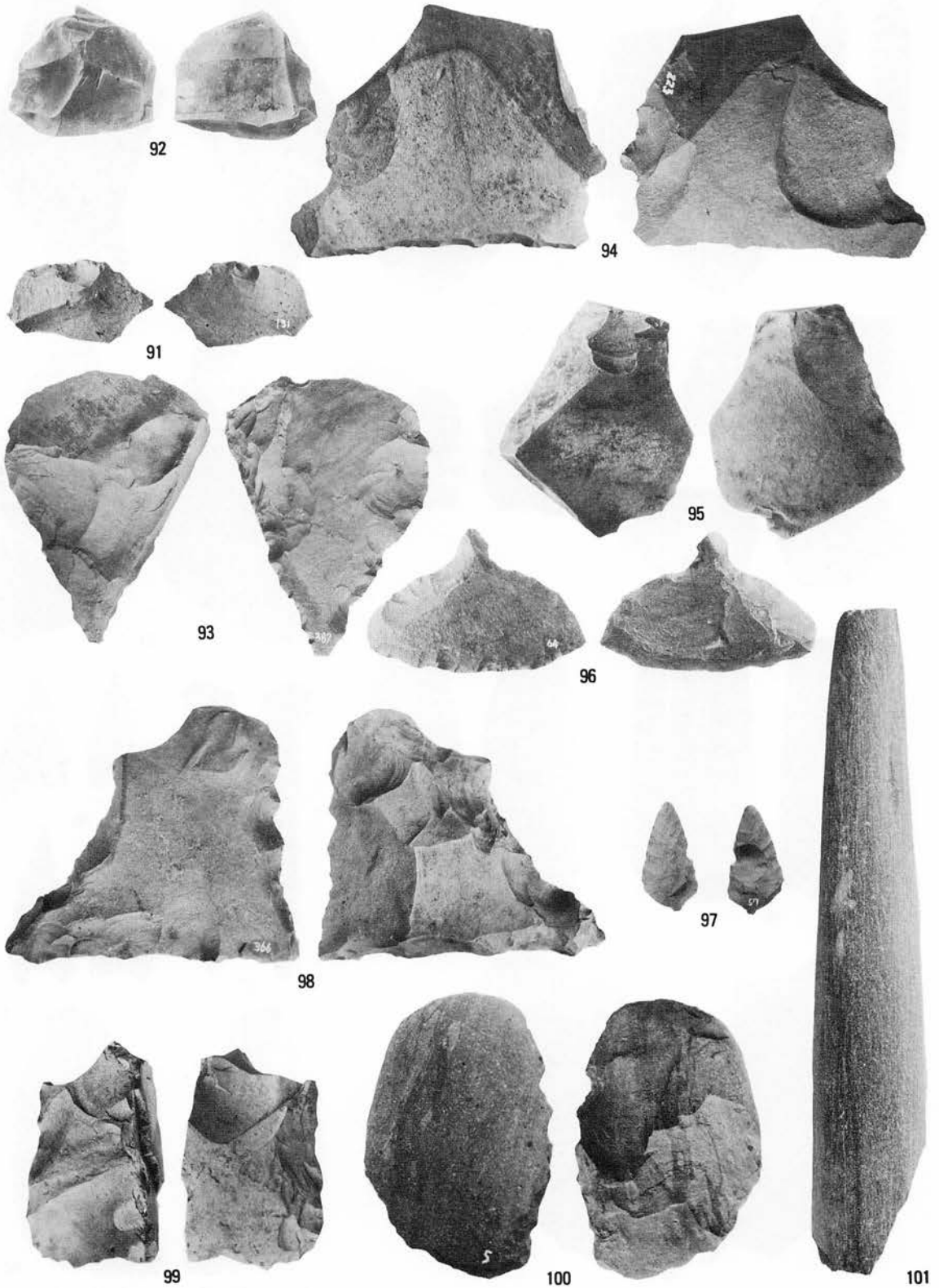


写真図版28 遺構伴出石器(4) 40~42・45S I住居跡、56~64北柱穴群



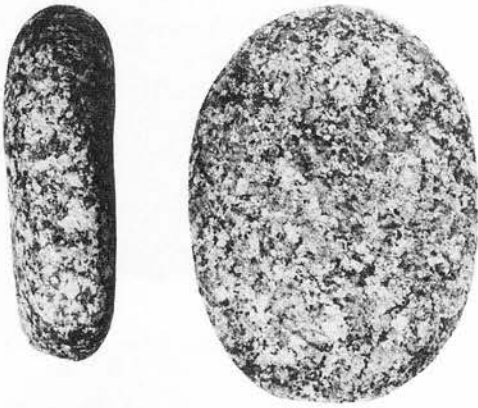
65~71北柱穴群、73~75 P III柱穴群
87~90南柱穴群

写真図版29 遺構伴出石器(5)



91~95南柱穴群、96P V-1ピット
97~101E VII陥し穴

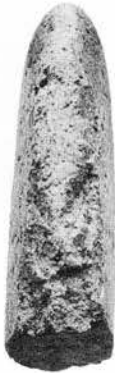
写真図版30 遺構伴出石器(6)



1



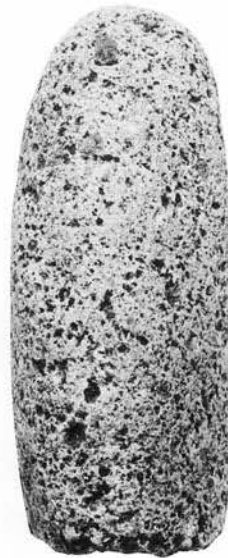
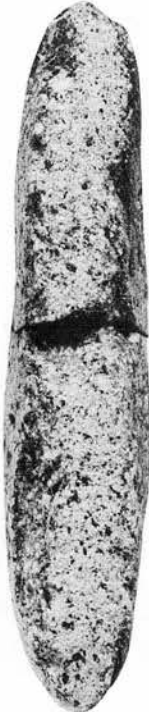
43



44



47



48



写真図版31 遺構伴出石器(7)

1 R I 住居跡
43・44・47・48 S I 住居跡



49



50



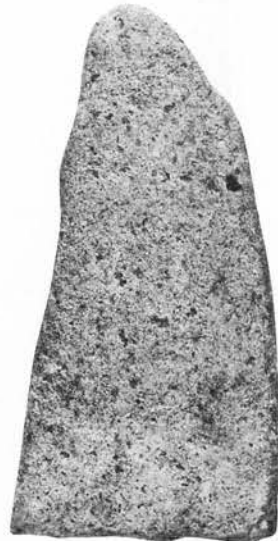
46



51

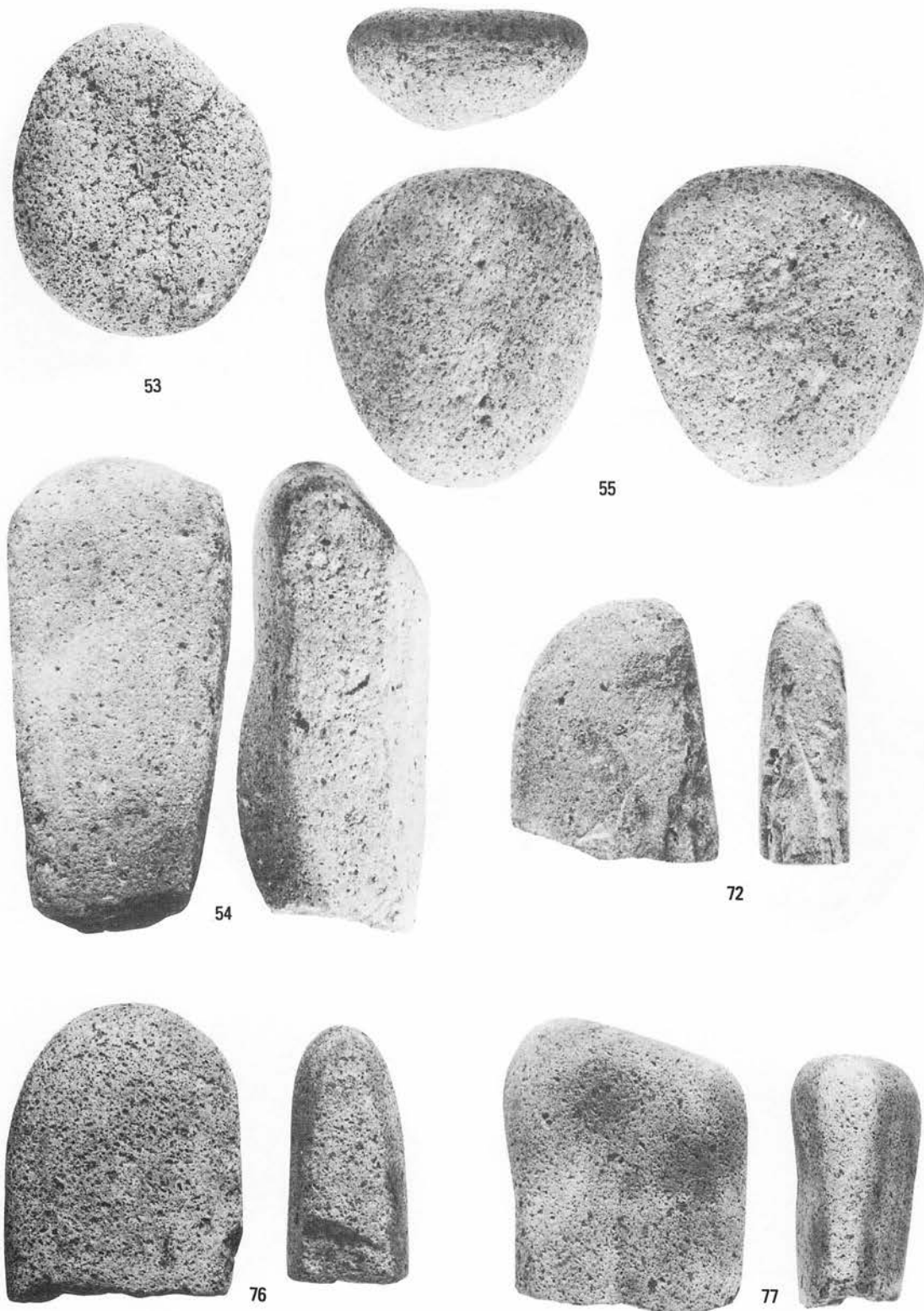


52



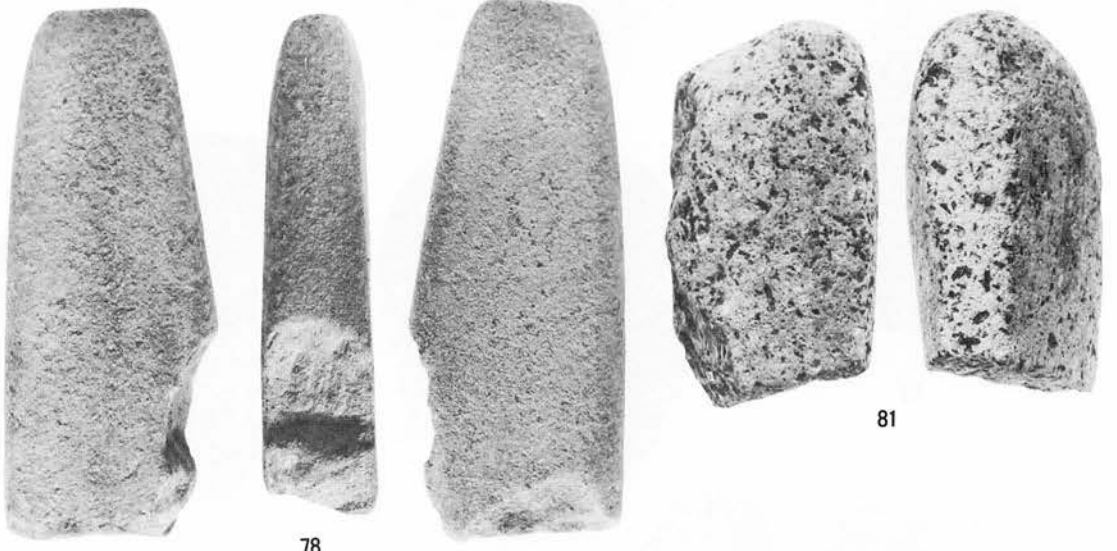
46・49・50 S I 住居跡
51・52 北柱穴群

写真図版32 遺構伴出石器(8)



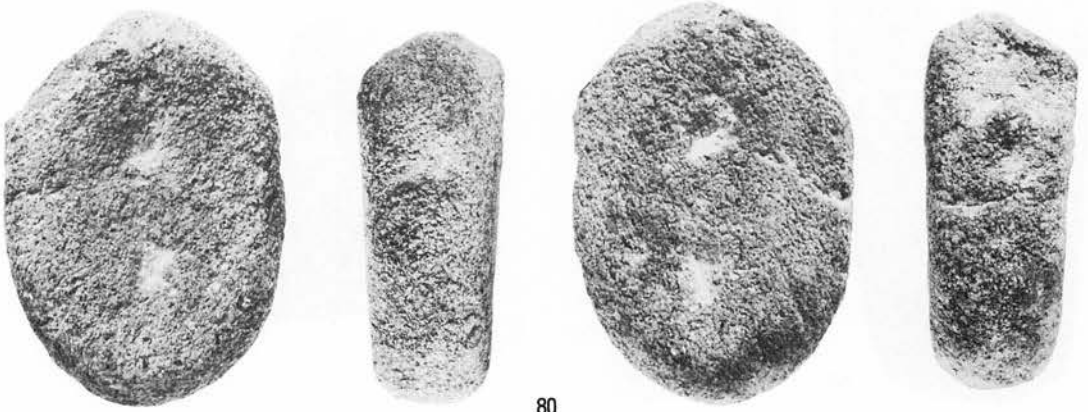
53・54北柱穴群、55HⅧ埋設土器
72PⅢ柱穴群、76・77南柱穴群

写真図版33 遺構伴出石器(9)

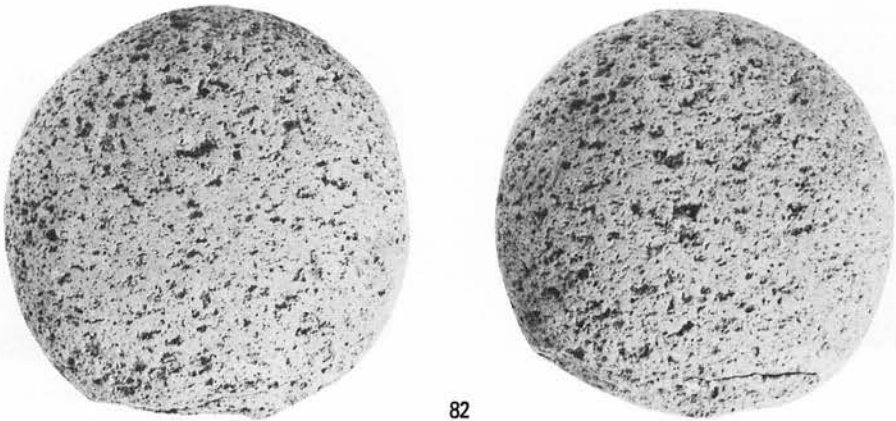


78

81



80



82

写真図版34 遺構伴出石器(10) 南柱穴群



79



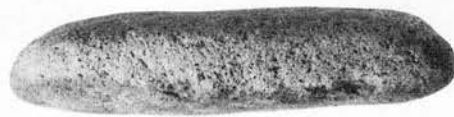
85



84

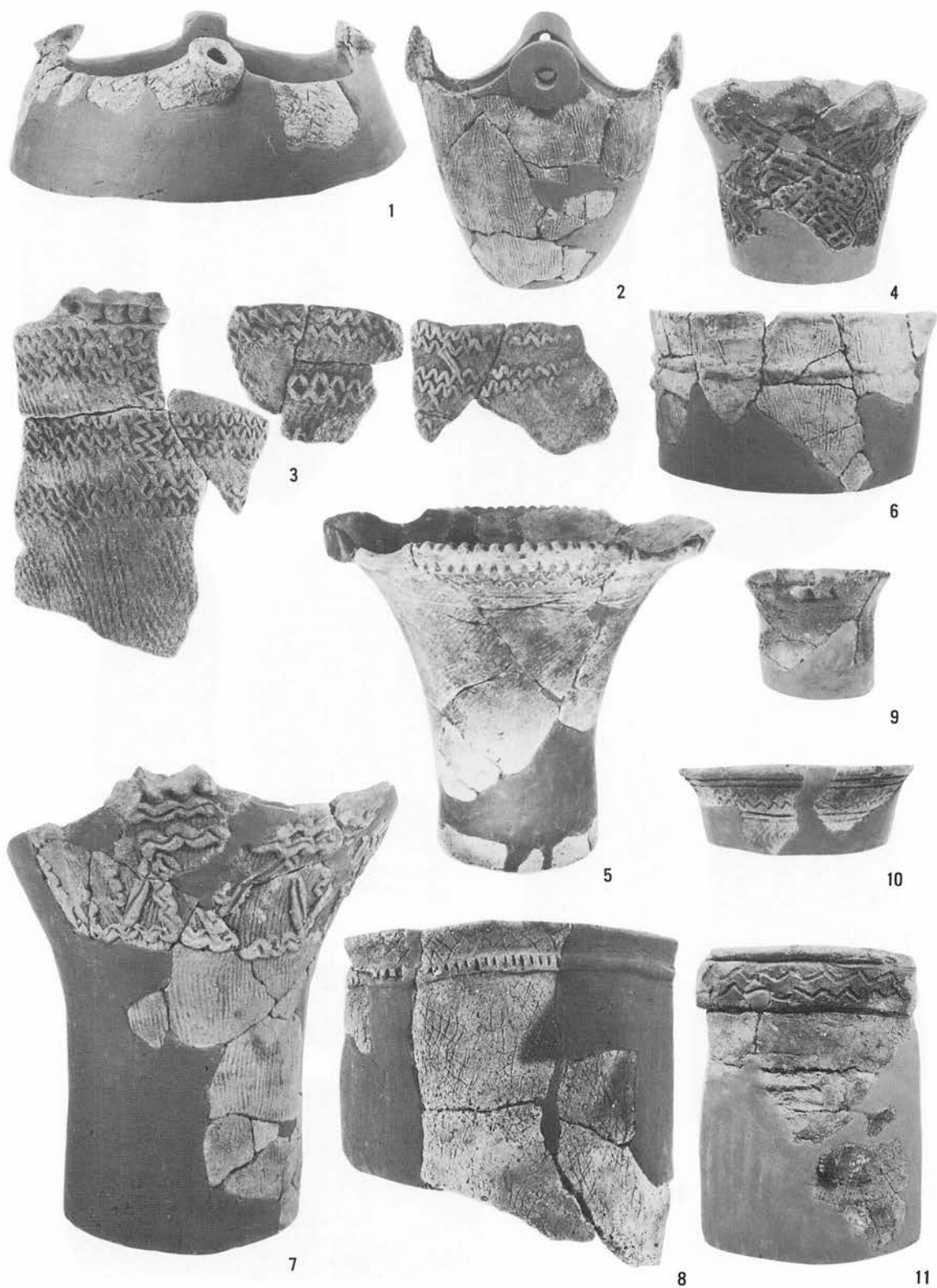


83



86

写真図版35 遺構伴出石器(II) 南柱穴群



写真図版36 遺構外出土土器(1)



12



13



16



15



17



18



14



19



20



21

写真図版37 遺構外出土土器(2)



22



23



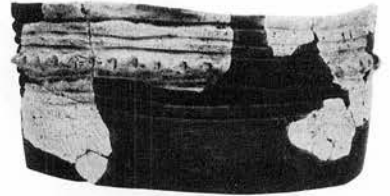
24



25



26



28



27



30



29



31



32



33

写真図版38 遺構外出土土器(3)



34



35



37



42



39

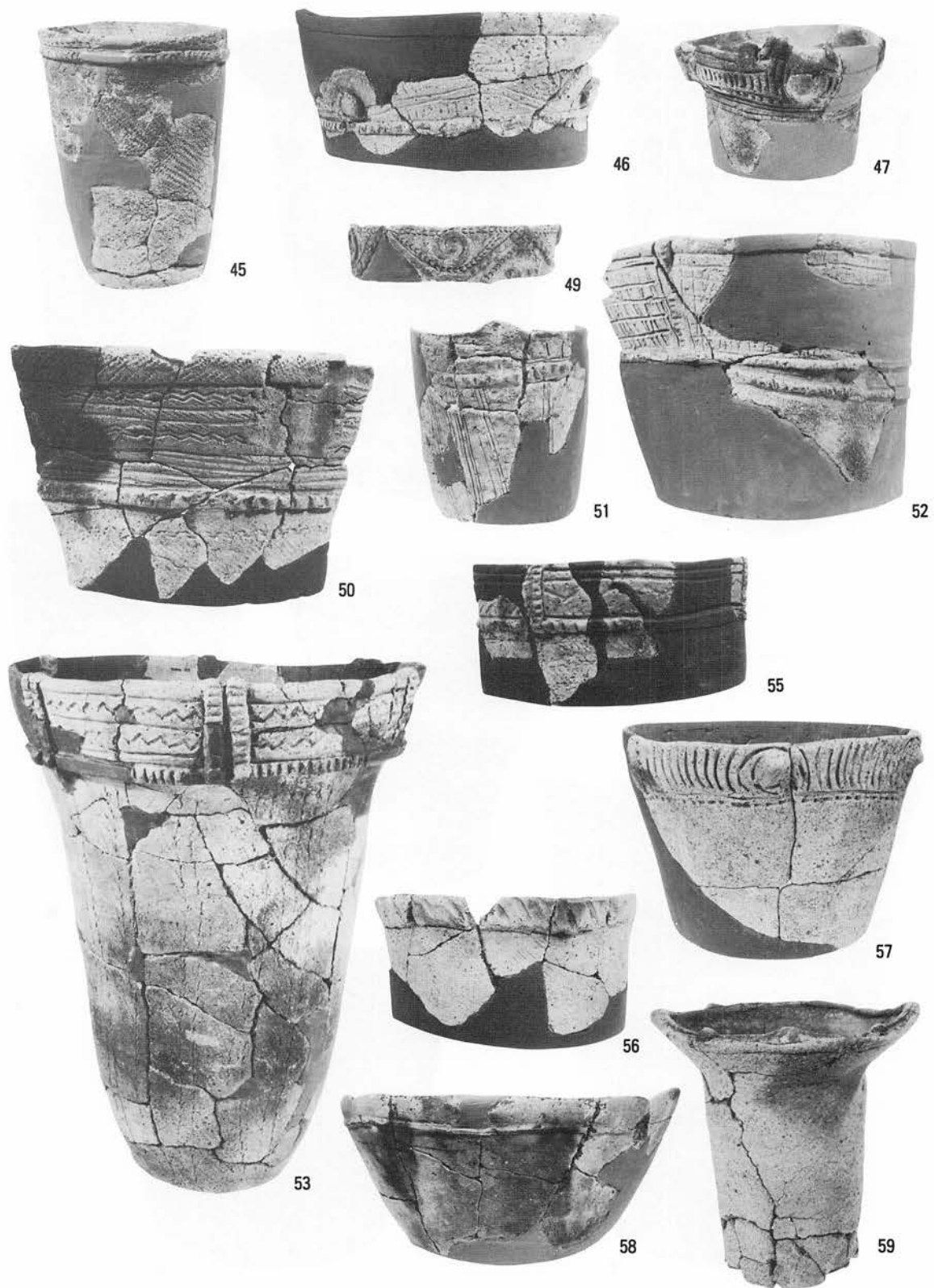


36

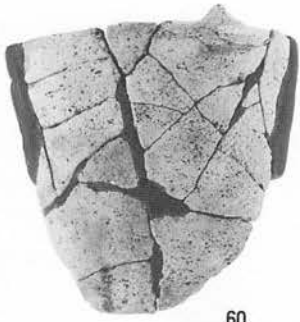


40

写真図版39 遺構外出土土器(4)



写真図版40 遺構外出土土器(5)



60



63



66



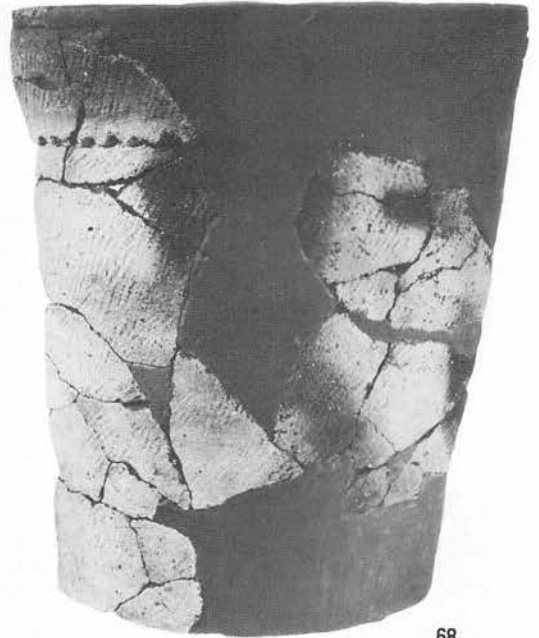
61



64



67



68

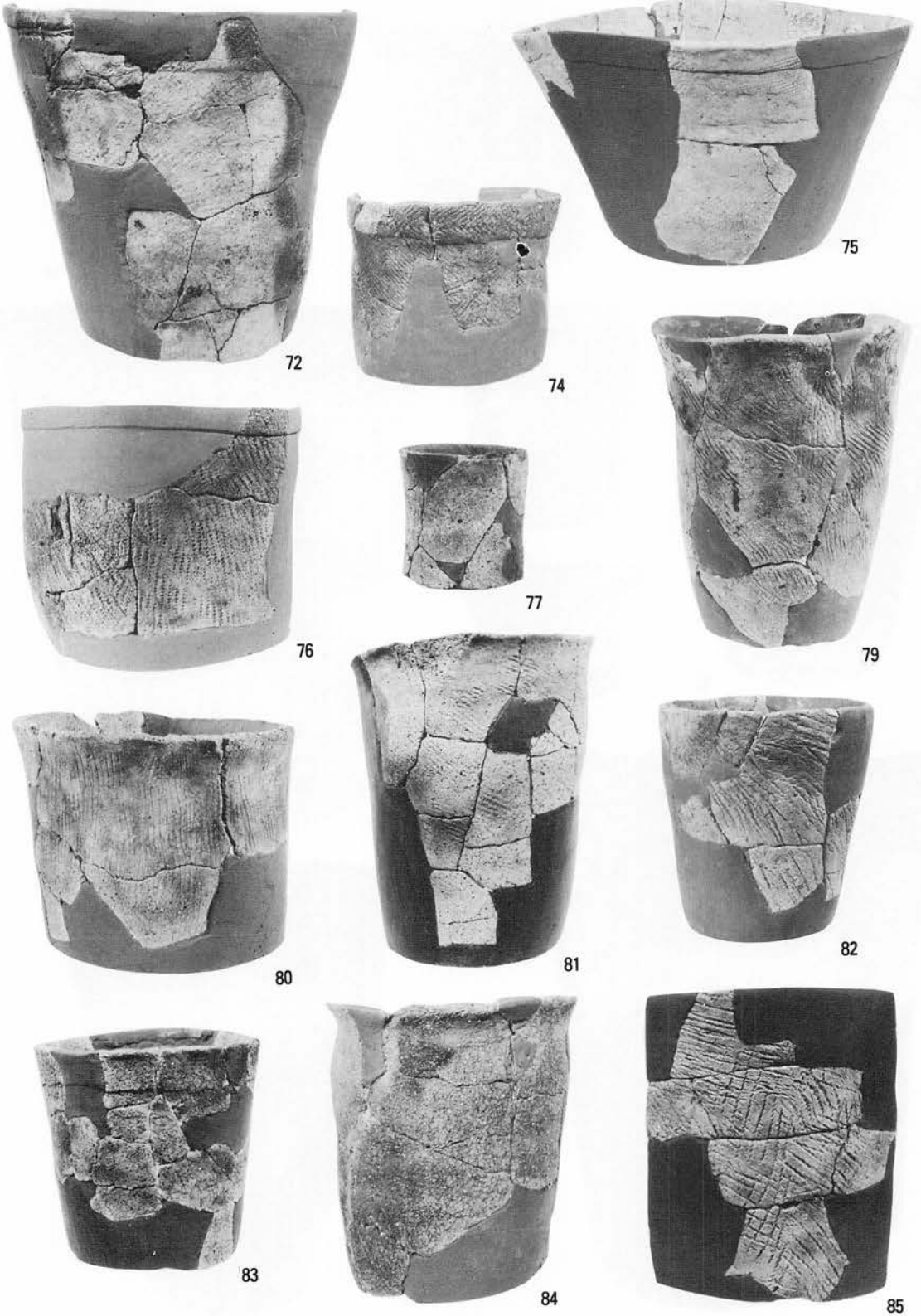


71

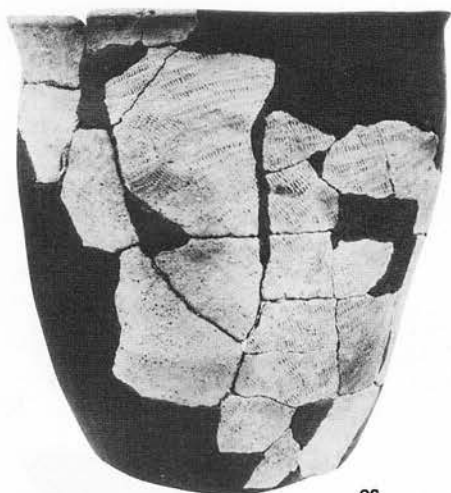


70

写真図版41 遺構外出土土器(6)



写真図版42 遺構外出土土器(7)



86



87



88



89



90



92

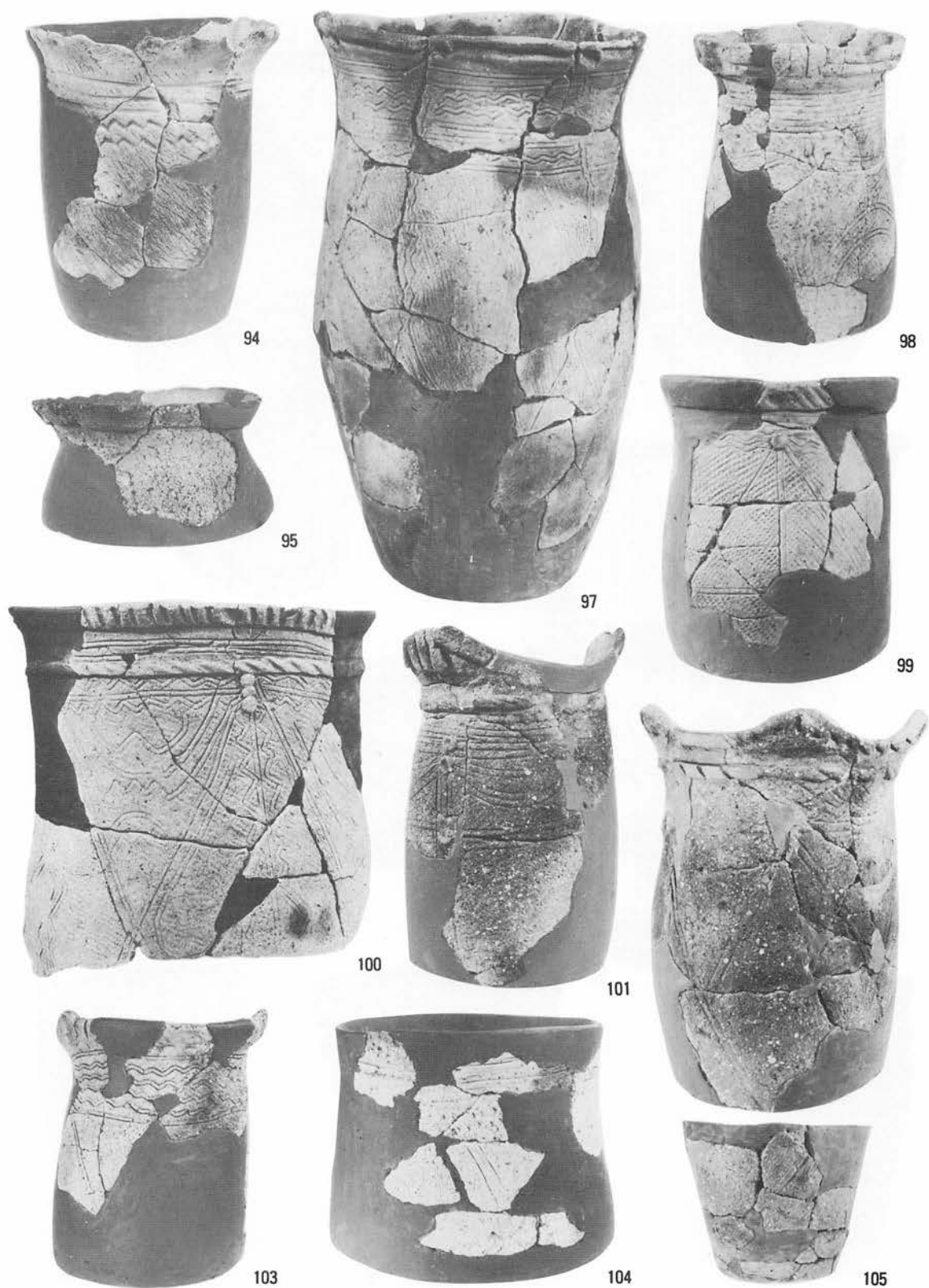


91

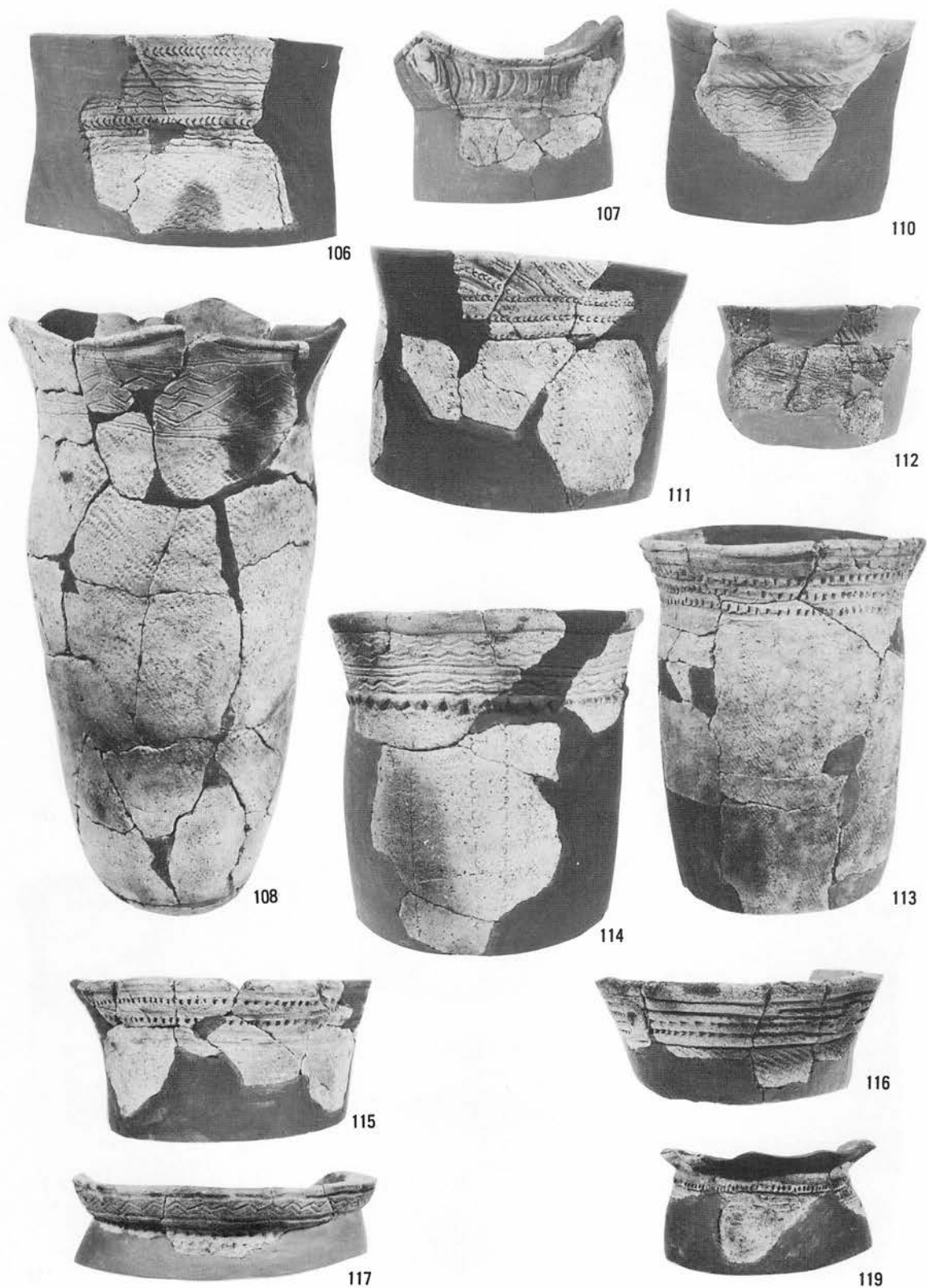


93

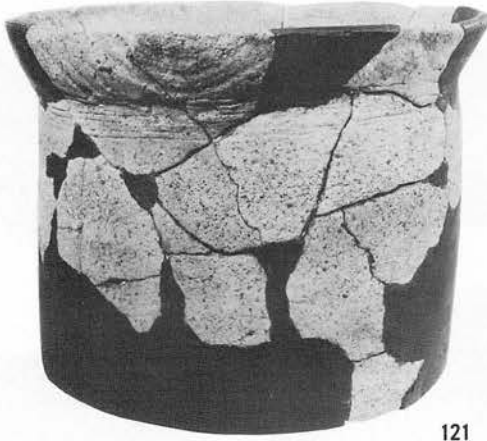
写真図版43 遺構外出土土器(8)



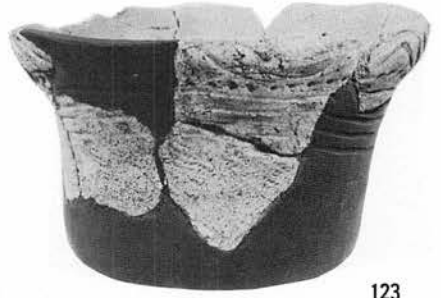
写真図版44 遺構外出土土器(9)



写真图版45 遺構外出土土器(10)



121



123



127



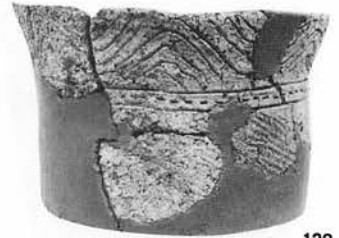
124



125



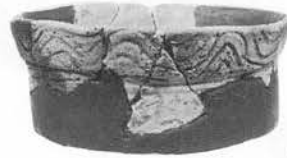
126



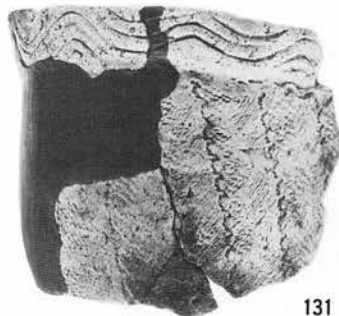
128



129



130



131



132

写真図版46 遺構外出土土器(II)



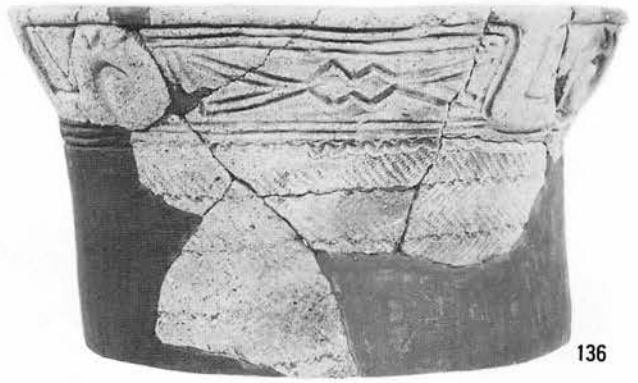
133



134



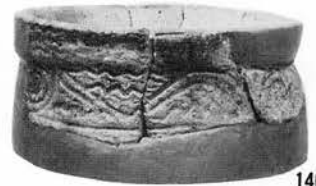
135



136



139



140



138



141

写真図版47 遺構外出土土器(12)



142



143



145



146



147



149



150

写真図版48 遺構外出土土器(13)



151



152



153



157



156



158



159

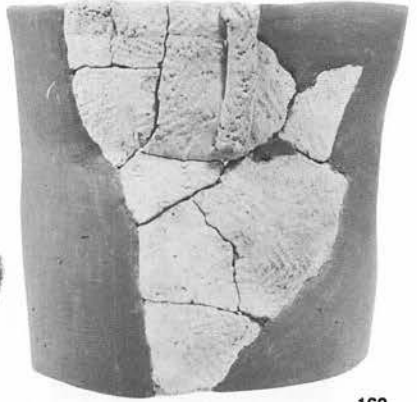
写真図版49 遺構外出土土器(14)



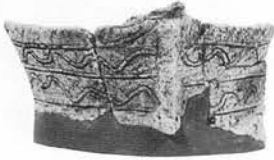
160



161



162



163



164



165

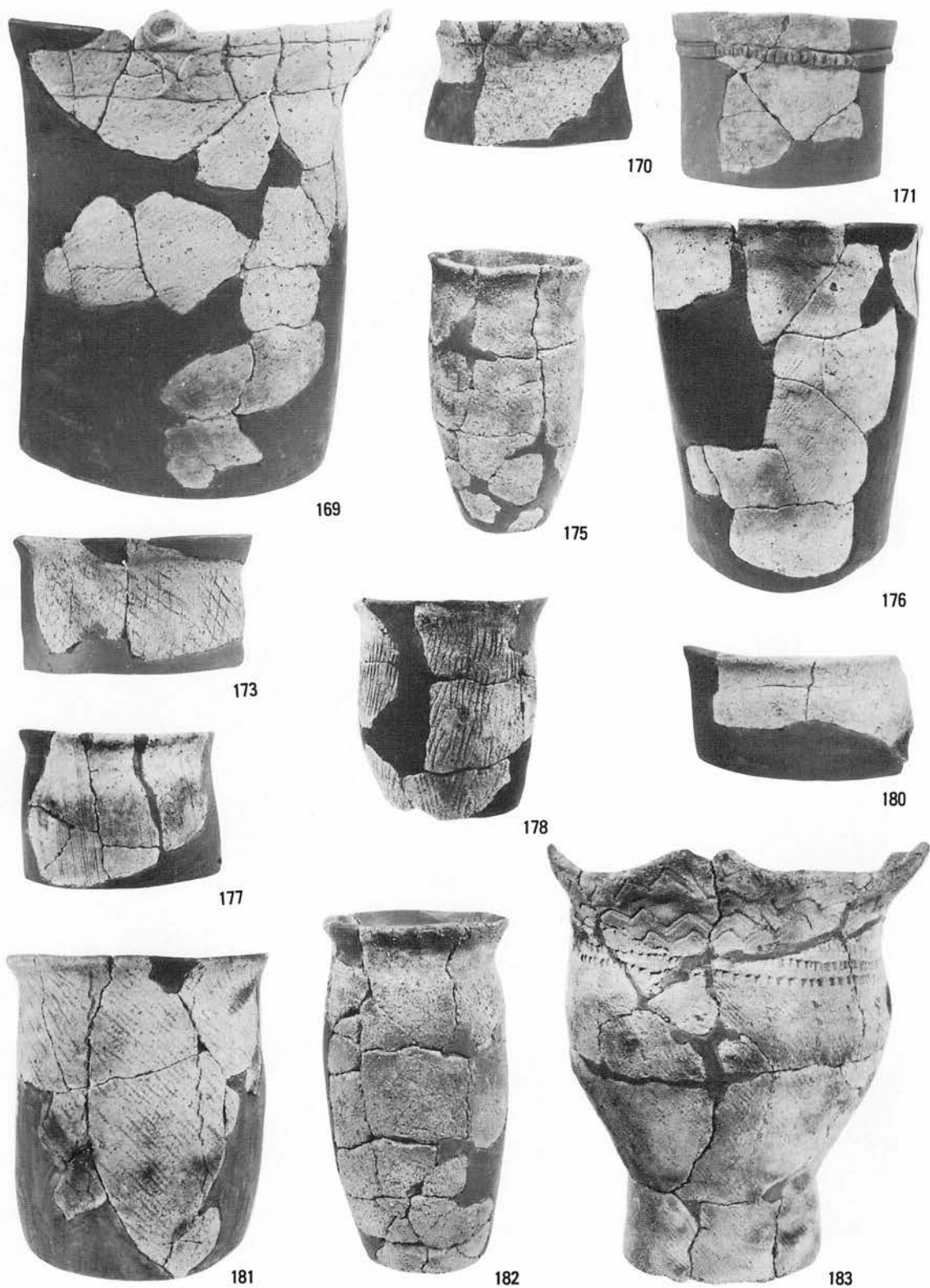


167



168

写真図版50 遺構外出土土器(15)



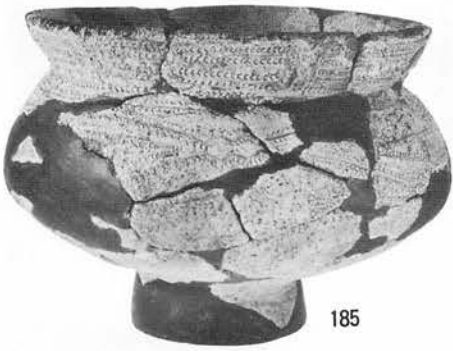
写真図版51 遺構外出土土器(16)



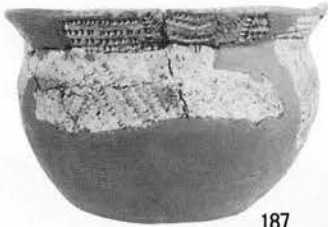
184



186



185



187



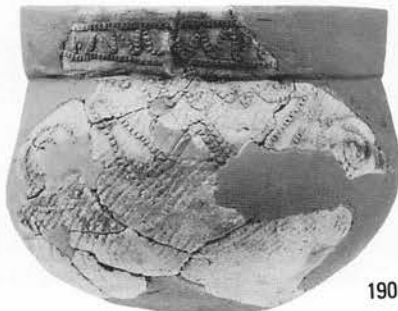
189



188



191



190

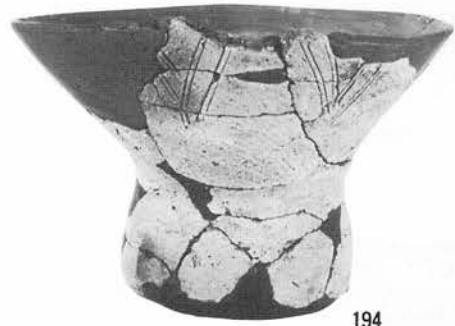


192

写真図版52 遺構外出土土器(17)



193



194



197



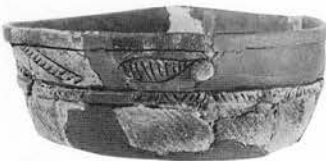
195



198



199



200

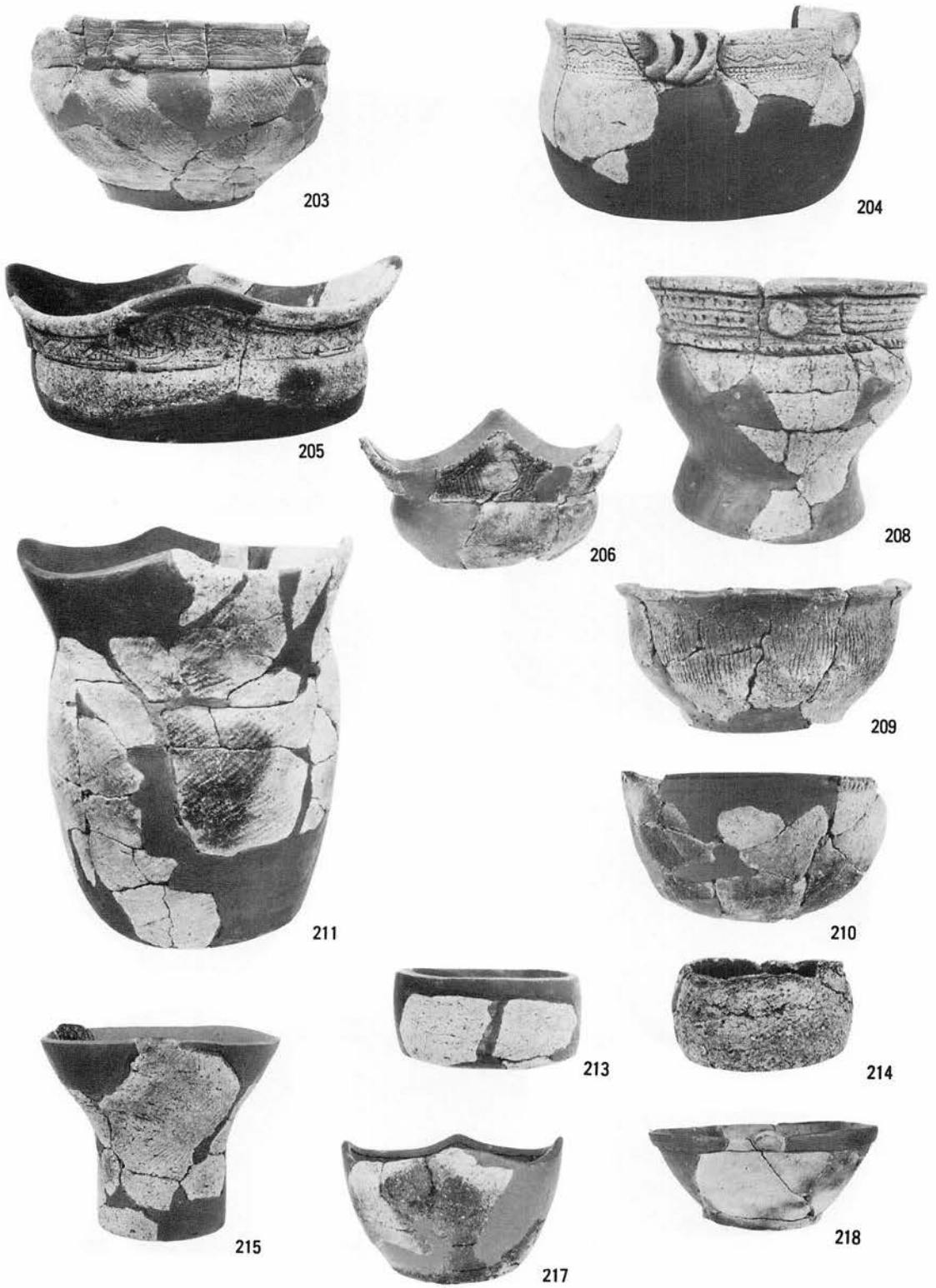


201

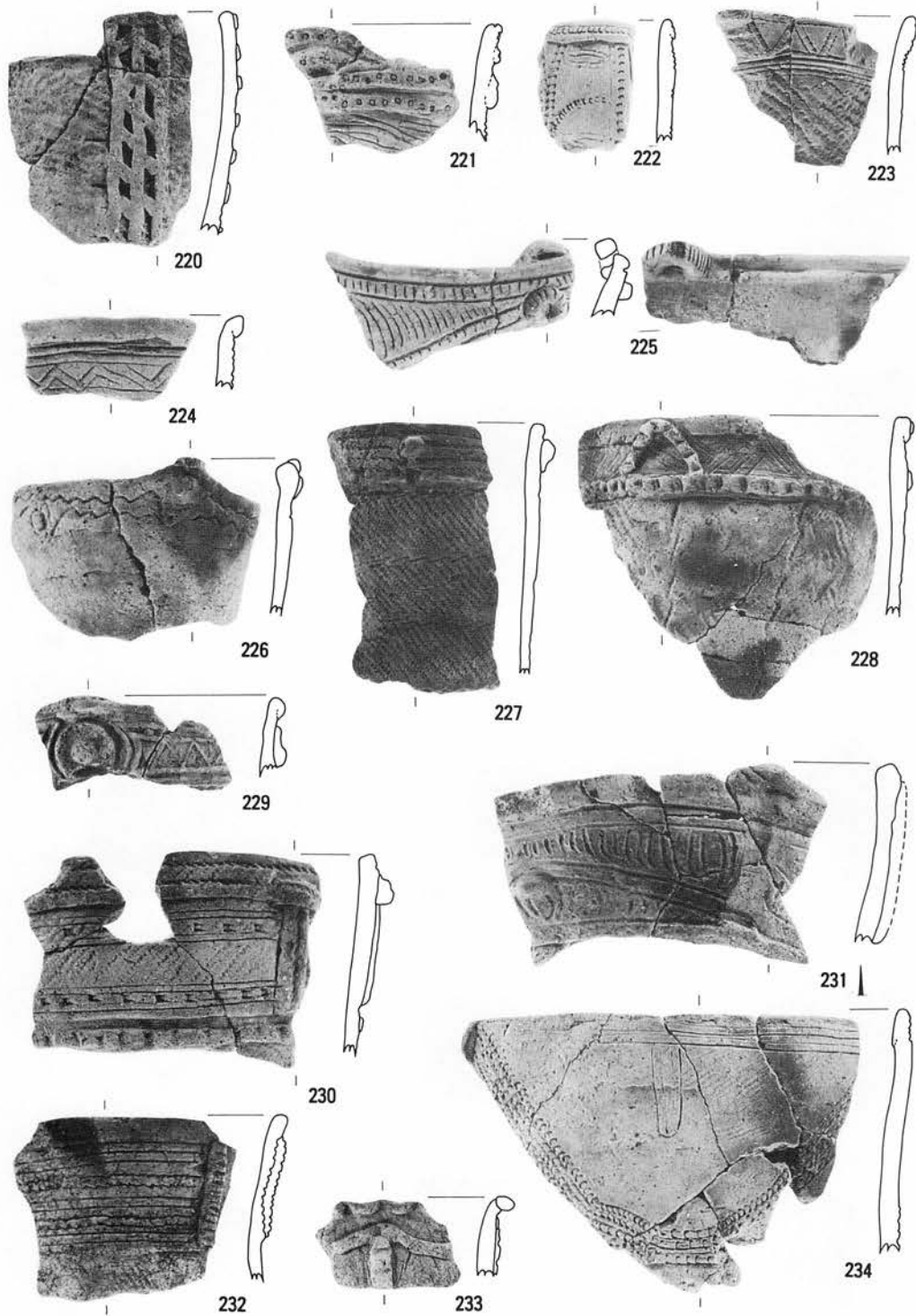


202

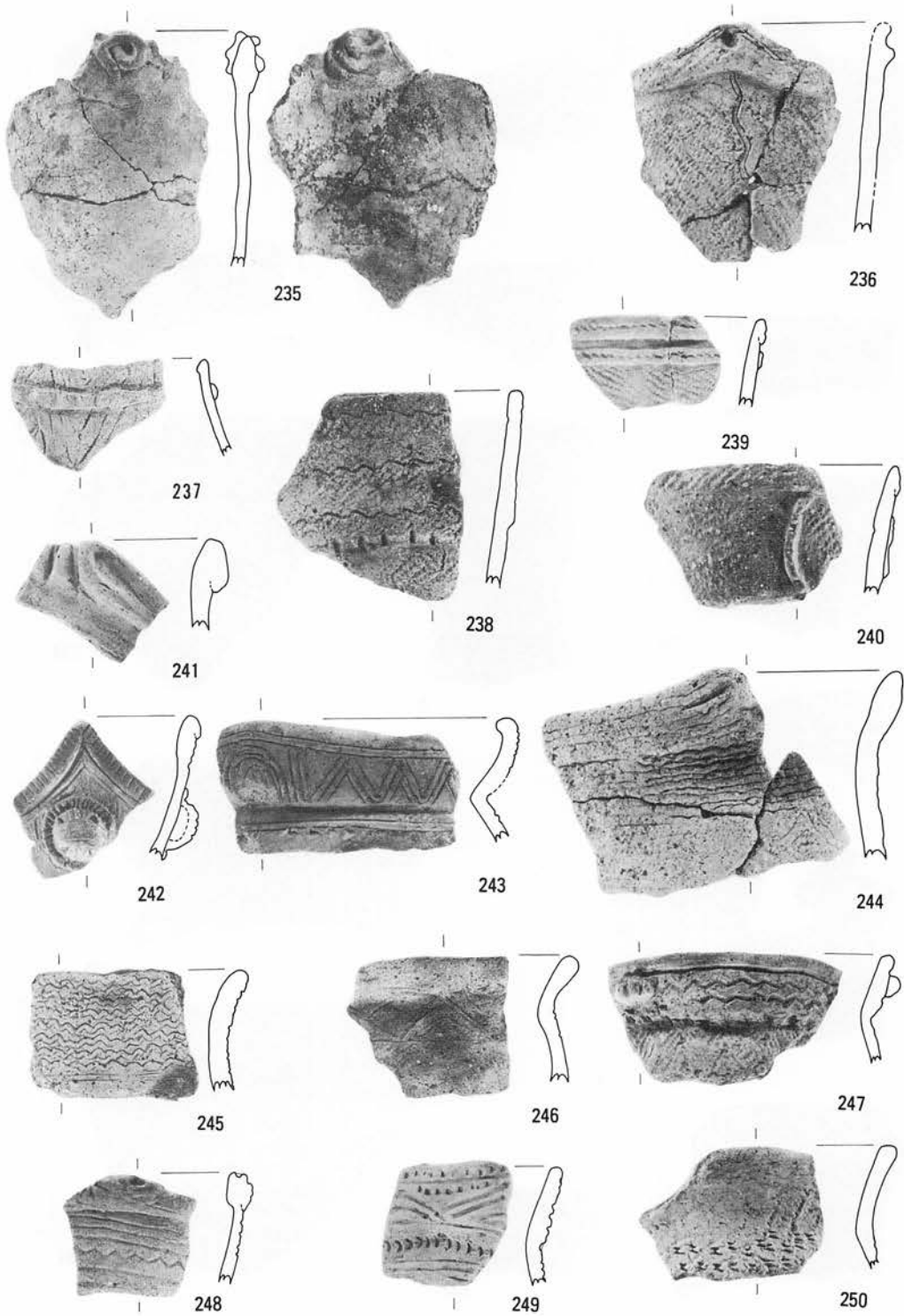
写真図版53 遺構外出土土器(18)



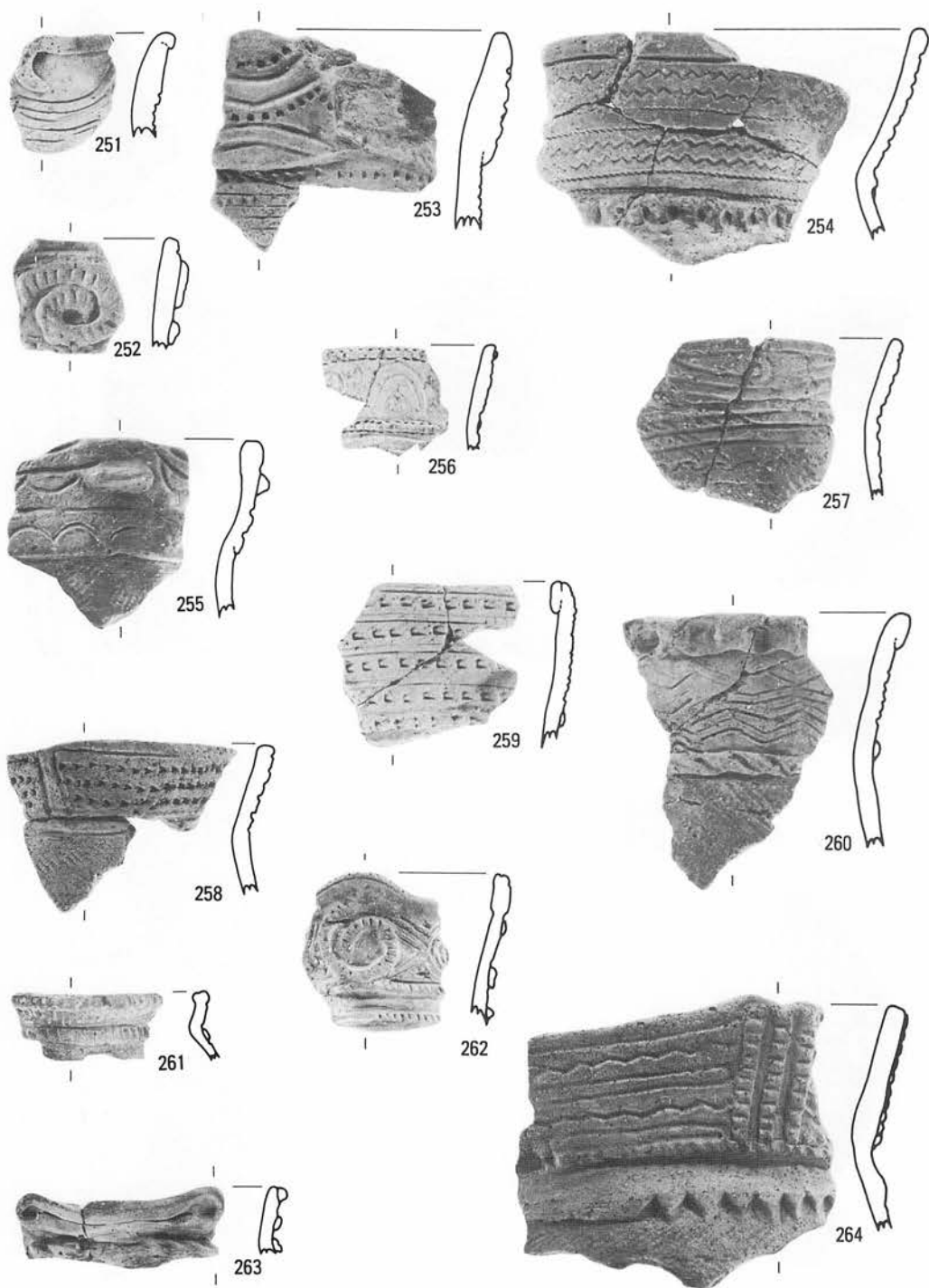
写真図版54 遺構外出土土器(19)



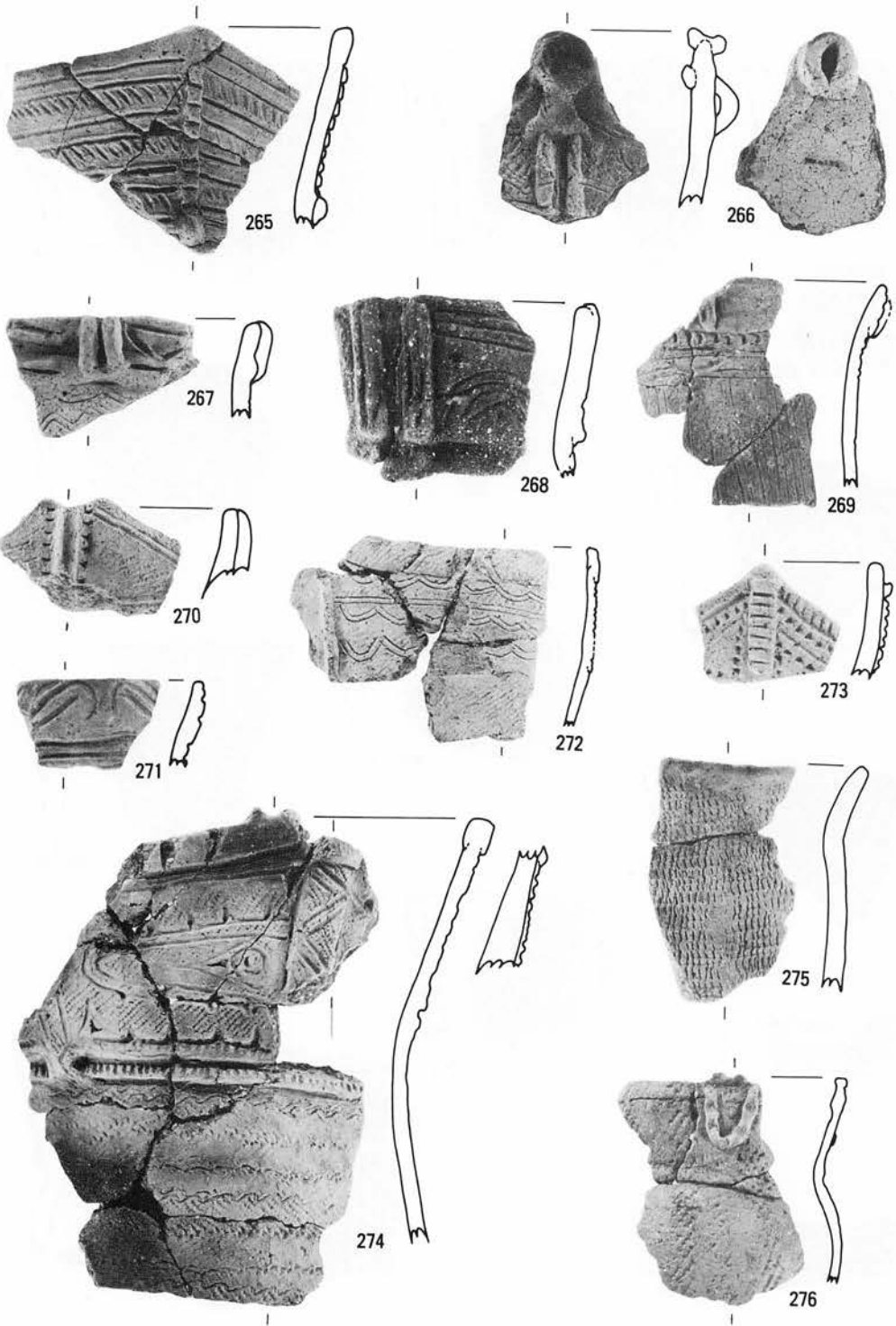
写真图版55 遺構外出土土器片(1)



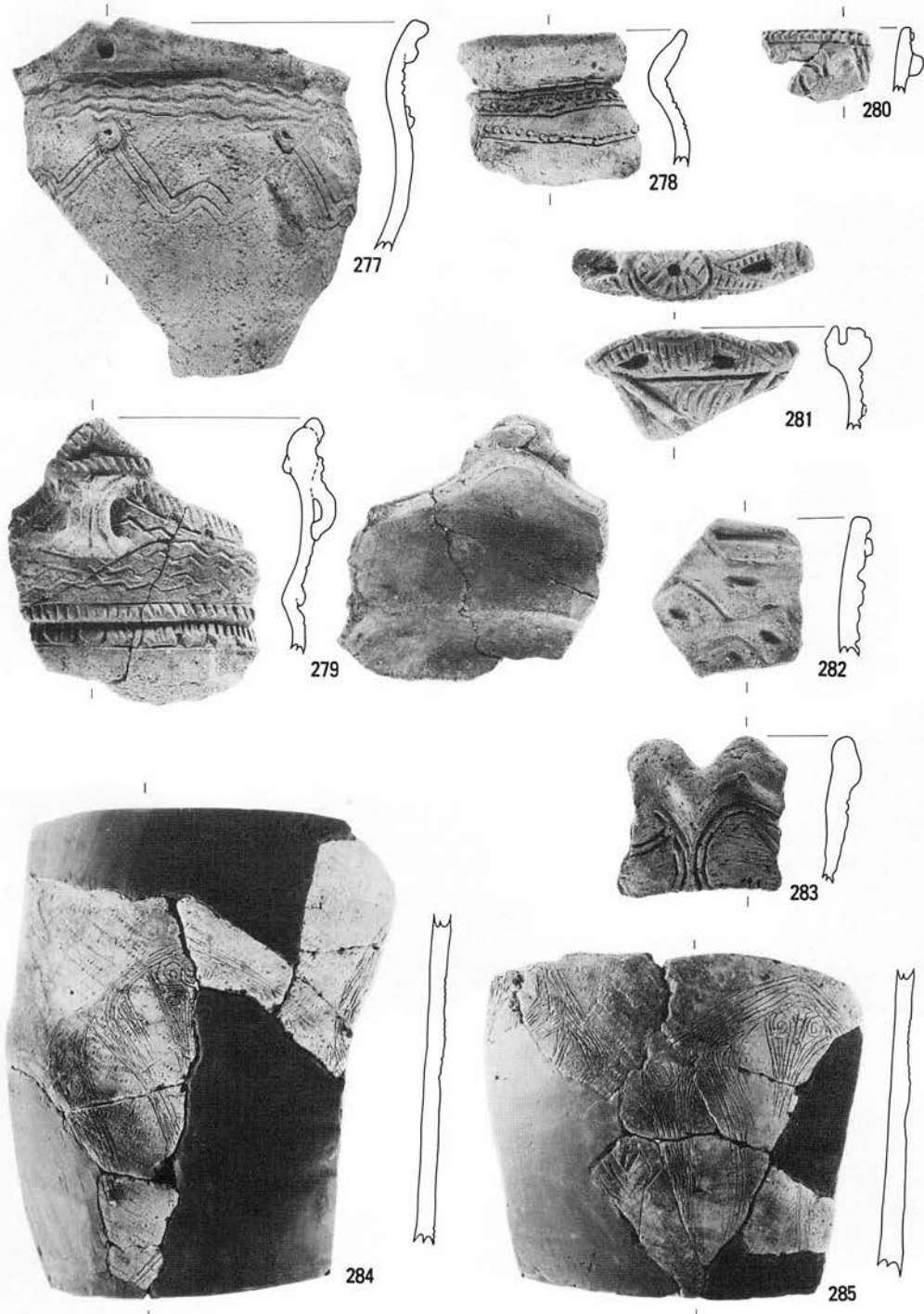
写真図版56 遺構外出土土器片(2)



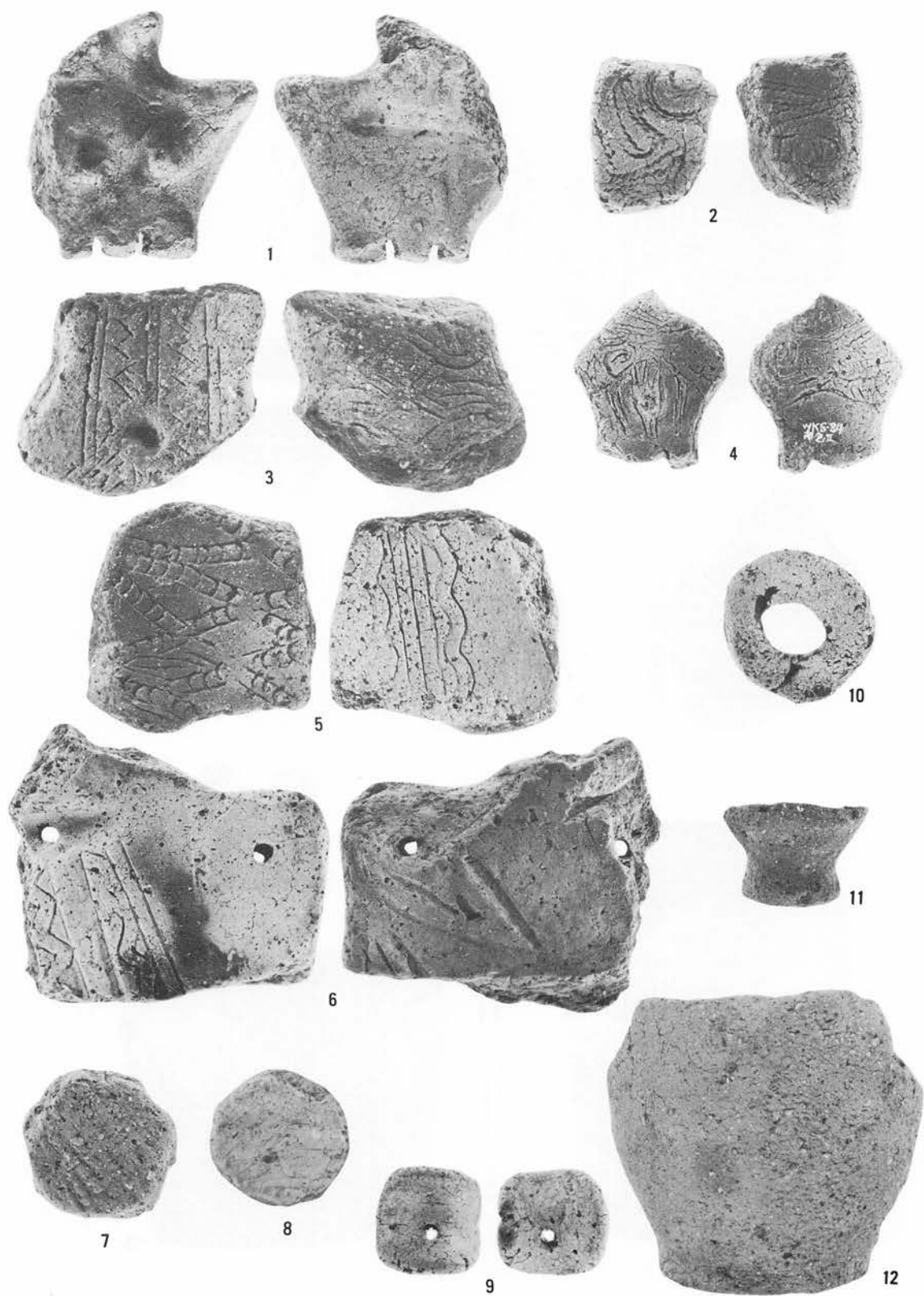
写真図版57 遺構外出土土器片(3)



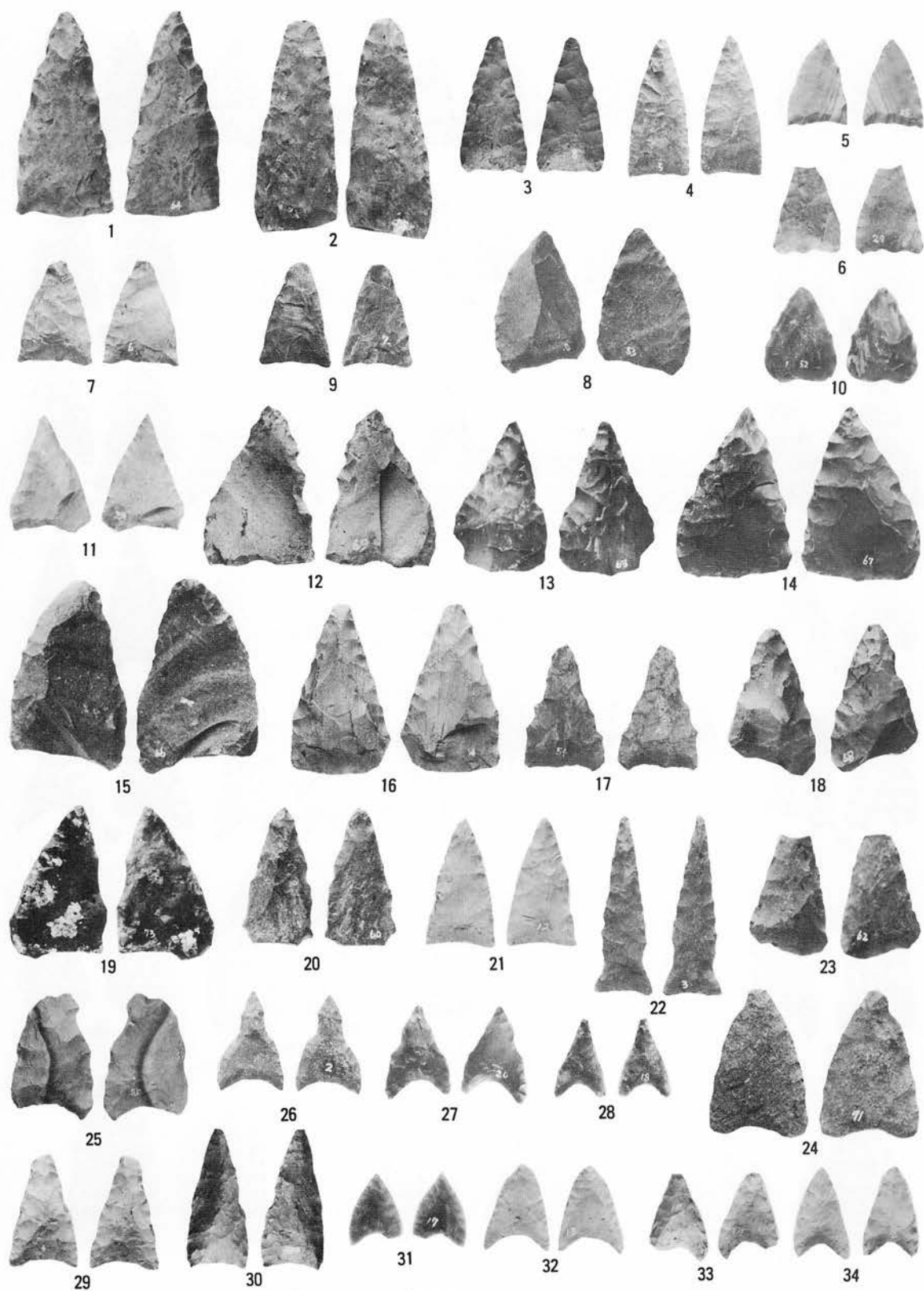
写真图版58 遺構外出土土器片(4)



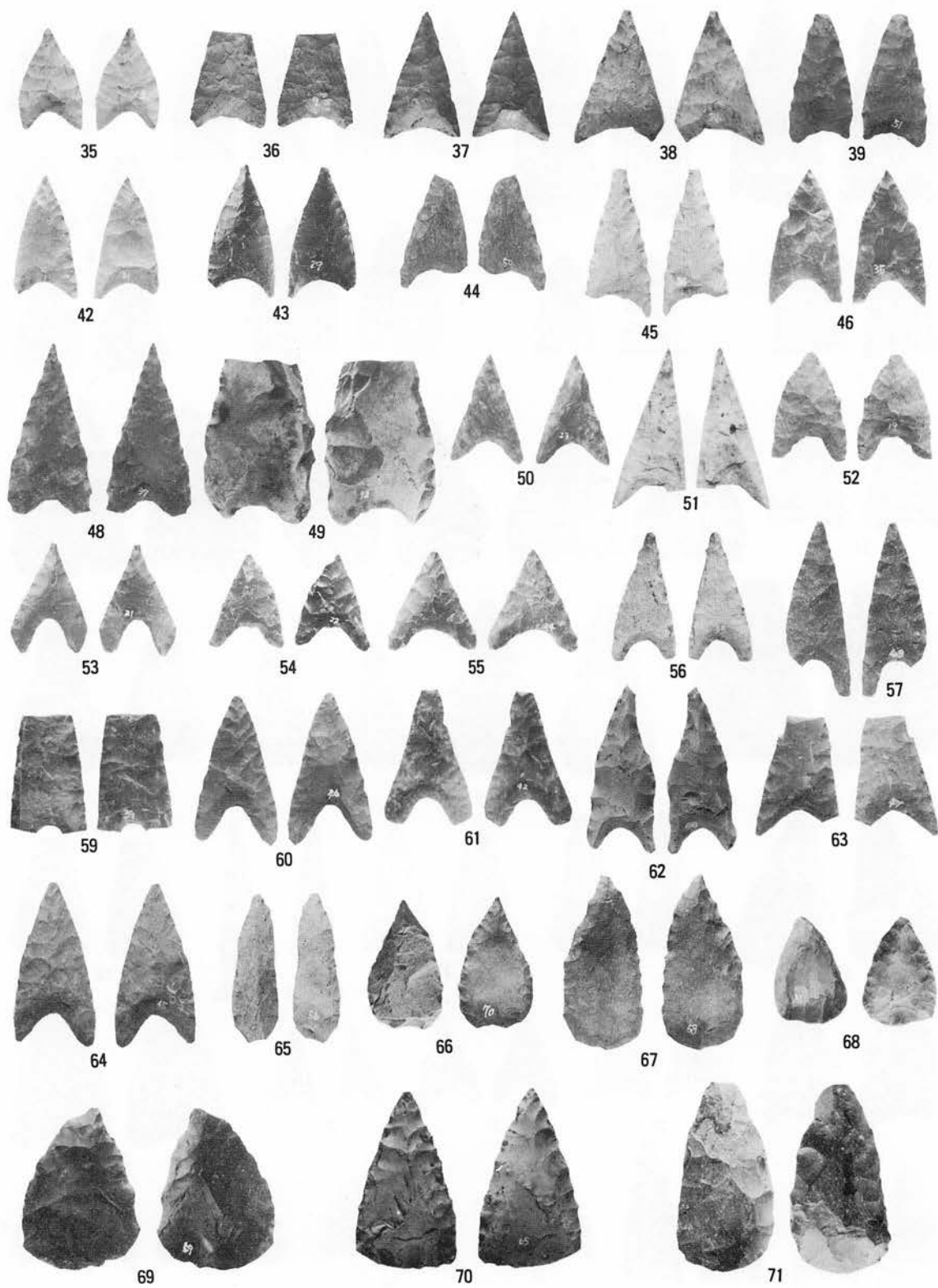
写真図版59 遺構外出土土器片(5)



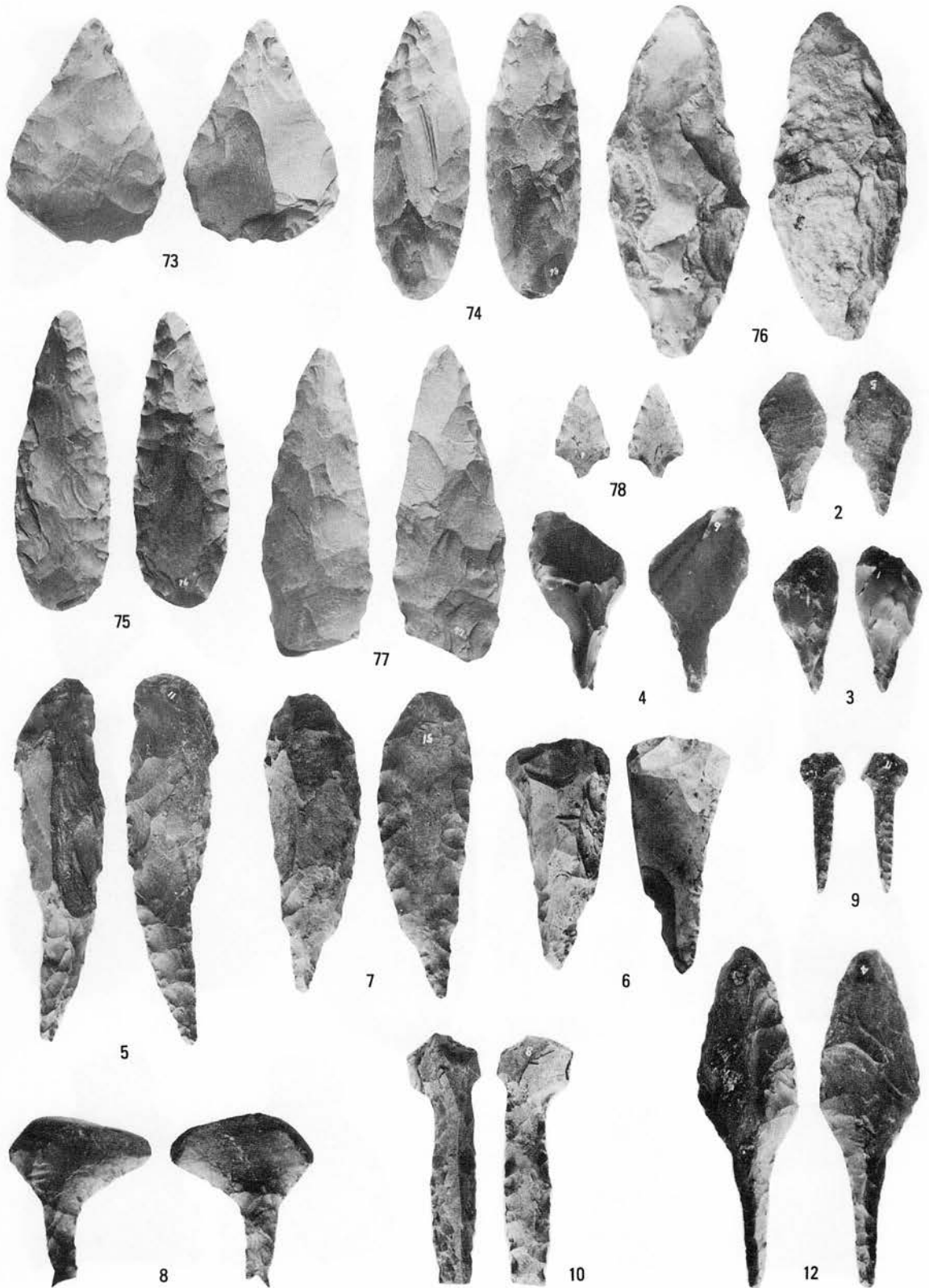
写真図版60 土製品 2. は北柱穴群出土



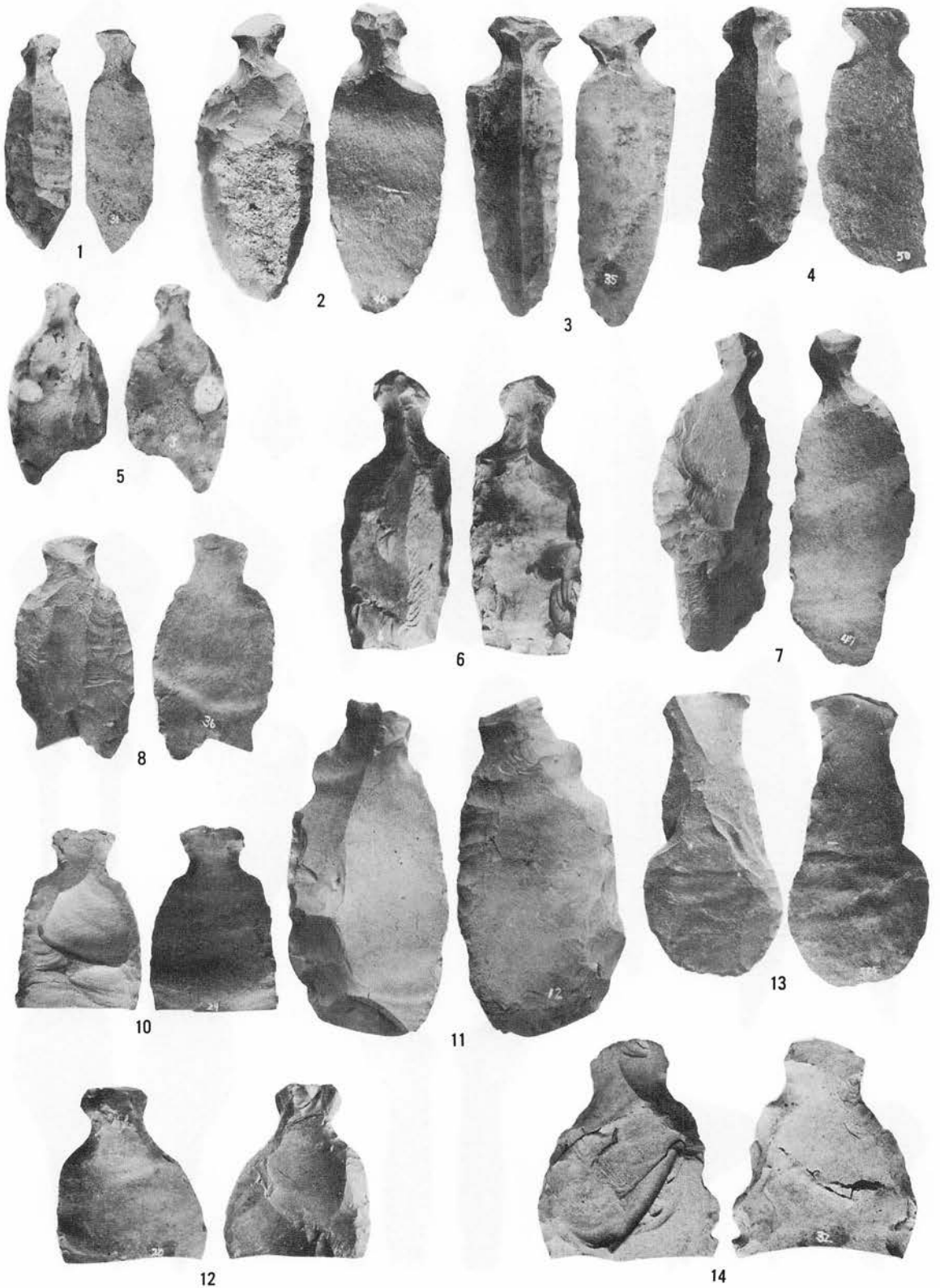
写真図版61 遺構外出土石器 a. 石鏃・石槍(1)



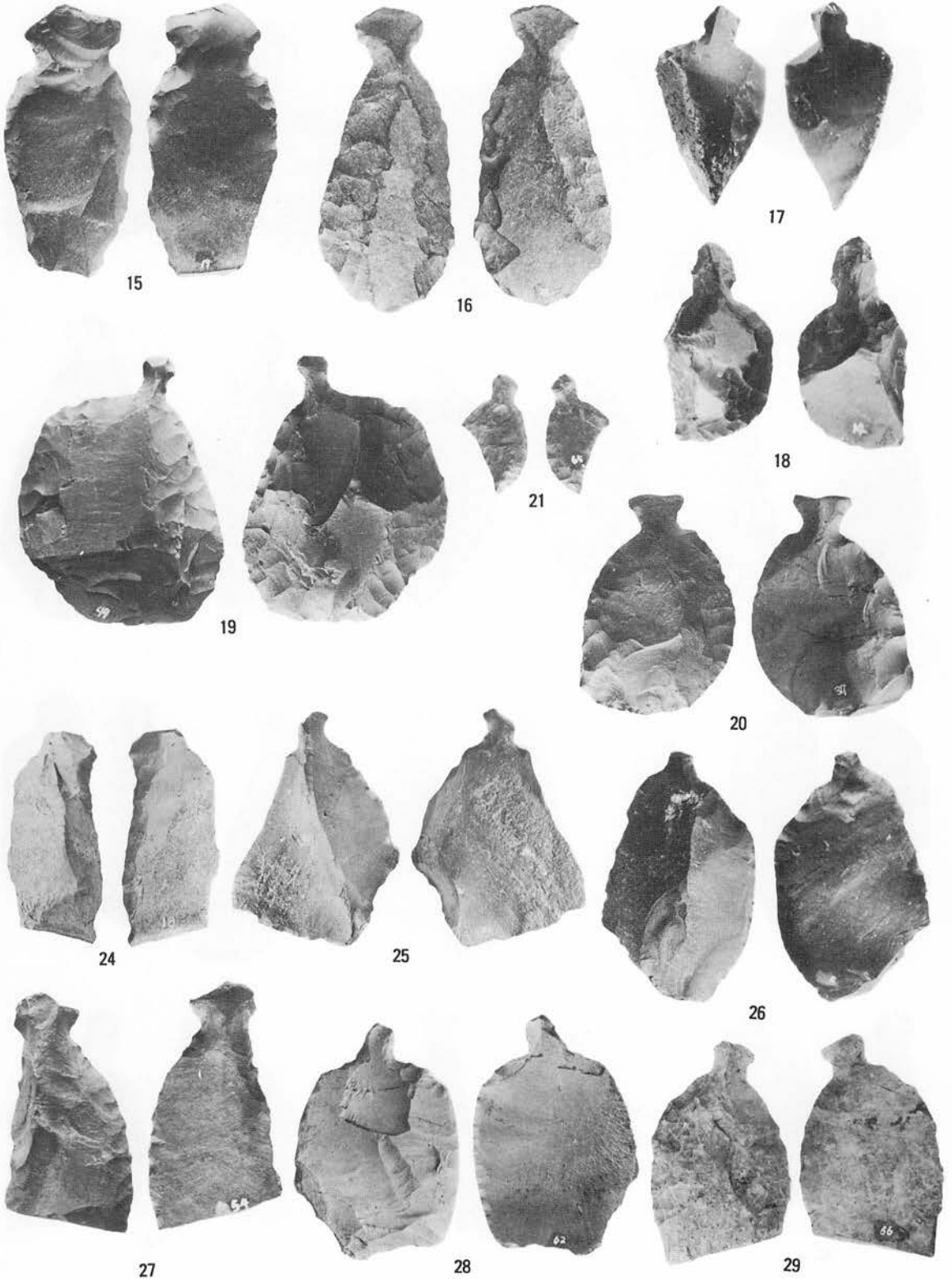
写真図版62 遺構外出土石器 a. 石鏃・石槍(2)



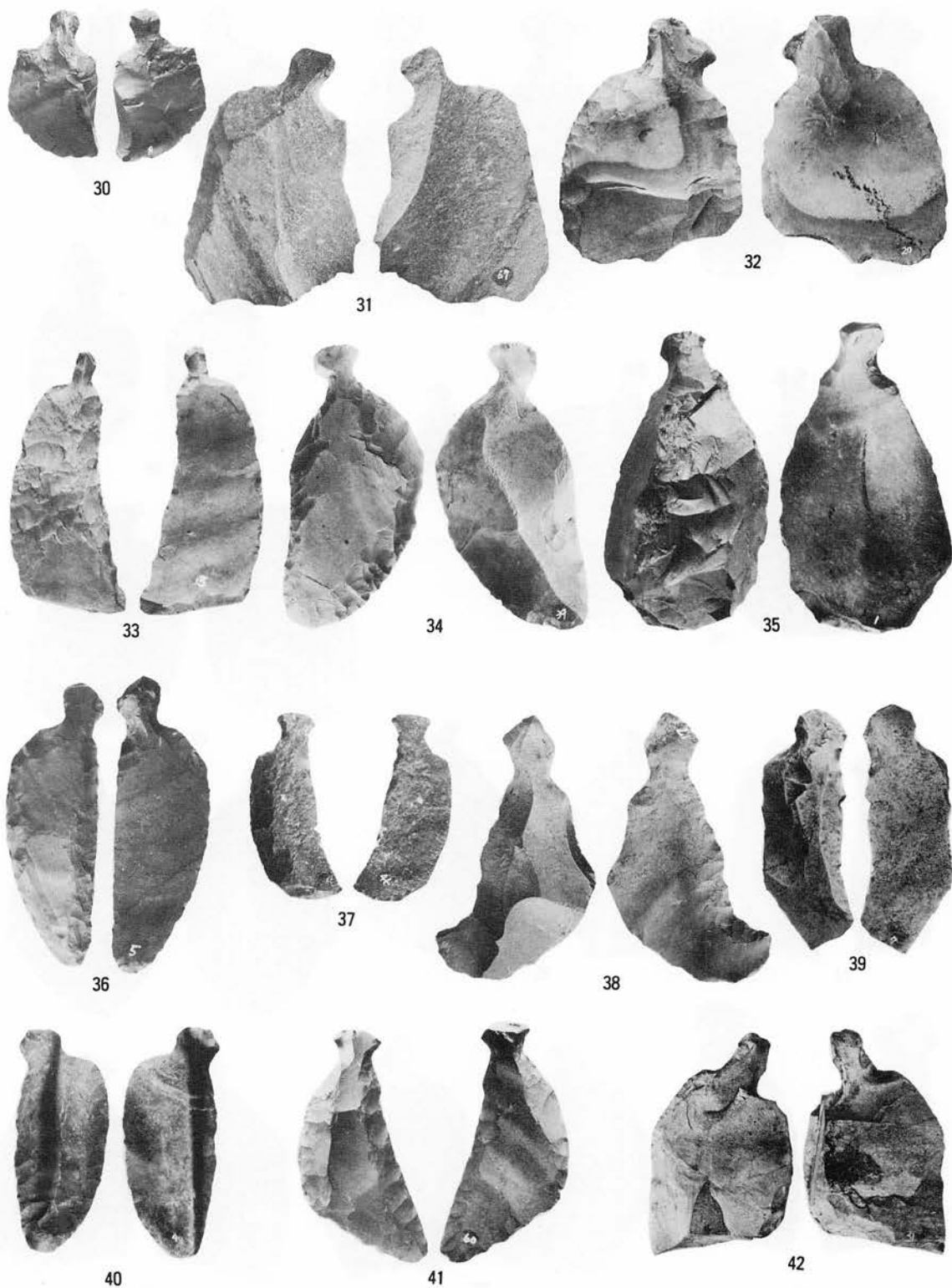
写真図版63 遺構外出土石器 a. 石鏃・石槍(3) b. 石錐



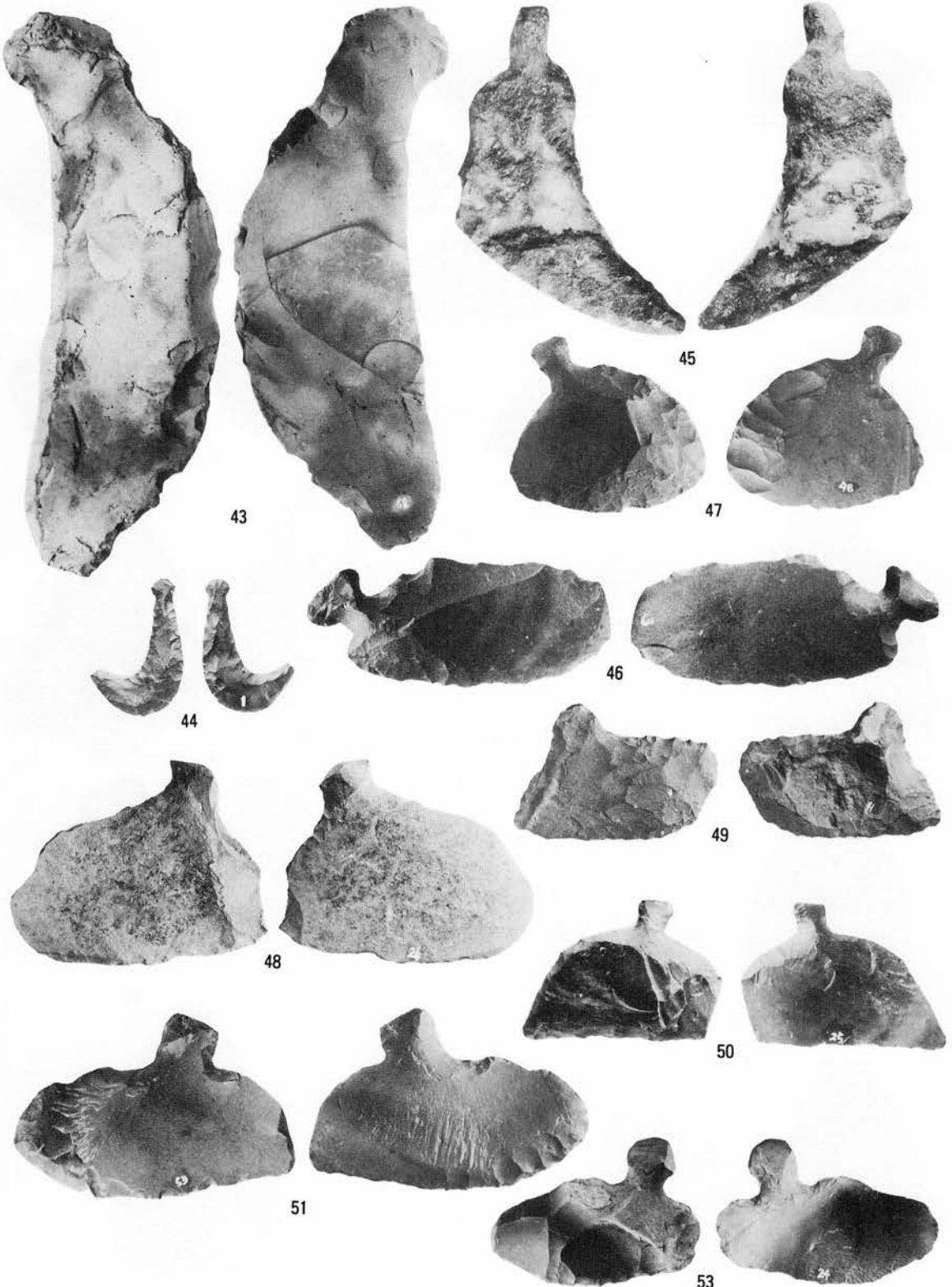
写真図版64 遺構外出土石器 c. 石匙(1)



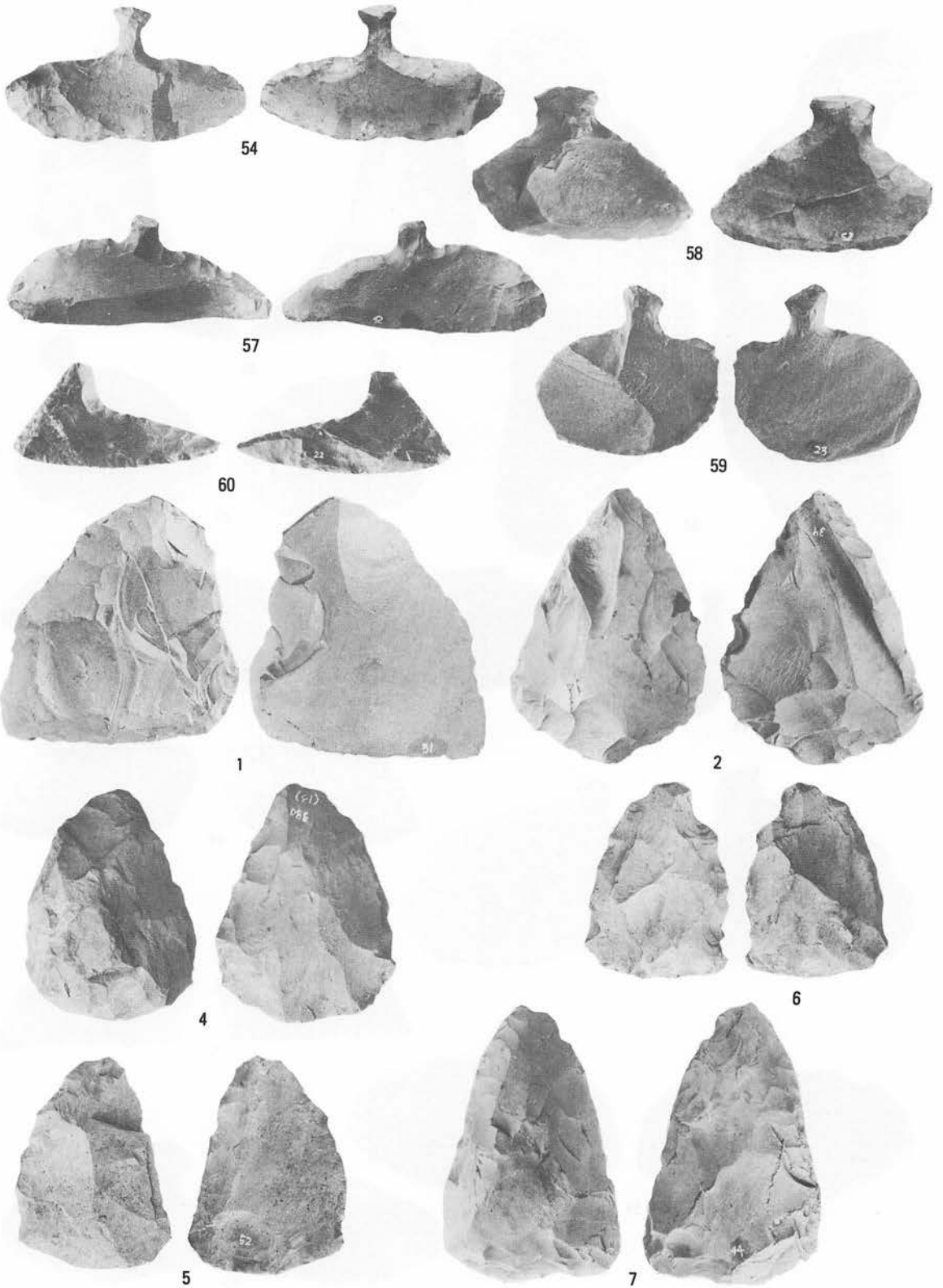
写真図版65 遺構外出土石器 c. 石匙(2)



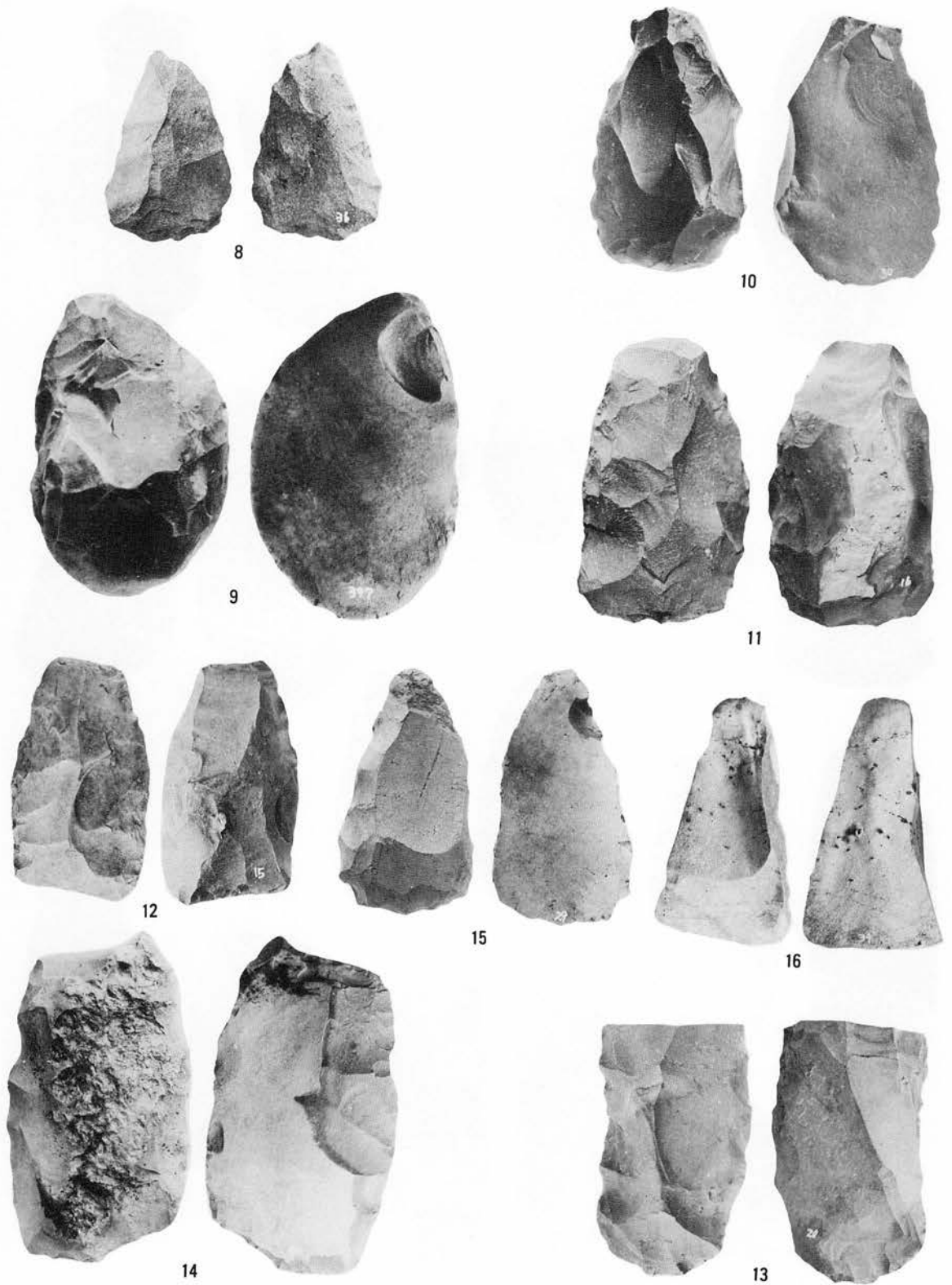
写真図版66 遺構外出土石器 c. 石匙(3)



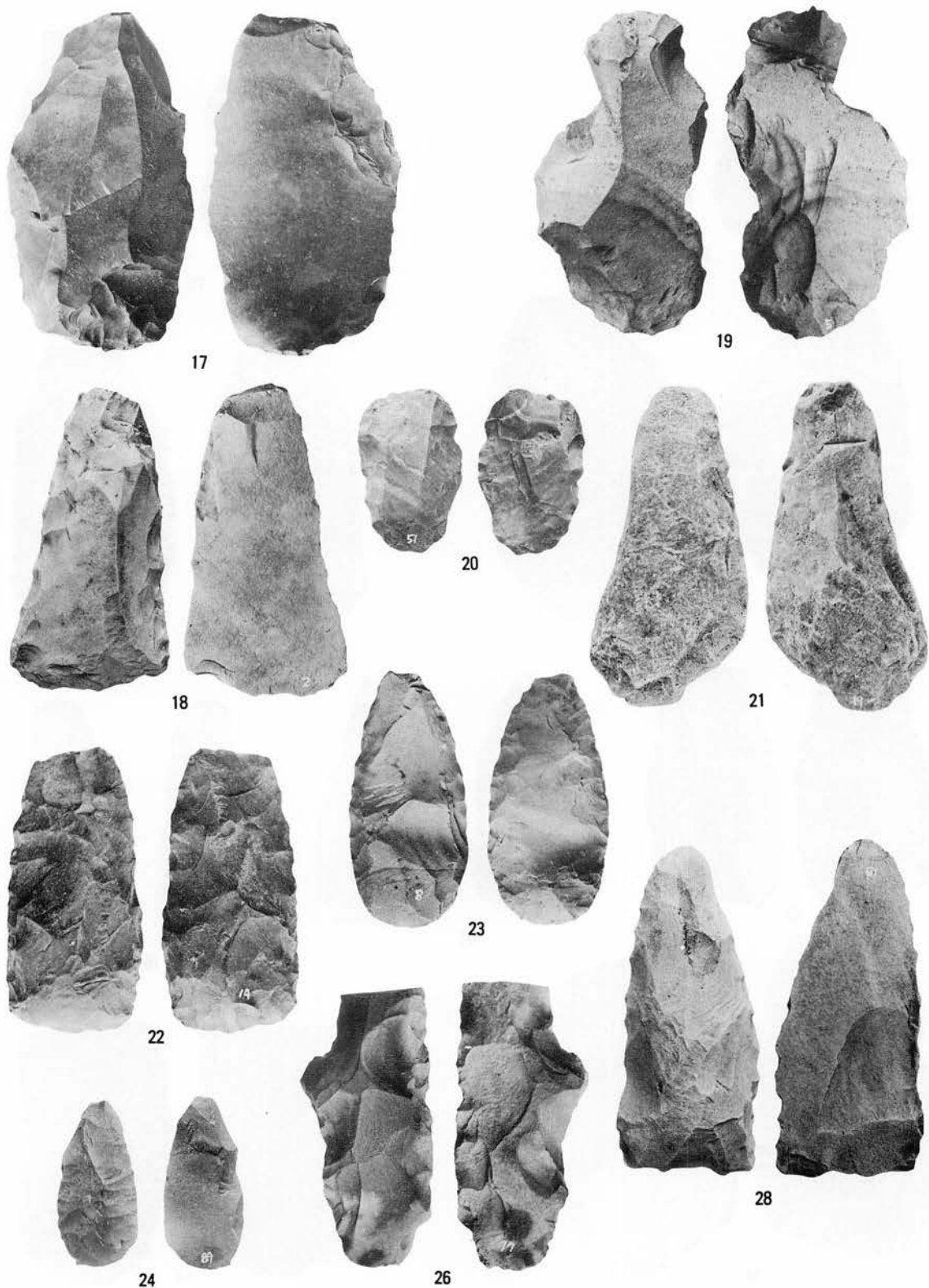
写真図版67 遺構外出土石器 c. 石匙(4)



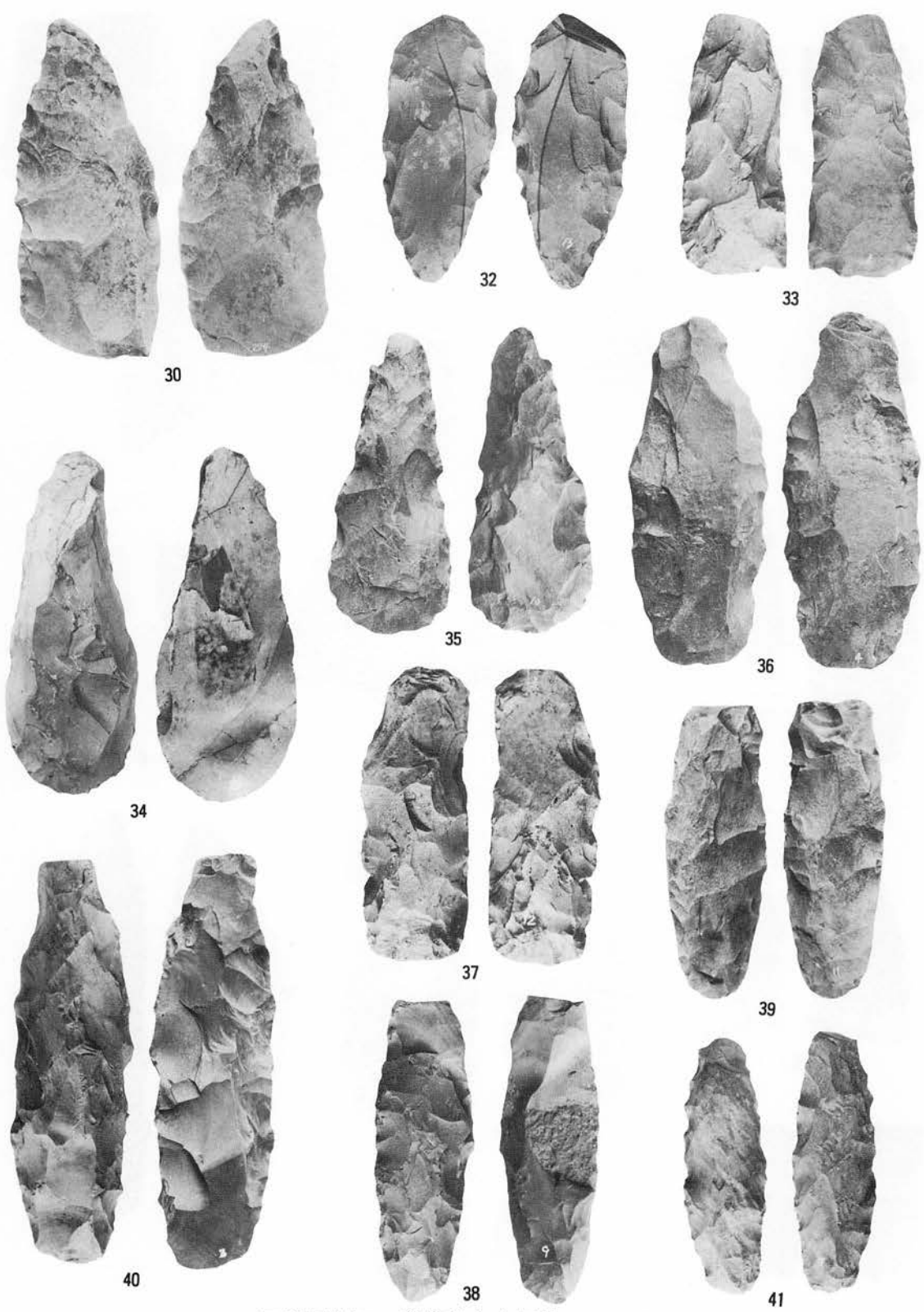
写真図版68 遺構外出土石器 c. 石匙(5) d. 石籠(1)



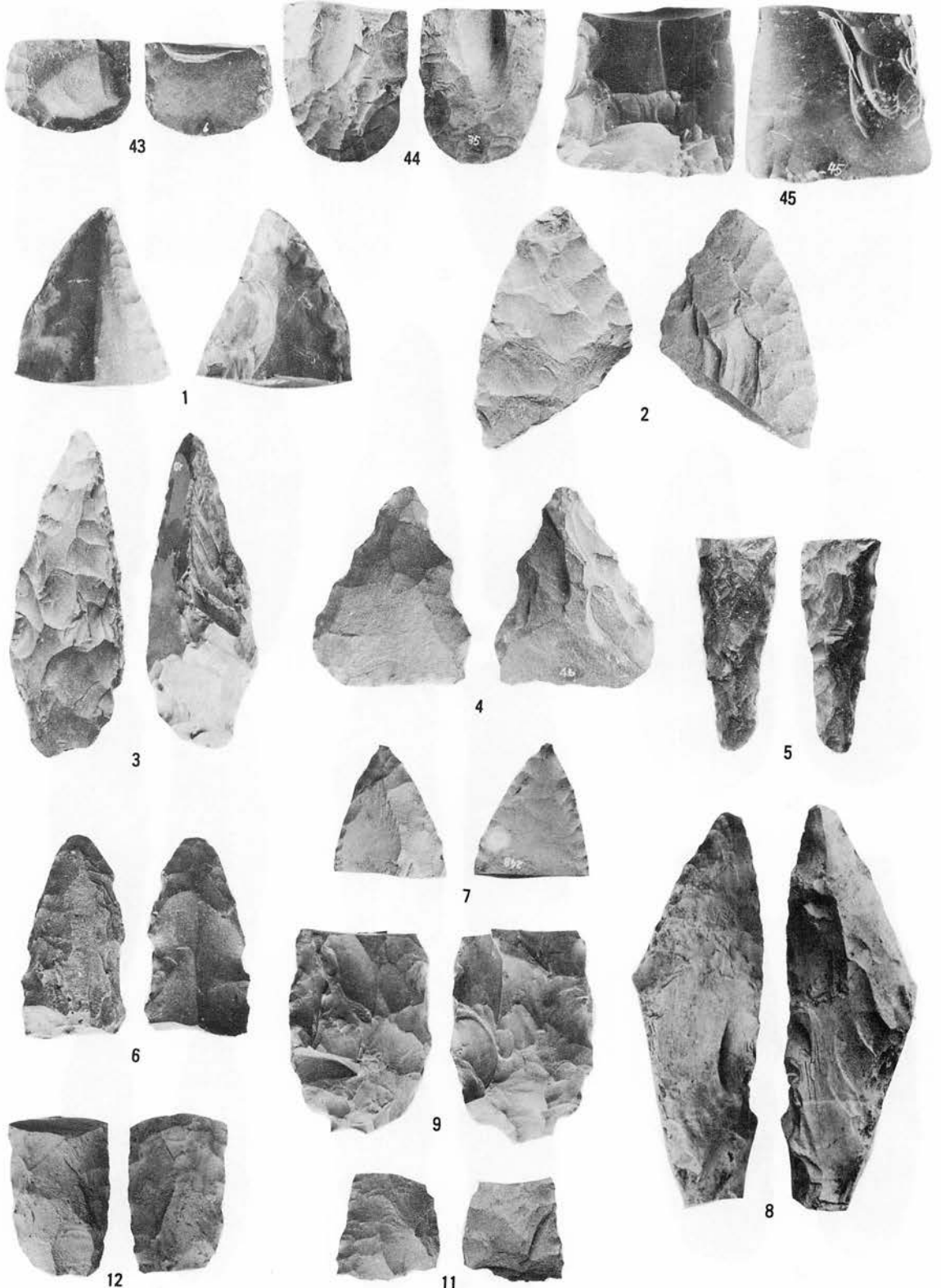
写真図版69 遺構外出土石器 d. 石筥(2)



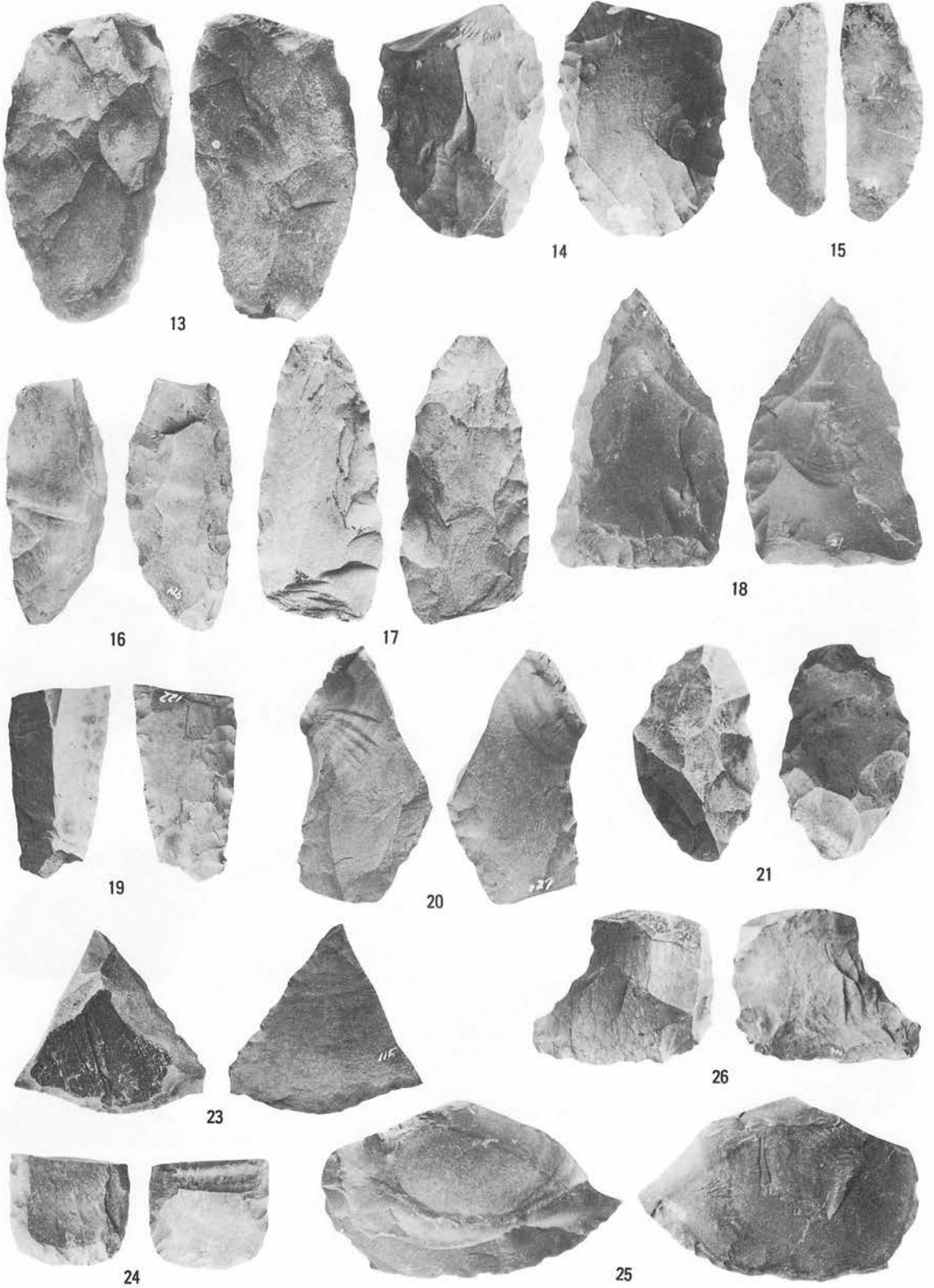
写真図版70 遺構外出土石器 d. 石筥(3)



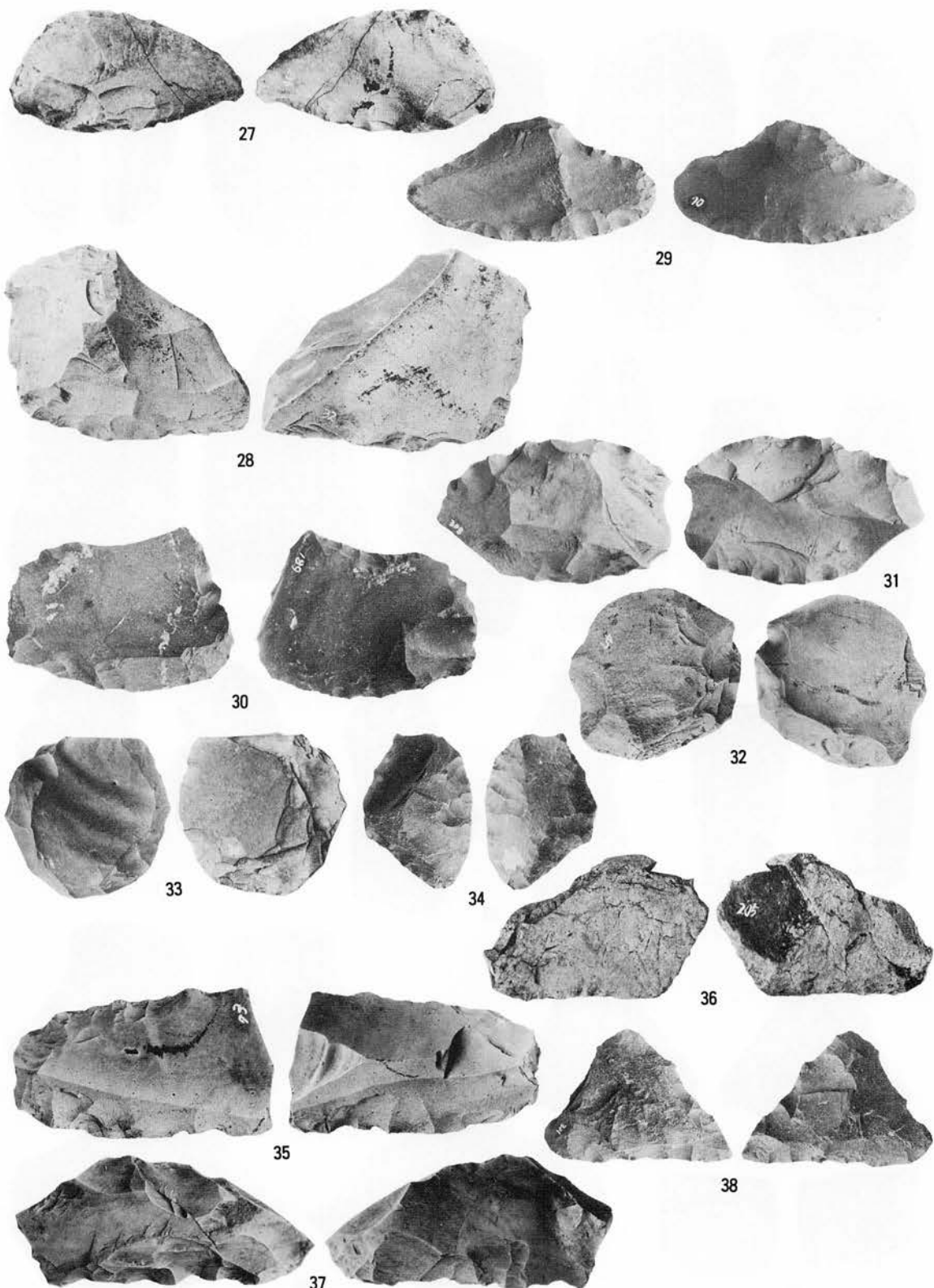
写真図版71 遺構外出土石器 d. 石筥(4)



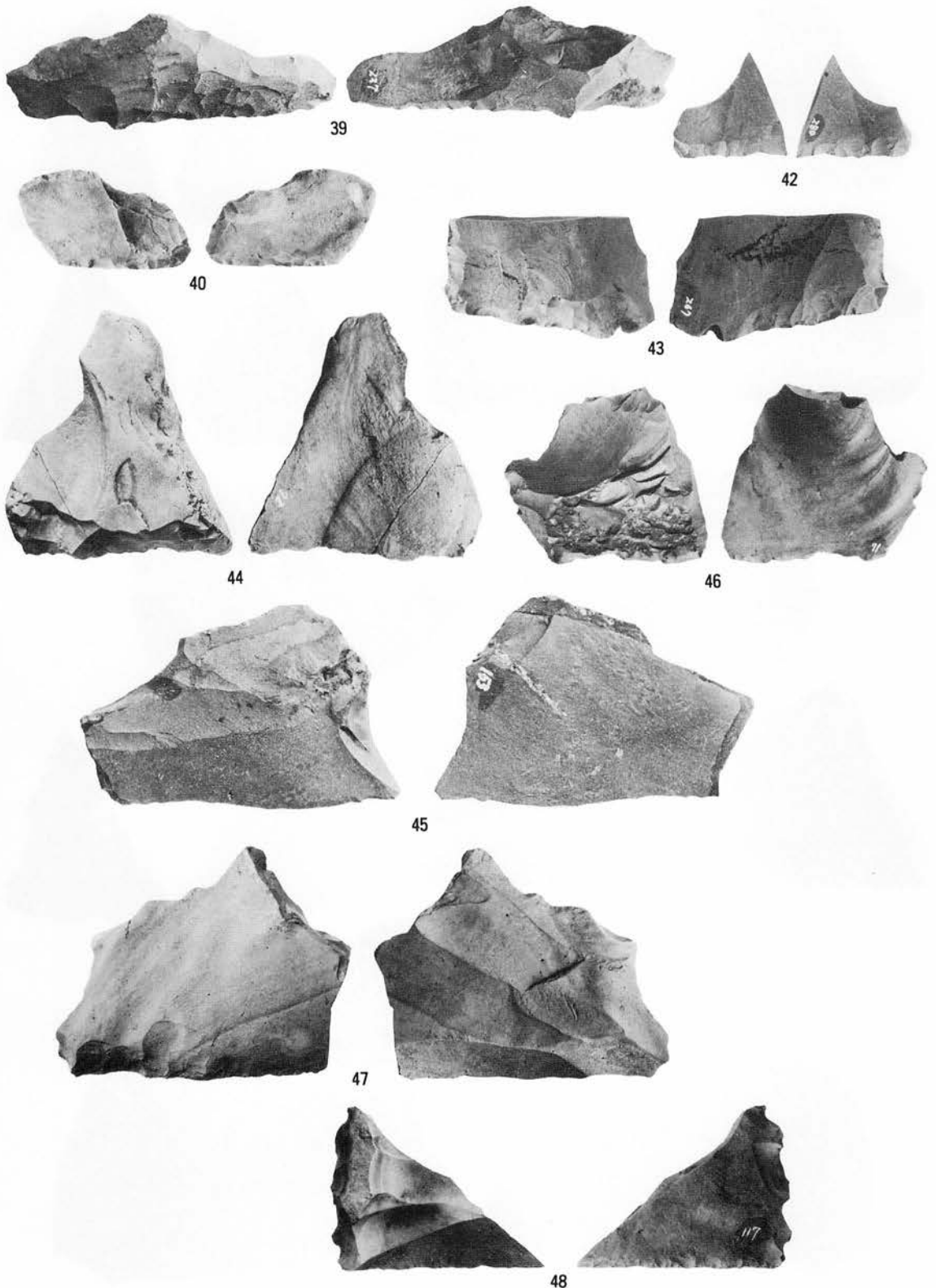
写真図版72 遺構外出土石器 d. 石筥(5) f. 削搔器(1)



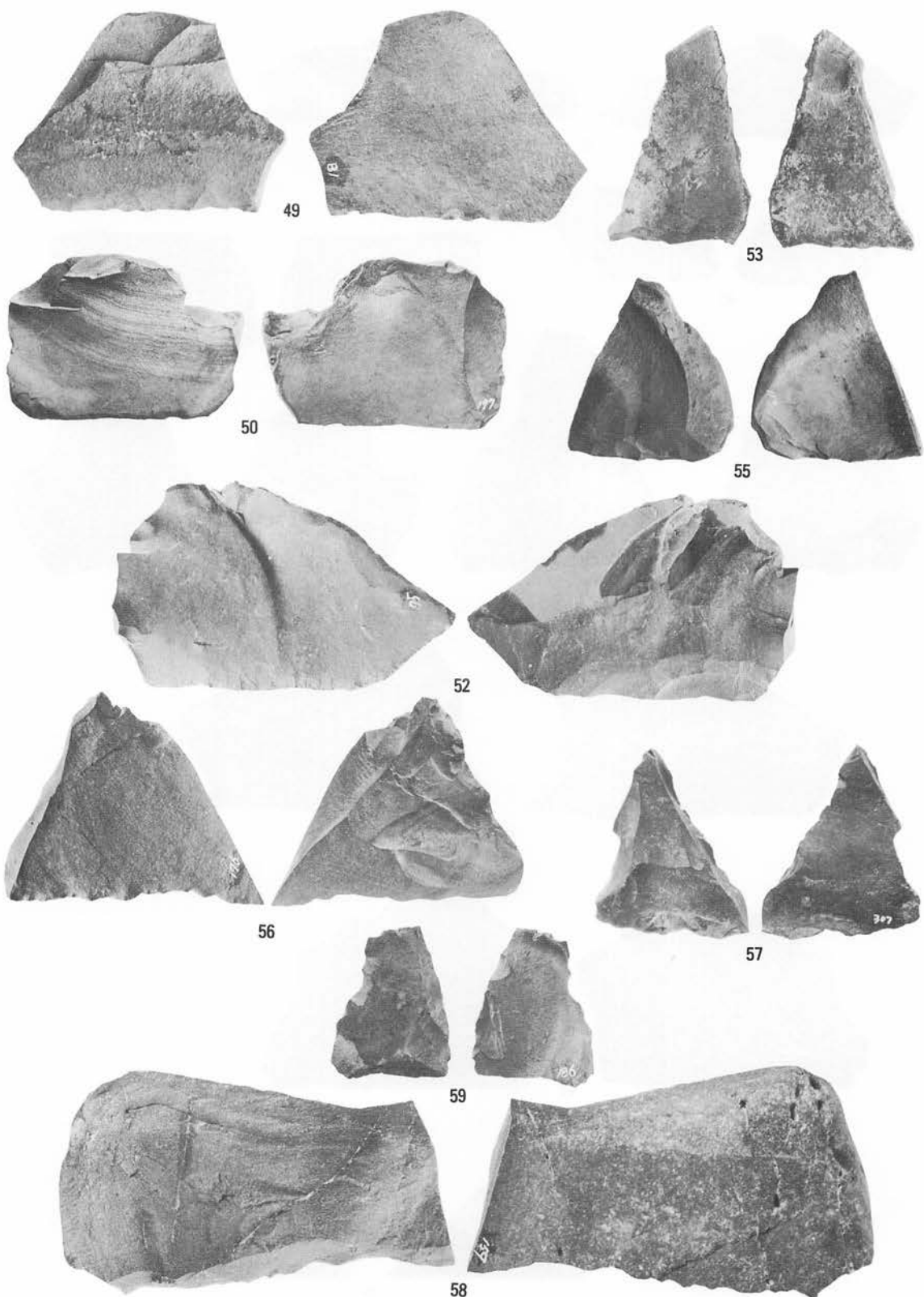
写真図版73 遺構外出土石器 f. 削搔器(2)



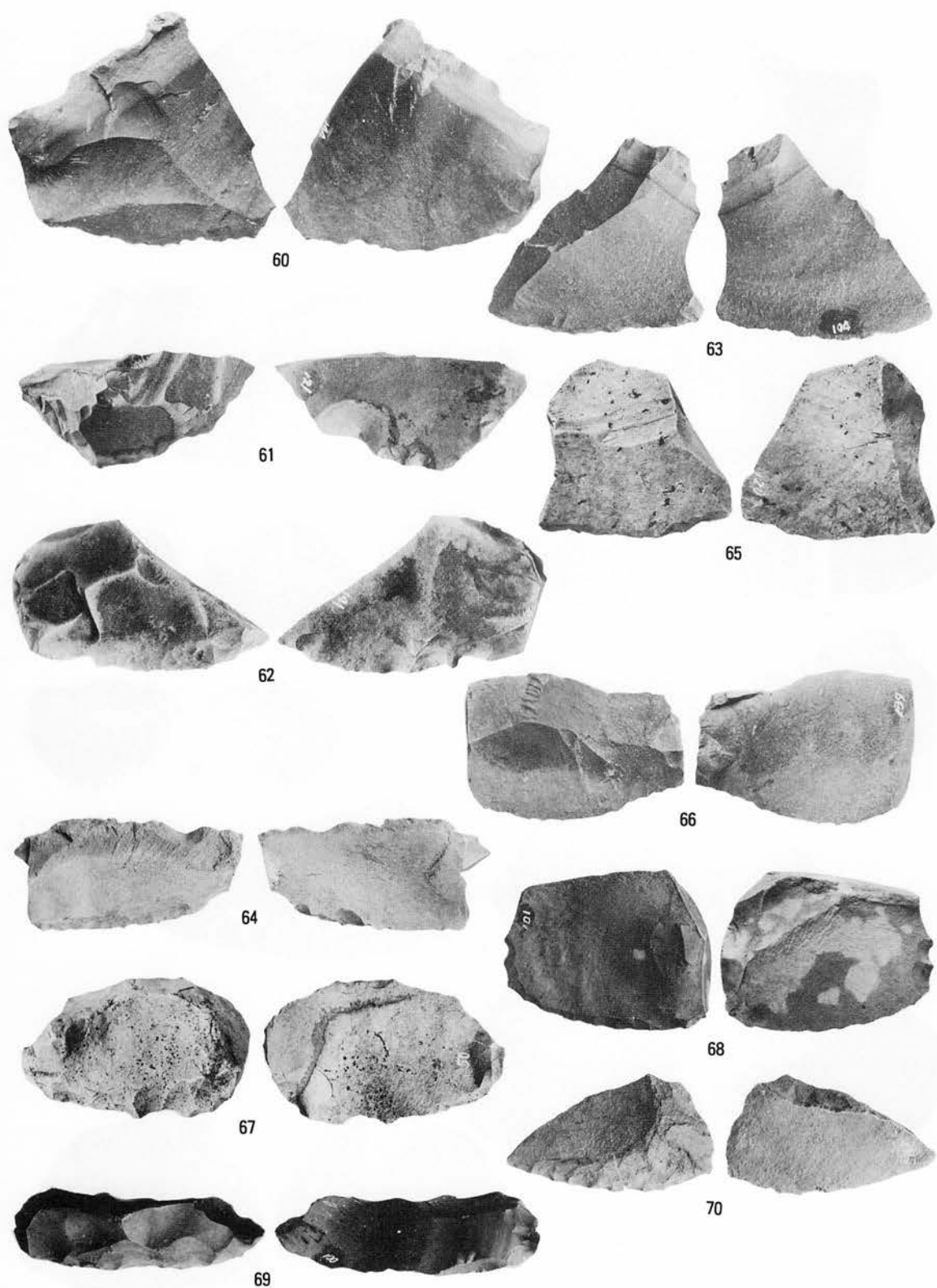
写真図版74 遺構外出土石器 f. 削搔器(3)



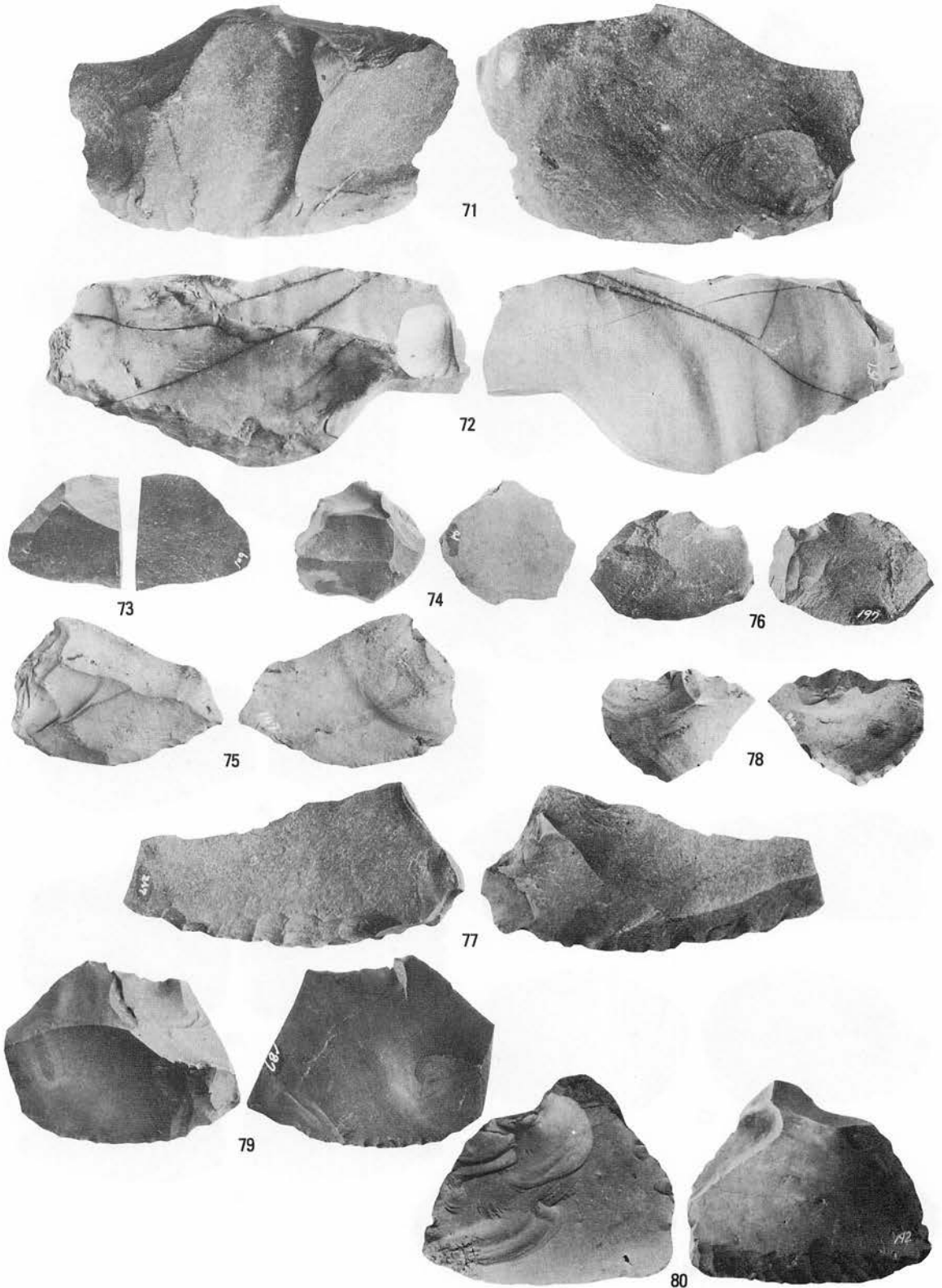
写真図版75 遺構外出土石器 f. 削搔器(4)



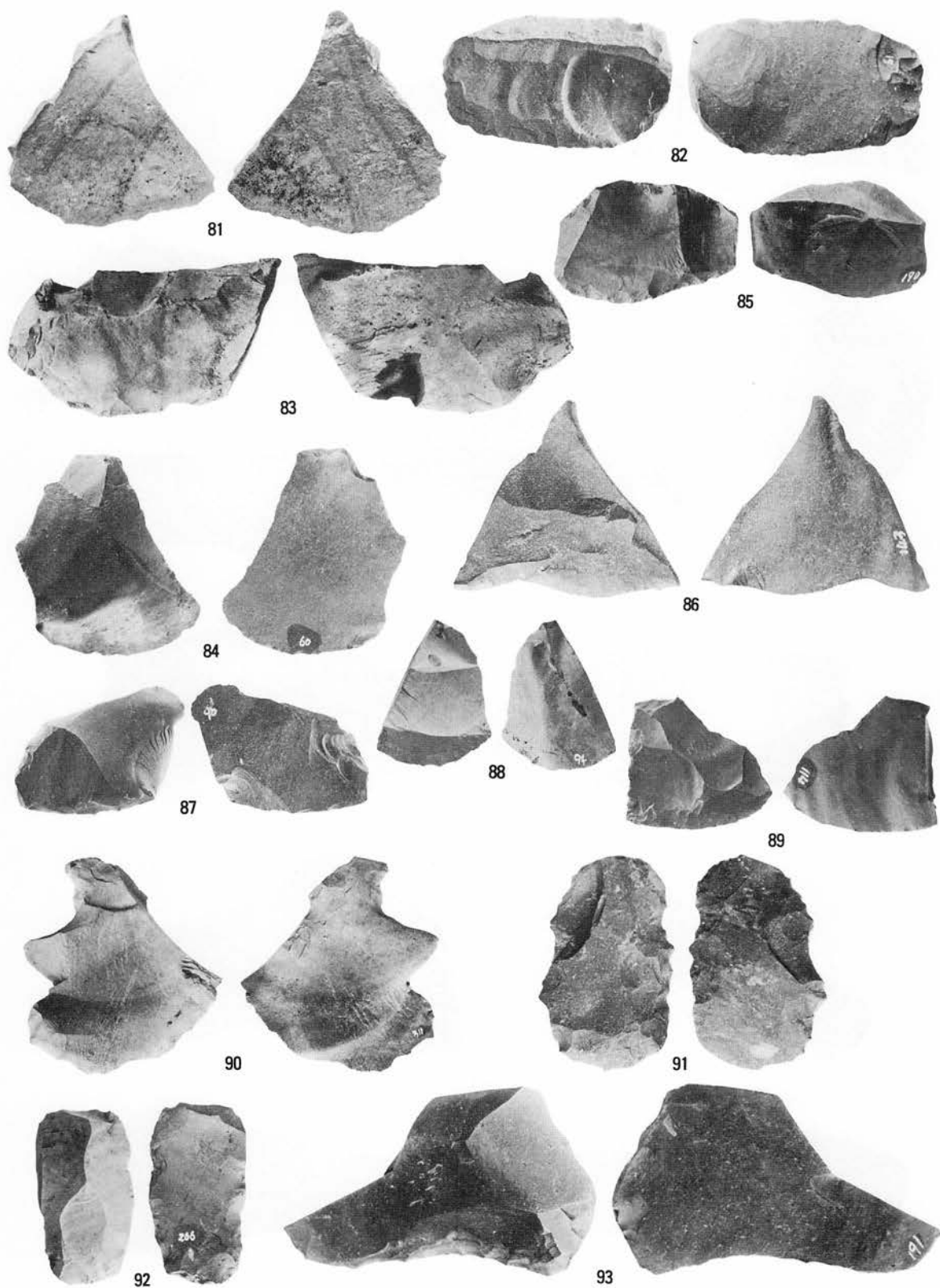
写真図版76 遺構外出土石器 f. 削搔器(5)



写真図版77 遺構外出土石器 f. 削搔器(6)



写真図版78 遺構外出土石器 f. 削搔器(7)



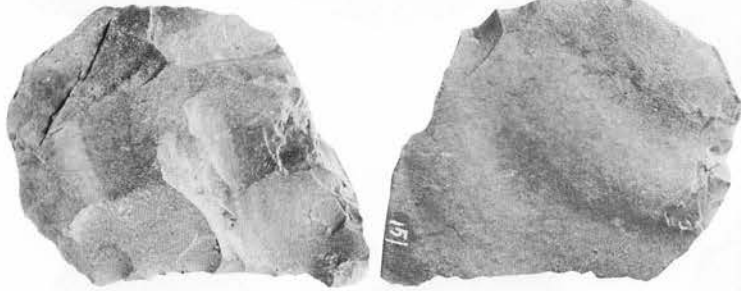
写真図版79 遺構外出土石器 f. 削搔器(8)



94



95



96



98



100



99



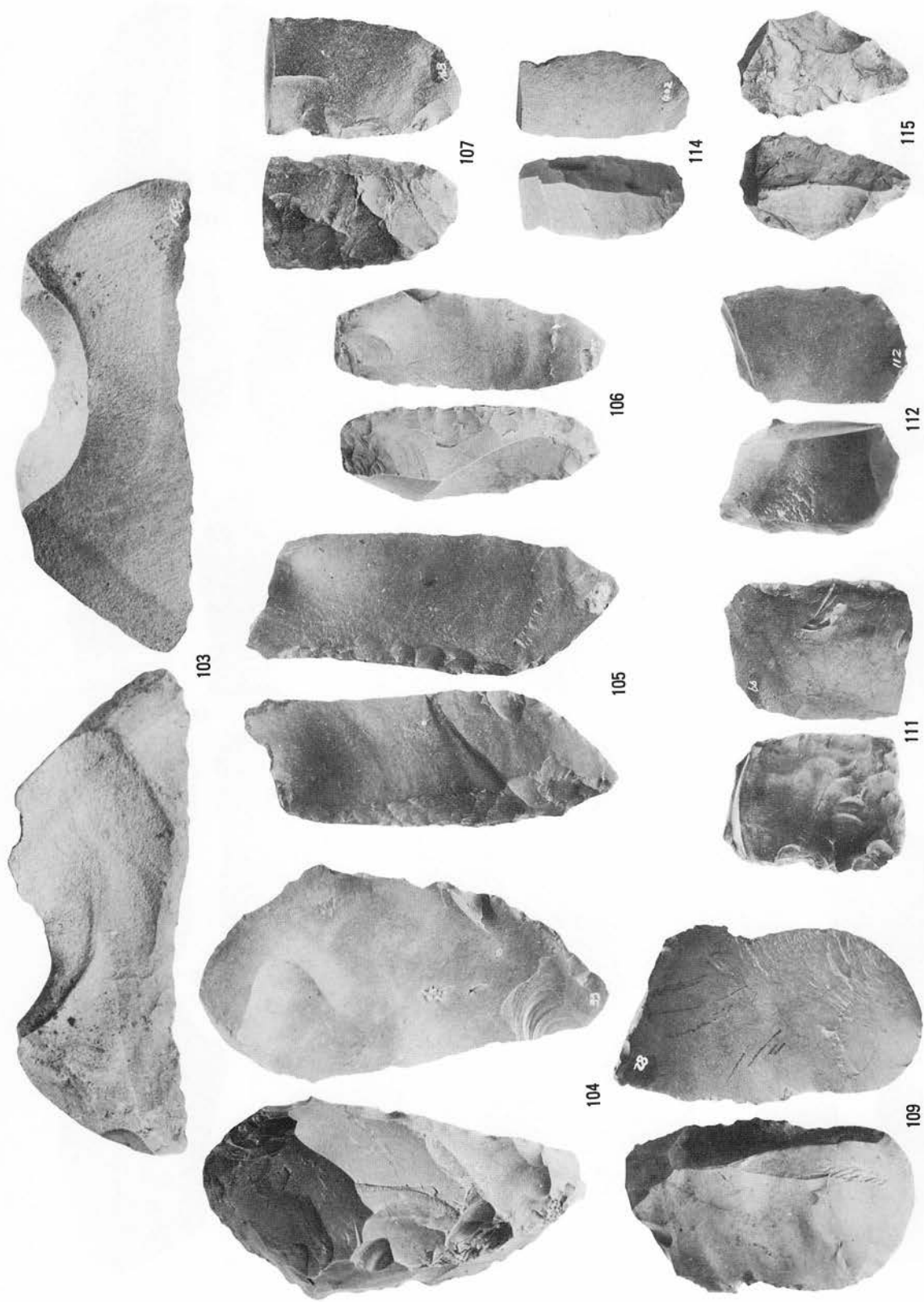
101



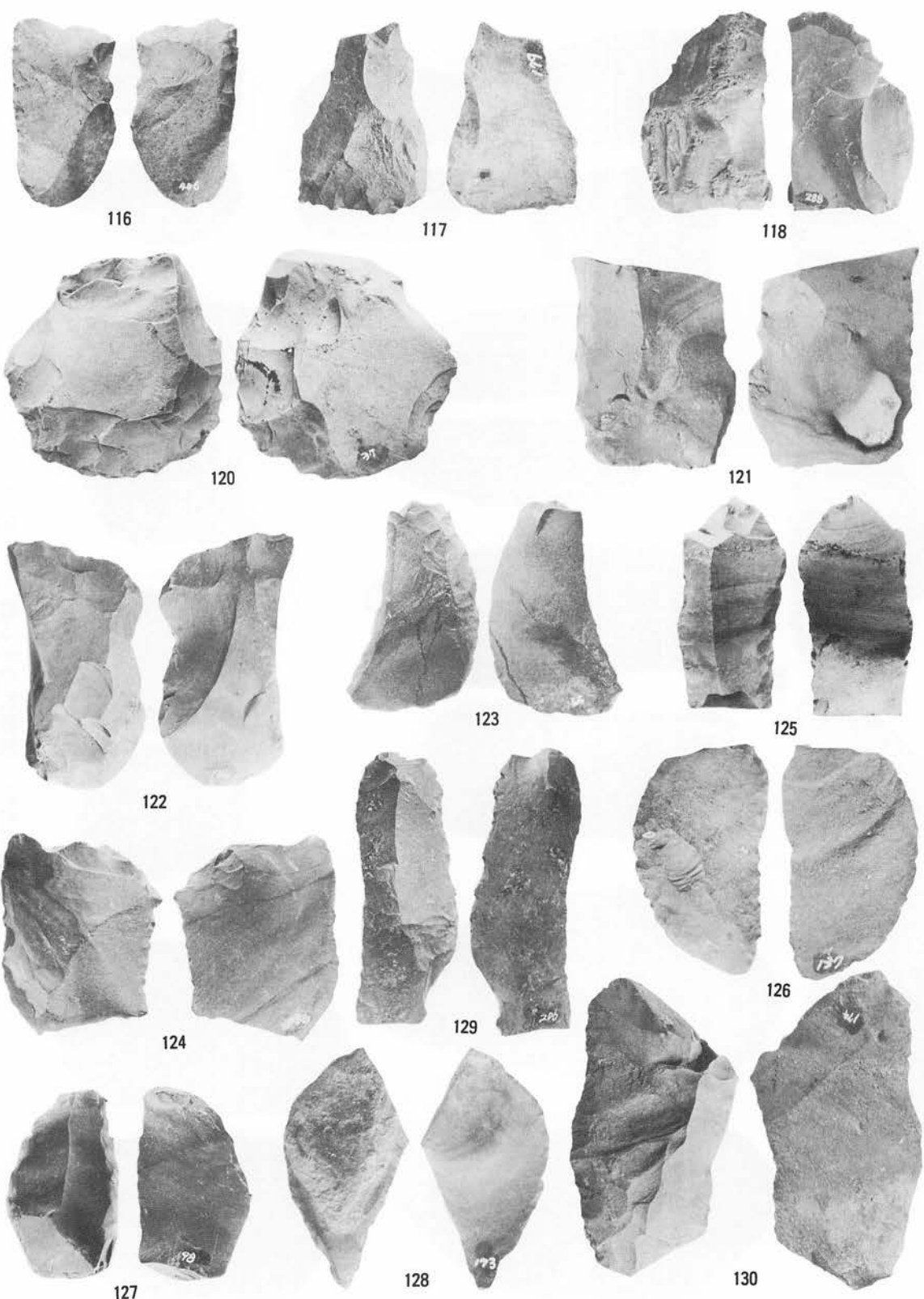
102



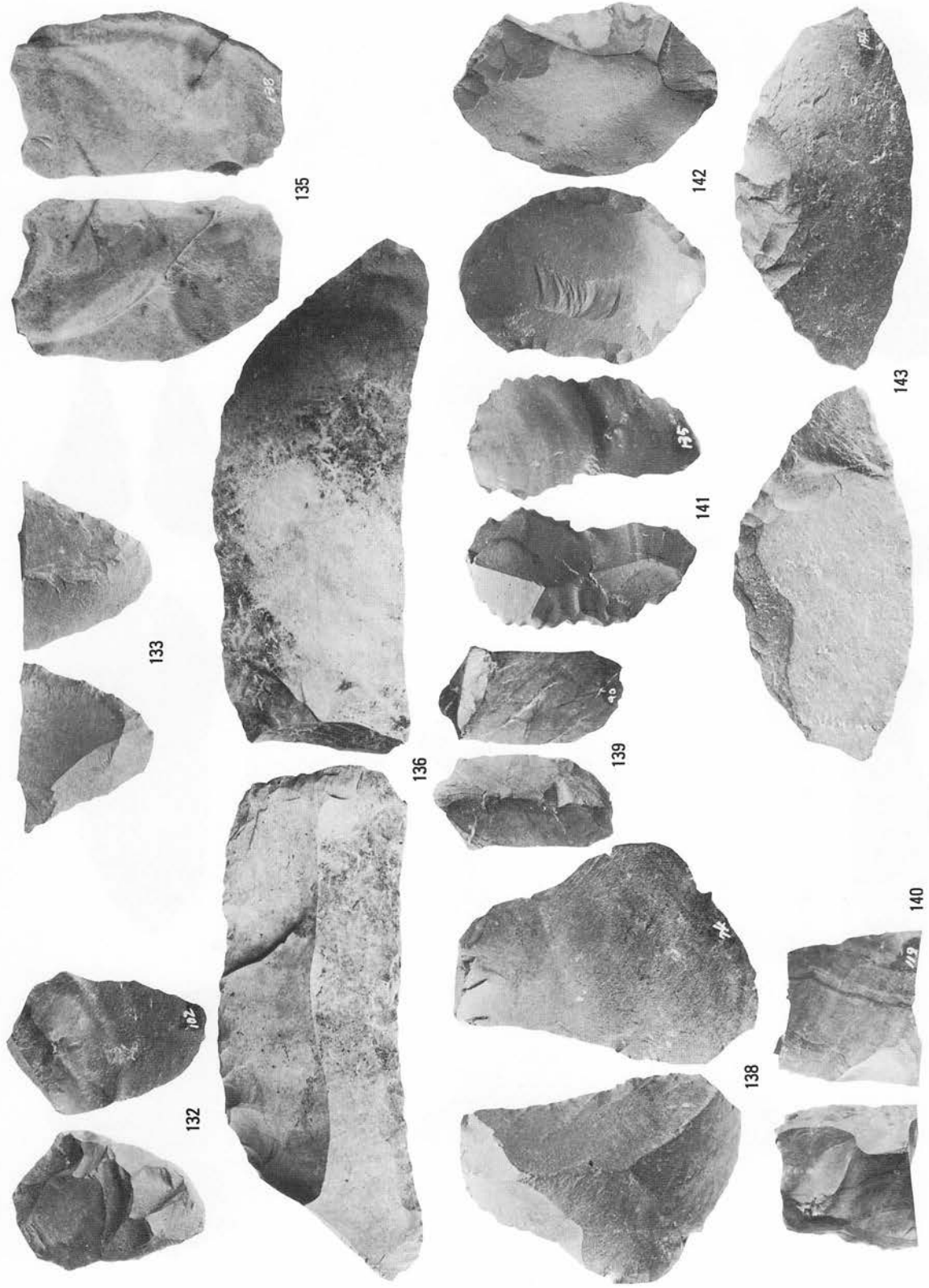
写真図版80 遺構外出土石器 f. 削搔器(9)



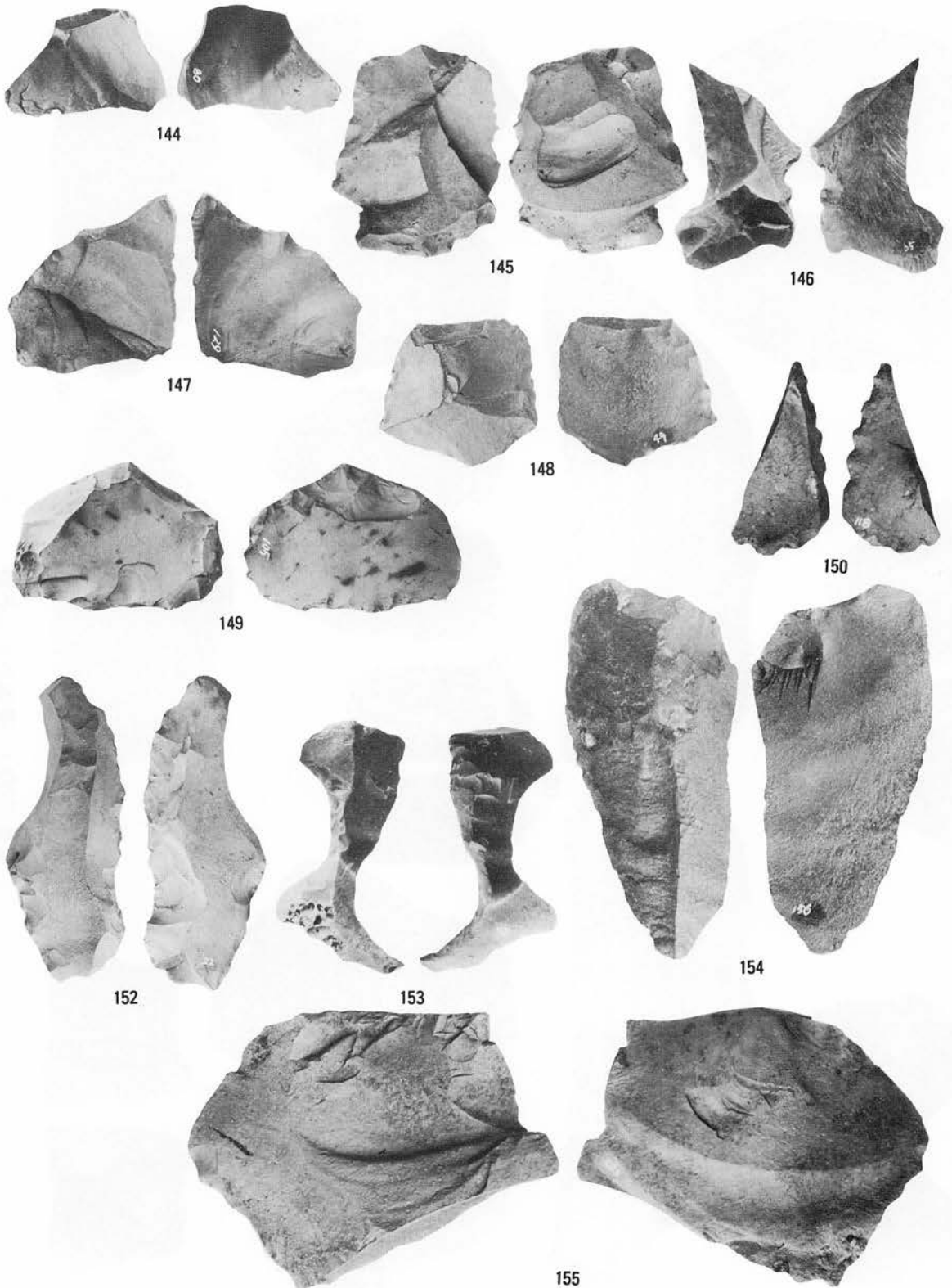
写真図版81 遺構外出土石器 f. 朝搔器(10)



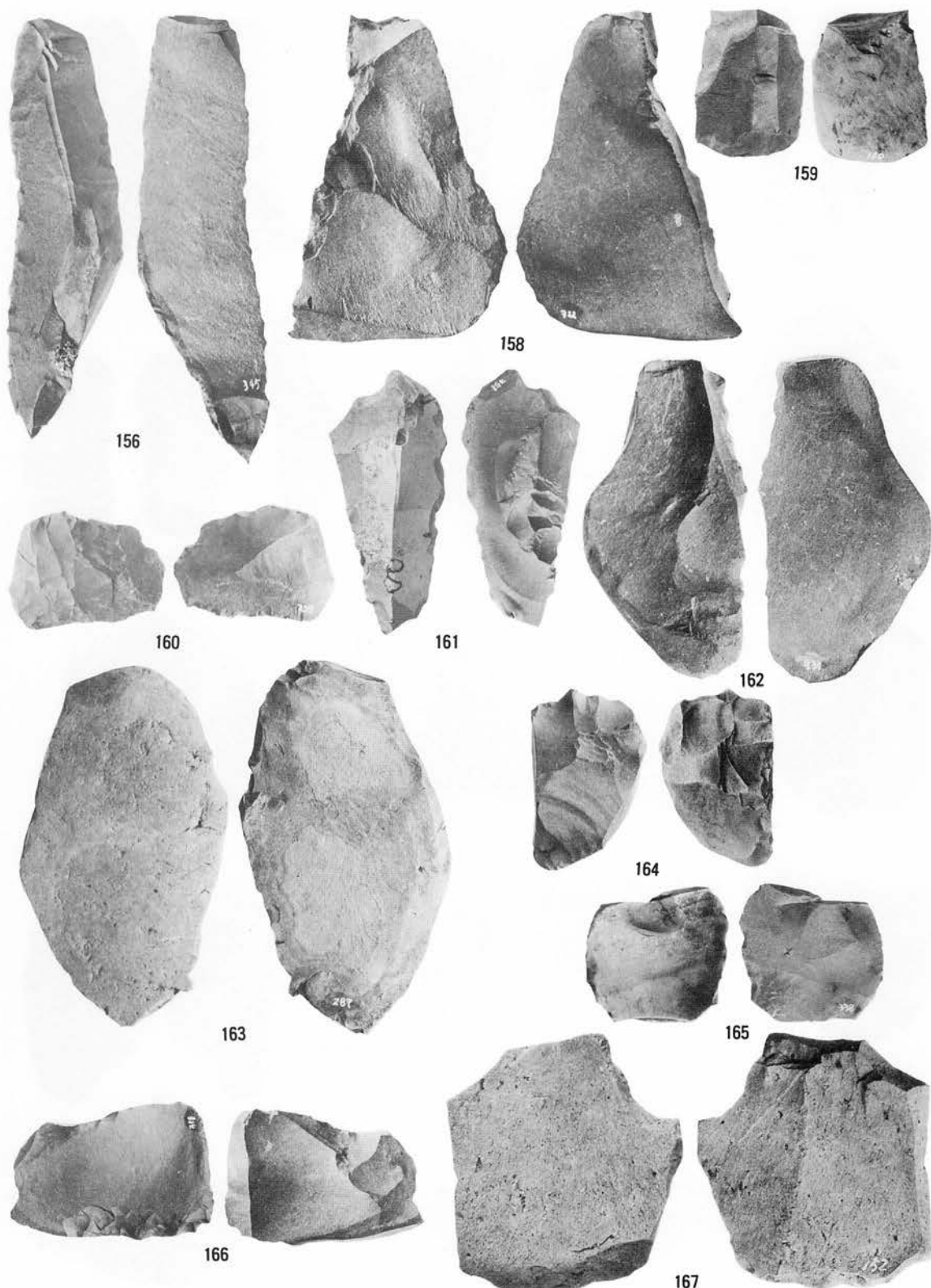
写真图版82 遺構外出土石器 f. 削搔器(11)



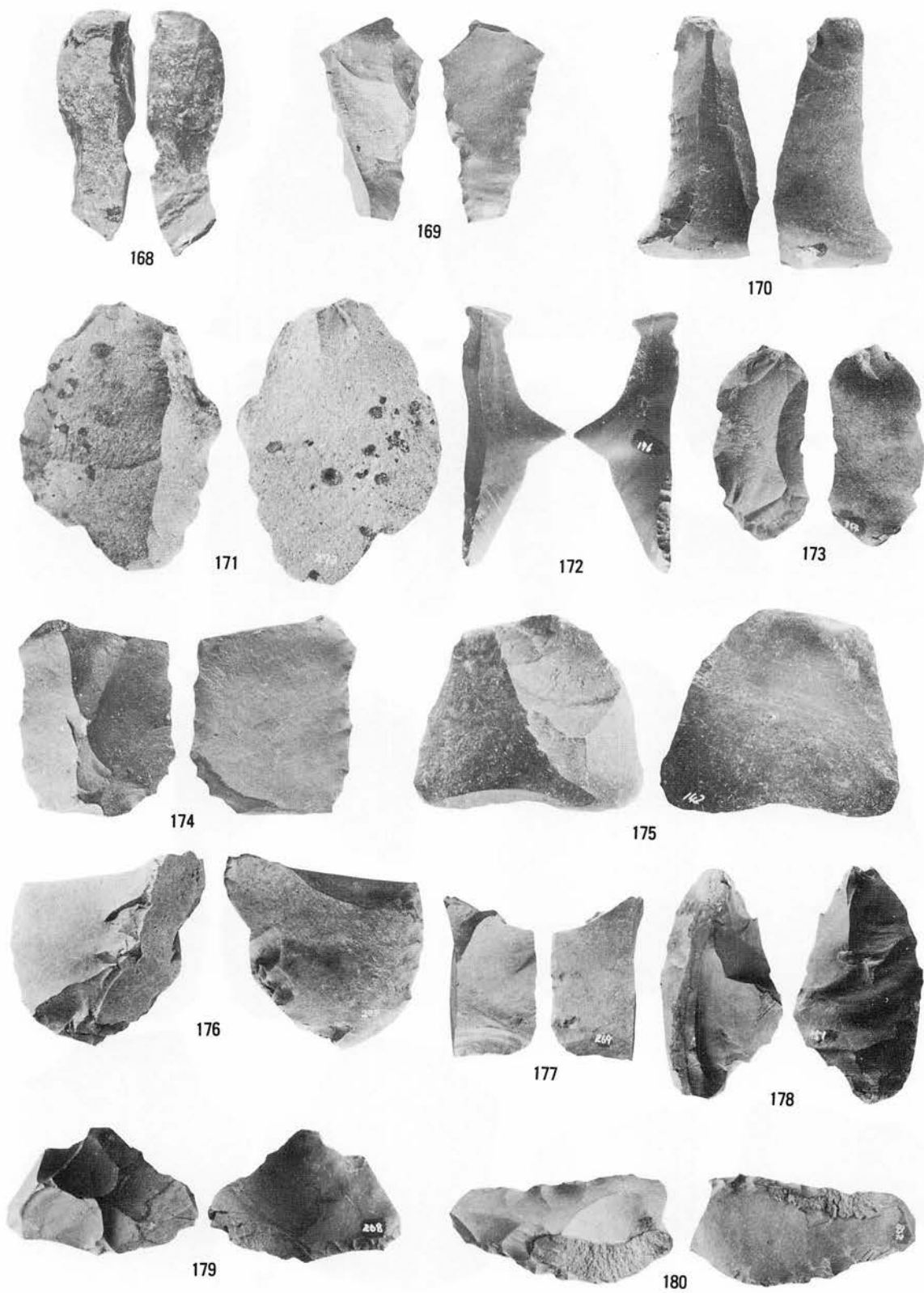
写真図版83 遺構外出土石器 f. 削刮器(12)



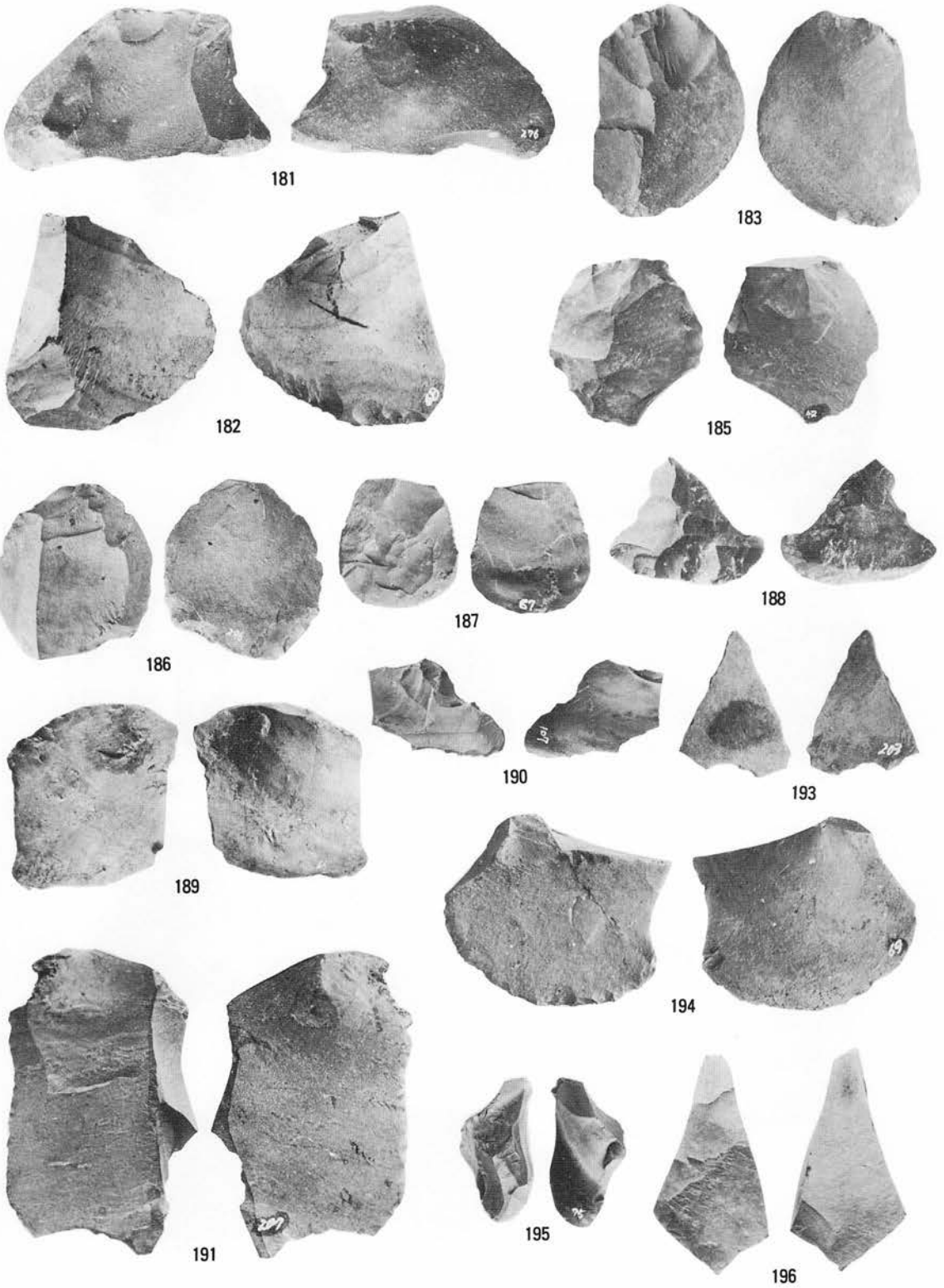
写真図版84 遺構外出土石器 f. 削搔器(13)



写真図版85 遺構外出土石器 f. 削搔器(14)



写真図版86 遺構外出土石器 f. 削搔器(15)



写真図版87 遺構外出土石器 f. 削搔器(16)



197



197



198

198



199



199



200



201



201



202



202



205



204



204



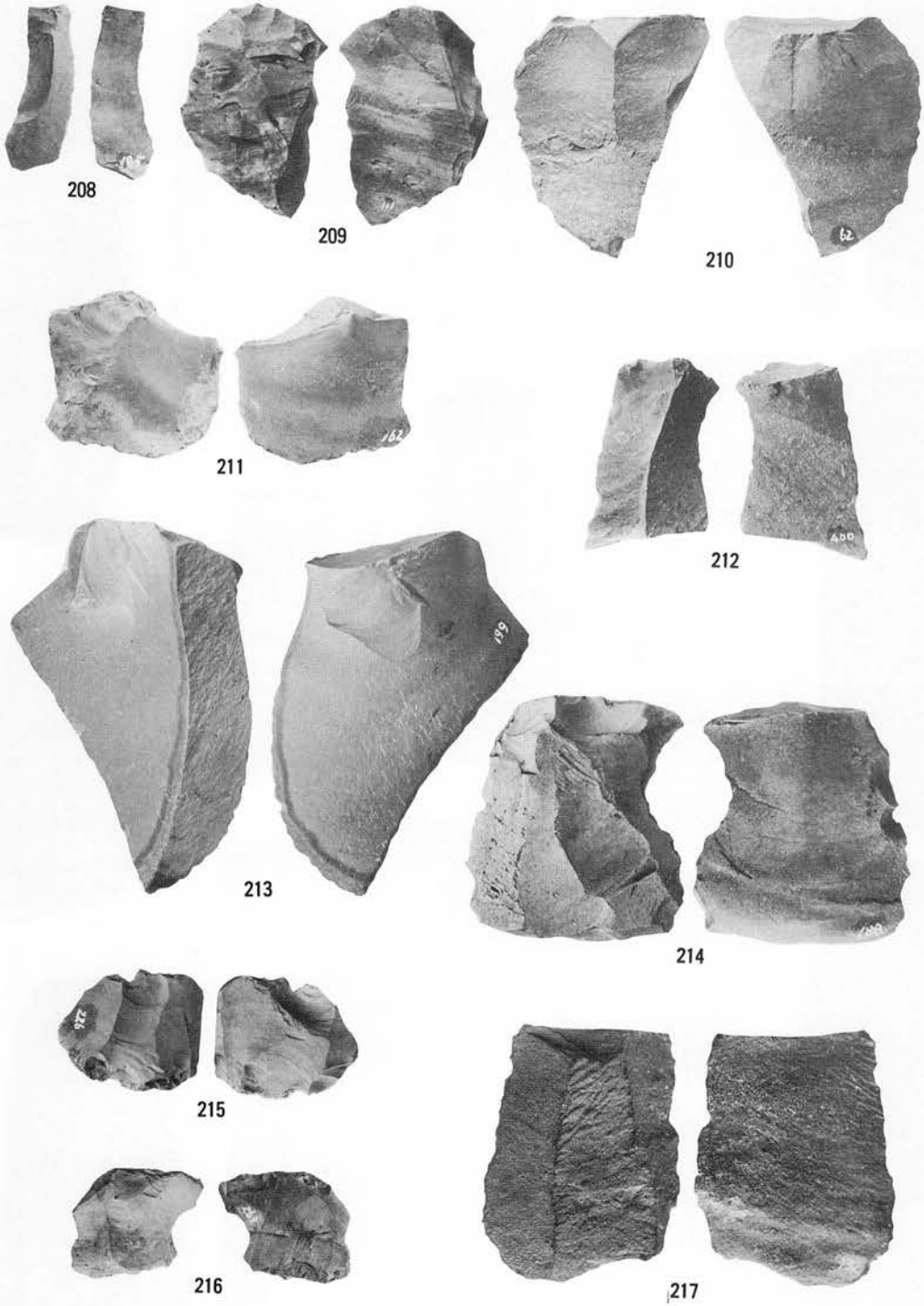
203



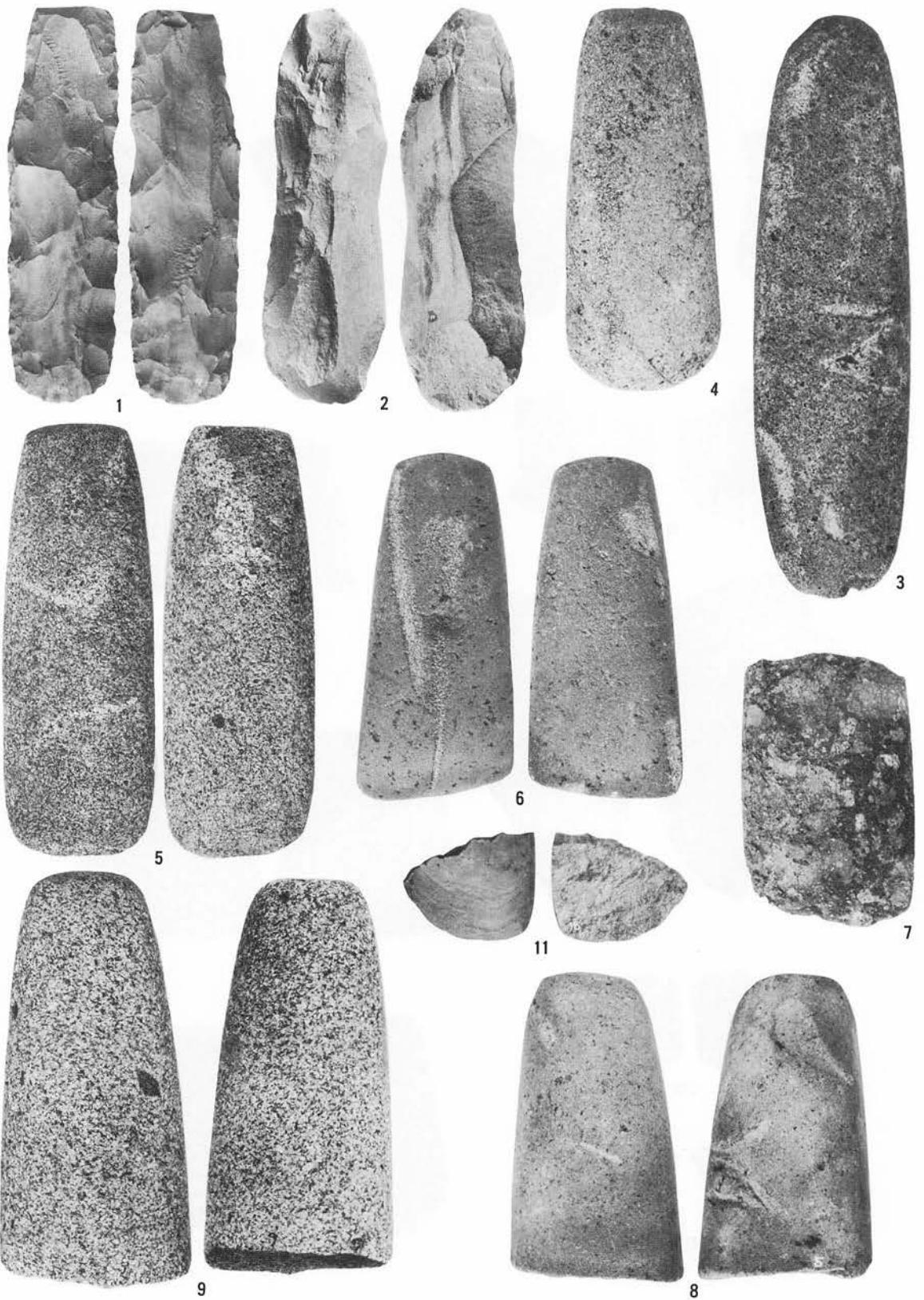
207



写真図版88 遺構外出土石器 f. 削搔器(17)



写真図版89 遺構外出土石器 f. 削搔器(18)



写真図版90 遺構外出土石器 e. 石斧(1)



12



14



17



15



16



18



19



20



21



23



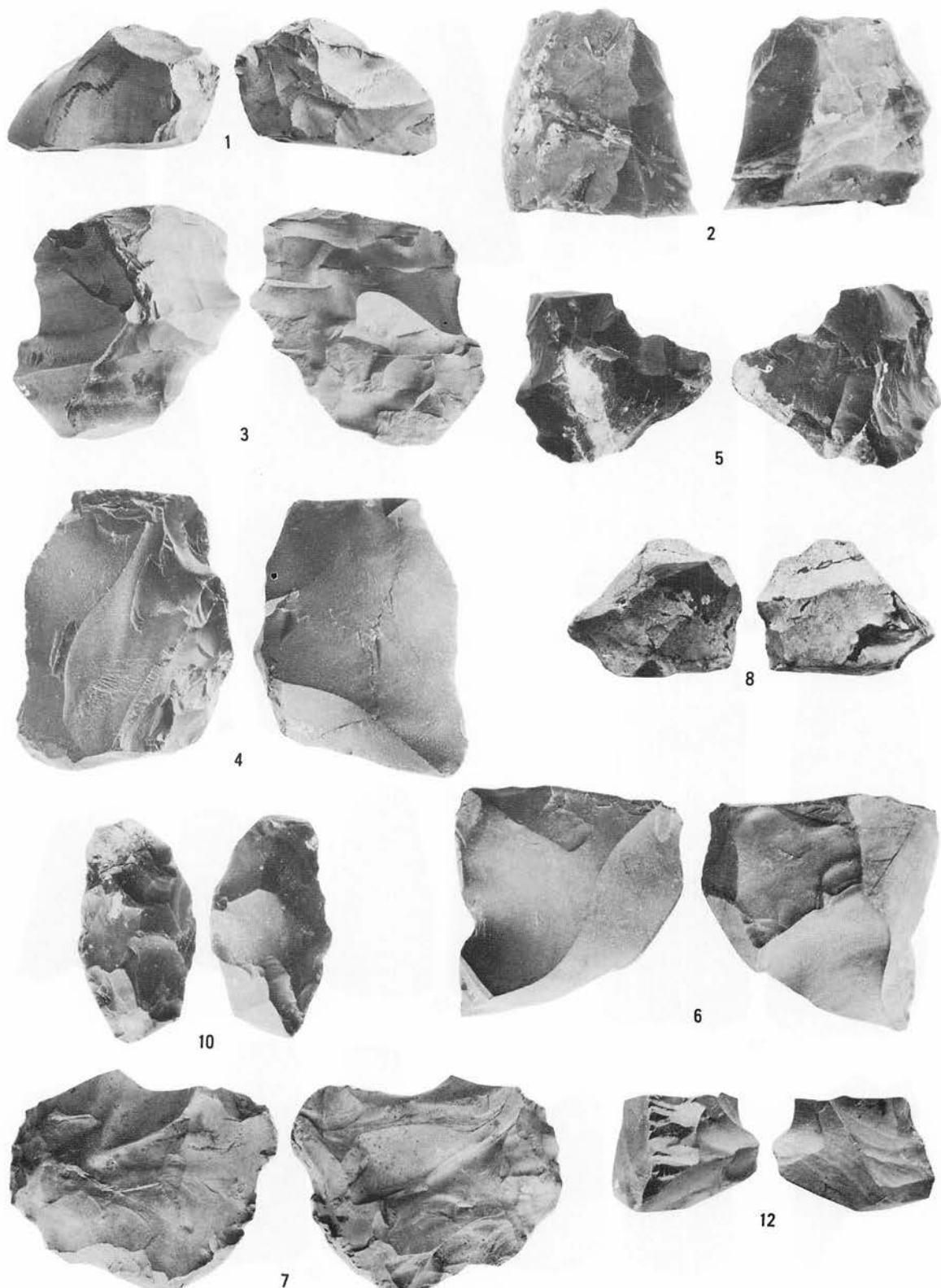
24



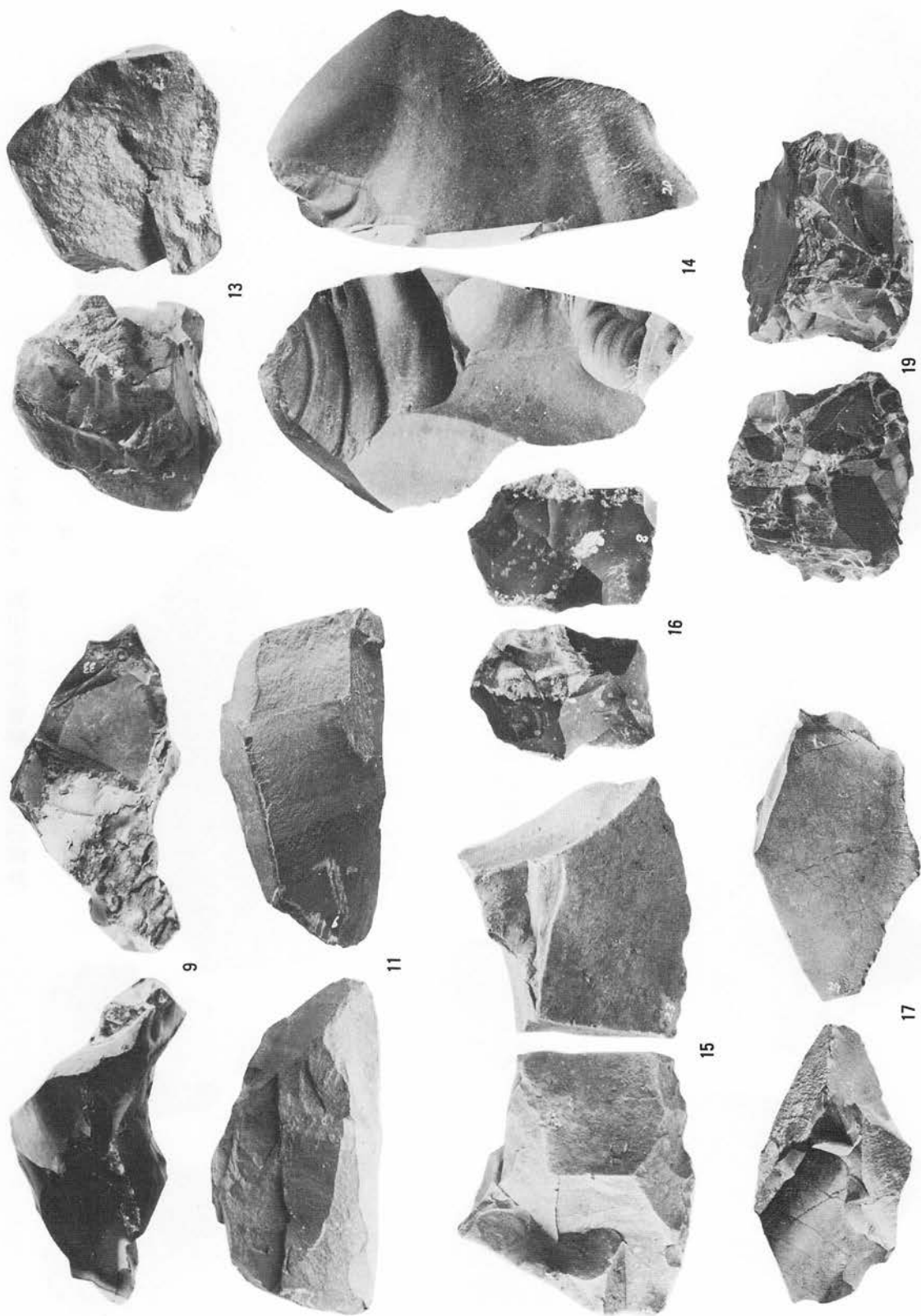
25



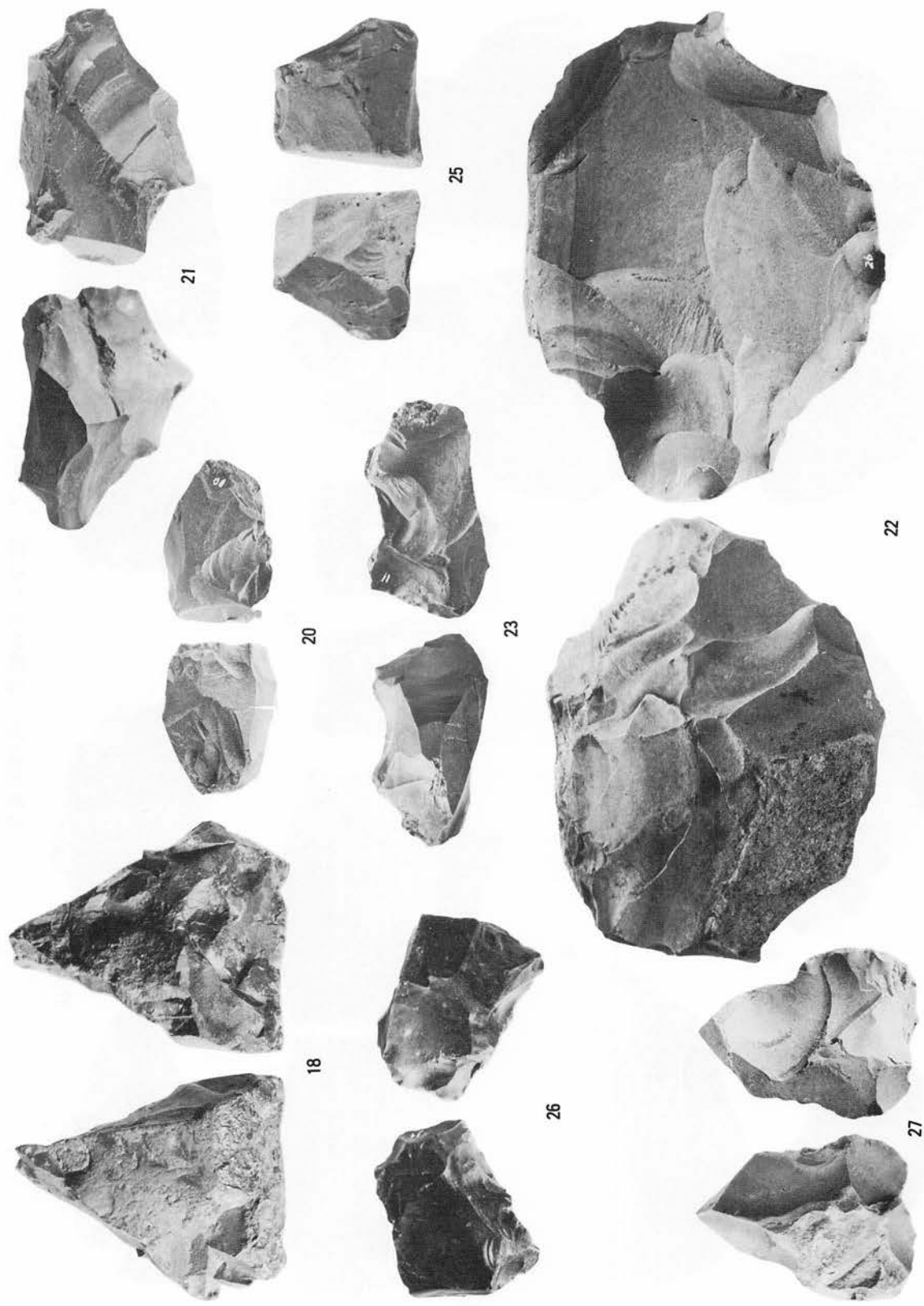
写真図版91 遺構外出土石器 e. 石斧(2)



写真図版92 遺構外出土石器 g. 残核(1)



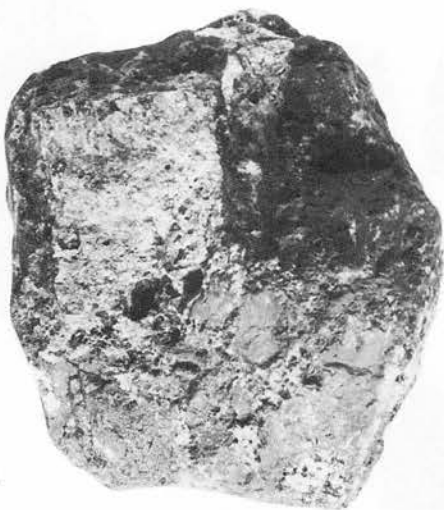
写真図版93 遺構外出土石器 6. 残核(2)



写真図版94 遺構外出土石器 g. 残核(3)



24



28



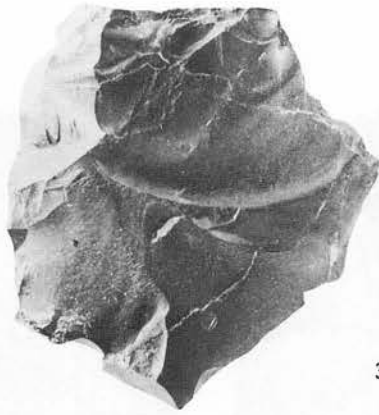
29



写真図版95 遺構外出土石器 g. 残核(4)



30



32



31



33



34



35



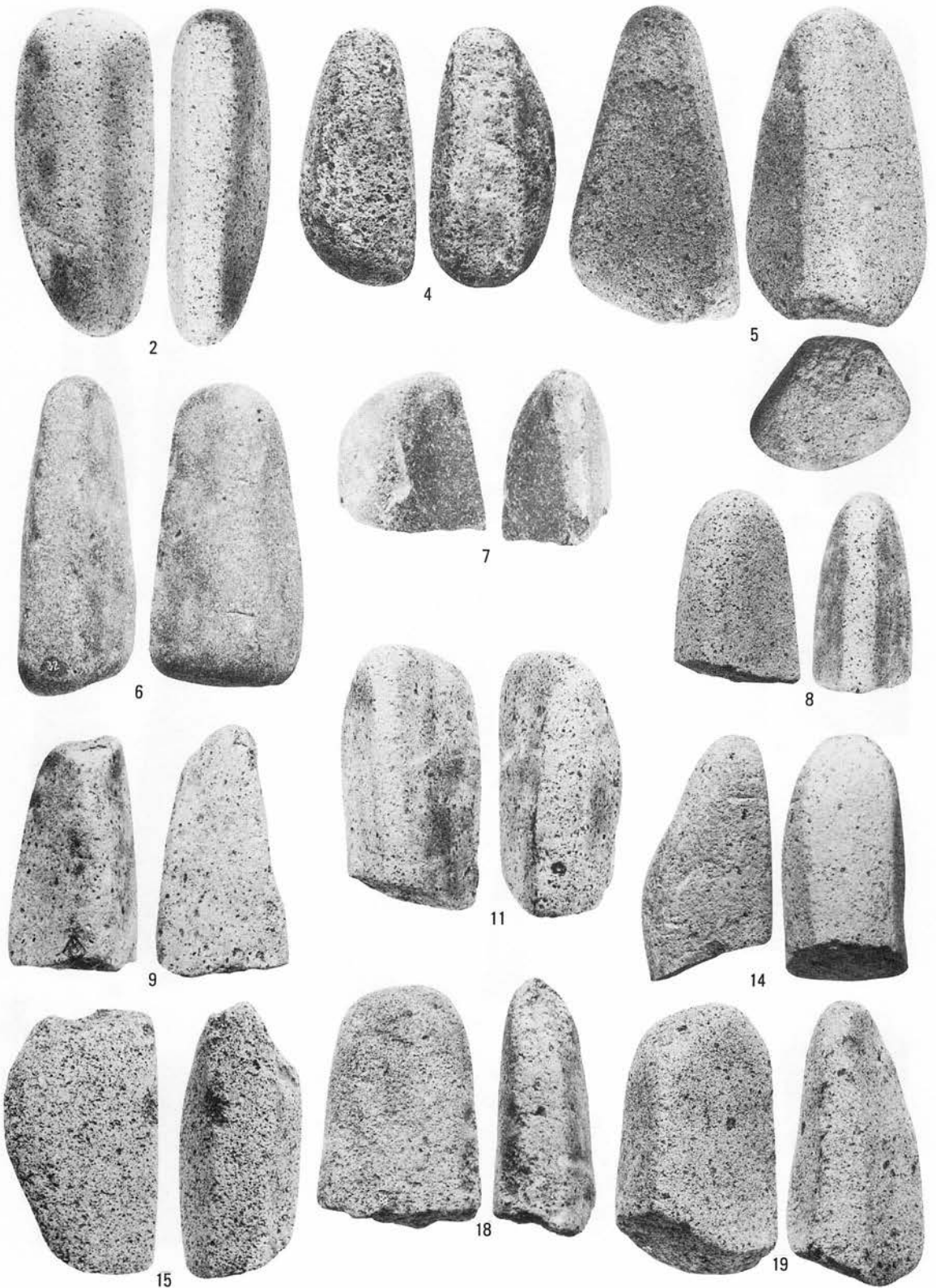
36



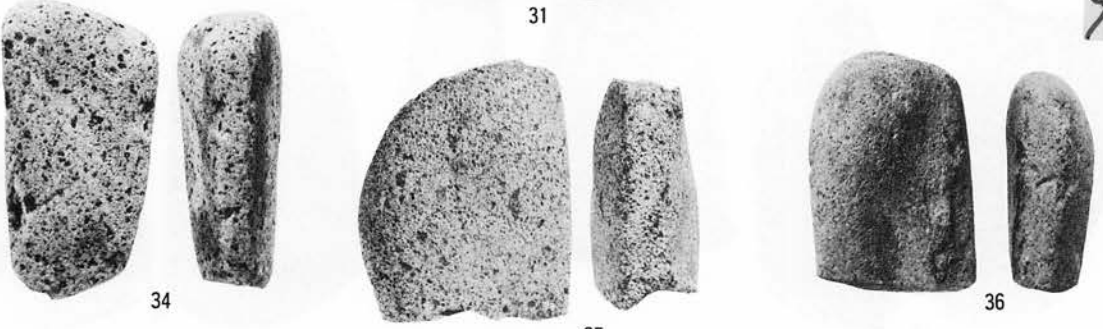
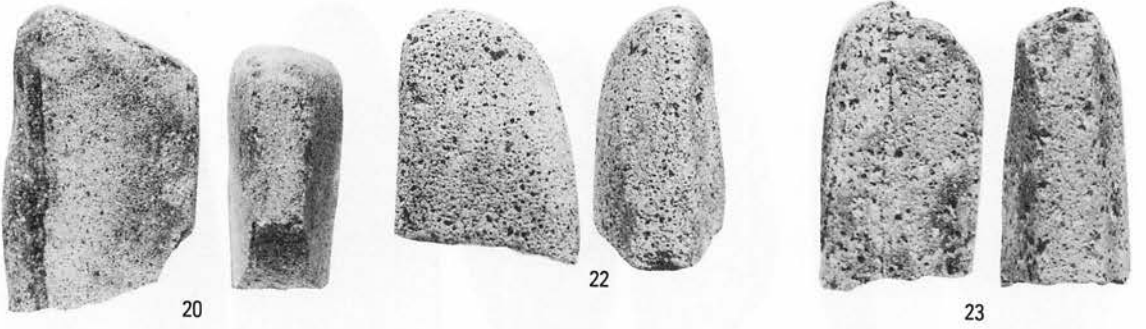
37



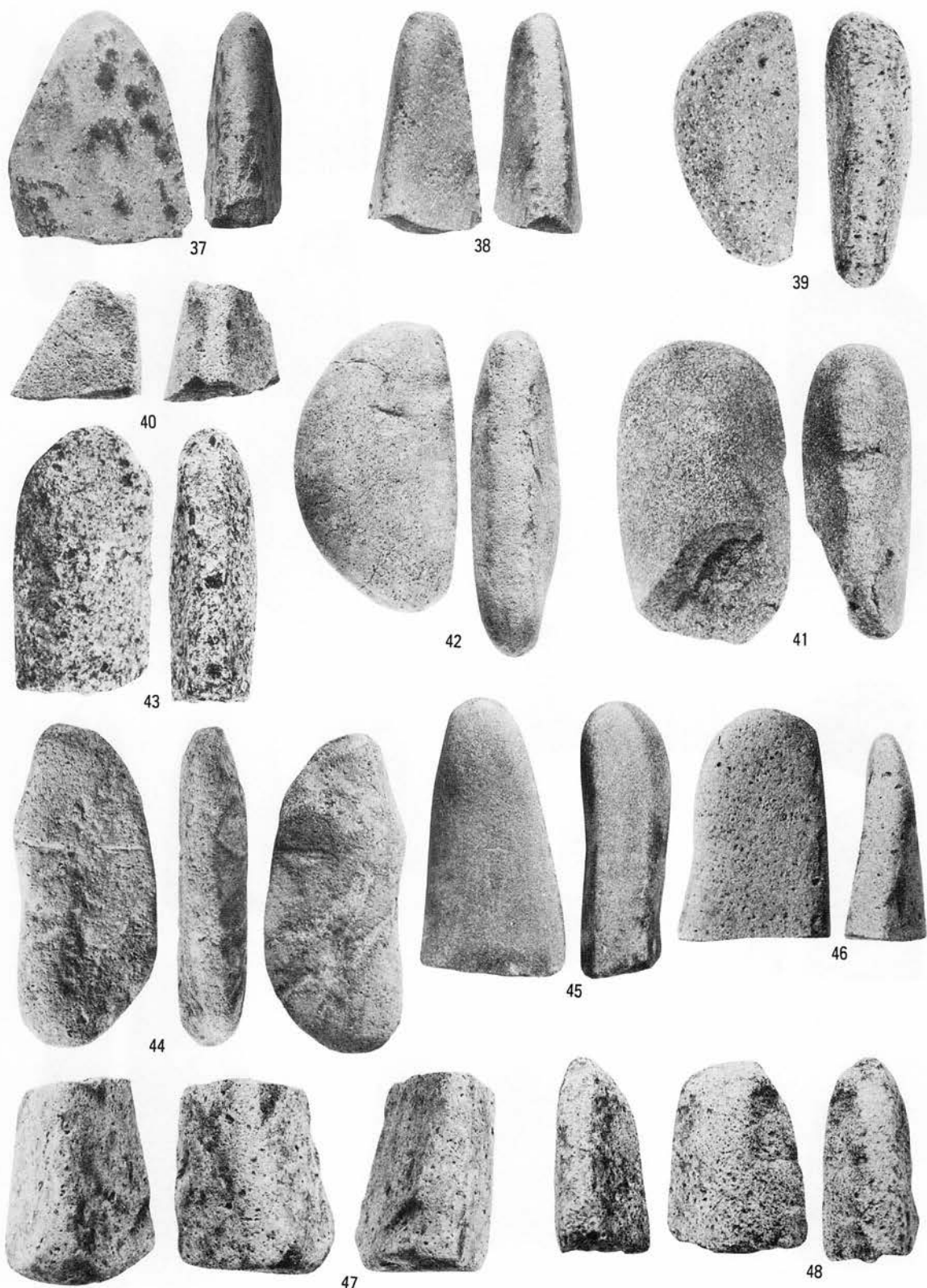
写真図版96 遺構外出土石器 g. 残核(5)



写真図版97 遺構外出土石器 h. 磨石(1)



写真図版98 遺構外出土石器 h. 磨石(2)



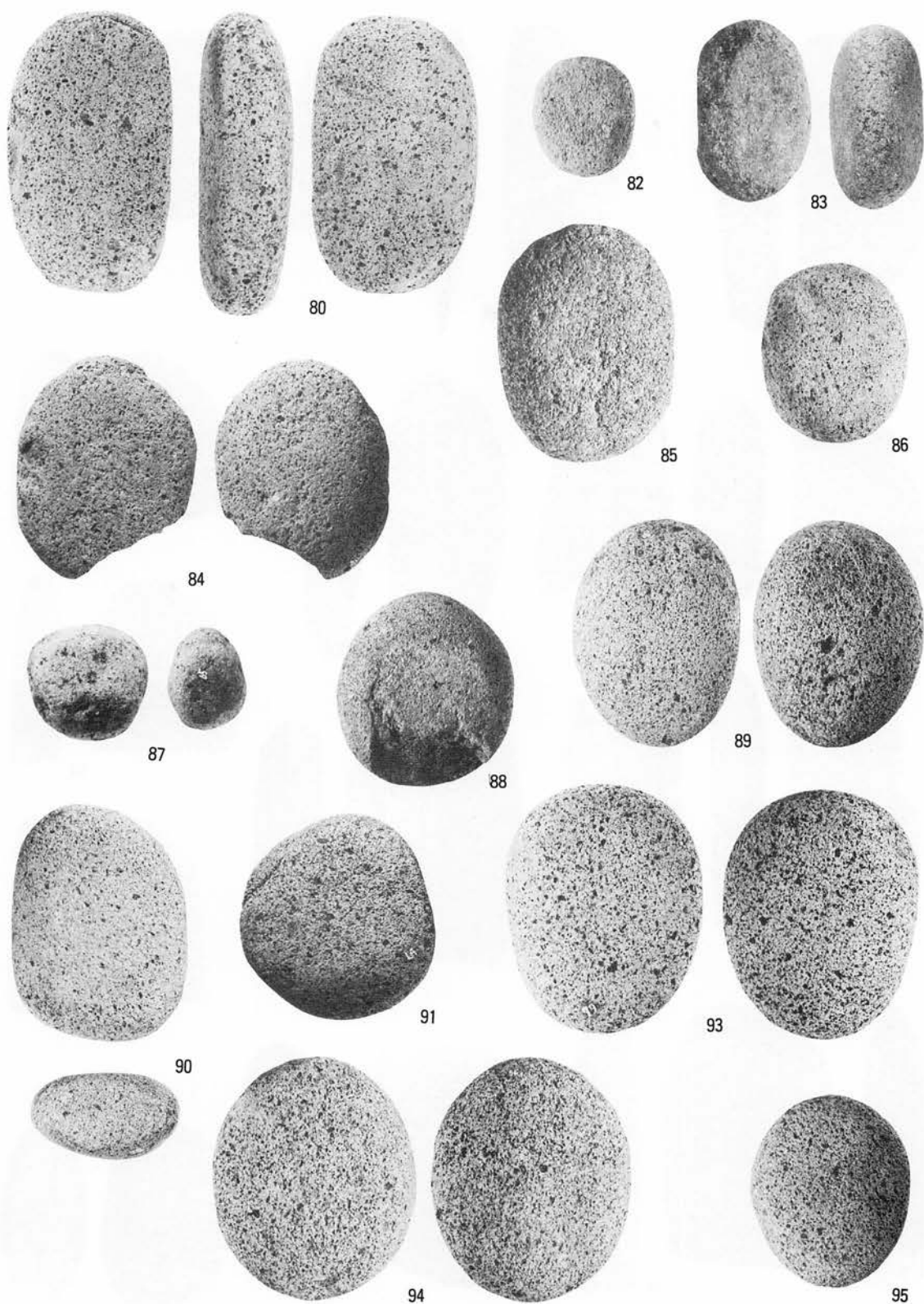
写真図版99 遺構外出土石器 h. 磨石(3)



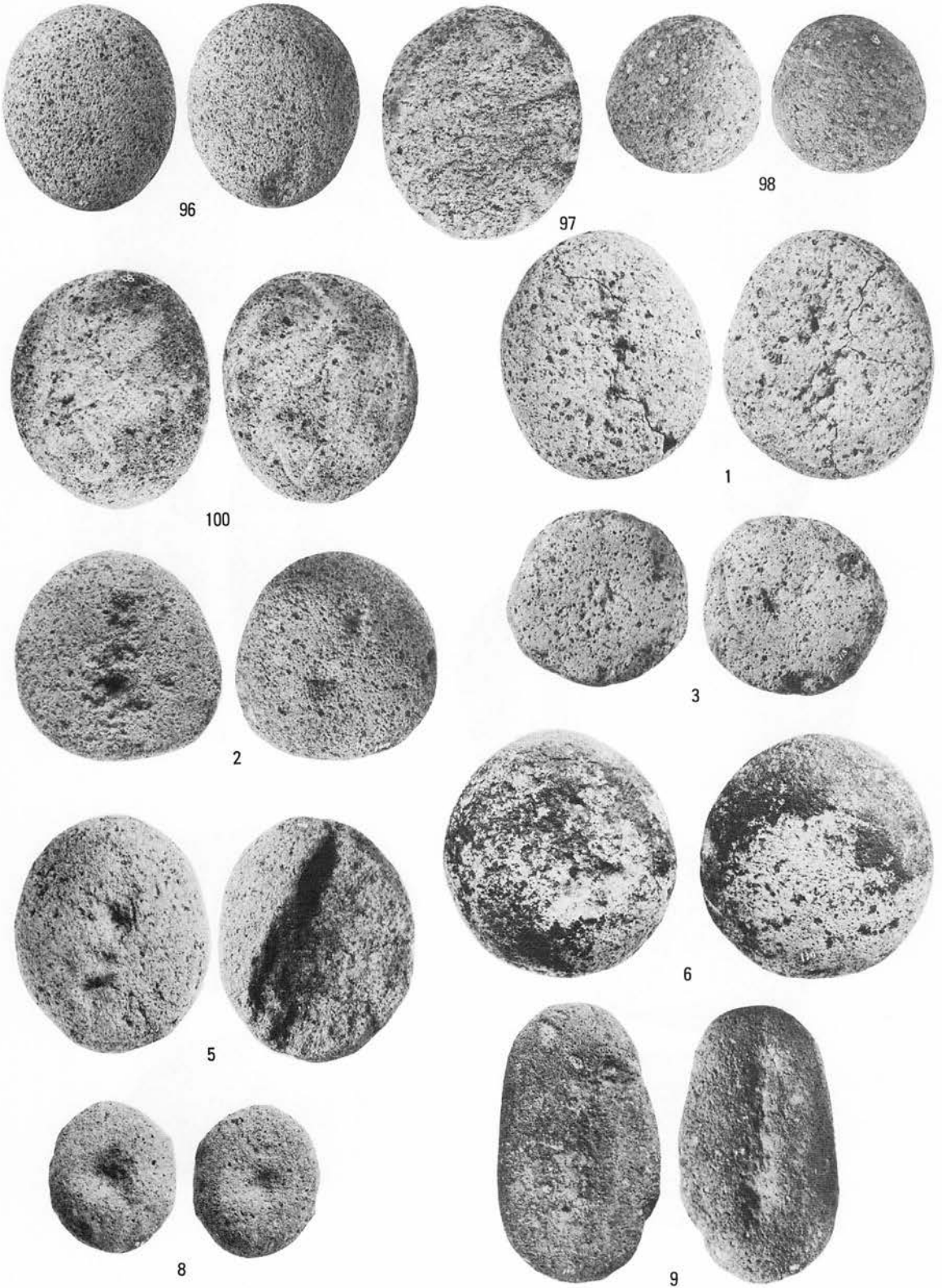
写真図版100 遺構外出土石器 h. 磨石(4)



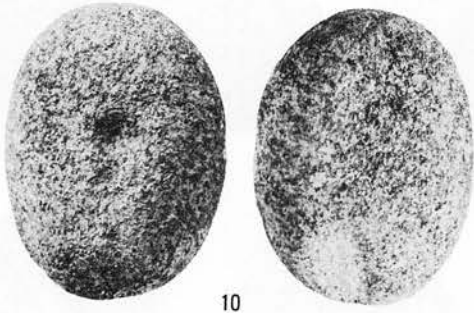
写真図版101 遺構外出土石器 h. 磨石(5)



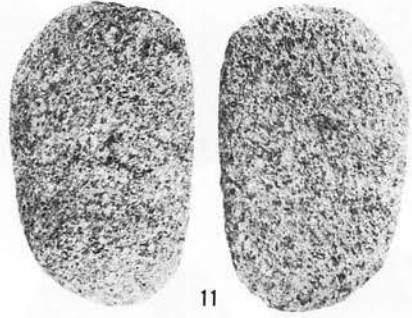
写真図版102 遺構外出土石器 h. 磨石(6)



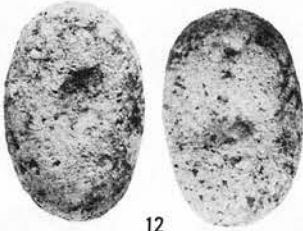
写真図版103 遺構外出土石器 h. 磨石(7) i. 凹石(1)



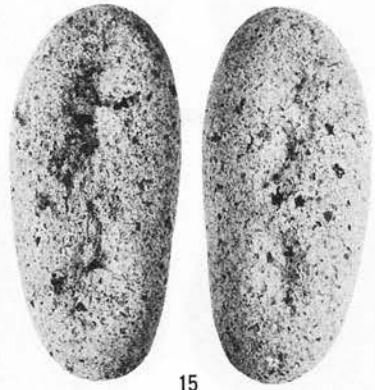
10



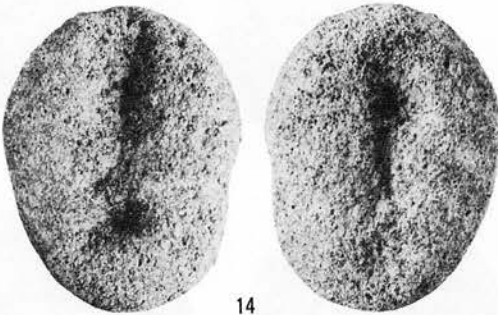
11



12



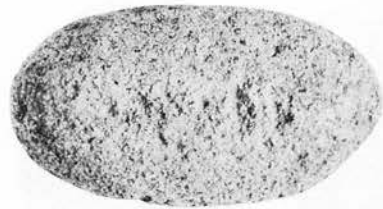
15



14



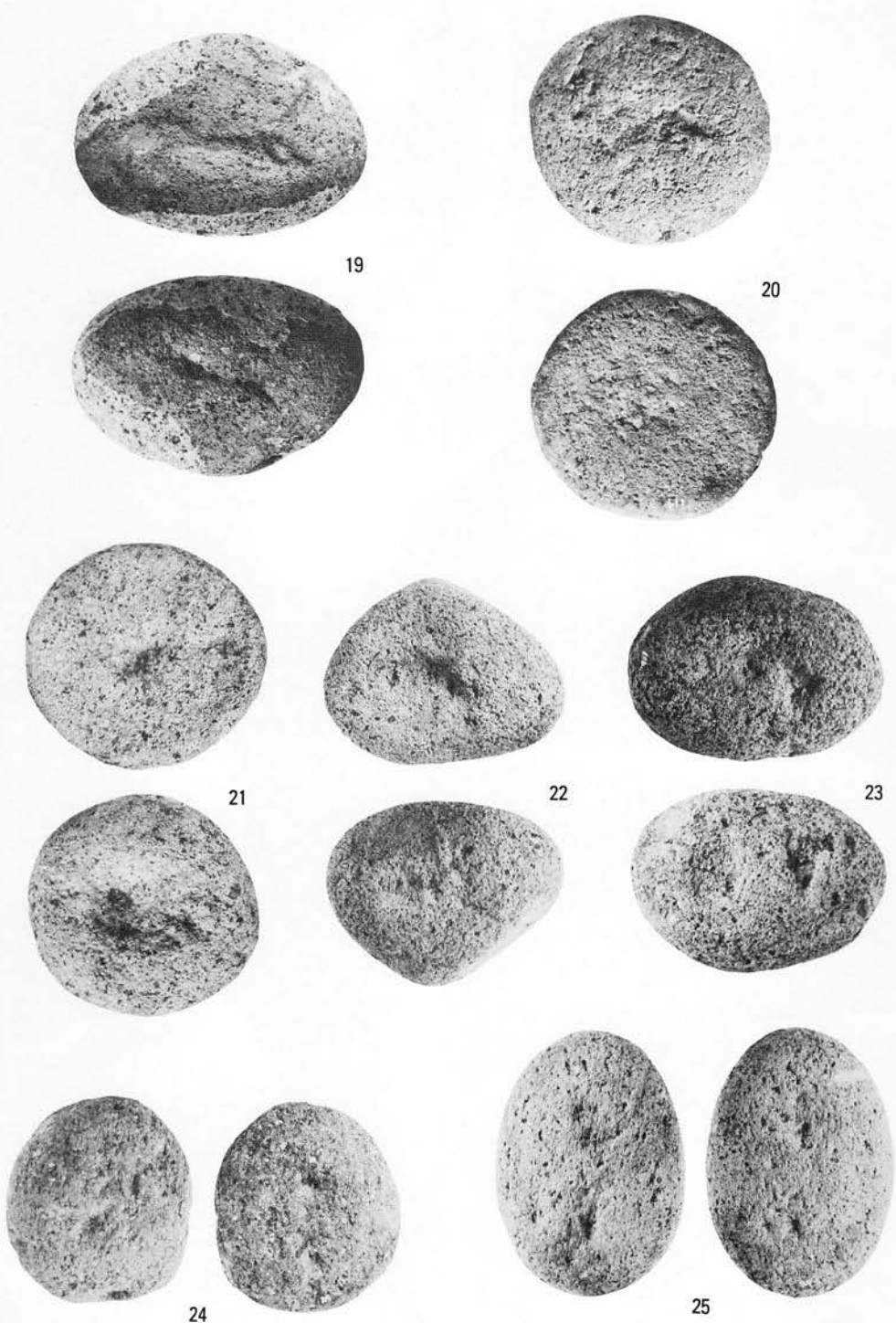
17



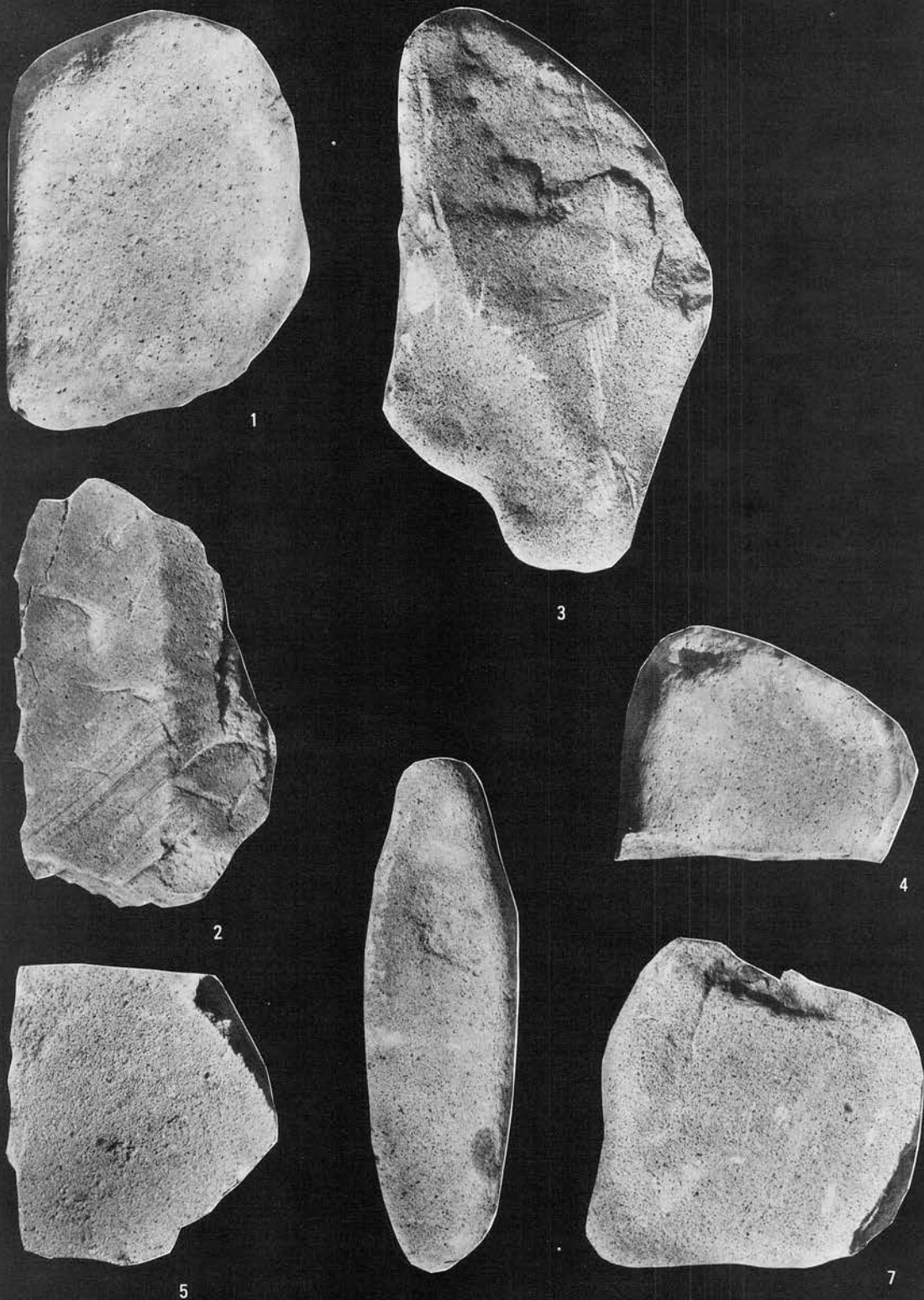
18



写真図版104 遺構外出土石器 i. 凹石(2)



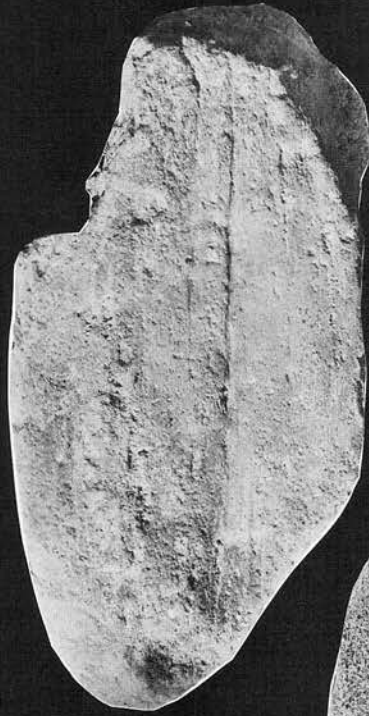
写真図版105 遺構外出土石器 i. 凹石(3)



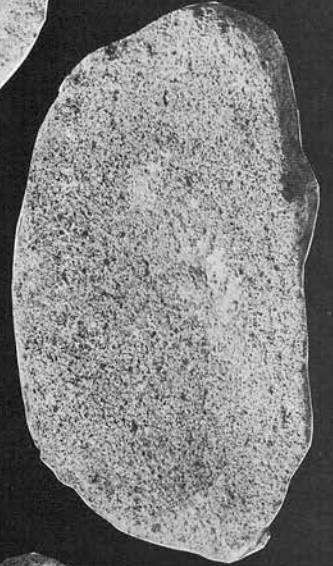
写真図版106 遺構外出土石器 j. 石皿・台石(1)



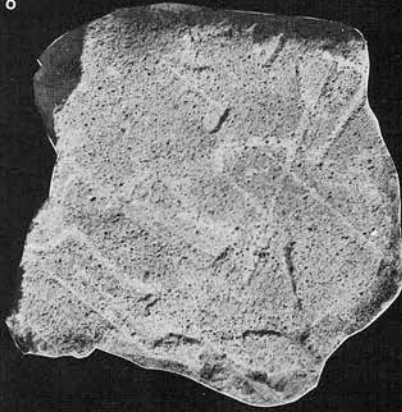
8



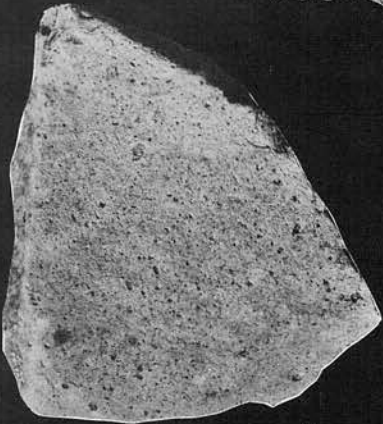
9



10



12



11

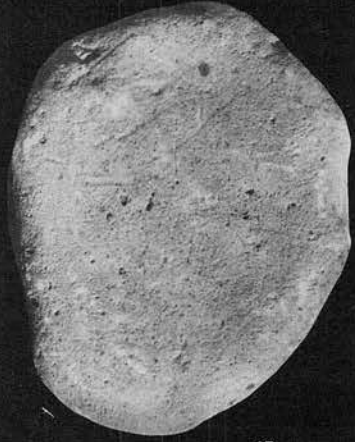


13

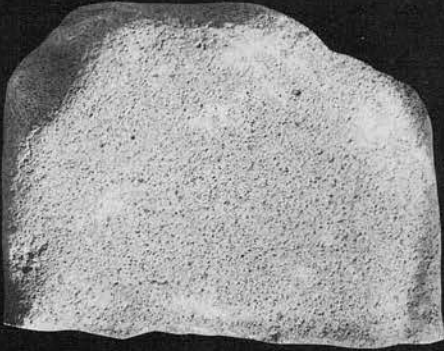
写真図版107 遺構外出土石器 j. 石皿・台石(2)



14



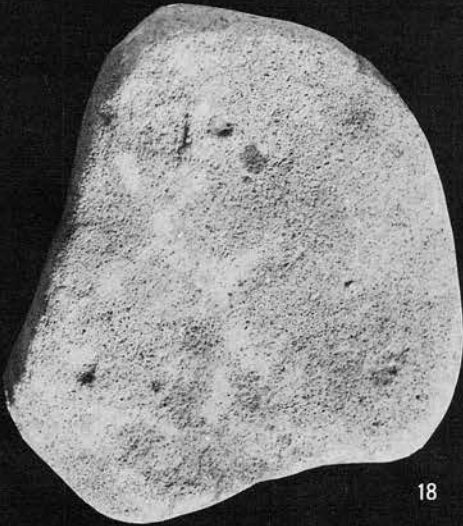
15



17



16



18



19

写真図版108 遺構外出土石器 j. 石皿・台石(3)



20



21



22



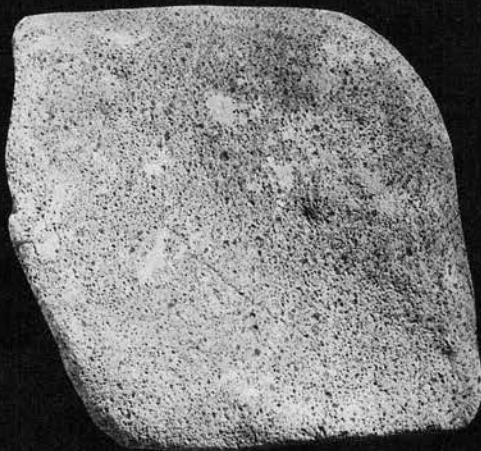
23



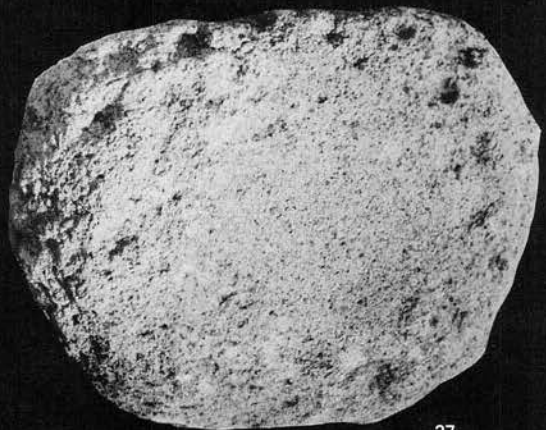
24



25

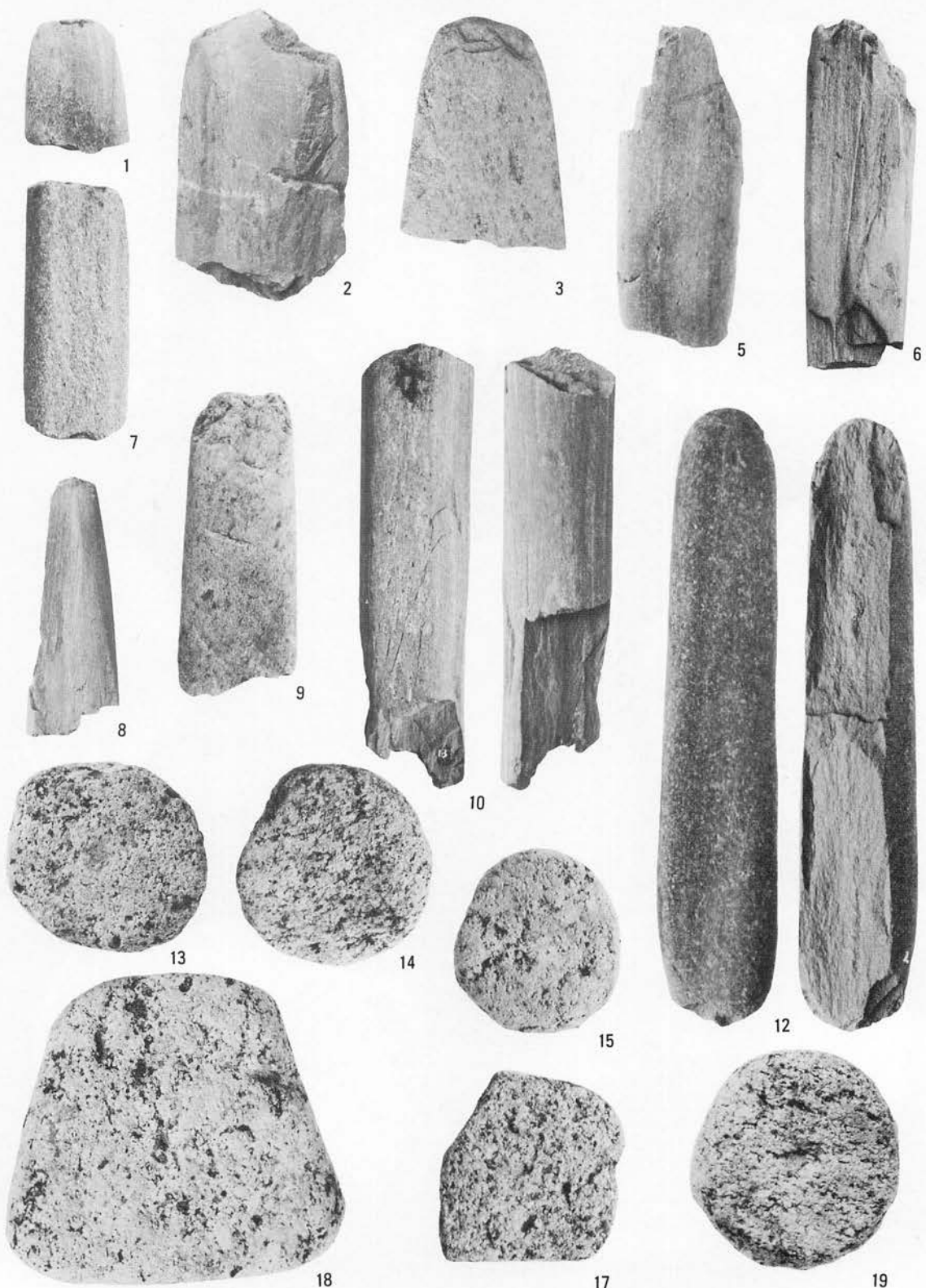


26

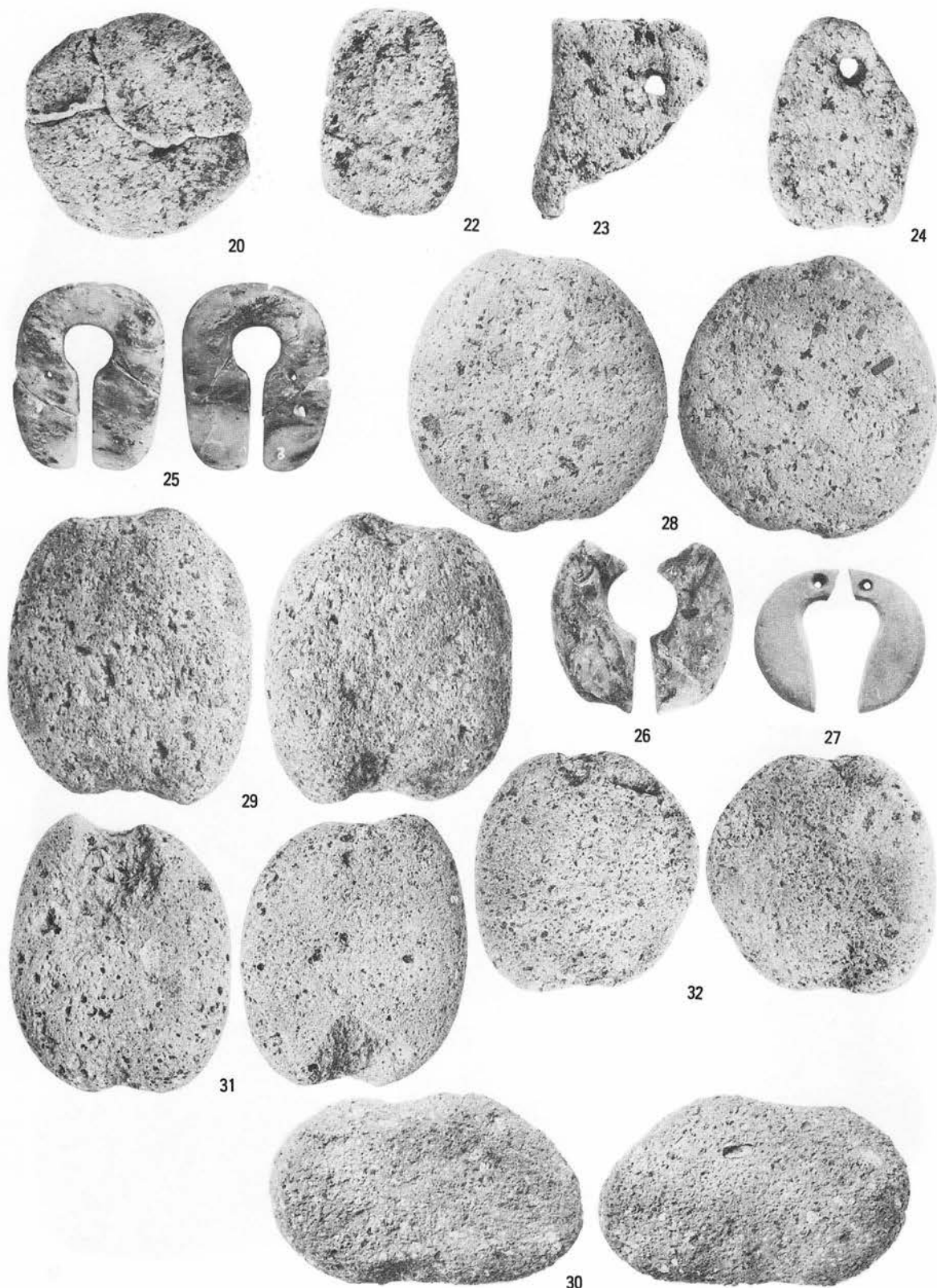


27

写真図版109 遺構外出土石器 j. 石皿・台石(4)



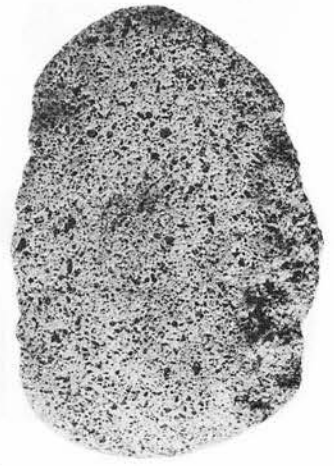
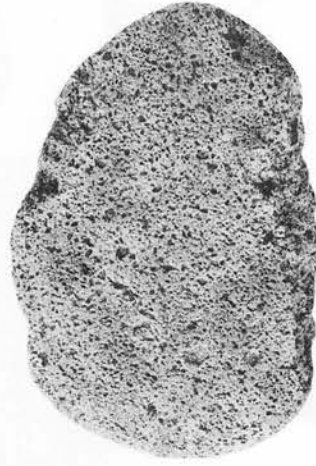
写真図版110 遺構外出土石器 石製品(1)



写真図版III 遺構外出土石器 石製品(2)



33



36



35



34

写真図版112 遺構外出土石器 石製品(3)

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長 及 川 昌 二
副 所 長 宮 英 一

〔管理課〕

課 長 千 葉 久 夫
課 長 補 佐 阿 部 詔 夫
主 事 立 花 多加志
運 転 技 能 士 佐 藤 春 男

〔調査課〕

課 長 昆 野 靖
主任文化財 工 藤 利 幸
専門調査員
" 高 橋 与 右 工 門
文 化 財 菊 池 利 和
専門調査員
" 渡 辺 洋 一
" 田 鎖 寿 夫
" 佐 々 木 嘉 直
" 平 井 進
" 中 村 良 一
" 田 村 壯 一
" 光 井 文 行
" 玉 川 英 喜
" 石 川 長 喜
" 中 川 重 紀
" 高 橋 義 介
" 酒 井 宗 孝

〔資料課〕

課 長 名 須 川 溢 男
主任文化財 三 浦 謙 一
専門調査員
文 化 財 佐 々 木 清 文
専門調査員

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第114集

和光6区遺跡発掘調査報告書

一般県道和賀・金ヶ崎・胆沢線拡幅工事関連緊急発掘調査

昭和62年 3月25日 印刷

昭和62年 3月31日 発行

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 岩手県紫波郡都南村大字下飯岡第11地割字高屋敷185

TEL (0196) 38-9001・38-9002

印刷 川口印刷工業株式会社

〒020 盛岡市本町通二丁目13番8号

TEL (0196) 23-3351